



TOHOKU  
UNIVERSITY

2022年度

東北大学 災害科学国際研究所  
活動報告書

Annual Report

International Research Institute of Disaster Science

Tohoku University



IRIDES

# 目次

1	巻頭言	1
2	研究所の概要	
(1)	基本理念	3
(2)	沿革・設置目的	3
(3)	中期目標・中期計画	4
(4)	組織運営活動	5
(5)	研究活動	6
(6)	教育活動	13
(7)	社会貢献活動	13
(8)	自己評価	17
3	組織運営活動	
(1)	研究組織、人員配置及び会議・委員会	21
A	研究組織	21
B	研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等	21
C	教員数	21
D	教員等の配置	22
E	研究所内会議・委員会	27
(2)	研究資金	30
A	歳出決算	30
B	研究者一人あたりの研究費	31
C	科学研究費補助金採択状況	32
D	外部資金受入状況	33
E	寄附金の受入状況	35
4	研究活動	
(1)	研究部門・研究分野の研究活動	37
(2)	共同研究プロジェクトの研究活動	57
(3)	専任教員の研究・教育・社会活動	105
①	災害評価・低減研究部門	105
②	災害人文社会研究部門	167
③	災害医学研究部門	209

④防災実践推進部門	255
⑤寄附研究部門	301
⑥共同研究部門	306
⑦広報室	309
<b>5 教育活動</b>	<b>313</b>
<b>6 研究成果の社会発信</b>	
（1）刊行物	315
（2）IRIDeS 金曜フォーラム	316
（3）展示	320
（4）各種メディアでの紹介	321
<b>7 国際交流</b>	<b>329</b>
<b>8 関係・協力団体</b>	<b>337</b>

# 1 卷頭言





東北大学災害科学国際研究所は、発足以来、東日本大震災の教訓から学び、被災地の復興を支援するために、工学、理学、人文・社会科学、医学、防災実践の研究者が集まり、分野の枠を超えて学際的に協力してまいりました。本研究所の使命は、世界が必要とする災害科学の知の創造と蓄積に貢献し、得られた知見をすみやかに発信してローカルかつグローバルに実践していくことです。研究所設立 11 年目に入った今、私は第 3 代所長として、これまでに築いた成果をしっかりと継承しつつ、本研究所の最重要目標「東日本大震災をはじめとする、災害で被災された方々、また将来被災しうる方々の助けとなること」を見据え、長期展望を持って災害科学を深化させてまいります。

東日本大震災がもたらした被災者の方々への影響はいまだに続いており、被災地の課題に引き続き取り組んでまいります。また今後、一人ひとりが実際に防災行動を取られるよう、防災・減災をはかっていきたいと考えています。防災に無関心である方々や、その必要性を認識されつつもまだ実践されていない方々への働きかけを含め、災害に対する備えや対応を格段に進めることを目指してまいります。「ソナエル、ニゲル、タチナオル」をキーワードに、拡がりのある防災運動に結びつけていきたいと考えています。

国連加盟国は 2030 年まで、世界の防災指針「仙台防災枠組 2015-2030」に沿って防災を推進しています。仙台防災枠組は、2015 年第 3 回国連防災世界会議で策定され、本研究所も関与・協力いたしました。今年 2023 年は、仙台防災枠組の「折り返し地点」にあたります。2023 年 5 月 17～19 日、ニューヨーク国連本部で各国首脳級が参加するハイレベル会合が開かれ、仙台防災枠組の進捗状況を確認する中間評価が行われました。本研究所からも、関係教員が日本政府代表団の一員として出席し、議論に加わりました。同会合において、災害被害統計フレームワークの作成に当たり、最初から現場レベルにそぐわない精緻なものを作るのは避けるべきことが確認されました。一方で、仙台防災枠組は発展途上国の方々によく理解され、努力いただいていると感じました。今回のハイレベル会合政治宣言で、仙台防災枠組の目標達成に向け、残る 7 年、学術の参加が重要になると指摘されたことを受け、本研究所としても、いっそう尽力 していく考えです。

東北大学は「社会とともにある大学」であり、災害科学国際研究所も「社会とともにある研究所」です。社会は、国難とも形容される南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震や、気候変動により激甚化する災害をはじめ、様々なリスクに直面しています。本研究所は、これら社会の重要課題を見据え、東北の復興と国内外の防災へ引き続き取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 2 研究所の概要



## (1) 基本理念

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月に新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立した。大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力し、災害科学に関する世界最先端の研究を推進することが、研究所に与えられた使命である。

本研究所の設立理念は、東日本大震災の経験と知識を踏まえた上で、わが国の災害対策・災害対応策や国民・社会の災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えとレジリエンスへのパラダイムを作り上げることにある。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害低減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標とする。

本研究所が推進する災害科学研究とは、事前対策、災害の発生(直前の避難等の対応を含む)、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えを一連の災害サイクルととらえ、それぞれのプロセスにおける事象を解明し、その知見と教訓を一般化・統合化することである。

東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、知識を活かしていく社会システムを構築するための学問を「実践的防災学」として体系化し、その学術的価値を創成することを災害科学国際研究所のミッションとする。

## (2) 沿革・設置目的

### 沿革

2012年4月 本研究所は7部門36分野で発足した。その後何度かの分野の再編を経て、2020年度は下記の7部門36分野で活動を行った。

- 災害リスク研究部門(6分野)
- 人間・社会対応研究部門(5分野)
- 地域・都市再生研究部門(4分野)
- 災害理学研究部門(7分野)
- 災害医学研究部門(8分野)
- 情報管理・社会連携部門(4分野)
- 寄附研究部門(2部門)

東日本大震災から10年にあたる2020年度には、今後の本研究所のさらなる発展を見据え、これまでの先端的基盤研究の強固な推進を継続しつつ、多様化する災害過程の解明と減災の実現に向けた研究体制強化を図るため、2021年度から下記の4部門26分野および寄附研究部門、共同研究部門に組織再編を行うことを決定した。

- 災害評価・低減研究部門(8分野)
- 災害人文社会研究部門(6分野)
- 災害医学研究部門(8分野)
- 防災実践推進部門(4分野)(2022年度より5分野)
- 寄附研究部門(2部門)
- 共同研究部門(2部門)

さらに、2022年3月には国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、防災科研)と東北大学の連携協定が締結され、設立から10年にあたる2022年度からは、文部科学省の教育・研究組織改革の枠組において、災害レジリエンス共創センターを災害科学国際研究所の内部に設置し、下記の4重点研究領域における学際研究を推進することとなった。

- 災害レジリエンス数量化研究領域
- ヒューマンレジリエンス研究領域
- 災害情報キュレーション研究領域
- 災害レジリエンス共創領域

## 設置目的

災害科学国際研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害に備える新たなパラダイムを作り上げることを設立理念とし、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目的として設置された。

## (3) 中期目標・中期計画

本研究所の理念に則り、以下の重点戦略・展開施策を中期目標・計画に掲げ、活動を行っている。

### 1. 災害科学研究の世界的拠点

昨今の多様化、多発化する災害を受け、地震・津波のメカニズムの解明、東日本大震災による被災実態の把握、土木・構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療研究の展開、震災アーカイブの構築など、分野ごとの先端的研究を推進し、災害科学研究の世界的拠点となることを目指す。

### 2. 文理連携および多様な学際連携による研究の推進

社会が必要とする災害研究とその成果は、従来の学問の専門領域を超えて幅広く多様である。それに応えるため、分野横断的・学際融合的な研究を促進し、既存にはない新規の分野を開拓する。

### 3. 実践的防災学の構築

災害サイクルに対応した実践的防災学の研究を推進し、被災地復興や災害対策に取り組むとともに、日本および世界の防災対策にも積極的に貢献する。

### 4. 防災知識を身に付けた人材の育成

災害科学研究の成果を教育課程で積極的に展開する。学部教育では、全学教育を通じて体系的な防災教育を実施し、災害発生のメカニズムや発災時の対処の仕方などを基礎知識として身に付けさせる。大学院の専門教育や国際共同大学院、卓越大学院などのプログラムでは、地域防災の中心となる人材の育成や、防災技術の開発と普及促進および新しい技術ニーズを発掘できる人材の育成に取り組む。関係機関と連携し、行政職や教員、医療従事者、福祉施設、企業などの高い専門性をもつ社会人への防災・災害対応教育・訓練を行う。

### 5. 防災教育の社会的展開

災害への備えを強めるためには、防災知識の社会的普及が不可欠である。学校教育を起点に家庭や地域が防災への取り組みを進めることができるよう、小中学校および高等学校への出前教育を実施し、防災教育教材の開発を行うとともに、市民向け・企業向けのセミナーやシンポジウム等を積極的に開催して、防災知識の普及や対応能力の向上を図る。

### 6. 産官学および地域社会と連携した防災対策の強化

実践的防災学の社会実装と普及を図るためには、産官学と連携した共同研究や広報活動が不可欠である。地方自治体との間では災害に関する包括的連携協定を積極的に締結して、自治体のニーズに対応した研究成果の還元を図り、産業界との間では防災技術の共同開発や震災アーカイブに関する新たなシステムの開発、企業組織や事業拠点の防災・事業継続力向上等に取り組む。また社会の諸団体・組織と連携して、防災力向上のために多面的な取り組みを進める。

### 7. 国際社会との連携強化

2015年に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」を推進する。また環太平洋大学協会(APRU: Association of Pacific Rim Universities)との共催で「APRU-IRIDeS Multi-hazard program」を運営し、海外との研究交流を活発化させる。また、世界防災フォーラムを支援し、国内外および地元東北の多様な防災関係者らと「仙台防災枠組 2015-2030」の実施に向け、活発な議論を行う。さらに災害対策技術の標準化に取り組む国際機関(国連等)や国内外の公的組織、研究機関、企業等との連携を通じて防災に関する国際標準化(防災ISO)を推進し、本研究所が世界の減災対策向上へ先導的な役割を果たすことを目指す。

### 8. 共同利用・共同研究への取り組み



本研究所が有する資料、施設などを有効に利用するため、他機関との共同利用・共同研究を推し進める。本研究所のリソースを利用した共同研究プロジェクトを公募・実施し、卓越した実績および研究ネットワークの構築にも不断に取り組む。防災科研と連携して全国共同利用・共同研究拠点となり、「災害レジリエンス学際研究」を推進する。

#### 9. 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」に向けた取り組み

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定されたことを受け、その中の災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、災害科学国際研究所をハブとして、理学研究科、工学研究科、医学系研究科、文学研究科などとの学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域を創成し、体系化を図る。

### (4) 組織運営活動

本研究所の組織運営としては、最高意志決定機関である教授会、組織運営の企画・調整を担う運営会議の下に、安全衛生委員会、予算委員会、広報戦略委員会、国内連携委員会、評価委員会、消防・防災委員会、教務委員会、施設環境委員会、総務委員会、ハラスメント防止対策委員会、男女共同参画委員会、研究企画委員会、国際連携委員会、研究倫理委員会、公正研究活動推進委員会などを設置し、それぞれの所掌事項毎に所内ルールや制度・方針の案を策定し、教授会または運営会議で決定する仕組みを確立している(3章(1)E 研究所内会議・委員会構成 p.27 参照)。

毎月、執行部会議と翌週の運営会議を開催した後に、(1)専任教員、兼任教員、事務スタッフが対象の「全体会議」、(2)専任の講師・准教授以上が対象の「拡大教授会」、(3)専任の教授による「教授会」、という3つの会議を開催している。全体会議を効果的な情報交換、課題の共有化の場として活用するよう努めるとともに、これら3つの会議は本年度も3回の休会の月を設けて、効率的な運用を図った。

なお、2019年末から続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックの影響により、本年度も活動の多くが制限された。東北大学本部とも緊密に連携しながら、毎週、新型コロナウイルス感染症対策の災害対策本部幹事会を関係の医学教員を加えて開催し、出張や来訪者受け入れ、学生の他所への訪問、多数の外部者が参加する会合について、事前承認または事前届出および事後報告を求めるなど、感染状況とBCPレベルに応じたきめ細やかな行動管理と、所内へのメーリングリストや配布物による情報共有、定期的な教員および事務部職員によるモニタリング等による感染防止対策の徹底を行った。また、「災害科学国際研究所防災・業務継続計画」(災害研 BCP)も、新型コロナウイルス感染症への対応等のために改定した。

本感染症の影響で本研究所も集客を伴うイベント開催や、海外はもちろん国内への出張も大きく制限される中、オンラインまたはハイブリッド形式による会議、授業、シンポジウム等の行事開催や情報交換を積極的に行った。医学教員等から得られる最新の知見を踏まえて、パンデミックを災害として捉えて研究活動を広げるとともに、刻々と変化する状況に応じたレジリエントな活動を行う取り組み例となった。

2022年度は災害研が設立されて10年が経過した。設立10周年記念誌を発刊し、大野英男総長、今村文彦所長の挨拶、永岡桂子文部科学大臣、村井嘉浩宮城県知事、郡和子仙台市長からの祝辞とともに、IRIDeSがができるまで、10年のあゆみ、特別座談会、10年に寄せて(特別寄稿)、未来へ、資料や年表、実績などを掲載した。2022年10月21日には設立10周年記念イベントを開催し、国内外から多くの対面とオンラインでの参加があり、これまでの10年と未来を展望する会となった。

2022年度の重点的な取り組みを以下に記す。

#### 1) 広報室による社会発信機能の拡大・強化

広報室(専属特任准教授1、技術職員(限定)1、技術補佐員1、派遣職員1)は、社会発信の対外窓口・広報業務を集約し、広報戦略委員会、2030国際防災アジェンダ推進オフィス、国際研究推進オフィス、緊急調査ワーキンググループ(WG)、所内研究者等と緊密に連携しつつ、効果的・戦略的に社会発信・メディア対応等を行った。以下が主要な活動実績である。

1. 2019年度に日本語ページ、2020年度末に英語ページを全面改定した本研究所のウェブサイトは、利便性・安全性が向上し広く活用された。全体の構成、日々のアクティビティレポートをはじめとする過去に蓄積された情報、個々の教員情報が見やすく整理され、異なる閲覧者のニーズに応じて必要な情報を得られやすくなった。改定以降、

甚大な災害発生時には、緊急モードへ切り替えて迅速に情報発信できる仕様となっている。

2. ウェブサイトを通じ、本研究所の全教員のアクティビティー(学会発表、受賞、取材、災害現地調査報告等)の発信を行った(2022年度はトピックス 131 件を掲載)。また、記者会見・説明会 6 件、プレスリリース 13 件を実施した。
3. 本研究所は、災害発生時に緊急特設ウェブサイトを開設し、公開報告会も行って積極的な社会発信につとめてきた。2022 年度は、2021 年度末に発生した福島県沖地震、2022 年 7 月・8 月の大雨、2023 年 2 月に発生したトルコ・シリア地震に関する特設ページを設けて情報を発信した。福島県沖地震の報告会では、東日本大震災から 10 年以上経過してもなお続いている余震である可能性を含めて地震の発生メカニズムに関する解析と歴史的な推移、津波の伝播と避難行動、防災科研のクロスビューとの連携、寒冷時の避難に伴う低体温症などが報告された。2022 年 7 月・8 月の大雨では、洪水被害、土砂災害、歴史資料レスキュー、病院被害などについて報告された。2023 年 2 月 6 日に発生したトルコ地震は直接死者が5万人を超える巨大災害となった。東アナトリア断層が大きくずれた直下型地震で建物の脆弱性によるパンケーキ型のビル倒壊が数多く発生したこと、免振構造が導入されていた大規模病院は倒壊せずに最前線で機能したこと、かつてない規模で重症外傷者の遠隔搬送がなされたこと、トルコの政治的な背景と建築基準の遵守に関する課題などが報告された。また University of College London (UCL)との合同によるジョイント・セミナーも開催され国際的な被害把握、災害対応、復旧・復興にむけた取り組みが紹介された。これらは数多くのメディアにより取材された。2020 年から継続する「新型コロナウイルス感染症への対応」ページにおいて COVID-19 パンデミックを災害として捉えることと、感染症存在下における避難行動のあり方についても発信した。これらの特設サイトにおいては、本研究所が実施した調査報告、報道発表資料などを現在に至るまで随時更新し続けている。
4. 2022 年度からは広報誌を IRIDeS Newsletter として年 2 回情報発信し、ウェブサイトを中心とした情報発信にさらに重きをおくことで利便性、即時性と発信力を高めることとした。英語版HPおよび Facebook を用いて国際的にも発信している。本研究所のキャラクター「さいがい犬イリ」は、一般公開イベント等さまざまなシーンで積極的に活用されている。
5. 本年度の東北大学オープンキャンパスはオンライン開催となり、東北大学のオープンキャンパスオンラインサイトに参加し、本研究所および災害科学に関する情報を発信した。

## 2) コンプライアンス推進体制の整備と強化

研究所として適切な研究が実施されるように、研究活動の不正防止や、個人情報の管理など、コンプライアンスを推進するための体制を整備・強化している。

1. 研究費管理運用の適正化、研究活動の不正防止のための全学的体制構築の方針を全体会議時に全教職員に説明・周知(計 2 回)した。また、公的な研究資金の意義と公正な資金運用をふくめた研究倫理教育として、CITI—Japan が提供する遠隔教育プログラムを全教員および博士課程後期の大学院生が受講できる体制を整え、少なくとも外部資金を管理する立場にある研究者については年度内の受講を促した。
2. 2015 年度から研究所倫理委員会により開始された倫理審査を月 1 回の頻度で開催しており、事前申請により人に関わる研究活動が円滑に行えるよう配慮するとともに、倫理委員会細則の遵守を全体会議において所員全員に周知した。
3. 「東北大学における公正な研究推進のための共同研究等実施指針」に基づき、本研究所の構成員が責任著者となる論文等の成果発表が公正なものであることを組織責任として担保するため、「研究成果発表確認シート」の提出を求めている。また、研究データの保存および管理状況の定期点検のため、研究分野単位で、点検表の提出を徹底させた。
4. 研究活動に対するコンプライアンスの徹底およびハラスメント防止に向け、全学の教育 FD の受講を促し、所内企画としては所内新任教員および所内教員が指導する大学院生などを対象とした研究倫理教育セミナーを、7 月にオンライン開催した。

## (5) 研究活動

本研究所の使命は、東日本大震災における調査研究、復興事業への取り組みから得られる知見や、世界をフィールドとした災害科学研究の成果を社会に組み込み、複雑化する災害サイクルに対して人間・社会が賢く対応し、苦難を乗り越え、知識を活かしていくレジリエントな社会システムを構築するための「実践的防災学」の体系化とその学術的価値の創成である。

主たる研究活動は、本研究所の正式組織である部門・分野単位で行うとともに、2016年度からニーズオリエンテッド型のプロジェクトエリア・ユニット制のもと、部門・分野の枠組を超えて行われた。2021年度からはプロジェクトエリア・ユニット制を踏まえて改組された新部門体制が稼働し、さらに2022年度からは文部科学省の教育・研究組織改革の枠組において災害レジリエンス共創センターが活動を開始した。災害レジリエンス共創センターには全教員が参画し、各分野における先端的な研究を行うとともに、共創センターを核としてデジタルツイン、人流データ、各領域のもつ研究資機材、資料・アーカイブ、データベースを共同利用することで学際的な研究を進めることとなっている。

2022年度の研究活動状況の概要は以下の通りである。

## 1) 災害科学研究の世界的拠点として

地震・津波のメカニズム解明、東日本大震災の被災実態の把握、構造物の耐震性強化、災害と人間社会、復興地域づくり、災害医療・医学研究の展開、震災アーカイブの構築、防災人材育成など、分野毎の先端的な研究を推進した。本年度中の成果として、296編の学術論文、著書94冊、総説・解説61編、学会における発表・講演424件(うち基調講演・招待講演45件)を行った(表1、p.19)。これらの成果は量だけでなく質的にも優れており、国際誌査読有論文の比率が62%に達するとともに、学会等での受賞も15件を数えた(表2、p.20)。

プレスリリースのうち、研究成果に関するものは以下の5件であった。

1. 2022.06.14: 超巨大地震に共通する余震活動 —震源域での静穏化と長期化する周辺地域での活発化
2. 2022.08.25: 画像下治療(IVR)術者用の新しい放射線防護具を開発 放射線白内障等の発生リスク低減へ
3. 2022.12.12: 電子基準点リアルタイム解析システム(REGARD)情報の提供及び活用に関する 国土交通省国土地理院、国立大学法人東北大学及び東海旅客鉄道株式会社の産学官連携について
4. 2022.12.22: ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析 —医療需要の増加とメンタルヘルス上の懸念を確認—
5. 2023.01.12: 南海トラフ巨大地震が連続発生する確率を算出

東北大学のScopusにおける2018-2022年の論文総数では、災害・自然災害・災害科学などの全体で世界2位から5位に位置しており、津波関連、災害教育関連で世界1位、災害とメンタルヘルス関連で世界2位、災害と歴史で世界3位、災害と社会科学で世界5位、災害医学関連で世界6位、地震関係で世界10位となるなど中核的な研究施設として、世界の有力大学・研究機関と伍していく学術的先進性を有している。災害レジリエンス共創センターのKPIのひとつに災害とレジリエンスによる論文数世界ランキングをあげているが、スタート時点では世界15位である。

Scopusにおける2018-2022年のキーワードによる論文総数からみた中核性(論文数ランキング)と、SciValにおける東北大学のQ値(総論文数におけるトップ10%論文数の割合)および国際共著割合は以下のとおりである。

- ・ 検索キーワード“disaster” :1位:中国科学院(2040)、2位:中国教育省(1704)、3位:中国科学大学(964)、4位:中国鉱業大学(724)、**5位:東北大学(595) Q値 10.4%、国際共著 26.7%** 6位:東京大学(588)
- ・ 検索キーワード“natural disaster” :1位:中国科学院(583)、2位:中国教育省(323)、3位:中国科学大学(296)、4位:北京師範大学(169)、**5位:東北大学(156) Q値 9.0%、国際共著 34.0%**、6位:中国科学院地理科学資源研究所(148)、7位:東京大学(144)
- ・ 検索キーワード“disaster science” :1位:中国科学院(90)、**2位:東北大学(37) Q値 5.4%、国際共著 22.7%**、3位:イラン医科大学(35)、5位:中国科学院(33)、6位:ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(32)、北京師範大学(32)、7位:東京大学(31)
- ・ 検索キーワード“tsunami” :**1位:東北大学(424) Q値 8.5%、国際共著 36.1%**、2位:東京大学(283)、3位:フランス中央科学研究所(197)、4位:シャクアラ大学(193)、5位:京都大学(155)、6位:バンドン工科大学(130)、7位:海洋研究開発機構(129)

- ・ 検索キーワード“earthquake” :1 位:中国地震局(2863)、2 位:中国教育省(1999)、3 位:同済大学(1307)、4 位:中国科学院(1276)、5 位:中国地学科学院(1141)、6 位:フランス中央科学研究所(1080)、7 位:イタリア国立地球物理学火山学研究所(959)、8 位:東京大学(895)、9 位:ロシア科学院(892)、**10 位:東北大学(757) Q 値 9.1%、国際共著 37.2%**
- ・ 検索キーワード“disaster medicine” :1 位:ハーバード大学医学部(84)、2 位:ベス・イスラエル病院(55)、3 位:ハーバード大学(40)、4 位:米軍大学校 (39)、5 位:ブリガム・ウィメンズ病院(31)、**6 位:東北大学(30) Q 値 13.3%、国際共著 6.7%**、7 位:ハーバード大学公衆衛生学専攻(27)、8 位:マサチューセッツ総合病院(26)、9 位:ロシア保健省(25)、10 位:フランス国立保健医学研究所(21)
- ・ 検索キーワード“disaster public health” :1 位:米国 CDC(106)、2 位:ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生学(72)、ハーバード大学 (72)、4 位:ハーバード大学公衆衛生学(68)、5 位:ハーバード大学医学部(69)、6 位:WHO(63)、7 位:ジョンズ・ホプキンス大学(55)、8 位:世界保健機関(54)、9 位:ワシントン大学(49)、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院(49)、11 位:オックスフォード大学(44)、12 位:トロント大学(44)、コロンビア大学(44)、14 位:福島県立医科大学(43)、15 位:UCL(35)、16 位:英国公衆衛生庁(33)、17 位:ミシガン大学アン・アナーバー校(32)、**18 位:東北大学(31) Q 値 6.5%、国際共著 41.9%**
- ・ 検索キーワード“disaster mental health” :1 位:福島県立医科大学(97)、**2 位:東北大学(52) Q 値 3.8%、国際共著 34.6%**、3 位:メルボルン大学(50)、4 位:ハーバード大学(44)、ハーバード大学公衆衛生学(44)、6 位:キングス・カレッジ・ロンドン(39)
- ・ 検索キーワード“disaster education” :**1 位:東北大学(37) Q 値 8.1%、国際共著 43.2%**、2 位:ハーバード大学医学部(35)、3 位:四川大学(33)、4 位:ハーバード大学(31)、オックスフォード大学(31)、6 位:京都大学(29)、7 位:福島県立医科大学(27)、シヤクアラ大学(27)
- ・ 検索キーワード“disaster history” :1 位:中国科学院 (37)、2 位:中国教育省(26)、**3 位:東北大学(25) Q 値 0%、国際共著 20.0%**、4 位:ハーバード大学(25)、東京大学(25)、6 位:ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(23)
- ・ 検索キーワード“disaster social science” :1 位:中国科学院(17)、2 位:ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (13)、3 位:コロラド大学ボルダー校(11)、ケンブリッジ大学(11)、**5 位:東北大学(22) Q 値 0%、国際共著 0%**、オークランド大学(10)、北京師範学校(10)、メルボルン大学(10)
- ・ 検索キーワード“disaster resilience” :1 位:テキサス A&M 大学(94)、2 位:中国教育省(93)、3 位:中国科学院(77)、4 位:ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (75)、5 位:メルボルン大学(71)、6 位:四川大学(65)、7 位:精華大学(57)、8 位:東京大学(53)、9 位:デルフト工科大学(52)、10 位:アルバータ大学(50)、グリフィス大学(50)、12 位:西安交通大学(49)、13 位:ワシントン大学(48)、**14 位:東北大学(47) Q 値 10.6%、国際共著 44.7%**

## 2) 災害レジリエンス共創センター

災害レジリエンス共創センターは、災害による社会の機能損失を低減して速やかに回復し、より良く復興するための「災害レジリエンス」の向上に資することを目標とし、多様な主体との連携により「防災総合知」を探求し、社会に実装することを理念として掲げている。同センターは、「災害レジリエンス数量化」、「ヒューマンレジリエンス」、「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の 4 つの重点研究領域で構成され、シンボルプロジェクトとして新たに構築する「災害デジタルツイン」での災害過程の分析を通じて、被災した社会が速やかに回復するための方策や、一人ひとりの多様な幸せ (well-being) を実現するための総合知を探求する研究に取り組んでいる。研究成果としての総合知を、研究コミュニティや社会の利用に広く供することで、レジリエントな社会の実現に寄与するとともに、それらを先導する人材育成プログラムを展開していくことを目的としている。

2015 年第 3 回国連防災世界会議で採択された世界の防災指針「仙台防災枠組 2015-2030」において、各国は災害に対する「レジリエンス」の強化を優先行動として同意した。災害レジリエンスとは「災害に対するコミュニティや社会が、その基本構造や機能の維持・回復を通じて、災害の影響を適時にかつ効果的に防護・吸収し対応するとともに、しなやかに回復する能力」として定義されており、仙台防災枠組の履行期間である 2030 年までに、これを実現するための実践的な研究を推進することが災害レジリエンス共創センターの責務である。

2022 年度は災害レジリエンス共創研究プロジェクトを発足させ、なかでもシンボルプロジェクトとして災害デジタル・ツ

インプロジェクトを開始した。「災害レジリエンス」を、社会の機能損失・低下からの回復過程と定義し、機能損失・低下の幅と回復期間をできるだけ短縮化するための方策や支援策を導き出す災害デジタルツイン・コンピューティング基盤を構築し、災害を再現できる仮想空間での災害過程の分析を通じて、災害予測・被害把握・対応・復旧・復興のあらゆるフェーズの知識・情報を集積した「防災総合知」を導き出すことで、レジリエントな社会の実現に貢献していく。災害デジタルツインでは、物理世界の多様な観測データと社会動態のデータをリアルタイムで仮想世界に取り込み、仮想世界におけるシミュレーション分析を行う。デジタルツイン上で、考えられる複数のシナリオや方策に対する効果を計算・評価して何が最も望ましいかを検討することで、最良の施策を決定し、被災した社会が素早く回復するための方策や被災地の支援策を導き出すことが可能になる。

災害デジタルツイン構築プロジェクトでは、

- 1) 被害・社会動態の可視化・動的マッピング機能
- 2) 社会対応分析機能
- 3) 防災総合知形成機能

という3つの機能と、この機能を実現するための以下の5つの重点研究テーマで構成している。

1. 統合シミュレーションによる災害の連鎖・複合過程の解明と可視化
2. センシングと即時予測の融合によるリアルタイム災害科学の創成
3. 継続的モニタリングによる被災社会のレジリエンス指標評価
4. 社会現象としての災害過程の分析とレジリエンスの数量化
5. 災害対応の what-if 分析とレジリエンス最大化を導く防災総合知の構築と活用

2022年度はデジタルツイン基盤の確立に力を注いだ。地理情報システム(GIS)上で、リアルタイムデータの代表としてモバイル空間統計による人流の動きを網羅的にとらえ、人流におきる異変を効率的に検知することができるようになった。共創研究プロジェクトは、災害デジタルツインの開発に関連する研究3課題、4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究20課題、人流データを活用した社会動態の解明に関する研究3課題を採択し所内研究者と所外研究者による共同研究を実施した。

防災科研と東北大学は2022年3月に「連携および協力の推進に関する基本協定書」を締結し、相互に協力可能なすべての分野においてこれまでの連携および協力で得た蓄積を生かし、それぞれの研究、教育、および人材育成などで互恵的かつ具体的に連携および協力し、ニーズを踏まえ、防災に係る開かれた研究および教育の拠点構築を通じてレジリエントな社会の実現に資する知の創出と多様な価値創造を図っていく。年に2回の連携推進協議会(両機関理事参加)、および年に10回程度の連携ワーキンググループを開催し、具体的な連携と協力を推進している。とくに両機関がそれぞれ財源を出して東北大学と防災科研の研究者がチームを形成して共同研究を行うマッチングファンド事業を開始し、2022年度は3件が採択された。防災科研のもつ大型施設やデータベースプラットフォーム、東北大学のもつ機材、データベースや研究人材資源のマッチングが行われ、2023年度にむけてさらに2課題が学内公募にて選考されることとなった。

理学研究科が中心に運営している変動地球共生学卓越大学院(SyDE)プログラムの大学院生を対象として、以前からの指導協力をさらに発展させる形で防災科研の研究者が研究指導を行うことで、連携した大学院教育への道も開かれた。

本研究所は、部局ビジョンおよび第3期中期目標・中期計画のいずれにおいても、全国共同利用・共同研究拠点の認定に向けた取り組みを計画として掲げてきた。第4期中期目標・中期計画においても採択を目指す。本研究所が災害科学研究の世界的な研究拠点としてさらに発展することに対して、以下のような学協会から支持と要望が表明されている。

- 会員1万名以上:土木学会、日本機械学会、日本建築学会
- 会員5千~1万名:計測自動制御学会、日本地球惑星科学連合、日本環境感染学会、日本都市計画学会、日本災害医学会 他
- 会員1千~5千名:日本地震学会、日本気象学会、日本ロボット学会、日本地震工学会、日本災害看護学会、文化財保存修復学会 他
- 会員数百名:日本災害情報学会、日本放射線影響学会、日本自然災害学会、科学技術社会論学会、地域安全学会、災害復興学会

- 国際学会: IEEE RAS、世界災害医学会 (WADEM)、米国災害医学会 (SDMPH) 他
- 国際学術誌: Progress in Disaster Science
- 連携体: 防災学術連携体、防災減災連携研究ハブ、環太平洋大学協会 (APRU)

### 3) 連携および多様な学際連携による研究の推進

文系、理系、医学系が同じ場に集う本研究所では部門・分野の枠組みを超えた学際連携により、変化する社会からのニーズに対応した成果も出ている。

災害評価・低減研究部門では、海溝型地震の発生メカニズム解明とハザード評価のため、GNSS—音響による東北沖地震余効変動観測データの高度化と定期更新に道筋がつけられた。内陸地震評価に関して、衛星データ解析・臨時地震観測・粘弾性数値計算等により、地殻内の微小変形や地震発生場の評価手法を提案している。蔵王・吾妻山などでの測地・地震観測を通じて、火山直下の構造や流体供給系を解明し、気象庁や自治体等との火山情報の共有・発信を進めた。地盤・構造物のモニタリングおよび技術開発、耐震対策の推進、振動制御などの被害低減技術の開発を、仙台市、東北各地、バングラデシュ、モンゴルなど国内外で展開している。災害時被害予測の数値モデル構築のため、構造物、地盤、斜面などを対象として破壊の進行を考慮したマルチステージ解析手法を開発した。降雨・地震時の斜面災害評価の数値解析手法開発が進んでいる。津波研究に関しては、国際津波シンポジウムの開催、トンガ海底火山やトルコ地震に伴う津波研究への対応、低体温症犠牲者の分析と対策に関する社会実装、SATREPS、UCLA、清水建設、富士通等国内外研究機関との共同研究、防災推進国民大会、仙台防災未来フォーラム、世界防災フォーラムなどの共同企画等を実施した。多様なプラットフォームによるセンサデータの統合解析と機械学習・データ駆動科学の応用研究を進め、洪水や津波災害発生時の緊急観測データの解析手法などを開発し、国内外の災害対応に貢献した。豪雨事象の数値気象予報モデル、海水変動と寒波との関連性など、大気・海洋結合系における諸現象の研究が行われている。また、太陽放射線、高エネルギー粒子と電波のスペクトル構造との関係など宙空環境変動に関する研究を実施した。さらに、JAMSTEC、気象庁などとの連携、ユネスコ政府間海洋学委員会、国連宇宙空間平和利用委員会など国際機関にも参画・貢献している。火元消火ロボット、サイバー救助犬スーツの改良研究、球殻ヘリによる老朽化インフラの点検などの研究開発を実施するとともに、復興庁・経産省など国への協力・提言を行った。つぎのような理工連携が推進されている。1) InSAR 時系列解析による谷埋め盛土ヘルスマニタリングのフィージビリティ研究、2) リアルタイム津波避難シミュレーションのための人口密度分布のクラスタリング、3) 理工連携による近世歴史地形の復元と津波痕跡の認定、4) 不確実性を考慮した長町利府断層帯の地震による建物被害評価など。

災害人文社会研究部門では、国内外の自然災害デジタルアーカイブ連携を継続的に実施するとともに、地域貢献としての各種イベントやシンポジウム(デジタルアーカイブ学会研究大会、東日本大震災アーカイブシンポジウムなど)をオンラインまたはハイブリッド形式で開催した。東日本大震災被災歴史資料の救済保全および継承、幕末仙台藩の災害対応や被災地の歴史再生を研究し、同時に地域の歴史資料保全活動を行った。「災害を生きる力」質問紙の他言語への翻訳・妥当性評価、コロナ禍における認識・行動との関係分析を進めた。被災地での学びを地域や世代を超えて伝える研究に関して、研究手法の独自性と有効性を考察し、国際的に発信している。災害対応の都市・建築空間に関するデータベース(日英)を WEB 公開した。環太平洋大学協会 (APRU) のマルチハザードプログラムを主導し、ウェビナーを実施することで、より多くの参加者が得られた。UCLA と連携した Arc DR<sup>3</sup> Initiative 主催の学生交流フォーラムを運営した。APRU 参加大学および GP-RSS の学生を対象に、建築と災害マネジメントをテーマに教育を推進している。レジリエンス計画分野では、沿岸域のハザードリスクと生活の共存に資する空間形成の研究を進めた。劣化や需要変動に頑健な交通ネットワーク形成に関する研究を進め、基盤研究(A)に採択された。新型コロナウイルスの感染経路、防災集団移転元地の「需要のない土地」、中国における集団移転、公営住宅の地域性、木造住宅の地産地消などの研究を行い、雲南省の歴史的集落では活性化提案ワークショップを行った。またこれまで計画・デザインに参画した施設がグッドデザイン賞等を受賞した。

災害医学研究部門では、感染症パンデミックへの対応として、大学本部新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案した。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大が、宮城県での子宮がん検診の受診率にどう影響したか、また感染下にあつてどのような形で検診体制を継続するかの検討を行った。COVID-19 の流行による生活の変化について研究を進めた。COVID-19 対応として、厚労省クラスター対

策班、東京 iCDC 及び宮城県庁のアドバイザーとしてクラスターの解析や政策の提言などに関与した。また JACSIS 研究として、COVID-19 情報ソースによる行動のちがいなどについて解析した。福島原発事故に関連し、野生動物を対象とする被ばく影響研究を進めた。ToMMo、医学系研究科、病院と連携したバイオセンシングとスマートフォンを用いた妊産婦のメンタルヘルスマonitoring研究、九州大学工学部と本研究所の計算安全工学分野との共同でバーチャル・リアリティ技術と自律神経計測技術を用いた心身の反応を勘案した津波からの避難に関する研究、防災科研と本研究所の災害ジオインフォマティクス研究分野との共同研究で被災情報から被災コミュニティのメンタルヘルスニーズを予測する研究を行った。診療記録南三陸町 10,464 件、気仙沼市の約 5,700 件、石巻圏の約 19,000 件の災害診療記録を匿名データベース化しデータ入力作業を継続し、被災状況が異なる 3 地域での医療ニーズ、医療支援の在り方に関する研究を推進している。みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)に継続して協力し、宮城県における診療情報のバックアップを促進した。また、全国の国立大学病院情報バックアップシステムの運用管理を行い、災害に強い医療情報システムを構築している。

防災実践推進部門では本研究所の 3 つの研究部門と密接に連携し、さらに国内外の様々な組織と協力して調査研究のプロジェクト、シンポジウムの開催、アドバイス等を行い、エビデンスに基づいた防災政策の実施に寄与することで、仙台防災枠組の実施に貢献している。国内外の組織(政府や自治体、国際機関、企業、大学・研究機関等)と数多く連携・協働している。学内: 公共政策大学院、知のフォーラム、宮城県内: 仙台市、気仙沼市、石巻市、南三陸町、名取市、宮城県、宮城県内の企業等、宮城県以外: いわき市、釜石市、普代村、八戸市、厚真町、福島大学、東日本大震災津波伝承館(いわて TSUNAMI メモリアル)、京都大学、中央大学、防災科学技術研究所、各地の伝承館や東日本大震災遺構、様々な民間企業、国: 内閣府をはじめとした中央省庁、国外: 国連開発計画(UNDP)、国連大学環境・人間の安全保障研究所(UNU-EHS)、環太平洋大学協会(APRU)、ネパール政府、インドネシア政府、National Archives of Indonesia(ANRI)、フランス、韓国、台湾、ロンドン大学、シャクアラ大学、カタニア大学、ワシントン大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ハーバード大学、リヨン大学、シドニー大学、ハワイの太平洋津波博物館、世界地震工学会等。2023 年 3 月 10-12 日には、仙台市の国際センターを使用して、本研究所のメンバーが中心となって運営している一般財団法人・世界防災フォーラムによる「第 3 回世界防災フォーラム IDRC2023 in 仙台」を開催し、学術的成果と社会貢献の実績を広く国内外に共有した。2022 年 2 月 26 日にはじまったロシアによるウクライナ侵攻、2023 年 2 月 6 日に発生したトルコ・シリア地震はオールハザードアプローチの必要性と、実践的防災学の重要性を浮き彫りにした。紛争は地域の脆弱性を高め、立派な建築基準があっても社会実装されなければ何万人もの人が犠牲となることが明らかである。本研究所が各分野の先端的な研究とともに、レジリエンスを高める学際研究を行い、社会実装していくことは極めて重要である。

災害科学に特化した査読付き国際学術雑誌 Progress in Disaster Science を Elsevier 社から発刊し、年間 4 冊の頻度で順調に版を重ねている。国連ジュネーブ本部で開催された「仙台防災枠組実現のための科学・政策フォーラム」でも、この雑誌の発刊に関するセッションが設けられ、今後の活発な投稿、引用が期待できる。2022 年の cite score(過去 3 年分の引用数/論文数)は 11.5(2021 年度は 7.2、2020 年度は 2.4)に急上昇しており、発刊 4 年にして社会科学、地球科学、環境科学などの関係領域の雑誌の中で 95 パーセントイルに到達している。

#### 4) 実践的防災学の構築

研究成果を社会に発信し、さまざまなステークホルダー(主体)と連携することで、社会実装につなげていく活動を継続している。

新型コロナウイルス感染症への対応は、まさに防災学の実践となった。昨年度にひきつづき災害感染症学分野の教授が大学本部の新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案した。具体的には、各部局で行われる感染対策のモニタリング体制の導入やコロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。各部局からの依頼で、教授等に対するの対面講義、web 講義なども行い、学内の感染症対策強化に貢献した。さらに、長期化するコロナウイルス流行によるメンタルヘルスへの影響を緩和するため、精神科医、心理士などと連携して多層的な支援体制に取り組みむと同時に、コロナ対策を含む AMED 研究開発課題で 6 件(代表 2 件)、科学研究費助成事業で 2 件(基盤研究 B、若手研究 B)、学内研究事業「ポストコロナ社会構築研究スタートアップ支援」で分担 3 件を推進した。



基本的な感染予防対策を普及させるため「感染対策 ABC」を掲げ、報道メディア、ポスターや E-learning による啓発を行った。東北大学病院 DMAT を中心に宮城県の医療調整本部において患者受け入れ調整を担った。東北大学病院 BCP には感染症 BCP との連動が明記された。

## 5) 国際社会との連携強化

2022 年度もさまざまな国際連携による研究が推進された。

Arc DR<sup>3</sup> Initiative (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience) は UCLA の xLAB と本研究所が中心となり、APRU と連携して環太平洋の 11 大学が参加する共同プロジェクトで、本年度はその 3 年目にあたる。災害に強い建築・都市デザインの方法論として「リジェネラティブ・アーバニズム」を提案することができた。

世界災害医学会は COVID-19 の影響により 2021 年 5 月に東京で予定されていた学術会議が中止され、2023 年にはアイルランドで 4 年ぶりに対面式の開催が決定された。2025 年東京での再開にむけて災害医学研究部門から多くのプログラム委員が関係している。

インドネシア シャクアラ大学と本研究所が共同で開催する AIWEST-DR2022 はシドニーで Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction のテーマで対面式で開催された。仙台防災枠組の中間となる 2023 年にむけての議論がなされた。

トルコ・シリアの地震に対してトルコ中央工科大学などとの共同調査・研究がなされた。University of College London (UCL) との合同シンポジウムを開催し、ハザード、建築、医療、社会体制などの面から幅広い議論がなされた。

University of College London (UCL)、University of Washington (UW)、Syiah Kuala University 等とは共同研究を行い、国際論文を出版した。また、国連大学環境・人間の安全保障研究所(ドイツ・ボン)との連携を推進した。国内の東日本大震災関連の震災デジタルアーカイブとハーバード大学ライシャワー日本研究所との間でメタデータ連携を継続的に実施し、第 4 回国際津波博物館会議(ハワイの太平洋津波博物館、岩手県の東日本大震災津波伝承館、インドネシアのアチェ津波博物館と本研究所との連携体制構築)をハイブリッドで開催した。

国連開発計画 (UNDP) との学術交流協定更新、インドネシア シャクアラ大学との部局間協定更新など活発な交流が続いている。仙台防災枠組に謳われている防災技術の標準化のため、防災に関する国際認証制度「防災 ISO」の取得を目指し、仙台市、日本規格協会、経済産業省らとの国内準備委員会や関連する活動が本格化した。

災害統計グローバルセンターでは、国連開発計画 (UNDP)、パシフィックコンサルタンツ株式会社らと定例会議を開催した。

環太平洋大学協会 (APRU) マルチハザードプログラムにおいて、研究成果および科学技術を実践として活かすため、多くの国際機関や NGO などとの連携を強化し、意見交換をした。マルチハザードウェビナーシリーズとして「東日本大震災から 10 年が経過したこれから ポスト・コロナにおける高等教育機関の課題 サマーレクチャー」を開催した。

英語版ウェブページを刷新し、多岐にわたる国際活動に国際研究推進オフィスが積極的に関与することで、本研究所のプレゼンスを高めることができた。今後も国際誌投稿論文や出版物の発刊数を戦略的に増やすことを目的として、特集号・会議議事録などの企画も立案していく予定である。

## 6) 指定国立大学「災害科学・世界トップレベル研究拠点」

東北大学が文部科学省より指定国立大学に指定され、災害科学・世界トップレベル研究拠点の中核機関の一つとして、第 4 期中期計画においては、災害理学、実践防災学、災害医学、災害人文学の 4 つの研究領域を縦軸とし、災害サイクルの「備え→予見→対応→復旧→復興」のそれぞれの時相における 4 つの研究プロジェクト「ハザードリスク科学プロジェクト」、「リアルタイム災害科学プロジェクト」、「被害快復科学プロジェクト」、「コミュニティ復興科学プロジェクト」を横軸とする学際研究体制で、世界で唯一の Holistic Disaster Science Center of Excellence (HDSCoE) を形成している。

研究領域それぞれに、専任教員をおくとともに、本研究所以外の関連部局からもコアメンバーとして参画していただき、年 4 回のコアメンバー会議、毎月の早朝会議を開催し、研究活動の報告、領域間、研究プロジェクト間の調整を行った。

活動目標として、災害対応サイクル理論の適用による 4 つの科学分野の融合、学内での学際連携を基盤とした「災害科学」の学問研究領域の創成、さらに、APRU 組織などで始まりつつある災害科学研究ネットワークの発展による、国際共同研究の強化や国際学術会議の開催を通じての「災害科学」の体系化が挙げられる。

拠点活動のひとつとして 2019 年度に発刊した査読付き国際的なジャーナルである *Progress in Disaster Science* は、災害に関する多くの論文の投稿を得て版を重ねている。

拠点の重要業績評価指標 (KPI) は、掲載論文の本数・被引用数、アーカイブデータベースの点数、拠点ネットワーク機関数とした。レジリエンスを定量化・指標化し、4 つの研究プロジェクト(災害サイクルすべてのフェーズ)で学際研究を実践して社会動態シミュレーション(人口、経済、健康、**Social Capital**)手法を開発し、ボトルネック探索と地域・社会のレジリエンスの性能設計に適用することで、災害にレジリエントな社会を先導していく。

## (6) 教育活動

2022 年度の教育活動の成果に関しては、「5 教育活動」を参照されたい。

## (7) 社会貢献活動

防災先進国として、わが国が、東日本大震災後、どのように社会の安定を取り戻し、さらによりよい復興をなしとげていくかは、世界的にも注目されている。事前対策、発災時の緊急対応、被災後の復旧・復興の一連の災害サイクルにおいて、世界で最も緻密かつ徹底した総合調査・研究を行い、その知見を普遍化して次世代の防災・減災技術を構築し、レジリエント社会の先導を果たすことが本研究所の責務である。被災地にある総合大学としての特徴を最大限に活かし、災害における社会問題の具体的解決のための実践的研究を指向するために、社会との連携や人材育成は必須である。

2022 年度の取り組みや達成状況は以下の通りである。

### 1) 防災知識を身に付けた人材の育成

2019 年度よりスタートした「災害科学・安全学 国際共同大学院プログラム(GP-RSS)」および「変動地球共生学卓越大学院(SyDE)プログラム」への中心的な参画を継続し、本研究所の教員による多くの授業等を通して、多層的な視点からの課題・プロジェクト解決型学習能力が備わった人材育成を図った。「未来型医療」「AI」「変動地球共生」の 3 つの卓越大学院が合同で災害科学の社会実装に関するグループワークを行う卓越解拓プロジェクトの企画を支援した。さらに防災科研と共同で人材育成や出口戦略が考えられている。

また、学内の附置研究所・センター連携体で進められている「研究所若手アンサンブルプロジェクト」にも積極的に参画し、本年度のアンサンブルグラントに本研究所教員が代表する課題1件が採択された。

「東日本大震災からのスタート - 災害を考える 51 のアプローチ」を多賀城高等学校災害科学科で教材として活用してもらうことで、東日本大震災から 10 年を経過した現在から見つめなおすことで得られる知見を次世代につなげる活動としている。

JICA 草の根事業「地域コミュニティの安心と安全のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト(マレーシア)」の人材育成のための教材を作成した。

新型コロナウイルスの影響により、対面式での教育は大きな制限を受けた。中学校などの修学旅行での見学受け入れも可能なかぎり対応した。「令和 4 年度石巻市学校防災フォーラム ～学校と地域、行政の連携・協働による防災教育の充実～」を開催した。各部局で行われる感染対策のモニタリング体制の導入やコロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。そのような中でも防災教育実践学分野の大学院卒業生が「日本災害医学会優秀論文賞」を受賞するなど学際的な人材育成も進んだ。開催が延期されていた「東日本大震災アーカイブ語り部シンポジウム かたりつぎ～朗読と音楽の集い～」は、2022 年 7 月 21 日に大船渡市大船渡市立三陸公民館での振替公演として実施された。気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、夏休みイベント「けせんぬま防災きっずスクール」(7 月:東北大学災害科学国際研究所の日、8 月:液状化現象を学ぶ日)を開催した。「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」をオンライン、あるいはハイブリッドで実施した。緊急被ばく医療や放射線に関する講義もオンラインで実施した。米日カウンセルー・ジャパンが主催する災害看護米国研修プログラムに協力し、看護学生のリーダーシップを養成する企画を共同開催した。パンデミックのため渡米はかなわなかったが次年度以降も継続が決定した。

## 2) 産官学・地域社会との連携および共同研究体制

本研究所は、東日本大震災の被災地での復興や防災・減災対策の推進に貢献するため、産官学と連携し、また被災された地方自治体と包括的連携協定を締結し、地域連携の取り組みを強化している。

### a. 寄附研究部門

寄附研究部門は、本研究所と産業界が連携する重要な活動の一つである。研究所発足当初から設置されている「地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門」は、津波ハザード評価・津波レジリエンスに関する研究、津波避難訓練支援、防災教育の取り組み等に関して成果を挙げてきた。従来手法を高度化した津波ハザードの確率論的評価手法を用いて、東北地方太平洋沿岸における確率津波波高やその不確実性を定量的に評価し、さらに再現期間別の津波ハザードマップから津波リスクを定量化する手法を提案した。また東北地方太平洋沖地震津波における石巻市の建物被災データに基づいて高い精度の津波被害関数を構築した。行政・地域が取り組む津波避難対策や避難計画、避難訓練の現場に深く関わり、被災地の避難計画の再構築や、避難訓練の企画と避難行動の調査・検証に取り組んでいる。

2019 年度に応用地質株式会社との連携により設置された「都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門」は、産学の得意な分野を活かし、発生が懸念される都市部直下型の内陸活断層大地震について、地形学・地質学・地震学・地震工学の知見から、具体的かつ実践的な防災・減災案を提示する研究を進めている。

### b. 共同研究部門

2021 年 10 月から、イオン防災環境都市創成共同研究部門が発足した。自然災害の激甚化や大規模感染拡大などに加えて、地球規模の環境の変化などの影響により都市や地域でのリスクが増大していることに対して、地域の防災拠点でありながら緑豊かな環境整備により、都市や地域が創出される安全で安心できるレジリエント・コミュニティの創生を目指すために設置された。「防災・減災」、「杜のデザイン」、「感染症対策」の 3 つの項目を設定し、「防災・減災」では災害時にも安心・安全を提供できるコミュニティづくりを目指し、BCP の作成と導入、周辺施設との連携、災害時での支援サポートの充実を通じて、新しい防災・減災の取り組みを検討する。「杜のデザイン」では郷土種の選定の上、緑地・広場のデザイン設計などを検討し、産学の連携した取り組みによる自然と共生する施設づくりを目指し、緑化計画の立案を検討する。「感染症対策」では従来の建物・施設の仕様の見直しや空調システム等の対応など新しい感染拡大防止策を導入し、さらに IT を活用した感染予防に関する情報発信などソフト施策を検討する。

### c. 産官学との連携

セコム財団からの外部資金として助成を受けて活動を開始した「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトは、現象評価研究班・対応行動体系化班・社会影響研究班各班の進捗報告や活動の方向性に関する活発な議論の場を設け、いわゆる大震法に代わる南海トラフ地震の臨時情報が発表された際の、キー組織(自治体・企業等)のとるべき対応について検討を進めた。南海トラフの後発地震の発生確率について過去 100 年間の世界の地震統計データをベースとして、南海トラフ固有の発生履歴も考慮する方法を考案した。進捗状況を高知県などの未災地を含む社会と共有し、コメントや要望を得ながらプロジェクトへ反映している。

2018 年より開始された日本電信電話株式会社(NTT)とのビジョン共有に基づく共同研究は、2022 年度から第 2 期に入り、2 つのグループで推進された。ひとつはリアルタイム津波浸水被害予測情報を用いた災害対応システムの高度化等の研究テーマを設け、取り組みを深化させている。この技術は内閣府の災害対応システムとしても採用されており、大学発ベンチャーである RTi-cast が運用の一部を担っている。また、同予測手法の海外への展開も視野に入れている。もうひとつは災害医療情報学を主軸として災害からの避難行動に至る人のレジリエンスと、平時の課題を解決することで災害時の課題を解決する IRIDeS スタンドアロンの樹立を目指している。2000 人にアンケート調査を行い、人のレジリエンス指標である CD-RISC-10 と防災行動の相関関係を研究した。さらに防災行動をとらせるためにはどのような介入方法がよいのかについても検討を進めた。

国内では、名城大学、東洋英和女学院大学とのクロスアポイントメント制度に関する協定を継続し、研究者の移動を容易にして研究交流の活発化を図っている。

### d. 地方自治体との連携

連携協定・覚書等は、本研究所発足以来の累計で民間企業と 26 件、地方自治体・学校・独法等とが 42 件を数え、

地域社会への実装も着実に進展した。気仙沼市との協定に基づくサテライトオフィス(分室)を拠点として、最新の研究成果等の発信(定期的な防災文化講演会の開催や、調査研究成果の展示等)と、復興や防災・減災対策に関わる実務者・住民・研究者等との人的交流・情報共有を推進している。2019年7月より、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館内に移転し、新型コロナウイルスの影響により限られた内容ではあるが、活動を継続している。2020年11月9日、東日本大震災津波伝承館(岩手県)と東北大学災害科学国際研究所との連携に関する協定を締結した。岩手大学とも連携しながら、本研究所の複数の研究者が資料提供および展示の監修を行っている。

#### e. 国際連携

MJEED(モンゴルー日本・高度工学教育向上プログラム)における地震工学関連プロジェクトのカウンターパートとして、構造物ヘルスマニタリング機能を持つ早期地震警報システムのウランバートルへの展開と技術協力も行なっている。また、バングラデシュ工科大学と早期地震警報の予備研究に着手しているほか、ネパールの山岳地帯に高耐震性能を有する小学校を建築することを目的に、組積造を対象とした安価なすべり免震機構の開発とその実装を目指した国際共同研究を開始した。大使館(イギリス、フランス、タイ)、国連機関(UNDRR、UNDP)、大学(チュラーロンコーン、ジャクアラ、ワシントン、UCL)、国外の学会(AOGS、EGU)等と連携を強化し、複数の共同セミナー(オンライン)を開催した。オランダ、カナダ、エジプト、タイ、バングラデシュ、中国等の研究者と、オンラインを中心に研究打ち合わせを行った。コロンビアにおいて、津波浸水被害予測手法の標準化、新しい津波警報システムの開発に貢献した。インドネシア中部スラウェシ地震の復興について、インドネシア政府やインドネシアの大学とのディスカッションを続けた他、学会を通じたウェビナーを開催した。バングラディッシュ ダッカの耐震性補強の効率的実施のためのSATREPSに参加し、GISを用いた建物の脆弱性推定を行った。Arc DR<sup>3</sup> Initiative (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience)の中心的な役割を担い、学生交流フォーラム「Confluence and Transfer: Ideas in Exchange」を実施した。第3回世界防災フォーラム2023を2023年3月10-12日に開催した。

WHOの健康危機・災害リスク管理枠組(H-EDRM framework)コアメンバーとして災害保健医療の研究ガイダンスの分担執筆を行い、日本語への翻訳と普及を担うこととなった。米国マウントシナイ大学と共同で、レジリエンス向上に向けた自習とレジリエンス向上との関連に関する国際研究を実施した。ジャクアラ大学、シドニー大学と連携してAIWEST-DR2022を対面式で開催した。

ハーバード大学、ワシントン大学、UCLAの教員とのクロスアポイントメント制度に関する協定を結び、特に研究に対する協力を得た。また、イギリス、フランス、タイの大使館、UNDRR・UNDP等の国連機関、タイチュラーロンコーン大学、インドネシアジャクアラ大学、米国ワシントン大学、英国UCLなどとの連携を強化した。

2023年2月6日に発生したトルコ・シリア地震に関する国際シンポジウムをUCLと合同でオンライン開催した。

### 3) 防災教育の社会的展開のためのシンポジウム等の開催

プロジェクト連携研究センターである「防災教育国際協働センター」を中心に、防災教育に関わる国内外の多様なステークホルダーとのネットワークを構築し、研究と実務の距離を縮め、防災教育の普及と高度化の実現をめざしている。被災地では、防災対策・津波避難計画や防災教育への協力、防災文化講演会の開催等の活動により、地元に着した拠点の形成を強化した。また、自治体等の復興計画委員会委員やアドバイザー等として、防災・減災の研究成果を政策や地域計画に反映するとともに、研究所公開、模擬講義、IRIDeS金曜フォーラム等を継続的に開催し、地域の社会教育へ貢献した。新型コロナウイルスによる影響で開催が見送られたものもあるが、オンラインを積極的に活用し、工夫しながら実施されたものも多い。

本研究所設立から定期開催を続けている「IRIDeS金曜フォーラム」は、テーマを精査し、年間5回、以下のテーマでオンライン開催された。

- 第77回「新任教員が携わる災害科学研究」
- 第78回「2021年度共同研究成果報告会」
- 第79回「分野横断で挑む災害科学研究」
- 第80回「新任教員が携わる災害科学研究(2)」
- 第81回「シ次世代の災害科学を担う学生たち」

オンラインで開催したが、一般の参加者も加え、多様な研究者らとより近い距離で討論が行われ、問題点を共有できた。7月の開催は共同利用共同研究成果報告会を兼ねており、研究者と一般参加者が情報交換する貴重な場を提供している。

2016年度から開催している「災害と健康」学際研究推進セミナーは、感染症災害に対する創薬基礎研究、レジリエントな社会ってなんだろう？、福島第一原子力発電所事故をモデルとした放射線影響研究の紹介、災害は女性の健康とその保持にどう影響を及ぼすか、災害時のパーソナルヘルスレコード(PHR)活用、災害時の病院機能維持、などのテーマで開催された。

#### 4) 社会へのプレゼンスの強化

本研究所が主導して2019年にElsevier社から発刊した国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」は多くのすぐれた論文を掲載し、2022年のcite score(過去3年分の引用数/論文数)は11.5(2021年度は7.2、2020年度は2.4)に急上昇しており、発刊4年にして社会科学、地球科学、環境科学などの関係領域の雑誌の中で95パーセントイルに到達している。

本研究所は、国際的な動向・ニーズを踏まえた上で、防災分野の国際標準化(防災 ISO)に向けた取り組みを開始した。具体的には防災 ISOに仙台防災枠組グローバルターゲットの「用語」「指標」を盛り込むことに加え、経済産業省と連携し「地産地防」の概念を提案してきた。被災地で培われたレジリエンスの知恵や人材・技術を基に、街・人(行動)・食料・医療・エネルギー・情報等に関する最低限必要な国際標準を定めた上で、各地域の実情に合わせて仕様を変更し備えに役立てていく。本活動は防災科学技術研究所からも支援を受けており、既に多くの企業が関心を示している。防災 ISO規格の交渉はさらに2年程度必要となる見込みであるが、本研究所には既に国際的なレジリエンス向上に関する知見ならびに地域の防災産業に資する情報が蓄積されており、特に災害科学研究・レジリエンス学のグローバル化、防災関連産業の育成・サービスの国内外展開を目指す研究機関・企業に対し、有益なプラットフォームを提供できる。

災害統計グローバルセンターはJournal of Disaster Research誌に2018年度から災害被害統計に関する特集「Special Issue on the Development of Disaster Statistics」を刊行し、仙台防災枠組が設定する災害による人的・物的損失の削減に向けた結果目標のモニタリングについて、災害統計の立場から各国政府による科学的根拠に基づく政策立案に資する知見の提供に貢献した。

2022年は東日本大震災から11年が経過し、本研究所の発足から10年を迎えた。仙台市と本研究所は協力し、新型コロナウイルスに対する十分な感染対策をおこなった上で「仙台防災未来フォーラム2023」を開催し(3月4日)、その中で「被災者の生命・健康を守る。3.11後の進化」と題してシンポジウムを開催し、オンラインでも同時配信した。第1部は「新型コロナウイルス感染症の過去・現在・未来」として『新型コロナウイルス感染症のこれまでとこれから』について基調講演が行われ、第2部では、「コロナ禍でも被災者の生命、身体的・精神的健康を支える！」として『医療体制のためのDX、被災者の感染症対策、コロナ禍・戦禍におけるメンタルヘルス、歴史からみた感染症流行』などについて話題提供され、多角的なパネルディスカッションとなった。また、災害レジリエンス共創センターシンポジウム、イオン防災環境都市創生共同研究部門シンポジウムもひきつづき開催され、本研究所の役割を発信した。

2023年3月10-12日にはコロナ禍で延期されていた第3回世界防災フォーラム2023(World BOSAI Forum)が開催され、本研究所は多数のセッションを主催、共催した。「世界防災フォーラム」は、スイスの防災ダボス会議と連携し、世界中の多くの防災関係者、専門家だけでなく、市民、学生、企業など多様な方々が集まり議論する市民参加型の国際フォーラムとして3回目を数え、今回初めて設けられた「世界防災賞」が、岩手県普代村の元村長和村幸得氏(故人)と米国第30代大統領John Calvin Coolidge氏(故人)に授与された。3日間で会場・オンライン合わせて32か国からのべ5,412名が参加した。本体会議では30セッションが開催されたほか、展示棟において31のミニプレゼンテーション、55のポスタープレゼンテーション、6の日本語セッションとWorld BOSAI EXPOが行われた。その他、2つのエクスカージョン(名取市コース・南三陸町コース)が実施された。また、キーノート・スピーチでは、「仙台防災枠組2015-2030」の進捗状況・災害被害レビューの成果が発表された。2023年5月国連本部で実施予定の仙台防災枠組の中間レビューに向けて、小野裕一世界防災フォーラム代表理事より「世界防災フォーラム仙台提言2023」が発表され、水鳥真美国連事務総長特別代表(防災担当)兼国連防災機関長に手渡された。

## (8) 自己評価

### 1) 2022 年度活動の総括

2022 年度は、2020 年 1 月から続く世界的な新型コロナウイルスのパンデミックにより、2022 年 7 月からの第 7 波、10 月からの第 8 波では一日あたり新規感染者数が 20 万人を超えたが、重症化のリスクが高齢者等以外では低いことも踏まえ、活動制約の緩和が徐々に進んだ。本研究所でも、感染対策を継続しつつ制限を緩和していった。一方、諸会議でのオンライン会議活用を継続し、また、対外的行事は、オンライン方式は海外を含む遠隔地からの参加を得やすいメリットを活かし、現地会場開催とオンライン配信のハイブリッド方式で多くが実施された。

2022 年 4 月に本研究所は設立 10 年を迎えた。そこで、これまでの活動を取りまとめた設立 10 周年記念誌を発刊するとともに、10 月 21 日には設立 10 周年記念イベント及びシンポジウムをハイブリッド形式で開催し、国内外から多くの参加者を得た。来賓のご挨拶や本研究所への期待のコメントにおいて、これまでの研究や地域貢献、国際貢献等の活動への高い評価と今後のさらなる発展への期待の声を賜うことができた。

組織・研究体制に関しては、2021 年度から導入された 3 つの研究部門と 1 つの防災実践推進部門、そして寄附・共同研究部門への組織再編が定着し、安定した活動が進んでいる。さらに、2022 年度予算で認められた災害レジリエンス共創センターを全所的な組織として立ち上げ、獲得した予算を活用して所外との共同研究も推進するなど、本研究所の新たな研究組織として活発な活動をスタートさせた。

### 2) 活動水準の向上度の評価

設立後 10 年を過ぎて、研究成果の状況は、おおむね安定した傾向を示している。過去 5 年間の年間の研究成果の推移(2018～2022 年度)をみると、学術論文(304 編→273 編→290 編→320 編→296 編)、著書(19 冊→20 冊→25 冊→25 冊→94 冊)(単著、共著、分担執筆含む)、総説解説(39 編→34 編→84 編→92 編→61 編)、学会における招待講演(71 件→44 件→30 件→70 件→45 件)、受賞(25 件→20 件→17 件→18 件→13 件)、特許(9 件→4 件→8 件→4 件→10 件)と概ね着実に実績をあげ、著書が大きく増加した。学術論文の内訳では、国際誌では査読有論文比率が 62%(50%→54%→63%→60%→62%)と半分以上が査読有論文であり、国内誌査読有論文比率(19%→16%→17%→19%→20%)と合わせて、質の高い水準を保っている。また、受賞件数はやや減少したが、日本地震学会功労賞、日本造園学会賞など、文・理・医学分野の広範な領域に跨っており、活動の継続が社会的な評価に結び付いていると考えられる。

一方、過去 5 年間のメディア報道への出演・執筆・企画協力・資料提供は、722 件→869 件→853 件→959 件→1165 件となっており、本研究所設立 10 周年行事なども含めて、継続してきた活動に注目を得られたと考えられる。プレスリリースも 13 件行い、社会への発信に引き続き努力した。本研究所のウェブサイト(日本語)において、本年度には 2022 年 3 月の福島県沖地震のサイトを引き続き更新するとともに、新たに 2 件の災害について緊急特設サイトを設けた。また、「新型コロナウイルス感染症への対応」のページも運用し、感染症存在下の避難行動の在り方について発信した。このように広報体制の充実を進めた。

また産官学および社会地域との連携に関しては、連携協定・覚書が本研究所発足以来の累計で、民間企業 26 件、地方自治体等とが 42 件となっており、地域社会への実装もさらに進展しつつある。

### 3) 災害レジリエンス共創センター

2022 年度から設置が認められ、活動を開始した災害レジリエンス共創センターは、「災害レジリエンス数量化」、「ヒューマンレジリエンス」、「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の 4 つの重点研究領域により構成されている。本研究所の教員は全員がこれら重点研究領域のどこかに属することとなっている。また、研究所外の研究者と連携した研究も活発に行われた。学外との共同研究は、本研究所では 2016 年度から共同利用共同研究助成公募を行ってきたが、2022 年度からは災害レジリエンス共創センターの枠組みと予算を活用した形で共同研究助成を実施した。また、同センターの活動は、防災科研と深く連携して運営され、様々な共同研究が進んでいることも特徴となっている。

### 4) 災害科学・世界トップレベル研究拠点

災害科学研究拠点では、「実践防災学研究領域」「自然災害研究領域」「災害人文学研究領域」「災害医学研究領域」の4つの研究領域を設け、本研究所および関連部局からのコアメンバーを中心に活動を引き続き推進した。拠点活動のひとつとして2019年度に発刊した査読付き国際的なジャーナルである *Progress in Disaster Science* は、災害に関する多くの論文の投稿を得て順調に版を重ねている。今後とも世界トップレベル研究拠点としての活動が重要と認識している。なお、災害科学研究拠点に関する詳細は、拠点のHP (<http://dsmca.irides.tohoku.ac.jp>) を参照されたい。

## 5) 社会貢献活動

災害対策先進国日本における主要な災害研究機関として、また東日本大震災の被災地にある総合大学として、本研究所は社会貢献として各主体との連携や人材育成を担うことは必須であり、2022年度も活発に活動を行った。特徴的な取り組みを再掲すれば、行事に関しては、新型コロナウイルス感染拡大のため延期されていた第3回世界防災フォーラム2023 (World BOSAI Forum) が2023年3月10-12日に仙台で開催され、本研究所は多数のセッションを主催・共催した。また、同様に延期されていた「東日本大震災アーカイブ 語り部シンポジウム かたりつぎ～朗読と音楽の集い～」は、2022年7月21日に大船渡市大船渡市立三陸公民館で実施された。横断的研究に関しては、セコム財団から助成を受けた「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」プロジェクトが最終報告書を公表し、内閣府等の行政へも説明を行った。また、2021年10月から開始したイオンモール株式会社及び公益財団法人イオン環境財団との共同研究が本格的に活動を始めた。人材育成に関しては、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」を引き続き実施し、緊急被ばく医療や放射線に関する講義も実施し、さらに、多くの防災教育の機会に貢献した。国際化に関しては、防災分野の国際標準化(防災 ISO)に向けて防災の実施のための基本的枠組みや地震計システムの導入に関して規格化へ進展が見られた。

これらは一定の成果を上げ、また引き続き社会からの期待も大きいと考えるため、社会的貢献活動を推進することが必要と考えている。

## 6) 東日本大震災から12年経過した本研究所の活動

東日本大震災から2023年3月で12年が経過した。2023年3月の「仙台防災未来フォーラム2023」の中で「東日本大震災メモリアルシンポジウム2023 —被災者の生命・健康を守る。3.11後の進化—」と題してシンポジウムを主催し、オンラインでも同時配信した。また、2022年度も、津波被害を受けた東北地方太平洋沿岸の多くの地方公共団体との協定を踏まえて様々な活動に取り組んできた。

今後も、宮城県内の防災・減災の産官学民の取り組みである「みやぎ防災・減災円卓会議」をはじめとして、様々なセクターと多様に連携して、震災教訓を活かした取り組みを推進していく所存である。



表1 災害科学国際研究所の研究成果(2022年度)の概要

学術論文	296 編
単著	28
共著(うち筆頭)	268(56)
著書	94 冊
単著	3
共著(うち筆頭)	86(7)
監修・編集・共編	5
総説・解説	61 編
学会発表	424 件
単独・筆頭	172
共同(連名)	252
うち基調講演・招待講演・特別講演	45
特許	10 件
受賞	13 件
科研費(代表)	44 件
その他の競争的資金(代表)	50 件
学術会議等の主催・共催・運営	105 件
シンポジウム	30
講演会・セミナー	30
研究会・ワークショップ	38
その他	7
セミナー・講演等の主催・共催・運営	91 件
シンポジウム	20
講演会・セミナー	40
研究会・ワークショップ	14
その他	18
講演・講義等	354 件
公開講座	37
講演会・セミナー	220
小中高との連携	46
ボランティア・その他	48
うち行政・企業との連携	206
うち基調講演・招待講演・特別講演	69

表 2 2022 年度 研究成果等への受賞リスト

受賞者名は本研究所所属教員のみ記載

受賞・学術賞名称 <授与機関>	受賞者(関係者)氏名	授与日
日本放射線技術学会学術賞 <日本放射線技術学会>	千田浩一(個人)	2022/4/16
建設工学研究奨励賞 <一般財団法人建設工学研究振興会>	野村怜佳(個人)	2022/5/25
土木学会 小林メダル <土木学会 応用力学委員会>	寺田賢二郎(個人)	2022/5/27
2021年度日本造園学会賞(事業・マネジメント部門) <日本造園学会>	平野勝也(グループ)	2022/6/5
Emerald Literati Awards <Emerald>	泉貴子(グループ)	2022/9
学術優秀発表賞 <日本自然災害学会>	齋藤玲(個人)	2022/11
日本教育メディア学会論文賞 <日本教育メディア学会>	齋藤玲(グループ)	2022/11
優秀講演賞<東北大学附置研究所・センター>	齋藤玲(個人)	2022/11
学術奨励賞 <日本放射線技術学会東北支部>	千田浩一(グループ)	2022/11
令和3年度論文賞 研究奨励賞 <日本放射線安全管理学会誌>	千田浩一(グループ)	2022/11
2021年度日本地震工学会功労賞 <日本地震工学会>	今村文彦・村尾修・越村 俊一	2022/12
NPPR Reviewer Award <日本神経精神薬理学会>	國井泰人(個人)	2022/12/5
日本地震学会 論文賞 <日本地震学会>	富田史章・木戸元之 (グループ)	2023/3/20

### 3 組織運営活動



## (1) 研究組織、人員配置及び会議・委員会

### A 研究組織

2023年3月31日現在

研究部門	研究分野	
災害評価・低減研究部門	海域地震学研究分野	陸域地震学・火山学研究分野
	地震工学研究分野	計算安全工学研究分野
	津波工学研究分野	災害ジオインフォマティクス研究分野
	気象・海洋・宙空災害研究分野	災害対応ロボティクス研究分野
災害人文社会研究部門	災害文化アーカイブ研究分野	歴史文化遺産保全学分野
	認知科学研究分野	国際防災戦略研究分野
	レジリエンス計画研究分野	空間デザイン戦略研究分野
災害医学研究部門	災害医療国際協力学分野	災害医療情報学分野
	災害放射線医学分野	災害精神医学分野
	災害産婦人科学分野	災害公衆衛生学分野
	災害感染症学分野	災害口腔科学分野
防災実践推進部門	防災教育実践学分野	防災社会推進分野
	国際研究推進オフィス	2030国際防災アジェンダ推進オフィス
	レジリエントEICT研究推進オフィス	
地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門		
都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門		
イオン防災環境都市創生共同研究部門		
日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門		
附属災害レジリエンス共創センター		

### B 研究所長・副研究所長・教育研究評議員・研究所長補佐等

研究所長	今村 文彦	教授
副研究所長(総務・規程・人事評価担当)	丸谷 浩明	教授
教育研究評議員	奥村 誠	教授
研究所長補佐(諸委員会・教育担当)	五十子幸樹	教授
研究所長補佐(広報・共同研究・共共拠点担当)	江川 新一	教授
研究所長補佐(研究推進・部局評価担当)	寺田 賢二郎	教授
研究所長補佐(将来構想・研究推進担当)	越村 俊一	教授
部門長		
災害評価・低減研究部門	遠田 晋次	教授
災害人文社会研究部門	村尾 修	教授
災害医学研究部門	栗山 進一	教授
防災実践推進部門	小野 裕一	教授

### C 教員数

2023年3月31日現在

	教員数	教員数における性別内訳		教員数における 外国人教員数(%)
		男(%)	女(%)	
教授	19人	18人(94.7%)	1人(5.2%)	0人(0.0%)
准教授	21人	19人(90.4%)	2人(9.5%)	5人(23.8%)
講師	1人	1人(100%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
助教	19人	11人(57.8%)	8人(42.1%)	4人(21.0%)
助手	2人	0人(0.0%)	2人(100%)	0人(0.0%)
計	62人	49人(79.0%)	13人(20.9%)	9人(14.5%)

## D 教員等の配置

2023年3月31日現在

### 災害評価・低減研究部門

分野名	職名	氏名
海域地震学研究分野	教授	木戸元之
	教授	日野亮太(兼務)
	准教授	内田直希(兼務)
	助教	富田史章
陸域地震学・火山学研究分野	教授	遠田晋次
	教授	趙大鵬(兼務)
	教授	三浦哲(兼務)
	教授	武藤潤(兼務)
	准教授	福島洋
	准教授	岡田知己(兼務)
	准教授	山本希(兼務)
	助教	石澤堯史
	助教	高橋尚志
	助教	市來雅啓(兼務)
	技術職員(限定)	國分園子
地震工学研究分野	教授	五十子幸樹
	准教授	大野晋
	准教授	榎田竜太
	事務職員(限定)	石野友恵
	事務職員(限定)	後藤由美
計算安全工学研究分野	教授	寺田賢二郎
	教授	溝口敦子(クロスアポイントメント)
	准教授	森口周二
	助教	野村怜佳
	技術職員(限定)	芳賀麻由美
津波工学研究分野	教授	今村文彦
	准教授	Suppasri Anawat
	准教授	菅原大助
	特任准教授	Nguyen David Ngoc
	助教	門廻充侍
	助教	田邊亜澄
	特任研究員	Pakoksung Kwanchai
	特任研究員	Constance Chua Ting
	事務職員(限定)	伊藤智栄子
	技術補佐員	串畑真悠
	技術補佐員	高橋久美子
災害ジオインフォマティクス研究分野	教授	越村俊一
	教授	佐藤源之(兼務)
	准教授	Mas Samanez Erick Arturo
	准教授	Adriano Ortega Bruno
	准教授	太田雄策(兼務)
	助教	橋本雅和
	学術研究員	阿部孝志
技術補佐員	遠江美紀	

気象・海洋・宙空災害研究分野	教	授	須賀利雄(兼務)
	教	授	山崎剛(兼務)
	教	授	小原隆博(兼務)
	准 教	授	三澤浩昭(兼務)
	准 教	授	土屋史紀(兼務)
	准 教	授	伊藤純至(兼務)
	准 教	授	杉本周作(兼務)
災害対応ロボティクス研究分野	教	授	田所諭(兼務)

### 災害人文社会研究部門

分野名	職名	氏名	
災害文化アーカイブ研究分野	教	授	今村文彦(兼務)
	准 教	授	蝦名裕一
	准 教	授	柴山明寛
	助	教	Gerster-Damerow Julia
	技 術 補 佐 員		川内めぐみ
	技 術 補 佐 員		土屋美津子
	歴史文化遺産保全学分野	教	授
准 教		授	佐藤大介
准 教		授	川内淳史
認知科学研究分野	教	授	邑本俊亮
	教	授	杉浦元亮
	助	教	齋藤玲
	学 術 研 究 員		平野香南
国際防災戦略研究分野	教	授	村尾修
	教	授	泉貴子
	技 術 職 員 ( 限 定 )		加藤園子
	技 術 補 佐 員		木村希
	技 術 補 佐 員		熊谷幸子
	技 術 補 佐 員		山口章子
レジリエンス計画研究分野	教	授	奥村誠
	准 教	授	井内加奈子
	技 術 補 佐 員		齋藤緑
	技 術 補 佐 員		西脇千瀬
空間デザイン戦略研究分野	教	授	岩田司
	教	授	姥浦道生(兼務)
	教	授	小野田泰明(兼務)
	准 教	授	平野勝也
	准 教	授	本江正茂(兼務)
	技 術 補 佐 員		中村まゆみ

### 災害医学研究部門

分野名	職名	氏名	
災害医療国際協力学分野	教	授	江川新一
	准 教	授	佐々木宏之
	技 術 補 佐 員		千田蓉



災害医療情報学分野	教 授	中山 雅 晴(兼務)
	准 教 授	藤 井 進
	助 教	Park Hyejeong
	学 術 研 究 員	野 中 小百合
	学 術 研 究 員	山 田 クリス孝介
	技 術 補 佐 員	米 山 真 美
災害放射線医学分野	教 授	千 田 浩 一
	教 授	細 井 義 夫(兼務)
	講 師	鈴 木 正 敏
	助 教	稲 葉 洋 平
	特 任 研 究 員	佐 藤 行 彦
	技 術 補 佐 員	菊 池 玲 子
	技 術 補 佐 員	佐 藤 光 義
災害精神医学分野	教 授	富 田 博 秋(兼務)
	准 教 授	國 井 泰 人
	助 教	濱 家 由美子
	特 任 助 教	日 野 瑞 城
	事 務 補 佐 員	澤 田 磨 美
災害産婦人科学分野	教 授	伊 藤 潔
	教 授	齋 藤 昌 利(兼務)
災害公衆衛生学分野	教 授	栗 山 進 一
	助 教	浅 尾 敦 子
	技 術 補 佐 員	齋 藤 洋 子
	技 術 補 佐 員	手 塚 結理子
	技 術 補 佐 員	岡 田 裕 美
災害感染症学分野	教 授	児 玉 栄 一
	助 教	林 宏 典
	技 術 職 員 ( 限 定 )	白 井 恵美子
	技 術 職 員 ( 限 定 )	笹 野 美 奈
	学 術 研 究 員 ( 限 定 )	河 治 久 実
	技 術 補 佐 員	奥 田 春 香
災害口腔科学分野	教 授	小 坂 健(兼務)
	准 教 授	鈴 木 敏 彦(兼務)

### 防災実践推進部門

分野名	職 名	氏 名
防災教育実践学分野	教 授	佐 藤 健
	教 授	桜 井 愛 子(クロスアポイントメント)
	助 教	定 池 祐 季(兼務)
	事 務 補 佐 員	松 浦 いく子
防災社会推進研究分野	教 授	丸 谷 浩 明
	教 授	増 田 聡(兼務)
	教 授	吉 田 浩(兼務)
	教 授	御 手 洗 潤(兼務)
	准 教 授	佐 藤 翔 輔
	技 術 補 佐 員	寺 嶋 美 織
	技 術 補 佐 員	佐 藤 空 飛
	技 術 補 佐 員	森 實 香 純
	技 術 補 佐 員	五十嵐 和 美
技 術 補 佐 員	高 橋 愛	

国際研究推進オフィス	教 授	小 野 裕 一(兼務)
	教 授	寺 田 賢二郎(兼務)
	教 授	泉 貴 子(兼務)
	准 教 授	Boret Sebastien Penmellen
	准 教 授	Maly Elizabeth Ann
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	准 教 授	Mas Samanez Erick Arturo(兼務)
	特 任 研 究 員	北 村 美和子
	技 術 補 佐 員	齋 藤 緑
2030国際防災アジェンダ推進オフィス	教 授	小 野 裕 一
	准 教 授	佐々木 大 輔
	助 教	原 裕 太
	事 務 補 佐 員	八 木 美 夏
レジリエントEICT研究推進オフィス	教 授	尾 辻 泰 一(兼務)
	特 任 教 授	岩 月 勝 美
	教 授	陳 強(兼務)
	特 任 教 授	中 沢 正 隆
	特 任 教 授	鳥 光 慶 一
	特 任 研 究 員 : 教 授	安 達 文 幸
	教 授	山 田 博 仁(兼務)
	教 授	藤 掛 英 夫(兼務)
	准 教 授	今 野 佳 祐(兼務)
	准 教 授	石 鍋 隆 宏(兼務)
	助 教	柴 田 陽 生(兼務)
	学 術 研 究 員	久 道 好 正
	学 術 研 究 員	大 森 慎 吾
	学 術 研 究 員	加 藤 康 之
	学 術 研 究 員	秋 富 慎 司
	学 術 研 究 員	高 橋 領
	学 術 研 究 員	松 尾 英 範
	学 術 研 究 員	藤 澤 宣
	学 術 研 究 員	澤 谷 邦 男
	学 術 研 究 員	鈴 木 哲
	学 術 研 究 員	菅 原 直 秋
	技 術 補 佐 員	三 浦 健
	技 術 補 佐 員	鈴 木 由 布 子
事 務 補 佐 員	篠 崎 頼 子	
派 遣 職 員	井 澤 良 子	
地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	職 名	氏 名
	教 授	今 村 文 彦(兼務)
	特 任 教 授	西 依 英 俊
	准 教 授	Suppasri Anawat(兼務)
	助 教	内 田 典 子
	学 術 研 究 員	武 田 真 一
	技 術 補 佐 員	保 田 真 理
	技 術 職 員 ( 限 定 )	佐 藤 雅 美
事 務 補 佐 員	杉 浦 加 奈 子	

	職名	氏名
都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	教 授	遠 田 晋 次(兼務)
	助 手	吉 見 瑤 子
	助 手	乗 松 君 衣

	職名	氏名
イオン防災環境都市創生 共同研究部門	教 授	丸 谷 浩 明(兼務)
	教 授	今 村 文 彦(兼務)
	教 授	児 玉 栄 一(兼務)
	教 授	牧 雅 之(兼務)
	助 教	定 池 祐 季

	職名	氏名
日本工営レジリエントシティ技術実装 共同研究部門	教 授	寺 田 賢 二 郎(兼務)
	教 授	江 川 新 一(兼務)
	准 教 授	森 口 周 二(兼務)
	准 教 授	大 野 普(兼務)
	助 教	Sukulthansorn Naruethep
	助 教	凌 国 明

	職名	氏名
附属災害レジリエンス共創センター	教 授	江 川 新 一(兼務)
	教 授	越 村 俊 一(兼務)
	教 授	奥 村 誠(兼務)
	教 授	小 野 裕 一(兼務)
	特 任 准 教 授	片 谷 信 治(クロスアポイントメント)
	特 任 准 教 授	桑 原 直 道(クロスアポイントメント)
	学 術 研 究 員	武 田 百 合 子

#### 称号付与

特 任 教 授 ( 客 員 )	原口 強、櫻庭 雅明、岩崎 智哉、呉 文 繡、大石 裕介、小野 高宏、村嶋 陽一、Morris John、 上山 眞知子、Rundle John B.、坂 茂、目黒 公郎、福本 学、島田 明夫、Basher Reid E.、 竹谷 公男、村上 清、西川 智、山本 百合子
特 任 准 教 授 ( 客 員 )	Joerg Szarzynski、岡田 真介、野島 和也
シニア 研 究 員	川島 秀一

	職名	氏名
広報室	特 任 准 教 授	中 鉢 奈 津 子
	技 術 職 員 ( 限 定 )	鈴 木 通 江
	技 術 補 佐 員	福 島 愛 子
	派 遣 職 員	内 山 雅 津 子

#### 事務部

事 務 長	木戸 龍輔
専 門 員	栗原 尚志
総 務 係	係長:前盛 和重、主任:齊藤 留美子 事務補佐員:遠藤 真由美、久保田 千恵
経 理 係	係長:杉山 力 事務補佐員:小島 克子、尾上 望、千葉 寿枝
用 度 係	係長:佐藤 圭一、主任:水野 貴江、事務補佐員:栗田 香理、森 智子
専 門 職 員	武川 泰典、事務補佐員:松澤 千賀子、高城 稚江、滝沢 まどか、宮田 千草

## E 研究所内会議・委員会

### 1.会議

会議名	構成員	審議事項
教授会	専任の教授	研究所の組織及び研究体制、人事、予算、その他重要事項
運営会議	研究所長、副研究所長、教育研究評議員、研究所長補佐、部門長	研究所の組織運営に関する事項についての企画及び調整
拡大教授会	専任の教授、准教授、講師	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換
全体会議	専任の教授、准教授、講師、助教、助手、その他	研究所に関する事項等の情報伝達と情報交換

### 2.委員会

委員会名	委員長	主な所掌内容
安全衛生委員会	今村 文彦 教授(所長)	職員の健康障害防止
予算委員会	今村 文彦 教授(所長)	研究所予算
総務委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	研究所総務
評価委員会	丸谷 浩明 教授(副所長)	部局評価
広報戦略委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	研究成果の社会発信、出版物
ハラスメント防止対策委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	防止対策と発生時の対応
男女共同参画委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	男女共同参画推進啓発
教務委員会	五十子幸樹 教授(所長補佐)	教育、安全、活動の企画・運営
国内連携委員会	佐藤 健 教授	産官学連携、自治体連携
国際連携委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	国際連携、APRU
共同利用・共同研究委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	プロジェクトの計画、採択
共同利用・共同研究プロジェクト実施委員会	江川 新一 教授(所長補佐)	プロジェクトの実施
研究企画委員会	越村 俊一 教授(所長補佐)	研究の企画・運営、体制構築
研究倫理委員会	邑本 俊亮 教授	研究倫理審査、倫理教育企画
公正研究活動推進委員会	寺田 賢二郎 教授(所長補佐)	公正な研究活動の推進
施設・環境委員会	村尾 修 教授	施設・環境整備保全、安全
消防・防災委員会	丸谷 浩明 教授(副所長)	災害対策の策定、防災訓練

### 3.委員会名簿

2023年3月31日現在

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
安全衛生委員会	◎今村教授	小川産業医、菅原准教授、佐藤大准教授、佐々木大准教授、鈴木講師、石澤助教、事務長、用度係長、総務係長	
予算委員会	◎今村教授 ○丸谷教授	江川教授、寺田教授、五十子教授、越村教授、井内准教授、事務長、経理係長	
総務委員会	◎五十子教授 ○丸谷教授	今村教授、柴山准教授、総務係長	ライブラリ運営WG ★今村教授、柴山准教授、佐藤大准教授
評価委員会	◎丸谷教授 ○越村教授	五十子教授、奥村教授、村尾教授、遠田教授、児玉教授、佐藤健教授	教員選考審査基準検討WG ★越村教授、☆五十子教授、村尾教授、丸谷教授、寺田教授、遠田教授、児玉教授 教員表彰WG ★奥村教授、丸谷教授、五十子教授
広報戦略委員会	◎江川教授 ○寺田教授	木戸教授、佐藤健教授、中鉢特任准教授、広報室職員 ※各WGに広報室職員参画	ニューズレターWG ★中鉢特任准教授、福島准教授、森口准教授、マリ准教授 年次報告書WG ★木戸教授、中鉢特任准教授 展示WG ★橋本助教、☆井内准教授、菅原准教授、藤井准教授、川内准教授、佐々木大准教授、鈴木講師、門廻助教、石澤助教、濱家助教、定池助教、ゲルスタ助教、高橋助教、乗松助手、吉見助手、中鉢特任准教授

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
ハラスメント防止対策委員会	◎五十子教授 ○奥村教授	栗山教授(教授代表)、泉教授(准教授・女性代表)、郭助教(助教代表)、総務係長(過半数代表者)	
男女共同参画委員会	◎五十子教授 ○奥村教授	栗山教授(教授代表)、泉准教授(准教授・女性代表)、郭助教(助教代表)、佐藤健教授(過半数代表者)、総務係長	
教務委員会	◎五十子教授(工) ○村尾教授(工)	邑本教授(情)、江川教授(医)、遠田教授(理)、佐藤大准教授(環)	GP-RSS運営WG ★村尾教授、江川教授、今村教授、児玉教授、泉教授、サッパシー准教授、柴山准教授、佐藤大准教授
			高度医療人材養成プログラム運営WG ★江川教授、五十子教授、榎田准教授、マリ准教授
			卓越大学院運営WG ★寺田教授、今村教授、小野教授、江川教授、福島准教授
国内連携委員会	◎佐藤健教授 ○丸谷教授	岩田教授、平野准教授、佐藤翔准教授	産官学連携WG ★丸谷教授、岩田教授、小野教授、佐藤健教授、定池助教
			気仙沼分室WG ★佐藤翔准教授、丸谷教授、岩田教授、栗山教授、児玉教授、蝦名准教授、森口准教授、サッパシー准教授、マリ准教授
			3. 11からの学び塾WG ★佐藤健教授、☆定池助教、奥村教授、丸谷教授、岩田教授、平野准教授
国際連携委員会	◎寺田教授 ○小野教授	泉教授、サッパシー准教授、マス准教授、マリ准教授、ボレー准教授	APRU運営WG ★泉教授、村尾教授、サッパシー准教授、マス准教授、マリ准教授、ボレー准教授
			世界津波の日WG ★今村教授、越村教授、小野教授、サッパシー准教授、マリ准教授、ボレー准教授、中鉢特任准教授
			世界防災フォーラムWG ★今村教授 事務局: 佐藤翔准教授、井内准教授 連携部会: 丸谷教授(国内)村尾教授(国際) セッション部会: 寺田教授、泉教授、マリ准教授、ボレー准教授、マス准教授、サッパシー准教授 展示: 展示WG(小野教授)
研究企画委員会	◎越村教授(評) ○児玉教授(医)	五十子教授(評)、奥村教授(人)、村尾教授(人)、遠田教授(評)、小野教授(実)、森口准教授、福島准教授、杉浦教授	金曜フォーラムWG ★岩田教授、☆石澤助教、マス准教授、マリ准教授、佐々木大准教授、定池助教、高橋助教、橋本助教、濱家助教、ゲルスタ助教、門廻助教、林助教、広報室職員
			緊急調査WG 津波(国内): 門廻助教 津波(海外): ☆サッパシー准教授、マス准教授 高潮・洪水: 橋本助教 地震: 遠田教授、大野准教授 土砂: ★森口准教授 火山: 福島准教授、森口准教授 保健・医療: 佐々木宏准教授 歴史資料保護: 佐藤大准教授、蝦名准教授、川内准教授 構造物: 柴山准教授、大野准教授 情報支援: 佐藤翔准教授、中鉢特任准教授、広報室職員
			ソフトウェア管理WG ★越村教授、マス准教授
			KPI評価・推進WG ★今村教授、丸谷教授、寺田教授、佐藤健教授、小野教授、泉教授、福島准教授、柴山准教授、事務長、経理係長
			研究所若手アンサンブルWG ★佐々木大准教授、橋本助教、石澤助教、野村助教
倫理委員会	◎邑本教授 ○奥村教授	伊藤教授、木戸教授、森口准教授、榎田准教授、ボレー准教授	

委員会	◎委員長・ ○副委員長	委員	WG・メンバー (★WG長、☆副WG長)
公正研究活動推進委員会	◎寺田教授(評) ○奥村教授*(人)	榎田准教授(評)、邑本教授*(人)、 木戸教授(評)、千田教授*(医)、平 野准教授(人) *研究公正アドバイザー	
施設環境委員会	◎村尾教授 ○平野准教授	五十子教授、大野准教授、柴山准 教授、用度係長	施設管理WG ★平野准教授、岩田教授、村尾教授、大野准教授、 柴山准教授、用度係長 ネットワークWG ★大野准教授、柴山准教授、寺田教授 デザインコードWG ★村尾教授、平野准教授、用度係長
消防・防災委員会(自衛消 防隊)	◎丸谷教授 ○五十子教授	今村教授、邑本教授、佐藤健教 授、江川教授、大野准教授、佐藤 大准教授、柴山准教授、平野准教 授、佐藤准教授、事務長	防災計画策定WG ★丸谷教授、佐藤健教授、江川教授、邑本教授、柴 山准教授、佐藤翔准教授、総務係長、用度係長
東日本大震災シンポジウム	◎千田教授 ○佐々木宏准教授	森口准教授、ボレー准教授、蝦名 准教授	
災害研設立10周年記念講 演会	◎奥村教授 ○丸谷教授	五十子教授、柴山准教授、中鉢特 任准教授	
災害レジリエンス共創セン ター戦略推進委員会	◎今村教授 ○丸谷教授	江川教授(センター長)、越村教授 (副センター長)、奥村教授、小野 教授、中谷教授(環境科学)、防災 科研、事務長 オブザーバー:中鉢特任准教授、 武田学術研究員	

## (2) 研究資金

### A 2022年度 災害科学国際研究所歳出決算

(単位:百万円)

区分	決算額	備考
運営費交付金	550	
教員人件費	414	
教育研究費	134	
一般管理費	2	
運営費交付金 (ミッション実現加速化)	44	
間接経費	130	
外部資金	863	
寄附金	96	・寄附部門含む
受託研究費	447	
共同研究費	121	
受託事業費	50	
科学研究費補助金	128	
その他補助金	21	
合 計	1,587	

※単位未満四捨五入

## B 研究者一人あたりの研究費

2023年3月末現在(単位:千円)

事 項	研究費総額 (A)	専任教員数 (B)	教員一人 あたりの研究費 (A/B)	備 考
運営費交付金	63,772	53	1,203	
運営費交付金(ミッション実現加速化)	43,982	53	830	
受託研究費等	735,527	61	12,058	寄附金、受託研究費、共同研究費、受託事業費、その他補助金を含む
科学研究費補助金	128,260	53	2,420	文科省科研費、厚労省科研費を含む
合 計	971,541	53 (61)	16,511	

※専任教員数は研究費配分対象者の総数(受託研究費等のみ、R-EICTオフィス教員数を加算)

※単位未満四捨五入



# C 2022年度科学研究費補助金採択一覧表

文科科研費

2023年3月末現在

番号	課題番号	研究種目	研究課題名等	直接経費	間接経費	合計	研究者	研究年度
1	21H00180	新学術領域研究(研究領域提案型)	死後脳の多階層解析による統合失調症病態の層別化	2,400,000	720,000	3,120,000	國井 泰人	R03 ~ R04
2	21H05001	基盤研究(S)	理・工・医学の連携による災害医療デジタルツインの開発と医療レジリエンスの再構築	28,600,000	8,580,000	37,180,000	越村 俊一	R03 ~ R07
3	18H03801	基盤研究(A)	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	6,300,000	1,890,000	8,190,000	村尾 修	H30 ~ R04
4	22H00222	基盤研究(A)	レジリエント幹線交通ネットワーク計画のための数理最適化アプローチ	8,200,000	2,460,000	10,660,000	奥村 誠	R04 ~ R08
5	22H00507	基盤研究(A)	土砂災害の高精度・高効率シミュレーションによる高精細バーチャライゼーション	10,100,000	3,030,000	13,130,000	寺田 賢二郎	R04 ~ R07
6	20H02228	基盤研究(B)	免震機能を有する建造物の過大変位抑制効果を検証する非線形振動台実験の高性能制御	3,000,000	900,000	3,900,000	榎田 竜太	R02 ~ R04
7	20H02320	基盤研究(B)	被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築:台風ハイアン・スラウェシ島地震を対象に	2,800,000	840,000	3,640,000	井内 加奈子	R02 ~ R05
8	20H02407	基盤研究(B)	科学的エビデンスが支える効果的で持続的な災害伝承	2,700,000	810,000	3,510,000	佐藤 翔輔	R02 ~ R04
9	20H02408	基盤研究(B)	災害発生中の業務支援に繋がる自然災害デジタルアーカイブに関する研究	4,900,000	1,470,000	6,370,000	柴山 明寛	R02 ~ R04
10	21H01499	基盤研究(B)	地域型復興住宅の全国展開の可能性に関する研究	4,200,000	1,260,000	5,460,000	岩田 司	R03 ~ R05
11	21H01582	基盤研究(B)	風水害を中心とした包括的學校安全の実態解明と評価手法の構築	2,000,000	600,000	2,600,000	佐藤 健	R03 ~ R06
12	21H01583	基盤研究(B)	単一斜面と広域の異なる空間スケールを直接表現する豪雨時斜面安定性評価	4,900,000	1,470,000	6,370,000	森口 周二	R03 ~ R04
13	21H03680	基盤研究(B)	インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて	3,500,000	1,050,000	4,550,000	佐々木 大輔	R03 ~ R06
14	22H01305	基盤研究(B)	火山近傍の活断層の発達と長期相互作用の解明—布田川断層と阿蘇火山における研究—	4,100,000	1,230,000	5,330,000	遠田 晋次	R04 ~ R06
15	22H03346	基盤研究(B)	日米英蘭の先端ゲノムコホートと戦略的AI解析技術を用いた多因子疾患の病態解明	6,300,000	1,890,000	8,190,000	栗山 進一	R04 ~ R06
16	19K02879	基盤研究(C)	被災地での学びを地域や世代を超えて伝える災害伝承・防災教育システムの開発	900,000	270,000	1,170,000	邑本 俊亮	H31 ~ R05
17	19K04784	基盤研究(C)	Coordination of NGO and Government Roles in Housing Provision after Mega Disasters in Urban Areas: the Cases of Houston after Hurricane Harvey and Palu after the Sulawesi Earthquake and Tsunami	500,000	150,000	650,000	MALY ELIZABETH	H31 ~ R04
18	20K09660	基盤研究(C)	子宮内膜癌におけるリビドミクス解析	900,000	270,000	1,170,000	伊藤 潔	R02 ~ R04
19	20K12340	基盤研究(C)	経済被害額の算定過程を事例としたインドネシアにおける防災行政の組織間関係の再検討	1,300,000	390,000	1,690,000	地引 泰人	R02 ~ R04
20	21K01919	基盤研究(C)	縮小社会の災害復興過程におけるコミュニティ変容と災害文化の形成・継承に関する研究	600,000	180,000	780,000	定池 祐季	R03 ~ R07
21	21K07524	基盤研究(C)	統合失調症死後脳浸透性におけるストレス応答分子に着目した多階層的研究	800,000	240,000	1,040,000	日野 瑞城	R03 ~ R07
22	21K12234	基盤研究(C)	有機結合型トリチウムを用いた低濃度トリチウム影響解析	1,000,000	300,000	1,300,000	鈴木 正敏	R03 ~ R05
23	22K03167	基盤研究(C)	精神病早期段階における患者家族間の相互作用メカニズム:疾患解釈スタイルに着目して	1,300,000	390,000	1,690,000	濱家 由美子	R04 ~ R06
24	22K04348	基盤研究(C)	風車の回転に着目した風力発電施設の誘目特性と景観評価	1,200,000	360,000	1,560,000	平野 勝也	R04 ~ R06
25	22K10358	基盤研究(C)	病院事業継続マネジメントに資する災害対応訓練計画・実施支援ツールの開発	1,600,000	480,000	2,080,000	佐々木 宏之	R04 ~ R06
26	20K14561	若手研究	海溝型地震は内陸地震活動に影響を与えるのか?	700,000	210,000	910,000	石澤 堯史	R02 ~ R04
27	20K15000	若手研究	洪水氾濫解析と衛星画像解析を用いた準リアルタイム水害廃棄物発生量推定	1,000,000	300,000	1,300,000	橋本 雅和	R02 ~ R04
28	20K20076	若手研究	The role of Mega-tourism events in disaster recovery, implications for local communities	300,000	90,000	390,000	NGUYEN DAVID	R02 ~ R04
29	20K14588	若手研究	2011年東北沖地震に伴う断層すべりの時空間発展の高解像度推定	700,000	210,000	910,000	富田 史幸	R02 ~ R04
30	20K20004	若手研究	生態系保全策・気候変動適応策の地域間矛盾解消に資する乾燥地フードチェーンの解明	800,000	240,000	1,040,000	原 裕太	R02 ~ R05
31	21K13164	若手研究	The integration of mass trauma in collective identity through negative heritage preservation and disaster tourism in Tohoku after the Great East Japan Earthquake	700,000	210,000	910,000	GERSTER JULIA	R03 ~ R07
32	21K14284	若手研究	カルマンフィルターを活用した免震・制振装置の非線形復元力推定法と実記録による検証	1,000,000	300,000	1,300,000	郭 佳	R03 ~ R04
33	21K13151	若手研究	河川上流域における支流の土砂供給様式の長期的変化過程の解明	900,000	270,000	1,170,000	高橋 尚志	R03 ~ R06
34	21K19366	挑戦的研究(萌芽)	コロナウイルス制圧のための新規膜融合阻害ペプチドの創出と合理的な設計法の確立	1,500,000	450,000	1,950,000	児玉 栄一	R03 ~ R05
35	22K18838	挑戦的研究(萌芽)	構造物に重篤応答を誘発する地震入力波の非線形制御による同定手法の構築と実験的検証	1,800,000	540,000	2,340,000	榎田 竜太	R04 ~ R06
36	21K20441	研究活動スタート支援	機械学習とベイズ更新を用いたリアルタイム津波リスク評価手法の開発	1,200,000	360,000	1,560,000	野村 怜佳	R03 ~ R04
37	20KK0037	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	東南アジアにおける「オールハザード型」防災対策枠組構築のための共同研究	3,100,000	930,000	4,030,000	泉 貴子	R02 ~ R06
38	22KK0066	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	災害・気候変動対応策への投資と社会的脆弱性・地域復元力の関係解明:NY市を対象に	1,300,000	390,000	1,690,000	井内 加奈子	R04 ~ R08
39	20F20796	特別研究員奨励費	免震構造物高性能化のための革新的ダイナミック・マス・ダンパーの開発	800,000	0	800,000	GUO XUEYUAN	R02 ~ R04
40	20J20360	特別研究員奨励費	津波生存者・犠牲者の双方に着目した津波避難行動発生・進行メカニズムの解明	800,000	0	800,000	新家 杏奈	R02 ~ R04
41	21F31067	特別研究員奨励費	長大斜張橋の地震時応答制御に有効なダイナミック・マス制振装置の開発	1,100,000	0	1,100,000	CHEN XU	R03 ~ R04
42	21J22319	特別研究員奨励費	巨礫堆積物と確率台風モデルによる北西太平洋における古台風の最大強度分布の解明	1,000,000	0	1,000,000	南 舘 健太	R03 ~ R05
43	22J10932	特別研究員奨励費	マルチスケール・マルチステージ新破壊理論による建造物の精緻な崩壊予測への挑戦	800,000	0	800,000	韓 馨珂	R04 ~ R05
44	22J13235	特別研究員奨励費	CFRPのプロダクトライフサイクル予測を可能にするマルチスケール計算科学の創生	1,200,000	0	1,200,000	山中 羅介	R04 ~ R05
45	22J13566	特別研究員奨励費	持続可能な社会へ向けた超高層建物のレジリエント・デザインへの挑戦	900,000	0	900,000	福田 伊織	R04 ~ R05
46	22J21905	特別研究員奨励費	受け手のニーズと行動変容効果を両立させる持続可能な災害伝承モデルの開発	900,000	0	900,000	渡邊 勇	R04 ~ R06
47	22J22330	特別研究員奨励費	実用性に向けた大規模な社会基盤施設群の維持管理施策最適化問題の解法の体系化	900,000	0	900,000	中里 悠人	R04 ~ R06
48	22F32060	特別研究員奨励費	軽量コンパクトなアクティブ・ダイナミック・マス制振ダンパーの開発	1,200,000	0	1,200,000	ZHAO ZHIPENG	R04 ~ R05
49	22F22764	特別研究員奨励費	福島放射能除染と集積的記憶の構成	800,000	0	800,000	GAULENE MATHIEU	R04 ~ R05
合計				129,500,000	35,730,000	165,230,000		

## D 2022年度外部資金受入状況

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
受託研究/競争的研究費	尾辻 泰一	国立研究開発法人科学技術振興機構	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2021/10/1	2024/3/31	89,230,770	26,769,230	116,000,000
受託研究/競争的研究費	SUPPASRI ANAWAT	国立研究開発法人科学技術振興機構	沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム	2022/4/1	2024/3/31	5,820,000	1,746,000	7,566,000
受託研究/競争的研究費	中沢 正隆	総務省	第5世代移動通信システムの更なる高度化に向けた開発研究	2022/4/1	2023/3/31	74,778,405	18,021,595	92,800,000
受託研究/競争的研究費	陳 強	総務省	基地局端末間の協調による動的ネットワーク制御に関する研究開発	2022/4/1	2023/3/31	67,566,800	16,283,598	83,850,398
受託研究/競争的研究費	栗山 進一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	出生ロボット連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究	2022/4/1	2023/3/31	47,364,578	14,209,372	61,573,950
受託研究/競争的研究費	児玉 栄一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	Epstein-BarrウイルスによるT/NK白血病・リンパ腫治療薬候補S-FMAUの非臨床試験	2022/4/1	2023/3/31	58,076,850	17,423,055	75,499,905
受託研究/競争的研究費	児玉 栄一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	構造解析・生物進化学による学際融合は、迅速かつ有効なペプチドPPI創製に有効である	2022/4/1	2023/3/31	8,500,000	2,550,000	11,050,000
受託研究/競争的研究費	國井 泰人	国立大学法人熊本大学	死後脳試料を用いた検証	2022/4/1	2023/3/31	5,000,000	1,500,000	6,500,000
受託研究/競争的研究費	伊藤 潔	学校法人慶應義塾	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	2020/4/1	2023/3/31	500,000	150,000	650,000
受託研究/競争的研究費	林 宏典	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	新規 SARS-CoV-2 Mpro 阻害剤 TKB245 の臨床応用を前提とした非臨床試験	2022/7/19	2023/3/31	1,000,000	300,000	1,300,000
受託研究/競争的研究費	佐藤 翔輔	国立研究開発法人科学技術振興機構	被災者と未災者が共に学ぶデジタル災害空間基盤	2022/10/1	2024/3/31	12,150,000	3,645,000	15,795,000
受託研究/競争的研究費	越村 俊一	国立研究開発法人科学技術振興機構	地震直後におけるリマ首都圏インフラ被災程度の予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発 GI:早期解析システム (GIB:津波)	2021/9/1	2024/3/31	4,410,000	1,323,000	5,733,000
受託研究/競争的研究費	定池 祐季	国立研究開発法人防災科学技術研究所	社会実装に向けた住民調査と行政の災害対応能力向上に向けた調査・支援	2021/6/1	2023/3/31	500,000	75,000	575,000
受託研究/競争的研究費	小野 裕一	国立研究開発法人科学技術振興機構	最後の一人を救うコミュニティアラートシステムのモデル開発及び実装	2021/10/1	2024/3/31	11,500,000	3,450,000	14,950,000
受託研究/競争的研究費	菅原 大助	国立研究開発法人科学技術振興機構	デジタル防災コミュニティの市民参加型研究	2021/10/1	2024/3/31	11,950,000	3,585,000	15,535,000
受託研究/競争的研究費	MAS SAMANEZ ERICK ARTURO	国立研究開発法人科学技術振興機構	逐次決定分析とその洪水リスク軽減及び避難指示の最適化への応用	2022/2/1	2023/3/31	4,410,000	1,323,000	5,733,000
受託研究/競争的研究費	MALY ELIZABETH	国立研究開発法人科学技術振興機構	人間中心の減災復興に対する不動産買い上げの効果と限界	2022/2/1	2023/3/31	1,200,000	360,000	1,560,000
受託研究/競争的研究費	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	スポーツ溶接された超ハイト材の破壊予測技術の開発	2020/12/1	2023/3/31	4,300,000	1,290,000	5,590,000
受託研究/競争的研究費	菅原 大助	国立研究開発法人防災科学技術研究所	高潮の河川遡上を考慮したリアルタイム浸水予測モデルの開発	2019/5/23	2023/3/31	10,721,000	1,608,150	12,329,150
受託研究/競争的研究費	寺田 賢二郎	国立研究開発法人科学技術振興機構	樹脂硬化プロセスを考慮したCFRPのマルチスケール解析手法の開発	2018/11/1	2023/3/31	3,914,000	587,000	4,501,000
受託研究/一般	陳 強	国立研究開発法人情報通信研究機構	Beyond 5Gのレジリエンスを実現するネットワーク制御技術の研究開発	2021/10/22	2023/3/31	48,207,693	14,462,307	62,670,000
受託研究/一般	藤井 進	全国健康保険協会宮城支部	支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究	2022/4/1	2023/5/31	4,762,000	1,428,000	6,190,000
受託研究/一般	林 宏典	国立研究開発法人国立国際医療研究センター	SARS-CoV-2メインプロテアーゼ阻害剤に対する薬剤耐性変異誘導と耐性獲得機序の解明(22A2009D)	2022/10/1	2023/9/30	1,000,000	0	1,000,000
受託研究/一般	越村 俊一	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	2020~2021年度 ALOS-4レーザ画像および外部情報を用いた浸水建物抽出モデルの構築	2020/4/30	2022/9/30			0
小計						476,862,096	132,089,307	608,951,403
共同研究	今村 文彦	パシフィックコンサルタンツ株式会社	非地震性津波災害のリスク評価にかかわる評価	2022/4/1	2023/3/25	6,500,000	1,300,000	7,800,000
共同研究	今村 文彦	復建調査設計株式会社	津波・高潮後におけるアマモ場の再生予測に関する研究	2022/4/1	2023/3/31	916,600	238,400	1,155,000
共同研究	越村 俊一	東海旅客鉄道株式会社	リアルタイム津波浸水被害推定システムによる早期被害把握と高度化に向けた実証研究	2022/4/1	2023/3/31	4,163,500	832,700	4,996,200
共同研究	定池 祐季	厚真町	北海道胆振東部地震からの復興と地域防災に関する実践的研究	2022/4/1	2023/3/31	1,153,400	346,020	1,499,420
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2022/6/6	2023/6/5	733,200	146,800	880,000
共同研究	今村 文彦	株式会社ワンテーパー	防災ISO構築を目指した防災備蓄Platformの構築	2022/4/1	2023/3/31	2,500,000	750,000	3,250,000
共同研究	今村 文彦	株式会社ベル・データ	防災ISO構築を目指した防災備蓄Platformの構築	2022/4/1	2023/3/31	2,500,000	750,000	3,250,000
共同研究	佐藤 翔輔	東北地方整備局	震災伝承施設を活用した防災教育に関する共同研究	2022/7/29	2023/2/28	5,689,185	1,707,000	7,396,185
共同研究	森口 周二	日本電信電話株式会社	東北大災害情報と4Dデジタルの基盤の連携による被災予測デジタルツインを活用した意思決定支援の研究	2022/6/13	2023/3/31	4,615,000	1,384,500	5,999,500
共同研究	藤井 進	日本電信電話株式会社	次世代避難に向けた社会システムの構築および地域住民の防災行動促進を目的とした介入モデルの研究	2022/4/1	2023/3/31	7,488,400	2,246,520	9,734,920
共同研究	佐藤 大介	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業	2022/4/1	2023/3/31	12,000,000	0	12,000,000
共同研究	佐藤 翔輔	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館の機能強化についての共同研究	2022/5/31	2023/3/8	3,165,000	949,000	4,114,000
共同研究	小野 裕一	パシフィックコンサルタンツ株式会社	仙台防災枠組と関連した災害研の国際連携活動の推進に向けた調査研究	2022/4/1	2023/3/31	366,600	73,400	440,000
共同研究	五十子 幸樹	株式会社安藤・間	減衰指定型ダンパーシステムを用いた高性能免震構造の開発	2022/7/1	2023/3/31	1,000,000	300,000	1,300,000
共同研究	寺田 賢二郎	日本工営株式会社	レジリエントシティー技術実装	2022/4/1	2025/3/31	16,500,000	4,950,000	21,450,000
共同研究	中沢 正隆	株式会社KDDI総合研究所(KDDIResearch,Inc.)	長距離空間多重伝送方式及び関連技術の研究	2022/6/2	2023/3/31	769,000	231,000	1,000,000
共同研究	鳥光 慶一	株式会社n-position	姿勢と矯正に関する研究	2022/4/1	2024/3/31	2,300,000	690,000	2,990,000
共同研究	中沢 正隆	三菱電機株式会社情報技術総合研究所	超多値デジタルコヒーレント光伝送における前方誤訂正方式の最適化に関する研究	2022/4/1	2023/3/31	385,000	115,000	500,000
共同研究	尾辻 泰一	日本電信電話株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2022/5/11	2023/3/31	8,334,000	1,666,000	10,000,000
共同研究	尾辻 泰一	デルタ電子株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2022/4/1	2023/3/31	3,846,000	1,154,000	5,000,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	新規開発案件の防災に関する共同研究・物流施設の計画・建設・運営面での防災力向上・復旧支援の研究	2022/9/1	2023/3/31	733,200	146,800	880,000
共同研究	鈴木 正敏	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 核融合科学研究所	環境中トリチウム挙動と放射線防護に関する研究	2022/5/31	2023/2/28	550,000	55,000	605,000
共同研究	尾辻 泰一	古河電気工業株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2022/4/1	2023/3/31	8,334,000	1,666,000	10,000,000
共同研究	尾辻 泰一	パナソニックホールディングス株式会社	自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出	2022/9/28	2023/3/31	2,500,000	500,000	3,000,000
共同研究	鳥光 慶一	ビヨンドエス株式会社	IoTセンシングに関する研究	2022/11/1	2024/3/31	3,075,000	922,500	3,997,500
共同研究	鳥光 慶一	ビヨンドエス株式会社	繊維電極によるバイタル評価	2020/11/1	2022/10/31	4,300,000	860,000	5,160,000

契約種別	研究代表者	契約相手	研究題目	研究開始日	研究終了日	直接経費	間接経費	合計
共同研究	今村 文彦	富士通株式会社	リアルタイム津波災害予測技術の研究開発	2022/10/1	2023/3/31	2,321,300	678,700	3,000,000
共同研究	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	物流業におけるBCPの構築	2021/6/6	2022/6/5	0	0	0
共同研究	今村 文彦	公益財団法人イオン環境財団	レジリエント・コミュニティ創生に向けた都市のあり方に関する研究	2021/10/1	2024/9/30	6,000,000	1,800,000	7,800,000
共同研究	今村 文彦	イオンモール株式会社	レジリエント・コミュニティ創生に向けた都市のあり方に関する研究	2021/10/1	2024/9/30	6,000,000	1,800,000	
共同研究	藤井 進	三菱UFJリース株式会社	個人に向けた医療BCP基盤の在り様と医療情報を使った個人に最適なサービスとその基盤の在り様に関する研究	2020/6/1	2023/3/31	4,166,000	834,000	5,000,000
共同研究	今村 文彦	清水建設株式会社	津波による大規模土砂移動の解析・予測手法の構築	2020/7/1	2023/3/31	451,141	135,342	586,483
共同研究	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続機能及び地域防災機能を兼ね備えた施設開発	2020/9/1	2022/8/31	0	0	0
共同研究	五十子 幸樹	株式会社奥村組	性能可変オイルダンパーの実用化に関する研究	2019/4/1	2025/3/31	500,000	100,000	600,000
共同研究	木戸 元之	国立大学法人東京大学	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画	2019/4/1	2024/3/31	9,088,000	0	9,088,000
共同研究	今村 文彦	WILLIS LIMITED	Tsunami Risk Modelling	2010/10/1	2022/9/30	0	0	0
共同研究	江川 新一	国立研究開発法人防災科学技術研究所	大規模自然災害における多様な避難形態と健康影響に関する潜在的リスク分析	2022/7/1	2023/3/31	0	0	0
共同研究	今村 文彦	国立研究開発法人防災科学技術研究所	マッピングによる災害レジリエンス構築：社会的脆弱性の高い人々へ着目した研究	2022/7/1	2023/3/31	0	0	0
共同研究	陳 強	国立研究開発法人情報通信研究機構	BSGへの適用を目指した無線アクセス基盤技術に関する研究	2021/4/1	2026/3/31	0	0	0
共同研究	中沢 正隆	国立研究開発法人情報通信研究機構	光パケット・バス統合ノードを用いた適応多値信号スイッチング	2012/12/21	2024/3/31	0	0	0
共同研究	越村 俊一	国立研究開発法人防災科学技術研究所	災害対応デジタルツインに対する災害対応実務者のニーズ調査に基づく概念設計のための要件定義	2022/10/3	2025/3/31	0	0	0
共同研究	奥村 誠	国立研究開発法人防災科学技術研究所	レジリエンス定量化の戦略構築と実証研究	2022/10/3	2024/3/31	0	0	0
共同研究	佐藤 健	国立研究開発法人防災科学技術研究所	防災基礎力尺度の開発・検証と高度職業人の防災教育実践による社会のレジリエンス向上	2022/10/3	2024/3/31	0	0	0
共同研究	鈴木 正敏	International Atomic Energy Agency; (国際原子力機関) [オーストリア]	長期低線量被ばく評価のための野生ニホンザルおよび大型ニホンザルモデルを用いた外部線量測定法の確立と改善	2022/12/16	2027/12/15	0	0	0
共同研究	藤井 進	kanata株式会社	医療に関わる構文解析技術とその応用に関する研究	2021/11/1	2023/3/31	0	0	0
共同研究	佐藤 健	国立研究開発法人防災科学技術研究所	学校の避難確保計画の社会実装に関する課題解決型実践研究	2021/10/25	2022/6/30	0	0	0
共同研究	遠田 晋次	国立研究開発法人防災科学技術研究所	2016年熊本地震を例とした地震発生層以浅の構造を考慮した断層モデルの検討	2021/11/29	2023/3/31	0	0	0
共同研究	千田 浩一	国立研究開発法人産業技術総合研究所	福島第一原発事故で問題となっているような、低線量率被ばく健康被害バイオマーカーの探索	2020/6/19	2024/3/31	0	0	0
共同研究	木戸 元之	国立大学法人東京大学	海底地殻変動観測技術の高度化に関する研究	2020/7/22	2023/3/31	0	0	0
共同研究	五十子 幸樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所	構造物の地震時損傷検知術と損傷低減化装置を評価するための振動実験技術の開発	2020/10/5	2023/3/31	0	0	0
小計			50件			132,943,526	29,328,682	162,272,208
学術指導	越村 俊一	株式会社FaroStar	移動体からの災害被災状況の把握、予測に関する学術指導	2022/4/25	2024/3/31	900,000	100,000	1,000,000
学術指導	門廻 充侍	ポラ化成工業株式会社	「災害からの生存科学」の観点からのmefullness活用	2022/5/1	2022/7/30	108,000	12,000	120,000
学術指導	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続計画策定	2022/9/1	2024/8/31	900,000	100,000	1,000,000
学術指導	柴山 明寛	株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ	自然災害に関するソリューション研究指導	2022/10/1	2024/3/31	4,446,000	494,000	4,940,000
学術指導	柴山 明寛	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	被災地の復興に関する事例収集調査	2023/2/10	2024/3/31	217,800	24,200	242,000
学術指導	柴山 明寛	株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ	(宮古市)自然災害に関するソリューション研究指導	2023/2/1	2024/3/31	1,980,000	220,000	2,200,000
学術指導	今村 文彦	株式会社ベガガス	防災ガイド作成への監修	2023/3/15	2023/6/15	90,000	10,000	100,000
学術指導	丸谷 浩明	株式会社丸和運輸機関	大規模災害発生時の物流事業者による支援活動の指導	2021/6/6	2023/6/5	0	0	0
学術指導	丸谷 浩明	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	事業継続計画策定	2020/9/1	2022/8/31	0	0	0
学術指導	江川 新一	日本無線株式会社	Alertmarkerの災害情報に係るAI多言語翻訳に関する研究	2019/4/1	2023/3/31	900,000	100,000	1,000,000
学術指導	今村 文彦	株式会社東北博報堂	「ぼくのわたしの防災手帳」	2019/12/1	2023/11/30	67,500	7,500	75,000
受託事業	柴山 明寛	多賀城市	令和4年度多賀城市震災アーカイブシステム保守点検業務	2022/4/1	2023/3/31	150,000	0	150,000
受託事業	柴山 明寛	仙台市	「防災×観光」ウェブサイト管理運営業務	2022/4/1	2023/3/31	425,040	104,500	529,540
受託事業	江川 新一	WHO	健康緊急事態および災害リスク管理のための研究方法に関するWHOガイドランスの日本語翻訳に関する技術レビュー/編集および調整プロジェクト	2022/4/7	2023/1/31	2,250,000	250,000	2,500,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	2018-2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務	2018/4/1	2023/3/31	2,475,000	247,500	2,722,500
受託事業	越村 俊一	内閣府	2020-2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務(関東から北海道太平洋沿岸)	2020/4/1	2023/3/31	3,190,000	638,000	3,828,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	津波浸水被害推計システム機能拡張(北海道から青森県までの日本海沿岸)及びシステム更新等業務	2022/4/28	2023/3/31	6,060,000	1,815,000	7,875,000
受託事業	越村 俊一	内閣府	2022年度津波浸水被害推計システム保守・運用業務(秋田県から新潟県までの沿岸)	2022/4/1	2023/3/31	236,246	70,874	307,120
受託事業	今村 文彦	日本規格協会	令和4年度産業標準化推進事業	2022/4/28	2023/2/28	17,199,712	1,469,970	18,669,682
受託事業	千田 浩一	九州大学	原子力人材育成等推進事業	2022/4/1	2023/3/31	9,998,661	0	9,998,661
受託事業	柴山 明寛	岩手県	海外津波博物館等とのオンライン交流運営等業務	2022/11/8	2023/3/10	1,240,000	0	1,240,000
受託事業	小野 裕一	国連防災機関	第4回世界津波博物館会議補助事業	2022/11/15	2023/2/15	7,002,874	0	7,002,874
受託事業	泉 貴子	独立行政法人国際協力機構	地域コミュニティ安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災強化プロジェクト(島の根パートナー型)	2018/6/15	2024/4/15	6,157,000	1,046,000	7,203,000
小計			23件			65,993,833	6,709,544	72,703,377
			合計			675,799,455	168,127,533	843,926,988

## E 2022年度寄附金の受入状況

受入総額: 82,481,640円

2023年3月末現在

No.	助成金名称	寄附者名	受入教員	寄附金額
1	公益信託土木学会学術交流基金助成金	公益社団法人土木学会	佐々木 大輔	1,000,000
2	2020年度三菱財団自然科学特別助成(感染症)助成金	國井 泰人	國井 泰人	1,900,000
3	放射線検査学術研究助成金	東日本メディカルシステム(株)	千田 浩一	100,000
4	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	50,000
4 月 計			4件	3,050,000
5	人工知能による植生判読技術に関する研究助成金	東北緑化環境保全(株)	橋本 雅和	1,000,000
6	地域建設業研究助成金	一般社団法人和合館工学舎	奥村 誠	100,000
5 月 計			2件	1,100,000
7	令和4年度栗駒山麓シオパーク学術研究等奨励事業補助金	高橋 尚志	高橋 尚志	359,000
8	令和4年度教科書研究奨励金	公益財団法人 中央教育研究所	齋藤 玲	200,000
9	津波工学研究分野研究助成金	一般社団法人 東北地域づくり協会	今村 文彦	2,000,000
10	津波工学研究分野研究助成金	五洋建設株式会社	今村 文彦	500,000
11	防災・復興空間学術研究助成金	(株)サイエンスクラフト	村尾 修	100,000
12	災害アーカイブ研究助成金	凸版印刷(株) 東日本事業本部	柴山 明寛	200,000
13	CAEに関する研究助成金	(株)メカニカルデザイン	寺田 賢二郎	500,000
6 月 計			7件	3,859,000
14	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	316,000
15	防災社会システム研究分野助成金	(株)桑折コンサルタント	丸谷 浩明	300,000
16	強振動評価に関する研究助成金	(株)J-POWER設計コンサルタント	大野 晋	1,000,000
17	新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルスに関する研究助成金	大塚製薬(株)	國井 泰人	200,000
7 月 計			4件	1,816,000
	(なし)			
8 月 計			0件	0
18	防災の主流化に関する研究助成金	International Access Corporation	井内 加奈子	352,000
19	日本自然災害学会災害調査補助に関する研究助成金	日本自然災害学会	橋本 雅和	150,000
20	減災並びに災害からの復興に寄与する研究・活動助成金	公益財団法人 日本心理学会	齋藤 玲	250,000
21	フレキシブルシルク電極研究助成金	アルプスアルパイン(株)	鳥光 慶一	500,000
22	CAEに関する研究助成金	サイバネットシステム(株)	寺田 賢二郎	1,000,000
23	豪日交流基金助成金	オーストラリア政府・外務貿易省(DFAT)	ヌイン デビッド	2,246,000
9 月 計			6件	4,498,000

No.	助成金名称	寄附者名	受入教員	寄附金額
24	2022年度公益財団法人がんの子どもを守る会治療研究助成	公益財団法人 がんの子どもを守る会	門廻 充侍	320,000
25	CAEに関する研究助成金	(株)メカニカルデザイン	寺田 賢二郎	500,000
26	放射線検査学研究助成金	第一三共(株)	千田浩一	500,000
10 月 計			3件	1,320,000
27	APRU-IRIDeSマルチハザードプログラム活動助成金	APRU(香港)	泉 貴子	1,937,800
28	津波工学研究分野研究助成金	(株)東京建設コンサルタント	今村 文彦	1,000,000
11 月 計			2件	2,937,800
29	放射線検査学研究助成金	公益財団法人宮城県体がん協会	千田浩一	200,000
30	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	前田 勇輝	60,000
12 月 計			2件	260,000
31	日本測地学会 海外渡航旅費助成金制度 (宮嶋愛菜)	宮嶋 愛菜	福島 洋	150,000
1 月 計			1件	150,000
32	MIRAI2.0-日本・スウェーデン共同プロジェクト 助成金	名古屋大学 MIRAIプロジェクト	泉 貴子	400,000
2 月 計			1件	400,000
33	令和4年度栗駒山麓ゾーク学術研究等奨励事業 補助金	高橋 尚志	高橋 尚志	40,840
34	防災・復興空間学研究助成金	(株)シェルタージャパン	村尾 修	3,000,000
35	東日本大震災被災状況記録整理協力金	佐藤 翔輔	佐藤 翔輔	50,000
3 月 計			3件	3,090,840
総 計			35件	22,481,640

○寄附部門

No.	助成金名称	寄附者名	件数	寄附金額
1	地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門 助成金	東京海上日動火災保険	1件	30,000,000
2	都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門 助成金	応用地質(株)	1件	30,000,000
計			2件	60,000,000

## 4 研究活動

### (1) 研究部門・研究分野の研究活動



## 2022 年度の部門活動報告

部門名	災害評価・低減研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
<p>自然災害の実態解明、予測と事前対策、対応、早期復興に資するため、理学と工学の統合により、被害の現地調査、各種観測、自然現象と被災過程の数値シミュレーション、先端的リモートセンシング、可視化、ロボット関連技術の開発などの研究を遂行する。さらに、これらの先端の研究成果を社会に還元するため、国内外の各種機関と連携・協力し、防災・減災につながる具体的・実践的提案を行う。</p>			
2022 年度の部門活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>無人観測艇ウェーブグライダーによる観測データによる海底地殻変動の推定精度を向上させるための理論走時計算法を確立し、日本海溝・根室沖での固着状態を推定した。これらの成果を定期的に地震調査委員会に報告し、国の長期評価に役立てた。トルコマルマラ海での観測など国際共同研究も行った(海域地震学)。</li> <li>内陸地震に関して、衛星データ解析・臨時地震観測・地震波トモグラフィ・粘弾性数値計算等により、地殻内の微小変形や地震発生場の評価手法を提案。蔵王・吾妻山などでの測地・地震観測を通じて、火山直下の構造や流体供給系を解明し、気象庁や自治体等との火山情報の共有・発信を進めた(陸域地震学・火山学)。</li> <li>地盤・構造物のモニタリングおよび技術開発、耐震対策の推進、振動制御などの被害低減技術の開発を、仙台市、東北各地、バングラデシュ、モンゴルなど国内外で展開した。機械学習等によるデータ駆動型モデリングなど、先端のモデル構築も進めた。これらの成果を Q1 ランクジャーナルに多数公表した(地震工学)。</li> <li>様々な災害における物理現象のメカニズム解明を目的とした精緻な数値モデル及び解析手法の構築、逐次破壊を対象としたマルチステージ解析のための手法開発、数値解析とデータサイエンスを融合した災害の即時被害予測手法や確率論的リスク評価法の提案、および地震被害調査と分析などを行った。(計算安全工学)。</li> <li>津波研究に関して、世界津波博物館会議、世界防災フォーラムでのセッション開催・講演、トンガ海底火山による津波研究への対応、低温症犠牲者の分析と対策に関する社会実装、SATREPS、UCLA、清水建設、原子力規制庁、東京大学、関西大学、富士通等国内外研究機関との共同研究、防災推進国民大会、仙台防災未来フォーラムなどの共同企画等を実施した(津波工学)。</li> <li>多様なプラットフォームによるセンサデータの統合解析と機械学習・データ駆動科学の応用研究を進め、洪水や津波災害発生時の緊急観測データの解析手法(リアルタイム津波浸水被害予測システムなど)を開発し、国内外の災害対応に貢献した。トップジャーナルに多数の論文を掲載(災害ジオインフォマティクス)。</li> <li>豪雨事象の数値気象予報モデル、黒潮大蛇行と関東・東海地方の夏季降水量との関連性など、大気・海洋結合系における諸現象の研究を行った。また、太陽放射線、高エネルギー粒子と電波のスペクトル構造との関係など宙空環境変動に関する研究を実施した。さらに、JAMSTEC、気象庁などとの連携、インドネシア・フィリピンとの国際共同研究も進めた(気象・海洋・宙空災害)。</li> <li>強風下等の困難環境においても有効に運用可能なドローンシステム、瓦礫灯の難作業現場における情報収集のためのロボットシステム、水噴射により浮上して移動し、建物内の火元まで移動できる索状ロボットなど、災害対応に資するロボットの研究開発を進めた。また、ヨーロッパの開発プログラムへの参画、復興庁・経産省など国内外への協力・提言を行った(災害対応ロボティクス)。</li> </ul>			

## 2022 年度分野活動報告

分野名	海域地震学研究分野	報告者氏名	木戸 元之
分野目標			
<p>巨大な地震や津波を引き起すプレート境界の巨大地震の発生域において、測地学的手法・地震学的手法により、地震に関連する海底地殻変動や海底下の地震活動を把握し、地殻の歪みや断層の挙動を地震発生サイクルの中で位置付けてモデル化することで、すでに発生した地震の全体像の理解、さらに将来発生する地震のリスクを評価し、被害を低減するための基礎情報を提示する。</p>			
2022 年度分野活動報告			
<p>自律型の無人観測艇であるウェーブグライダーを活用した高頻度の大規模観測データによる海底地殻変動の推定精度を向上させるため、MCMC 法を用いた確率分布推定を取り入れ、それに伴う大量の繰り返し計算を実現するため、近似的な理論走時計算法を確立した(Tomita and Kido, 2022)。日本海溝に加え、根室沖での海底地殻変動観測の機会を増やし、これまで未知であった固着状態を明らかにしつつある。これらの成果を定期的に地震調査委員会に報告し、国の地震発生長期評価に役立てた。</p> <p>非地震性すべりしか見られなかったプレート境界深部で、東北沖地震後に M7 クラスの地震が発生するようになったところを見出し、地震サイクルの理解が進んだ(Yoshida et al., 2022)。また、繰り返し地震の積算量の変化から定期的にスローイベントが発生していると考えられている岩手県沖プレート境界浅部での海底間音響測距観測データの解析を進め、少なくとも観測期間中には海溝まで達するすべりが無いことを示した。海底地震観測により、3.11 直後からの微動を捉え、余効すべりによる非地震性すべりの影響であることを見出した(Takahashi et al., 2022)。</p> <p>海外でも多くの研究機関が海底地殻変動観測取り組みようになり、その観測データの流通・共用のための統一的なデータ書式策定のための国際会合に定期的に参加し、取りまとめに貢献した。コロナ禍で中断していたトルコマルマラ海での海底地殻変動観測を再開し、極めて長期にわたる連続データの取得に成功した。</p> <p>「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第 2 次)」に複数の研究課題で参画するとともに、組織運営の立場でも貢献した。Springer の専門誌 PEPS で、東北沖地震 10 周年の特集号を企画し、多くの関連論文の出版を実現した。</p>			



分野名	陸域地震学・火山学研究分野	報告者氏名	遠田 晋次
分野目標			
<p>内陸地震の震源となる活断層の地形・地質調査、観測や震源解析による地震活動の解析、地震波・電磁気による地下の可視化、断層への歪みのシミュレーションなどを通じて、内陸大地震の危険度を評価する。また、火山噴火現象の解明を目指して、活火山の深部構造、火山活動と地球内部ダイナミクスの関係に関する研究を進める。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p><b>【陸域地震および関連の研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相模川上流域などにおいて、堆積段丘の発達および内陸部の地殻変動推定のための知見を得た。完新世の栗駒火山の水蒸気噴火史を復元した。2022 年 7 月に大崎市で発生した河川氾濫の災害調査を実施した。(高橋)</li> <li>南海トラフ地震臨時情報プロジェクトの成果をとりまとめ、組織の対応計画作成支援パッケージを公開。南海トラフ地震が連発する確率評価を論文として出版した。仙台市内谷埋め盛土の地盤沈下解明のため、仙台市内に GNSS 観測点を設置した。2023 年 2 月のトルコ南東部地震による地殻変動解析を行った。(福島)</li> <li>ニュージーランドで 2016 年に発生した Mw7.8 のカイコウラ地震について、臨時地震観測網のデータを用いてこの地震の震源域の応力場を求め、各断層のすべりやすさを評価した。その結果、応力場による各断層のすべりやすさが連動すべりを制御していたことを突き止めた。(岡田)</li> <li>東北沖地震の余効変動において、GNSS の時系列変動のみから、地盤変動の推移を予測し、地下の変形機構(粘弾性緩和もしくは余効すべり)を明らかにする関数フィッティングモデルを提唱した。(武藤)</li> <li>IODP 第 386 次研究航海で採取した日本海溝沿いでの古地震痕跡の試料について 10 か国以上の研究者と共同で分析を行った。その結果について、国際会議での発表や高 IF の国際誌への投稿を順次進めている。(石澤)</li> <li>新しい海底地震観測網 S-net で記録された高精度の震源位置と走時データを用いて東日本前弧域のモホ面と太平洋スラブの形状および 3 次元地震波速度構造を推定した (Zhao et al., 2022).(趙)</li> <li>UCL グループと共同研究を行い、イタリアの地震活動の時空間を再現するモデルを公表した。また、東北沖地震の余震活動について、最近 5 年間の活動は、震源断層の中心部で本震前よりも顕著に低く、それを取り巻くように高い状態が続いていることを明らかにした。(遠田)</li> </ul> <p><b>【火山に関する研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火山性地殻変動源推定の信頼性を向上させるため、これまで用いてきた半無限均質媒質中の変動源深度に各観測点の標高を加えるという簡便な地形補正法から、実際の地形の勾配に基づいて補正を行う方法を新たに導入するなど、ハザード予測精度の高度化を進めた。(三浦)</li> <li>蔵王山での浅部比抵抗構造を精緻化した。昨年得られた海拔下 1.5 km 付近のマグマだまりと思われる領域を確認した。比抵抗からメルト体積分率を計算すると草津白根山等他の火山よりは小さい見込みである。(市來)</li> <li>火山活動推移の把握と理解のために、火口近傍域での多項目観測を進めるとともに機械学習等を用いた解析手法の高度化を進めた。これらの成果は火山噴火予知連絡会等に随時共有を行うほか、気象庁における火山監視技術検討会等への情報提供を行った。(山本)</li> </ul>			

分野名	地震工学研究分野	報告者氏名	五十子 幸樹
分野目標			
<p>地域展開した地盤及び建物の強震観測網、振動実験や構造モニタリング技術に基づき、地域の地震・地盤条件を反映した耐震対策の推進、リアルタイムに得られる地震動や建物被害等の災害情報を用いた地震被害低減技術の開発、振動制御装置および直置き型構造物の開発、高性能振動実験法による地震工学研究の推進を目的とする。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>複素減衰と呼ばれる構造物減衰の数理モデルの長周期構造物制御における有効性に着目し、因果的物理近似モデルを作成しリアルタイムハイブリッド実験によるフィジビリティスタディを多面的に実施した。(五十子)</p> <p>仙台市および東北地方の地盤・建物強震観測を継続し、得られた記録を用いた地盤応答や建物のシステム同定に関する研究を行った。機械学習に関して、強震動スペクトル評価法、非線形・多入出力システムの建物応答の学習、早期地震警報への適用について研究を進めた。また、バングラデシュでの早期地震警報のフィジビリティスタディ及びモンゴルでの強震観測に関する国際協力を行った。(大野)</p> <p>非線形制御手法の Nonlinear Signal-Based Control を応用することで、直置き型構造物を積載した振動台実験やリアルタイムサブストラクチャ振動台実験において、振動台の変位・加速度共に、高性能な制御できることを実験的に示した。建物の加速度応答記録のみから、非線形構造物の時間変化する減衰・剛性を同定できるようにし、地震後の構造物被害状況をこれまで以上に簡便に評価できるようにした。(榎田)</p> <p>機械学習等によるデータ駆動型モデリングにおいて、計算モデルを研究対象の入力/出力データに自動的に適合させることで、対象が粘性減衰系か履歴減衰系か、あるいはその混合であるかに関わらず高精度かつ高計算効率でモデルを予測し、挙動を再現することを可能とした。制振・免震用のダンパーモデルの改善とその活用に係わる課題への対応を目標に、データ駆動型モデリングによるダンパー構成則の構築手法を開発した。(郭)</p> <p>以上の 2022 年度の研究成果は、当研究分野として合計で 19 編の審査付き論文として発表している。</p>			

分野名	計算安全工学研究分野	報告者氏名	寺田 賢二郎 森口 周二 野村 怜佳
分野目標			
<p>様々な災害時における物理的被害の予測や包含される物理現象のメカニズム解明を目的とした、精緻な数値モデルの構築、高精度な数値解析技術、次元削減・代理モデルの構築およびそれらを利用した確率論的リスク評価手法などの開発を行う。特に、現象の時間・空間的な広がりを有機的に結び付けるマルチスケール災害シミュレーションや逐次破壊を伴うマルチステージ災害シミュレーションの枠組みを構築する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>1. 逐次破壊を対象としたマルチステージ解析手法の開発: 構造物、地盤、斜面などを対象に、初期状態から破壊開始、進行といった段階的な挙動の変化を統一かつ一貫通貫に扱うことが可能なマルチステージ災害シミュレーション手法の開発に取り組んだ。本研究は東京大学および名城大学との共同研究の一環でもある。</p> <p>2. 地盤材料の大変形問題および透水問題を高精度に表現するための手法の開発: 土骨格と水の相互作用を考慮した上で降雨や地震に起因した地盤の大変形・破壊を初期状態から統一的に扱える構成則の開発及び解析手法の高度化に取り組み、斜面崩壊や堤防決壊などの問題への適用性を検討した。</p> <p>3. 広域斜面災害を対象とした数値解析手法の開発: 豪雨時の斜面災害と河川氾濫を同時に再現可能な解析手法を高度化し、令和元年東日本台風による宮城県丸森町および岩手県釜石市の山林火災現場の被害を検証対象として、解析手法の有用性を検証した。</p> <p>4. データサイエンスを援用した災害リスク評価の高度化: 津波リスクや地震による建物被害について、データサイエンス技術と災害シミュレーションを融合し、数値解析の結果を効率的に用いた即時被害予測や確率論的評価手法の構築・高度化に取り組んだ。本研究はワシントン大学の LeVeque 教授との共同研究の一環でもある。</p> <p>5. 災害対応と被害分析: 2022 年 7~8 月の東北地方の豪雨災害及び 11 月のチアンジュール地震(インドネシア)の調査と被害分析を行った。</p> <p>その他、Han 教授(Yonsei University)と共同で学生ワークショップを対面形式で開催した。</p>			

分野名	津波工学研究分野	報告者氏名	今村 文彦
分野目標			
<p>今年度の目標は引き続き次の通り 5 つである。1) 災害発生時対応も含めた国内外の津波ハザード研究の深化、2) 東日本大震災における宮城県自治体での死因の傾向分析、3) 世界 BOSAI フォーラムや世界津波の日などを通じた津波研究成果の国際的な発信、4) 関連の他分野・他大学との連携の強化、5) 地震津波研究(東京海上日動) 寄附部門との連携した実践的な防災学の展開</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災から得られた観測・被災データと教訓に基づく津波解析手法の向上と、地域スケールからグローバルスケールまで津波リスク評価手法の拡張、さらには津波防災・減災の総合的な津波工学研究の展開を目標としている。研究成果として; 1) 世界津波博物館会議で基調講演を行い、世界防災フォーラムにて多くの教員・学生によるセッション開催、発表が行われた。2022 年に発生したトンガ海底火山による津波について、津波発生及び養殖施設被害発生メカニズムの解明、JICA や気象庁などの検討会でもメンバーとして参加、立ち上げた科研費にも貢献をした。研究成果については HP や学術論文として発信できた。2) 東日本大震災における宮城県での焼死犠牲者を分析した結果、郵便番号 6 地区のみで確認され、他死因に比べ、局所的に発生する特徴が確認された。津波火災メカニズムとの関係から、焼死犠牲者が多数確認された地区は、いずれも斜面瓦礫集積型という特徴が確認された。瓦礫から発見された犠牲者を対象とした分析では、発見までの経過日数に着目したところ、屋外犠牲者に比べ、瓦礫犠牲者の方が、発見が遅れる傾向が定量的に示された。3) SATREPS (インドネシア) で沿岸でのレジリエント社会構築のための研究を実施している。UCL との共同研究はマッチングファンドの他に防災科研のプロジェクトも含めて活動を続けて、数編の国際共著論文を投稿している。4) 他機関との共同研究として、津波土砂移動シミュレーションの V&amp;V(清水建設技術研究所)、慶長奥州地震津波の堆積物調査と波源評価(原子力規制庁・東京大学・関西大学)、日本海沿岸の古津波履歴解明(新潟大学・佐渡ジオパーク)、内閣府 SIP「スーパー台風被害予測システムの開発」(国土技術研究センター・他)、JST 未来社会創造事業「デジタル防災コミュニティの探索」(富士通・川崎市・他)を実施した。5) 防災推進国民大会、仙台防災未来フォーラムでの共同企画により、企画セッション発表、展示の企画等を実施出来た。</p>			

分野名	災害ジオインフォマティクス研究分野	報告者氏名	越村 俊一
分野目標			
陸・海・空の多様なセンサを融合解析し、災害状況把握・被害状況・社会動態を明らかにすることで災害レジリエンスの向上に資することを目的とした「災害ジオインフォマティクス(災害空間情報科学)」研究分野を新たに設立し、先端数理・データ融合による新たな災害科学の創成に寄与する。			
2022 年度の分野活動報告			
<p>リアルタイムで実施するシミュレーション、多様なプラットフォーム(衛星, 航空機, 無人機, GNSS)によるセンサデータ(光学センサ, マイクロ波レーダー, レーザー)の統合解析と機械学習・データ駆動科学の応用により、浸水域, 建物被害, 地殻変動, 瓦礫分布等を高度に把握する災害ジオインフォマティクスの創成に取り組んでいる。以下が代表的な成果である。</p> <p>リアルタイム津波浸水被害予測システムは、その予測範囲を我が国太平洋岸全域と日本海北部沿岸に拡張し(2023年3月時点)、内閣府の総合防災情報システムの機能として稼働している。2022年3月の福島県沖地震で初めて実際の津波予測に成功し、研究開発・社会実装の両面で高い評価を得ている[<a href="#">日経</a>]。南海トラフの連続地震(割れ残り域の破壊)を想定し、666 ケースのシナリオ地震による津波浸水予測のデータベースを構築し[<a href="#">データ公開サーバ</a>]、割れ残り域に対する即時的浸水確率予測を可能にすることができた。断層破壊の不確実性については、マルコフ連鎖モンテカルロ法による新たな断層モデル推定法を考案、多様な断層破壊形態に対する浸水予測の信頼性向上を実現できた[<a href="#">EPS</a>]。2021年度から SATREPS のプロジェクトでペルーへの国際展開を開始した。</p> <p>災害時の衛星緊急観測の国際枠組みである Sentinel Asia の津波 WG の共同議長と、国際災害チャータのデータ解析ノードを担当しており、洪水や津波災害発生時の緊急観測データの解析を迅速に行い、それを公表することで世界の災害対応に貢献している。様々な機械学習法を適用した方法論の確立に取り組んだ。特に合成開口レーダーと標高データの統合解析から、洪水時の浸水深を直接計測できる手法の開発と実証に成功した[<a href="#">IEEE</a>]。これにより、浸水予測の検証やその後の被災地のモニタリングが可能になった。ドローンによる詳細被害把握手法と飛行経路の最適化問題にも取り組み、建物や施設 1 棟毎の効率的な調査法の提案ができた[<a href="#">Applied Sciences</a>]。2022年2月のトルコ・シリア地震での適用を通じて建物倒壊地図を公開し[<a href="#">Link</a>]、把握手法の実証、研究成果の発信と国際貢献を果たした。</p>			

分野名	気象・海洋・宇宙災害研究分野	報告者氏名	山崎 剛
分野目標			
<p>【気象・海洋災害】大気・海洋結合系における諸現象を解明し、科学研究の成果がハザード評価向上に円滑に繋がる研究を進める。</p> <p>【宇宙災害】宇宙環境変動の原因解明と宇宙災害発生の分析を行い、科学研究の成果が災害低減に円滑に繋がる研究を進める。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東地方に大雨や大雪をもたらす局地前線の数値気象予報モデルによる系統誤差の研究結果を JMSJ に公表した。インドネシアの降水日変化やフィリピンのメソ対流系に関する研究を進めている(山崎)。</li> <li>・東北地方に災害をもたらした線状降水帯の再現シミュレーションを行い、降水系の詳細な構造を明らかにする研究を行い、気象庁主催の研究会等で発表した(伊藤)。</li> <li>・西部太平洋における海洋熱波とその影響に関する、インドネシア・フィリピンとの国際共同研究を開始した。海洋熱波の発生・持続に影響し得る亜表層水温・塩分変動に関する研究成果を <i>heliyon</i> に公表した(須賀)。</li> <li>・黒潮大蛇行に伴い東海沖沿岸で発生する海洋熱波を同定し、その影響で関東・東海地方の夏季降水量が 20-50%増加することを気候シミュレーションから明らかにした(杉本)。</li> <li>・太陽の背面から地球に到来する太陽放射線について詳しく調べ、太陽磁場中性面に沿って、広い角度で伝搬する事を明らかにし、公表した(小原)</li> <li>・人類の宇宙活動の脅威となる太陽高エネルギー粒子発生関連電波の即時同定に寄与する、広帯域電波観測装置の開発を進めた(三澤)。</li> <li>・北米・北欧に独自に展開した低周波電波観測網と日本の科学衛星あらせを使用し、放射線帯の高エネルギー電子が地球大気に降り注ぎ中層大気を電離させる現象の解明を進めている(土屋)。</li> </ul>			

分野名	災害対応ロボティクス研究分野	報告者氏名	田所 諭
分野目標			
<p>東日本大震災はロボティクスが様々な形で活用された歴史上初めての大災害であった。ロボティクスに対する期待は、人間ではできないことを安全かつ効率的に行うこと、災害に対するリスクを低減すること、防災のコストを下げることである。本分野は、災害緊急対応、災害予防、災害復旧に役立つロボティクスの研究を推進する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>2022 年度には本分野では次の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 復興庁が計画する福島国際研究教育機構の先行研究を受託し、強風下等の困難環境においても有効に運用可能なドローンシステム、および、瓦礫灯の難作業現場における情報収集のためのロボットシステムに関する研究を実施した。</li> <li>2) THW が中心となった HORIZON2020/SICORP の CURSOR プログラムにおいて、瓦礫内を探索する小型ロボットの研究開発に取り組み、ロボット SMURF のハードウェアを完成させた。兵庫県、ギリシャ、ドイツにて、フィールド試験を実施し、ドローンから瓦礫上に投下して訓練用の被災建物内で要救助者の捜索ができる性能を実証し、高い評価を得た。</li> <li>3) ドローンが水平に離発着する新しい方式のドローンポート EAGLES Port について、福島ロボットテストフィールドの風洞棟で実証試験を行い、従来の垂直離着陸方式と比較して強風時の着陸性能が飛躍的に向上し、災害対応時に有効性が高いことを示した。</li> <li>4) 無線通信の安定性を高めるための位相計測技術を開発し、NICT との共同研究を実施した。</li> <li>5) 水噴射により浮上して移動し、建物内の火元まで移動できる索状ロボット Dragon Firefighter について、より複雑な環境で安定して飛行するための飛行制御に関する研究開発を行った。</li> </ol>			

## 2022 年度の部門活動報告

部門名	災害人文社会研究部門	報告者氏名	村尾 修
部門目標			
人の心と行動・建物・社会基盤を含む国内外の地域社会を研究対象に、過去の災害の教訓を未来に伝え、研究を通じて各地の防災と復興に資することを目指す。21 世紀の社会と環境の変化により絶えず様相を変えていく災害に対応した被害軽減とレジリエントな地域社会を構築するための具体的な方策提言のための研究に取り組んでいる。			
2022 年度の部門活動報告			
<p><b>「災害文化アーカイブ研究分野」:</b>アーカイブ関係では、東日本大震災アーカイブシンポジウムの実施とともに、岩手県、宮古市、仙台市などの支援を実施した。歴史関係では、1616 年仙台地震の研究や文化遺産防災マップの構築を進めるとともに、文理融合シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開VI」を開催した。</p> <p><b>「歴史文化遺産保全学分野」:</b>国際文化財保存修復研究センター (ICCRUM) による災害時の文化遺産保全所々ガイドラインの翻訳公開および日本での関連シンポジウムを開催。医学系研究者との協働による歴史災害としての感染症研究の推進。歴史災害記録も含む旧仙台藩領の商家日誌約 32 万文字の解読と出版・Web 公開。</p> <p><b>「認知科学研究分野」:</b>「災害を生きる力」研究について成果を国際学術誌や学会等で報告し、質問紙の他言語への翻訳・妥当性評価、コロナ禍における認識・行動との関係分析を進めた。学校における震災後の諸問題や防災教育に関する研究、および震災アーカイブの検索システムの改良に関する研究を進めた。</p> <p><b>「国際防災戦略研究分野」:</b>各地域の特性に適合したリスク管理や防災戦略について、成果を国際学術誌や学会等で報告した。Arc-DR3 のコアメンバーとして、自然災害との共存を考慮した都市デザインの展示会 (東京・ロサンゼルス) に携わった。環太平洋大学協会 (APRU) のマルチハザードプログラムを主導した。</p> <p><b>「レジリエンス計画研究分野」:</b>沿岸地域のハザードリスクと生活を共存させる空間形成研究について、国際学会での基調講演、報告、国内外学術誌への論文掲載を行った。基盤研究(A)によるレジリエンスな幹線交通ネットワークの共同研究、防災科学技術研究所とのレジリエンスの定量化に関する共同研究を開始した。</p> <p><b>「空間デザイン戦略研究分野」:</b>住宅の地域性、河川氾濫と集落立地、災害危険区域指定や伝承施設等に関する研究を実施した。建築学会副会長をはじめ、学会、地方自治体で多くの委員を務め、参画・指導した作品が造園学会賞等を受賞、国際活動としてバングラディッシュ、アメリカ、中国等で講義、演習を実施した。</p>			

## 2022 年度の方野活動報告

分野名	災害文化アーカイブ研究分野	報告者氏名	柴山 明寛
分野目標			
本分野では、過去の様々な自然災害の貴重な記録 (映像, 写真, 証言など) の収集・整理・保存するとともに、災害文化の確立及び自然災害デジタルアーカイブの構築方法論の確立など行うとともに、災害記録の体系化や自動分類方法の確立、過去の災害の解明、デジタルアーカイブ同士の連携方法などの基礎研究を実施する。			
2022 年度の方野活動報告			
<p>本年度の方野活動は、①アーカイブの基礎研究、②歴史研究の基礎研究などを実施した。</p> <p>①アーカイブの基礎研究として、近年の災害のデータ整理、保存を実施した。国内の自然災害デジタルアーカイブ (熊本大、岐阜大、岩手県、宮城県など) と連携及びハーバード大学ライシャワー日本研究所のメタデータ連携を継続的に実施した。社会連携・地域貢献については、東日本大震災アーカイブシンポジウムを 2023 年 1 月 8 日に国立国会図書館との共同で実施し、ハイブリットで開催を行い、約 250 人の参加があった。また、いわて震災津波アーカイブのリニューアル、宮古市災害資料アーカイブ「みやこあす」などの構築支援。震災遺構仙台市立荒浜小学校の展示リニューアルの監修などを実施した。</p> <p>②歴史研究の基礎研究では、1616 年仙台地震について歴史地震研究会大槻大会にて報告、1611 年慶長奥州地震津波について第一回日本災害・防災学会と地震史料シンポジウムII「災害史料が拓く歴史学の新たな方法」(於東京大学) において講演した。疫病文化について朝鮮大学校災難人文学研究事業団国際学術大会における招待講演をおこなったほか、災害時の文化遺産保全における文化遺産防災マップを岩手県立博物館と連携してデータを整備するとともに、その作成と活用方法について北海道大学、博物館研修会 (於山形)、岩手県立博物館において講演をおこなった。2023 年1月に災害研と奈良文化財研究所、文化財防災センターによる文化遺産の保存・活用や文理融合研究に向けた研究連携協定を締結、2 月 24 日に協定締結キックオフとしてシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開VI—文化遺産を守り伝える新たな技術—」を開催、対面・オンラインあわせて 50 名の参加を得た。</p>			

分野名	歴史文化遺産保全学分野	報告者氏名	佐藤 大介・川内 淳史
分野目標			
<p>・現代日本の公的枠組みでは保護が十分に行き届いていない、古文書・文献記録を中心とする地域の歴史資料を、市民協働を前提として救済・保全する。また、その過程における史実・記憶の再生および共有や、社会関係の醸成を通じて、災害に起因する困難から個人や共同体を保護する社会づくりに寄与する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>・2/12 に国際シンポジウム「文化遺産とレジリエンス—災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ—」を開催し、文化財保存修復国際センター (ICCROM) 上級幹部アパーナ・タンドン氏を招聘し、本分野が進める災害からの歴史文化資料の救済・保全研究活動を、近年の国際的潮流およびレジリエンスの考え方で整理することで議論を深めた。</p> <p>・分野教員の川内淳史准教授と、所内の医学系研究者との協働による、スペイン風邪など歴史災害としての感染症に関する研究会を継続して実施している。成果の一部は、東北大学東北アジア研究センター主催のシンポジウム「近代日本の感染症と新型コロナ」(2/18 オンライン開催)などで発表した。</p> <p>・磐井郡藤沢町(現・岩手県一関市)の商家が残した約 2100 頁の記録「丸吉皆川家日誌」のうち、嘉永 6 年(1853)から明治 6 年(1873)の 900 頁、36 万文字を、市民とともに解説したものを、分野教員の佐藤大介の科研費成果の一部として出版物および東北大学学術リポジトリにて公開した。</p> <p>・大学共同利用機関法人人間文化研究機構および神戸大学との連携協定にもとづく「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の第二期事業が開始され、引き続き災害研・文学研究科・学術資源研究公開センターからなる東北大学拠点の事務局を担当し、同事業を推進した。</p> <p>・NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワークとの協働で、市民参加による東日本大震災および 2019 年台風 19 号、2021 年および 2022 年福島県沖地震での被災史料の救済保全活動を継続している。</p> <p>・仙台圏の大学における史料整理実習などを受け入れ、災害時の歴史資料保全の技術、社会的意義および活動そのものを通じた東日本大震災の経験の共有に務めた。</p>			

分野名	認知科学研究分野	報告者氏名	邑本 俊亮
分野目標			
<p>本研究分野では、複雑な物理・社会的環境における人間の知覚・判断・行動の認知過程について、様々な心理学・認知科学・脳科学的手法を用いた基礎研究を行うとともに、その成果をより人間の認知特性に適した防災・減災・復興のシステム設計に反映させる応用研究を行う。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>東日本大震災の被災者を対象とした調査から開発した「災害を生きる力」8因子(人をまとめる力、問題に対応する力、人を思いやる力、信念を貫く力、気持ちを整える力、きちんと生活する力、人生の意味の自覚、生活を充実させる力)(Sugiura et al., 2015) について、基礎認知科学研究と質問紙の災害教育応用が進んでいる。本年度は、査読付き論文が国際学術誌に 6 報掲載されたほか、学会等での報告も国際 3 件・国内 3 件行なった。また学術論文 2 報が国際誌で査読中、3 報が投稿準備中である。このほか、国際展開として質問紙の7カ国語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・ミャンマー語)翻訳・妥当性評価プロジェクトやコロナ禍における認識・行動との関係分析も進行している。</p> <p>学校における震災後の諸問題や防災教育に関連する研究を推進した。具体的には、震災後に学校において教員から子どもに対して、また子ども同士の間でどのような配慮・ケアがなされてきたのかについての調査、子どもたちの震災に関する記憶や不安感に関する調査、被災地(宮城県、岩手県)および未災地(広島県)での防災共創授業の実施と効果検証、被災三県沿岸地域の学校における防災教育の実態調査に取り組み、学会・研究会発表(国際 1 件、国内 2 件)、論文化(1 報)を行った。</p> <p>今後の利活用が探索されている「震災アーカイブ」に関する研究を、自然言語処理学(広義に人工知能学)と認知科学、震災アーカイブ学を専門とする研究者と共同で行った。具体的には、震災アーカイブの検索システムの改良に関する研究と、震災アーカイブや関連刺激が有する学習効果とメカニズムの解明に関する研究に取り組んでいる(学会・研究会発表、国際 1 件、国内 1 件)。現在、自治体との共同研究の計画を進めている。</p>			

分野名	国際防災戦略研究分野	報告者氏名	村尾 修
分野目標			
都市の防災と復興に関する国際的な戦略策定を目指し、学際的な視点に立ち、防災および復興戦略の観点から各地域の特性を分析し、事前、事後の両面から現状の問題点と課題を明らかにすることを目的としている。これを踏まえて、各地域の自然・経済・社会状況の特性に適合したリスク管理・防災・復興戦略および国際的協力体制のあり方について研究を進めている。			
2022年度の分野活動報告			
<p>【研究活動】①震災データベース「災害対応の都市・建築空間」を拡充、国際学会において紹介した。②地理情報に基づく避難の必要性と資源を特定し市民の観点から防災に対する政策の提言等、英語査読論文を2編発表した。また、日本語査読論文を2編発表した。③書籍「Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: Considerations for a Post-COVID-19 Pandemic Analysis」をAPRU Global Health Programと連携してSpringerより出版。その中で、論文(Book chapter)3編を担当。④“A multi-country comparative analysis of the impact of COVID-19 and natural hazards in India, Japan, the Philippines, and the USA”を国際ジャーナルで発表(IJDRR)。⑤JICA 草の根事業「災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」をマレーシアで実施。⑥APRU Multi-Hazards Webinarを4回実施、450名以上が参加。⑦NEEDS2022にてチューリッヒ工科大学シンガポールレジリエンスセンターとセッションを共催・発表。⑧APRU Multi-Hazards Workshop“Localizing DRR strategies in Asia and the Pacific”をハワイ大学と共催・発表。⑨APRU Multi-Hazards Symposiumをチュラロンコン大学と企画・運営、150名以上が参加。【社会活動】①東日本大震災連続ワークショップを企画・運営した。②東京都墨田区内の保育園(3ヶ所)において、白鬚東地区自治会連合会およびNPO法人地域防災推進機構と共同防災訓練を実施した。③災害研と三者協定を結んでいる川崎市、VANと連携し、新しい避難所モデルの開発に取り組んだ。④環境省事業の一環として、レジリエントな社会デザインの提案に携わった。⑤「防災未来フォーラム」にて、仙台市と共に「仙台防災枠組講座」を開催。⑥国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」のAssociate Editorを務めた。⑦ナイジェリア、ザンビア、ソマリアの政府職員を対象としたJICA研修(3回)にて東日本大震災の復興に関する講義を行った。⑧JSPS主催の「ノーベルプライズダイアログ」にパネリストとして参加。【国際交流】①インドネシアのガジャ・マダ大学において講義を行うとともに住宅再建について議論した。また、チャチャップにおいて津波リスクが高い地域での津波避難ビルの状況を調査した。②国連アジア太平洋防災閣僚会議にて、科学技術会合に出席・発表。③国連アジア太平洋防災科学技術会議セッションを企画・運営・発表。</p>			

分野名	レジリエンス計画研究分野	報告者氏名	奥村 誠
分野目標			
自然災害にシなやかに対応し、社会的、経済的問題を解決して立ち直るレジリエントな地域の実現策の研究を行う。(1)国内外の災害影響とその回復過程の量的、質的な調査・分析、(2)復興計画の思想、内容と行政・住民のガバナンスの在り方、(3)被害抑制と支援効率化のための土地利用形態とインフラ配置、などを国内外を対象に研究する。			
2022年度の分野活動報告			
<p>(1) 科研費基盤研究(A)として「レジリエント幹線交通ネットワーク計画のための数理最適化アプローチ」を新たに取得し、需要側の変動への対応力や災害に対する迂回性能、及び回復力を持つようなネットワークの計画・設計方法に関する研究を進めて、関連する複数の論文が査読を通過した。</p> <p>(2) 沿岸地域におけるハザードリスクと住民・生活の共存に関する空間形成の研究として、インドネシア国中部スラウェシ、フィリピンの復興事例、明治・昭和三陸津波被災地の復興過程の研究を継続した。これらの成果について、国内外の学術誌論文のほか国際学会での基調講演や報告を行った。</p> <p>(3) 災害レジリエンス共創センターの災害キュレーション分野の一つの研究テーマとして、人流データに基づく災害時の社会経済活動の低下と回復過程の研究を推進している。さらに防災科研との共同研究プロジェクト「災害レジリエンスの定量化に関する研究」への展開を進めている。</p> <p>(4) 我が国の防災のあり方について、①世銀実施の「途上国の開発における防災の主流化のためのパートナーシップの中期レビュー」へのアドバイス、②GFDRR global report on Disaster Recovery Experiences and Lessons Learned from the last decade 2010-2020の執筆などを行っている。その他、宮城県、仙台市、亶理町における委員会委員活動の中で、防災・減災の視点を反映させるように心がけた。</p>			

分野名	空間デザイン戦略研究分野	報告者氏名	岩田 司
分野目標			
<p>災害時の再生、復興のための住まい・まちづくりに係わるデザイン手法に関する研究を行うとともに、人口減少・少子超高齢社会等の多様な社会の変革や、災害にも自ら立ち向かい、自然や伝統文化と調和し、かつ地域の資源(人・物・文化)を活用した地域自身で再生可能なレジリエントでサステナブルな住まい・まちづくりに対応した空間デザイン手法に関する研究を実践的に行っています。</p>			
2022 年度の方野活動報告			
<p><b>【研究活動】</b>①全国の公営住宅や地場産材の活用手法等の解析からの我が国の住宅の地域性の類型化(岩田)、②コロナウィルスの地域間の伝播に関する研究(岩田)、③近代化以前の集落立地について河川氾濫確率年の観点から検証(平野)、④災害危険区域指定における都市計画的要素と防災的要素の調整実態とその課題に関する研究(姥浦)、⑤東日本大震災からの復興過程における仮設情報施設の事業プロセスに関する研究(小野田)、福島県と宮城県における伝承施設の比較研究(小野田)等を実施した。</p> <p><b>【社会活動】</b>①学会:日本建築学会副会長(小野田)、日本土木学会・日本建築学会合同タスクフォース委員(小野田)、②国土交通省:「事前復興まちづくり計画策定ガイドライン検討委員会」委員(姥浦)、③地方自治体:石巻市「旧北上川堤防利活用協議会」委員(平野)、釜石市震災誌編纂委員会委員(小野田)、釜石市震災誌編纂委員会委員(小野田)、仙台市青葉山交流広場複合施設(音楽ホール及び震災メモリアル拠点)懇話会委員(本江)、女川町「復興事業評価会議」委員(姥浦)、同アドバイザー(平野)④協定:日本建築家協会との連携と協力に関する協定書を締結し、JIA 災害対策会議・災害研共催シンポジウムを開催した(岩田)、⑤受賞:「高田松原津波復興祈念公園」で造園学会賞(計画・デザインに参画・平野)、第 26 回 JIA 東北建築学生賞最優秀賞(学部 3 年設計演習:石巻市における再開発・岩田、本江)を受賞した。</p> <p><b>【国際関連】</b>①「ダッカにおける耐震補強戦略のあり方」に関する講演(SATREPS・ダッカ・姥浦)、②UCLA 大学院都市デザイン建築学科客員教授として、東日本大震災が建築論に与えた影響についての講義と演習(Los Angeles・アメリカ合衆国・小野田)、③双葉町の復興計画についての中国華中科技大学との日中国際ワークショップ(岩田)を実施した。</p>			



## 2022 年度の部門活動報告

部門名	災害医学研究部門	報告者氏名	栗山 進一
部門目標			
<p>部門内外における個々の研究のより積極的な連携を通して相乗効果を生み出すことができるよう、部門会議等を積極的に活用してより連携を深化させる。災害前に行うこと、発災急性期に行うこと、発災後復興期に行うことを明らかにしていく。知見が得られれば速やかにこれを情報発信し、政策提言を行う。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。</p>			
2021 年度の部門活動報告			
<p>東日本大震災の曝露と不眠と関連する遺伝子 LOC101927123 を同定し、この遺伝子が、重要な役割を果たしている可能性を明らかにした。</p> <p>診療記録南三陸町 10464 件、気仙沼市の約 5700 件、石巻圏の約 19000 件の災害診療記録をデータベース化しデータ入力作業を継続し、被災状況が異なる 3 地域での医療ニーズ、医療支援の在り方に関する研究を行った。</p> <p>厚労省労災疾病臨床研究(眼の水晶体の放射線防護に資する機材開発推進研究:6 千万円/3 年)を実施し、規制庁原子力規制人材育成事業(実践的な課題解決能力を持つ高度放射線防護人材育成研究:7 千万円/5 年)を実施した。</p> <p>東日本大震災に被災した宮城県七ヶ浜町住民を対象とする 10 回に渡るメンタルヘルスに関する年次健康調査のデータを解析し適宜論文報告した。</p> <p>ストレスホルモンやその関連因子(性ホルモンなど)が婦人科がんのホルモン産生・代謝や生命予後と関わることを明らかにとする研究を続行し、その成果を国際英文誌などで発表した。</p> <p>感染症共生システムデザイン学際研究拠点に参画し、COVID-19 パンデミックにおける宮城県の保健医療調整本部で活動した。</p> <p>昨年に引き続き、パンデミック対応として、大学本部新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案した。</p> <p>人の行動を網羅的に AI モデリングする基礎技術の特許出願(特願 2022-074989)した。診察室での会話を SOAP 形式に変換する技術と融合し実装した PHR のモック開発を終えた。</p>			

## 2022 年度の方野活動報告

分野名	災害医療国際協力学分野	報告者氏名	江川 新一
分野目標			
<p>災害に強い医療供給体制を構築することをミッションとし、災害時の保健医療システムの破たん、それに備える病院 BCP・受援力のあり方、医療ニーズの質的量的変化に対する備え、保健医療コーディネーション・意思決定メカニズムを研究する。先端技術を活用しながら仙台防災枠組の保健医療面での実現をめざし、人々のこころとからだの健康を守る実践的防災学の一部として災害保健医療の教育を行う。</p>			
2022 年度の方野活動報告			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診療記録南三陸町 10464 件、気仙沼市の約 5700 件、石巻圏の約 19000 件の災害診療記録を匿名データベース化しデータ入力作業を継続し、被災状況が異なる 3 地域での医療ニーズ、医療支援の在り方に関する研究を行った。南三陸町で在宅避難で医療介入が遅れることを論文化した。</li> <li>● コンダクタ型災害保健医療人材育成大学院プログラムに中核的に支援し、多くの講義・講習会を災害科学において開催した。防災科研とのマッチングファンドで異分野の高度職業人育成に関する研究を開始した。</li> <li>● WHO の HEDRM コアメンバーとして健康危機・災害リスク管理の研究ガイドラインの日本語翻訳監修と国内普及事業を実施した。WHO の研究助成による国際共同研究で災害保健医療人材育成について Delphi 法による専門家コンセンサスを形成し政策提言につなげるよう論文化した(Hung IJERPH 2022)。</li> <li>● ASEAN の災害医療体制を標準化する ARCH プロジェクトにアドバイザーとして参加し、ARCH プロジェクトの論文化を推進した。ASEAN Academic Network のアドバイザーに就任した。</li> <li>● 感染症共生システムデザイン学際研究拠点に参画し、COVID-19 パンデミックにおける宮城県の保健医療調整本部で活動した。</li> <li>● 厚生労働省の病院事業継続計画(BCP)の班研究に参加するとともに、東北大学病院の BCP 委員会の副委員長、委員として BCM(リスク抽出と改善)を行い、新型コロナウイルス感染症に対する改訂も含めて BCP 第 4 版への改訂作業を行い、BCP 講演会を実施した。</li> <li>● 東北大学防災 UPDATES においてエフエム仙台でのラジオ講演を 2 回行った。公衆衛生学専攻ヒューマンセキュリティコース、国際共同大学院 GP-RSS、卓越大学院 SyDE の運営委員・授業提供を行った。</li> </ul>			

分野名	災害医療情報学分野	報告者氏名	藤井 進
分野目標			
<p>災害対応に資する PHR の開発と社会実装、災害医療における DX 化、並びに次世代型の避難のあり方研究の推進。また SNS 分析など先進的研究を他の講座と連携し推進する。また大学病院におけるシステムの運用や BCP 対応も実務を通し進める。医療情報利活用環境、並びに地域連携システムの今後の進展に尽力する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>人の行動を網羅的に AI モデリングする基礎技術の特許出願(特願 2022-074989)した。診察室での会話を SOAP 形式に変換する技術と融合し実装した PHR のモック開発を終えた。本学スタートアップ事業支援部門と社会実装に向けて支援を受けている。また SNS 分析機能を用いて、ウクライナにおける医療需要とメンタルヘルス分析を実施し、論文 (Real-Time Prediction of Medical Demand and Mental Health Status in Ukraine under Russian Invasion Using Tweet Analysis:TJEM)発表や IRIDES 広報室と協力し、大学本部からの支援を受けてプレスリリース(NHK からは国際報道がされた)を行った。</p> <p>全国協会けんぽの外部有識者として、全国のレセプト・健診データから、医療費分析を通じた地域医療の課題を調査する研究を開始(500 万×3 年)した。平時から医療の社会課題を解決することは次世代型避難のあり方にも重要であり、その基礎調査ともなる。なお次世代型避難のあり方は NTT とのビジョン共有型研究(600 万+900 万×2 年:2 年目)、PHR 開発は三菱 HC キャピタルとの共同研究(2500 万、3 年目)を実施した。こうした取り組みは世界トップレベル研究・共創センターの実績においても重要なものとなっている。</p> <p>大学病院では BCP 事務局と BCP 委員会メンバーとして実務対応、MITC では災害対応関係を含めて副センター長として対応している。医療情報の利活用では「医療情報利活用委員会」を設置し、委員長として次世代医療基盤法に基づく匿名加工や院内仮名加工を開始させた。地域連携システムは災害対応という視点からコンセプトモデルを立案し、病院や行政に意見を述べた。次世代型避難のあり方と連携できるよう進めている。</p>			

分野名	災害放射線医学分野	報告者氏名	千田 浩一
分野目標			
<p>被曝測定防護に関する医学的研究(特に水晶体被曝研究)、福島原発事故関連の生物影響調査と線量計測法、放射線に対する理解の普及、災害時等における画像診断システム開発等々を行う。当該領域での教育および研究者育成を行い、さらに分野横断的な共同研究を通じて、新しい技術を開発し世界へ情報を発信し成果を社会に還元する。千田兼担の大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同保健学科の研究・教育(人材育成)を推進する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p><b>研究等:</b>厚労省労災疾病臨床研究(眼の水晶体の放射線防護に資する機材開発推進研究:6 千万円/3 年)を実施(成果はプレスリリース 2022 年 8 月 25 日「画像下治療(IVR)術者用の新しい放射線防護具を開発:放射線白内障等の発生リスク低減へ)。規制庁原子力規制人材育成事業(実践的な課題解決能力を持つ高度放射線防護人材育成研究:7 千万円/5 年)を実施。科研費「基盤 C・若手など」を多数実施。査読付き論文(英文・和文)が多数掲載。災害研共同研究助成(レジリエンス共創研究)を 4 件実施(産業医大、放医研、産総研、弘前大)。関連企業との産学共同研究を積極的に実施。福島原発事故に関連する被ばく影響事業を 2 件受託(環境省:2 千万円/3 年、IAEA)し、さらに放射線災害による生物影響の解明に必要な資試料アーカイブの整備と影響解析や、環境トリチウムの生物影響解析の共同研究を進めた。<b>受賞:</b>日本放射線技術学会「学術賞」、日本放射線安全管理学会「研究奨励賞」など。<b>教育等:</b>医学部通年講義、学生通年実験、さらに他学科分担講義や全学教育での集中講義等を多数担当し、加えて保健学専攻大学院通年講義(含む医学物理士育成)、その他集中講義等を多数担当、院生 19 名(博士課程 8 名、修士課程 11 名)、研究生 1 名、学部生(卒業研究)が 5 名在籍し研究指導実施(以上は人材養成の基盤)。主査として博士 1 名修士 6 名と学士 5 名の学位担当(副査も多数担当)。学部学生等の就職進路指導担当教員としてキャリア支援を精力的に実施。指導する大学院生が計測自動制御学会 SICE 優秀学生賞を受賞。<b>特許:</b>特許出願・公開等(計 2 件)。<b>社会活動等:</b>放射線障害防止法や医療法等の改正等へ向け活動継続(厚労省検討会等での意見具申等)。仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)。JST 研究成果最適展開支援専門委員。JST マッチングプランナー専門委員。放射線教育や原子力災害対策などのための多数の教育および講演活動。宮城県 DMAT 拠点本部活動を実施。宮城県コロナ対策関連(療養ホテル X 線撮影など)の社会貢献を実施。</p>			

分野名	災害精神医学分野	報告者氏名	富田 博秋
分野目標			
<p>(1) 災害が及ぼす心理社会的影響に関する情報を包括的に集積・分析することで、影響からの回復を効果的に促進するための情報の抽出を行うこと</p> <p>(2) 心の健康の観点から災害に有効に備えるための知見を集積・抽出すること</p> <p>(3) 被災地域の課題となるうつ病、心的外傷後ストレス障害等に対するより有効な診療技術の開発を行うこと</p>			
2022年度の分野活動報告			
<p>(1) 東日本大震災に被災した宮城県七ヶ浜町住民を対象とする 10 回に渡るメンタルヘルスに関する年次健康調査のデータを解析し適宜論文報告し、10 年間の知見をメンタルヘルスの長期予後の観点で取りまとめ総説として報告した。</p> <p>(2) 福島第一原子力発電所事故による避難指示により県内外の病院に移送された約 800 名の精神科入院患者の帰還状況の実態と患者の帰還を妨げている要因について調査・分析を行い、今後の複合災害に備え災害弱者の避難の最適化を検討し適宜論文報告した。コロナ禍におけるメンタルヘルス対策として、災害感染症学分野、その他学内関連部局との共同で東北大学全学学生を対象としたコロナ禍のメンタルヘルス実態調査 1,2 回の結果をまとめて論文報告し、3 回目の調査を実施した。また、災害医療情報学分野との共同でロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析の結果について論文化し、プレスリリース、記者説明会を行って国内外に広く発信した。また、ウクライナの医学研究者及び実務担当者と共にメンタルヘルスニーズの予備的調査を行った。(3) ToMMo、医学系研究科、病院と連携したバイオセンシングとスマートフォンを用いた妊産婦のメンタルヘルスマonitoring研究、九州大学工学部、寺田研との共同でバーチャル・リアリティ技術と自律神経計測技術を用いた心身の反応を勘案した津波からの避難に関する研究、防災科研、越村研との共同研究で被災情報から被災コミュニティのメンタルヘルスニーズを予測する研究、NTT、災害医療情報学分野と共同で防災行動促進・次世代避難所構築に資する介入モデルの研究、杉浦研との共同で被災住民における生きる力とメンタルヘルス指標との関連の解析、災害公衆衛生学分野、他関連研究室との共同で、ToMMo コホートの被災に関する要因、環境要因、ゲノム要因の心的外傷後ストレス反応罹患リスクへの影響の解析、ストレス脆弱性の生物学的基盤研究のためのブレインバンク整備及び死後脳研究をそれぞれ遂行し適宜論文報告した。</p>			

分野名	災害産婦人科学分野	報告者氏名	伊藤 潔
分野目標			
<p>災害産婦人科学分野は、災害科学として、産婦人科疾患を災害の視点から捉え直すことを目指す分野である。甚大な災害が、婦人科がん検診体制を中心とした保健医療体制に及ぼす影響、婦人科特有の疾患に及ぼす影響を、多面的かつ長期的に解析・検討し、災害地の女性の健康をを図ることを第一の目的に、大災害が母子に及ぼす影響を分析し、今後に対応できる国際的基準を確立することを第二の目的としている。</p>			
2022年度の分野活動報告			
<p><b>1.震災時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析</b>      ストレスホルモンやその関連因子(性ホルモンなど)が婦人科がんのホルモン産生・代謝や生命予後と関わることを明らかにする研究を続行し、その成果を国際英文誌(Pathology Research and Practice.)などで発表した。</p> <p><b>2. COVID-19を含む災害が婦人科がん検診体制に及ぼす影響の解析</b>      COVID-19の感染拡大が、宮城県や日本での子宮がん検診の受診率にどう影響したか、また感染下にあつてどのような形で検診体制を継続するか、さらに長期的な検診受診率の低下ががんの早期発見にどう影響しつつあるかにつき、検討を行っている。この成果は、第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会で、会長講演(災害を、がん検診・細胞診から考える)として発表した。</p> <p><b>3. COVID-19に関わる研究解析</b>      スペイン風邪など過去のパンデミックと COVID-19 との比較検討を、歴史学・医学の連携(パンデミック文理連携研究会)で行っている。また、COVID-19 の感染長期化が青少年に与える精神的影響などにつき、国際英文誌に 2 本(Journal of Disaster Research.他)発表した。</p> <p><b>4.社会および教育活動</b>      災害後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築すべく、宮城県や仙台市医師会を含めた多くの検診関連団体の委員会で役職を務め、積極的に活動している。宮城県対がん協会細胞診センター長(兼任)および、宮城県生活習慣病検診管理指導協議会子宮がん部会委員として、県全体のがん検診政策に関与している。また 2022 年 11 月開催の日本臨床細胞学会秋期大会(開催地:仙台、参加登録者約 6000 人)では会長を務め、「細胞診と学際」のテーマで、全国の多彩な研究者・医療従事者に、災害とがん検診の関わりの研究を含めた学際コミュニケーションの機会を提供した。</p>			

分野名	災害公衆衛生学分野	報告者氏名	栗山 進一
分野目標			
<p>研究活動においては、特に被災を受けた方々のうち、メンタル面の不調などを訴える方の特性を同定する。東北メディカル・メガバンク計画の大規模疫学調査(三世代コホート調査)データを用い、ゲノムデータを含め大規模疫学調査の手法によって大規模災害が中長期的健康に与える影響をより明らかにしていく。知見が得られれば速やかにこれを情報発信する。教育及び学外の社会活動においては、学部から大学院まで幅広く教育を行い、自治体等での講演を積極的に展開する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>2022 年度の研究活動においては、東日本大震災の曝露と不眠と関連する遺伝子 <i>LOC101927123</i> を同定し、この遺伝子の特性を十分に検討のうえ、その妥当性について検討した。その結果、<i>LOC101927123</i> 遺伝子については、まだその機能がよくわかっていないものの、生物の神経系において重要な役割を果たしている可能性が明らかとなった。教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス」、「Topics and Discussions (Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)」、「社会医学」などの講義を行い、災害研が有する「災害統計グローバルセンター」、「みちのく震録伝」、といった統計データ、自然言語データ、画像データに加え、種々の大規模コホートデータを災害研に集積し、「災害データバンク」を創設する準備を進めた。</p>			

分野名	災害感染症学分野	報告者氏名	児玉 栄一
分野目標			
<p>新型コロナウイルス・パンデミックの対応や収束に向けた学内外での感染予防対策の提案や啓発・教育活動、ワクチン接種支援、メンタルヘルス支援体制を整える。研究面では、企業や他研究施設との連携、多分野学際融合に重点を置き研究費の獲得を目指すと共に、感染症対策として必須である新規治療薬や診断ツールの開発、産学連携を行う。大学院生に加え、学部卒業研究指導を行う。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p><b>災害対応:</b> 昨年に引き続き、パンデミック対応として、大学本部新型コロナウイルス対策班に加わり、全学レベルで流行状況に応じた感染対策について助言、提案した。具体的には、各部局で行われる感染対策のモニタリング体制の導入・維持やコロナウイルスに関する知識の提供、課外活動を含めた学生への感染対策教育を行った。大学病院における感染対策 BCP の運用、ワクチン接種などに加え、東北メディカル・メガバンク事業での感染対策を行った。<b>研究:</b> コロナ対策を含む AMED 研究開発課題(代表 2 件、分担 2 件)、AMED-CREST、科学研究費助成事業で 2 件(基盤 C・挑戦的研究・萌芽)の研究資金を得ている。また、他学部や他施設と共同で実施した治療薬や検査法の開発研究で高い成果(<i>J Virol</i>, <i>J Clin Virol</i>, <i>Commun Biol</i>, <i>Nat. Commun</i> など)を挙げた。コロナ禍でのメンタルヘルス調査研究(<i>Tohoku J Exp Med</i>, <i>Front Psychiatry</i>)にも携わった。これまで通り、東日本大震災の影響の調査研究(東北メディカル・メガバンク機構と共同研究)、避難所でもアウトブレイクで問題となるアデノウイルスの評価法(企業と共同研究・<i>Virol</i> に掲載)、薬剤耐性菌の解析(国立国際医療研究センターと共同研究)、新規抗菌薬標的の探索(医工学研究科や高輝度光科学研究センター:SPring-8 と共同研究)などを展開し、災害にかかわる感染症研究を行った。<b>社会貢献:</b> 昨年に引き続き、基本的な感染予防対策を普及するため「感染対策 ABC」を掲げ、報道メディア、ポスターや E-learning による啓発を行った(40 件)。行政や企業、高等学校で講演会を行い感染症対策に対する基礎教育を実施した。<b>教育:</b> 大学院生博士課程 16 名(うち連携講座 11 名)、修士 1 名、卒研究生 1 名、その他学位指導・審査などを行った。医学部(医学科・保健学科)、歯学部などの学生講義、大学院講義などに加えて、全学教育にかかわる災害感染対策などの教育にかかわった。</p>			

分野名	災害口腔科学分野	報告者氏名	小坂 健
分野目標			
<p>1) COVID-19 対応を専門家として関与する</p> <p>2) 歯からの放射線被ばくの推定の研究を継続する</p> <p>3) 地域包括ケアシステムによる防災体制について研究を進めると共に提言する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>1) COVID-19 対応として、厚労省クラスター対策班、東京 iCDC 及び宮城県庁のアドバイザーとしてクラスターの解析や政策の提言などに関与した。情報の活用についての論文発表  <b>Information Usage and Compliance with Preventive Behaviors for COVID-19: A Longitudinal Study with Data from the JACSIS 2020/JASTIS 2021.Healthcare (Basel). 2022 Mar 13;10(3):521. doi: 10.3390/healthcare10030521.</b>  これまでの対応についてまとめた書籍への協力  「知の統合は可能か: パンデミックに突きつけられた問い」時事通信社  専門家として厚労省アドバイザリーボード等での資料作成  パンデミック中の人々の行動について、解析し論文投稿中</p> <p>2) 環境省の事業により福島県内の子供たちの脱落乳歯の放射線量のスクーリングならびに核種の推定などを行い国際誌に報告してきた。さらに、エナメル質の分離方法について、新しい方法を開発し、その優位性を国際誌発表した。  <b>Detection limit of electron spin resonance for Japanese deciduous tooth enamel and density separation method for enamel-dentine separation. J Radiat Res. 2022 Jul 19;63(4):609-614. doi: 10.1093/jrr/rrac033.</b></p>			

## 2022 年度の部門活動報告

部門名	防災実践推進部門	報告者氏名	小野 裕一
部門目標			
<p>研究成果の社会実装や地域・国際連携による防災・減災対策への貢献を目的とする。具体的には、防災教育、よりよい復興、レジリエントな地域社会の形成、エビデンスに基づいた防災政策の実現、災害時の事業継続計画の提案等に関する実践的研究、E-ICT の利活用の研究成果を効果的に内外に発信することで仙台防災枠組の実施に貢献する。</p>			
2022 年度の部門活動報告			
<p><b>防災教育実践学分野:</b> 宮城県教育総合センターや石巻市教育委員会主催の防災主任研修会の研修モデル開発や、宮城県教育委員会と共同主催した「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」の企画運営などを通して、「防災教育協働センター」の連携枠組を活用し、所内外の研究者や実践者と学校防災の高度化に向けた実践的研究を推進した。</p> <p><b>防災社会推進分野:</b> 社会における防災の推進方策について研究・実践活動を行った。具体的には、南海トラフ地震等の危機事象に対応した企業の BCP・防災の研究と支援活動、震災復興の記録や発信の支援、災害伝承や災害情報に関する研究や支援、企業等の震災復興の現状の研究と復興支援、都市と地方との震災リスクの指標の研究などを行った。また、政府・自治体の委員会や大学本部の防災活動、企業との共同研究も行った。</p> <p><b>国際研究推進オフィス:</b> UW のワークショップへ参加し、ULCA と連携し ARCDR3 フォーラムを運営した。UCL、ケンブリッジとリヨン大学、オクスフォードブルックス大学とワークショップとを開催した。フランス国立研究所、エクシ・マルセイユ大学、リヨン大学とフランス大使館で国際ワークショップを行い、国際特集号や書籍を出版した。所内研究者と連携して共同研究の成果として国際論文を出版し、AIWEST-DR2021 の特集号や会議議事録を出版した。</p> <p><b>2030 国際防災アジェンダ推進オフィス:</b> 第 3 回世界防災フォーラムの開催にあたって実施と運営にあたり直接的な貢献をした。仙台市を対象とする国際目標「仙台防災枠組」の進捗状況・災害被害レビューの成果について、仙台市と共同で発表した。科学技術振興機構のプロジェクトで、「インクルージョン×防災：全ての人々が自分らしく生きられる世界の実現を目指して」のセッションを行った。</p> <p><b>レジリエント EICT 研究推進オフィス:</b> 電力エネルギー、情報通信等に関するデジタルツインによる新しい社会インフラの創出をめざし、E-ICT の分野での防災研究を行った。</p>			

## 2022 年度の方野活動報告

分野名	防災教育実践学分野	報告者氏名	佐藤 健
分野目標			
<p>東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、学校における防災教育と防災管理のさらなる充実と強化に向けた実践的研究と研究成果の社会実装を推進する。また、学校防災と地域防災の融合活動に関するロールモデルを世界に発信する。さらに、学校や地域における防災人材の養成・育成の社会的貢献を果たす。</p>			
2022 年度の方野活動報告			
<p>防災教育実践学分野は、宮城県教育総合センターや石巻市教育委員会主催の防災主任研修会の研修モデル開発や、宮城県教育委員会と共同主催した「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」の企画運営などを通して、プロジェクト連携研究センター「防災教育協働センター」の連携枠組を活用し、所内外の研究者や実践者と学校防災の高度化に向けた実践的研究を推進した。</p> <p>佐藤健教授は、令和 4 年度東北大学ー防災科学技術研究所マッチング研究支援事業「防災教育研究等、防災基礎力の向上に関する研究」の東北大学側研究代表者として、高度職業人の防災教育実践による社会のレジリエンス向上に関する共同研究を推進した。また、文部科学省の有識者会議の委員や宮城県学校防災アドバイザーとして、学校の防災管理と防災教育の高度化に向けた実践的研究とその成果の社会実装を推進した。</p> <p>桜井愛子教授(クロスアポイントメント)は、石巻市学校防災推進会議委員として同市の学校防災の拡充に向けた各種活動に助言した。また、共同研究「Web GIS を活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～」をとりまとめ、石巻市防災主任研修会を企画実施した。台湾教育部による宮城県防災教育研修において特別レクチャー等の国際発信も行った。</p> <p>定池祐季助教は、福島大学らの研究者及び災害ボランティアらと避難所運営及び被災者支援に関する教材「さすけなぶる」を用いた人材育成に努めているほか、継続的に関わっている北海道胆振東部地震の被災地厚真町において厚真町との共同研究等で教員研修や授業実践を含む心のケアと防災教育の実践、地域防災活動の支援を行った。加えて、北海道などで教員・自治体職員を対象とした防災教育・地域防災に関する研修を行った。</p>			

分野名	防災社会推進分野	報告者氏名	丸谷 浩明
分野目標			
<p>社会における防災の推進方策について研究し、実践活動を行っている。災害時の組織の行動、市民の対応、政策・法令の効果、社会・経済の動き、事前及び発生時の災害情報等の調査・分析を行い、法令・制度の改善、防災計画の有効化、地域及び広域的な社会におけるレジリエンスの向上のための研究及び実践を行っている。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>1) 企業・組織の事業継続の視点から南海トラフ地震半割れでの企業行動の査読論文投稿し、内容を手引きとして HP で公開した。中央省庁の BCP の評価・改善の有識者委員を務めた。内閣府の防災スペシャリスト養成研修の企画委員、講師を務めた。共同研究で仙台長町未来共創センターでの防災活動において仙台市を含む 4 者協定を締結した。主宰する「企業・組織の BCP/防災勉強会(@仙台)」で、防災・BCP の議論を毎月行った。</p> <p>2) 宮城県庁における東日本大震災における復興対応過程に関する記録誌の作成過程を監修し、「みやぎの 3.11」として発刊した。気仙沼市および石巻市における周年企画、みやぎ東日本大震災津波伝承館、気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館、石巻市震災遺構門脇小学校などの災害伝承施設において活性化事業に全面的に協力した。東北自治研修所における水害対応の行政研修を支援するとともに、そこで得られた知見を査読論文化した。</p> <p>3) 全学教育科目に「福島復興・再生」と題する授業を新設するとともに、東北大学で福島県知事による特別講義を開催した。日本都市計画学会全国大会ワークショップ「福島復興の到達点と今後の展望」に登壇した。第3回世界防災フォーラムにおいて学生グループが防災の国際協力に関する発表を行った。</p> <p>4) 公共政策大学院で、防災法、防災政策論演習の授業を行い、論文指導も行った。</p> <p>5) 昨年度実施の震災復興企業実態調査の解析などデータ基盤の拡充と産業復興の調査研究を進めた。また Public Attitudes Toward Decontamination and Regional Regeneration: A Case Study of Hanford Site in Washington と Public Evaluation of the Reconstruction and Regeneration of Fukushima 10 Years After the Earthquake を JDR 誌に投稿した。</p> <p>6) 震災と自然災害の地域間統計比較の結果として、「都市と地方を地震リスクの指標から考える」が Wedge Online, 2022/12/21 号、「過去 5 年間で「自然災害」被害の大きな地域はどこだ」が 2023/2/19 号に掲載。</p>			

部門名	国際研究推進オフィス	報告者氏名	ボレー セバスチャン・マリ エリザベス
分野目標			
<p>北米およびヨーロッパ・アフリカ地区における主な機関・拠点校と本研究所との共同研究をコーディネートし、本研究所の国際的プレゼンスの向上を図るための様々なプロジェクトの推進・実施の中心的役割を担う。具体的には、1) 国際会議、およびワークショップの開催や参加、2) 部局間協定締結 (MOU) に向けた具体的な交渉、3) 国際学術雑誌への投稿・出版等を支援あるいは実行する。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>国際研究推進オフィスの主な活動 1) 国際会議およびワークショップの開催と参加、2) 協定締結 (MOU) の支援と作成、および 3) 国際学術雑誌の出版であった。1) UW のワークショップへ参加し、ULCA と連携し ARCDR3 フォーラムを運営した 2) PTM と MOU 結んだ。3) イギリスの UCL、ケンブリッジとリヨン大学、オクスフォードブルックス大学と国際ワークショップとを開催した。4) フランス国立研究所、エクシ・マルセイユ大学、リヨン大学とフランス大使館で国際ワークショップを行い、国際特集号や書籍を出版した。5) 所内研究者と連携して共同研究の成果として国際論文を出版し、AIWEST-DR2021 の特集号や会議議事録を出版した。</p>			

分野名	2030 国際防災アジェンダ推進オフィス	報告者氏名	小野 裕一
分野目標			
国際防災政策の現状と課題について、特に 2015 年に国連で策定された仙台防災枠組・SDGs・パリ協定の 3 つの国際アジェンダの進捗状況を踏まえつつ整理し、世界の災害被害統計の分析を基として次世代の防災枠組の策定に向けた研究を行う。また、定期的に仙台で行う世界防災フォーラムを研究成果の世界発信の場とする。			
2022 年度の分野活動報告			
<p>2030 国際防災アジェンダ推進オフィスでは、仙台市内で開催された市民参加型国際会議「World BOSAI Forum 2023」(世界防災フォーラム)の開幕に合わせて、世界に先駆け初の試みとして実施した地方自治体(仙台市)を対象とする国際目標「仙台防災枠組:2015-2030」の進捗状況・災害被害レビューの成果について、仙台市まちづくり政策局と共同で 2023 年 3 月 11 日に発表した(<a href="https://sendai-resilience.jp/media/pdf/sfdr2023-1_h.pdf">https://sendai-resilience.jp/media/pdf/sfdr2023-1_h.pdf</a>)。当該成果は、「仙台市と国立大学法人東北大学との連携・協力に関する協定書(令和 4 年(2022 年)4 月 22 日締結)」に基づく協働事業及び科学技術振興機構・社会技術研究開発事業(JST-RISTEX)SDGs の達成に向けた共創的研究開発(SOLVE for SDGs)プログラム「最後の一人を救うコミュニティアラートシステムのモデル開発および実装」プロジェクト(代表:小野裕一教授)において得られたものである。また、同プロジェクトでは、3 月 11 日に世界防災フォーラムのセッションの 1 つとして、「インクルージョン×防災:全ての人々が自分らしく生きられる世界の実現を目指して」(コーディネータ:原裕太助教)を仙台国際センター大ホールで開催した。当該セッションには、2030 国際防災アジェンダ推進オフィスと東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の SDGs 教育推進プラットフォームが共催組織として参画し、会場・オンライン合わせて国内外から 200 名以上の参加があった。</p> <p>仙台防災枠組の優先行動 3 である「強靱性のための災害リスク削減への投資」に係る研究も継続的に進めており、2023 年 2 月 28 日、インドネシア・ジャカルタにおいてインドネシア大学心理学部及びインドネシア防災専門家協会(IABI)と共同で国際セミナー「Investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Transdisciplinary perspectives」(モデレーター:佐々木大輔准教授)を開催した。当該国際セミナーはハイブリッド形式で開催され、会場・オンライン合わせて約 80 名の参加があった。今後も、災害リスク削減への投資(防災投資)を拡大する上での課題を明らかにし、レジリエントで持続可能な社会の実現に向けた政策や革新的なアプローチ等を提言していきたい。</p>			

部門名	レジリエント EICT 研究推進オフィス	報告者氏名	尾辻 泰一
分野目標			
レジリエントな電力エネルギー、情報通信等に関するネットワーク基盤をベースとしたデジタルツインによる新しい社会インフラの創出をめざすとともに、第 5 世代移動通信システムの更なる高度化に資する無線通信技術を開発する。産官学による社会的課題を解決するプロジェクトベースの研究開発とその成果の社会実装を図り、新産業創出に貢献する。			
2022 年度の分野活動報告			
<p><u>レジリエント光通信研究グループ</u>: 多値度・FEC 冗長度可変デジタルコヒーレント光伝送技術を確立し、従来の PON (Passive Optical Network)システムと比較して、5 倍以上の容量を有する大容量光フロントホールを実現した。また、光・無線統合 MCS (Modulation and Coding Scheme)において符号誤り一括訂正技術を開発した。</p> <p><u>レジリエント無線通信研究グループ</u>: 総務省委託研究開発を実施し、大容量化と高信頼通信を実現する自律分散適応干渉制御方式を開発した。</p> <p><u>レジリエント電波工学研究グループ</u>: 総務省受託研究「基地局端末間の協調による動的ネットワーク制御に関する研究開発」及び情報通信研究機構委託研究「Beyond 5G のレジリエンスを実現する値とワーク制御技術の研究開発」を実施し、研究計画通りの研究成果を得た。</p> <p><u>レジリエント電力・通信融合研究グループ</u>: JST-OPERA 事業は 2022 年度に新規 3 機関の参画を得て、大学 13 企業 1 財団に組織を拡大、電力・通信融合直流マイクログリッドネットワークの社会実装化技術開発体制を強化した。国際会議最優秀論文賞 2 件、外国特許登録 2 件など優れた業績を上げた。</p> <p><u>レジリエントスマートエネルギー研究グループ</u>: JST-OPERA 事業および NICT B5G プロジェクトを通して、直流マイクログリッドのテストベッドを大学構内に構築し、再エネ駆動型マイクロデータセンタのジョブスケジューリング動作および B5G のリモートアンテナ用自立電源システムの実証を行った。</p> <p><u>レジリエントスマートセンサー研究グループ</u>: JST-OPERA 事業において、On site energy センサーネットワークと電力・情報通信・モビリティ融合化ネットワークの連携による CPS 活性化技術の確立に関する研究に取り組んだ。センサーネットワーク構築の鍵となるセンシング技術が進展した。</p>			



## 2022 年度の部門活動報告

部門名	地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	報告者氏名	今村 文彦・内田 典子
部門目標			
東日本大震災の被害実態を考慮した地震・津波災害のリスク評価や実用的な防災・減災システムの検討、さらに防災教育・啓発などの社会課題の解決に向けた取組など、リスクを軽減するための総合的な活動を産学連携で推進し、同分野の研究開発や人材育成を強化するとともに、研究成果や得られた情報を広く社会に提供して、社会の防災・減災に資することを目標とする。			
2022 年度の部門活動報告			
<p>東日本大震災や 2022 年トンガ噴火・津波に関しての津波警報、建物及び養殖施設の被害メカニズムを明らかにし、国外の研究機関と連携しながら、巨大災害時における社会的脆弱者(ジェンダー、LGBTQ+)について研究し、関係学会や会議等で紹介してきた。Eco-DRR 研究:生物多様性回復評価のため、沿岸域エコトーンを対象として水・砂・漂着物を採集し、魚類および昆虫類の環境 DNA 分析を実施した。また、東日本大震災の津波前後の沿岸植生の遷移傾向と津波外力の関係性を分析した。心理支援アプリ:POLA 化成工業、宮城県七ヶ浜町との産官学連携研究として、デジタル心理支援ツールの実証実験を七ヶ浜町役場職員を対象に行い、心理指標のカットオフ値を越えた被験者に対して、特に効果があることを示した。防災教育活動:コロナ禍に対応した教材を使って、対面出前授業だけではなくオンライン出前授業に取り組んだ。対象も小学生だけではなく中学生にも展開した。中部科学技術センターとの防災・減災 WS を静岡県地震防災センターで開催した。教材の DX 化に取り組みプロトタイプを実践に導入した。防災 ISO 策定:既存の世界の防災用スマートコミュニティインフラおよび計画について調査したテクニカルレポート TR6030 を発行した。防災スマートインフラに関する概念規格を策定するための提案が承認された。同時に、災害リスクファイナンス、災害食、地震計システムに関連する規格についても進展した。情報発信活動:国内外の学会、ぼうさいこくたい・仙台防災未来フォーラムにおけるワークショップの開催等を通じ、産学連携による当部門の研究・防災教育等の知見や活動を広く社会に発信した。とくに、WBF において iResilience 等の企業と協働してパネルディスカッションを開催し、防災・減災における持続可能性や多様な連携を広げるために必要な見識や意見交換を行った。</p>			

部門名	都市直下地震災害(応用地質) 寄付研究部門	報告者氏名	遠田 晋次
部門目標			
都市部直下の内陸大地震について、地形地質学・地震学・地震工学的見地から、具体的かつ実践的減災案を提示する。そのために、熊本地震など過去の内陸大地震から断層近傍の建物被害の要因を抽出し、より現実的な震源断層モデルの設定、強震動計算手法の開発を行い、被害予測の高度化を目指す。			
2020 年度の部門活動報告			
<p>内陸活断層ごく近傍における強震動予測の高度化を目指すため、2016 年熊本地震を例に変位および強震動計算に用いる断層モデルの設定手法について検討を行った。従来一般的な断層モデルは主に地震発生層内を対象とするが、本研究ではパラメータスタディの結果から、より浅い部分の構造も重要であることに着目するとともに、詳細な地質情報を基にした断層モデルの設定手法を検討した。このモデルを用いて計算した地殻変動分布は建物被害分布と整合的であり、強震動は観測波形とよく一致した。成果については 2022 年度日本地震学会秋季大会で発表を行った。</p> <p>断層近傍の建物被害の要因と分布の条件の明らかにするため、2016 年熊本地震をもとに地震発災前の既往研究と発災後の情報の比較を行い被害予測のために必要な情報を整理した。関連して、布田川断層付近の地表地震断層が現れなかった阿蘇震災ミュージアム道路法面露頭において調査を実施し、地表地震断層のステップ部における地質構造と過去の地震・非地震イベントの存在を明らかにした。成果を 2022 年日本活断層学会にて公表した。さらに、熊本地震時に誘発変位が生じた水前寺断層帯を横切る稠密重力探査を実施し、同断層帯の深部への連続性を確認した。</p> <p>仙台市での地震動予測図作成のため、仙台市を横切る長町一利府線断層帯から発生する地震像の解明・被害予測の高度化を行った。仙台市周辺の高解像度地形データの解析、既存のボーリングコアのコンパイル、微動観測などから、同断層帯の詳細分布・変形様式を明らかにした(高橋・遠田, 活断層研究, 2022)。また、同断層帯を横切る反射法地震探査(人工地震探査)を実施し、ボーリング、微動観測とともに、強震動予測に資する地盤構造の再構築を行い、明瞭な地下での断層変位および撓曲構造を解明した。</p>			

## 2022 年度の部門活動報告

部門名	イオン防災環境都市創生共同研究部門	報告者氏名	今村 文彦・丸谷 浩明
分野目標			
<p>自然災害の激甚化や感染症、地球規模の環境の変化などにより都市や地域でのリスクが増大し、対応が求められている。地域の防災拠点でありながら緑豊かな環境整備により、都市や地域が創出される安全で安心できるレジリエント・コミュニティの創生を目指す。「防災・減災」「杜のデザイン」「感染症対策」に取り組む。</p>			
2022 年度の分野活動報告			
<p>イオン環境財団及びイオンモール株式会社との共同研究として 2021 年 10 月に活動を開始した本部門は、3年間の予定で、東北大学の旧雨宮キャンパスに建設予定のイオンモールのあり方を研究するとともに、その成果を他の店舗や地域にも活かすことも視野に入れた研究を行っている。</p> <p>研究組織として「防災・減災」、「杜のデザイン」、「感染症対策」の 3 つの分科会を設置し、主にオンラインで定期的に会合を開催し、研究を進めている。なお、防災・減災と感染症は、2020 年度は合同で開催した。分科会は 1 か月に 1 回、全体会議は 2 か月に 1 回をめぐりに開催している。</p> <p>これまで 1 年半の研究成果を踏まえて、2023 年 3 月 4 日(土)に仙台国際センターで開催された「仙台防災未来フォーラム」に、本部門もセッション及び展示で参加した。2022 年 3 月に続き 2 回目の出展である。セッションは「レジリエント・コミュニティの創生に向けて—イオン防災環境都市創生共同研究部門の活動—」と題して 15 時より 1 時間 15 分開催し、部門長の今村所長(教授)の趣旨説明、防災・減災分科会より丸谷教授、杜のデザイン分科会よりイオン環境財団の山本特任教授(客員)、感染症分科会より児玉教授が発表を行った。また、感染症の状況や新技術導入の見通しなどの質疑応答を行った。ブース展示は、どんぐり拾い・実生苗採取の活動とアンケート結果、防災・減災分科会の検討状況、イオン環境財団の取組みなどを紹介した。</p> <p>また、本部門は、2022 年度後半より、JST-産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)「自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出 JST—OPERA」に参加し、同プログラムで開発されるネットワーク技術等の社会実装の可能性について研究に取り組んでいる。</p>			

部門名	日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門	報告者氏名	凌 国明・スクタナローン ナルテプ・野村 怜佳
部門目標			
<p>観測や数値シミュレーションから得られる高密度・高精度な防災情報を効率的かつ高速にサイバー空間とフィジカル空間で融合し、各空間で取得・生成されるデータの相互利用が可能なデータ駆動型デジタルツインモデルの開発を行い、その技術を活用することによりレジリエントシティーを実現することを目指す。</p>			
2022 年度の部門活動報告			
<p><b>【オープンデータの連携と活用】</b>日本全国の 3D 都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(国土交通省)」で提供されているデータの活用について調査を進捗させ、開発予定のデータ駆動型地震解析モデルと連携させる上で必要な種々のデータ変換プログラムの実装を完了させた。</p> <p><b>【IoT センサーによるデータ収集基盤の整備】</b>構造物の振動データを常時計測することが可能な機器について市場調査を行った結果、地震センサーとして Geo-Seismo(株式会社地層科学研究所)を採用することとなり、現在仙台市内の大型商業構造物への設置検討を進めている。</p> <p><b>【データ駆動型地震動解析モデルの構築】</b>独自の地震動・建物応答解析シミュレータを開発することに取り組んだ。現在、試作プログラムの信頼性検証までを完了させている。また、開発を別途進めている避難シミュレーションとともに、GIS 上で可視化するための技術的基盤を整えた。加えて、未知の地震シナリオ発生時に建物応答をセンサー情報とシミュレータによる解析結果の双方から予測する、固有直交分解に基づく応答曲面手法の開発・改善・向上を行った。</p> <p><b>【対象地域への適用及び洪水・土砂災害への展開】</b>東京都月島地区を対象に、構造物応答解析及び建物倒壊による道路閉塞を考慮した避難シミュレーションを実施した。地震に限定しない幅広い自然災害への応用を視野に、自動車避難や緊急時の物資輸送シミュレータ開発も開発計画に含めることとした。</p> <p><b>【Word Bosai Forum2023 でのポスター展示】</b>本共同研究分野の活動についてポスター発表を行った。項目 3,4 に述べた開発中のシミュレータ(地震動・建物応答・避難行動)によって仙台市を対象とした都市規模地震応答解析を行い、来場者に広くデモンストレーションを行った。</p>			



## 4 研究活動

### (2) 共同研究プロジェクトの研究活動



## 災害レジリエンス共創研究プロジェクト

### 概要

2021年3月4月に施行された科学技術・イノベーション基本法において、人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資することの必要性和その方向性が示された。

これを背景に、本研究所と学内の部局が連携し、「総合知」を活用して社会の「災害レジリエンス」の向上を実現する「災害レジリエンス共創センター」を2022年4月に設立した。

「災害レジリエンス共創センター」では、「災害レジリエンス数量化」「ヒューマンレジリエンス」「災害情報キュレーション」および「災害レジリエンス共創」の4つの重点研究領域を構成し、新たに構築する「災害デジタルツイン」での災害過程の分析を通じて、被災した社会が速やかに回復するための方策や、一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するための総合知を探求する研究に取り組む。

このような理念から2022年度に「災害レジリエンス共創研究プロジェクト」を立ち上げ、共同研究の助成を行っている。

### 2022年度採択課題 一覧

所属機関名は、2023年3月31日現在

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
------------	-------	------

#### (1) 災害デジタルツインの開発に関連する研究

1. 災害デジタルツイン実現に向けた調査研究	撫佐 昭裕	東北大学サイバーサイエンスセンター
2. 日本海溝型地震に伴う津波のリアルタイムリスク評価 ～八戸市を対象としたレジリエンス強化のための事例検証～	高瀬 慎介	八戸工業大学大学院工学研究科
3. 人口動態把握と予測のための人流デジタルツインの開発	マス エリック	東北大学災害科学国際研究所

#### (2) 4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究

##### ○災害レジリエンス数量化研究領域

1. 道路ネットワークのレジリエンス強化に向けた橋梁の合理的な地震対策決定プロセスの構築	石橋 寛樹	日本大学工学部土木工学科
2. 建築構造物における制振レトロフィットの功罪	木村 祥裕	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
3. 江戸時代と現代の町の豪雨災害リスクと居住空間特性の評価	鈴木 温	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科
4. 降雨流出氾濫解析と簡易型河川監視カメラ画像解析を用いたリアルタイム浸水予測の高度化	橋本 雅和	東北大学災害科学国際研究所

##### ○ヒューマンレジリエンス研究領域

1. 産官学協創による災害発生後の長期間経過時点での持続的な心理支援の検討	門廻 充侍	東北大学災害科学国際研究所
2. 災害レジリエンス構築に資する避難所医療ニーズの数量化	越智 小枝	東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座

研究課題・研究テーマ	研究代表者	所属機関
3. 放射線被ばくによる抗酸化能の低下と晩期障害の関係	孫 略	国立研究開発法人産業技術総合研究所健康医工学研究部門
4. 染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響におけるレジリエンス	三浦 富智	弘前大学被ばく医療総合研究所

○災害情報キュレーション研究領域

1. 復興期の沿岸部空間形成過程の体系化にむけて	井内 加奈子	東北大学災害科学国際研究所
2. デジタル時代における震災アーカイブのマルチモーダル化の実装と認知科学的評価	齋藤 玲	東北大学災害科学国際研究所
3. 地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築	小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
4. 災害時における文化遺産救済を目的とした文化遺産マップの構築および活用の研究	鈴木 比奈子	栗駒山麓ジオパーク推進協議会

○災害レジリエンス共創領域

1. 南海トラフ地震臨時情報発表時における地域コミュニティ対応計画作成支援に関する研究	野々村 敦子	香川大学創造工学部
2. Web GIS を活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化 ～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～	桜井 愛子	東洋英和女学院大学国際社会学部
3. 千島海溝の巨大地震津波対策を支える災害総合知の創出	高橋 浩晃	北海道大学大学院理学研究院
4. 新型コロナウイルス感染症クラスター再発防止対策：CO2 濃度を指標とした換気調査～特に保育施設、介護施設について～	喜多村 紘子	産業医科大学産業医実務研修センター
5. 住民間の「知」の循環による「地域脱炭素」推進過程での総合的レジリエンス向上の試み：長崎県五島列島を事例に	甲斐 智大	岐阜大学地域科学部地域政策学科地域政策講座
6. 「仙台防災枠組」進捗レビューの先駆的試み：仙台市との協働・実践を通じて	原 裕太	東北大学災害科学国際研究所
7. 気象災害時における時空間周遊行動動態に基づく災害リスク評価	Sunkyung Choi	東京工業大学環境・社会理工学院融合理工学系

(3) 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

1. 長期化した COVID-19 パンデミックによる心理的影響に関する地域特性の検討	奥山 純子	東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科
2. 人流データの時系列変動分解に基づく災害レジリエンス情報の検出と比較	山口 裕通	金沢大学理工研究域地球社会基盤学系
3. モバイル空間統計を活用した集客施設別の混雑と遊休に関する分析	塚井 誠人	広島大学大学院先進理工系科学研究科

## 災害デジタルツインの開発に関連する研究

研究課題名	災害デジタルツイン実現に向けた調査研究	研究課題	(1)
研究代表者氏名	撫佐 昭裕	職名	客員教授
所属機関等	東北大学サイバーサイエンスセンター		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 撫佐 昭裕	東北大学サイバーサイエンスセンター
○ 越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所災害レジリエンス共創センター
鍛守 直樹	日本電気株式会社官公ソリューション事業部門
吉野 潤子	日本電気株式会社官公ソリューション事業部門
瀧川 陽平	日本電気株式会社官公ソリューション事業部門
佐藤 佳彦	NECソリューションイノベータ東北支社

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	950,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要
<p>巨大災害発生時には災害に関する情報の空白化や断片化が発生する。そして被災全体の把握が困難になり、災害初期対応に遅れが生じる。本研究は、シミュレーションやAIを活用し、空白化・断片化された情報の補完、さらには被災を受けた地域の社会動態を「先読み」する災害デジタルツイン(Disaster Digital Twin for National Resilience(DDT4NR))の調査研究を行うものである。本年度はDDT4NRを実現するための要件を検討した。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>本研究では、災害発生時にDDT4NRが扱う現象、事象、データ及び機能の検討を行い、システム実現に向けた要件を定めた。具体的には、対象とする災害を津波災害をはじめとする大規模災害とし、当研究グループが開発を進めているリアルタイム津波浸水被害推計システムを基盤機能としてDDT4NRを開発することとした。</p> <p>図1が対象とする現象と事象である。発災時の緊急処理としてリアルタイム津波浸水被害推計システムが行っている「浸水予測」と「被害予測」(建屋被害と被災者数予測)に「避難誘導」、「救援支援」、「救護支援」をDDT4NRの機能として実装することとし、災害発生時の初期対応の情報を発信する。対象とする自然現象はケーススタディとして津波に関わる現象からシステム化を行い、随時、他の海象、気象、火山等に拡大を行っていく。また、社会影響・社会動態については、基盤的防災情報流通ネットワークSIP4Dの仕様、自治体の防災計画及び防災白書から取り扱う情報を選定した。</p> <p>図2がDDT4NRの概念図であり、3つの層から構成することとした。これら3つの層は、シミュレーションやAI技術を活用して災害事象を予測するものである。ハザード層はハザードシミュレーションを用いて災害の規模や状況を予測するものである。社会影響予測層はその災害による社会影響や社会反応をエージェントモデル等を活用して予測する。そして、最適対応層はAIや量子アニーリング技術を用いて、災害の影響を軽減する対策や対応を提案する。これら3つの層を時々刻々と変わる状況に応じて活用することによってレジリエンスの最大化を図っていくものである。</p> <p>図3がDDT4NRの機能関連図である。入力データとなる「地球観測データ」の代表的なものは、気象庁の緊急地震速報、地震情報、津波情報、国土地理院のREGARD、港湾局のNOWPHASやJAXAの衛星画像などである。また、社会動態データはSIP4D、PLATEAU、G空間情報センター等のデータや、政府・自治体、公共機関が公表するデータ、さらに携帯端末の情報を活用した人流データやSNSのデータなどである。これらデータを活用して各種シミュレーションやAIモデルをリアルタイムに処理を行う構成になっている。これらシミュレーションやAIモデルは今後の発展が見込まれるものであり、随時、新しいものを取り入れることができるようにシステム構成を考えていく予定である。</p> <p>本年度の研究をもとに特許出願を準備しており、弁理士と出願書類の準備を行っている。また、来年度は今年度行った要件をもとにシステム設計を行う予定である。</p>



図表



図1 対象とする事象

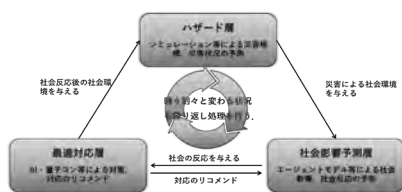


図2 概念図



図3 機能関連図

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2023年3月11日, シンポジウム, 国際, 対象者(研究者, 市民), 第3回世界防災フォーラムセッション[S-14]防災総合知の探求, 「災害科学における総合知」, 「総合知の活用により災害レジリエンスの向上をどう実現するか」をメインテーマとして防災総合知の探求と活用に向けた新たな展望を拓くことを目的に開催, 参加者約200名.

2023年1月23日, 研究会, 国内, 対象者(研究者, 社会人), リアルタイム津波学研究会, 災害レジリエンスの向上にはリアルタイムに津波被災状況を予測し, 対応策の提示が重要である. 最新の研究状況を国内の研究者や技術者と共有, 議論することを目的に開催, 参加者26名.

合計( 2 )件

## 災害デジタルツインの開発に関連する研究

研究課題名	日本海溝型地震に伴う津波のリアルタイムリスク評価 ～八戸市を対象としたレジリエンス強化のための事例検証～	研究課題	(1)
研究代表者氏名	高瀬 慎介	職名	准教授
所属機関等	八戸工業大学 大学院工学研究科		

### 研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 高瀬慎介	八戸工業大学
○ 越村俊一	東北大学災害科学国際研究所
○ 野村怜佳	東北大学災害科学国際研究所
寺田賢二郎	東北大学災害科学国際研究所
森口周二	東北大学災害科学国際研究所
櫻庭 雅明	日本工営株式会社(災害科学国際研究所兼務)
野島 和也	日本工営株式会社(災害科学国際研究所兼務)
外里健太	八戸工業大学(申し込み時の所属:東北大学工学研究科土木工学専攻 (計算安全工学研究分野所属))
飛弾野壮真	東北大学工学研究科土木工学専攻(計算安全工学研究分野所属)
芳賀麻由美	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ～ 令和5年3月31日	経費	589,900円
----	-----------------------	----	----------

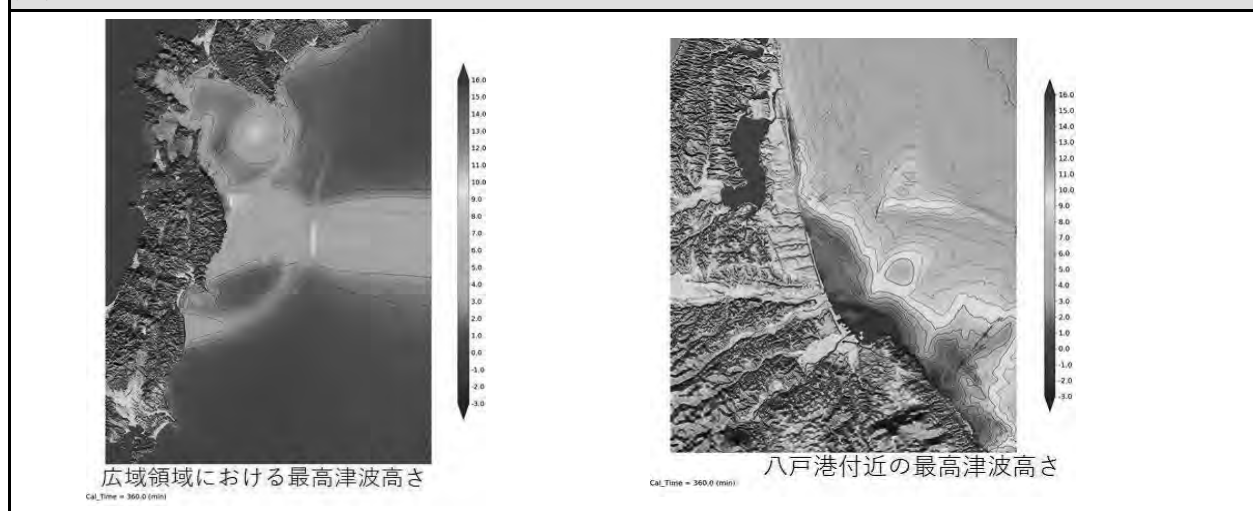
### 研究の概要

本研究では八戸市を対象に、近い将来襲来が想定されるいくつかの地震・津波シナリオについてシミュレーションを行い、これらを入力データベースとした逐次更新型リアルタイム津波リスク予測 手法を適用する。沿岸部浸水リスク予測結果をXGIS上に実装し、可視化することで、津波リスクの見える化を行う。

### 研究の具体的な成果・波及効果

内閣府が公開している日本海溝モデル(ケース①, ②)それぞれを用いてシミュレーションを行い、公開されている結果と同程度の最高津波高さが八戸市に到達することを確認した。現在、想定される地震・津波シナリオを複数用意し、デジタルツインを構築するため、S-netのポイントでの波形データの作成、および、逐次更新型津波リスク評価手法を行うための沖合での観測点でのデータ収集を行った。これにより、デジタルツインの構築に重要な基礎的なデータ設定が整備された。

### 図表



## 災害デジタルツインの開発に関連する研究

研究課題名	人口動態把握と予測のための人流デジタルツインの開発	研究課題	(1)
研究代表者氏名	マス エリック	職名	准教授
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ マス エリック	東北大学災害科学国際研究所
○ 越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
片谷 信治	ESRIジャパン株式会社・先端技術開発グループ
桑原 直道	ESRIジャパン株式会社・先端技術開発グループ
臼田 裕一郎	防災科学技術研究所・防災情報研究部門
武田 百合子	東北大学・災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	995,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究では、主に準リアルタイムで流通する人流データを活用して、平時・災害時に関わらず継続的に人口動態を把握し、災害や大規模イベント等による人口動態の急変(Anomaly)を検出し、災害過程の把握や社会動態の予測・把握を行うためのデジタルツインを新たに開発する。

**研究の具体的な成果・波及効果**

モバイル空間統計(MSS)データを準リアルタイムで処理するためのデータ収集システムを開発した。データの隠れたパターンを含む情報の性質を可視化し理解するためのアルゴリズムのツールボックスを開発した。異常検知と人口暴露推定のための時系列分析を適用した。その結果、リアルタイムのモニタリングや予測への応用が可能であることがわかったが、データの空間的感度は今後の研究課題として残されている。このプロジェクトの成果は、人の移動情報を必要とするデジタルツインの研究開発にMSSデータを活用することを促進するものである。

**図表**

時系列データとしての純リアルタイムの異常検知の例 (福島地震・亶理町の避)

PythonとArcGISを使ったインタラクティブなダッシュボードで、大量の空間・

ハザードマップに基づく正規 (a-1) と不定期 (a-2) の対象エリア抽出の

成果として発表した論文

Hashimoto, M., Mas, E., Egawa, S., Sano, D. & Koshimura, S. (2022). Flood Hazard-Based Evacuation Curve Using Mobile Spatial Statistics. SSRN Electronic Journal. <https://doi.org/10.2139/ssrn.4271169>

Hachiya, D., Mas, E. & Koshimura, S. (2022). A Reinforcement Learning Model of Multiple UAVs for Transporting Emergency Relief Supplies. Applied Sciences, 12(20), 10427. <https://doi.org/10.3390/app122010427>

学術論文 合計(2)編

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス数量化研究領域>

研究課題名	道路ネットワークのレジリエンス強化に向けた橋梁の合理的な地震対策決定プロセスの構築	研究課題	(2)
研究代表者氏名	石橋 寛樹	職名	助教
所属機関等	日本大学工学部土木工学科		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 石橋 寛樹	日本大学 工学部 土木工学科
○ 越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
秋山 充良	早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科

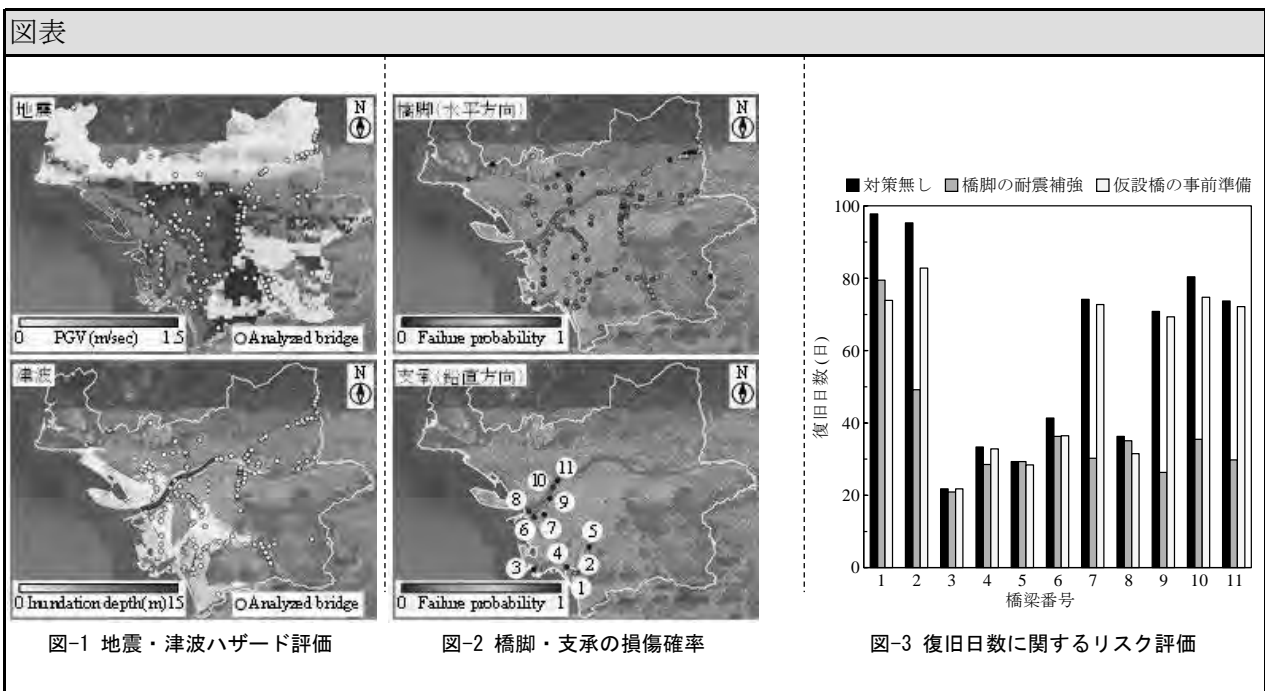
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

沿岸部に位置する橋梁では、橋脚の損傷や津波による上部構造の流出など、卓越する破形態は地震および津波ハザード強度に大きく依存するため、起こり得る破壊形態の事前推定と、それに基づく効果的な対策が重要である。本研究では、確率論的ハザード評価、橋梁の脆弱性評価、および復旧時間のリスク評価を一貫して行うことで、リスク低減(すなわち、復旧時間の短縮化)の観点から、各橋梁で想定される破壊形態を考慮し、最適な地震対策方法を同定可能な手法を構築した。

**研究の具体的な成果・波及効果**

和歌山市内の橋梁群を対象に、南海トラフ地震の発生を想定した地震・津波ハザード評価(図-1参照)、および橋脚・支承部材の脆弱性評価を行い、各部材の損傷確率を算出した(図-2参照)。橋脚の損傷に対しては耐震補強、支承の破損を伴う上部構造の流出対策としては仮設橋の事前準備を想定し、各対策による復旧日数の短縮効果をリスクとして評価した(図-3参照)。結果として、提案手法により、個別橋梁に対して効果的なリスク低減が可能な対策を同定できることが示された。



成果として発表した論文

H. Ishibashi, M. Akiyama, and S. Koshimura: Methodology for determining optimal countermeasure for bridges under seismic and tsunami hazards, Proceedings of the Eighth International Symposium on Life-Cycle Civil Engineering (IALCCE 2023), 2023. (printing), 査読有り, 国際

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

H. Ishibashi, M. Akiyama, and S. Koshimura: Methodology for determining optimal countermeasure for bridges under seismic and tsunami hazards, Eighth International Symposium on Life-Cycle Civil Engineering (IALCCE 2023), 2-6 July 2023, Milan, Italy.

合計( 1 )件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス数量化研究領域>

研究課題名	建築構造物における制振レトロフィットの功罪	研究課題	(2)
研究代表者氏名	木村 祥裕	職名	教授
所属機関等	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 木村 祥裕	東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻
○ 大野 晋	東北大学 災害科学国際研究所
古川 幸	大阪公立大学大学院 工学研究科
鈴木 敦詞	東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻

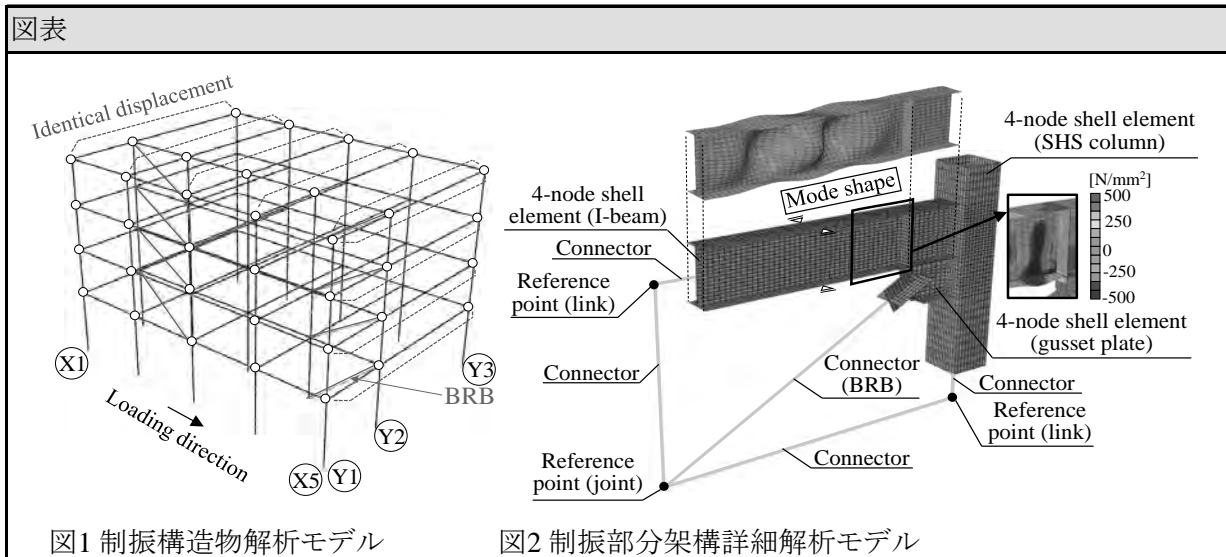
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

制振構造は建物の揺れを効果的に低減でき、使用継続性に寄与するため着目されている。しかし、ダンパーを付与すると周辺部材の応力状態が、通常のラーメン骨組から変わるため、より小さな変形で構造部材の損傷が生じる恐れがある。本研究では、制振レトロフィットの功罪を分析し、構造部材の損傷制御設計法を構築する。

**研究の具体的な成果・波及効果**

建築基準法に準拠し設計された非制振建物について、応答指定型設計を用いて制振レトロフィット(図1)し、静的増分解析、地震応答解析により水平力作用時の挙動を分析した。所定の地震力に対する変形を低減させるために、より抵抗力の大きなダンパーを設置した場合、梁に作用する軸力が大きくなることから、より小変形時に損傷(局部座屈)が生じることを明らかにした(図2)。そこで、軸力の影響を反映した梁の性能評価式を提案し、構造設計者が梁部材の損傷を防ぐよう断面を選定できるようにした。成果は鋼構造設計指針の次回改定時の反映が期待される。



成果として発表した論文

Atsushi Suzuki and Yoshihiro Kimura. "Rotation capacity of I-shaped beam failed by local buckling in buckling-restrained braced frames with rigid beam-column connections," Journal of Structural Engineering, 149(2), 2023, 04022243, 査読有, 国際, IF: 3.312

Atsushi Suzuki, Yoshihiro Kimura, Yoriyuki Matsuda, and Kazuhiko Kasai. "Rotation capacity of I-shaped beams with concrete slab in buckling-restrained braced frames," Journal of Structural Engineering, Submitted, 査読有, 国際, IF: 3.312

学術論文 合計( 2 )編



4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス数量化研究領域>

研究課題名	江戸時代と現代の町の豪雨災害リスクと居住空間 特性の評価	研究課題	(2)
研究代表者氏名	鈴木 温	職名	教授
所属機関等	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 鈴木 温	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
○ 森口 周二	東北大学災害科学国際研究所
○ 溝口 敦子	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター) 災害科学国際研究所(クロスアポイントメント)
小高 猛司	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
中村 一樹	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
藤井 幸泰	名城大学理社会基盤デザイン工学科(自然災害リスク軽減研究センター)
奥村 誠	東北大学災害科学国際研究所
寺田 賢二郎	東北大学災害科学国際研究所
蝦名 裕一	東北大学災害科学国際研究所
川内 淳史	東北大学災害科学国際研究所
野村 怜佳	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	488,000円
----	-----------------------	----	----------

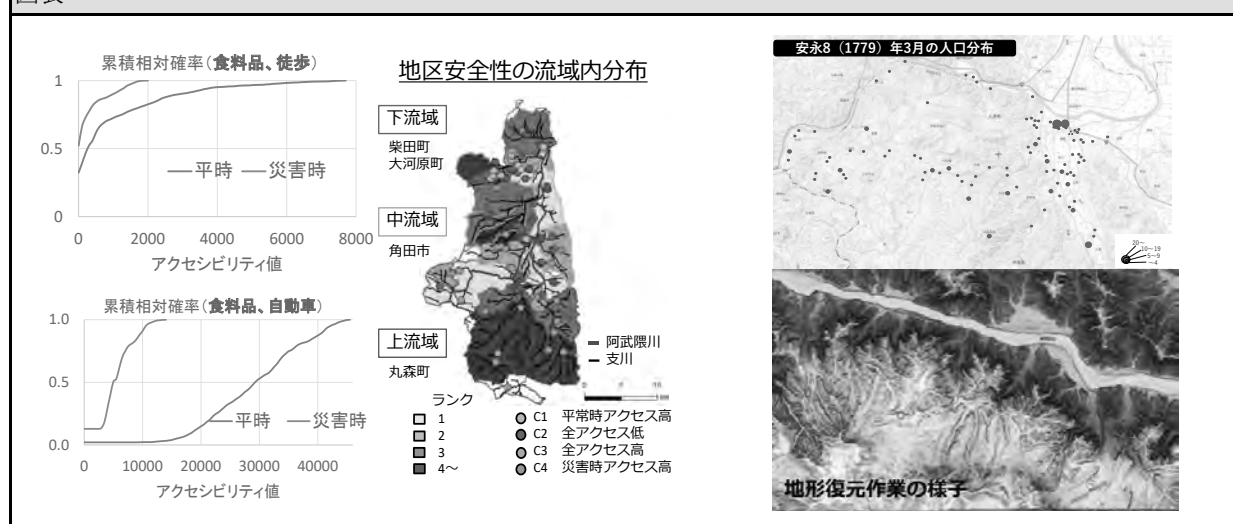
#### 研究の概要

令和元年の台風19号によって甚大な豪雨被害が発生した宮城県丸森町を対象として、豪雨災害 リスク評価に特化した現代と過去(江戸時代)のモデルを構築する。これらのモデルを用いたシミュレーションにより豪雨災害リスクを定量化するとともに、都市計画分野の技術を用いて空間 特性を分析し、その結果に基づいて現代と過去の居住空間特性と災害リスクの違いを論じる。

#### 研究の具体的な成果・波及効果

災害リスク分析グループは、過去の地形モデルの復元作業とシミュレーションの高度化を行った。居住空間分析グループは、徒歩、自動車による生活利便施設へのアクセシビリティが、平時に比べ災害時にどの程度低下するかを推計した。また、避難施設への徒歩アクセス性による地区の安全性の指標を推計し、その結果から階層クラスター分析によって、阿武隈川流域における地区安全性の分類を行った。歴史分析グループは、江戸時代から現代までの歴史資料に基づいて丸森町の災害履歴情報を整理するとともに、過去の建物の空間分布の情報を整理した。

#### 図表



成果として発表した論文
水流風馬, 鈴木温, 井倉祐樹, 青木俊明:居住地の自然災害リスクの種類に応じた居住継続意識に関する研究, 土木学会論文集D3(土木計画学), Vol.77, 2022年, No.5(土木計画学研究, 論文集第39巻), I_161-I_171.
大矢周平, 中村一樹:地域防災を考慮したQOLとWalkabilityの関係分析, 土木学会論文集D3, 2022年, Vol.77, No.5, I_765-I_776.
中村一樹, 遠藤安生, 高山浩希:自然環境を考慮したインフラと居住性に関する関係分析自然環境を考慮したインフラと居住性に関する関係分析-流域圏と大都市の比較分析-, 都市計画論文集, 2022年, Vol.58, No.1.
小高猛司, 李圭太, 中村宏樹, 山下隼史:高透水性基礎地盤上の河川堤防の浸透破壊に対する効果的な基盤排水工の検討, 地盤工学ジャーナル, 2022年, 17巻3号, p.803-808.
小高猛司, 石原雅規, 李圭太:地盤防災, 環境保全に資する地盤改良技術の現状と展望 2. 河川堤防の地震による被害と耐震対策, 材料, 2022年, 71巻, 9号, p.803-808.
久保裕一, 小高猛司, 板橋一雄:粘性土の力学挙動に及ぼす種々の要因についての実験的検討, 地盤工学ジャーナル, 17(4), 2022年12月
吉川高広, 野田利弘, 中野正樹, 小高猛司, 夏目将嗣, 難波喬司:2021年7月熱海土石流災害における盛り土崩壊メカニズムの解明ー三相系弾塑性解析と吸水軟化試験ー, 地盤工学会誌, 2023年, 71巻, 3号.
外里健太, 佐々木駿, Nilo Lemuel J. Dolojan, 森口周二, 寺田賢二郎:降雨の空間的不確実性を考慮した斜面安定解析による斜面崩壊ハザードマップの構築, 日本計算工学会論文集, 2022年, 20220018.

学術論文 合計(8)編

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス数量化研究領域>

研究課題名	降雨流出氾濫解析と簡易型河川監視カメラ画像解析を用いたリアルタイム浸水予測の高度化	研究課題	(2)
研究代表者氏名	橋本 雅和	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 橋本雅和	東北大学災害科学国際研究所
上岡洋平	日本クニヤ株式会社
武田百合子	東北大学災害科学国際研究所
Erick Mas	東北大学災害科学国際研究所
風間聡	東北大学工学研究科
越村俊一	東北大学災害科学国際研究所

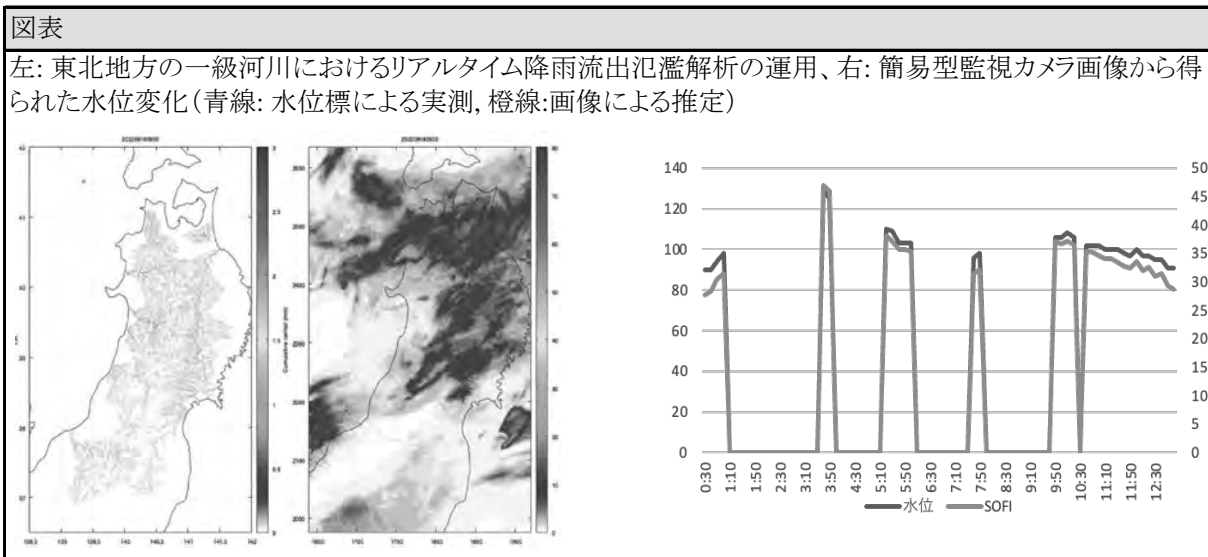
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

豪雨時のリアルタイム浸水予測の高精度化を達成すべく、簡易型河川監視カメラを用いた越水検知と降雨流出解析により、越流量推定と浸水予測を行い、精度を検証すると共にリアルタイムでの運用の課題を抽出する。本研究により全国に約4,400台設置されている監視カメラによる迅速かつ高精度な浸水予測体制が確立される。

**研究の具体的な成果・波及効果**

洪水氾濫数値解析に関して、国土交通省東北地方整備局の協力により、東北地方内の一級河川における河川横断面を取得し、河道内の詳細な地形データを考慮したリアルタイム降雨流出氾濫解析の運用を開始することができた。簡易型河川監視カメラの画像解析に関して、過去の洪水氾濫イベントの画像データをAIに学習させることで、水面検知の精度を向上させることができた。また、水面から水位への情報変換に取り組み、数cmの誤差で水位情報を抽出できることを確かめた。



**成果として発表した論文**

上岡洋平, 橋本雅和, 越村俊一, 深層学習を用いた河川監視カメラによる水面領域の抽出—令和4年7月宮城県豪雨における検証—, 地域安全学会梗概集, 51巻, 2022, 141~142頁, 査読無, 国内

学術論文 合計( 1 )編

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス数量化研究領域>

研究課題名	産官学協創による災害発生後の長期間経過時点での持続的な心理支援の検討	研究課題	(2)
研究代表者氏名	門廻 充侍	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 門廻 充侍	東北大学災害科学国際研究所
○ 奥山 純子	東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	490,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要

他県に避難した災害被災者(移住避難者)は、相対的にマイノリティであり、持続的な支援から取り残される可能性がある。そこで本研究では、移住避難者への持続的な支援を見据え、東日本大震災後、山形県酒田市において下記検討を行った。1)移住避難者支援を担当している酒田市社会福祉協議会で、これまでの支援経過に関して聞き取り調査を行った。2)支援に関わる人材への心理支援として、酒田市役所職員を対象に、me-fullnessアプリケーションを用いた心理状態の改善について検討した。

研究の具体的な成果・波及効果

1)社会福祉協議会での聞き取り調査から、避難直後から時間が経過していく過程で、集団を対象にした支援(例:季節の行事開催やサロンでの語り合いなど)から、個々の事情に配慮したパーソナルな支援へと変化していくことが示された。

2)市役所職員(38名、アプリ使用郡:18名、コントロール郡:20名)を対象に、1か月間、me-fullnessアプリケーション使用による心理状態の変化を検討した。心理指標として、DASS-21(抑うつ、不安、ストレス)を用いた。その結果、DASS-21全ての指標において、使用前後でカットオフスコア以下の変化であった。我々のチームが行った宮城県七ヶ浜町での調査で確認された結果(me-fullnessによる心理状態の改善)と異なり、本調査では同アプリによる改善は認められなかった。同じ地方自治体職員であっても、東日本大震災において大きな影響があった七ヶ浜町職員と酒田市職員の間では、心理状態の差があることが示唆された。

図表

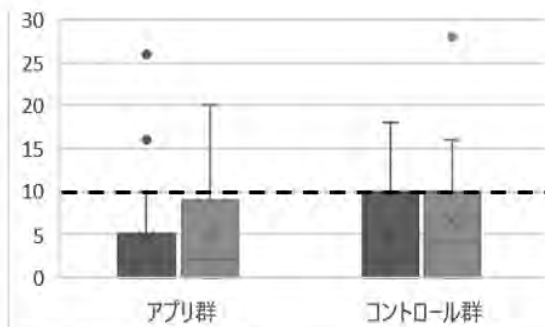
図表(1):me-fullnessアプリの概要



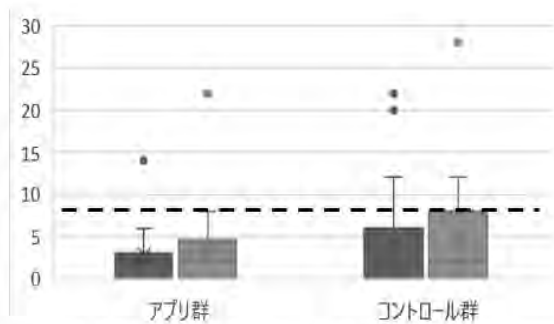
図表(2): 酒田市職員を対象とした検証結果

表: DASS 重症度評価: カットオフ値 (破線)

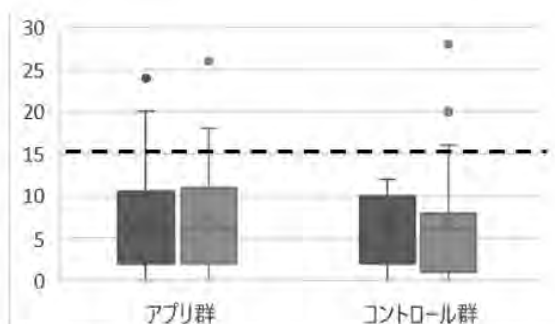
重症度	抑うつ	不安	ストレス
正常	0-9	0-7	0-14
軽い	10-13	8-9	15-18
中程度	14-20	10-14	19-25
重い	21-27	15-19	26-33
非常に重い	28以上	20以上	34以上



a) DASS-21 抑うつ: カットオフ値10 (破線)



b) DASS-21 不安: カットオフ値8 (破線)



c) DASS-21 ストレス: カットオフ値15 (破線)

【凡例】 ■ : 使用前, ■ : 使用後

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2023年3月11日, シンポジウム, 国際, 対象者(研究者, 市民), 第3回世界防災フォーラムセッション[S-14]防災総合知の探求, 「災害科学における総合知」, 「総合知の活用により災害レジリエンスの向上をどう実現するか」をメインテーマとして防災総合知の探求と活用に向けた新たな展望を拓くことを目的に開催, 参加者約200名.

2023年1月23日, 研究会, 国内, 対象者(研究者, 社会人), リアルタイム津波学研究会, 災害レジリエンスの向上にはリアルタイムに津波被災状況を予測し, 対応策の提示が重要である. 最新の研究状況を国内の研究者や技術者と共有, 議論することを目的に開催, 参加者26名.

合計( 2 )件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <ヒューマンレジリエンス研究領域>

研究課題名	災害レジリエンス構築に資する避難所医療ニーズの 数量化	研究 課題	(2)
研究代表者氏名	越智 小枝	職名	教授
所属機関等	東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)			
氏名	所属機関名		
◎ 越智小枝	東京慈恵会医科大学		
○ 江川新一	東北大学災害科学国際研究所		
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	499,000円

研究の概要	
<p>①「石巻圏合同救護チーム」による匿名化災害診療記録を用い、受診者が多く明らかに避難所として機能した7施設を選択し、診療日・患者の年齢・性別・記載病名・処方された医薬品の情報傷病名データを抽出した。                  薬剤名・病名を急性期疾患・慢性疾患に分類し、時期ごとの避難所で発生する疾患と必要とされる医薬品について分析を行った。</p> <p>②また昨年度に引き続きコロナ禍に関するアンケート調査結果を用い、運動習慣減少および過体重発症のリスク因子を解析した。</p>	

研究の具体的な成果・波及効果	
<p>①災害直後から避難所における慢性疾患処方ニーズは高かった。また慢性疾患に対する医療ニーズについては地域の医療者にも共有災害に対応できる体制も整える必要があると考えた。年齢によって医薬品ニーズが異なることを考慮に入れ、被災地の人口構成に従い適切な医薬品を災害時に備えて備蓄もしくは供給できる体制を構築できるよう、さらなる調査研究が必要である。</p> <p>②コロナ禍早期には高齢女性の過体重・運動習慣低下リスクが高かった。後期には既感染の中年男性において過体重発症リスクが高かった。災害の長期的な健康影響についてはそのほかにも慢性疾患や精神疾患なども考えられ、さらなる調査が必要と考えられた。</p>	

成果として発表した論文	
<p>Sae Ochi, So Mirai, Sora Hashimoto, Yuki Hashimoto, Yoichi Sekizawa. Impact of the COVID-19 pandemic on exercise habits and overweight in Japan: a nation-wide panel survey. PLoS Global Public Health (In Press).</p>	

学術論文 合計(1)編

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <ヒューマンレジリエンス研究領域>

研究課題名	放射線被ばくによる抗酸化能の低下と晩期障害の関係	研究課題	(2)
研究代表者氏名	孫 略	職名	研究員
所属機関等	国立研究開発法人産業技術総合研究所健康医工学研究部門		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 孫略	産業技術総合研究所
○ 千田浩一	東北大学災害科学国際研究所
稲葉洋平	東北大学災害科学国際研究所
盛武敬	量子科学技術研究開発機構
長谷川有史	福島県立医科大学

期 間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経 費	500,000円
-----	-----------------------	-----	----------

研究の概要

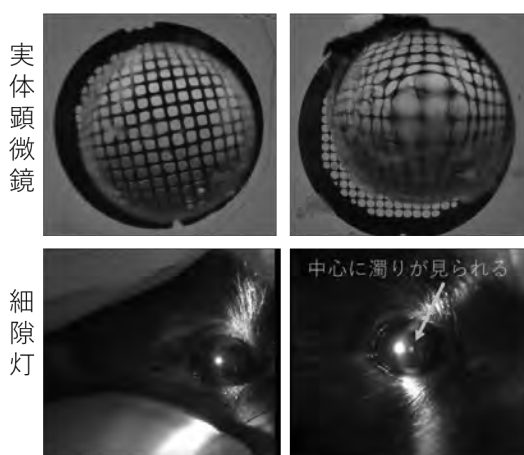
申請者らは、「放射線被ばくによって生体の抗酸化能低下状態が長期的に継続する」ことを世界で初めて報告した。本研究では、放射線災害のレジリエンスで問題となる晩期障害と抗酸化能との関係を解析し、①抗酸化能の変化は晩期障害の発症に寄与するか ②血液の抗酸化能は晩期障害のバイオマーカーとなるかを明らかにする。なお、本研究で対象とした晩期障害は白内障である。

研究の具体的な成果・波及効果

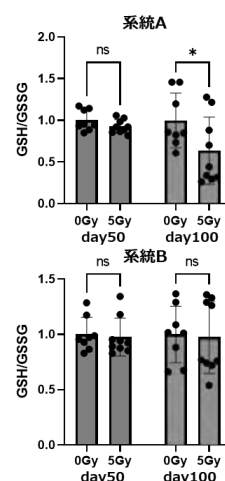
白内障の罹りやすさが異なる複数系統のマウスの全身または眼球に放射線を照射し、経時的(100日毎)に血液の抗酸化能を測定しする。照射後300, 600日に水晶体を摘出し、その混濁状態を定量化し、水晶体の抗酸化能を解析する。という計画である。本報告執筆時点では、300日目の解剖前の状態で、経時的な血液抗酸化能の測定(100日目、200日目)を実施中である。なお、2023年4月予算執行可能になり次第、水晶体を観察するための、実体顕微鏡と細隙灯を購入予定であり、水晶体の混濁状態を詳細に解析できるようになる予定である。

図表

A 水晶体の状態



B 血液抗酸化能



成果として発表した論文

Sun, L., Inaba, Y., Sogo, Y., Kunugita, N., Chida, K., & Moritake, T. (2022). Ionizing radiation reduces glutathione levels in the eye: A pilot study. *Journal of Radiation Research and Applied Sciences*, 15(2), 106-110.査読あり、国際、IF=1.77

学術論文 合計(1)編

特許・実用新案・その他の産業財産権

特開2021-169932が審査請求予定

合計(0)件のうち、A出願 計(0)、B出願 計(0)件



4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <ヒューマンレジリエンス研究領域>

研究課題名	染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響におけるレジリエンス	研究課題	(2)
研究代表者氏名	三浦 富智	職名	教授
所属機関等	弘前大学被ばく医療総合研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 三浦 富智	弘前大学・被ばく医療総合研究所
○ 鈴木 正敏	東北大学・災害科学国際研究所
○ 千田 浩一	東北大学・災害科学国際研究所
ANDERSON Donovan	弘前大学・被ばく医療総合研究所
中山 亮	弘前大学・大学院保健学研究科
竹林 花依	弘前大学・大学院保健学研究科
菊池 和貴	弘前大学・被ばく医療総合研究所

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

原子力災害被災地のレジリエンスを実現するためには、放射線の科学的根拠に基づく健康影響に関する情報共有が重要となる。本研究では福島県未成年者及び原子力緊急作業員の染色体異常解析結果と、被災ニホンザルの染色体異常解析結果を比較するとともに、被災自治体と情報共有し、レジリエンス向上への寄与を評価する。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究では、被災当時福島県に在籍していた未成年者(検査時年齢1~20歳)の染色体転座解析、原子力緊急作業員(検査時年齢27~74歳)の染色体転座解析と、汚染地域に生息する被災ニホンザル(福島県:6~18.5歳、対照地域:6~14歳)の染色体異常を比較した(図1)。被災当時18歳以下の住民の末梢血リンパ球における染色体転座頻度は平均 $0.187 \pm 0.204/100$ 細胞相当であったのに対し、原子力緊急作業員における染色体転座頻度は平均 $1.791 \pm 1.255/100$ 細胞相当であった。一方、福島県に生息するニホンザルでは平均 $1.002 \pm 0.745/100$ 細胞相当、対照地域に生息するニホンザルでは、平均 $0.615 \pm 0.811/100$ 細胞相当であった。原子力緊急作業員では医療被ばくや喫煙の影響による染色体転座頻度の増加が認められた。そこで、喫煙習慣がなく、医療被ばく歴が少ない集団である未成年者とニホンザルの結果を比較した(図2)。これらの集団は年齢分布もマッチしているため、自然放射線被ばくレベルも比較的類似していると推測される。速やかに避難し、放射能汚染食品の流通が厳格に規制されたヒト未成年者集団では、汚染地域に生息し慢性的な複合被ばくを受けているニホンザル集団に比べて染色体転座頻度が低く、放射線被ばくによる健康影響は自然放射線レベルと同程度と推測された。これらの科学的根拠をもとに、なみえ創成中学校と意見交換したところ、科学的理解と社会的許容には乖離があり、段階的なアプローチが必要であることを教授していただいた。特に、保護者の中には放射線被ばくによる健康リスクに対する潜在的不安が払しょくされていないことがあることが明らかとなった。したがって、染色体異常を指標とした原子力災害時の健康影響におけるレジリエンス向上に寄与するためには、科学的エビデンスを自治体や住民に還元するためのアプローチを再検討する必要がある。

図表

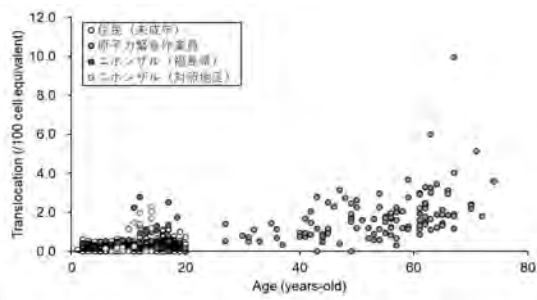


図1. 異なる集団間の染色体転座頻度の比較

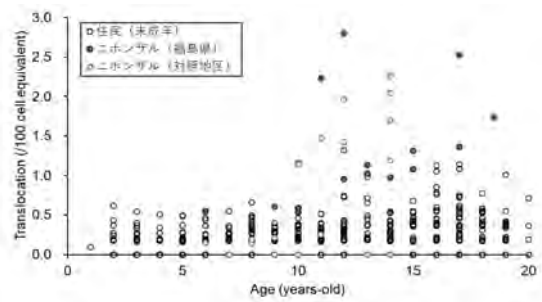


図2. 年齢がマッチする集団間の染色体転座頻度の比較

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

「第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会」(主催:鈴木正敏)

概要: 福島第一原子力発電所事故による周辺生物への影響に関する活動や研究を共有し、様々な観点からの今後の目標を共有することを目的として開催した。

参加者: 55名(オンライン参加を含む)

合計(1)件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害情報キュレーション研究領域>

研究課題名	復興期の沿岸部空間形成過程の体系化にむけて	研究課題	(2)
研究代表者氏名	井内 加奈子	職名	准教授
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 井内 加奈子	東北大学・災害科学国際研究所
高木 泰士	東京工業大学・環境・社会理工学院
近藤 民代	神戸大学大学院・工学研究科
楠 綾子	国際日本文化研究センター・研究部
地引 泰人	東北大学・災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	458,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要

インドネシア・中部スラウェシ地震の津波被災地に焦点をあて、沿岸部における空間形成過程の体系化にむけた情報の収集・整理・分析を、重要な政策文書や既存文献、報道記事、現地踏査・ヒアリングなどから行う。将来的には、被災地域再建の実証研究に役立つ、復興過程のモニタリング手法と情報整備を行う時間スケールの開発を行う。

研究の具体的な成果・波及効果

インドネシア・中部スラウェシ地震の事例で、既存文献や報道記事などの分析にもとづき *Coastal Engineering Journal* 誌から査読論文を刊行した。また、沿岸部における空間形成過程の体系化にむけ、国家・中部スラウェシ州諸政府へのヒアリングを通じて、土地利用と管理の過程に関する政策文書を収集した。復興におけるハザード低減や、移転事業の現況を各行政機関にフィードバックし、中長期的な空間形成過程への注目が必要であることを考慮してもらった。

図表



成果として発表した論文

Kanako Iuchi, Hiroshi Takagi, Yasuhito Jibiki, Tamiyo Kondo, Ayako Kusunoki, Nuraini Rahma Hanifa, Dicky Pelupessy, Rahmadiyah Tria Gayathri, Robert Olshansky, Questioning the hazard map-based rebuilding process: learning from the 2018 Sulawesi earthquake in Indonesia, Coastal Engineering Journal, Volume 65, 2023, Pages 126-148, 査読有, 国際, IF値3.289 (2021).

This work was supported by the Japan Society for the Promotion of Science under KAKENHI 20H02320 and the Earthquake Engineering Research Institute through its Learning from Earthquakes Program. Tohoku University's Co-creation Center for Disaster Resilience, partially supported this work. We are grateful to all the stakeholders who were consulted in Indonesia and to Ghazala Naeem, a member of the EERI LFE team.

学術論文 合計(2)編

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害情報キュレーション研究領域>

研究課題名	デジタル時代における震災アーカイブのマルチモーダル化の実装と認知科学的評価	研究課題	(2)
研究代表者氏名	齋藤 玲	職名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 齋藤玲	東北大学災害科学国際研究所
大内啓樹	奈良先端科学技術大学院大学/理化学研究所
○ 保田真理	東北大学災害科学国際研究所
○ 柴山明寛	東北大学災害科学国際研究所
○ 邑本俊亮	東北大学災害科学国際研究所

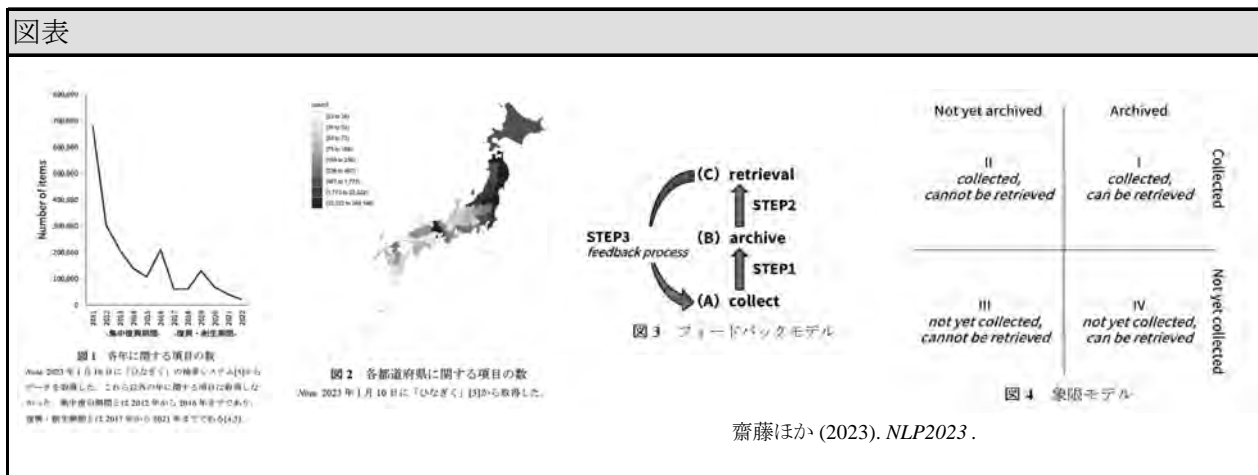
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	495,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究では、東日本大震災後に構築された震災アーカイブの利活用を促すために、震災アーカイブwebの開発と震災アーカイブの学習効果の検証に関して、自然言語処理学(広義の人工知能学)と認知科学者、教育実践学者、震災アーカイブ学を専門とする研究者とが共創して、研究に取り組んだ。震災アーカイブ並びに震災アーカイブwebの現状をまとめ、研究を展望するとともに、震災アーカイブwebの検索システムを構想し、震災アーカイブ並びに関連刺激が持つ効果検証とメカニズムの解明のための認知科学・認知神経科学の実験計画を立てた。今年度の研究を足掛かりとして、来年度にはシステムの実装と、認知科学・認知神経科学の実験を実際に行っていく。

**研究の具体的な成果・波及効果**

本研究では、震災アーカイブに関する所内研究会(2件)を行い、学会・研究会等発表(2件:国内と国際1件ずつ)を実施した。(1)所内にて人工知能研究界隈で近年の関心度が高くマルチモーダル検索に関連する自然言語処理学に関する知見を研究会にて共有するとともに、(2)日本最大の自然言語処理学に関する学会(NLP2023)において発表を行い、(3)震災アーカイブの利活用に関する議論を深め、そしてビッグデータに関する国際研究会においても震災アーカイブの利活用に関する発表を実施し、その展望を示した。また研究組織以外の研究者との合流を図り、震災アーカイブの学習効果並びにメカニズム解明のための認知科学・認知神経科学の実験計画を立てた。



成果として発表した論文

齋藤玲, 大内啓樹, 羽鳥康裕, 邑本俊亮, 杉浦元亮, 塩入諭, 柴山明寛、震災アーカイブと震災アーカイブwebに関する概念モデルの作成、言語処理学会 第29回年次大会 (NLP2023) 発表論文集、2023、2931-2934、査読無、国内

Saito, R., Shibayama, A., Etchu, K., Hatori, Y., Ouchi, H., Ikeda, K., Yasuda, M., Hasegawa, M., Muramoto, T., Sugiura, M., Shioiri, S., It's not too late to collect experiences both during and after the 311 (the Great East Japan Earthquake): Future directions of disaster archive for future memory, Symposium of Yotta Informatics - Research Platform for Yotta-Scale Data Science, 2023, 3, not-refreed, international.

学術論文 合計(2)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2023年1月6日(金)13:00-14:30、研究会、国内、所内研究者、第1回災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会「災害科学における分野横断の挑戦(齋藤玲)」、「自然言語処理と地理空間情報(大内啓樹)」、「災害科学への応用を考える(柴山明寛)」、3名

2023年3月22日(水)14:00-15:30、研究会、国内、所内研究者、第2回災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会「震災アーカイブ研究の多様性:新たな検索システムの構築を中心に(齋藤玲)」、「自然言語処理と地理空間情報:災害科学との共創を創造する(大内啓樹)」、「災害科学との共創を創造する(柴山明寛)」、4名

合計(2)件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害情報キュレーション研究領域>

研究課題名	地域自然災害アーカイブのためのプラットフォームの構築	研究課題	(2)
研究代表者氏名	小山 真紀	職名	准教授
所属機関等	岐阜大学流域圏科学研究センター		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ 小山真紀	岐阜大学
○ 柴山明寛	東北大学災害科学国際研究所
竹内裕希子	熊本大学
田中尚人	熊本大学
廣内大輔	信州大学
内山琴絵	信州大学
横山俊一	信州大学
三浦伸也	防災科学技術研究所
鈴木比奈子	栗駒山麓ジオパーク
荒川宏	災害アーカイブぎふ
伊藤三枝子	災害アーカイブぎふ
平岡祐子	災害アーカイブぎふ
中村貫志	岐阜大学

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要

岐阜県(岐阜大), 東北地域(東北大・栗駒山麓ジオパーク), 熊本県(熊本大), 長野県(信州大), 防災科  
 研の防災研究者が, これまで培ってきた地域災害アーカイブの知見を結集し, 自然災害アーカイブで最も  
 負担となっていたシステム構築, 運営, 維持管理を容易にするための連携・協働が可能なプラットフォーム構  
 築と実装の研究を行った。

研究の具体的な成果・波及効果

それぞれのアーカイブに係る取り組みにお互いの取り組みや知見が反映されてきている。2022年3月14日に  
 開催された熊本大学アーカイブシンポジウムでは, 各アーカイブ関係者が登壇, 各団体のパネル展示を行う  
 などアーカイブプラットフォームへの協働が進みつつある。

図表



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

名称:災害アーカイブぎふパネル展 岐阜県の過去の災害を知る, 開催期間:令和4年6月15日～令和5年3月2日, 区分:展示会 国内開催, 対象者:中学生、及び一般

概要:県内8か所(中学校、地区防災講座など)で行われた防災教育や講演会開催に併せて、132年前に発生した濃尾震災の被災状況の様子を紹介するパネル展を開催。参加人数:300名程度

名称:災害を経験した先輩の話をきいて ふるさとをもっと知る授業, 開催期間:令和4年7月8日, 区分:災害アーカイブワークショップ 国内開催, 対象者:小学校5年生と保護者, 概要:岐阜県下呂市金山小学校にて、親子で過去の水害をeコママップを使用しながら学び、今後発生する可能性のある水害への対応考える授業を行った。参加人数:90名程度

名称:災害アーカイブ展 令和元年東日本台風から3年, 開催期間:令和4年10月7日～18日, 区分:展示会 国内開催, 対象者:一般, 概要:長野市役所にて令和元年東日本台風で被災した長野県千曲川流域各地の被災～復興支援活動の様子について紹介する展示を行った。参加人数:100名程度

2023年3月14日(火)14:00-16:00,シンポジウム, 国内, 対象者(研究者, 学生, 行政, 住民), 熊本大学デジタルアーカイブシンポジウム「アーカイブ展の可能性と課題」, 「アーカイブ展の可能性と課題」をテーマにシンポジウムを開催した。オンラインとのハイブリット開催をし、計20名ほどが参加した。併せてくまもと水循環・減災研究教育センターデジタルアーカイブ室、東北大学、災害アーカイブぎふ、防災科学技術研究所、栗駒山麓ジオパーク推進協議会にて各地の災害や防災・減災に関してパネル展示を行いシンポジウム来場者にご覧いただいた。

合計( 4 )件



4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害情報キュレーション研究領域>

研究課題名	災害時における文化遺産救済を目的とした文化遺産マップの構築および活用の研究	研究課題	(2)
研究代表者氏名	鈴木 比奈子	職名	専門員
所属機関等	栗駒山麓ジオパーク推進協議会(9月末まで国立研究開発法人防災科学技術研究所)		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 鈴木比奈子	栗駒山麓ジオパーク推進協議会(9月末まで国立研究開発法人防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門)
○ 蝦名裕一	東北大学 災害科学国際研究所人間・社会対応研究部門
佐野浩彬	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
水井良暢	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
三浦伸也	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
吉森和城	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
半田信之	国立研究開発法人防災科学技術研究所 防災情報研究部門
原直史	新潟大学大学院現代社会文化研究科
松下正和	神戸大学地域連携推進室
佐藤宏之	鹿児島大学大学院教育学研究科

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	493,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要
<p>自然災害によって、指定文化財や民間所有の歴史資料といった文化遺産が被災するリスクに対し、東北大学が整備を進める文化遺産データベースを活用して、Web-GISを用いた文化遺産マップを構築し、災害時における文化遺産の劣化・破壊を事前に予防する手法を考案する。文化遺産に対するハザードへの曝露状況を可視化し、文化遺産の密度情報を算出し、文化遺産の被災危険度評価を行うことで、災害発生時の文化財の救済ロジスティクスや事前の予防へ寄与する。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>宮城県と岩手県を中心に、国・都道府県指定の文化財の密度可視化するために250mメッシュデータ化し、文化遺産マップへ反映した。データ解像度は、重畳を予定している防災科学技術 研究所が提供する建物被害推定データと解像度を合わせたものである。実装し、実際に文化財をレスキューをする担当者へ意見を求めたところ、目で見るとは詳細すぎるのでは、という意見も得られた。2023年2月には、東北大学災害科学国際研究所で開催されたシンポジウムへ登壇した。次に、災害廃棄物の清掃などを担当するボランティア活動の中心となる自治体の社会福祉協議会に、災害時の文化遺産救済について意見を求めたところ、文化遺産の迅速な救済を要する意図を住民へ伝達、浸透させることが結果的にボランティア活動時に反映されるのでは、と意見が得られた。実際に文化遺産の災害曝露状況のデータを構築することで、住民への文化財保護意識の醸成の可能性を得られた。</p>

図表

国土交通省の提供する浸水継続時間に重畳した文化財密度分布(オレンジ, 茶色のセル)



成果として発表した論文

鈴木比奈子・三浦伸也・佐野浩彬・水井良暢・半田信之・吉森和城, 地理空間情報で文化遺産を保全する, 歴史文化資料保全ネットワーク叢書歴史文化遺産資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書『歴史が導く災害科学の新展開VI』文化遺産を守り伝える新たな技術, 東北大学災害科学国際研究所, p27-31 (刊行作業中), 査読なし, 国内

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2023年2月24日、シンポジウム、国内、対象者(研究者、社会人、学生、一般)、シンポジウム『歴史が導く災害科学の新展開VI—文化遺産を守り伝える新たな技術』、災害時における文化遺産の救済活動推進にむけた新たな取り組みや、各機関の各種データベースを連携して活用することによる学際的研究の推進、地理空間情報を活用した文化遺産保全に関する新たな技術やこれを導入した岩手県立博物館における取り組み、50

合計( 1 )件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	南海トラフ地震臨時情報発表時における地域コミュニティ対応計画作成支援に関する研究	研究課題	(2)
研究代表者氏名	野々村 敦子	職名	教授
所属機関等	香川大学創造工学部		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 野々村敦子	香川大学創造工学部
○ 福島洋	東北大学災害科学国際研究所
金田義行	香川大学・四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
中鉢奈津子	東北大学災害科学国際研究所
高橋真里	香川大学・四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

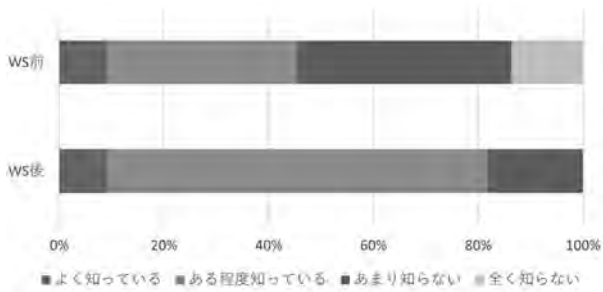
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	446,650円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要
<p>本研究では、地域コミュニティを対象として、南海トラフ地震臨時情報の認知度と南海トラフ臨時情報を活用した避難に対する考え方との関係を明らかにすることを目的として、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことを想定したワークショップを実施した。研究対象地域は香川県坂出市沿岸地域とした。この地域は、塩田を埋め立てた土地に市街地が形成されていることから、南海トラフ地震時には揺れによる建物倒壊が危惧されており、地震発生後約3時間以内に津波によって浸水すると予測されている。そのため、南海トラフ地震被害を最小限に抑えるためには、揺れおよび津波からの避難が欠かせない。以上のことより、南海トラフ地震による被害を最小限に抑える対策として、南海トラフ地震臨時情報を活用した事前避難が挙げられるが、これまでに南海トラフ地震臨時情報が発表されたことがなく、南海トラフ地震臨時情報の認知度の低さ、社会的対応が十分に検討されていない等多くの課題がある。また、対象地域では、事前避難対象地域ではないことから、自治体による避難場所の確保もされないため、情報を活用する場合、自助・共助の対応となる。事前にどのような準備をしておくことが良いかを検討するため、南海トラフ臨時情報発表時を想定したワークショップを実施した。ワークショップを進めるにあたり、東北大学災害科学国際研究所によって開発された「南海トラフ地震臨時情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージ」を参考にして、ワークショップシナリオを作成した。ワークショップを実施するにあたり、中央地区連合自主防災会の役員と事前の勉強会を行い、地域のリーダーもワークショップのファシリテータとなることで、地域の事情を加味した形でワークショップを進めた。ワークショップは2022年11月5-6日に6自治会22名を対象に実施した。南海トラフ地震臨時情報の説明は福島洋先生が担当し、ワークショップの際には中鉢奈津子先生から住民へアドバイス頂いた。ワークショップの効果を測るため、ワークショップ前後と1カ月後でアンケート調査を行い、結果を用いて南海トラフ臨時情報および事前避難に対する考え方を分析した。</p>

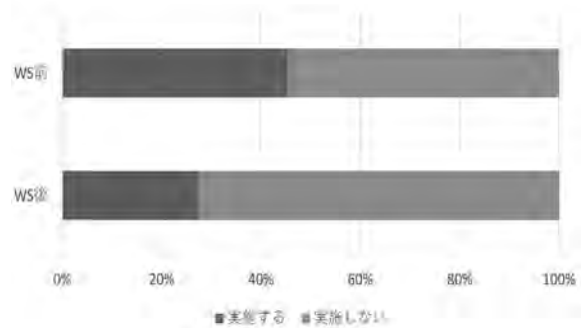
研究の具体的な成果・波及効果
<p>南海トラフ地震臨時情報の認知度と事前避難の関係について調査したところ、南海トラフ地震臨時情報について認知度が低い人ほど事前避難すると回答していることが分かった。ワークショップ前の講義およびワークショップを通して南海トラフ地震臨時情報について理解が深まると南海トラフ地震発生の危険性が高まった際に「事前避難しない」という回答に変化した。対象地域は事前避難対象地域ではないので、制度の理解が深まったと言える。一方で、連動型の地震の危険性が高まっている状況をよりリアルに想定するような取り組みが今後の課題である。</p>

図表

WS前後における南海トラフ地震臨



WS前後における「地震発生の可能性



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2022年3月10日、シンポジウム、国内、研究者、どうする南海トラフ地震(防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト, JAMSTEC)で成果の一部を発表した。「教育現場および地域コミュニティにおける防災教育を通じた人材育成手法の検討」

合計( 1 )件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	Web GISを活用した学校教員向けリスクコミュニケーション手法の高度化～学区の災害リスクの理解に基づく実践的な避難計画の社会実装に向けて～	研究課題	(2)
研究代表者氏名	桜井 愛子	職名	教授
所属機関等	東洋英和女学院大学 国際社会学部		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 桜井愛子	東洋英和女学院大学
○ 佐藤健	東北大学災害科学国際研究所
村山良之	山形大学
小田隆史	東京大学
熊谷誠	山形大学
柴山明寛	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ～ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**  
 本研究では地理院地図、重ねるハザードマップ等のWeb GISを活用した学校教員向けのリスクコミュニケーションモデルの高度化を図り、同モデルをベースとした研修を通じて学校教員が学区の災害リスクを踏まえ災害時に適切なタイミングでの安全な避難が行われるための「避難確保計画」を策定することができるようになることを目指した。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
 2022年度の研究では石巻市教育委員会の協力により、第一に水防法、土砂災害防止法の改正に基づく要配慮者利用施設における避難確保計画の作成支援、第二に宮城県の新津波浸水想定に基づく学校防災マニュアルならびに避難確保計画の見直し、第三に避難のタイミング判断のためのWeb GISをベースとした気象・防災情報の活用方法の検討を扱う予定としていた。第四にこれら研修から得られる受講者である教員からのフィードバックを得て、災害リスク情報に基づく意思決定の過程を明らかにすることを目指した(図1)。  
 具体的には研究チームがこれまでに開発し災害科学国際研究所防災教育協働センターにおいて公開しているオンライン講座「学区の地図を踏まえた災害リスクの理解」を拡充させた対面研修を6月に続いて9月に防災主任研修会で試行した(50名参加)。6月の研修では、大雨時に洪水と土砂災害がほぼ同時に発生する場合、9月の研修では2022年5月に宮城県が公表した新・津波浸水想定に基づき津波警報発表時を想定し、いずれも児童生徒等が在校時の緊急避難場所の検討についての研修を実施した。

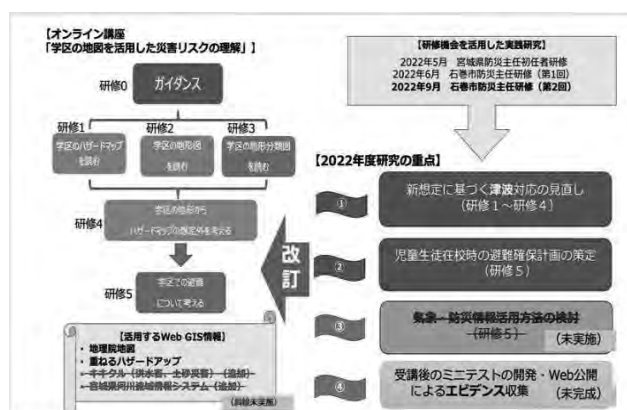


図1:本年度研究計画と達成状況

2022年6月の研修にて大雨により洪水と土砂災害がほぼ同時に発生する場合の避難確保計画について検討を行ったところ、研修内での演習資料や事後アンケートの分析から、研修を受けた防災主任教諭の約73%はハザードマップや地形図・地形分類図等で確認した災害リスクを踏まえた緊急避難場所を選択しなかったことが示された。収集された情報の分析結果からは、教員の心理として災害リスク以上に児童を校外へ避難させる際の移動のしやすさ、避難先が公共施設であるかどうか等がより重要な要因として影響を及ぼすことが示された。そのため、改めて6月の研修で扱った事例を9月の研修で再度検討し、災害リスクに基づく避難場所の検討のための「複数の緊急避難場所の選定に向けた手順」が開発された(図2)。

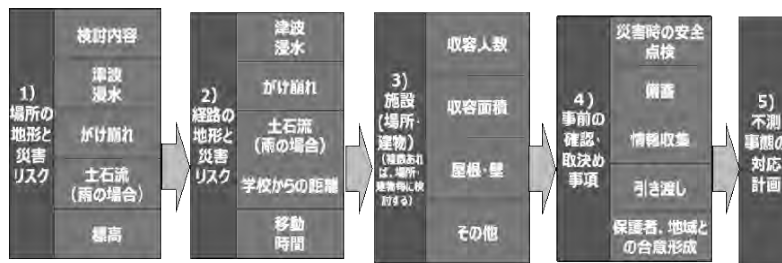


図2 複数の緊急避難場所候補を比較検討するための手順

さらに、研究の波及効果として、避難の判断については防災主任ではなく学校長の関与が重要であることが確認され、次年度は管理職を対象とした研修を実施することが決定された。結果として、2022年度研修では予定していた避難のタイミングについての研修を手掛けることができなかった(図1)。そのため、2023年度に継続して研究に取り組み、研修パッケージを完成させ、その後の学校での実践に関するフォローアップ調査を実施し、教員向けリスクコミュニケーションモデルの構築を目指すこととしている。

成果として発表した論文

A. Sakurai, Y. Murayama, T. Sato and T. Oda, Chapter 26: Climate and disaster risk reduction education. In: Shaw, R., ed., Handbook on Climate Change and Disasters, Elgar Handbooks in Energy, the Environment and Climate Change, Edward Elgar, U.K., pp.322-329, 2022,7. (査読有)

桜井愛子・村山良之・佐藤健, 地域の災害リスクを踏まえた学校防災の拡充に向けた一考察 ~防災主任の役割に着目して~, 防災教育学会第3回大会(オンライン), 防災教育学会第3回大会予稿集. (査読無)

村山良之・桜井愛子・佐藤健・北浦早苗・小田隆史・熊谷誠, 地形とハザードマップに関する教員研修, 日本地理学会2022年度秋季学術大会(香川大学) 日本地理学会発表要旨集 102, p.54, 2022,9. (査読無)

佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之, 熊谷 誠, 北浦早苗, 津波に対する緊急避難場所の学校教員による優先度評価, 令和4年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集, 2022.12. (査読無)

佐藤 健・橋本雅和・桜井愛子・北浦早苗・藤阪雄一・村山良之・熊谷誠・小田隆史ほか: 洪水災害を対象とした学校の防災管理の充実化と防災教育の実践—石巻市立大谷地小学校における事例—, 安全教育学研究, 第22巻, 第2号, 2023.3(印刷中). (査読有)

小田隆史・梨本雄太郎・林田由那・村山良之・蘆立泰典: 教員養成課程における防災教育の導入—大学独自の資格認定制度創設へ向けた実践—, 安全教育学研究, 第22巻, 第2号, 2023.3(印刷中). (査読有)

学術論文 合計(6)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2022年8月8日, シンポジウム, 国内, 教員, 令和3年度石巻市学校防災フォーラム, パネルディスカッション「地域防災連絡会を核とした防災教育の推進と防災体制の充実」パネリスト(村山), ファシリテータ(桜井), 約70名.

2022年10月31日, 講演会, 国内, 防災士, 石巻市防災士協議会主催防災セミナー「地域の災害リスクを理解する〜ハザードマップを読む」(桜井), 約50名. □

2023年2月2日, セミナー, 国際, 研究者・教員, 台湾教育部による「台湾防災ジュニアリーダーによる宮城県訪問」の受け入れにおける講演「地図を活用した災害リスクの理解」(桜井), 35名.

2023年3月25日, シンポジウム, 国際, 研究者, NGO関係者, ルーマニア教育省, 財務省, 日本大使館, Knowledge Exchange Workshop on school disaster preparedness funded by Japan-World Bank Program for Mainstreaming Disaster Risk Management in Developing Countries, managed by the Global Facility for Disaster Reduction and Recovery, 60名

合計(4)件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	千島海溝の巨大津波地震対策を支える災害総合知の創出	研究課題	(2)
研究代表者氏名	高橋 浩晃	職名	教授
所属機関等	北海道大学大学院理学研究院		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 高橋浩晃	北海道大学大学院理学研究院
○ 福島 洋	東北大学災害科学国際研究所
林 能成	関西大学社会安全学部

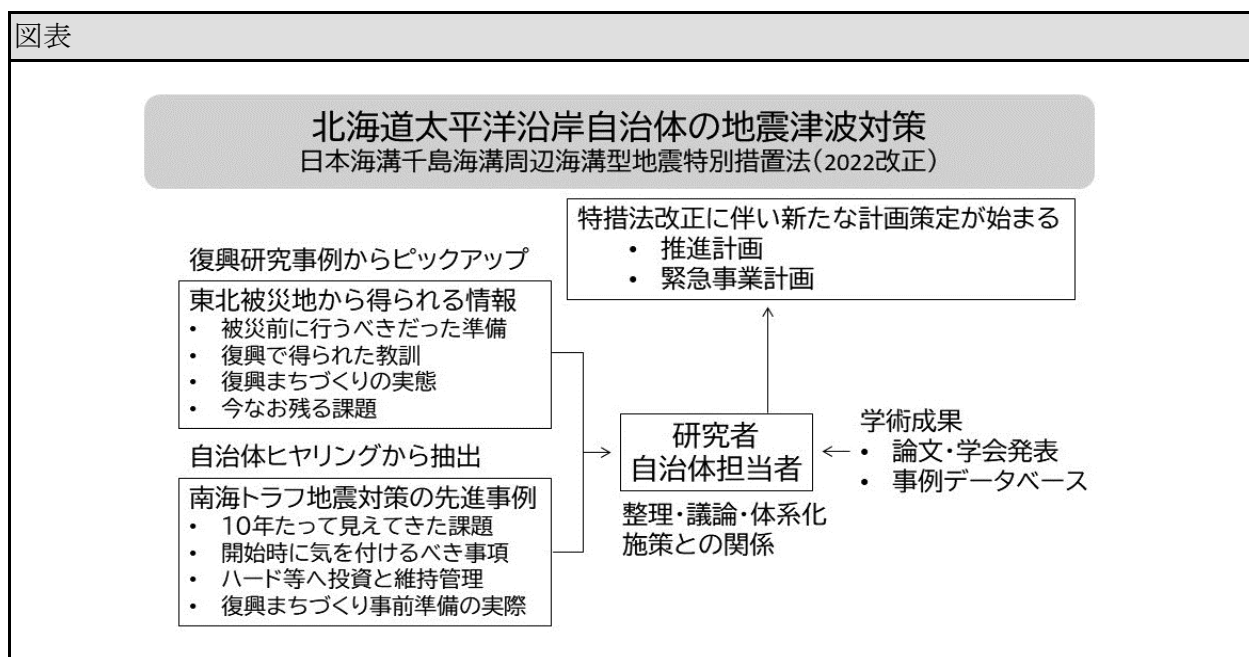
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	499,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

国は千島海溝で超巨大地震発生が切迫と評価し数万人以上の死者を想定しており、自治体ではハード・ソフト対策の検討が始まっている。東北被災地や南海トラフでのハザード・リスク研究で蓄積された知見を活用可能な総合知として統合し、北海道のレジリエントな次世代まちづくりに生かすためのアクションリサーチを展開する。

**研究の具体的な成果・波及効果**

東日本大震災の復興や南海トラフ地震対策が進む地域で明らかになった課題をヒヤリングを通じて自治体の職員と共有・整理を行い、自治体での活用方法について検討を行った。気候や自治体規模に加え、それぞれの地域の将来構想や地域力が大きく影響を与えることが改めて浮彫になった。研究を通じて振興局を超えた自治体間連携が構築され、検討作業を通じた自治体人材の育成も行われた。得られた知見を生かして、冬季備蓄体制の底上げや避難タワー配置設計が効果的に行われつつある。



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2022年8月24日、勉強会、国内、自治体職員、自動車避難に関する研究会を実施し、北海道立総合研究機構から道内の取り組み事例や関係する被害想定結果について説明を受けた、参加人数10名

2022年12月19日、ワークショップ、国内、研究者・自治体職員、東日本大震災の復興過程で明らかになった課題を整理するとともに、千島海溝地震対策の状況を共通理解とし、今後取り組むべき事項の議論を行った、参加人数8名

2023年3月22日、合同ヒヤリング、国内、自治体職員、高知県の2つの市において南海トラフ対策として取り組んできた施策で明らかになった課題等をヒヤリングを行い、千島海溝地震対策で留意すべきポイントを整理した、参加人数10名

合計(3)件



4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

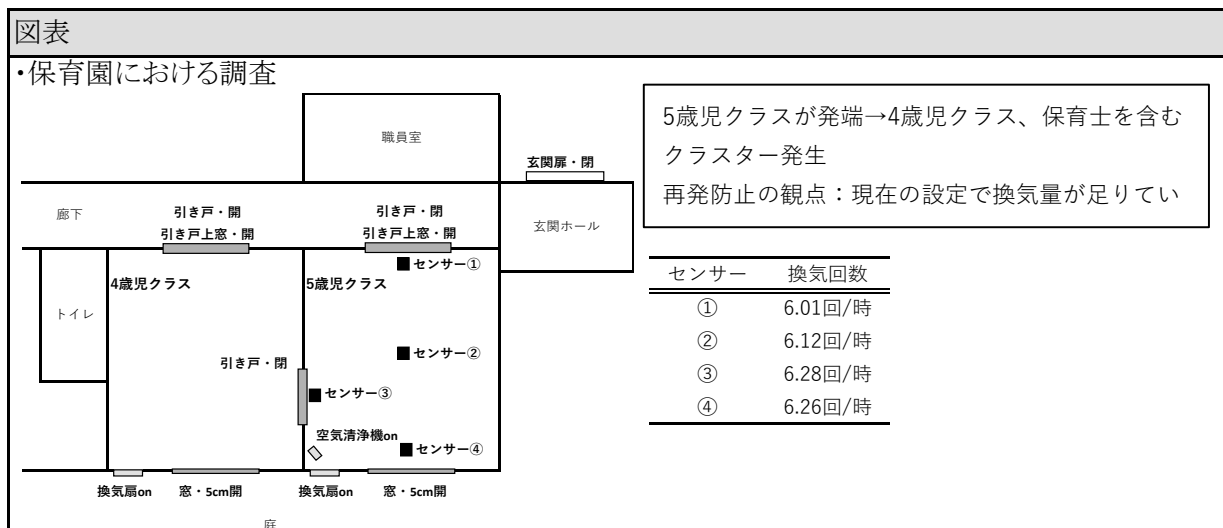
研究課題名	新型コロナウイルス感染症クラスター再発防止対策：CO2濃度を指標とした換気調査～特に保育施設、介護施設について～	研究課題	(2)
研究代表者氏名	喜多村 紘子	職名	准教授
所属機関等	産業医科大学産業医実務研修センター		

研究組織 (◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 喜多村紘子	産業医科大学産業医実務研修センター
○ 千田浩一	災害科学国際研究所
○ 稲葉洋平	災害科学国際研究所
盛武敬	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所
石垣陽	電気通信大学大学院情報理工学研究科
横川慎二	電気通信大学i-パワードエネルギー・システム研究センター
斎藤彰	宮城県結核予防会

期間	令和4年7月11日 ～ 令和5年3月31日	経費	493,000円
----	-----------------------	----	----------

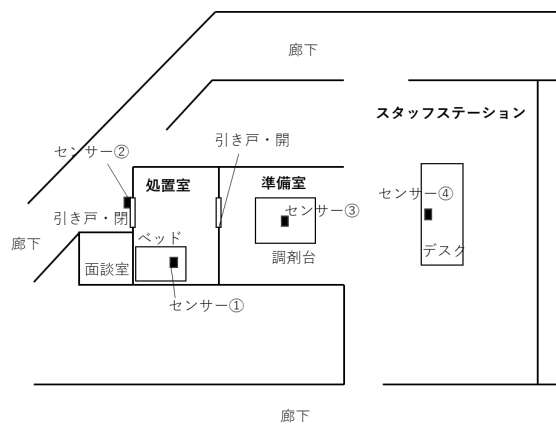
**研究の概要**  
 新型コロナウイルスの感染経路として接触感染、飛沫感染に加えてエアロゾル感染が認められ、換気的重要性が再認識されている。本研究ではCO2濃度を指標として、仙台市内の新型コロナウイルス感染症クラスターが起こった、特に保育施設・介護施設を対象として換気調査を行い、効果的なクラスター再発防止対策を提案する。

**研究の具体的な成果・波及効果**  
 クラスターの発生した保育園、医療機関を対象に換気調査を実施し、結果を踏まえて現場の責任者、担当者等と意見交換し、改善策の提案を行った。また、これまでの調査結果や現場調査で経験した事例に基づき、保育園における感染対策・間違い探しワークショップを開催した。ワークショップの様子は、個人情報に配慮した対応を行った上でyoutubeで閲覧できるように公開した。研修会・勉強会等での発表や換気対策ガイドブックの作成協力、保育関連の雑誌記事や保健指導に係るWebサイトへの記事の掲載により、論文発表以外でもこれまでの調査で得られた知見を、広く還元することができた。

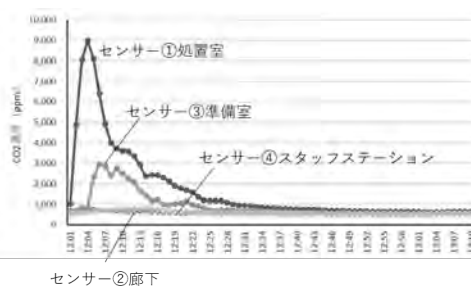


・医療施設における調査

不穩のCOVID-19陽性患者を処置室で見守り、看護を行った後、患者、スタッフ間で感染拡大  
 Standard precautionは徹底→エアロゾル感染が疑わしい  
 再発防止の観点：当時はどの程度換気できていたか？



センサー	換気回数
①	3.85回/時
②	1.14回/時
③	4.70回/時
④	— (外乱が大きく計算不能)



成果として発表した論文

Ishigaki Y, Yokogawa S, Minamoto Y, Saito A, Kitamura H, Kawauchi Y. Pilot Evaluation of Possible Airborne Transmission in a Geriatric Care Facility Using Carbon Dioxide Tracer Gas: Case Study. JMIR Form Res. 2022 Dec 30;6(12):e37587. 査読有. 国際.

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催(

2022年5月9日、研究会、国内、対象(研究者、大学院生)、オリオンゼミ、2021年度に獲得した研究費で実施した換気調査の結果を発表し、特に職場での換気対策への応用についてディスカッションした、参加人数60名程度

2022年8月28日、医師会研修会、国内、対象(医師)、京都府医師会研修会、換気調査の結果を発表し、対策案等をディスカッションした、参加人数200名程度

合計( 2 )件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	住民間の「知」の循環による「地域脱炭素」推進過程での総合的レジリエンス向上の試み:長崎県五島列島を事例に	研究課題	(2)
研究代表者氏名	甲斐 智大	職名	助教
所属機関等	岐阜大学地域科学部 (現在:大分大学経済学研究科准教授)		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 甲斐智大	岐阜大学地域科学部
○ 原裕太	東北大学災害科学国際研究所

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

本研究は 2050 年以降の自然共生社会を見据え、カーボンニュートラルを実現する過程での地域の災害レジリエンスに注目する。とくに域内での電力自給化と外部人材受入れを始めた先進地、長崎県・五島列島を対象として、新・旧住民の意思疎通を通じた「知」の循環による総合的なレジリエンス向上の可能性と課題に焦点を当てる。

**研究の具体的な成果・波及効果**

脱炭素を進める五島市未来創造課ゼロカーボンシティ推進班の担当者や、福江商工会議所会頭、島外からの視察の受入れを担当する五島市観光協会の担当者、市議会の与野党議員らへの聞き取り調査を行い、再生可能エネルギーの普及状況、今後の見通し、導入されるまでの流れや懸念等を確認でき、五島ゆえの特徴と、他所で展開する場合の課題等が明らかになった。さらに土地利用を評価する過程では、歴史的な集落立地と宗教対立(潜伏キリシタン問題)が重要な役割を果たしていることが明らかとなり、更なる調査を行うこととなった。以上は、従来のキリシタン迫害史・民俗史からも、近年の観光化・地域振興の観点からも抜け落ちてきたキリシタン集落が抱える災害リスクの特徴と背景を明らかにすることに繋がる。

**図表**



図1. 斜面に広がるキリシタン集落



図2. 計画中の洋上風力の模型と工事の様子 (福江港にて撮影)

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	「仙台防災枠組」進捗レビューの先駆的取組み： 仙台市との協働・実践を通じて	研究 課題	(2)
研究代表者氏名	原 裕太	職 名	助教
所属機関等	東北大学災害科学国際研究所		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏 名	所 属 機 関 名
◎ 原 裕太	東北大学災害科学国際研究所
○ 坂本 壮	東北大学災害科学国際研究所
○ 小野裕一	東北大学災害科学国際研究所
西川 智	名古屋大学減災連携研究センター
○ 佐々木大輔	東北大学災害科学国際研究所

期 間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経 費	500,000円
-----	-----------------------	-----	----------

研究の概要

本研究では、仙台市と協働することにより、同市の各部署に横断する災害被害統計を一元的に収集、分析し、世界初の試みとして同枠組の掲げるグローバル目標に対する地方自治体レベルの総合的な実態把握、ならびに被害情報収集過程の課題を明らかにする。

研究の具体的な成果・波及効果

成果として、枠組の掲げる目標(死亡者・被災者・経済的損失・重要インフラの被害を減少させること等)は達成中であること、一方で風水害だけの場合は物的被害(家屋・事業所の損壊等)や農業水産関連被害等が増加傾向にあることが明らかとなった。本成果は仙台市における今後の 政策や市民意識の向上、国内外の政府・自治体の取組みの進展、さらに2023年5月にニューヨーク国連本部で開催予定の「仙台防災枠組」中間評価会合での議論に貢献することが期待される。

図表

表1. 本研究で使用した各グローバル指標に関する被災データの種類と所管先

被害の種類別	データ・資料名	所管部署	関係する評価指標
死亡者等	災害弔慰金支給台帳	健康福祉局	A-2、A-3
負傷者等	救急搬送入院記録	消防局	B-2
住居	罹災証明書発行支援システム	財政局	B-3、B-4、B-5、C-3、 C-4、C-5
農業	被害状況調査整理報告票、 農作物等被害報告書、被害 状況確定報	経済局	B-5、C-2
医療施設	福島県沖地震被害状況報告	健康福祉局	C-5、D-2、D-6
教育施設	教育施設の被害・休校状況 等回答様式	教育局	C-5、D-3、D-7
文化財	文化財の災害復旧に係る補 助事業一覧	教育局	C-6
下水道施設	下水道施設に係る災害査定 一覧	建設局	C-5、D-4、D-8

成果として発表した論文
仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室・東北大学災害科学国際研究所2030国際防災アジェンダ推進オフィス 発行『仙台防災枠組 2015-2030に係る中間評価報告書』, 2023年, 59p. (付属資料 49p.), 査読なし.
仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室・東北大学災害科学国際研究所2030国際防災アジェンダ推進オフィス 発行『共同事業 仙台市版仙台防災枠組み中間評価の概要』, 2023年, 4p., 査読なし.
Disaster-Resilient and Environmentally-Friendly City Promotion Office, Sendai city & 2030 Global DRR Agenda Office, IRIDeS, Tohoku University. <i>Summary of the Midterm Review of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction.</i> 2023, 4p.
仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室・東北大学災害科学国際研究所2030国際防災アジェンダ推進オフィス 発行『共同事業 仙台市版仙台防災枠組み中間評価の概要—データ編—』, 2023年, 7p., 査読なし.
Disaster-Resilient and Environmentally-Friendly City Promotion Office, Sendai city & 2030 Global DRR Agenda Office, IRIDeS, Tohoku University. <i>Summary of the Midterm Review of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: Data Edition.</i> 2023, 7p.

学術論文 合計(5)編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催
2023年3月10日, シンポジウム, 国際, 対象者(一般), World BOSAI Forum 2023 郡和子・仙台市長キーノートスピーチ.

合計(1)件

4つの重点研究領域の研究内容に関連し、災害レジリエンスの向上に貢献する研究  
 <災害レジリエンス共創領域>

研究課題名	気象災害時における時空間周遊行動動態に基づく災害リスク評価	研究課題	(2)
研究代表者氏名	Sunkyung Choi	職名	
所属機関等	東京工業大学環境・社会理工学院		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)

氏名	所属機関名
◎ Sunkyung Choi	東京工業大学環境・社会理工学院
○ 奥村誠	東北大学災害科学国際研究所
花岡伸也	東京工業大学環境・社会理工学院
Alvin Christopher Galang Varquez	東京工業大学環境・社会理工学院

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	459,000円
----	-----------------------	----	----------

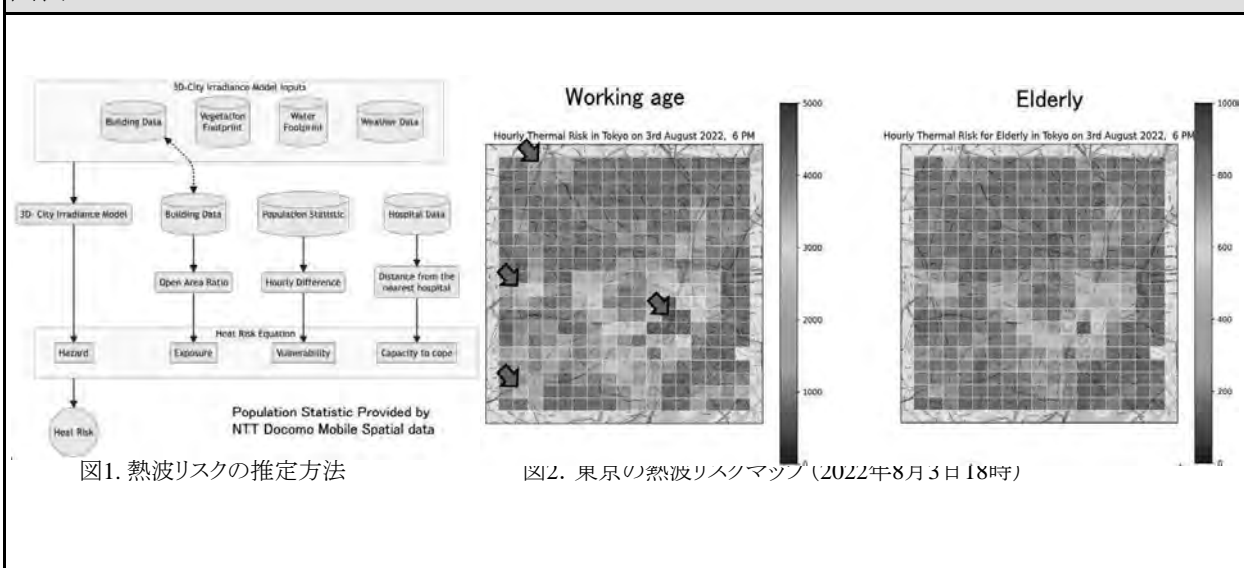
研究の概要

観光危機管理の観点から、大都市観光地における災害リスク評価を目的として、観光客の時空間周遊行動を通常時と災害時の別に、人の位置情報データ、気象データ、観測データなど複数のデータベースを用いて多角的に分類し、滞留状況の違いなどを高齢者の動態の特徴を明らかにする。

研究の具体的な成果・波及効果

本研究では観光地における熱波による人の熱波リスクをシミュレーションと観測により分析をした。図1により熱波リスクマップ作成し、熱波リスクはハザード×脆弱性×露出/対応能力と定義する。都内の主要観光地として新宿・渋谷・池袋・東京駅で実験を行う。熱波リスクは東京駅付近が高く計測され、特に職場から家に帰る時間帯に一番高い。これは高い脆弱性が要因として考えられる。気象学のシミュレーションに滞留情報を重ねることにより、具体的な気象災害対応に資する提言を行う。

図表



シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

Varquez, A.C.G., Taerakul, J., Renard, F., Alonso, L., Hiroki,R., Ashie, Y.,Inagaki, A., Kanda, M., Choi, S., Okumura,M., Hanaoka,S. (2023) High-resolution heat-risk modeling and comparison of downtown areas of two cities on extreme hot summer days of 2022, The 11th International Conference on Urban Climate (ICUC11),28 Aug - 1 Sept 2023, Sydney, Australia.(国際学会、対象者:研究者・社会人・学生、約600名、発表予定)

合計( 1 )件

## 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

研究課題名	長期化したCOVID-19パンデミックによる心理的影響についての地域特性の検討	影	研究課題	(3)
研究代表者氏名	奥山 純子		職名	助教
所属機関等	東北大学病院リハビリテーション科			

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 奥山 純子	東北大学病院 リハビリテーション科
○ 門廻 充侍	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門
福田 雄	ノートルダム清心女子大学

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	500,000円
----	-----------------------	----	----------

研究の概要
<p>COVID-19感染症流行後、これまで申請者らは心理的影響に関するWeb調査を計5回行ってきた。本研究で実施したWeb調査(2022年8月31日-9月1日、第6波ピークアウト相当)の結果を加え、長期化したCOVID-19感染症流行下におけるメンタルヘルスの縦断研究を行った。得られた結果と人流データによる地域特性との関連の基礎検討を行い、地域特性に即したメンタルヘルスの改善点を整理した。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>(1)これまで5回行ったWeb調査に加え、本プロジェクトでは第6回目の調査を行った。調査時期(2022年8月31日-9月1日)は、第6波のピークアウトに相当する。心理状態は第2回目の調査時(2020年9月25-26日、第2波ピークアウト相当)が最も悪く、その後は正常化していることが示された(図1)。</p> <p>(2)第2回目と第6回目の調査時に人口100万人あたりの感染者数の最小人数であった岩手県と最大人数であった東京都を対象とし、主要駅の周辺について人流データを調査し、各県在住者との心理調査との関係を検討した。これまで日本においては、人口密度やアクセスビリティの低い地域の居住者は抑うつ傾向が高く自殺率が高いとされてきたが、COVID-19パンデミック下においてはこれまでと逆に、人の行き来の多い地域での心理状態の悪化が示された(図3)。</p> <p>(3)これまでの調査においては、地域の自殺率を低下させるためにアクセスビリティを高め、人とのつながりを強化することの有効性が示されていた。しかし本研究が対象としたCOVID-19パンデミック下のような感染症蔓延下においては、アクセスビリティが高いことによる精神症状の悪化が考えられることが明らかになった。今後もインフルエンザやサル痘、さらに新種の感染症の蔓延が考えられ、日本における新しいつながりのあり方が必要であることが示された。</p>



図表

図1: COVID-19の感染状況とこれまで実施したWeb調査時期の関係と心理スコア(DASS-21)の推移

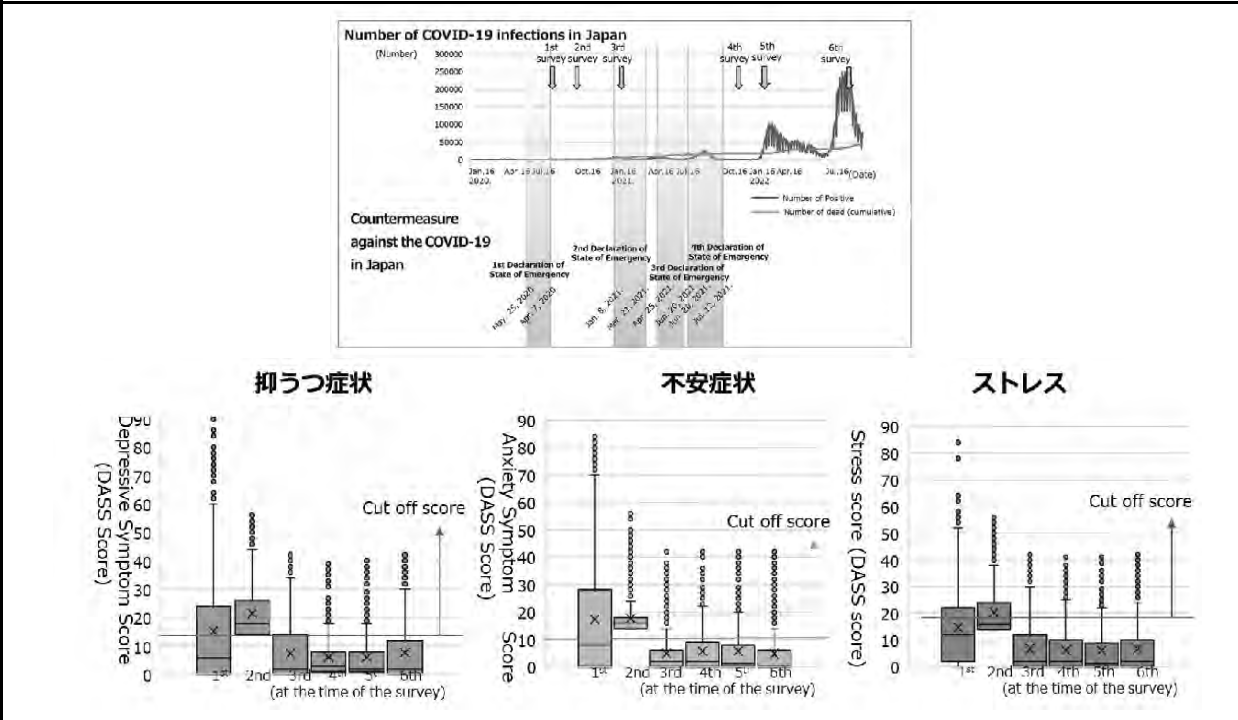
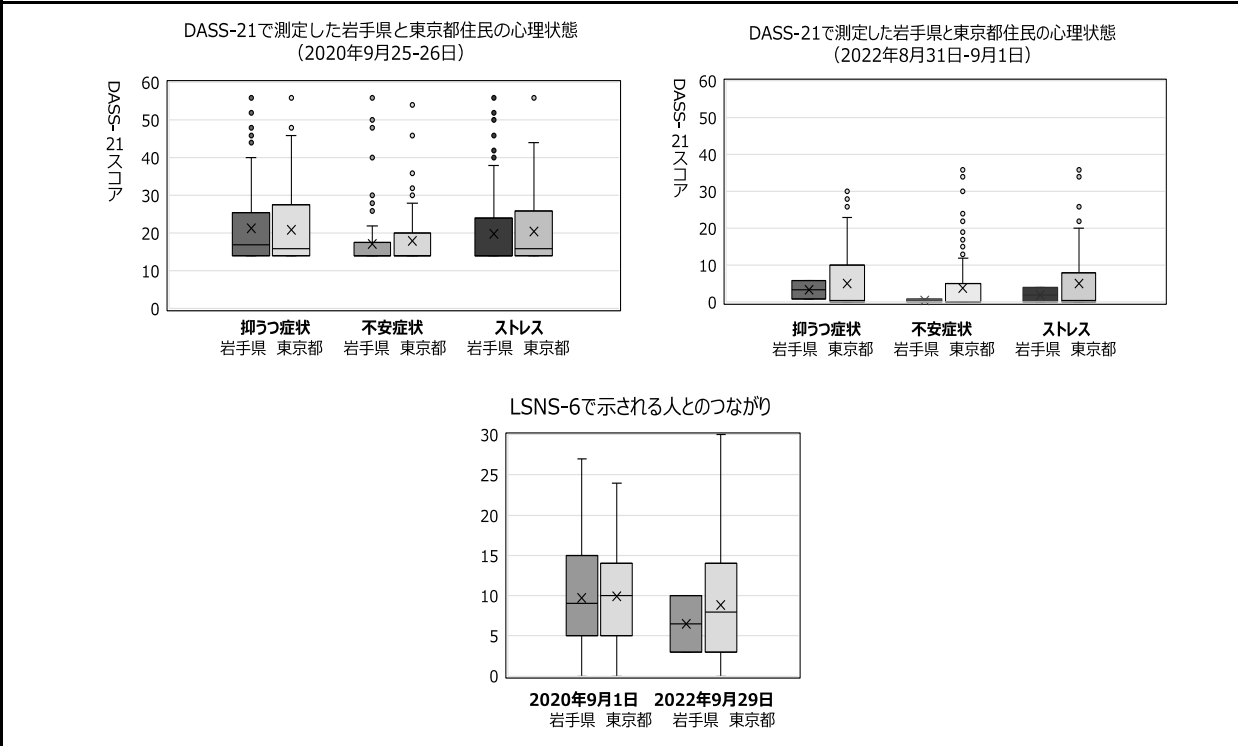


図2: 岩手県および東京都における第2回および第6回調査時のDASS-21, LSNS-6スコア



成果として発表した論文

奥山純子, 門廻充侍, 福田雄, 伊藤潔, 出江紳一, 今村文彦: 長期化した新型コロナウイルス 感染症流行下における自己肯定感が精神状態に及ぼす影響, 第76回東北精神神経学会総会, 口頭発表(一般), 2022.

奥山純子, 門廻充侍, 伊藤潔: 長期化したCOVID-19パンデミック下の心理状態に対する自己評価の役割, 第28回日本災害医学会総会・学術集会, ポスター発表(一般), 2023.

学術論文 合計(2)編

## 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

研究課題名	人流データの時系列変動分解に基づく災害レジリエンス情報の検出と比較	研究課題	(3)
研究代表者氏名	山口 裕通	職名	助教
所属機関等	金沢大学理工研究域地球社会基盤学系		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 山口裕通	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系
○ 奥村誠	東北大学 災害科学国際研究所
小川純平	金沢大学 自然科学研究科 地球社会基盤学専攻
Felim Albert	金沢大学 自然科学研究科 地球社会基盤学専攻

期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	72,000円
----	-----------------------	----	---------

研究の概要
<p>本研究では、大規模な時空間データである人流データのパターン分解によって、突発的な変化を検出・評価するアプローチの開発・改良を行う。そして、近年に日本で発生した移動行動の突発的な減少事象(災害ダメージ)とその回復過程を定量的に明らかにし、豪雨・地震等を含む、複数の災害事象の間での比較を行う。</p>

研究の具体的な成果・波及効果
<p>災害研より提供いただいた人流データを活用して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の変動を扱いつつ、「災害がなかった時の予測値」を算出する予測モデルの開発・改良</li> <li>・ 近年に発生した複数の移動行動の突発的な減少事象の解析</li> </ul> <p>の2点を実施した。</p> <p>とくに、後者の分析においては、2022年8月4日に梯川の洪水による石川県小松市での行動変化についてより重点的に解析を実施した。これまでの研究で、同じフィールドで実施していた回復過程の情報があり、それと比較することで、避難勧告・緊急速報メール等の情報提供に対する人々の行動変化と回復過程の差異を携帯電話のデータから明らかにした。図-1は、2017年8月8日の小松市中心部・梯川浸水想定区域内の滞在人数の推移である。なお、このときはこの地域で緊急速報メールが初めて運用された事例であり、浸水被害までには至らなかった。このときは、避難勧告ではほとんど行動が変わらず、緊急速報メールでも流入量増加を抑える効果にすぎなかった。その一方で、図-2が、観測史上最高水位を記録して越水による被害が発生した2022年8月4日の同じ場所の滞在人数推移である。この時は、氾濫危険水位に達した時点から推測された通常パターンと比較して大幅な滞在人数の減少(浸水想定区域を回避する行動)が記録されていることがわかる。これらの情報から、2022年の災害時には、行動変化を促すことができた一方で、回復に時間がかかっていることを、時系列変動分解により定量的に明らかにできた。</p>

図表

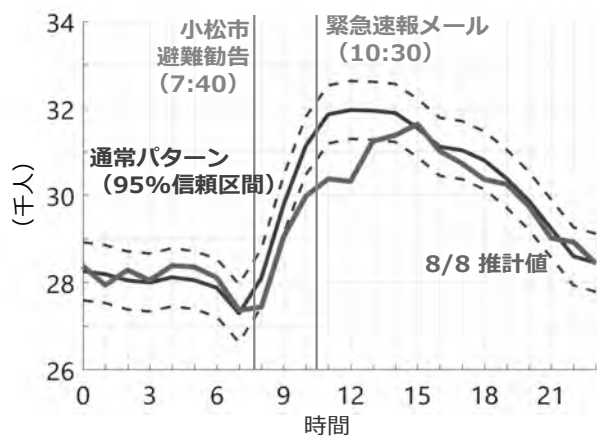


図-1 2017年8月8日のパターン変化の推定結果

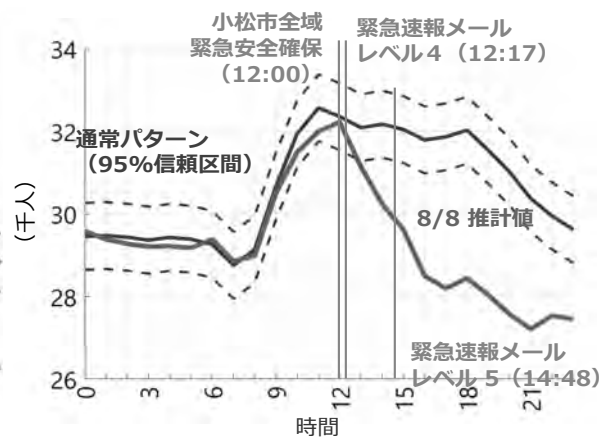


図-2 2022年8月4日のパターン変化の推定結果

成果として発表した論文

Albert Felim, Hiromichi Yamaguchi: Time Series Models with Consideration of the Holiday Patterns for Domestic Long-Distance Travelers, 26th ATRS world conference, アブストラクト査読・国際会議 proceedings, (採択済み, 2023年7月発表予定)

学術論文 合計(1)編

## 人流データを活用した社会動態の解明に関する研究

研究課題名	モバイル空間統計を活用した集客施設別の混雑と遊休に関する分析	研究課題	(3)
研究代表者氏名	塚井 誠人	職名	
所属機関等	広島大学大学院 先進理工系科学研究科		

研究組織(◎ 研究代表者、○ 災害研担当教員)	
氏名	所属機関名
◎ 塚井 誠人	広島大学
○ 奥村 誠	東北大学災害科学国際研究所
田中 貴宏	広島大学
田村 将太	広島大学
一万田 凌	広島大学

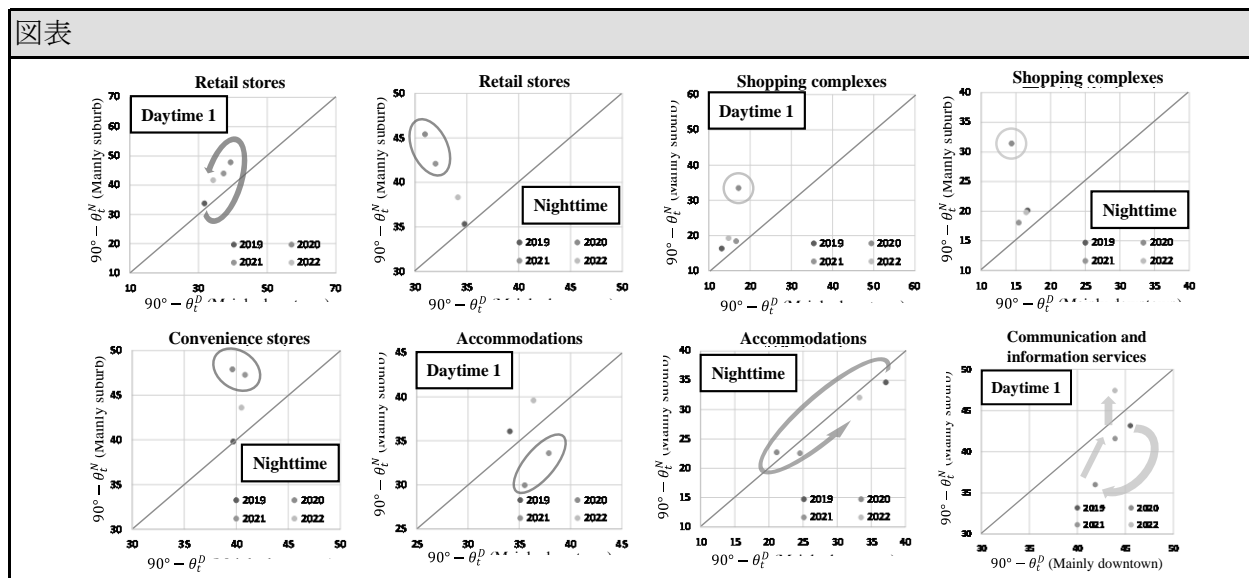
期間	令和4年7月11日 ~ 令和5年3月31日	経費	494,000円
----	-----------------------	----	----------

**研究の概要**

ここ数年のコロナウイルス(以下コロナ)の蔓延によって、都市内各地区で不均一に人流が変化している。本研究では、まず滞在人口データにエシェロンスキャン法を適用して、東京都市圏全域から人流集積地点をHotspotとして抽出する。次に人流集積地点の滞在人口データにNMFを適用して、人流集積の時間変動パターンとそれらの空間分布を抽出する。最後に、抽出した人流集積と施設立地の空間相関を把握して、コロナが各施設・業種に与えた影響を明らかにする。

**研究の具体的な成果・波及効果**

東京都心・川崎・横浜・八王子を対象として、2019年から2022年までの4年間の5月第4週の平日5日分の0時～23時それぞれの人流集積と時間分布パターンを明らかにした。コンビニや大型総合店舗等の生活関連施設は、一時的な需要減の後、2022年にはほぼ2019年の需要が回復していた。宿泊施設は都心の昼間利用増と都心・郊外の利用減が見られ、施設活用方法の見直しが必要と考えられた。情報通信業は、コロナ蔓延後徐々に、夜/郊外側で人流集積との空間相関が強まっており、リモートワークの影響が考えられる。本研究の成果は、Withコロナ社会の都市空間の活用方策に用いることができる。



成果として発表した論文

塚井誠人, 田中優大:COVID-19下における業務目的のオンライン／対面会議に関する調査, 第36回応用地域学会研究発表大会(山梨大学), 2022, 査読無し, 国内.

学術論文 合計( 1 )編

シンポジウム・講演会・セミナー等の開催

2022年4月15日(シンポジウム), 国内, 研究者および社会人対象, 空間統計モデルの展望(土木計画学ワンデーセミナー104) & 広島大学科研研究会, 本研究会内で申請課題のテーマについて一万田凌が発表を行った. 参加者は会場14名, オンライン28名.

合計(1)件

## 4 研究活動

### (3) 専任教員の研究・教育・社会活動



# 木戸 元之 教授

## KIDO Motoyuki

災害評価・低減研究部門 海域地震学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	青山学院大学	理工学部	1991	3	東京大学大学院	理学系研究科	1996	3	博士(理学)	1996	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	2	1996	5	チェコ共和国チャールズ大学 数学物理学部 地球物理学科	研究員
2	1996	5	1996	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
3	1996	9	1996	10	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
4	1996	11	1997	9	東京大学 海洋研究所	中核の研究機関研究員
5	1997	10	1999	12	東京大学 海洋研究所	日本学術振興会 特別研究員
6	2000	1	2002	3	海洋科学技術センター	科学技術振興事業団 科学技術特別研究員
7	2002	4	2002	12	海洋科学技術センター	日本学術振興会 特別研究員
8	2003	1	2003	4	アメリカ合衆国ミネソタ大学 スーパーコンピューター研究所	研究員
9	2003	4	2003	4	神戸大学 地球惑星科学科	非常勤職員
10	2003	5	2004	3	神戸大学 内海域機能教育研究センター	科学技術研究員
11	2004	4	2006	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
12	2006	4	2006	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
13	2006	6	2007	3	東北大学大学院 理学研究科	産学官連携研究員
14	2007	4	2010	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
15	2010	4	2010	5	東北大学大学院 理学研究科	教育研究支援者
16	2010	6	2011	7	東北大学大学院 理学研究科	准教授(外部資金雇用)
17	2011	8	2012	3	東北大学大学院 理学研究科	准教授
18	2012	4	2015	9	東北大学 災害科学国際研究所	准教授
19	2012	4	2015	3	海洋研究開発機構	招聘研究員
20	2015	4	現在		海洋研究開発機構	客員研究員
21	2015	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
22	2019	10	2020	3	広島大学 理学研究科	客員教授(非常勤講師)
23	2021	4	2023	3	東京大学 地震研究所	客員教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本地震学会	日本測地学会	American Geophysical Union	European Geosciences Union						

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	海洋研究開発機構	研究航海検討委員会	アドバイザー	20200520
2	日本測地学会	評議会	評議員	20220000
3	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会	2号委員	20190401
4	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会	推進室員	20210401
5	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会予算委員会	委員	20190401
6	地震・火山噴火予知研究協議会	地震・火山噴火予知研究協議会予算委員会	委員長	20210401
7	東京大学大気海洋研究所	研究船共同利用運営委員会	研究船運航部会委員	20210401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	固体地球惑星物理学	海底測地学	海底地殻変動		

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学術資源研究公開委員会	委員	20150401
2	全学	災害科学研究拠点	領域長	20220000



B. 研究活動

研究活動の概要

東北地方太平洋沖地震の地震時震源過程震源過程、および地震後の余効変動を、海底地殻変動観測技術を高度化して正確に計測することにより、海溝型巨大地震の全体像を捉え、今後の周辺領域への波及の可能性、南海トラフでの巨大地震発生予測に役立てる。また、北海道大学や東京海洋大学など、新規に海底地殻変動観測に参入する機関への技術移転を実施する。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携	
	開始年	月	終了年			
1	1991	4	1996	3	マントルダイナミクスに関する研究	国外
2	1996	2	2003	3	マントル粘性構造に関する研究	国外
3	2003	4	2004	3	海底電磁気探査に関する研究	国内
4	2004	4	現在		海底地殻変動観測に関する研究	国内
5	2013	4	2020		ニュージーランド・ヒ克蘭ギ沈み込み帯に関する測地学的研究	両方
6	2013	4	現在		トルコ・マルマラ海における海底断層活動のモニタリング	両方
7	2017	4	2020		メキシコ・グレロ地震ギャップでの測地観測による地震逼迫度調査	両方
8	2019	4	現在		Wave gliderを用いた海底地殻変動観測の自動化	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	An approximate travel time calculation and a robust GNSS-acoustic positioning method using an MCMC technique	Tomita, F., and M. Kido	Earth, Planets and Space	74	176			20221202

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍洋、他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	6	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)
										開始年月	終了年月			
1	国内	日本地球惑星科学連合 2022年大会	稲津大祐・中 村優斗	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッ セ	千葉	日本	20220522	20220522	20220527	東北沖におけるウェーブグライダーを 活用したGNSS音響海底地殻変動観測	<u>富田史章</u> , 飯沼卓史, 木 戸元之, 太田雄策, 本 荘千枝, 福田達也
2	国内	日本地球惑星科学連合 2022年大会	沖野郷子・田 所敬一	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッ セ	千葉	日本	20220529	20220603	20220529	東京海洋大学練習船「沙路丸」による 海底地殻変動観測	<u>岡山悠空</u> , 中東和夫, 鹿 島英之, 酒井久治, 木 戸元之
3	国内	日本測地学会第138回 講演会	飯沼卓史・木 戸元之	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大 学稲盛会 館	鹿児島	日本	20221005	20221007	20221005	様々な海況下でのウェーブグライダー の運動姿勢について	<u>木戸元之</u> , 飯沼卓史, 福 田達也, 太田雄策, 富 田史章
4	国内	日本測地学会第138回 講演会	飯沼卓史・木 戸元之	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大 学稲盛会 館	鹿児島	日本	20221005	20221007	20221005	ウェーブグライダーを用いたGNSS-音響 測距結合方式の海底地殻変動観測(そ の3)	<u>飯沼卓史</u> , 木戸元之, 福 田達也, 太田雄策, 富 田史章, 有吉慶介, 永 野憲, プラタマルティネ スライムンド, 日野亮 太, 高橋浩見, 堀高峰
5	国内	日本地震学会2022年度 秋季大会	大園真子	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	北海道立 道民活動 センター 「かでる 2・7」	札幌市	日本	20221024	20221026	20221024	千島溝沿い根室沖における海底測地 観測	<u>富田史章</u> , 木戸元之, 太 田雄策, 日野亮太, 飯 沼卓史, 本荘千枝, 大園 真子, 高橋浩見
6	国内	日本地震学会2022年度 秋季大会	N/A	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道立 道民活動 センター 「かでる 2・7」	札幌市	日本	20221024	20221026	20221024	東北沖における近年のGNSS音響海底測 地観測とその成果	<u>富田史章</u> , 木戸元之, 飯 沼卓史, 太田雄策, 本 荘千枝, 日野亮太, 野 徹, 中東和夫
7	国際	EGU General Assembly 2022	P. Sakic, T. Nishimura, P.J. Gonzalez	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライ ン参加	ウィーン	オース トリア	20220523	20220527	20220524	Impact of employing a waveglider on GNSS- Acoustic survey along the Japan trench	<u>Kido, M.</u> , C. Honsho, F. Tomita, Y. Ohta, R. Hino, and T. Iinuma

8	国内	海と地球のシンポジウム2022	N/A	筆頭連名	いいえ	ポスター (一般)	東京海洋大学品川キャンパス	東京	日本	20230316	20230317	20230317	海底音響測距観測による岩手県沖海溝軸の挙動の解明	木戸元之, 富田史章, 日野亮太, 太田雄策, 東龍介, 鈴木秀市, 佐藤真樹子, 西村建
9	国内	海と地球のシンポジウム2022	白石和也・小平秀一	その他の連名	いいえ	口頭 (一般)	東京海洋大学品川キャンパス	東京	日本	20230316	20230317	20230316	「かいめい」による北海道南東沖千島海溝周辺での地震探査	野徹雄, 小平秀一, 藤江剛, 尾鼻浩一郎, 中村恭之, 新井隆太, 白石和也, 三浦亮, 瀧澤薫, 山口寛登, 藤本萌, 中西正男, 海宝由佳, 孫岳, 干凡, 朴進午, 小林稜弥, 五十嵐智秋, 木戸元之, 富田史章, 飯沼卓史

特許・実用新案・その他の産業財産権 (国内・海外)

合計 1 件

	種別	国内 国外	発明の名称	発明者 (申請者)	出願番号 (特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外 連携
1	特許	国内	強潮流対応型海底観測情報伝送システム	木戸元之	特願2023-29698号	20230228			学外共同の成果	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

修士の学生の学位取得の指導をした他、全学・大学院の授業を担当し、他大学の学生への指導等も行った。

担当授業科目 (他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	地球惑星物理学	東北大学	全学		2	3セメ	5
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	地震火山計測学特論	東北大学	理学研究科	地球惑星物理学		前期	2
4	学問論演習「地震の予測と減災」	東北大学	全学		1	1セメ	5

D. 社会活動

社会活動の概要

多数の研究機関と共同調査を実施するとともに、宮城県地震に関するメディア対応も行った。また、海底地殻変動の研究成果を年二回の頻度で定期的に地震調査委員会に提出し、国の防災の政策に役立てた。

その他、他機関等との交流実績 (国内に限る)

合計 10 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	海洋研究開発機構	福田達也, 飯沼卓史	20220418	共同研究	海洋研究開発機構 横須賀本部	横須賀	その他	4
2	海洋研究開発機構・北海道大学	Raymundo Martinez, 大園真子	20220510	共同研究	第三開洋丸	釧路	その他	8
3	海洋研究開発機構	野徹雄	20220523	共同研究	調査船かいめい	横須賀	その他	5
5	東京海洋大学	中東和夫	20220709	共同研究	調査船汐路丸	東京	その他	5
6	神戸大学	島伸和	20220729	その他	神戸大学	神戸	運営	10
7	東京海洋大学	中東和夫	20221024	共同研究	調査船汐路丸	東京	その他	8
8	防災科研・海洋研究開発機構	高橋成実・今井健太郎	20221029	共同研究	田沢湖	仙北市	その他	8
9	産総研・海洋研究開発機構・東大気海洋研	高下裕章, 富士原敏也, 田村千織	20221208	共同研究	調査船白鳳丸	仙台	その他	16
10	名古屋大学・海上保安庁・東大生産研	田所敬一・石川直史・横田裕輔	20230328	共同研究	名古屋大学	名古屋	その他	20

# 富田 史章 助教

## TOMITA Fumiaki

災害評価・低減研究部門 海域地震学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	2013	3	東北大学大学院	理学研究科	2018	3	博士(理学)	2018	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	2018	9	東北大学災害科学国際研究所 災害理学研究部門(日本学術振興会 特別研究員奨励費(PD))	特別研究員
2	2018	9	2019	3	北海道大学大学院理学研究院 地震火山研究観測センター	非常勤研究員
3	2019	4	2021	6	海洋研究開発機構 海域地震火山部門 地震津波予測研究開発センター 地震予測研究グループ	ポストドクトラル研究員
4	2021	7	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害評価・低減部門 海域地震学研究分野	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本地震学会	日本測地学会	American Geophysical Union	日本地球惑星科学連合						

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本測地学会	JpGUプログラム委員会	委員	20210601
2	日本地震学会	地震学夏の学校2022実行臨時委員会	委員	20211220
3	日本地球惑星科学連合	地殻変動セッションコンビーナ	共同コンビーナ	20211023
4	日本地震学会	学会誌編集委員会	編集委員	20220401
5	日本測地学会	学会誌編集委員会	編集事務	20220601

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	固体地球物理学	海底測地学	海域地震学		

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害科学研究拠点	コアメンバー	20221101

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

東北沖及び千島沖での海底地殻変動観測に携わり、研究観測航海への乗船(年度内に2回)を実施し、観測データの取得を行った。得られた観測データの解析及び解析手法開発、解析用ソフトウェアの開発を行い、それらの成果を国内外の学会にて報告を行った。開発した解析手法については国際雑誌にて論文化している。また、昨年度より東北沖地震後の海陸の測地データを用いた非地震性すべり分布推定に着手し、学会で報告しており、現在はその論文を準備している。2011年東北沖地震後の断層すべりの時空間発展については科学研究費・若手研究としてこれまで進めてきたが、今年度よりカナダの研究機関とともに協力をして推進している。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		2011年東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動観測	国内
2	2017	4	現在		2011年東北地方太平洋沖地震に伴う断層すべり時空間発展の推定	両方
3	2019	4	現在		ウェーブライダーを用いた海底地殻変動観測技術の開発	国内
4	2021	11	現在		海陸の測地データを用いた2011年東北沖地震後の中規模イベントに伴う非地震性すべりの推定	なし
5	2022	4	現在		GNSS音響海底測位解析ソフトウェアの開発	なし

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	An approximate travel time calculation and a robust GNSS-acoustic positioning method using an MCMC technique	Fumiaki Tomita, Motovuki Kido	Earth, Planets and Space	74	1			20221202
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	USV-Observed Turbulent Heat Flux Induced by Late Spring Cold Dry Air Incursion over Sub-Mesoscale Warm Regions off Sanriku, Japan	Akira Nagano, Takuya Hasegawa, Keisuke Ariyoshi, Takeshi Inuma, Tatsuya Fukuda, Nobuhiro Fujii, Fumiaki Tomita, Ryota Hino	Sensors	22	24		9656	20221210

学会発表

単名	1	筆頭連名	4	その他の連名	6	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	日本地球惑星連合2022年大会	稲津大祐・中村優斗	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ/オンライン	幕張	日本	20220522	20220603	20220527	東北沖におけるウェーブグライダーを活用したGNSS音響海底地震変動観測	<u>富田史章</u> , 飯沼卓史, 木戸元之, 太田雄策, 本荘千枝, 福田達也	国内	8,000
国内	日本地球惑星連合2022年大会	落唯史・加納将之	単名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ/オンライン	幕張	日本	20220522	20220603	20220527	測地データを用いた2011年東北沖地震後のプレート境界での非地震性すべりイベントの検出	<u>富田史章</u>	国内	8,000
国際	EGU General Assembly 2022		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Austria Center Vienna / Online	Vienna	Austria	20220523	20220527	20220524	Impact of employing a waveglider on GNSS-Acoustic survey along the Japan trench	<u>M. Kido</u> , C. Honsho, F. Tomita, Y. Ohta, R. Hino, T. Inuma	国内	12,000
国際	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	春日野国際フォーラム	奈良	日本	20220914	20220916	20220914	Slip deficit and its correlation with slow and fast earthquakes at the Nankai subduction zone	<u>R. Plata-Martinez</u> , T. Inuma, F. Tomita, T. Nishimura, R. Agata, T. Hori	国内	100
国内	日本測地学会第138回講演会	飯沼卓史・木戸元之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大学稲盛会館/オンライン	鹿児島	日本	20221005	20221007	20221005	ウェーブグライダーを用いたGNSS-音響測距結合方式の海底地震変動観測(その3)	<u>飯沼卓史</u> , 木戸元之, 福田達也, 太田雄策, 富田史章, 有吉慶介, 永野憲, プラタ-マルティネススライムド, 日野亮太, 高橋浩見, 堀高峰	国内	100
国内	日本測地学会第138回講演会	飯沼卓史・木戸元之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大学稲盛会館/オンライン	鹿児島	日本	20221005	20221007	20221005	様々な海況下でのウェーブグライダーの運動姿勢について	<u>木戸元之</u> , 飯沼卓史, 福田達也, 太田雄策, 富田史章	国内	100
国内	日本地震学会2022年度秋季大会	大園真子	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	かでの2・7	札幌	日本	20221024	20221026	20221024	千島海溝沿い根室沖における海底測地観測	<u>富田史章</u> , 木戸元之, 太田雄策, 日野亮太, 飯沼卓史, 本荘千枝, 大園真子, 高橋浩見	国内	1,000
国内	日本地震学会2022年度秋季大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	かでの2・7	札幌	日本	20221024	20221026	20221024	東北沖における近年のGNSS音響海底測地観測とその成果	<u>富田史章</u> , 木戸元之, 飯沼卓史, 太田雄策, 本荘千枝, 日野亮太, 野徹雄, 中東和夫	国内	1,000
国際	2022 AGU Fall Meeting	H. Luo, A. J. Meltzer, M. W. Herman, D. J. Shillington	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	McCormick Place Convention Center Chicago / Online	Chicago	U.S.	20221212	20221216	20221216	Near-Trench Postseismic Subsidence Following the 2011 Tohoku-oki Earthquake Revealed by GNSS-Acoustic Observations	<u>F. Tomita</u> , M. Kido, C. Honsho, T. Inuma, Y. Ohta, R. Hino, T. Sun, H. Luo, K. Wang	両方	25,000
国際	2022 AGU Fall Meeting		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	McCormick Place Convention Center Chicago / Online	Chicago	U.S.	20221212	20221216	20221215	Slip deficit rate and slow earthquake distribution at the Nankai Trough	<u>R. Plata-Martinez</u> , T. Inuma, F. Tomita, T. Nishimura, R. Agata, T. Hori	国内	25,000
国内	海と地球のシンポジウム2022	白石和也・小平秀一	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東京海洋大学品川キャンパス	品川	日本	20230316	20230317	20230316	「かいめい」による北海道南東沖千島海溝周辺での地震探査	<u>野徹雄</u> , 小平秀一, 藤江剛, 尾鼻浩一郎, 中村恭之, 新井隆太, 白石和也, 三浦亮, 瀬澤薫, 山口寛登, 藤本萌, 中西正男, 海宝由佳, 孫岳, 千凡, 朴進午, 小林稜弥, 五十嵐智秋, 木戸元之, 富田史章, 飯沼卓史	国内	200

C. 教育活動

教育活動の概要

地震噴火予知研究観測センター所属の理学部4年に地球物理学研究・研究発表の指導を行った他、担当学生ではないものの同研究分野の学生にはセミナーを通して研究指導を実施した。また、理学研究科修士学生の修士論文の審査員を務めた。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	地球物理学実験 I	東北大学	理学部	宇宙地球物理学科	2	4セメ	34

D. 社会活動

社会活動の概要

日本地震学会主催の夏の学校の実行委員として、開催準備・運営を行った。日本測地学会のサマースクールの講師として海底地殻変動観測についての全般的な講義を行った。2022年9月・2023年3月に開催された地震調査委員会に提出する海底地殻変動に関する資料作成を行った。日本地震学会での講演内容についてNHK北海道より取材を受け、北海道のみならず全国ニュースとして研究成果について報道がされた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	日本地震学会	地震学夏の学校2022	20220922	20220924	東北大学大学院理学研究科	仙台	日本	実行委員	50	なし	セミナー	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	日本測地学会サマースクール2022	講義	20220912	20220914	海底測地観測から診る地球の動き	なし	日本測地学会	京都大学吉田キャンパス理学研究科1号館	京都	日本	50

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 6 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	海洋研究開発機構	飯沼卓史, 福田達也	20220418	共同研究	海洋研究開発機構 横須賀本部	横須賀	その他	5
2	海洋研究開発機構	飯沼卓史, 福田達也	20220912	共同研究	海洋研究開発機構 横須賀本部	横須賀	その他	5
3	海洋研究開発機構	R. Plata-Mertinez	20221006	共同研究	研究観測用備船	八戸	その他	5
4	海洋研究開発機構	R. Plata-Mertinez	20221111	共同研究	研究観測用備船	塩釜	その他	5
5	海洋研究開発機構	飯沼卓史, 福田達也	20230313	共同研究	海洋研究開発機構 横須賀本部	横須賀	その他	5
6	名古屋大学・海上保安庁・海洋研究開発機構・東京海洋大学・東京大学生産研究所・静岡大学	田所敬一, 石川直史, 渡邊俊一, 横田裕輔, 飯沼卓史, 中東和也, 生田領野	20230328	会議	名古屋大学	名古屋	その他	20

# 遠田 晋次 教授

## TODA Shinji

災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	鹿児島大学	理学部	1989	3	東北大学大学院	理学研究科	1991	3	理学博士	1999	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	1999	6	(財)電力中央研究所 立地部	研究員
2	1999	7	2001	3	東京大学 地震研究所	助手
3	2001	4	2009	3	(独)産業技術総合研究所 活断層研究センター	研究員
4	2009	4	2012	9	京都大学 防災研究所	准教授
5	2012	10			現職	

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	日本地震学会	日本活断層学会	日本応用地質学会	日本第四紀学会	日本地質学会	米国地球物理学連合	米国地震学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本応用地質学会	東北支部	支部長	20180601
2	日本地震学会	代議員	代議員	20150000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	活断層	地震ハザード	内陸地殻内地震	誘発地震	余震

##### 委員会・ワーキンググループ

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	六ヶ所村センター（仮称）構想研当委員会	委員	20220401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

断層相互作用を考慮した活断層による地震のクラスタリング過程について、UCLグループと共同研究を行い、イタリアの正断層による地震活動の時空間を再現するモデルを公表した（Nature Communications, 2022）。また、東北沖地震の余震活動の広がりや地域毎の減衰傾向を、本震前約13年間と比較して「地震活動度変化」としてマッピングし、最近5年間の活動は、震源断層の中心部で本震前よりも顕著に低く、それを取り巻くように青森東方沖～房総半島沖で高い状態が続いていることを明らかにした（Nature Geoscience, 2022）。活断層研究に関しては、詳細地形データと高密度ボーリングデータに基づいて長町-利府線断層帯の分布を詳細に明らかにした（活断層研究, 2022）。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1991	4	現在		活断層と内陸地震ハザードの研究	
2	1995	1	現在		静的応力変化を考慮した余震・誘発地震の研究	
3	2012	10	現在		東北地方太平洋沿岸域の長期地殻変動と巨大地震との関係	

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Surface faulting earthquake clustering controlled by fault and shear-zone interactions	Zoë K. Mildon, Gerald P. Roberts, Joanna P. Faure Walker, Joakim Beck, Ioannis Papanikolaou, Alessandro M. Michetti, Shinji Toda, Francesco Iezzi, Lucy Campbell, Kenneth J. W. McCaffrey, Richard Shanks, Claudia Sgambato, Jennifer Robertson, Marco Meschis & Eutizio Vittori	Nature Communications	13		7126	20221103	
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Long-term uplift pattern recorded by rivers across contrasting lithology: Insights into earthquake recurrence in the epicentral area of the 2016 Kumamoto earthquake, Japan	Naoya Takahashi, Bruce, J. H. Shyu, C.-Y. Chen, and Shinji Toda	Geomorphology			108492	20221215	
3	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Central shutdown and surrounding activation of aftershocks from megathrust earthquake stress transfer	Shinji Toda, and Ross S. Stein	Nature Geoscience	15		494	500	20220610
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	詳細地形データと高密度ボーリングデータに基づく長町-利府線断層帯の活構造マッピング	高橋直也, 遠田 晋次	活断層研究	56		1	12	20220401
5	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	2022年3月福島県沖の地震の発生背景と地震ハザードの時間変化	遠田晋次	日本地震工学会誌	47		2	5	20221000

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	2	監修編集	0	合計	2	うち	国際	1	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 熊本地震の痕跡からの学び	編集本(著者・Author)	20220331	国立大学法人熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 減災型社会システム部門(執筆他者数のなかの遠田晋次)	共著	熊日出版	国内	
2	英語 Surface ruptures associated with the 2016 Kumamoto earthquake sequence in southwest Japan	編集本(著者・Author)	2022	Yasuhiro Kumahara, Heitaro Kaneda, and Hiroyuki Tsutsumi edit (many others including Shinji Toda)	共著	Springer	国内	
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語 活断層と内陸大地震の長期予測	その他	無	はい	地域防災	2022	12	4	7	202212	遠田晋次	単著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	4	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	American Geophysical Union 2022 fall meeting	James Biemiller	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Chicago	USA	20221212	20221216	20201214	The 2016 M 7.0 Kumamoto, Japan, Earthquake Turned Seismicity on and off over a Broad Area for the Past 6 Years, a Product of Stress Transfer to a Diverse set of Surrounding Faults, and a Complex Rupture Termination	Toda, S., and Ross S. Stein	国外	30,000
2	国際	American Geophysical Union 2022 fall meeting	Haipeng Luo	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	Chicago	USA	20221212	20221216	20201216	Megathrust Earthquakes Cause a Central Shutdown of Seismicity that Lasts for Centuries, and a Surrounding Activation of Seismicity that Lasts for Decades	Ross S. Stein, and Shinji Toda	国外	30,000
3	国内	日本活断層学会2022年秋季学術大会	堤 浩之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	山口大学	山口	日本	20221126	20221127	20221126	富山平野東縁部の拗曲状地形の成因に関する再検討	島崎誠也, 遠田晋次	国内	100
4	国内	日本活断層学会2022年秋季学術大会	堤 浩之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	山口大学	山口	日本	20221126	20221127	20221126	熊本県震災ミュージアムアクセス道路法面で確認された断層露頭	吉見遥子, 遠田晋次, 鳥井真之, 川口尤孝, 高橋直也, 石澤亮史, 青塚稜平, 市川八州夫, 藤井正博, 井田貴史, 吉田拓海, 櫻井麻衣人, 原 勇貴, 釘宮康郎, 松山尚典・阿部恒平, 照次秀司, 奥野 充	国内	100

5	国内	日本地震学会2022年秋季学術大会	楠城一嘉	筆頭連名	いいえ	口頭（一般）	オンライン	札幌	日本	20221024	20221026	20221025	熊本地震による九州中北部への応力伝播と地震活動度変化	遠田晋次, Ross S. Stein	国外	500
6	国内	日本地震学会2022年秋季学術大会	木村治夫	その他の連名	いいえ	口頭（一般）	オンライン	札幌	日本	20221024	20221026	20221025	内陸活断層による都市直下地震動予測の高度化―断層浅部の地質情報を考慮した断層モデルの検討	森松君衣, 吉見瑤子, 高橋直也, 中村朋輝, 石澤亮史, 岡田真介, 鈴木晴彦, 市川八州夫, 松山尚典, 遠田晋次	国内	500

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地学専攻において、6名の学生指導を行い、特に地震ハザード、変動地形に関する研究・論文指導を実施した、また、同専攻での各種セミナーにおいて学部生、大学院生への指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学	東北大学	全学		1	後期	1
2	地震の長期評価	建築研究所		国際地震工学センター（留学生）			4
3	学問論演習（地震の予測と減災）	東北大学	全学		1	後期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

災害や防災関連への社会貢献として、原子力規制庁検討チーム委員、石川県原子力安全専門委員会委員、宮城県防災会議地震対策等専門部会委員、総合資源エネルギー調査会臨時委員、我が国周辺水域二酸化炭素貯留適地検討会委員など国・地方自治体、民間団体の委員会にて専門的立場から意見を述べた。さらに、各種マスメディアへの取材協力等を通じて地震現象や地震防災に関する啓蒙活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	仙台三校高校防災講演	招待講演	20221101	20221101	「足下に活断層～直下型地震のしくみと備え」	小中高	仙台三校高等学校	仙台三校高等学校体育館	仙台市	日本	300
2	公開講座	復興・防災10DAYS防災講演会	招待講演	20230313	20230313	「直下型地震と活断層 長町一利府線断層帯を例にして」	企業	フクダ・アンド・パートナーズ	仙台長町未来共創センター	仙台市	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	宮城県	宮城県防災会議地震対策等専門部会	委員	20200000
2	地方自治体	石川県	石川県原子力安全専門委員会	委員	20210000
3	国・政府	経済産業省	総合資源エネルギー調査会	臨時委員	20220000
4	国・政府	経済産業省・環境省	経済産業省・環境省連携事業 令和4年度二酸化炭素貯留適地調査事業に係る有識者委員会	委員	20220000
5	国・政府	原子力規制庁	震源を特定せず策定する地震動に関する検討チーム	委員	20220000



# 福島 洋 准教授

## FUKUSHIMA Yo

災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2000	3	理学修士	2000	3
2					パスカル大学 (フランス)	基礎科学研究科	2005	12	Ph. D. in Volcanology	2005	12

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	11	2002	8	包括的核実験禁止条約機構準備委員会 国際データセンター	波形アナリスト
2	2006	4	2014	1	京都大学防災研究所 地震予知研究センター	助手→助教
3	2008	11	2010	10	スタンフォード大学	客員研究員 (JSPS海外特別研究員)
4	2014	2	2016	8	東北大学 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター	特任講師
5	2016	9	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本地震学会	日本測地学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	日本自然災害学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本地球惑星科学連合		代議員	20200401
2	日本地震学会		代議員	20200401

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	地殻変動	モデリング	地震発生メカニズム	火山噴火メカニズム

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員会	運営委員	20191000
2	変動地球共生学卓越大学院プログラム	事務局	副事務局長	20191000

### B. 研究活動

研究活動の概要

南海トラフ地震臨時情報プロジェクトの成果物「南海トラフ地震臨時情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージ」をとりまとめた。南海トラフ地震が連発する確率を行い、成果を論文として出版した。仙台市内谷埋め盛土地における地震にともなう局所的地盤沈下の研究を進め、衛星レーダ画像による検出結果の検証のために仙台市内にGNSS観測点を設置した。ALOS-2衛星データを用いて、2023年2月のトルコ南東部地震による地殻変動解析を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	現在		衛星合成開口レーダー(SAR)を用いた地殻変動検出手法の研究	両方
2	2006	4	現在		地殻変動データを用いた地震の発生メカニズムの研究	国内
3	2016	9	現在		地殻変動データを用いた地震の発生ポテンシャル評価手法の研究	国内
4	2016	12	現在		地震の予測情報を活用した防災・減災の研究	国内
5	2021	4	現在		谷埋め盛土地の地盤安定性の研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	5	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	南海トラフ地震情報の報道における論点の抽出を目的としたワークショップの試みー「西半割れ」ケースー	大谷 竜, 入江 さやか, 中鉢 泰津子, 福島 洋, 横田 崇, 堀 高峰, 橋本 徹夫, 林 能成, 隈本 邦彦, 岩田 孝仁, 谷原 和憲, 兵藤 守, 橋本 学	日本地震工学会論文集	22	2	88	108	20220000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	InSAR を用いた2011年東北地方太平洋沖地震時における宅地造成地での変動検出とその発生背景の考察	宮嶋 愛菜, 福島 洋, 中基 貴元, 藤原 智	自然災害科学	41		19	35	20220000
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	High probability of successive occurrence of Nankai megathrust earthquakes	Fukushima, Y., T. Nishikawa, and Y. Kano	Scientific Reports	13				20230110
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Comparison of tropospheric delay correction methods for InSAR analysis using a mesoscale meteorological model: a case study from Japan. Earth Planets Space 75:1-15	Sailellah, S. N., and Y. Fukushima	Earth Planets and Space	75	1	1	15	20230202
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	干渉SARとSfM-MVS技術による盛土の地震時変動の評価	中基 貴元, 藤原 智, 宮嶋 愛菜, 福島 洋	地盤工学会誌	71	1	30	34	20230100

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	日本地球惑星科学連合2022年大会		単名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220603	20220526	The 14 August 2021 Haiti Earthquake (Mw7.2): Coseismic and postseismic processes and implications on future hazard	<u>Yo Fukushima</u>	なし	非公表
国際	日米独先端科学(JAGFOS)シンポジウム		単名	はい	口頭(Keynote)	Arnold and Mabel Beckman Center of the National Academies of Sciences and Engineering	アーバイン	米国	20220915	20220918	20220916	Slow Earthquakes: Where physics, geology, and disaster sciences meet	<u>Yo Fukushima</u>	なし	60名程度
国内	日本測地学会第138回講演会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大学稲盛会館	鹿児島	日本	20221005	20221007	20221006	ソフトバンク独自基準点データの宇宙地球科学用 途利活用コンソーシアムの構築	太田 雄策, 西村 卓也, 青木 陽介, 福島 洋, 藤田 実季子, 大塚 雄一, 鷲谷 威, 伊藤 武男, 古屋 正人, 大園 真子, 大西 建広, 池田 将平	国内	
国内	日本地震学会2022年度秋季大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	北海道大学道民活動センター	札幌	日本	20221024	20221026	20221024	南海トラフ地震の連発確率について	福島 洋, 西川 友章, 加納 靖之	国内	
国際	米国地球物理学連合(AGU)秋季大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	McCormick Place Convention Center	シカゴ	米国	20221212	20221216	20221212	Demonstrating the High Probability of Successive Occurrence of Nankai Megathrust Earthquakes	<u>Yo Fukushima</u> , Tomoaki Nishikawa, and Yasuyuki Kano	国内	2万2千人程度

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務の大学院理学研究科地球物理学専攻・宇宙地球物理学科と地球科学専攻・地圏環境科学科において、教務運営業務やリレー形式の複数の講義を担当。災害研の「災害の科学(災害の発生と波及)」も分担。その他、週2回のセミナーや6名の指導学生の個別の研究指導などを担当。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
固体地球物理学特論II	東北大学	理学研究科	地球物理学専攻		前期	2
学問論演習	東北大学	全学		1	1セメ	5

D. 社会活動

社会活動の概要

小学生を対象としたアウトリーチイベントを2回実施した。火山災害に関するオンライン講師を務めた。コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムの講義「災害科学概論」において講師を務めた。研究成果について新聞記事等で報道された。ラジオ番組に出演し、南海トラフ地震の連続発生の確率や、2023年2月にトルコで発生した地震についての知見について発信した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	けせんぬま防災きつずスクール	模擬実験講師	20220731	20220731	ガラクタでわかる“地震の起こり方実験”	行政	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	16
2	公開講座	ぼうさいキッズパーク	模擬実験講師	20221123	20221123	ガラクタでわかる“地震のおこりかた実験”	行政	みやぎ東日本大震災津波伝承館	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	22
3	公開講座	東北大災害研×石油連盟 防災WEB	講師	20220000	20220000	最近の自然災害の特徴 火山災害	企業	東北大災害研×石油連盟	オンライン ( <a href="https://bosai-jyoho.jp">https://bosai-jyoho.jp</a> )			
4	公開講座	東北大災害研×石油連盟 防災WEB	講師	20220000	20220000	火山活動の監視・観測	企業	東北大災害研×石油連盟	オンライン ( <a href="https://bosai-jyoho.jp">https://bosai-jyoho.jp</a> )			
5	講演会	BOSAI Week (世界防災フォーラム オンラインイベント)	招待講演 (オンライン)	20230201	20230312	「南海トラフ地震臨時情報」にうまく対応するために	なし	WBF国内実行委員会及びWBF国際実行委員会	オンライン ( <a href="https://bosaiiog.com/banner_post/bosai-week20230213/">https://bosaiiog.com/banner_post/bosai-week20230213/</a> )			

# 石澤 堯史 助教

## ISHIZAWA Takashi

災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	信州大学	理学部	2014	3	東北大学	理学研究科	2019	3	博士(理学)	2019	3

職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	2019	9	北海道大学 大学院理学研究院附属 地震火山研究観測センター	
2	2019	10			東北大学 災害科学国際研究所	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地球惑星科学連合	日本地質学会	日本活断層学会	日本第四紀学会

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	堆積学	第四紀年代学

### B. 研究活動

研究活動の概要

熊本県嘉島町で採取した試料を用いて新たな断層活動履歴の推定手法を開発した。岩手県洋野町の沿岸部で調査を行い、津波堆積物を認定しその年代を推定した。波崎海岸において海岸堆積物中からマイクロプラスチックの分離と計測を行い、マイクロプラスチックの分布について時空間分布を調査した。IODP exp. 386 に参加し日本海溝沿いで形成されたタービダイトに関する研究を行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	4	現在		地震・津波による環境変化の評価	国内
2	2014	4	現在		津波堆積物の年代推定手法に関する研究	国内
3	2019	10	現在		活断層の活動時期推定手法に関する研究	国内
4	2021	4	現在		海岸におけるマイクロプラスチックに関する研究	国内
5	2021	4	現在		海溝沿いの地震痕跡(タービダイト)の編年に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Washover deposits related to tsunami and storm surge along the north coast of the Shimokita Peninsula in northern Japan	Daisuke Ishimura, <u>Takashi Ishizawa</u> , Masaki Yamada, Kaori Aoki, Kai Sato	Progress in Earth and Planetary Science	9	69			20221213
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Numerical estimation of a tsunami source at the flexural area of Kuril and Japan Trenches in the fifteenth to seventeenth century based on paleotsunami deposit distributions in northern Japan	Kai Sato, Masaki Yamada, Daisuke Ishimura, <u>Takashi Ishizawa</u> , Toshitaka Baba	Progress in Earth and Planetary Science	9	72			20221222

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	3	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本地球惑星科学連合	山田昌樹	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220527	20220526	三陸海岸北部～中部における古津波履歴の高確度復元	<u>石澤堯史</u> , 後藤和久, 西村裕一, 宮入陽介, 沢田延子, 横山祐典	国内	
2	国内	日本地球惑星科学連合	磯辺篤彦	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220527	20220522	茨城県波崎海岸の堆積物中におけるマイクロプラスチックの空間分布に関する予察的検討	<u>石澤堯史</u> , 後藤和久, 山口直文, 伴野雅之, 篠崎鉄哉, 佐藤海生	国内	
3	国内	日本地球惑星科学連合	清家弘治	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220527	20220522	奄美大島の沿岸巨礫分布を形成した過去の高波の最大規模の数値的推定	<u>唐館健太</u> , 後藤和久, 菅 浩伸, 石澤堯史, 小岩直人, 伊藤晶文	国内	
4	国内	日本地球惑星科学連合	山田昌樹	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220527	20220526	南相馬市小高区塚原地区の沿岸低地の古環境復元と歴史津波	<u>高清水康徳</u> , 大塚部津子, 阿部悠介, 菅原大助, 卜部厚志, 石澤堯史, 青田亨也, 平野史佳	国内	
5	国内	日本災害・防災考古学会	石井淳平	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220923	20220924	20220923	古津波調査における地中レーダーの活用	<u>菅原大助</u> , 石澤堯史, 吉池愛乃	なし	

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地学専攻において研究・論文指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	応用堆積学	東北大学	理学部	地圏環境科学科	3	5セメ	4
2	現代地球科学・地球環境史	東北大学	全学		1	1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

地方自治体と共同で地震津波痕跡の調査を行った。津波堆積物についてのメディア対応も行い、その内容が全国紙に掲載された。地震調査研究推進本部のワーキンググループにゲストスピーカーとして招聘され、日本海溝沿いの津波痕跡に関する専門的評価を提供した。

# 高橋 尚志 助教

## TAKAHASHI Takayuki

災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京学芸大学	教育学部	2013	3	首都大学東京	都市環境科学研究科	2015	3	修士(理学)	2015	3
2					東京大学	新領域創成科学研究科	2019	3	博士(環境学)	2019	3

### 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	2019	2	2019	4	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門	テクニカルスタッフ
2	2019	5	2020	12	東京都立大学 火山災害研究センター	特任研究員
3	2020	4	2021	3	東京未来大学 モチベーション行動科学部	非常勤講師
4	2020	4	現在		国際医療福祉大学大学院	非常勤講師
5	2021	1	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野	助教
6	2022	4	現在		東北学院大学 文学部	非常勤講師

### 学会活動

所属学会 (最大10まで)

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本地理学会	日本第四紀学会	日本地球惑星科学連合	日本地形学連合	日本山の科学会	東北地理学会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	自然地理学	地形学	第四紀学	堆積学	火山灰編年学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

内陸部における長期的な地殻変動評価の基準となる河成段丘地形の形成過程や、年代決定に重要な火山灰(テフラ)に関する基礎的研究を進めた。相模川上流域における河成段丘堆積物を詳細に調査・記載し、さらに室内分析・解析の結果、本流の河床上昇により支流が閉塞ないし緩勾配化した可能性を得て、学会および研究会にて発表・議論した。さらに、段丘形成当時の過去の水理条件を復元するために段丘階層の円磨度を計測した。また、学生らと共同研究で、栗駒山麓における完新世の水蒸気噴火堆積物の層序や年代、噴火規模・範囲に関する資料を得て、研究会等にて発表した。また、2022年7月の宮城県北部での大雨などをはじめとする、豪雨に伴う河川災害に関する地形・地質学的な調査・研究を進めた。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	4	現在		支流の影響を踏まえた上流河谷における河成段丘発達史の復元	国内
2	2019	5	現在		伊豆諸島の火山噴火史・火山灰層序に関する研究	国内
3	2021	4	現在		画像解析を用いた砕屑粒子の運搬過程に関する研究	国内
4	2022	4	現在		河川災害に関する地形・地質学的研究	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	伊豆諸島北部、利島における更新世末期の流紋岩質テフラの層序	高橋尚志・青木かおり・村田昌則・小林 淳・鈴木毅彦	第四紀研究	61	3	87	107	20220917

### 総説・解説(大会要旨・学術雑誌・学芸誌・関係雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	日本第四紀学会2022年大会巡検報告(Bコース:熱海伊豆山地区土砂災害)	その他	無	いいえ	第四紀通信	29	5	5	6	20221001	高橋尚志	単著	なし

学会発表

単名	1	筆頭 連名	3	その他の 連名	7	合計	11
----	---	----------	---	------------	---	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本地球惑星科学連合 2022年大会		その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220603	20220530	埼玉県、加須低地西部における沖積低地の 地形形成過程—テフラ分析に基づく検討—	村田昌則・高橋尚志・青 木かおり・佐藤潤一・鈴木 毅彦	国内	
2	国内	日本地球惑星科学連合 2022年大会		その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	幕張メッセ	千葉	日本	20220522	20220603	20220530	画像解析を用いた河川における礫粒子の円 磨度変化—常願寺川、相模川、四万十川を 例に—	五村大輔・高橋尚志	国内	
3	国際	Goldschmidt 2022		その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	Hawaii Convention Center	Honolulu, Hawaii	アメリカ	20220711	20220715	20220715	Geochemical variation of tephra beds in the sedimentary core C9010E off the Boso Peninsula in Japan and their source volcanoes	Aoki, K., Kobayashi, M., Takahashi, T., Murata, M., Nishizawa, F. and Suzuki, T.	国内	
4	国内	日本地形学連合2022年 大会	早川裕式	筆頭 連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道大学	札幌	日本	20221105	20221106	20221105	相模川支流、道志川流域における最終間水 期以降の河谷埋積過程に関する一考察	高橋尚志・松風 潤	国内	
5	国内	国際火山噴火情報研 究集会2022-1	奥野 充	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	大阪公立大学	大阪	日本	20221001	20221002	20221001	東北地方、栗駒火山における爆発火口状凹 地と完新世の水蒸気噴火堆積物	高橋尚志・諏訪貴一・市 川玲輝・遠田晋次	国内	
6	国内	国際火山噴火情報研 究集会2022-1	奥野 充	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	大阪公立大学	大阪	日本	20221001	20221002	20221002	伊豆諸島北部火山の噴火史研究に関する最 近の動向	鈴木毅彦・青木かおり・小 林 淳・村田昌則・西澤文 勝・高橋尚志	国内	
7	国際	IAVCEI 2023 Scientific Assembly		その他 の連名	いいえ	ポスター(一般)	Rotorua Energy Events Centre	Rotorua	ニュー ジーランド	20230130	20230203		Constraining the tempo and frequency of explosive eruptions since 30 ka occurred in the north Izu Islands, off Tokyo, Japan	Suzuki, T., Aoki, K., Kobayashi, M., Murata, M., Nishizawa, F. and Takahashi, T.	国内	
8	国内	令和4年度高知大学海 洋コア総合研究センター 共同利用・共同研究成 果発表会		その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	高知大学 海洋 コア総合研究 センター	高知	日本	20230227	20230228	20230227	房総沖棚割コアC9010Eに介在する海底火山 由来と推定されるテフラ層	菅本かおり・小林 淳・高 橋尚志・村田昌則・鈴木 毅彦	国内	
9	国内	2023年日本地理学会春 季学術大会		筆頭 連名	いいえ	ポスター(一般)	東京都立大学	八王子	日本	20230325	20230327	20230325	相模川中流域、葛原周辺における最終間水 期以降の河谷埋積過程	高橋尚志・石井祐次	国内	
10	国内	国際火山噴火情報研 究集会2022-2	奥野 充	その他 の連名	いいえ	口頭(一般)	福岡大学	福岡	日本	20230325	20230326	20230325	降下テフラから推測される栗駒火山におけ る完新世の水蒸気噴火の規模・頻度	諏訪貴一・高橋尚志・市 川玲輝・遠田晋次	国内	
11	国内	河川基金研究成果発表 会		単名		ポスター(一般)	TKPガーデン シティ PREMIUM神 保町	千代田区	日本	20230830	20230830	20230830	支流性段丘面の発達過程に基づく山地河川 の長期的な土砂移動過程の復元	高橋尚志	なし	

C. 教育活動

教育活動の概要

兼任する理学研究科地学専攻において、研究指導、論文指導を実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	環境防災演習	国際医療福祉大学大学院	医療福祉学研究科	保健医療学専攻		前期	2
2	自然地理学 I	東北学院大学	文学部	歴史学科	3	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

学生や社会人向けのセミナーにて講演や巡検を担当した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	「地球の教室」2023	講義・巡検	20230318	20230320	仙台の段丘地形と都市の発達—江戸・東京との 比較から—	なし	地球の教室運 営委員会	東北大学理学 部サイエンス ホール	仙台市	日本	20

# 五十子 幸樹 教授

## IKAGO Kohju

災害評価・低減研究部門 地震工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1990	3	京都大学大学院	工学研究科	2005	9	博士(工学)	2005	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1992	4	2004	12	(株)日建設計	構造設計部員
2	2005	1	2008	5	(株)日建設計	構造設計主管
3	2008	6	2013	1	東北大学大学院 工学研究科	准教授
4	2013	2	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3
日本建築学会	日本地震工学会	米国土木学会 (ASCE)

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	建築物の構造振動制御情報小委員会	委員	20080600
2	日本建築学会	構造テキスト作成委員会 耐震構造設計WG	委員	20210400
3	Frontiers S.A. Media	Frontiers in Built Environment	Editorial Board Member	0000

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
最適設計	免震構造	制振構造	耐震構造	構造制御

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	工学研究教務委員会	委員	20200401
2	工学研究科 人間・環境系 都市・建築学専攻	設計教育委員会	委員	20160401
3	工学研究科 人間・環境系 都市・建築学専攻	カリキュラム委員会	委員	20200401
4	工学研究科 人間・環境系 都市・建築学専攻	実験所・実験棟運営委員会	委員	20200401
5	工学研究科 人間・環境系 都市・建築学専攻	入学試験実施本部	委員	20210401
6	工学研究科 人間・環境系 都市・建築学専攻	研究科長からの指摘事項対応タスクフォース	委員	20220401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

主として免震構造を対象に地震時応答変位の抑制に有効な複素減衰を因果的に近似する方法について研究した。既に提案していた双一次型の因果的デジタルフィルターをMaxwell体とそりに並列に配置された負剛性要素の組み合わせで実現できることを理論的に明らかにした。また、このモデルがよく知られているBiotのモデルや、Makrisのモデルの特殊な場合に相当していることを理論的に明らかにした上で、これらのモデルを統一的に表現出来る数値モデルを非整数階微積分表現で提示した。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	6	現在		同調粘性マスダンパー制震システムの開発	国内
2	2010	4	現在		回転慣性質量ダンパーを用いた免震制御技術の開発	国内
3	2013	4	現在		高層建築物の地震時下層部変形集中現象の解明と制御技術の開発	国内
4	2014	4	現在		多目的遺伝アルゴリズムによる免震制御デバイスの創生	国内
5	2013	12	現在		振動制御デバイスのリアルタイムハイブリッドシミュレーション技術の高度化	国内
6	2014	4	現在		力学変分原理の逆問題定式化と構造最適化	国内



論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Modified tuned Maxwell-Wiechert model for improving seismic performance of base-isolated structures	Wei Liu, Kohju Ikago, Zhanzhan Wu, Iori Fukuda	Journal of Building Engineering	54		104616	20220506
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Lead-rubber-bearing with negative stiffness springs (LRB-NS) for base-isolation seismic design of resilient bridges: A theoretical feasibility study	Xu Chen, Kohju Ikago, Zhongguo Guan, Jianzhong Li, Xiaowei Wang	Engineering Structures	266		114601	20220705
3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Optimal Design of Nontraditional Tuned Mass Damper for Base-Isolated Building	Dawei Li, Kohju Ikago	Journal of Earthquake Engineering				20220915
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Structural dynamic vibration absorber using a tuned inerter eddy current damper	Dawei Li, Kohju Ikago, Ao Yin	Mechanical Systems and Signal Processing	186		109915	20230000
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Feasibility study of a practical causal rate-independent damping device for the improved performance of seismic isolated structures	Zhanzhan Wu, Wei Liu, Kohju Ikago	Engineering Structures	274		115305	20230115

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	6	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220908	Reliability Assessment of High-Rise SMRFs Subjected to the Anticipated Nankai Trough Earthquake	堀雪 優, 五十子幸樹, 藤松 滯	国内	9,000
2	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220907	同調粘性マスダンパーによる高層RC造建物の全体曲げ変形制御に関する基礎的検討 その1 60階建てRCモデルの概要	太田凌斗, 菅野秀人, 井上範夫, 五十子幸樹, 中村孝也, 高橋典之	国内	9,000
3	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220907	同調粘性マスダンパーによる高層RC造建物の全体曲げ変形制御に関する基礎的検討 その2 架構の塑性化による制振効果への影響	菅野秀人, 太田凌斗, 井上範夫, 五十子幸樹, 中村孝也, 高橋典之	国内	9,000
4	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220907	プレテンションを利用した油圧モータ型回転慣性質量ダンパーの鉛直方向設置による高層建物の制振効果 その1 本提案モデルの概要と定点理論に基づく最適解	太田英範, 尾家直樹, 宇田川貴章, 中津有紀子, 石井正人, 吉江慶祐, 五十子幸樹, 井上範夫	国内	9,000
5	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220907	プレテンションを利用した油圧モータ型回転慣性質量ダンパーの鉛直方向設置による高層建物の制振効果 その2 立体フレームモデルにおける検討	尾家直樹, 太田英範, 宇田川貴章, 中津有紀子, 石井正人, 吉江慶祐, 五十子幸樹, 井上範夫	国内	9,000
6	国内	2022年度日本建築学会大会(北海道)	N/A	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	北海道科学大学	札幌	日本	20220905	20220908	20220905	ビル物免費建物に適用可能な過大変位抑制用性能可変オイルダンパーの開発 その1 500kN級ダンパーの性能確認	小山慶樹, 山上聡, 舟木秀尊, 五十子幸樹, 井上範夫	国内	9,000

C. 教育活動

教育活動の概要

全学, 工学部, 大学院工学研究科, リーディング大学院の講義を担当した他, 工学部の卒業研修生, 工学研究科博士前期課程および後期課程学生を指導した。災害科学国際研究所提供の科目としては全学教育科目である「災害と科学」, 工学部専門教育科目としては、「創造工学研修」, 「都市・建築エンジニアリング」, 「建築・社会環境工学演習E」, 「建築設計AI」, 「建築設計D」を博士課程では前期課程の「最適減殺技術学」を後期課程では「災害制御特論」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学演習	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	5
2	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	2	3セメ	3
3	建築設計B I	東北大学	工学部	都市・社会環境工学科	3	5セメ	15
4	建築信頼性工学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	15
5	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	2
6	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	14
7	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
8	学問論演習	東北大学	全学			2セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

社会貢献活動としては、宮城県および福島県の耐震診断判定委員会および耐震改修計画評価委員会の委員として、各県の既存不適格建築物の耐震化促進に貢献している。新築建築物については、宮城県土木部および福島県建築安全機構の構造計算適合性判定委員として、構造計算の法令適合性の判定作業を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	一日大学	講演	20221101	20221101	建物を地震から守る免震構造	小中高	仙台市立仙台青陵中等教育学校	仙台市立仙台青陵中等教育学校	仙台市	日本	25

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	福島県建築士事務所協会	耐震診断判定委員会・評価委員会	委員	20080000
2	民間・NPO	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会	専門委員	20221101
3	民間・NPO	一般社団法人福島県建築安全機構	構造計算適合性判定評価委員会及び技術監視委員会	副委員長	20160401
4	民間・NPO	一般社団法人宮城県建築住宅センター	耐震診断等評価委員会	委員	20101001
5	民間・NPO	一般社団法人日本免震構造協会	技術委員会	委員	20221001

# 大野 晋 准教授

## OHNO Susumu

災害評価・低減研究部門 地震工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1986	3	東北大学大学院	工学研究科	1988	3	博士(工学)	1999	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	2003	3	鹿島建設技術研究所	
2	2003	4	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 災害制御研究センター	准教授
3	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

#### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会	日本地震学会	土木学会	Seismological Society of America

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会	委員	20170400
2	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会地盤震動小委員会	委員	20040400
3	日本建築学会	構造委員会振動運営委員会強震観測小委員会	主査	20190400
4	日本建築学会	災害委員会	委員	20190400
5	日本建築学会	論文集委員会	委員	20220600
6	日本建築学会	東北支部	常議員	20220600

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	地震工学	強震動地震学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

仙台市および東北地方の地盤・建物強震観測を継続し、これらの観測網で得られた記録を用いた地盤応答の研究や建物のシステム同定、構造ヘルスマモニタリングに関する研究を進めた。機械学習に関して、非線形・多入出力システムの建物応答の学習に関する研究、早期地震警報および地震直後の地震動スペクトル分布推定手法の代理モデル学習に関する研究を実施した。また、2022年3月の福島県沖の地震や2023年2月のトルコ南東部地震に関する地震動特性の検討を行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1988	4	現在		強震動予測に関する研究	国内
2	1988	4	現在		強震観測・建物振動特性評価に関する研究	国内
3	2003	4	現在		地下構造モデル評価手法に関する研究	なし
4	2006	4	現在		地震動分布の準リアルタイム評価手法に関する研究	なし
5	2011	4	現在		地震動特性と建物被害に関する研究	国内
6	2018	4	現在		地震工学への機械学習の適用に関する研究	なし

#### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	1
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	3次元不均質地盤モデルを用いた地震動シミュレーションに基づく地震動の空間変動モデルの構築	徳光亮一, 山本優, 内山泰生, 大野晋	日本建築学会構造系論文集	87	797	657	668	202207/01
2	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	2019-2022年の東北の被害地震における建物強震観測記録	大野晋, 三辻和弥, 笹ノ間佑太	東北地域災害科学研究	59		7	11	20230300
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Data-driven approximation of geotechnical dynamics to an equivalent single-degree-of-freedom vibration system based on dynamic mode decomposition	Akihiro Shioi, Yu Otake, Ikumasa Yoshida, Shogo Muramatsu, <u>Susumu Ohno</u>	Georisk: Assessment and Management of Risk for Engineered Systems and Geohazards	17	1	77	97	20230306

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	2	監修編集	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数	
1	日本語	令和4(2022)年3月16日の福島県沖の地震 災害調査速報	その他	20220531	大野 晋, 沙満 将史, 境有紀, 中澤 駿佑, 三辻 和弥, 浅里和茂, 日比野巧, 堀川 真之, 飯藤 将之, 寺本尚史, 長谷川 兼一, 小林 光, 埴田 隆, 小地 沢将, 村上 早紀子, 飛ヶ谷 潤一郎, 長田 城治, 中村 啄巳, 鈴木 真歩	共著	日本建築学会東北支部	国内	
2	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍 祥, 他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本建築学会大会	菊地 優	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Onlie	札幌	日本	20220905	20220908	20220906	水平アレイ観測記録の空間変動特性を用いた表層地盤の不均質パラメータの推定	<u>徳光 高二</u> , 山本 優, 内山 泰生, 大野 晋	なし	
2	国内	日本建築学会大会	菊地 優	単名	いいえ	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	Onlie	札幌	日本	20220905	20220908	20220908	制振x地震学	<u>大野 晋</u>	なし	
3	国内	東北地域災害科学研究会	片岡 俊一	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	弘前大学	弘前	日本	20221226	20221227	20221227	019-2022年の東北の被害地震における建物強震観測記録	<u>大野 晋</u> , 三辻 和弥, 笹ノ 開佑太	国内	
4	国際	THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF GEOTECHNICAL ENGINEERING, MONGOLIA 2023		筆頭連名	いいえ	口頭(招待)	Mongolian University of Science and Technology, Online	ウランバートル	モンゴル	20230330	20230330	20230330	QUASI REAL-TIME ESTIMATION OF RESPONSE SPECTRAL DISTRIBUTION BY MACHINE LEARNING	<u>Susumu Ohno</u> , Takumi Morikawa	国外	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	日本建築学会	第7回強震データの活用に関するシンポジウム「強震観測における新技術と将来展望」	20221223	20221223	建築会館, Zoomハイブリッド	東京	日本	135	工学	運営	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の全学教育、工学部建築・社会環境工学科および工学研究科都市・建築学専攻において、情報科学、地震災害、建築構造、地盤震動に関する計11科目の講義を担当した。その中で、東日本大震災や最近の被害地震の揺れおよび被害の実態と教訓に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	情報とデータの基礎	東北大学	全学		1	1セメ	8
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	都市・建築エンジニアリング	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
4	建築・社会環境工学演習E	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
5	建築構造の力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
6	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	8
7	地盤と都市・建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
8	建築数理基礎論I	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	4
9	地震災害制御学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
10	応用システム開発論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	15
11	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

2023年トルコ南東部の地震被害に関連して地震動の特徴に関する速報を一般向けに報告した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	2023年2月トルコ南東部を震源とする地震に関する調査速報会	講演	20230210	20230210	地震動特性と建物被害について	なし	災害研	online		日本	
2	セミナー	oint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Turkey and Syria - Mechanism, damage and strategy for recovery, reconstruction, BBB, and resilient society	講演	20230227	20230227	Characteristics of the earthquake ground motion and damage to buildings	なし	災害研	online		日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	一般財団法人 世界防災フォーラム		理事	20181219
2	民間・NPO	高圧ガス保安協会	詳細技術事前評価（地震動の評価にかかわるものに限る）委員会	委員	20200901
3	民間・NPO	地震予知総合研究振興会	原子力発電所の基準地震動 Ss に関する検討会	委員	20220518

榎田 竜太 准教授  
ENOKIDA Ryuta

災害評価・低減研究部門 地震工学研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	工学部	2007	3	京都大学	工学研究科	2009	3	博士(工学)	2012	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2010	3	京都大学防災研究所	リサーチアシスタント
2	2010	4	2012	3	京都大学防災研究所	日本学術振興会特別研究員DC2
3	2012	4	2014	3	京都大学建築学専攻 (2012年6月よりBristol大学機械工学科にVisiting research fellowとして滞在)	日本学術振興会特別研究員PD
4	2014	4	2016	3	Bristol大学機械工学科	日本学術振興会海外特別研究員
5	2016	4	2019	9	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	特別研究員
6	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授
7	2012	6	2019	3	Bristol大学機械工学科	Visiting research fellow

学会活動

所属学会

学会名	1	2	3
	日本建築学会	日本機械学会	日本地震学会

学会・委員会等での役

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Frontiers in Built Environment	Editorial Board of Earthquake Engineering	review editor	20200810

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
耐震構造学	制御工学	トライブロギー	システム同定

B. 研究活動

研究活動の概要

下記の3つの課題に主に取り組んだ。  
 振動台の高性能制御: ストップバー付きの直置き型構造物を積載した振動台を、非線形制御手法によって高性能に制御できることを実験的に示した。  
 リアルタイムサブストラクチャ振動台実験の高度化: 非線形制御を用いたリアルタイムサブストラクチャ振動台実験の変位と加速度の高性能同時制御によって、深刻な地震被害を受けた多層非線形構造物の地震時挙動を正確に再現できることを実験的に示した。  
 非線形構造物の任意応答からの入力波同定: 事前に用意された応答と対象構造物の非線形特性から、非線形制御手法によって、その応答を対象構造物に引き起こす入力波を同定する手法を開発した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	4	現在		非線形制御手法を応用した振動試験装置の高性能制御	国内
2	2012	6	現在		非線形制御を用いた動的サブストラクチャ実験による構造物の応答検証	国内
3	2010	4	現在		黒鉛潤滑を用いた直置き型構造物の開発	国内
4	2016	4	現在		建物応答の逆解析から検知する損傷同定手法の開発	国内
5	2019	4	現在		非線形制御手法を用いた構造物への重篤応答を引き起こす入力波の推定	国内

論文

単著	1	筆頭共著	3	その他共著	1	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	-------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Enhancement of nonlinear signal-based control to estimate earthquake excitations from absolute acceleration responses of nonlinear structures	Ryuta Enokida	Mechanical Systems and Signal Processing	181	1	109486	109486	20220628
2	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Numerically disturbed shake table experimentation to examine nonlinear signal-based control	Ryuta Enokida, Kohji Ikago, Koichi Kajiwara	Frontiers in Built Environment	8				20220825

3	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	An acceleration-oriented form of simple piecewise linearisation in time series to assess seismically damaged structures	Ryuta Enokida, Koichi Kajiwara	Frontiers in Built Environment	9				20230123
4	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Nonlinear signal-based control for shake table experiments with sliding masses	Ryuta Enokida, Kohji Ikago, Jia Guo, Koichi Kajiwara	Earthquake Engineering and Structural Dynamics	32	6	1908	1931	20230302
5	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Combination of physics-based and data-driven modeling for nonlinear structural seismic response prediction through deep residual learning	Jia Guo, Ryuta Enokida, Dawei Li, Kohji Ikago	Earthquake Engineering and Structural Dynamics					20230311

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語 未来へ	その他	無	いいえ	災害科学国際研究所 設立10周年記念誌		52	54	20221004	ボレー セバスチャン, 榎田竜太, 中鉢宗建子, 江川新一	共著	なし
2	日本語 建物についての資料	その他	無	いいえ	東北大学災害科学国際研究所 設立10周年記念誌		56	59	20221004	村尾修, 榎田竜太	共著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	第66回理論応用力学講演会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	オンライン	20220624	20220626	20220624	時系列単純区分線形化による地震時損傷を有する構造物の物理量推定	榎田竜太, 梶原浩一	国内	300

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科建築学専攻の卒業・修士・博士・論文の研究における実験の補助を担当し、学生に対して実験の進め方や安全管理を指導した。

D. 社会活動

社会活動の概要

東北大学病院が主催するコンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムにおいて、災害科学概論のセミナーの運営・講義を担当した。防災科学技術研究所の客員研究員として、兵庫耐震工学研究センターとの共同研究を推進した。石巻と気仙沼の伝承館において、小中学生を対象とした、建築構造物の揺れに関する授業を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(6)

合計 1件

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日							
1	国内	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	20221029	20221029	オンライン			運営委員	30	IRIDeS共催	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3件

学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
			開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	けせんぬま防災きつずスクール	20220707	20220707	建物ってなんで揺れるの?	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	10
2	公開講座	ぼうさいキッズパーク	20221123	20221123	建物ってなんで揺れるの?	行政	仙台市復興支援・伝承課 震災伝承班	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	20
3	公開講座	災害科学概論	20221029	20221029	過去の建物地震被害の振り返りと大型振動実験の紹介	なし	東北大学 災害科学国際研究所	オンライン	オンライン	日本	30

# 郭佳 助教

GUO Jia

災害評価・低減研究部門 地震工学研究分野

## A. 基本情報・略歴

### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	中国清華大学	工学部	2009	7	京都大学大学院	工学研究科	2019	9	博士(工学)	2019	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	10	2022	9	東北大学 災害科学国際研究所	助教
2	2022	10	現在		京都大学 大学院農学研究科 地域環境科学専攻	准教授

### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1	2	3
日本建築学会	日本計算工学会	日本地震工学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
計算力学	構造工学	土木工学

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

制振・免震用に広く使用されているダンパーは粘性減衰系から履歴減衰系まで様々であり、これらを統一的に扱える物理モデルは存在しないため、単一の物理モデルを用いて制御装置の振動特性を正確に同定することは不可能といえる。現在の研究では粘性減衰系の粘弾性ダンパーと、履歴減衰系の磁気粘性流体ダンパーを事例にデータ駆動モデリングを用いた減衰要素構成則の一般化を実現した。計算モデルを研究対象の入力・出力データに自動的に適合させることで、高精度かつ高計算効率でモデルを予測し、挙動を再現するに至った。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	5	2021	4	AIを用いたブラックボックスモデルアプローチによる粘弾性ダンパー構成則モデル化手法	国内
2	2020	10	2022	4	カルマンフィルターを活用した免震・制振装置の非線形復元力推定法と実記録による検証	国内
3	2022	4	現在		データ科学と地震工学が連動する構造物被害推定技術	国内

### 論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Combination of physics-based and data-driven modeling for nonlinear structural seismic response prediction through deep residual learning	Guo J., Enokida R., Li D., Ikago K.	Earthquake Engineering & Structural Dynamics					20230311
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Nonlinear signal-based control for shake table experiments with sliding masses	Enokida R., Ikago K., Guo J., Kajiwara K.	Earthquake Engineering & Structural Dynamics					20230302

### 学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	The 15th World Congress on Computational Mechanics	Prof. Seiichi Koshizuka	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Oline	横浜	日本	20220731	20220805	20220801	Combination of physics-based and data-driven modeling for nonlinear structural seismic response prediction	Guo J., Ikago K.	なし	2346

## C. 教育活動

### 教育活動の概要

学部・研究科を兼務していないが、所属研究分野の五十名教授の担当学生の指導補助を行った。



# 寺田 賢二郎 教授

## TERADA Kenjiro

災害評価・低減研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	名古屋大学	工学部	1990	3	米国ミシガン大学	工学部	1996	3	Ph.D.	1996	5

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	1997	6	東京大学 大学院工学系研究科 船舶海洋工学専攻	助手
2	1997	7	1999	6	東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
3	1999	7	2012	6	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	助教授 (2007～准教授)
4	2012	7	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	土木学会	日本計算工学会	日本機械学会	地盤工学会	材料学会	日本鉄鋼協会	非線形CAE協会	International Association for Computational Mechanics	Asia-Pacific Association for Computational Mechanics

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	International Association for Computational Mechanics		President	20220801
2	International Association for Computational Mechanics	Executive Council	Member	20140501
3	International Association for Computational Mechanics	General Council	Member	20120501
4	非線形CAE協会		理事長	20090601
5	非線形CAE協会	非線形CAE勉強会実行委員会	委員長	20090601
6	International Journal for Numerical Methods in Engineering	Editorial Board	Associate Editor	20141001
7	Computational Mechanics	Editorial Board	Member	20110000
8	Engineering Computations	Editorial Advisory Board	Member	20140000
9	Journal of Mechanics of Materials and Structures	Board of Editors	Member	20180130
10	Advanced Modeling and Simulation in Engineering Sciences	Editorial Board	Associate Editor	20201001
11	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	Editorial Advisory Board	Member	20210101
12	日本学術会議	総合工学委員会 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	委員	20180401

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
計算力学	応用力学	構造工学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部	入試検討委員会	委員	20220401
2	工学部・工学研究科	評価室運営委員	委員	20220401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1) Material Point Methodをベースに、飽和および不飽和地盤の固体としての挙動から過剰雨水による流体化、そして土砂流動といった一連の現象をシームレスに再現可能な数値シミュレーション手法を開発している。(2) 津波解析や複合材料の応力解析などの様々な数値シミュレーションについて、機械学習を用いた代理モデルを構築する枠組みを開発している。(3) 新規のき裂進展解析手法の開発に取り組んでいる。(4) 様々な災害シミュレーションのプラットフォームとしてX-GISおよびデジタルツインの開発を行っている。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携	
	開始年	月	終了年			
1	2006	4	現在	マルチスケール CAE ソフトウェアの開発	国内	
2	2012	4	現在	マルチスケール・マルチフィジックス解析手法の開発と CAE の高度化	両方	
3	2012	4	現在	地域・都市の安全性評価のための重層的連成解析手法およびデジタルツインの開発	国内	
4	2013	4	2020	3	遡上津波と構造物の相互作用評価のためのマルチスケール数値実験	国内
5	2016	4	現在	災害リスク評価のためのマルチステージ破壊シミュレーション手法の開発	国内	
6	2017	4	現在	変形・流動解析のための Material Point Method の開発と土砂災害シミュレーションへの応用	国内	
7	2019	4	現在	フェーズフィールドき裂モデルによる超ハイテン材をの安定・不安なき裂進展の遷移挙動の解析	両方	
8	2019	4	現在	数値シミュレーションの次元削減モデルおよび代理モデルの構築	両方	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	24	合計	24	うち	国際査読有	13	国際査読無	0	国内査読有	11	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	----	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	数値材料試験とニューラルネットワークを用いた一方CFRPの界面接着強度の予測	鷹見 凌, 染宮聖人, 平山紀夫, 山本見司, 松原成志朗, 石橋慶輝, 寺田賢二郎	日本複合材料学会誌	48	1	32	39	20220115
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Submarine Landslide Source Modeling using the 3D Slope Stability Analysis Method for the 2018 Palu-Sulawesi Tsunami	Chatuphorn Som phong, Anawat Suppasri, Kwanchai Pakoksung, Tsuyoshi Nagasawa, Yuya Narita, Ryunosuke Tawatari, Shohei Iwai, Yukio Mabuchi, Saneiki Fujita, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Cipta Athanasius, Fumihiko Imamura	Natural Hazards and Earth System Sciences	22	3	891	907	20220317
3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	A CDM-like constitutive law for predicting degradation of strength and ductility of steel subjected to cyclic loading	Yuichi Shintaku, Seichiro Tsutsumi, Kenjiro Terada	International Journal of Plasticity	153			103237	20220316
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-time Tsunami Force Prediction by Mode Decomposition Based Surrogate Modeling	Kenta Tozato, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Yu Otake, Yo Fukutani, Kazuya Nojima, Masaaki Sakuraba, Hiromu Yokosu	Natural Hazards and Earth System Sciences	22	4	1267	1285	20220411
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	数値材料試験による一方炭素繊維強化熱可塑性樹脂の非主軸方向における非線形材料挙動の予測	染宮聖人, 平山紀夫, 山本見司, 松原成志朗, 寺田賢二郎	日本複合材料学会誌	48	3	96	108	20220515
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	非周期性を許容する均質化法に基づく数値材料試験(マイクロ擾乱変位およびマクロひずみを未知変数とした定式化)	新宅 勇一, 今井大貴, 寺田賢二郎	日本機械学会論文集	88	909		22-00049	20220428
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	橋脚津波動態とベイズ更新によるリアルタイム最尤津波シナリオ同定法	野村裕佳, 藤田真祥, 大竹雄, 森口周二, 越村俊一, 寺田賢二郎, 橋詰正広	日本計算工学会論文集	2022			20220003	20220519
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Influence of Strength and Notch Shape on Crack Initiation and Propagation Behavior of Advanced High Strength Steel Sheets	Masaki OMIYA, Seiya ARAKAWA, Zhenduo YAO, Mayu MURAMATSU, Shinnosuke NISHI, Kenji TAKADA, Masanobu MURATA, Kazuaki OKATO, Kensuke OGAWA, Kai OIDE, Takaya KOBAYASHI, Jike HAN, Kenjiro TERADA	Engineering Fracture Mechanics	271			108573	20220614
9	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Two-scale topology optimization for transient heat analysis in porous material considering the size effect of microstructure	Naruethep Sukulthanasorn, Hiroya Hoshiba, Koji Nishiguchi, Mao Kurumatani, Robert Fleischhauer, Kuniharu Ushijima, Michael Kaliske, Kenjiro Terada, Junji Kato	Structural and Multidisciplinary Optimization	65			186	20220618
10	英語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Transient thermal porous structure designed by two-scale concurrent topology optimization	Naruethep SUKULTHANASORN, Mao KURUMATANI, Koji NISHIGUCHI, Junji KATO, Kenjiro TERADA	Transactions of the Japan Society for Computational Engineering and Science	2022			20220004	20220614
11	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Generalized smoothed particle hydrodynamics with overset method in total Lagrangian formulation	Huachao Deng, Yoshiaki Kawagoe, Yoshiaki Abe, Kenjiro Terada, Tomonga Okabe	International Journal for Numerical Methods in Engineering	123	19	4518	4544	20220520
12	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	岩塊形状特性が落石到達分布特性に及ぼす影響の定量化	吉田 大活, 渡邊 大規, 菅野 蓮華, 森口 周二, 寺田 賢二郎	土木学会論文集C (地圏工学)	78	3	210	224	20220619
13	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地盤と豪雨による実際の斜面崩壊に対する極限平衡法に基づく三次元斜面解析	藤田真祥, ドロハン・ニコ・レムエル, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史	地盤工学ジャーナル	17	2	159	169	20220601
14	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Variational crack phase-field model for ductile fracture with elastic and plastic damage variables	Jike Han, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	400	1		115577	20221001

15	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	粘弾性・粘塑性・損傷複合モデルに対する材料物性値の混合型同定による熱可塑性樹脂の非線形材料挙動の再現と評価	染宮聖人, 田口尚輝, 平山紀夫, 松原成志朗, 山本晃司, 寺田賢二郎	日本機械学会論文集	88	913		22-00178	20220829
16	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tsunami Early Warning from Global Navigation Satellite System Data using Convolutional Neural Networks	Donsub Rim, Robert Baraldi, Christopher M. Liu, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada	Geophysical Review Letters	49	20		e2022GL099511	20221028
17	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sequential Bayesian update to detect the most probable tsunami scenario using observational wave sequence	Reika Nomura, Joseph M. Galbreath, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Kenjiro Terada, Randall J. LeVeque	Journal of Geophysical Research: Oceans	127	10		e2021JC018324	20221000
18	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Numerical Study on the Effects of Particle Size Distribution on Run-out Distance of Granular Flow	D. Watanabe, S. Moriguchi, K. Terada	Soils and Foundations	62	6		101242	20221116
19	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Limit equilibrium method-based 3D slope stability analysis for wide area considering influence of rainfall	Kenta Tozato, Nilo Lemuel J. Dolojan, Yoshiya Tonge, Shuichi Kure, Shuji Moriguchi, Seiki Kawagoe, So Kazama, Kenjiro Terada	Engineering Geology	308			106808	20221000
20	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	降雨の空間的不確実性を考慮した斜面安定解析による斜面崩壊ハザードマップの構築	外里健太, 佐々木駿, Nilo Lemuel J. Dolojan, 森口周二, 寺田賢二郎	日本計算工学会論文集	2022			20220018	20221213
21	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	感潮河川からの塩水移動に基づく地下構造物の劣化予測法	牛田 貴士, 仲山 貴司, 寺田賢二郎	土木学会論文集F1	78	1	132	149	20221220
22	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Method for rockfall risk quantification and optimal arrangement of protection structures at the regional scale	Hasuka Kanno, Shuji Moriguchi, Yuto Tsuda, Ikumasa Yoshida, Shoji Iwanaga, Kenjiro Terada	Engineering Geology	314	5		107004	20230305
23	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A transition scheme from diffusive to discrete crack topologies at finite strain during the course of a staggered iterative procedure	Jike Han, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	124	6	1405	1433	20230330
24	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	脆性亀裂進展のばらつき評価に対する確率論的選点法の有効性	稲岡龍彦, 新宅勇一, 寺田賢二郎	土木学会論文集, 特集号 (応用力学)	79	15		22-15030	20230309

学会発表

単名	1	筆頭 連名	0	その他 の連名	3	合計	4
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	国内 国際	会議名称	会議の チュア	区分	招待	講演・発表の 形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名 (原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第25回応用力学シンポジウム	満岡良介	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	オンライン	鹿児島	日本	20220527	20220528	20220528	脆性亀裂進展のばらつき評価に対する確率論的選点法の有効性の検討	<u>稲岡龍彦</u> , 新宅 勇一, 寺田 賢二郎	国内	120
2	国内	第25回応用力学シンポジウム	満岡良介	単名	はい	口頭 (招待)	鹿児島大学	鹿児島	日本	20220527	20220528	20220527	量体裁衣の計算力学 ~材料科学から災害科学まで~	<u>寺田賢二郎</u>	なし	120
3	国内	日本機械学会 M&M 2022 材料力学カンファレンス	笹川和彦	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	弘前大学 文京町 キャンパス	青森	日本	20220926	20220928	20220926	代替モデルと代理アプローチを用いた固体酸化物形燃料電池の電気化学・力学連成解析	<u>佐藤 雅夫</u> , 村松 真由, 寺田 賢二郎, 川田 達也	国内	150
4	国際	Meshfree and Novel Finite Element Methods with Applications	C. T. Wu	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	Claremont Club & Spa in Berkeley	パーク レー	アメリカ 合衆 国	20220925	20220927	20220927	Crack Phase-field Model Introducing Explicit Crack Surfaces	<u>Jike Han</u> , <u>Shuji Moriguchi</u> , <u>Kenjiro Terada</u>	なし	150

C. 教育活動

教育活動の概要

土木工学専攻の学部生に対しては、「計算力学及び同演習」を提供して、固体・構造の数値シミュレーションの中核である有限要素法の基礎を教育した。大学院生に対しては、固体の計算力学における非線形問題について、その分類と解法種別を網羅的に紹介し、特に接触問題の解法や増分法と陰解法を組み合わせた非線形解析手法の基礎を教育した。また、非均質材料の力学では、複合材料のマルチスケール解析の基礎を教育した。

担当授業科目 (他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	計算力学及び同演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	22.5
2	計算固体力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
3	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
4	創造工学研修	東北大学	工学部		1	1セメ	2
5	計算固体力学	中央大学	理工学研究科	都市人間環境学専攻	1	1セメ	15
6	特別講義	日本大学	生産工学部	機械工学科	1	2セメ	1
7	特別講義	韓国延世大学校	工学部	土木環境工学科	1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

CAE技術者を対象とした勉強会を企画・運営し、解析理論・技術のセミナーの講師を務めるなど、社会人教育に取り組んだ。また、松島町総合計画審議会および松島町都市計画審議会委員を務め、町の総合計画の実施の促進のための審議を行った。また、CAEソリューションズが企画したCAE技術者向けのユーザー会では基調講演でCAEにおける解析技術の発展の経緯と現状・課題・展望を述べた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 9件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第38期非線形CAE勉強会(第1回)	20220521	20220521	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
2	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第38期非線形CAE勉強会(第2回)	20220611	20220611	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
3	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第38期非線形CAE勉強会(第3回)	20220625	20220625	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
4	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第38期非線形CAE勉強会(第4回)	20220709	20220709	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
5	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第39期非線形CAE勉強会(第1回)	20221023	20221023	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
6	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第39期非線形CAE勉強会(第2回)	20221106	20221106	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
7	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第39期非線形CAE勉強会(第3回)	20221127	20221127	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
8	国内	NPO法人・非線形 CAE協会	第39期非線形CAE勉強会(第4回)	20221211	20221211	オンライン		日本	実行委員長	180	なし	セミナー
9	国内	東北大学災害科 学国際研究所	東北大学災害科学国際研究所設立十 周年記念行事	20221014	20221014	仙台国際セン ター・展示棟	仙台	日本	講演	100	IRIDeS主 催・共同主 催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	名古屋大学計算力学 セミナー	招待講演	20220617	20220617	Primer on Mathematical Homogenization	なし	名古屋大学 大学院工学 研究科 土木工 学専攻	名古屋大 学大学院工学 研究科 土木工 学専攻	名古屋 市	日本	15
2	セミナー	CAE Solutions conference 2022秋	基調講演	20221125	20221125	CAEにおける解析技術の発展の経緯と 現状・課題・展望	企業	CAEソル ーションズ	オンライン		日本	100
3	セミナー	解析モデリング分科 会	招待講演	20220627	20220627	量体裁衣のCAE～材料モデルから防災 まで～	企業	PO法人非線 形CAE協会	オンライン		日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	松島町	総合計画審議会	委員	20140401
2	地方自治体	松島町	都市計画審議会	委員	20140401

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 6件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	鈴木温、溝口敦 子、小高猛司、 中村一樹、藤井 幸泰、武藤厚、 葛漢彬、岡本隆 明	20220509	共同研究	オンライン		運営	12
2	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	鈴木温、溝口敦 子、小高猛司、 中村一樹、藤井 幸泰、武藤厚、 葛漢彬、岡本隆 明	20220613	共同研究	オンライン		運営	12
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	鈴木温、溝口敦 子、小高猛司、 中村一樹、藤井 幸泰	20220808	共同研究	オンライン		運営	10
4	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	鈴木温、溝口敦 子、小高猛司、 中村一樹、藤井 幸泰	20221006	共同研究	オンライン		運営	10
5	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	鈴木温、溝口敦 子、小高猛司、 中村一樹、藤井 幸泰、武藤厚、 葛漢彬	20230111	共同研究	オンライン		運営	8
6	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工 学科 自然災害リスク軽減 研究センター	小高猛司、岡本 隆明	20220822	共同研究	熱海市土石流現場	熱海市	運営	5

## 森口 周二 准教授

## MORIGUCHI Shuji

災害評価・低減研究部門 計算安全工学研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岐阜大学	工学部	2000	3	岐阜大学大学院	工学研究科	2002	3	博士(工学)	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	4	2006	3	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
2	2006	4	2007	3	東京工業大学 原子炉工学研究所	特別研究員
3	2007	4	2009	3	東京工業大学(日本学術振興会特別研究員(PD))	日本学術振興会特別研究員(PD)
4	2008	6	2009	3	Stanford University(日本学術振興会特別研究員(PD)期間中)	Visiting scholar
5	2009	4	2010	5	岐阜大学 工学部	学術研究補佐員
6	2010	6	2013	3	岐阜大学 工学研究科	助教
7	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地盤工学会	日本計算工学会	日本機械学会	土木学会	日本自然災害学会	日本地すべり学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地盤工学会	Geo-Mechanics from Micro to Macro国内委員会(TC105)	幹事長	20120000
2	地盤工学会	地盤工学ジャーナル編集委員会	委員	20160000
3	地盤工学会	Soils and foundations editorial committee	委員	20210000
4	地盤工学会	事業企画戦略室	室員	20210000
5	地盤工学会	データサイエンスから探る地盤工学に関する研究委員会	委員	20210000
6	地盤工学会	災害調査データの収集と活用委員会	委員	20210000
7	地盤工学会	応用地質学と地盤工学の協働に関する会長特別委員会	委員	20220000
8	地盤工学会	災害連絡会議	地方連絡委員(宮城県)	20200000
9	地盤工学会東北支部	東北地域地盤災害研究委員会	委員	20200000
10	地盤工学会東北支部	東北地域地盤災害研究委員会地盤リスク検討小委員会	副委員長	20200000
11	日本地すべり学会東北支部	運営委員	委員	20220000
12	International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering	TC105 Geo-mechanics	Member	20190000
13	土木学会	応用力学委員	副幹事長	20210600
14	土木学会	応用力学委員 V&V小委員会	副委員長	20140000
15	土木学会	原子力土木委員会	委員	20150000
16	土木学会	計算力学+ $\alpha$ 小委員会	幹事	20160000
17	土木学会	地震工学委員会	委員	20190000
18	計算工学会	多元災害シミュレーション研究会	幹事, WG長	20170000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地盤工学	計算工学	斜面災害

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	ネットワーク係	メンバー	20180000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

斜面災害シミュレーションについては、個別要素法を用いた落石および土砂流動のシミュレーションに関して、V&Vを達成するための計算条件の分析を進めた。また、津波と地震を対象として、数値解析結果を効果的に活用した確率的危険度評価に関する研究を進めた。さらに、広域の土砂災害危険度予測を可能とする手法を開発し、宮城県丸森町や岩手県釜石市で発生した豪雨による土砂災害事例を対象として検証を行った。災害調査については、8月に発生した山形県と新潟県の豪雨災害、および11月に発生したジャワ島西部地震の現地調査を実施した。
---

研究課題

No.	期間			研究課題(内容)	所外連携	
	開始年	月	終了年			
1	2002	4	2007	3	流体力学に基づく地盤材料の大変形解析手法に関する研究	国内
2	2003	4	2005	3	岩盤斜面危険度評価システムの開発	国内
3	2005	4	2006	3	実大規模実験に基づく自然共生型土木構造物に関する研究	国内
4	2009	4	2014	3	社会基盤施設のリスクマネジメントに関する研究	国内
5	2009	4	2021	3	数値流体解析による雪崩危険度評価に関する研究	国内
6	2006	4	現在		地盤材料の直接計算に関する研究	国内
7	2009	4	現在		個別要素法による斜面災害危険度評価に関する研究	国内
8	2013	4	現在		数値解析に基づく災害の確率的危険度評価	両方
9	2016	4	現在		災害における情報発信や行政対応に関する研究	両方
10	2020	4	現在		広域の土砂災害の予測と評価に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	17	合計	17	うち	国際査読有	13	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Variational crack phase-field model for ductile fracture with elastic and plastic damage variables	Jike Han, Seishiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	400		115577		22020905
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A transition scheme from diffusive to discrete crack topologies at finite strain during the course of a staggered iterative procedure	Jike Han, Yuichi Shintaku, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	124	6	1405	1433	20221109
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Gradient damage model for ductile fracture introducing degradation of damage hardening modulus: implementation and experimental investigations	Jike Han, Seishiro Matsubara, Shinnosuke Nishi, Kenji Takada, Mayu Muramatsu, Masaki Omiya, Kensuke Ogawa, Kai Oide, Takaya Kobayashi, Masanobu Murata, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal of Fracture	240	×	183	208	20221206
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Rapid Tsunami Force Prediction by Mode Decomposition-Based Surrogate Modeling	Kenta Tozato, Shinsuke Takase, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Yu Otake, Yo Fukutani, Kazuya Nojima, Masaaki Sakuraba, Hiromu Yokosu	Natural Hazards and Earth System Sciences	22	4	1267	1285	20220411
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Limit equilibrium method-based 3D slope stability analysis for wide area considering influence of rainfall	Kenta Tozato, Nilo Lemuel J. Dolojan, Yoshiya Touge, Shuichi Kure, Shuji Moriguchi, Seiki Kawagoe, So Kazama, Kenjiro Terada	Engineering Geology	308		106808		20220810
6	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	降雨の空間的不確実性を考慮した斜面安定解析による斜面崩壊ハザードマップの構築	外里健太, 佐々木駿, Nilo Lemuel J. Dolojan, 森口周二, 寺田賢二郎	日本計算工学会論文集	2022		20220018		20221213
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A method of fully implicit coupled analyses for thermoset resin subjected to cure based on variationally consistent formulation for finite thermo-viscoelasticity	Yosuke Yamanaka, Seihiro Matsubara, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal of Solids and Structures	268		112161		20230221
8	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地震と豪雨による実際の斜面崩壊に対する極限平衡法に基づく三次元斜面安定解析	藤田真輝, ドロハンニロレムエル, 森口周二, 寺田賢二郎, 京谷孝史	地盤工学ジャーナル	17	2	159	169	20220601
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Extended B-spline-based implicit material point method (EBS-MPM) enhanced by F-bar projection method to suppress pressure oscillation	Riichi Sugai, Jike Han, Yuya Yamaguchi, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	International Journal for Numerical Methods in Engineering	124	×	2423	2448	20230130
10	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	岩塊形状特性が落石到達分布特性に及ぼす影響の定量化	吉田 大活, 渡邊 大規, 菅野 蓮華, 森口周二, 寺田賢二郎	土木学会論文集C(地圏工学)	78	3	210	224	20220820
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A method for rockfall risk quantification and optimal arrangement of protection structures along a road	Hasuka Kanno, Shuji Moriguchi, Yuto Tsuda, Ikumasa Yoshida, Shoji Iwanaga, Kenjiro Terada	Engineering Geology	314	5	107004		20230116
12	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A numerical study on the effects of particle size distribution on run-out distance of granular flow	Daiki Watanabe, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	Soils and Foundations	62	6	101242		20221116
13	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experimental data of 3D printed granular material for verification of discrete element modeling simulation	Yukio Nakata, Shuji Moriguchi, Shintaro Kajiyama, Ryunosuke Kido, Naotaka Kikkawa, Hidetaka Saomoto, Daiki Takano, Yosuke Higo	Soils and Foundations	62	4	101178		20220709
14	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Round robin test on angle of repose: DEM simulation results collected from 16 groups around the world	Hidetaka Saomoto, Naotaka Kikkawa, Shuji Moriguchi, Yukio Nakata, Masahide Otsubo, Vasileios Angelidakis, Yi Pik Cheng, Kevin Chew, Gabriele Chiaro, Jérôme Duriez, Sacha Duverger, Joaquín Irazábal González, Mingjing Jiang, Yohei Karasaki, Akiko Kono, Xintong Li, Zhuyuan Lin, Asen Liu, Sadegh Nadimi, Hitoshi Nakase, Daisuke Nishiura, Utsa Rashique, Hiroyuki Shimizu, Kumpei Tsuji, Takashi Watanabe, Xiaomin Xu, Mourad Zeghal	Soils and Foundations	63	1	101272		20221214

15	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	模擬津波動態とベイズ更新によるリアルタイム津波リスク評価手法	野村 怜佳, 藤田 真祥, 大竹 雄, 森口 周二, 越村 俊一, 寺田 賢二, 橋詰 正広	日本計算工学会論文集	2022		20220003	20220519
16	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sequential Bayesian Update to Detect the Most Likely Tsunami Scenario Using Observational Wave Sequences	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Joseph M Galbreath, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Randall J LeVeque, Kenjiro Terada	Journal of Geophysical Research: Oceans	127	10	e2021JC018324	20221005
17	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Submarine Landslide Source Modeling using the 3D Slope Stability Analysis Method for the 2018 Palu-Sulawesi Tsunami	Chatuphorn Som phong, Anawat Suppasri, Kwanchai Pakoksung, Tsuyoshi Nagasawa, Yuya Narita, Ryunosuke Tawatari, Shohei Iwai, Yukio Mabuchi, Saneiki Fujita, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada, Cipta Athanasius, Fumihiko Imamura	Natural Hazards and Earth System Sciences	22	3	891	907 20220317

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	1	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍 祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	6	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語 三次元解析の現状と課題	学術雑誌	有	はい	地盤工学会誌	71	2	1	3	20220200	森口周二	単著	なし
2	日本語 広域を対象とした土砂災害の予測・評価技術	その他	無	はい	消防防災の科学	151		25	29	20230200	森口周二	単著	国内
3	日本語 豪雨による土砂災害の予測・評価技術	その他	無	はい	山が動く	25		17	26	20230300	森口周二	単著	国内
4	日本語 TC105 ミクロからマクロの地盤力学	学術雑誌	無	いいえ	地盤工学会誌	70	10	14		20221000	中田幸男, 森口周二	共著	国内
5	日本語 新しい地盤工学のためのマルチスケール・マルチフィジックス	学術雑誌	無	いいえ	地盤工学会誌	70	11	30		20221100	中田幸男, 森口周二	共著	国内
6	日本語 ISRSS-Sendai2022の開催報告	学術雑誌	無	いいえ	地盤工学会誌	70	12	44	45	20221200	森口周二, 張峰, 満岡良介, 沢田和秀, 余川弘至, 野々山栄人, 小田憲一	筆頭共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	5	その他の連名	3	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者氏名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
									開始年月	終了年月						
1	国際	Meshfree and Novel Finite Element Methods with Applications		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Claremont Club and Spa	Berkeley	米国	20220925	20220927	20220927	A NUMERICAL STUDY ON THE CONTRIBUTION OF PARTICLE SIZE DISTRIBUTION TO RUN-OUT DISTANCE OF GRANULAR FLOW	Shuji Moriguchi, Daiki Watanabe, Kenjiro Terada	なし	
2	国際	15th World Congress on Computational Mechanics (WCCM-XV) 8th Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM-VIII)		筆頭連名	いいえ	口頭(基調)	オンライン		日本	20220731	20220805		Quantification of the contribution of particle size distribution in granular flows	Shuji Moriguchi, Daiki Watanabe, Kenjiro Terada	なし	
3	国際	World Bosai Forum 2023	小野裕一	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際会議場	仙台	日本	20230310	20230312	20230311	Decision-Making Support Utilizing Digital Twin Technology for Crisis Response	Naoko Kosaka, Shuji Moriguchi, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Kenjiro Terada, Makoto Okumura, Naoko Shigematsu, Hitoshi Shimizu, Akinori Fujino, Tsuneko Kura, Hiroshi Matsubara, Masaki Hisada		国内
4	国内	第25回応用力学シンポジウム	満岡良介	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	鹿児島大学	鹿児島市	日本	20220527	20220528	20220528	粒度分布が土砂流動の到達距離に与える影響	森口周二, 渡邊大規, 寺田賢二郎	なし	
5	国内	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第13回シンポジウム		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	tokyo conference center オンライン	東京	日本	20220707	20220708	20220708	透水モデルにおける代表粒径に関する解析的検討	森口周二, 牛島省, 島生大祐, 寺田賢二郎, 浅井光輝, 高瀬慎介, 西浦泰介, 橋一光		国内
6	国際	International Workshop on Seismic Design and Assessment Framework for Resilience, Robustness and Sustainability of Slope Engineering		筆頭連名	はい	口頭(Keynote)	Tongji University オンライン	Shanghai	中国	20230113	20230115	20230113	Effects of particle size distribution on run-out distance of granular flow	Shuji Moriguchi, Daiki Watanabe, Kenjiro Terada	なし	
7	国内	tj 地盤解析研究会	中井照夫	単名	はい	口頭(招待)	オンライン		日本	20230314	20230314	20230314	個別要素法による土砂流動・落石シミュレーションにおける感度解析	森口周二	なし	30
8	国内	第25回応用力学シンポジウム	野村怜佳	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン(鹿児島大学)		日本	20220527	20220528	20220528	地盤変動データの利用による逐次更新型津波シナリオ推定の精度向上に関する検討	野村怜佳, 大竹雄, 森口周二, Diego Melgar, Randall J. LeVeque, 寺田賢二郎	なし	
9	国際	WCCM-APCOM YOKOHAMA 2022	野村怜佳	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン(バンブイコ横浜)	オンライン(横浜)	日本	20230731	20230805	20220802	Improvement of a tsunami scenario detection framework by using synthetic geodetic data	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Louise A. Hiroo Vernare, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Diego Melgar, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada	なし	

学会・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (9%以内)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	講演会	土木学会 応用力学委員会	土木学会 応用力学委員会 計算力学小委員会×α 関東地区フォーラム	20220826	20220826	オンライン		日本	120	工学	運営	なし		国内
2	国内	シンポジウム	土木学会 応用力学委員会	第25回応用力学シンポジウム	20220527	20220528	鹿児島大学郡元キャンパス稲盛会館	鹿児島市	日本	300	工学	運営	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

数値解析や力学に関する講義を提供した。また、各講義の中では、これまでに実施した災害調査の結果や災害の教訓などを関連付けて説明した。研究室内の学生については、災害シミュレーションやそれを用いたリスク評価に関する研究を中心として指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	Semester・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	シビックデザインの力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	5
2	振動解析学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
3	社会基盤デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
4	工学倫理	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	7セメ	5
5	非均質材料の力学	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		後期	7.5
6	数値解析	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		前期	7.5
7	地盤工学II	宮城大学	食産業学部		3	後期	6

D. 社会活動

社会活動の概要

斜面災害や地盤災害に関する防災教育を目的として新聞やラジオを通じて土砂災害に関する情報を発信した。また、学会等が運営するセミナーや講習会等でも講演を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学国際研究所	東日本大震災メモリアルシンポジウム	20220304	20220304	仙台国際会議場	仙台	日本	運営, コーディネーター	100	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
2	国内	東北大学災害科学国際研究所	2022年(令和4年)7月15日からの大雨・8月3日からの大雨に関する速報会	20220721	20220721	オンライン	仙台	日本	運営, 発表	50	IRIDeS主催・共同主催	その他
3	国内	東北大学災害科学国際研究所	2022年7月・8月の大雨に関する調査速報会	20220809	20220809	オンライン	仙台	日本	運営, 発表	50	IRIDeS主催・共同主催	その他
4	国内	東北大学災害科学国際研究所	2023年2月トルコ南東部を震源とする地震に関する調査速報会	20230210	20230210	オンライン	仙台	日本	運営, 司会	700	IRIDeS主催・共同主催	その他
5	国際	東北大学災害科学国際研究所	Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Turkey and Syria - Mechanism, damage and strategy for recovery, reconstruction, BBB, and resilient society	20230227	20230227	オンライン	仙台	日本	運営	300	IRIDeS主催・共同主催	その他

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム	講義	20221029	20221029	土砂災害の基礎と対応方法	行政	東北大学災害科学国際研究所・福島県立医科大学	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	100
2	公開講座	気仙沼親子防災教室	講義	20220821	20220821	地震で地面が溶ける? ~液状化を知ろう~	行政	気仙沼東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼	日本	8
3	セミナー	宮城県職員土砂災害研修	講義	20230118	20230118	土砂災害の評価・予測技術の現状と課題	行政	宮城県	宮城県庁舎	仙台	日本	100
4	その他	第28回日本災害医学会総会・学術集会	パネルディスカッション	20230309	20230309	豪雨による土砂災害の予測	なし	災害医学学会	オンライン	盛岡市	日本	50
5	セミナー	第56 回行政課題研修	講演	20220525	20220525	土砂災害	行政	東北自治研修所	東北自治総合研修センター	仙台市	日本	40



自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	丸森町	再生可能エネルギー発電設備設置協議会委員	副委員長	20200401
2	国・政府	国土交通省東北地方整備局	東北の砂防を考えるアドバイザー会議	委員	20220401

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 14 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬, 岡本隆明	20220509	共同研究	オンライン		運営	12
2	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬, 岡本隆明	20220613	共同研究	オンライン		運営	12
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰	20220808	共同研究	オンライン		運営	10
4	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰	20221006	共同研究	オンライン		運営	10
5	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬	20230111	共同研究	オンライン		運営	8
6	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	小高猛司, 岡本隆明	20220822	共同研究	熱海市土石流現場	熱海市	運営	5
7	災科学技術研究所	酒井直樹, 石澤友浩	20221031	共同研究	オンライン		運営	5
8	災科学技術研究所	酒井直樹, 石澤友浩	20221220	共同研究	オンライン		運営	5
9	災科学技術研究所	酒井直樹, 石澤友浩	20221220	共同研究	オンライン		運営	5
10	日本電信電話株式会社	小阪尚子, 倉恒子, 久田正樹, 松原浩史, 藤野昭典, 重松直子	20220826	共同研究	オンライン		運営	12
11	日本電信電話株式会社	小阪尚子, 倉恒子, 久田正樹, 松原浩史, 藤野昭典, 重松直子	20221024	共同研究	オンライン		運営	12
12	日本電信電話株式会社	小阪尚子, 倉恒子, 久田正樹, 松原浩史, 藤野昭典, 重松直子	20221221	共同研究	オンライン		運営	12
13	日本電信電話株式会社	小阪尚子, 倉恒子, 久田正樹, 松原浩史, 藤野昭典, 重松直子	20230320	共同研究	オンライン		運営	12
14	日本電信電話株式会社	小阪尚子, 倉恒子, 久田正樹, 松原浩史, 藤野昭典, 重松直子	20230222	共同研究	オンライン		運営	12

# 野村 怜佳 助教

## NOMURA Reika

災害評価・低減研究部門 計算安全工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	2015	3	東北大学	工学研究科	2020	3	博士(工学)	2020	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	4	2020	11	株式会社 大林組 技術研究所	職員

#### 学会活動

##### 所属学会 (最大10まで)

学会名	1	2
土木学会		日本計算工学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
計算力学	流体力学	津波工学	数値流体力学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

昨年度に引き続き、ワシントン大学客員教授Randall J. LeVeque教授との共同研究プロジェクトである、機械学習を用いた津波予測に関する課題を進捗させた。国内誌・国際誌双方に投稿した論文が受理されている。また、計算安全工学研究分野内で協働し、地盤・斜面災害に関する数値解析技術の開発や数値実験に基づくモデル開発の研究にも着手した。兼任として参画している日本工営レジリエントシティ技術実装共同研究部門の研究活動として、様々な災害シミュレーションをX-GISやPLATEAUなどのプラットフォーム状に可視化するデジタルツイン構築に関する研究にも着手している。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2022	9	現在		広域土砂流動シミュレーションのための抵抗力モデルに関する研究	なし
2	2022	6	現在		数値流れ試験による間隙流れの透水性特性評価に関する研究	国内
3	2021	11	現在		データサイエンス技術によるリアルタイム津波予測手法の開発	両方
4	2021	4	2022	6	流体構造連成解析による津波漂流物の後背構造物への影響評価	国内
5	2015	4	現在		津波減災を目的として造成される海岸防災林のマルチスケール評価手法の開発	国外
6	2022	4	現在		レジリエントシティのためのデジタルツインシステム構築に関する研究	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	模擬津波動態とベイズ更新によるリアルタイム津波リスク評価手法	野村 怜佳, 藤田 真稀, 大竹 雄, 森口 周二, 越村 俊二, 幸田 賢二郎, 橋詰 正広	日本計算工学会論文集	2022			20220003	20220519
2	英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sequential Bayesian update to detect the most likely tsunami scenario using observational wave sequences	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Joseph M. Galbreath, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada	Journal of Geophysical Research: Oceans	127	10	e2021JC018324		20221005

学会発表

単名	2	筆頭連名	2	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチャプ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第25回応用力学シンポジウム	野村怜佳	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン(鹿児島大学)	鹿児島市	日本	20220527	20220528	20220528	地震変動データの利用による逐次更新型津波シナリオ推定の精度向上に関する検討	野村怜佳, 大竹雄, 森口周二, Diego Melgar, Randall J. LeVeque, 幸田賢二郎		
2	国際	WCCM-APCOM YOKOHAMA 2022	野村怜佳	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン(バシフィコ横浜)	オンライン(横浜)	日本	20230731	20230805	20220802	Improvement of a tsunami scenario detection framework by using synthetic geodetic data	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Louise A. Hirao Vermare, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Diego Melgar, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada		
3	国内	土木学会応用力学委員会計算力学小委員会x6 関東地区フォーラム	野村怜佳	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	オンライン	オンライン	オンライン	20220826	20220826	20220826	数値シミュレーションとデータサイエンスの融合による津波リスク評価技術の開発	野村怜佳		
4	国内	京都大学農学研究所 交流講演会	野村怜佳	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	京都	日本	20221018	20221018	20221018	数値流体解析による津波災害シミュレーション	野村怜佳		

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

No.	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学国際研究所・計算安全工学研究室	計算力学研究室交流会	20220318	20230318	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	27	工学	司会・運営	なし	慶應義塾大学 村松研究室	国内
2	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所・日本工営レジリエントシステイ技術実装共同研究部門	日本工営レジリエントシステイ技術実装共同研究部門キックオフシンポジウム	20220715	20220715	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本		工学	司会・運営・講演	IRIDeS主催・共同主催	日本工営	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

所属研究分野である計算安全工学研究分野に配属された大学院学生4名(博士課程2名, 修士課程2年次2名, うち2名留学生)及び学部4年生の研究活動及び学位論文執筆を, 寺田賢二郎教授, 森口周二准教授と共に指導・サポートした。具体的には, 修士論文・卒業論文執筆に向けた研究テーマの設定や, 研究の進捗状況などを共有する定期的な打ち合わせに参加し, 計算機の利用や学会参加時の投稿概要集や抄録の執筆作業をサポート, 研究活動に欠かせない種々ソフトウェアやプログラミング環境の環境構築を担当した。

D. 社会活動

社会活動の概要

中部電力株式会社主催のサイエンスフォーラム2022に寺田賢二郎教授とともに参加し, 地震や津波などの自然災害の予測について大学での取り組みを御前崎市民の方々に広く説明した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	展示会	ちゅうでん サイエンス・フォーラム2022	ポスター展示	20220723	20220723	津波解析の代理モデルと観測データによる逐次更新型リアルタイム津波被害予測手法の開発	企業	中部電力株式会社	御前崎市民会館	静岡県御前崎市	日本	500

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	8件
----	----

No.	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬, 岡本隆明	20220509	共同研究	オンライン		その他	12
2	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬, 岡本隆明	20220613	共同研究	オンライン		その他	12
3	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰	20220808	共同研究	オンライン		その他	10
4	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰	20221006	共同研究	オンライン		その他	10
5	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 自然災害リスク軽減研究センター	鈴木温, 溝口敦子, 小高猛司, 中村一樹, 藤井幸泰, 武藤厚, 葛漢彬	20230111	共同研究	オンライン		その他	8
6	防災科学技術研究所	酒井直樹, 石澤友浩	20221031	共同研究	オンライン		その他	5
7	日本工営株式会社			共同研究		八戸市	運営	
8	鹿島建設	大川真里奈	20230317	共同研究		東北大学災害科学国際研究所	仙台市	運営

## 今村 文彦 教授

### IMAMURA Fumihiko

災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1984	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1990	12	東北大学 工学部土木工学科	助手
2	1991	3	1992	11	東北大学 工学部附属災害制御センター	講師
3	1992	12	2000	7	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	助教授
4	1993	8	1995	9	アジア工科大学院	助教授(派遣)
5	1997	6	2000	3	京都大学防災研究所 附属巨大災害研究センター	客員助教授(併任)
6	2000	8	2012	3	東北大学大学院 工学研究科附属災害制御センター	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授
8	2012	4	2014	3	東北大学 災害科学国際研究所	副研究所長
9	2012	4	2015	3	東北大学	総長特別補佐
10	2014	4	2023	3	東北大学 災害科学国際研究所	所長
11	2015	4	2020	3	東北大学	副理事(震災復興推進担当)
12	2016	6	2020	3	東北大学 災害復興新生研究機構	副機構長
13	2017	9	現在		東北大学 高等研究機構 災害科学世界トップレベル研究拠点	拠点長
14	2020	4	2023	3	東北大学	総長補佐

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	土木学会	日本地震学会	日本自然災害学会	Int. Tsunami Society	American Geophysical Union	デジタルアーカイブ学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会		理事及び評議員	0000
2	日本地震学会		代議員	0000
3	デジタルアーカイブ学会		理事及び評議員	0000
4	防災教育普及協会		副会長	0000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	津波工学	海岸工学	土木工学	自然災害科学	防災科学

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

東日本大震災での津波被害に関する研究として、河川津波、遡上津波などの関連データ及び解析を実施している。また、津波統合モデルの高精度向上と機能の拡大を実施し、複合現象のリスク評価への適用を検討している。防災に関する国際標準化(ISO化)についても概念規格と個別テーマ規格し社会貢献への役割について検討している。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		津波発生メカニズムと伝播予測に関する研究	両方
2	1992	4	現在		津波総合防災に関する研究	両方
3	1997	10	現在		災害情報と認知に関する研究	国内
4	2011	3	現在		実践防災学の構築に関する研究	両方
5	2019	4	現在		地産地防の知見や技術・システムを国際標準化を通じた貢献に関する研究	国外

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	29	合計	30
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	10	国内査読無	10
----	-------	----	-------	---	-------	----	-------	----

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	People's Perception of Well-being During the COVID-19 Pandemic: A Case Study in Japan	Sasaki, D., Suppasri, A, Tsukuda H., Nguyen, D.N., Onoda, Y. and Imamura, F.	Journal of Environmental Research and Public Health	19	19	12146		20210513
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Consequences of COVID-19 on health, economy, and tourism in Asia: A systematic review	Saengtabtini, K., Leelawat, N., Tang, J., Suppasri, A and Imamura, F.	Sustainability	14	8	4624		20220412
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中小河川の維持管理に関する実態調査	市川健, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 天谷香織, 今村文彦	自然災害科学	41	1	39	53	20220501
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	発災10年間にみる被災地来訪者の「期待」の推移:東日本大震災被災地における震災学習への関心	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会梗概集	50		229	232	202205020
英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Preliminary Observations and Impact in Japan of the Tsunami Caused by the Tonga Volcanic Eruption on January 15, 2022	Imamura, F., Suppasri, A., Arikawa, T., Koshimura, S., Satake, K. and Tanioka, Y.	Pure and Applied Geophysics	179		1549	1560	20220604
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Quantifying tsunami impact on industrial facilities and production capacity in ports: An application to Sendai Port, Japan	Suppasri, A., Nishida, T., Pakoksung, K., Cheng, A.C., Chua, C.T., Iwasaki, T., Pescaroli, G. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	78		103141		20220704
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The probability of building damage and economic loss increased after the 2004 Indian Ocean tsunami at the community scale in Thailand	Pakoksung, K., Latcharote, P., Suttinon, P., Bunditsakulchai, P., Suppasri, A. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	79		103171		20220804
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	来訪者の防災力に応じた効果的な被災地訪問学習:東日本大震災を事例とした初期検討	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		53	56	20220805
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A study of hypothermia and associated countermeasures in tsunami disasters: A case study of Miyagi Prefecture during the 2011 Great East Japan Earthquake	Kamata, H., Seto, S., Suppasri, A., Sasaki, H., Egawa, S. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	81		103253		20220901
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	The near-field tsunami generated by the 15 January 2022 eruption of the Hunga Tonga-Hunga Ha'apai volcano and its impact on Tongatapu, Tonga	Pakoksung, K., Suppasri, A. and Imamura, F.	Scientific Reports	12		15187		20220907
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	河川技術者が参画する洪水常襲地帯の水防学習の効果—北上川流域における登米市立津山中学校を対象として	市川健, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 天谷香織, 高村光輝, 小野寺洋友, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		55	56	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	マイタイムライン講習会の講習内容と受講者の学習効果・主観的有用性の関係:宮城県大郷町を事例として	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		143	144	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	語り部学習におけるオンライン学習形式と対面形式の比較—時短型・災害疑似体験プログラム「ツナミリアル」の事例—	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		59	60	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における瓦礫内発見に着目した犠牲者分析—宮城県名取市, 気仙沼市の事例—	信田晃成, 門畑友伸, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海洋工学)	78	2	L_355	L_360	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県での損傷死の被害実態および影響要因	鎌田敏一, 門畑友伸, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海洋工学)	78	2	L_349	L_354	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	アモモ場に関する津波被害予測の有用性	木村裕行, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 高橋宏樹	土木学会論文集B2(海洋工学)	78	2	L_859	L_864	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	阪神・淡路大震災, 新潟県中越地震, 想定首都直下地震の先進事例と比較した東日本大震災の震災伝承施設の学習効果と有用性:利用者視点による災害伝承ミュージアムの類型化による評価の試み	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集	41		83	93	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波災害時における車渋滞の抑制を目的とする基礎的研究:2021年3月20日宮城県沖地震における宮城県石巻市の住民に見られた避難行動の分析を通して	川合将矢, 佐藤翔輔, 新家杏奈, 渡邊勇, 今村文彦	地域安全学会論文集	41		229	239	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	マイタイムラインリーダー養成講座における育成効果に関する実証的分析	佐藤翔輔, 田畑佳祐, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹	土木学会論文集B1(水工学)	78	2	L_1021	L_1026	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	非専門家によるマイタイムライン講習会の可能性の検証:専門家講習による効果との比較	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹	土木学会論文集B1(水工学)	78	2	L_1027	L_1032	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地震発生時間の違いがもたらす津波避難行動の実態事例:2つの地震における宮城県亶理町での比較分析	佐藤翔輔, 藤田崇宏, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 南城真佐英, 渡邊勇, 今村文彦	土木学会論文集B2(海洋工学)	78	2	L_325	L_330	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の復興支援調査アーカイブで明らかになった危険方向移動の実態と提案	成田峻之輔, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 新家杏奈, 今村文彦	土木学会論文集B2(海洋工学)	78	2	L_361	L_366	20221101
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of consecutive tsunamis and resulting tsunami behaviors in southern Taiwan induced by the doublet earthquakes on 26 December 2006	Cheng, A.C., Suppasri, A., Pakoksung, K. and Imamura, F.	Natural Hazards and Earth System Sciences	23	2	447	479	20230203
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Personality Traits and Types of Housing Recovery after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Akio Honda, Shosuke Sato, Motoaki Sugiyra, Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura	Sustainability	15	7	1	9	20230300
日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	津波避難時の渋滞緩和のための徒歩避難促進手法の提案:宮城県石巻市における実践例	川合将矢, 佐藤翔輔, マスエリコ, 新家杏奈, 今村文彦	令和4年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20230304
日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	震災語り部プログラム「ツナミリアル」の効果検証に関する実験的研究	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 今村文彦	令和4年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20230304
英語	共著	なし	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Development a method for analyzing testimonies at the time of the tsunami disaster using dual process theory	Shinka Anna, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai,					20230310

28	英語	共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Impacts of Handing Down Disaster Experiences on Storytellers and Successors: A Case Study of PBL Classes at Tohoku University.	Yu Watanabe, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Hisashi Matsubara	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai.					20230310
29	英語	共著	なし	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	The guidance with balloon for tsunami evacuation	Shunosuke Narita, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai.					20230310
30	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Resonance characteristics and impact of the 2006 Pingtung tsunami in southern Taiwan	Cheng, A.C., Suppasri, A., Pakoksung, K. and Imamura, F.	Geoscience Letters	10	17			20230314

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携
1	日本語 地球防災ラボ実験でくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	3	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第118回日本精神神経学会学術総会	川崎弘昭	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	福岡国際会議場	福岡	日本	20220616	20220618	-	COVID-19パンデミック時の心理状態に対する都道府県別分析-全国規模のWebアンケートによる横断調査-	奥山純子, 門田充侍, 伊藤謙, 今村文彦, 出江紳一	国内	-
2	国内	第76回東北精神神経学会総会	中村和彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	日本	20221009	20221009	20221009	長期化した新型コロナウイルス感染症流行下における自己肯定感が精神状態に及ぼす影響	奥山純子, 門田充侍, 福田謙, 伊藤謙, 出江紳一, 今村文彦	国内	-
3	国内	第28回日本災害医学会総会・学術集会	眞瀬 智彦	その他の連名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	マリオス / アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230309	東日本大震災における宮城県での犠牲者と向き合って:死因を考慮した犠牲者分析	門田充侍, 今村文彦	国内	-

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	設立10周年記念式典・シンポジウム	20221021		東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本				IRIDeS主催・共同主催		国内
2	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	東日本大震災メモリアルシンポジウム2023	20220304		東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本				IRIDeS主催・共同主催		国内
3	国際	シンポジウム	世界防災フォーラム事務局	第3回世界防災フォーラム IDRC 2023 in 仙台	20230310	20230312	仙台国際センター	仙台市	日本				IRIDeS共催		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

世界で唯一工学的なアプローチで津波研究を展開、地球科学、地質学、減災工学、人間行動、災害情報・リモートセンシング技術まで多岐にわたる、国際的なプロジェクトや教育・研究も実施しており、大学院等で国外の関係者と連携した教育を実施している。東日本大震災での課題についての教育や被災地での復興支援活動も行っている。

D. 社会活動

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	7 件
----	-----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	一般社団法人 全経協	一般公開「そば大学in仙台」	20220514		日立システムズホール仙台	仙台市	日本	講演者	200	なし	講演会
2	国際	独立行政法人日本学術振興会	ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022	20221023		パシフィコ横浜	横浜市	日本	講演者	300	なし	シンポジウム
3	国内	七ヶ浜町	東北大学災害科学国際研究所・七ヶ浜津波防災・減災を考えるシンポジウム	20221106		七ヶ浜国際村	七ヶ浜町	日本	パネリスト	100	IRIDeS共催	シンポジウム
4	国内	公益社団法人 仙台市防災安全協会	内閣府総理大臣表彰受賞記念市民公開防災講演会	20221201		ホテルメトロポリタン仙台	仙台市	日本	講演者	50	なし	講演会
5	国内	公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構	福島イノベーション・コースト構想シンポジウム	20221210		富岡町文化交流センター	富岡町	日本	講演者	200	なし	シンポジウム
6	国内	仙台市建設技術協会	仙台市建設技術協会設立50周年記念特別講演会	20230203		オンワード樺山仙台ビル	仙台市	日本	講演者	240	なし	講演会
7	国内	日本コンベンション研究会	国際観光コンベンション・フォーラム2023 in 仙台	20230207		仙台国際センター	仙台市	日本	講演者	400	なし	講演会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 16 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	関東学院大学理工学部での講義	講師	20220419		防災教育における指導	なし	関東学院大学	関東学院大学	横浜市	日本	
2	講演会	理財部会 定例常任委員会	講師	20220426		東日本大震災の教訓を活かした防災・減災の取組～最近の動向を踏まえた新たなリスク	なし	仙台商工会議所	仙台商工会議所	仙台市	日本	
3	講演会	第14回総会・特別講演会	講師	20220512		2022年1月トンガでの海底火山噴火と津波の発生～予報が難しかった災害事例	なし	日本保全学会	オンライン	東京都	日本	
4	講演会	第53回全国国立大学法人放射線診療部門会議	講師	20220520		東日本大震災に学ぶ防災教育と災害伝承	なし	東北大学メディアカルメカバンク機構	東北大学片平さくらホール	仙台市	日本	
5	その他	常葉大学法学部学生に対する講義	講師	20220609		「地域文化論」～危機管理とグローバルガバナンス～政府と地域共同体の協力に向けて	なし	学校法人常葉大学	常葉大学静岡水落キャンパス	静岡市	日本	
6	その他	2022年度JICA中南米総合防災研修	講師	20220613	20220624		なし	一般財団法人アジア防災センター	オンライン	神戸市	日本	
7	公開講座	復興大学県民講座の後継講座「地域未来学」	講師	20220827		震災から11年を経た地域の復興と新しい防災の取組	なし	学校法人 東北工業大学	オンライン	仙台市	日本	
8	講演会	企業の防災力向上委員会	講師	20220901			なし	中部経済同友会	オンライン	名古屋	日本	
9	講演会	マスコミ倫理懇談会の全国大会「震災・防災報道」分科会	講演	20220929		今後発生が予想されている日本海溝・千島海溝地震の概要と求められる対策	なし	一般社団法人マスコミ倫理懇談会全国協議会	ホテルメトロポリタン盛岡	盛岡市	日本	
10	小中高との連携	京都市立西京高等学校ミニフィールドワーク	講師	20221006			小中高	京都市立西京高等学校	災害科学国際研究所	仙台市	日本	
11	講演会	三井楽研研究所 運営委員会 講演会	講演	20221020		東日本大震災および最近の自然災害の動向と今後の対応～持続可能でレジリエンス社会の構築を目指して	なし	三井楽研研究所	ウェスティンホテル仙台	仙台市	日本	
12	その他	防衛省職員対象の講演会	講師	20221028			なし	防衛省	防衛省	東京都	日本	
13	その他	JICA課題別研修	講師	20221107			なし	一般財団法人日本地震センター	東北大学地震・噴火予知研究観測センター	仙台市	日本	
14	講演会	最新トレンド勉強会	講師	20230117		【最近の自然災害・リスク状況と防災活動～レジリエンス社会構築に向けて	なし	東日本電信電話株式会社	オンライン	仙台市	日本	
15	その他	IISEEセミナー及び津波ハザード評価と仙台防災の枠組み	講師	20230120			なし	国立研究開発法人建築研究所	オンライン	つくば市	日本	
16	その他	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト シンポジウム	コメンテーター	20230310			なし	国立研究開発法人海洋研究開発機構	オンライン	横須賀市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	内閣府	総合海洋政策本部	参与	20200724
2	国・政府	国土交通省 東北地方整備局	名取川水系河川整備学識者懇談会	委員	20201105
3	国・政府	復興庁	復興推進委員会	委員	20210306
4	その他	独立行政法人 日本学術振興会	日本学術振興会 ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022運営委員会	委員	20210401
5	国・政府	国土交通省	国土交通省社会資本整備審議会	臨時委員	20210401
6	その他	公益信託NEXCO関係会社高速道路防災対策等に関する支援基金	運営委員会	委員	20210401
7	国・政府	宮城県	地震対策等専門部会	専門委員	20210728
8	その他	公益社団法人 土木学会	原子力土木委員会・津波評価小委員会	委員	20210709
9	国・政府	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	経営諮問会議	委員	20211101
10	国・政府	静岡県	静岡県防災・原子力学術会議	委員	20220401
11	国・政府	岩手県	岩手県防災会議	専門委員	20220401
12	国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	20220401
13	その他	一般財団法人日本規格協会	ISO/TC 268/SC 1/WG 6国内対応委員会	委員	20220418
14	国・政府	宮城県	宮城県津波対策連絡協議会	会長	20220501

15	国・政府	宮城県教育委員会	令和4年度みやぎ安全教育総合推進ネットワーク会議	委員	20220427
16	国・政府	宮城県教育委員会	宮城県多賀城高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営	指導委員	20220401
17	国・政府	気象庁	火山噴火等による潮位変化に関する情報のあり方検討会	委員	20220510
18	国・政府	国土交通省 東北地方整備局	東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	委員	20220516
19	国・政府	国土交通省	国土交通省国立研究開発法人審議会	臨時委員	20220531
20	国・政府	名古屋大学 減災連携研究センター	社会連携推進会議	委員	20220624
21	国・政府	東京大学地震研究所	東京大学地震研究所協議会	協議員	20220901
22	国・政府	復興庁	東日本大震災からの復興政策10年間の振り返りに関する有識者会議	委員	20221024
23	国・政府	復興庁	復興推進委員会	委員長	20230306

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20221003	いわき市役所	国内	いわき市と東北大学災害科学国際研究所との防災に係る連携と協力に関する協定	自治体	いわき市	20221003	
2	20221222	静岡県庁	国内	国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と静岡県危機管理部との防災・減災に関する連携・協力の実施に関する覚書の締結式	自治体	静岡県	20221222	
3	20230329	ふれあいエスプ塩竈 エspbホール	国内	塩竈市と東北大学災害科学国際研究所との防災に係る連携と協力に関する協定	自治体	塩竈市	20230329	



## 菅原 大助 准教授

### SUGAWARA Daisuke

災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部	1998	3	東北大学大学院	理学研究科	2006	3	理学博士	2006	3

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	6	2007	3	東北大学大学院理学研究科地学専攻	COEフェロー
2	2007	4	2008	3	東北大学大学院理学研究科地学専攻	助教
3	2008	4	2008	9	東北大学大学院理学研究科地学専攻	研究支援者
4	2008	10	2008	12	東北大学大学院理学研究科地学専攻	研究支援者
5	2009	1	2010	9	東北大学大学院理学研究科地学専攻	COEフェロー
6	2010	10	2011	4	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	研究支援者
7	2011	5	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター	産学官連携研究員
8	2012	4	2012	4	東北大学大学院工学研究科	教育研究支援者
9	2012	4	2015	12	東北大学災害科学国際研究所	助教
10	2016	1	2019	3	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
11	2019	4	2020	2	ふじのくに地球環境史ミュージアム	教授
12	2020	3	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本地質学会	日本堆積学会	日本地球惑星科学連合	日本自然災害学会	American Geophysical Union	日本防災考古学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Natural Hazards		Associate Editor	20210401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地質学	堆積学	津波工学

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

東京大学や新潟大学等の研究者と共同で、福島県南相馬市・いわき市、千葉県銚子市、新潟県佐渡市等で津波堆積物調査を行い、古地震・古津波履歴解明のための研究を推進した。前年度に引き続き、清水建設技術研究所との共同研究として、津波土砂移動数値解析のV&Vの技術標準を確立を目指し、シミュレーション手法や評価手法に関する検討を行い、手順書を策定した。これらの調査研究に関連し、これまでの成果をとりまとめた論文3編を学術誌で公表した。また、学会・シンポジウムでの発表も行った。内閣府SIPによる高潮・高波リアルタイム予測システムの開発では、社会実装のための最適化とインターフェースの整備を行い、開発を完了させた。JST未来社会創造事業によるデジタル防災コミュニティの探索では、コミュニティ形成と防災に資するソーシャルキャピタルの向上をSNSを用いて試行し、収集したデータの分析を行った。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	4	現在		仙台平野における津波堆積物の掘削調査と貞観津波の復元	国内
2	2011	3	現在		東日本大震災の津波に関する地質学的調査および数値モデルによる解析	両方
3	2014	4	現在		津波堆積物数値解析手法の高度化	両方
4	2016	1	現在		静岡県における古地震・古津波の調査研究	国内
5	2018	1	現在		メキシコ・グレロ州における古地震・古津波の調査研究	両方
6	2020	3	現在		台湾・澎湖諸島における古津波の調査研究	両方
7	2015	9	現在		北方四島における古津波の調査研究	両方
8	2020	7	現在		津波土砂移動数値解析のV&V(清水建設との共同研究)	国内
9	2021	4	現在		内閣府SIP「高潮・高波リアルタイム予測システムの開発」(「国家レジリエンスの強化・テーマVI・スーパー台風被害予測システムの開発」)	国内
10	2021	5	現在		原子力規制庁「既往の巨大津波の波源推定－1611年慶長三陸地震津波を例として－」	国内
11	2021	10	現在		JST未来社会創造事業「デジタル防災コミュニティの探索」(「顕在化する社会課題の解決」)	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Paleotsunami history of Hachinohe, northern Japan: a multiproxy analysis and numerical modeling approach	Velasco-Reyes, E. R., Goto, K., Sugawara, D., Nishimura, Y., Shinohara, T., Chiba, T.,	Progress in Earth and Planetary Science	9		19		20220401
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	To what extent tsunami source information can be extracted from tsunami deposits? Implications from the 2011 Tohoku-oki tsunami deposits and sediment transport simulations	Masuda, H., Sugawara, D., Abe, T., Goto, K.	Progress in Earth and Planetary Science	9		65		20221205
英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Toward a deposit-based stochastic interpretation of tsunami sources.	Velasco-Reyes, E.R. and Sugawara, D.	The Proceedings of the Coastal Sediments 2023			2355	2371	20230000

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	『うつりゆく駿河湾(しずおか文化4)人と自然の関わりから見た過去、現在、そして未来』	編集本(著者・Author)	20220731	渋川 浩一, 中西 利典, 日下 宗一郎, 山田和芳, 菅原 大助	共著	ことのは社	国内	

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	4	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本災害・防災考古学会第1回総会・研究会(オンライン)		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220923	20220924	20220923	古津波調査における地中レーダーの活用	菅原大助・石澤堯史・吉池奏乃	なし	100
2	国内	国際火山噴火史情報研究集会		単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	大阪公立大学サイエンスホール	日本	20221001	20221002	20221001	日本海溝北部・南部の津波履歴研究	菅原大助	なし	100
3	国際	US-Japan Natural Resources Panel for Earthquake Research 2022		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Hotel Captain Cook	Anchorage, AK	USA	20220927	20220929	20220927	Integration of Geology and Modeling: Paleotsunami Research Since the 2011 Tohoku-oki Earthquake and Tsunami	Bruce Jaffe, Kwok Fai Cheung, Guy Gelfenbaum, Kazuhisa Goto, SeanPaul La Selle, Thorne Lay, Yuichi Namegaya, Kenji Satake, Daisuke Sugawara, Rob Witter, and Yoshiki Yamazaki	国外	100
4	国内	日本地質学会第129年学術大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	早稲田大学	東京	日本	20220904	20220911	20220904	機械学習を用いた津波堆積物の逆解析による断層パラメーターの推定	飯嶋 慧彦, 成瀬 元, 菅原大助	国内	100
5	国内	第39回歴史地震研究会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	関西大	高槻市	日本	20220917	20220919	20220917	静岡県湖西市白須賀における1498年明応東海地震の津波痕跡	楠本 聡・今井健太郎・菅原大助	国内	100
6	国際	American Geophysical Union		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)		シカゴ	USA	20221212	20221216	20221212	Estimation of Fault Parameters and Grain Size Distribution by Inverse Analysis of Tsunami Deposit Using Machine Learning	Yasutaka Iijima, Hajime Naruse, Daisuke Sugawara	国内	100

C. 教育活動

教育活動の概要

理学部および工学研究科工学研究科量子エネルギー工学専攻を対象に応用堆積学を担当し、津波堆積物の特徴・意義とその活用に関する講義(全12回、うち9回担当)および1泊2日の野外巡検を行った。また、理学部を対象に地学実験の課題7を3回担当した。理学研究科所属の学生11名の研究指導を担当し、うち修士論文・卒業論文あわせて3名の指導を行った。指導学生によるこれまでの研究成果については、JpGUおよび津波堆積物研究会において発表を行った。発表および参加者らとの議論を通じ、学生の今後の活動にとって有益な経験を積むことが出来た。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	応用堆積学	東北大	理・工	地圏環境科学科	3	5セメ	9
2	地学実験	東北大	理	地圏環境科学科	2	3セメ	6
3	地球の科学	東北大	理	地圏環境科学科	1	1セメ	1
4	沿岸海洋環境工学	東北大	工	社会環境工学科	3	6セメ	1
5	科学の最前線II (Frontiers in Science II)	東北大	理	理学研究科			1

D. 社会活動

社会活動の概要

読売新聞の震災の津波に関する記事で、貞観地震津波の調査研究活動について紹介された。実施中のJSTプロジェクト「デジタル防災コミュニティの探索」について、テレビで3回紹介された。塩竈市との協定締結式に参加し、講演を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	東北大学災害科学国際研究所と塩竈市との協定締結式・講演会	講演	20230329	20230329	低頻度巨大地震・津波の予測への挑戦 震災後の課題と展開	行政	塩竈市	ふれあいエス プ塩竈	塩竈市	塩竈市	100

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20230329	ふれあいエスプ塩竈・塩竈市	国内	防災に係る連携と協力に関する協定書	自治体	塩竈市	20230329	5
2	20230000	なし	国外	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING FOR ACADEMIC AND SCIENTIFIC COOPERATION BETWEEN THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN ON BEHALF OF ITS DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL ENGINEERING, COLLEGE OF ENGINEERING AND GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE AND INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTE OF DISASTER SCIENCE, TOHOKU UNIVERSITY, JAPAN	研究機関	ミシガン大学	20230000	5

## サップアシー アナワット 准教授

### SUPPASRI Anawat

災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	チュラーロンコーン大学	工学部	2005	3	東北大学大学院	工学部研究科	2010	9	博士(工)	2010	9

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	10	2012	3	東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター	リサーチ・フェロー
2	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	海岸工学委員会 CEJ小委員会	会員	20140401
2	Global Risk Forum GRF Davos	IJDRR Journal Editorial board	Member	20141201
3	土木学会	Coastal Engineering Journal Editorial board	Member	20150000
4	アジア・オセアニア地球科学学会		Section secretary	20160000
5	IUGS GeoHazard Task Group		Treasurer	20170000
6	MDPI Publishing	Geosciences	Member	20180700
7	アジア・オセアニア地球科学学会	Geoscience Letters Editorial board	Member	20181000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	海岸工学	防災学	災害リスク

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	コース長会議		20200401
2	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会		20210401
3	工学研究科土木工学専攻	大学院入試		20201001
4	工学研究科土木工学専攻	社会環境工学実験棟運用管理委		20150401

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

国内外(特に東南アジア:タイ、インドネシア、フィリピン)において総合的に津波工学の観点から津波または地震・沿岸災害の防災研究について活動している。主に、津波被害予測、ハザード・リスク評価、津波避難、防災教育に関して研究し、国内外で発表し、多数の国際共著で学術雑誌に掲載されている。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2007	10	現在		インド洋・太平洋における津波ハザードマップ研究	国外
2	2007	10	現在		津波被害関数構築に関する研究	両方
3	2009	10	現在		津波避難に関する研究	両方
4	2012	4	現在		防災教育に関する研究	両方
5	2013	11	現在		2013年に発生したハイエン台風に関する研究	国外
6	2016	4	現在		世界津波ハザード評価に関する研究	両方
7	2018	9	現在		スラウェシ島津波・スンダ海峽津波に関する研究	国外
8	2020	10	現在		COVID-19と災害・防災に関する研究	両方
9	2021	1	現在		トンガ火山噴火による津波に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	16	合計	17	うち	国際査読有	14	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Consequences of COVID-19 on health, economy, and tourism in Asia: A systematic review	Saengtabtim, K., Leelawat, N., Tang, J., Suppasri, A., and Imamura, F.	Sustainability	14	8	4624		20220412
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Preliminary Observations and Impact in Japan of the Tsunami Caused by the Tonga Volcanic Eruption on January 15, 2022	Imamura, F., Suppasri, A., Arikawa, T., Koshimura, S., Satake, K. and Tanioka, Y.	Pure and Applied Geophysics	179		1549	1560	20220604
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Quantifying tsunami impact on industrial facilities and production capacity in ports: An application to Sendai Port, Japan	Suppasri, A., Nishida, T., Pakoksung, K. Cheng, A.C., Chua, C.T., Iwasaki, T., Pescaroli, G. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	78		103141		20220704
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The probability of building damage and economic loss increased after the 2004 Indian Ocean tsunami at the community scale in Thailand	Pakoksung, K., Latcharot, P., Sutton, P., Bunditsakulchai, P., Suppasri, A. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	79		103171		20220804
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A study of hypothermia and associated countermeasures in tsunami disasters: A case study of Miyagi Prefecture during the 2011 Great East Japan Earthquake	Kamata, H., Seto, S., Suppasri, A., Sasaki, H., Egawa, S. and Imamura, F.	International Journal of Disaster Risk Reduction	81		103253		20220901
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Quantifying effects of explicit representation of buildings in tsunami inundation simulations	Sadashiva, V.K., Wang, X., Lin, S., Lukovic, B., Heron, D. and Suppasri, A.	International Journal of Disaster Risk Reduction	81		103277		20220912
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	The near-field tsunami generated by the 15 January 2022 eruption of the Hunga Tonga-Hunga Ha'apai volcano and its impact on Tongatapu, Tonga	Pakoksung, K., Suppasri, A. and Imamura, F.	Scientific Reports	12		15187		20220907
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	People's Perception of Well-being During the COVID-19 Pandemic: A Case Study in Japan	Sasaki, D., Suppasri, A., Tsukuda H., Nguyen, D.N., Onoda, Y. and Imamura, F.	Journal of Environmental Research and Public Health	19	19	12146		20210513
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Seismic Damage and Comparison of Fragility Functions of Public and Residential Buildings Damaged by the 2014 Mae Lao (Northern Thailand) Earthquake	Ornthamarath, T., Chua, C.T., Suppasri, A., Foytong, P.	Earthquake Spectra	39	1			20221031
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Factors affecting worryness: A study of the COVID-19 pandemic in Japan	Lertsakornsi, P., Sritanawatkul, P., Yudha, A.K., Leelawat, N., Tang, J., Suppasri, A., Kitamura, M., Tsukuda, H., Boret, S.P., Onoda, Y., Saengtabtim, K., Imamura, F. and Syamsidik	International Journal of Disaster Risk Reduction	82		103322		20221021
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics of consecutive tsunamis and resulting tsunami behaviors in southern Taiwan induced by the doublet earthquakes on 26 December 2006	Cheng, A.C., Suppasri, A., Pakoksung, K. and Imamura, F.	Natural Hazards and Earth System Sciences	23	2	447	479	20230203
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Resonance characteristics and impact of the 2006 Pingtung tsunami in southern Taiwan	Cheng, A.C., Suppasri, A., Pakoksung, K. and Imamura, F.	Geoscience Letters	10	17			20230314
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Development of fragility curves for reinforced-concrete building with masonry infilled wall under tsunami,	Waenpracha, S., Foytong, P., Suppasri, A., Tirapat, S., Thanasisathit, N., Maneekul, P. and Ornthamarath, T.	Advances in Civil Engineering	17		8021378		20230314
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Assessing probability of building damages due to tsunami hazards coupled with characteristics of buildings in Banda Aceh, Indonesia: A way to increase understanding of tsunami risks,	Syamsidik, Al Farizi, M.D., Tursina, Yulianur, A., Rusydy, I. and Suppasri, A.	International Journal of Disaster Risk Reduction	90		103652.		20230328
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における瓦礫内発見に着目した犠牲者分析—宮城県名取市，気仙沼市の事例—	信田晃成, 門畑充佳, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	I_355	I_360	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県での損傷死の被害実態および影響要因	鎌田絢一, 門畑充佳, Anawat SUPPASRI, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	I_349	I_354	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	アマモ場に関する津波被害予測の有用性	木村裕行, Anawat SUPPASRI, 今村文彦, 高橋宏衛	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	I_859	I_864	20221101

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	1	合計	2	うち	国際	1	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
英語	Interdisciplinary Geosciences Perspectives of Tsunami Volume 4	編集本 (編集者・Editor)	20221215	Anawat Suppasri	監修・編集	MDPI	国外	

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	13	合計	15
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220929	20220930	20220930	Resonance from the 1674 Ambon tsunami: Extreme run-up caused by an earthquake-triggered landslide	<u>Kwanchai Pakoksung</u> , Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura	なし	150
2	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220929	20220930	20220930	Crafting effective tsunami evacuation measures using multiagent simulation: A case study of Khao Lak, Thailand	<u>Nattapon Trumikaborworn</u> , Panon Latcharote, Anawat Suppasri and Penning Warnitchai	国外	150
3	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220929	20220930	20220930	Introduction of a new SATREPS project in Indonesia: Building sustainable system for resilience and innovation in coastal community	<u>Anawat Suppasri</u> , Nobuhito Mori, Kojiro Suzuki, Taro Arikawa and Mohammad Farid	両方	150
4	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220929	20220930	20220930	Tsunami evacuation simulation in the Barrio Barretto, The Philippines	<u>Thanagun Dheravijaranavankul</u> , Kamol Punnachaiya, Krisanapong Yodprechavigit, Jing Tang, Natt Leelawat, Patchanok Srivihok, J Elaine Layug, Anawat Suppasri and Fumihiko Imamura	国外	150
5	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220929	20220930	20220930	People's preparedness and perception on disaster risk reduction in fisheries applied by SEM: A case study of the damage in Japan caused by the tsunami following the Tonga submarine volcanic eruption in January 2022	<u>Daisuke Sasaki</u> , Anawat Suppasri, Kento Tanaka and Fumihiko Imamura	なし	
6	国際	Asia and Oceania Geoscience Society (AOGS) 19th annual meeting	Wing-Huen IP	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220801	20220805	20220802	Fishery Damage in Japan From the Tsunami Caused by the 2022 Tonga Volcanic Eruption	<u>Anawat Suppasri</u> , Kento Tanaka, <u>Kwanchai Pakoksung</u> , <u>Sugawara Daisuke</u> , <u>Daisuke Sasaki</u> , Yoshinori Shighara, <u>Fumihiko Imamura</u> , Tomohiro Takagawa and Yu Chida	国内	2,000
7	国際	Asia and Oceania Geoscience Society (AOGS) 19th annual meeting	Wing-Huen IP	その他の連名	はい	口頭(招待)	オンライン			20220801	20220805	20220802	Urgent and comprehensive study of the 2022 Tonga submarine eruption and associated tsunamis: Grant-in-Aid for Special Purposes Supported by MEXT, Japan	<u>Anawat Suppasri</u> , Kenji Satake, Takao Ohminato, Kiwamu Nishida and Naoya Sekiya	国内	2,000
8	国際	Asia and Oceania Geoscience Society (AOGS) 19th annual meeting	Wing-Huen IP	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220801	20220805	20220802	The 2022 Hunga Tonga Submarine Volcano Explosion Tsunami in Japan: New Global Insight from Numerical Modeling	<u>Kwanchai Pakoksung</u> , Anawat Suppasri, An Chi Cheng, Fumihiko Imamura	なし	2,000
9	国際	Asia and Oceania Geoscience Society (AOGS) 19th annual meeting	Wing-Huen IP	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン			20220801	20220805	20220802	Quantifying Tsunami Impacts on the Global Port Network: A Case-study on the South China Sea	<u>Constance Chua</u> , Takuro Otake, Masashi Watanabe, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, Adam Switzer	国外	
10	国際	Asia and Oceania Geoscience Society (AOGS) 19th annual meeting	Wing-Huen IP	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20220801	20220805	20220802	Sensitivity Analysis of Tsunami Generation by the 2022 Hunga Tonga-Hunga Ha'api Eruption	<u>Tatsuhiko Tokuta</u> , Taro Arikawa, Tomohiro Takagawa, Yu Chida, Anawat Suppasri, Chikasada Naotaka, Nobuhito Mori, Fumihiko Imamura	国内	
11	国際	APRU Multi-hazards syposium 2022	Bimdhit Eua-arporn	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン			20211124	20211125	20211125	Recent Developments on Hazard and Risk Assessment for Multi-source Tsunamis	<u>Anawat Suppasri</u> , <u>Kwanchai Pakoksung</u> , Tsuyoshi Nagasawa, Yuya Narita, Ryunosuke Tawatari, Shohei Iwai, Yukio Mabuchi, Fumihiko Imamura	両方	500
12	国際	AGITHAR annual meeting		単名	はい	口頭(基調)	オンライン			20220628	20220628	20220628	Tsunami vulnerability and importance of interdisciplinary perspective	<u>Anawat Suppasri</u>	両方	
13	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	202312		Fragility based Characterization of Alternative Tsunami Evacuation Buildings in Banda Aceh, Indonesia	<u>Syamsidik</u> , Teuku M Rasyif, Yunita Idris, Hermann M Fritz, Anawat Suppasri, Ibnu Rusydy	国外	
14	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	202312		The 2022 Hunga Tonga Hunga Ha'pai Submarine Volcano Explosion Generated Tsunami impact in Japan: New Global Insight From Numerical Modeling	<u>Kwanchai Pakoksung</u> , Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura	なし	
15	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	202312		Warning system requirements for regular and extreme hazards	<u>Rebekah Yorg</u> , Joanna Faure Walker, Angus Naylor, Anawat Suppasri, Miwako Kitamura	国外	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 4 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%)	分野	担当	IRiDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	TDMRC, Universitas Syiah Kuala	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	20220929	20220930	対面/オンライン	Sydney	Australia	150 (150)	工学	Organizing Committee, Session chair	IRiDeS共催		国外
2	国際	シンポジウム	Chulalongkorn University	APRU マルチハザードシンポジウム	20221129	20221130	対面/オンライン	Bangkok	Thailand	200 (200)	工学	Organizing Committee, Speaker	IRiDeS共催		国外
3	国際	セミナー	IRiDeS, UCL- IRDR	Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Tū rkiye and Syria Mechanism, damage and strategy for recovery, reconstruction, BBB, and Resilient society	20230227	20230227	オンライン				工学	Organizing Committee	IRiDeS主催・共 同主催		両方
4	国際	シンポジウム	World Bosai Forum	World Bosai Forum 2023	20230310	20230313	仙台国際センター	仙台	日本	500 (500)	工学	Organizing Committee, Speaker	IRiDeS共催		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の工学研究科土木工学専攻及び工学部建築・社会環境工学科の学生へ、卒業論文・修士論文の研究または学会発表への指導、土木工学水系の専門である授業も幾つか担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	10
2	沿岸海洋環境工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	5
3	水環境デザイン演習Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
4	工学英語Ⅱ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	6セメ	4
5	応用情報処理演習A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	15
6	創造工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	2セメ	15
7	自然災害科学の基礎と防災への適用	東北大学		短期留学生受入プログラム (JYPE) 提供科目			6

D. 社会活動

社会活動の概要

主に在東京タイ王国大使館、国連開発計画(UNDP)と共に防災活動において防災講演会、防災訓練を実施している。国内のメディアにもラジオ、テレビにおいて情報発信している。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 14 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	津波警報と避難に関する説明会	招待講演	20220417	20220417	津波解析・東北大ボート部での避難 計画作成のために	行政	東北大学漕艇 部	東北大学漕艇 部岩沼艇庫	岩沼市	日本	50
2	セミナー	在日タイ人向けの防災 講演会	招待講演	20220522	20220522	日本での防災情報のアップデート	行政	在日タイ人 ネットワーク 在日タイ大使館	オンライン			40
3	講演会	社内向けの防災講演 会	招待講演	20220707	20220707	非地震性津波モデリングの開発: 海外津波に適用した事例	企業	パンフィック コンサルタンツ	パンフィック コンサルタンツ 東京本社	東京都	日本	30
4	セミナー	東北大学海外同窓会	招待講演	20220716	20220716	Interdisciplinary research on disaster resilience	なし	東北大学	オンライン			25
5	小中高との連携	講演会	招待講演	20220727	20220727	我が国の水災害による防災の取り組みを 知ろう	小中高	佐沼高校	佐沼高校	登米市	日本	30
6	セミナー	国際セミナー	招待講演	20220729	20220729	Global and future perspectives of tsunami disaster mitigation	行政	APRU	オンライン			100
7	セミナー	ワークショップ	講演・登壇者	20220731	20220731	津波ハザードマップで見もで 距離測って避難時間を計ろう	行政	気仙沼市東日 本大震災遺 構・伝承館	気仙沼市東日 本大震災遺 構・伝承館	気仙沼市	日本	40
8	講演会	講演会	招待講演	20220805	20220805	津波防災と沿岸海洋環境	なし	海洋若手会	オンライン			200
9	セミナー	国際セミナー		20221007	20221007	A new threshold for tsunami risk assessment in port industries: A case study of Sendai Port	行政	フランス大使館	フランス大使館	東京都	日本	150
10	講演会	講演会	招待講演	20221028	20221028	General information of disasters in Jaan	行政	タイ大使館	タイ大使館	東京都	日本	50
11	セミナー	世界津波の日関連イ ベント	招待講演	20221110	20221110	Knowledge sharing from Japan on DRR: Tsunami and multi-hazards	行政	UNDP	オンライン			50
12	講演会	講演会	招待講演	20230112	20230112	Interdisciplinary perspectives of tsunami for disaster risk management	小中高	仙台一高	仙台一高	仙台市	日本	20
13	講演会	講演会	招待講演	20230117	20230117	Interdisciplinary perspectives of tsunami for disaster risk management	行政	UNESCO-IOC	オンライン			30
14	講演会	Bosai Week	招待講演	20230119	20230119	津波防災:我が国の国際的な貢献につ いて	企業	世界防災 フォーラム	オンライン			

# 門廻 充侍 助教

## SETO Shuji

災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	関西大学	システム理工学部	2012	3	関西大学	大学院社会安全研究科	2014	3	修士(学術)	2014	3
2					関西大学	大学院社会安全研究科	2017	3	博士(学術)	2017	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	4	2017	3	日本学術振興会 特別研究員DC2(関西大学 大学院社会安全研究科 防災・減災専攻)	特別研究員
2	2017	4	2018	1	日本学術振興会 特別研究員PD(関西大学 社会安全学部 安全マネジメント学科)	特別研究員
3	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 津波工学研究分野	助教
4	2018	4	現在		関西大学 社会安全学部	非常勤講師

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本土木学会	日本自然災害学会	日本災害医学学会	日本体育・スポーツ・健康学会	日本災害情報学会					

##### 学会・委員会等での役職

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
土木学会	総務部門 全国大会委員会 プログラム編成会議 2020年度	第II部門委員	20210423

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
災害からの生存科学	BOSAI for Well-being	犠牲者情報	津波観測情報	津波防災

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

①宮城県警察本部から提供された犠牲者情報(9527名分)を用いて、(a)死因に着目した研究として焼死犠牲者を対象とした分析、(b)震災後の早期発見を見据え、陸上瓦礫から発見された犠牲者を対象とした分析。②メンタルヘルスに関する研究として、(a)新型コロナウイルス感染症流行下における心理状態のweb調査を実施した。(b)持続的な心理支援を見据えたセルフケアアプリの実証実験。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	6	現在		新型コロナウイルス感染症流行下における災害の経験と心的外傷後成長に関する研究	国外
2	2021	4	現在		東日本大震災における宮城県での瓦礫から発見された犠牲者に関する研究	国内
3	2022	4	現在		東日本大震災における宮城県での焼死犠牲者に関する研究	国内
4	2022	4	現在		持続的な心理支援を見据えたDigital Psychological Supportの検討	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Supporting Adolescents' Mental Health during COVID-19 by Utilising Lessons from the Aftermath of the Great East Japan Earthquake	Junko Okuyama, Shin-ichi Izumi, Shunichi Funakoshi, Shuji Seto, Hiroyuki Sasaki, Kiyoshi Ito, Fumihiko Imamura, Mayumi Willgerodt, Yu Fukuda	Humanities and Social Sciences Communications	9		322(1)	322(13)	20220923
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Study on Hypothermia and Associated Countermeasures in Tsunami Disasters: A Case Study of Miyagi Prefecture During the 2011 Great East Japan Earthquake	Hirokazu Kamata, Shuji Seto, Anawat Suppasri, Hiroyuki Sasaki, Shinichi Egawa, Fumihiko Imamura	International Journal of Disaster Risk Reduction	81		103253(1)	103253(13)	20221015
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における宮城県での損傷死の被害実態および影響要因	鎌田 純一, 門廻 充侍, Anawat Suppasri, 全村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	1_349	1_354	20221101
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災における瓦礫内発見に着目した犠牲者分析—宮城県名取市, 気仙沼市の事例—	信田 晃成, 門廻 充侍, Anawat Suppasri, 全村 文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	1_355	1_360	20221101
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Life and Stress of Japanese Children and Adolescents During the Prolonged Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Pandemic	Junko Okuyama, Shuji Seto, Yu Fukuda, Kiyoshi Ito, Fumihiko Imamura, Shunichi Funakoshi, Shin-ichi Izumi	Journal of Disaster Research	18	1	48	56	20230130



学会発表

単名	0	筆頭 連名	2	その他の 連名	9	合計	11
----	---	----------	---	------------	---	----	----

国内 国際	会議名称	会場の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	第118回日本精神神経学会学術総会	川崎 弘昭	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	福岡国際 会議場	福岡	日本	20220616	20220618	-	COVID-19パンデミック時の心理状態に対する都道府県別分析-全国規模のWebアンケートによる横断調査-□	奥山純子, 門廻充侍, 伊藤 謙, 今村文彦, 出江紳一	国内	-
2	国内	第41回日本自然災害学会学術講演会	里深 好文	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大 学	滋賀	日本	20220918	20220919	20220918	東日本大震災において宮城県内で瓦礫から発見された犠牲者と建物全壊率の関係	信田晃成, 門廻充侍, Anawat Suppassi, 今村文彦	国内	-
3	国際	32nd IFSCC (The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists) Congress	Judi Beerling	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	Park Plaza Suites	ロンドン	イギリス	20220919	20220922	-	Intersection of Cosmetic Technology and Wellness -Utilizing Skin Research Techniques for Stress Management	Tomonori Motokawa, Tomomi Kato, Hiroki Miyamoto, Ryo Mizote, Shuhei Hikosaka, Shuji Seto, Junko Okuyama	国内	-
4	国内	第76回東北精神神経学会総会	中村 和彦	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	日本	20221009	20221009	20221009	長期化した新型コロナウイルス感染症流行下における自己肯定感が精神状態に及ぼす影響□	奥山純子, 門廻充侍, 福田 謙, 伊藤謙, 出江紳一, 全社 文彦	国内	-
5	国際	The 12th APRU (The Association of Pacific Rim Universities) Population Ageing Virtual Conference	-	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	-	-	20221110	20221111	-	A Study on Well-Being among Japanese Local Government Officials: An Empirical Study on the Effectiveness of Me-Fullness® Application	Junko Okuyama, Shuji Seto, Tomonori Motokawa, Tomomi Kato	国内	-
6	国内	日本発達心理学会第34回大会	土田 宣明	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大 学	大阪	日本	20230303	20230305	20230303	ストレス下におけるデジタルサポート心理システムの検討	奥山純子, 門廻充侍, 本川 智紀, 加藤朋美	国内	-
7	国内	第28回日本災害医学会学術集会	眞瀬 智彦	筆頭	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	マリオス/ アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230309	東日本大震災における宮城県での犠牲者と向き合って:死因を考慮した犠牲者分析	門廻充侍, 今村文彦	国内	-
8	国内	第28回日本災害医学会学術集会	眞瀬 智彦	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	マリオス/ アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230310	長期化したCOVID-19パンデミック下の心理状態に対する自己評価の役割	奥山純子, 門廻充侍, 伊藤謙	国内	-
9	国際	World BOSAI Forum 2023	Yuichi Ono	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20230310	20230312	-	Relationship between Victims in Debris, and Building Damage and Tsunami Force in the 2011 Tohoku earthquake and tsunami in Miyagi, Japan	Kosei Shinoda, Shuji Seto, Anawat Suppassi, Fumihiko Imamura	国内	-
10	国際	World BOSAI Forum 2023	Yuichi Ono	その他の 連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20230310	20230312	-	Human casualties caused by tsunami fires in Miyagi Prefecture during the Great East Japan Earthquake	Ryota Takei, Shuji Seto, Anawat Suppassi, Fumihiko Imamura	国内	-
11	国際	World BOSAI Forum 2023	Yuichi Ono	筆頭	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際 センター	仙台	日本	20230310	20230312	-	What is Youth Involvement in BOSAI?: a collaboration withTobitate! community and NIED	Shuji Seto, Eiki Ishihara, Anna Matsuakwa, Takeshi Kimura, Tetsuya Takeda, Satoru Araue	国内	-

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	6 件
----	-----

国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%非属人)	分野	担当	IRiDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	
				開始年月	終了年月										
1	国内	ワークショップ	トビタテ！留学 JAPAN学習PF	トビタテ×防災科研 第1弾 持続可能な地域社会をつくるには？ ～都市の未来の安全・安心を考える～	20220706	20220706	オンライン	オンライン	オンライン	-	人文社会 系	運営	なし	-	国内
2	国内	ワークショップ	トビタテ！留学 JAPAN学習PF	トビタテ×防災科研 第2弾 ～あなたが必要とする地震の情報は届いてますか？～	20220907	20220907	オンライン	オンライン	オンライン	-	工学	運営	なし	-	国内
3	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所, セツ浜町	東北大学災害科学国際研究所 x セツ浜町 津波防災・減災を考えるシンポジウム	20221106	20221106	セツ浜国際村	セツ浜町	日本	-	工学	運営	なし	-	国内
4	国内	研究会	愛媛大学, 関西大学, 東京理科大学, 徳島大学, 東北大学, 琉球大学	2022年度水域の災害・環境問題に関する研究集会	20221116	20221116	オンライン	オンライン	日本	-	工学	運営	なし	なし	国内
5	国内	ワークショップ	トビタテ！留学 JAPAN学習PF	トビタテ×防災科研 第3弾 ブランディングの"肝"とは？～見えない部分の価値共創～	20221124	20221124	オンライン	オンライン	オンライン	-	人文社会 系	運営	なし	-	国内
6	国内	シンポジウム	東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門	パネルディスカッション「レジリエンス社会構築に向けた新たな連携を」	20230311	20230311	仙台国際センター	仙台市	日本	-	工学	運営	なし	東京海上ホールディングス(株) 東京海上日動火災保険(株)	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

関西大学社会安全学部の2年次生を対象に、災害調査実習を担当した。今年度は、新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、ビデオを学習と現場での活動を効果的に設計した。実習では、災害調査の目的および注意点、測量機器の使用法を学び、大阪府高槻市芥川で測量を実践した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	災害調査実習	関西大学	社会安全学部	安全マネジメント学科	2	後期	17

D. 社会活動

社会活動の概要

①地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門のアウトリーチ活動として、2件の防災・減災イベントへ出展し、運営等を行った。②招待講演会として、メディア向け、小児がん経験者関係、若手育成関連の5件に登壇した。③メディアには、研究関係で9件掲載された。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	防災推進国民大会 2022実行委員会 (内閣府、防災推進 協議会、防災推進 国民会議)	みんなで考えよう！Pon♪Pon♪防災・減 災スタンプラリー(ぼうさいこくたい2022へ の出席)	20221022	20221023	仙台国際セン ター	仙台市	日本	出展担当/運営	-	なし	ワークショップ
2	国内	仙台市	結んで、繋いで:防災・減災における産 学連携の実践(仙台防災未来フォーラム 2023への出席)	20230304	20230304	仙台国際セン ター	仙台市	日本	出展担当/運営	-	なし	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	三金会(在仙の報道機関 による任意団体)	招待講演	20220415	20220415	東日本大震災を踏まえた災害からの生存 科学構築へ向けて	企業	三金会(在仙 の報道機関に よる任意団体)	江陽グランドホ テル	仙台市	日本	-
2	講演会	ゲノム世代高度がん専門 医療人の養成 大阪大学 がんプロフェッショナル養 成講座	招待講演	20220516	20220516	等身大の経験者活動のスタイルを探して	なし	大阪大学	オンライン	-	日本	-
3	講演会	ゲノム世代高度がん専門 医療人の養成 大阪大学 がんプロフェッショナル養 成講座	招待講演	20220904	20220904	想いをカタチに:小児がん経験者が実践 する寄り添い方	なし	大阪大学	オンライン	-	日本	-
4	講演会	トビタテ!留学JAPAN第 1ステージ成果報告会～ 第2ステージに向けて～	成果報告代表 の43名に選出	20221118	20221118	「小児がん経験者の自分」と向き合って: トビタテがくれた予期せぬGIFT	行政	トビタテ!留学 JAPAN	文部科学省	東京	日本	-
5	講演会	#20代の私へ:大学院生 時代の自分に伝えるとし たら	招待講演	20221210	20221210	自分自身と向き合って:予期せぬ出会い とオリジナリティの探求	なし	関西大学	関西大学	吹田市	日本	-

## 田邊 亜澄 助教

## TANABE Azumi

災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	大阪大学	人間科学部	2005	3	京都大学	文学研究科	2010	3	博士(文学)	2013	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2010	4	2013	3	京都大学 文学部	非常勤講師
2	2011	4	2011	9	京都府立大学 社会福祉学部	非常勤講師
3	2011	4	2013	3	京都大学 大学院文学研究科	教務補佐委員
4	2013	10	2015	3	京都大学 大学院教育学研究科	研究員
5	2014	4	2015	3	龍谷大学 教養教育科目	非常勤講師
6	2014	4	2015	3	追手門学院大学 心理学部	非常勤講師
7	2015	4	2018	1	追手門学院大学 心理学部	特任助教
8	2018	2	2019	3	東北大学 加齢医学研究所	産学官連携研究員
9	2019	4	2022	3	東北大学 加齢医学研究所	助教
10	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本心理学会	日本認知心理学会	日本ワーキングメモリ学会	Association for Psychological Science	Psychonomic Society

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2
	実験心理学	認知心理学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	加齢医学研究所	MRI設備管理委員会	委員	20190401
2	スマート・エイジング学際重点研究センター	SA倫理委員会	委員	20200201

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

視覚的ワーキングメモリに関する研究においては、光景画像を用いた視覚的ワーキングメモリ課題であるピクチャースパンテスト遂行中の眼球運動を測定した実験結果を報告する論文のリバイスの中で、光景画像の意味情報処理と注意の関係についてさらなる分析を重ね、ボトムアップ注意とトップダウン注意が独立して働いている可能性を示唆した。

防災コミュニケーションに関する研究においては、SNS上で市民と防災情報のやりとりを実施して実際の事例を集めることで、SNSを用いた情報発信の利点や難点を具体化することができた。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2021	4	現在		視覚的ワーキングメモリにおける注意が学習に与える影響の研究	国内
2	2022	4	現在		防災情報伝達における心理特性	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Neural Correlates Predicting Lane-Keeping and Hazard Detection: An fMRI Study Featuring a Pedestrian-Rich Simulator Environment.	Kentaro Oba, Koji Hamada, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> , Fumihiko Murase, Masaaki Hirose, Ryuta Kawashima & <u>Motoaki Sugiura</u>	Frontiers in Human Neuroscience	16			754379	20220501
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Large irides enhance the facial attractiveness of Japanese and Chinese women.	Kana Kuraguchi, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> & Hiroshi Ashida	Acta psychologica	228			103663	20220801
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Does the eight-factor "power to live" in disaster exist since childhood?	Yutaka Matsuzaki, Ryo Ishibashi, Mariko Yasuda, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> Akio Honda, Tsunenori Abe & <u>Motoaki Sugiura</u>	Frontiers in Public Health	10			1022939	20221201
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sincere praise and flattery: reward value and association with the praise-seeking trait.	Shotaro Fujiwara, Ryo Ishibashi, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> , Ryuta, Kawashima & <u>Motoaki Sugiura</u>	Frontiers in Human Neuroscience	17			985047	20230215

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本認知心理学会第20回大会	松本絵理子・小川洋和	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	神戸大学	神戸	日本	20221015	20221016	20221016	高齢者の自動車安全運転を維持する注意の代償性脳活動	<u>石橋(田邊)亜澄</u> , 越智光, 田中君明, 杉浦元亮	国内	300
2	国内	第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	千田 益生	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	岡山コンベンションセンター	岡山	日本	20221104	221106	221105	上肢関節運動の運動感覚情報と視覚情報を扱うワーキングメモリに關与する脳部位の検討	<u>田中尚文</u> , <u>石橋 遼</u> , <u>田邊 亜澄</u> , <u>杉浦元亮</u>	国内	900

## 越村 俊一 教授

## KOSHIMURA Shunichi

災害評価・低減研究部門 災害ジオインフォマティクス研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	工学部	1995	3	東北大学大学院	工学研究科	2000	3	博士（工学）	2000	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2002	3	日本学術振興会（東京大学地震研究所，米国海洋大気局）	特別研究員
2	2002	4	2005	3	阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター	専任研究員
3	2005	5	2012	4	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター	准教授
4	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
5	2009	4	現在		神戸大学大学院 海事科学研究科、国際海事研究所	客員教授
6	2018	3	現在		株式会社RTI-cast	CTO
7	2018	8	現在		理化学研究所 革新知能統合研究センター	客員研究員
8	2019	4	現在		東北大学タフ・サイバーフィジカルAI研究センター	教授（兼務）
9	2022	4	現在		東北大学災害レジリエンス共創センター	副センター長

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	地域安全学会	日本計算工学会	日本地震工学会	American Geophysical Union	European Geoscience Union

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本土木学会	海岸工学委員会	委員	20130401
2	日本土木学会	海岸工学委員会、沿岸災害デジタルツイン研究小委員会	委員長	20220600
3	地域安全学会		理事	20110401
4	The International Union of Geodesy and Geophysics(IUGG)	Tsunami Commission	委員	20110000
5	日本計算工学会		代表会員	20180000
6	Sentinel Asia	Tsunami WG	Co-chair	20150000
7	Remote Sensing (Journal)		Editor	20211000
8	Group on Earth Observations (GEO)	Disaster Risk Reduction (DRR) Working Group	委員	20211000
9	Journal of Disaster Research		Editor-in-Chief	20220600
10	International Association for Earthquake Engineering (IAEE)	National Delegates	Member	20220800

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	リモートセンシング	ジオインフォマティクス	数値シミュレーション

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	プロボスト室員	WGリーダー	20180401
2	全学	総長特別補佐（大学改革担当）		20180401
3	サイバーサイエンスセンター	共同利用連絡会議	委員	20170000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

リアルタイムシミュレーション、リモートセンシング、空間情報科学を融合した広域被害把握技術の深化から、災害ジオインフォマティクスとリアルタイム災害科学の学理体系の構築に取り組んでいる。サイバーサイエンスセンター、理学研究科、大阪大学、東京大学、および民間事業者と産学連携研究による世界初のリアルタイム津波浸水被害予測技術の高度化、リモートセンシングの高度化、災害医学との連携、ソーシャルセンシング・ビッグデータ解析との融合による、新しい災害シミュレーションの創出に取り組んだ。

研究課題

No.	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年		
1	2011		現在	東日本大震災の被害全貌の解明と、震災の教訓を踏まえた次世代災害予測・減災システムに関する研究	両方
2	2012		現在	災害リモートセンシングによる広域被害把握に関する研究	両方
3	2014		現在	センシングとシミュレーションの統合による広域被害把握技術の深化に関する研究	両方
4	2017		現在	広域被害把握技術の災害医療への展開に関する研究	両方
5	2021		現在	リアルタイム災害科学に関する研究	両方
6	2021		現在	災害デジタルツインに関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	11	合計	11	うち	国際査読有	9	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	模擬津波動態とバイズ更新によるリアルタイム津波リスク評価手法	野村 怜佳, 藤田 真祥, 大竹 雄, 森口 周二, 越村 俊一, 寺田 賢二郎, 橋詰 正広	日本計算工学会論文集	2022				20220003	20220519
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Preliminary Observations and Impact in Japan of the Tsunami Caused by the Tonga Volcanic Eruption on January 15, 2022	Fumihiko Imamura, Anawat Suppasri, Taro Arikawa, Shunichi Koshimura, Kenji Satake, Yuichiro Tanioka	Pure and Applied Geophysics	179	5	1549	1560	20220504	
3	英語	共著	両方	はい	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Probabilistic connectivity assessment of bridge networks under seismic hazard considering the spatial correlation of ground motion-induced damage	Koki Aoki, Yuzuki Fuse, Mitsuyoshi Akiyama, Hiroki Ishibashi, Shunichi Koshimura, Dan M. Frangopol	Bridge Safety, Maintenance, Management, Life-Cycle, Resilience and Sustainability			137	141	20220627	
4	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Stochastic renewal process model of time-variant tsunami hazard assessment under nonstationary effects of sea-level rise due to climate change	Abdul Kadir Alhamid, Mitsuyoshi Akiyama, Koki Aoki, Shunichi Koshimura, Dan M. Frangopol	Structural Safety	99				102263	20220808
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	RBFネットワークと準モンテカルロ法を用いた確率論的津波ハザード解析および南海トラフ地震による災害廃棄物量のリスク評価への適用	青木 康貴, 秋山 充良, 石橋 寛樹, 小島 貴之, 越村 俊一	土木学会論文集A1(構造・地震工学)	78		1	16	20220900	
6	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sequential Bayesian Update to Detect the Most Likely Tsunami Scenario Using Observational Wave Sequences	Reika Nomura, Saneiki Fujita, Joseph M. Galbreath, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Shunichi Koshimura, Randall J. LeVeque, Kenjiro Terada	Journal of Geophysical Research: Oceans	127	10		e2021JC018324	20221005	
7	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Reinforcement Learning Model of Multiple UAVs for Transporting Emergency Relief Supplies	Daiki Hachiya, Erick Mas, Shunichi Koshimura	Applied Sciences	12	20		10427	20221016	
8	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sparse Representation-Based Inundation Depth Estimation Using SAR Data and Digital Elevation Model	Luis Moya, Erick Mas, Shunichi Koshimura	IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing	15		9062	9072	20221019	
9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Detecting Urban Floods with Small and Large Scale Analysis of ALOS-2/PALSAR-2 Data	Hideomi Gokon, Fuyuki Endo, Shunichi Koshimura	Remote Sensing	15	2		532	20230116	
10	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Life-cycle risk assessment of building portfolios subjected to tsunamis under non-stationary sea-level rise based on a compound renewal process	Abdul Kadir Alhamid, Mitsuyoshi Akiyama, Koki Aoki, Shunichi Koshimura, Dan M. Frangopol	Earthquake Engineering & Structural Dynamics					20230226	
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A numerical study of the MRT-LBM for the shallow water equation in high Reynolds number flows: An application to real-world tsunami simulation	Kenta Sato, Koji Kawasaki, Shunichi Koshimura	Nuclear Engineering and Design	404				112159	20230116

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

No.	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	PODによるリアルタイム津波予測を目的とした観測点位置最適化	学術雑誌	無	いいえ	計算工学講演会論文集	27				20220601	藤田 真祥, 野村 怜佳, 越村 俊一, 大竹 雄, 森口 周二, 寺田 賢二郎, 高瀬 慎介, 福谷 陽, 松庭 雅明, 野島 和也, 橋詰 正広	共著	国内
2	日本語	リアルタイム津波浸水被害予測の国際展開に向けた検討	大学紀要	無	いいえ	大規模科学計算システム広報 SENAC	55	4	26	31	20221000	越村 俊一, 阿部 孝志, ADRIANO Bruno, MAS, Erick, 撫佐 昭裕	共著	国内

学会発表

単名	8	筆頭 連名	2	その他の 連名	17	合計	27
----	---	----------	---	------------	----	----	----

	国内 国際	会議名称	会議の チエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第25回応用力学シンポジウム	阿部 和久	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	鹿児島 大学	鹿児島	日本	20220527	20220528	20220528	津波シナリオの即時同定を目的とした観測位置最適化	<u>藤田 直経</u> , 野村 怜佳, 大竹 雄, 越村 俊一, 森口 周二, 寺田 賢二郎	なし	200
2	国際	15th World Congress on Computational Mechanics (WCCM-XV)	Seichi Koshizuka	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	Virtual	横浜	日本	20220731	20220805	20220804	Optimization of offshore gauge configuration for early tsunami forecast with GA and POD	<u>Saneiki Fujita</u> , Reika Nomura, Shunichi Koshimura, Yu Otake, Shuji Moriguchi, Kenjiro Terada	なし	2,346
3	国際	15th World Congress on Computational Mechanics (WCCM-XV)	Seichi Koshizuka	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	Virtual	横浜	日本	20220731	20220805	20220804	A Numerical Study of the Bulk Viscosity in the Cumulant Lattice Boltzmann Method on Tsunami Impact Pressure	Kenta Sato, Koji Kawasaki, <u>Shunichi Koshimura</u>	国内	2346
4	国際	19th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society	Robin Robertson	筆頭 連名	いいえ	口頭 (一般)	Virtual	Honolulu	USA	20220801	20220805	20220803	Digital Twin Computing for Enhancing Resilience of Disaster Medical System	<u>Shunichi Koshimura</u> , Erick Mas, Shinichi Egawa, Hiroyuki Sasaki	なし	2306
5	国際	Thailand Workshop on "Climate Change in Tropical Zone and Adaptation to Climate Change		単名	はい	口頭 (基調)		Cha-Am	Thailand	20220915	20220916	20220916	Tsunami Hazard Risk Assessment and Forecast under Climate Change	<u>Shunichi Koshimura</u>	なし	100
6	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	筆頭 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Digital twin computing for enhancing resilience of disaster response system	<u>Shunichi Koshimura</u> , E. Mas, Shinichi Egawa, Hiroyuki Sasaki	なし	100
7	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Sequential decision analytics and its application to flood risk reduction and evacuation advisory optimization	<u>Erick Mas</u> , Zhijie Sasha Dong, Bruno Adriano, Masakazu Hashimoto, Luis Moya, Tatsuhito Kono, <u>Shunichi Koshimura</u>	両方	100
8	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Reinforcement learning optimization of emergency relief supply delivery with multi-UAVs	<u>Daiki Hachiya</u> , Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	100
9	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Transferability assessment of a global model for multi-hazard building damage classification	<u>Sesa Wiguna</u> , Bruno Adriano, Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	100
10	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Generating multimodal data by fusing physical demand parameters and remote sensing data for tsunami damage estimation	<u>Ruben Vescovo</u> , Bruno Adriano, Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	100
11	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	On the use of ray tracing to understand building damage in SAR imagery	<u>Chia Yee Ho</u> , Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	100
12	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	The Univ. of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Assessing tsunami inundation by coupling numerical simulation and machine learning	<u>Bruno Adriano</u> , Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	国外	100
13	国内	第51回(2022年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	村尾 修	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	静岡 県庁	静岡	日本	20221029	20221030	20221030	深層学習を用いた河川監視カメラによる水面領域の抽出-令和4年7月宮城県豪雨における検証-	<u>上岡 洋平</u> , 橋本 雅和, 越村 俊一	国内	100
14	国内	第15回スーパーコンピュータ・インテグレーション技術産業応用シンポジウム		単名	はい	口頭 (招待)	オンライ ン			20221209	20221209	20221209	リアルタイム津波浸水被害予測システム	<u>越村 俊一</u>	なし	100
15	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	複数UAVによる災害時緊急支援助物資輸送最適化モデルの構築	<u>峰屋 大樹</u> , Erick Mas, 越村 俊一	なし	200
16	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	Understanding Deep Learning Model's Transferability for Building Damage Classification	<u>Sesa Wiguna</u> , Bruno Adriano, Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	200
17	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	Tsunami Building Damage Representations using Simple Machine Learning Methods	<u>Ruben Vescovo</u> , Bruno Adriano, Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	200
18	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	地震動・津波を受ける道路ネットワークの確率論的接続性の評価法および補強優先度判定への適用	<u>青木 康貴</u> , 布施 袖起, 秋山 充良, 越村 俊一	なし	200
19	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	津波浸水域内人口の生存可能性に着目した動的解析	<u>石垣 雅生</u> , Mas Erick, 越村 俊一	なし	200
20	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	Building Damage Features in SAR Imagery using Raytracing Simulation	<u>Chia Yee Ho</u> , Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	200
21	国内	日本地震工学会・大会-2022	清野 純史	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20221215	20221216	20221215	Text Mining of Cascading Effects of Disasters	<u>Xuanvan Dong</u> , Erick Mas, <u>Shunichi Koshimura</u>	なし	200
22	国内	第2回総合知ウェブナー総合知の普及と活用による新たな価値の創造		単名	はい	口頭 (招待)	オンライ ン			20230202	20230202	20230202	災害デジタルツインプロジェクト (Disaster Digital Twin 4 National Resilience)	<u>越村 俊一</u>	両方	
23	国際	Tour de l'IGS 5th Stop (GNSS for Natural Hazards in the South Pacific)		単名	はい	口頭 (招待)	オンライ ン			20230214	20230214	20230214	A Nation-wide Tsunami Inundation and Damage Forecast System in Japan	<u>Shunichi Koshimura</u>	両方	

24	国際	世界防災フォーラム2023	Yuichi Ono	単名	いいえ	口頭 (一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312	20230310	Real-time Disaster Science for National Resilience	Shunichi Koshimura	両方
25	国際	世界防災フォーラム2023	Yuichi Ono	単名	いいえ	口頭 (一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312	20230311	Disaster Digital Twin for National Resilience (DDT4NR)	Shunichi Koshimura	両方
26	国際	世界防災フォーラム2023	Yuichi Ono	単名	いいえ	口頭 (一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312	20230311	Surviving from Tsunami - Revisiting the Lessons -	Shunichi Koshimura	両方
27	国際	世界防災フォーラム2023	Yuichi Ono	単名	いいえ	口頭 (一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312	20230310	Preliminary Building Damage Assessment using Remote Sensing Data	Shunichi Koshimura	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

「災害ジョインフォマティクス (災害空間情報科学)」研究分野を新たに設立し、多様なプラットフォームとセンサによる地球観測データの統合解析に取り組んだ。

担当授業科目 (他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ (水と環境)	東北大学	全学		1	1セメ	3
2	基礎ゼミ (災害の科学)	東北大学	全学		1	2セメ	2
3	基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	3
4	沿岸環境海洋工学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	7
5	防災システム論	東北大学	大学院工学研究科	土木工学専攻		後期	7

D. 社会活動

社会活動の概要

災害科学国際研究所の理念に則り、被災地の復興への貢献と東日本大震災の教訓の発信、新しい減災研究のパラダイムを創成するという目標のもと、社会活動を行った。

講演・講義等 (研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	Disaster Preparedness and Digital Technology Seminar	招待講演	20221206	20221206	Real-time tsunami inundation and damage forecast : Fusion of real-time sensing and simulation	行政	在シアトル日本国総領事館	Renton, Washington	Renton, Washington	USA	50
2	セミナー	第15回神戸大学マリンハザード研究会	招待講演	20230131	20230131	沿岸災害デジタルツインについて	なし	神戸大学	海事科学研究科	神戸市	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	大規模災害衛星画像解析ワーキンググループ	委員	20130000
2	国・政府	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	観測衛星を利用した防災利用実証活動水害ワーキンググループ	委員	20110000
3	民間・NPO	東北電力	津波評価に関する技術検討会	委員	20130000
4	国・政府	文部科学省	地震調査研究推進本部	専門委員	20130000
5	国・政府	文部科学省	国立研究開発法人防災科学技術研究所部会	委員	20150000
6	国・政府	気象庁	津波予測技術勉強会	委員	20090000
7	地方自治体	高知県	石油基地等地震・津波対策検討会	委員	20140000
8	地方自治体	福島県	技術検討会	委員	20140000
9	地方自治体	茨城県	茨城県原子力安全対策委員会	委員	20140000
10	民間・NPO	特定非営利活動法人・大規模災害対策研究機構		理事	20060000
11	国・政府	国土交通省	総合評価委員会港湾空港部会	委員	20200000
12	地方自治体	宮城県	宮城県津波浸水想定の設定に関する検討会	委員	20210000
13	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20210000
14	地方自治体	鹿児島県	原子力安全・避難計画等防災専門委員会	委員	20221200



## マス サマネス エリック アルトゥロ 准教授

### MAS SAMANEZ Erick Arturo

災害評価・低減研究部門 災害ジオインフォマティクス研究分野

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	国立工科大学(ペルー)	土木工学部	2004	12	東北大学大学院	工学研究科土木工学専攻	2012	9	博士	2012	9

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	6	2007	4	カヤオ県庁(ペルー共和国)	津波防災公務員
2	2007	4	2008	4	カヤオ県庁(ペルー共和国)	災害防災研修コース担当者
3	2007	9	2009	3	ラ・プンタ市役所(ペルー共和国)	市長の災害防災アドバイザー
4	2008	4	2009	3	カヤオ県庁(ペルー共和国)	津波防災公務員
5	2009	10	2012	9	東北大学(日本国)	大学院生(博士)
6	2012	10	2016	5	東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	助教
7	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 (日本国)	准教授

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	Council of Engineering of Peru (CIP)	日本地球惑星科学連合 (JpGU)	American Geophysical Union (AGU)	土木学会 (JSCE)	Institute for Systems and Technologies of Information, Control and Communication (INSTICC)

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会・海岸工学委員会	津波小委員会	会員	20150700
2	TECNIA	Editorial Board	Member	20190900
3	MDPI Remote Sensing - Earth Observation for Emergency Management	Editorial Board	Member	20211018

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	津波工学	災害リスク管理	地理情報システム	エージェントベースモデリング

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科・土木工学	国際交流・ネットワーク委員会	委員	20210401
2	全学	編入学試験	作問者	20220701
3	工学研究科・土木工学	学部教務	委員	20220401

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

リアルタイム避難誘導に関するシステムの開発にうけて研究を行いました。また、モバイル空間統計データを用いて異常検知、人口暴露、人流予測に関する研究を行いました。国際連携でペルーでの津波被害予測に関する研究を開始しました。さらに、米国との連携で機械学習および数学的な最適化手法により洪水避難指示に関する研究を行いました。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	9	現在		[分担者] 理・工・医学の連携による津波の広域被害把握技術の深化と災害医療支援システムの革新	国内
2	2018	4	2023	3	[分担者] 平成30年度次世代領域研究開発(高性能汎用計算機高度利用事業費補助金); 量子アニーリングアシスト型次世代スーパーコンピューティング基盤の開発	国内
3	2020	6	現在		[協力者] JST-JICA-SATREPS Peru: 地震直後におけるリマ市内インフラ被災程度の予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発	国外
4	2021	3	2023	3	[協力者] 浸水被害も含めた、新たな医療機関の事業継続計画 (BCP) 策定に資する研究	国内
5	2021	7	現在		[分担者] 理・工・医学の連携による災害医療デジタルツインの開発と医療レジリエンスの再構築	国内
6	2022	2	2023	3	[代表者] JST-NSF: 逐次決定分析とその洪水リスク軽減および避難指示の最適化への応用	国外
7	2022	4	現在		[協力者] ALOS-2/-4 BASED FLOOD MAPPING IN RURAL AREAS IN THE PERUVIAN AMAZON RAINFOREST	国外
8	2022	7	2023	3	[協力者] マッピングによる災害レジリエンス構築: 社会的脆弱性の高い人々へ着目した研究	国外
9	2022	8	2023	3	[代表者] 人口動態把握と予測のための人流デジタルツインの開発	国内
10	2022	8	2023	3	[協力者] 降雨流出氾濫解析と簡易型河川監視カメラ画像解析を用いたリアルタイム浸水予測の高度化	国内
11	2022	9	現在		[協力者] Reinforcement Learning-based Pedestrian Evacuation Intelligent System	国外
12	2022	12	現在		[代表者] モバイル統計データと避難行動分析による津波避難時の人的暴露量	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	5	合計	6	うち	国際査読有	5	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Brief communication: Radar images for monitoring informal urban settlements in vulnerable zones in Lima, Peru	Moya, L; Garcia, F; Gonzales, C; Diaz, M; Zavala, C; Estrada, M; Yamazaki, F; Koshimura, S; Mas, E; Adriano, B	Natural Hazards and Earth System Sciences	22	1	65	70	20220000
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Modeling search and rescue, medical disaster team response and transportation of patients in Ishinomaki city after tsunami disaster	Mas, E; Egawa, S; Sasaki, H; Koshimura, S	E3S Web of Conferences	340		5001		20220001
英語	共著	国外	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Optimizing the Post-disaster Resource Allocation with Q-Learning: Demonstration of 2021 China Flood	Dong, L; Bai, Y; Xu, Q; Mas, E	Database and Expert Systems Applications: 33rd International Conference, DEXA 2022, Vienna, Austria, August 22-24, 2022, Proceedings, Part II			256	262	20220002
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A reinforcement learning model of multiple UAVs for transporting emergency relief supplies	Hachiya, D; Mas, E; Koshimura, S	Applied Sciences	12	20	10427		20220003
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sparse Representation-Based Inundation Depth Estimation Using SAR Data and Digital Elevation Model	Moya, L; Mas, E; Koshimura, S	IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing	15		9062	9072	20220004
英語	共著	両方	はい	その他	無	はい	US-Japan Workshop on Needs, Priorities and Partnerships to Advance Human-Centered Data for Resilience	Kijewski-Correa, T; Ono, Y; Balachandran, B; Bukvic, A; Fox, N; Holtzer, G; Lachlan, K; Little, J; Mas, E; Nishikawa, S; Shimizu, M; Stephens, K; Tatano, H; Tatsuki, S; Toyofuku, K; Wang, H; Ye, X	DesignSafe-CI					20230307

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	リアルタイム津波浸水被害予測の国際展開に向けた検討	大学紀要	無	いいえ	大規模科学計算システム広報 SENAC	55	4	26	31	20221000	越村 俊一, 阿部 孝志, ADRIANO Bruno, MAS, Erick, 熊佐 昭裕	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	3	その他の連名	9	合計	12
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者氏名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	第41回学術講演会	里深好文	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学	滋賀県草津市	日本	20220918	20220919	20220919	浸水想定区域における人流データを用いた立退避難実態調査	橋本 雅和, Mas E., 江川 新一, 越村 俊一, 佐野 大輔	国内	150
国際	AIWEST-DR 2022 Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction	Dr Aaron Opydye	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	The University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Sequential decision analytics and its application to flood risk reduction and evacuation advisory optimization	Mas, E., Dong, Z., Adriano, B., Hashimoto, M., Moya, L., Kono, T., Koshimura, S.	国外	200
国際	AIWEST-DR 2022 Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction	Dr Aaron Opydye	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	The University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Assessing tsunami inundation by coupling numerical simulation and machine learning	Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.	国内	200
国際	AIWEST-DR 2022 Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction	Dr Aaron Opydye	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	The University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Digital twin computing for enhancing resilience of disaster response system	Koshimura, S., Mas, E., Sasaki, H., Egawa, S.	国内	200
国際	AOGS2022	Robin Robertson	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20220801	20220805	20220803	How can we incorporate population dynamics into an urban digital twin for disaster response?	Mas, E., Koshimura, S.	国内	
国際	AOGS2022	Robin Robertson	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20220801	20220805	20220803	Evaluation of Land Roughness and Tsunami Inundation Based on Machine Learning	Adriano, B., Mas, E., Koshimura, S.	国内	
国際	AOGS2022	Robin Robertson	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20220801	20220805	20220803	Decision-Making Support Utilizing Digital Twin Technology for Disaster Prediction	Kosaka, N., Moriguchi, S., Mas, E., Koshimura, S., Terada, K., Okumura, M., Fujino, A., Kura, T., Matsubara, H., Hisada, M.	国内	
国際	AOGS2022	Robin Robertson	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	Online	20220801	20220805	20220803	Digital twin computing for enhancing resilience of disaster medical system	Koshimura, S., Mas, E., Egawa, S., Sasaki, H.	国内	
国際	The 33th International Conference on Database and Expert Systems Applications	Gabriele Kotsis	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Vienna University of Economics & Business	Vienna	Austria	20220822	20220824	20220823	Optimizing the Post-disaster Resource Allocation with Q-learning: Demonstration of 2021 China Flood	Dong, L., Bai, Y., Xu, Q., Mas, E.	国外	

10	国際	37th International Conference on Coastal Engineering	Ian Turner Edward Couriel	その他の 連名	いいえ	ポスター (一般)	International Conventio n Centre	Sydney	Australia	20221204	20221209	20221206	Tsunami Evacuation In A Massive Crowd Event Using An Agent-Based Model	Flores, C. Lee, H.S., Mas, E., Salar C, J.	国外
11	国際	World Bosai Forum 2023	Ono Yuichi	その他の 連名	いいえ	ポスター (一般)	仙台国際 センター	仙台市	日本	20230310	20230312	202303011	Decision-Making Support Utilizing Digital Twin Technology for Crisis Response	Kosaka, N., Moriguchi, S. Mas, E., Koshimura, S. Terada, K., Okumura, M., Shigematsu, N., Shimizu, H., Fujino, A., Kura, T., Matsubara, H., Hisada, M.	国内
12	国際	World Bosai Forum 2023	Ono Yuichi	筆頭 連名	いいえ	ポスター (一般)	仙台国際 センター	仙台市	日本	20230310	20230312	202303010	Sequential decision analytics and its application to flood risk reduction and evacuation advisory optimization - Progress Report	Mas, E., Dong, Z.	国外

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDESの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	講演会	The University of sydney, TDMRC, IRIDeS	AIWEST-DR 2022 Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction	20220929	20220930	The University of Sydney	Sydney	Australia	200	工学	Program Committee	IRIDeS主催・共同 主催	The University of Sydney, TDMRC	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

本研究室では学部4年生、修士と博士学生の指導を行った。特にエージェントベース技術を用いて歩行者と車の相互採用に関する研究を行なった。また、モバイル空間統計データを活用して異常検知と暴露人口の検討を行った。さらに、自動運転車の車両制御の研究も行った。また、リモートセンシングと機械学習に関する研究も指導しました。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学 期	コマ数 90分/コマ
1	建築社会環境工学演習	東北大学			2	3セメ	12
2	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	工学英語II	東北大学	工学部研究科	土木工学	3	後期	4
4	応用情報処理演習A	東北大学	工学部研究科	土木工学	2	4セメ	2
5	数学物理学演習I	東北大学	全学	建築・社会環境工学科	1	前期	16
6	Tsunami Evacuation Planning	建築研究所	研修コース	津波工学			5
7	水環境デザイン演習II	東北大学	工学部研究科	土木工学	4	前期	4

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動および防災教育に関する活動を行なった。特にオンラインセミナーで津波減災に関する概念を共有した。さらに国際学会でのセッション運営の活動をした。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDESの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国際	Asia Oceania Geosciences Society	AOGS2022	20220801	20220805	Online	Online	Online	Session Co- organizer	30	なし	その他	セッ ション
2	国際	AIWEST-DR	AIWEST-DR 2022 Inclusive and Integrated Disaster Risk Reduction	20220929	20220930	The University of Sydney	Sydney	Australia	Program Committee	200	IRIDeS主催・共同 主催	講演会	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	Tsunami Awareness Day	招待講演	20221105	20221105	What ISN'T a tsunami? .. Breaking dangerous myths	なし	APEBEJA	オンライン	Lima	Peru	150
2	セミナー	Tsunami modelling training (IOC- UNESCO)	招待講演	20221018	20221018	Tsunami Generation	なし	IOC-UNESCO	オンライン	オンライ ン	Peru	25

橋本 雅和 助教  
HASHIMOTO Masakazu

災害評価・低減研究部門 災害ジオインフォマティクス研究分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山梨大学	工学部	2009	3	山梨大学	医学工学総合教育部	2011	3	修士（工学）	2011	3
2					山梨大学	医学工学総合教育部	2014	3	博士（工学）	2014	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2015	3	京都大学 防災研究所	特定研究員
2	2015	4	2018	3	京都大学 防災研究所	特任助教
3	2018	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	土木学会	自然災害学会	水文・水資源学会	International Association for Hydro-Environment Engineering and Research

学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会		20181001

研究分野・キーワード (最大5まで)

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	洪水氾濫解析	数値シミュレーション	水文疫学

B. 研究活動

研究活動の概要

本年度は主に「河道沿川人口を考慮した中小河川管理コストに関する研究」と「降雨流出氾濫モデルと人流データによる人口集中推定」の二つのテーマに取り組んだ。また、国内外の研究者との共同研究として「バングラデシュの農村地域における環境問題」に関する研究を進めた。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	2021		バングラデシュを対象とした洪水ハザードマップの作成	
2	2015	4	現在		洪水氾濫を起因とした有害物質の拡散に関する研究	
3	2018	9	現在		洪水氾濫数値解析と衛星画像解析による浸水家屋判別手法の高度化	
4	2016	4	現在		バングラデシュにおける洪水に伴う人の移動に関する研究	
5	2014	6	現在		洪水氾濫解析におけるネスティング計算法の適用	
6	2011	4	現在		洪水氾濫解析手法と社会疫学的分析手法を用いた浸水形態と下痢症の関係解析	
7	2021	4	現在		河道沿川人口を考慮した中小河川管理コストに関する研究	
8	2020	4	現在		洪水氾濫解析による準リアルタイム水害廃棄物発生量推定	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Dynamic roughness modeling of seasonal vegetation effect: Case study of the Nanakita River	Andre Araujo Fortes, Masakazu Hashimoto, Keiko Udo, Ken Ichikawa, Shosuke Sato	water	14	3649	1	19	20221112
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中小河川の維持管理に関する実態調査	市川健, 佐藤翔輔, 天谷香織, 橋本雅和, 今村文彦	自然災害科学	41		165	168	20220501

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行数
1	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍洋、他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	4	その他の連名	7	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

No.	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	9th International Conference of Flood management		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	つくば国際会議場	筑波	日本	20230218	20230221	2023年2月19日	Quantitative Evaluation of Evacuated Populations in flood events Using Mobile Phone Base Dynamic Data	Masakazu HASHIMOTO, Erick MAS, Shinichi Egawa, Daisuke SANO, Shunichi KOSHIMURA	国内	
2	国際	9th International Conference of Flood management		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	つくば国際会議場	筑波	日本	20230218	20230221	2023年2月18日	Satellite and UAV derived seasonal vegetative roughness estimation for flood analysis	Andre A. Fortes, Masakazu Hashimoto, Keiko Udo, Ken Ichikawa	国内	
3	国内	地域安全学会研究発表会 秋季		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	静岡県地域防災センター	静岡	日本	20221029	20221030	2022年10月30日	深層学習を用いた河川監視カメラによる水面領域の抽出—令和4年7月宮城県豪雨における検証—	上岡洋平, 橋本雅和, 越村俊一	国内	
4	国際	The 14th International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR)		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	the University of Sydney campus	シドニー	オーストラリア	20220929	20220930	2022年9月30日	Sequential decision analytics and its application to flood risk reduction and evacuation advisory optimization	Erick Mas, Zhijie Sasha Dong, Bruno Adriano, Masakazu Hashimoto, Luis Moya, Tatsuhito Kono, Shunichi Koshimura	両方	
5	国内	第41回日本自然災害学会学術講演会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県南草津)	滋賀	日本	20220918	20220919	2022年9月19日	浸水想定区域における人流データを用いた立退避難実施調査	橋本雅和, Mas Erick, 江川新一, 佐野大輔, 越村俊一	国内	
6	国内	第41回日本自然災害学会学術講演会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県南草津)	滋賀	日本	20220918	20220919	2022年9月18日	河川技術者が参画する洪水常襲地帯の水防学習の効果—北上川流域における登米市立津山中学校を対象として—	市川健, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 今村文彦, 天谷香織, 高村光輝, 小野寺洋友	なし	
7	国内	日本安全教育学会第23回宮城大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	宮城教育大学	宮城	日本	20220909	20220910	2022年9月10日	学校の防災管理の充実化と関連させた洪水災害の防災教育—石巻市立大谷地小学校における実践事例—	佐藤健, 橋本雅和, 北浦早苗, 桜井愛子, 李泰榮, 池田真幸, 村山良之, 熊谷誠, 小田隆史	なし	
8	国内	15th World Congress on Computational Mechanics (WCCM-XV) 8th Asian Pacific Congress on Computational Mechanics (APCOM-VIII)		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	パンフィコ横浜ノース	横浜	日本	20220731	20220805	2022年7月31日	Hydrologic-geotechnical Modelling for Multihazard Analysis of Landslide and Flood caused by Heavy Rainfall	Nilo Lemuel J. DOLOAN, Shuji MORIGUCHI, Masakazu HASHIMOTO, Nguyen Xuan Tinh, Hitoshi TANAKA, Kenjiro TERADA	国内	
9	国際	第39回国際環境水理学会世界大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Palacio de Congresos de Granada	グラナダ	スペイン	20220619	20220624	2022年6月24日	Importance of Vegetation Identification for River Maintenance: Case Study of Nanakita River, Japan	André Araújo FORTES, Masakazu HASHIMOTO, Keiko UDO, Ken ICHIKAWA, Shosuke SATO	国内	
10	国際	第39回国際環境水理学会世界大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Palacio de Congresos de Granada	グラナダ	スペイン	20220619	20220624	2022年6月24日	Flood and Substance Transport Analysis with Consideration of Ground Water: Case Study of the Lower Meghna River in Bangladesh	Masakazu HASHIMOTO, Ahmed Ishaique, Amin Chowdhury, Shampa, Zhang Hao, Kenji Kawaike, Anisul Haque, Munsur Rahman	国外	
11	国際	第39回国際環境水理学会世界大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Palacio de Congresos de Granada	グラナダ	スペイン	20220619	20220624	2022年6月19日	Characteristics Riparian Population at Medium and Small Sized Rivers in Japan	Masakazu HASHIMOTO, Ken ICHIKAWA, Kaori AMAYA, Andre Araujo FORTES, Shosuke SATO	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

建築・社会環境工学科水環境デザインコースの博士および修士ゼミ、所内の博士ゼミ、研究室でのゼミ等において学生発表の聴講および質疑を行った。また、講義については水環境デザイン演習IおよびII、建築・社会環境工学演習、基礎ゼミ(全学教養)を担当した。その他、修士留学生一名、社会人博士学生一名の指導を行なった。

担当授業科目(他大学を含む)

No.	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	5
2	水環境デザイン演習I	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
3	水環境デザイン演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	15
4	都市・建築設計I	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	1
5	基礎ゼミ	東北大学	全学教育科目		1	1セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

自治体向けの1件(東北自治研修所)の講義、メディア対応として2件のラジオ出演(エフエム仙台)をした。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

No.	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	第58回行政課題研修 [風水害を想定した災害対応コース]	講義	20220523	20220525	近年の風水害とその気象条件	行政	東北自治研修所	東北自治研修所	富谷市	日本	50

## 蝦名 裕一 准教授

EBINA Yuichi

災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	岩手大学	教育学部	1998	3	東北大学大学院	国際文化研究科	2010	3	博士(国際文化)	2010	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	10	2007	3	福島県双葉郡双葉町立双葉中学校	常勤講師
2	2007	4	2008	3	宮城学院高等学校	非常勤講師
3	2008	4	2009	7	岩沼市教育委員会 市史編纂室	嘱託職員
4	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
5	2012	4	2015	3	東北大学災害科学国際研究所	助教
6	2015	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	東北史学会	岩手史学会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	地方史研究協議会	歴史地震研究会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	歴史地震研究会	編集出版委員会	委員	20180901

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	日本近世史	歴史災害研究	歴史資料保全研究

### B. 研究活動

研究活動の概要

今年度は1614年仙台地震についての歴史資料からの実態解明を進めるとともに、文化遺産防災マップの構築および社会実装に向けた活動をおこなった。2023年1月に、国立文化財機構奈良文化財研究所および文化財防災センターの連携協定を締結するとともに、2月24日に締結式および協定のキックオフシンポジウムとして「歴史が導く災害科学の新展開VIー文化遺産を守り伝える新たな技術ー」を開催した。また、岩手県における文化遺産防災マップの構築に協力し、2023年3月より岩手県において同マップの運用が開始された。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		1611年慶長奥州地震津波の歴史資料における記述に関する研究	国内
2	2015	4	現在		絵図・地図史料に基づく歴史的景観復元の研究	国内
3	2018	4	現在		文化遺産の位置情報とリアルタイム災害情報の組み合わせによる被災史料レスキューロジスティクスの構築	国内

論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	無	いいえ	地域の記憶継承にむけた新技術	蝦名裕一	災害「後」を生きる:慰霊と回復の災害人文学			266	269	20230300
2	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	文化遺産マップを活用した災害時の文化遺産救済方法	蝦名裕一	博物館研究	58	2	11	14	202302

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携
1	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	国際査読無	国内査読有	国内査読無	1
----	------	---	--------	---	----	---	----	-------	-------	-------	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	IRIDeSができるまで	その他	無	いいえ	東北大学災害科学国際研究所 設立10周年記念誌		10	13	20221004	蝦名裕一, 江川新一	筆頭共著	なし

学会発表

単名	4	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第39回歴史地震研究会高槻大会	行谷祐一	単名	いいえ	口頭(一般)	関西大学	高槻市	日本	20220917	20220918	20230912	元和二年(1616)仙台地震の津波被害をめぐって	蝦名裕一	なし	100
2	国内	日本災害・防災考古学会 設立総会・研究会	相原淳一	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン		日本	20220923	20220924	20220923	1611年慶長奥州地震津波に関する史料と評価をめぐって	蝦名裕一	なし	100
3	国際	朝鮮大学校災難人文学研究事業団	金羅榮	単名	はい	口頭(一般)	オンライン		韓国	20221216		20221216	疫病流行における宗教的実践とその社会的機能 (Religious Practices and their Social Function in Plagues)	蝦名裕一	なし	50
4	国内	地震史料シンポジウムII 災害史料研究が拓く歴史学の新たな方法	加納靖之	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	東京	日本	20221223		20221223	慶長奥州津波の実相―地誌の史料学と活用	蝦名裕一	なし	100

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開VI 文化遺産を守り伝える新たな技術」	20230224	20230224	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	50 (0)	人文社会系	議長	IRIDeS主催・共同主催	奈良文化財研究所・文化財防災センター	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度は担当教科はなかったが、全学教育科目「災害の科学:災害への対応」において2コマ実施するとともに、東北大学グローバルラーニング・ショートプログラムにおいてインドネシアの留学生を対象とした講義・ワークショップを実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	東北大学グローバルラーニング・ショートプログラム	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	グローバルラーニングセンター			1
2	災害の科学:災害への対応	東北大学	全学		1	後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

本年度の社会活動としては、神奈川県川崎市で歴史災害に関する講演や仙台市における歴史講座を実施するとともに、宮城県川崎町においてひかり拓本の撮影実習および撮影した画像を用いた古文書教室を開催した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	5件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	仙台明治青年大学・郷土史を学ぶ会	招待講演	20220721	20220721	先人の疫病文化に学ぶ	なし	仙台明治青年大学	仙台市市民活動サポートセンター	仙台市	日本	50
2	公開講座	北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム	公開授業	20221005	20221005	文化遺産マップを活用した文化遺産レスキュー活動	なし	北海道大学	北海道大学	札幌市	日本	20
3	セミナー	博物館研修会	講演	20221124	20221124	文化遺産マップと文化遺産レスキュー活動	なし	日本博物館協会東北支部	遊学館	山形市	日本	30
4	講演会	生涯現役塾	講演	20221209	20221209	伊達騒動を読み直すー伊達兵部を中心にー	なし	生涯現役塾	災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
5	セミナー	岩手県立博物館	講演	20230127	20230127	岩手版文化遺産防災マップの活用と可能性について	行政	岩手県立博物館	岩手県立博物館	盛岡市	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	理事会	理事、事務局	20150701
2	地方自治体	相馬市教育委員会	相馬市史編さん委員会	編さん執筆委員	20060224

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機 関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20230224	東北大学災害科学国際研究所	国内	災害の実態解明や災害時の文化遺産保全についての連携研究に関する協定	研究機 関	国立文化財機構奈良文化財研究所、国立文化財機構文化財防災センター	2022	10



## 柴山 明寛 准教授

## SHIBAYAMA Akihiro

災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東海大学	工学部	1999	3	工学院大学大学院	工学研究科	2006	3	博士(工学)	2006	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2007	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	教育研究支援者
2	2007	4	2008	11	独立行政法人情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター 防災・減災基盤技術グループ	専攻研究員
3	2008	12	2012	3	東北大学大学院 工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
4	2012	4	2012	5	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	助教
5	2012	6	2020	3	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野	准教授
6	2020	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本デジタルアーカイブ学会	日本建築学会	日本地震工学会	日本自然災害学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本自然災害学会	編集委員会	委員	20190000
2	デジタルアーカイブ学会	学会誌編集委員会	委員	2019 0000
3	京都大学防災研究所自然災害研究協議会		6号委員	20200401

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
災害情報学	地震工学	地域防災	建築工学

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長補	20130000
2	全学	研究推進・支援機構テクニカルサポートセンター運営委員会	委員	20170401
3	全学	情報システム	部局技術担当者	20120401
4	工学研究科建築学専攻	ネットワーク・ホームページ管理	委員	20080000
5	工学研究科建築学専攻	オープンキャンパス担当	委員	20200000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

研究活動としては、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」を中心的に実施し、東日本大震災デジタルアーカイブから自然災害デジタルアーカイブへの転換に関する研究を実施した。震災アーカイブの構築支援として、岩手県や熊本大学、岐阜大学などの継続的に支援を行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2017	4	現在		震災アーカイブから自然災害アーカイブへの転換に関する研究	両方
2	2017	4	現在		東日本大震災における防災観光に関する研究	両方
3	2018	4	現在		震災アーカイブの三者間連携システムの構築に関する研究	両方

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	みんなでつくる みんなでつかう 災害アーカイブ：資料の収集・活用・運用	デジタルアーカイブ学会	6	2	56	57	20220613
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	災害デジタルアーカイブと防災教育の可能性：コロナ禍の中の日本の災害アーカイブ (JDA) ワークショップの3種類の事例	デジタルアーカイブ学会	6	3	190	193	20221102
3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	The potential of disaster digital archives in disaster education: The case of the Japan disasters digital archive (JDA) and its geolocation functions.	International Journal of Disaster Risk Reduction-IJDRR.					20220528

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	東日本大震災とデジタルアーカイブ	学術雑誌	無	はい	デジタルアーカイブ学会	6	1	40	42	20220601	柴山 明寛	単著	国内
2	日本語	総論：デジタルアーカイブの消滅と救済	学術雑誌	無	はい	デジタルアーカイブ学会	6	4	151	154	20221101	柴山 明寛	単著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	1	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者氏名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	日本デジタルアーカイブ学会	Shunya Yoshimi	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	琉球大学	那覇	日本	20221125	20221127	20221125	災害デジタルアーカイブと防災教育の可能性：コロナ禍の中の日本の災害アーカイブ (JDA) ワークショップの3種類の事例	ゲルスタ・ユリア、柴山 明寛、森本 涼、ゴードン・アンドルー、ボレー・ペンメレン・セバスチャン	国外	
2	国内	東北地域災害科学研究会	柴山明寛	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	弘前大学	弘前	日本	20221226	20221227	20221226	東日本大震災アーカイブの活用促進のためのセンサーズの検討	柴山 明寛、ゲルスタ・ユリア	なし	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携	
				開始年月	終了年月										
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所、国立国会図書館	令和4年度東日本大震災アーカイブシンポジウム	20230108	20230108	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	200	人文社会系	幹事	IRIDeS主催・共同主催	国立国会図書館	国内
2	国内	研究会	自然災害研究協議会東北地区部会	令和4年度東北地域災害科学研究会	20221226	20221226	弘前大学	弘前	日本	150	工学	幹事	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、兼担である都市・建築学専攻の授業の実施を実施した。また、国際共同大学院の授業において、ハーバード大学協力の授業を実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	1	前期	6
2	海外研修	東北大学		災害科学・安全学国際共同大学院プログラム		後期	
3	災害アーカイブラボ	東北大学		変動地球共生学卓越大学院プログラム		後期	

D. 社会活動

社会活動の概要

岩手県、宮城県、矢巾町、大船渡市、多賀城市、丸森町、いわき市などの数多くの自治体との連携を実施した。実施内容としては、自主防災組織育成や震災アーカイブの支援、委員会などである。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	宮城県	未来へつなぐ学校と地域の安全 フォーラム	20230125	20230125	岩沼市市民会 館	岩沼市	日本	実行委員	300	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 24 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	積丹町立美国中学校	講義	20220426	20220426	災害から命を守るために必要なこと	小中高	積丹町立美国 中学校	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	10
2	公開講座	仙台市太白区	招待講演	20220709	20220709	震災の記憶と教訓を今後にかす	行政	(公財) 仙台 ひと・まち交 流財団	仙台市太白区 中央市民セン ター	仙台市	日本	50
3	公開講座	すくっぴー親子DE減 災・防災	招待講演	20220710	20220710	多賀城市の防災について	行政	多賀城市	すくっぴーひ ろば【多賀城 市子育てサ ポートセン ター】	多賀城市	日本	20
4	講演会	CAMP IN KYASSEN	招待講演	20220717	20220718	トークセッション「あの日 大船渡から の贈り物」	企業	キャッセン大 船渡	キャッセン大 船渡	大船渡市	日本	100
5	公開講座	東日本大震災語りベシ ンポジウム「かたりつ ぎ in 大船渡」	講演	20220721	20220721	かたりつぎ10年	行政	災害科学国際 研究所	三陸公民館	大船渡市	日本	300
6	小中高との連携	大宮国際中等教育学校	招待講演	20220823	20220823	災害から命を守るために必要なこと	小中高	大宮国際中 等教育学校	オンライン	オンライン	日本	300
7	小中高との連携	東北学院中学校	招待講演	20220905	20220905	災害から命を守るために必要なこと	小中高	東北学院中 学校	東北学院中 学校	仙台市	日本	300
8	公開講座	すくっぴー親子DE減 災・防災	招待講演	20220916	20220916	多賀城市の防災について	行政	多賀城市	すくっぴーひ ろば【多賀城 市子育てサ ポートセン ター】	多賀城市	日本	20
9	講演会	宮城県砂防シンポジウ ム	招待講演	20220928	20220928	パネルディスカッション：教訓をつな ぎ、活力ある明日のまもりをつくる	行政	国土交通省 宮城南部復興 事務所	丸森町立丸森 中学校	丸森町	日本	200
10	小中高との連携	高山市立東山中学校	招待講演	20221026	20221026	災害から命を守るために必要なこと	小中高	高山市立東山 中学校	オンライン	オンライン	日本	300
11	小中高との連携	長野県諏訪清陵附属中 学校	招待講演	20221027	20221027	災害から命を守るために必要なこと	小中高	長野県諏訪清 陵附属中学校	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	80
12	公開講座	令和4年度津波防災シ ンポジウム	招待講演	20221105	20221105	「自助・共助の防災力向上に繋げるた めの学びとは ～新たな震災伝承のかたち～」	行政	宮城県	互理町立荒浜 中学校	互理町	日本	80
13	小中高との連携	長野県飯田風越高校	招待講演	20221110	20221110	災害から命を守るために必要なこと	小中高	長野県飯田風 越高校	災害科学国際 研究所	仙台市	日本	80
14	その他	PLATEAU Hack Challenge 2022 in enspace (仙台)	審査委員	20221112	20221112	成果発表の審査委員	行政	国土交通省	enspace	仙台市	日本	40
15	小中高との連携	仙台市立幸町中学校	講義	20221117	20221117	災害から命を守るために必要なこと	小中高	仙台市立幸町 中学校	メモリアル交 流館	仙台市	日本	40
16	講演会	大船渡まちなり大学	招待講演	20221129	20221129	「防災と景観を考える」のトークセッ ション	なし	NPO法人お おふなと市民活 動センター	おおふなぼー と多目的室	大船渡市	日本	40
17	セミナー	岩手県自主防災組織 リーダー研修	招待講演	20221217	20221217	グループワーク	企業	岩手県	岩手県立大学	滝沢市	日本	100
18	講演会	令和3年度災害時学校 支援チームみやぎフォ ローアップ講習会	講義	20230112	20230112	東日本台風と被災地での対応～水害等 で被災した学校の現状～	行政	宮城県	宮城県自治会 館	仙台市	日本	50
19	講演会	岩手県議会東日本大震 災津波復興特別委員会	招待講演	20230113	20230113	人口減少・過疎化が進む中の防災の課 題とは	行政	岩手県	岩手県議会棟	盛岡市	日本	50
20	小中高との連携	筑波大学附属中学校	招待講演	20230209	20230209	災害から命を守るために必要なこと	小中高	筑波大学附 属中学校	オンライン	オンライン	日本	200

21	講演会	令和4年度矢巾町防災士養成講座修了式	招待講演	20230225	20230225	防災講話	行政	岩手県矢巾町	矢巾町公民館	矢巾町	日本	30
22	講演会	大船渡津波伝承館未来シンポジウム	招待講演	20230304	20230304	物語なら伝わる津波のおそろしさ	なし	一般社団法人大船渡津波伝承館	陸前高田市市民文化会館	陸前高田市	日本	50
23	公開講座	すくっぴー親子DE減災・防災	招待講演	20230314	20230314	多賀城市の防災について	行政	多賀城市	すくっぴーひろば【多賀城市子育てサポートセンター】	多賀城市	日本	20
24	公開講座	熊本大学デジタルアーカイブ室(TERADA)シンポジウム「アーカイブ展の可能性と課題」	パネラー	20230314	20230314	「アーカイブ展の可能性と課題」パネルディスカッション	なし	熊本大学	熊本大学	熊本市	日本	30

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府 国, 岩手県, 陸前高田市	高田松原津波復興記念公園有識者懇談会	委員	20170401
2	国・政府 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会	委員	20210000
3	国・政府 国土交通省 東北地方整備局 南部復興事務所	丸森町五福谷地区遊砂地整備に係るワークショップ	有識者	20210000
4	地方自治体 岩手県	東日本大震災津波伝承館運営協議会	副会長	20190922
5	地方自治体 岩手県	自主防災組織活性化検討会議	委員	20170401
6	地方自治体 宮城県	学校防災アドバイザー連絡協議会	委員	20210000
7	地方自治体 宮城県	学校防災マニュアル見直しのためのガイドライン作成委員	委員	20210000
8	地方自治体 宮城県	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会	委員	20210000
9	地方自治体 岩手県大船渡市	大船渡市防災観光交流センターアドバイザーボード	委員	20180000
10	地方自治体 岩手県大船渡市	大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会	会長	20220328
11	地方自治体 宮城県丸森町	丸森町復興推進委員会	副委員長	20200000
12	地方自治体 宮城県多賀城市	多賀城市防災会議	有識者	20220401
13	地方自治体 宮城県多賀城市	多賀城市都市計画審議会	委員	20220401
14	地方自治体 宮城県丸森町	防災ステーション検討委員会	委員	20220401

自治体・研究機関との協定締結実績

年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
						開始年月日	年数
20221003	福島県いわき市	国内	福島県いわき市と災害科学国際研究所との連携に関する協定	自治体	福島県いわき市	20221003	5
20220412	ハワイ太平洋津波博物館	国外	ハワイ太平洋津波博物館と災害科学国際研究所との連携に関する協定	その他	ハワイ太平洋津波博物館	20220412	5

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1 岐阜大学	小山真紀	20230108	共同研究	災害科学国際研究所	仙台市	運営	5
2 熊本大学	竹内裕希子, 田中尚人	20221128	共同研究	福島県浜通り視察	浪江町, 双葉町等	企画	20
3 信州大学	廣内大助	20221128	共同研究	福島県浜通り視察	浪江町, 双葉町等	企画	20

## ゲルスタ＝ダメーロ ユリア 助教

### GERSTER-DAMEROW Julia

災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Freie Universitaet Berlin	History and Cultural Studies	2008	10	Freie Universitaet Berlin	BA East Asian Studies / Cultural and Social Anthropology	2012	10	BA	2012	10
2	Freie Universitaet Berlin	History and Cultural Studies	2012	10	Freie Universitaet Berlin	Japanese Studies	2015	8	MA	2015	8
3	Freie Universitaet Berlin	History and Cultural Studies	2015	4	Freie Universitaet Berlin / Graduate School of East Asian Studies	Japanese Studies	2018	10	PhD	2019	4

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	9	2015	9	“Lernwerk”塾、ベルリン	先生
2	2012	3	2013	9	NHK ベルリン支局	記者、編集スタッフ、アナウンサー
3	2014	8	2015	9	ベルリン自由大学、国際センター	Student Assistant、アジア留学プログラム担当
4	2019	1	2019	9	東北大学 災害科学国際研究所 災害アーカイブ研究分野	学術研究院
5	2019	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害文化アーカイブ研究分野	助教

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	European Association of Japanese Studies (EAJS)	日本文化人類学会 (JASCA)	AAS (Association for Asian Studies)	JAWS (Japan Anthropology Workshop)	日本災害復興学会	日本デジタルアーカイブ学会	Kataribe World Network

#### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Kataribe World Network	Executive Board	運営副委員長	20230101
2	ASIEN	Editorial Board	Editorial Board Member	20200824
3	Japan Review	Scientific Advisory Board	Scientific Advisory Board Member	20230301
4	Pacific Rim Network	Pacific Rim Network Conference Organization Committee	Pacific Rim Network Conference Organization Committee Member	20230201
5	I-REC	I-REC Conference Organization Committee	I-REC Conference Organization Committee Member	20230201

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	Japanese Studies	Disaster Studies	Memory Studies	Community	Social and Cultural Anthropology

#### B. 研究活動

研究活動の概要

I have finished my Start-Up JSPS research on disaster tourism and continued my JSPS Grant-in Aid(B) project on disaster memory and published the results in several international journals and book projects. I have organized several joint research meetings, including a joint research project with Harvard University, Princeton University and Tohoku University on the use of disaster digital archives in disaster education. The results have been published in international journals and on conferences. I further continued my research on gender and diversity in disaster memory for which several publications are in progress. Together with colleagues from Tamagawa University and Tsukuba University, I co-edited a book on disaster and justice, which features several authors of IRIDeS and Tohoku University and is currently in press with Routledge (release: June 2023). The planning process for several international joint research projects, including Harvard University and Stanford University, have started already.

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	9	2015	9	東日本大震災後の仮設住宅と被災地でのコミュニティづくりとスペースの使い方 (上智大学、ベルリン自由大学の修士論文)	
2	2013	9	2014	4	東日本大震災後の仏教活動の変化と仏教と心のケア (上智大学のプロジェクト)	
3	2013	9	2014	4	東北からの声 (デジタルアーカイブのためのインタビュー活動)	
4	2013	9	2019	10	SNSとフィールドワーク	
5	2015	10	現在		東日本大震災後、浪江町と名取市のコミュニティづくりの中のローカルの文化的役割とつながりの変化	
6	2015	10	現在		災害リスクのコミュニケーション	
7	2016	4	2020	3	写真撮影という研究方法	
8	2019	10	現在		東日本大震災の伝承と負の遺産、防災観光などの役割	
9	2019	3	現在		演劇と災害の伝承	
10	2019	10	現在		福島原発災害の伝承	
11	2020	1	現在		災害伝承とジェンダ	
12	2020	1	現在		東日本大震災の伝承館	

論文

単著	3	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	5	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	The potential of disaster digital archives in disaster education: The case of the Japan disasters digital archive (JDA) and its geolocation functions.	Julia Gerster, Sebastien Pennmellen, Boret, Ryo Morimoto, Andrew Gordon, and Akihiro Shibayama	International Journal of Disaster Risk Reduction-IJDRR.	77					20220528
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	「損失のヒエラルキーと演劇の力。福島県立相馬高校放送局の「今伝えたいこと(仮)」の事例に即し	ゲルスタ・ユリア	『地球システムと倫理学会誌』			193	197	20220606	
英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11: Othering the Fukushima Daiichi nuclear disaster in cultural memory	Julia Gerster and Elizabeth Maly	Contemporary Japan	34	2	187	209	20221013	
ドイツ語	単著	国外	いいえ	単行本(論文掲載)	有	はい	「Alltag und Erinnerung. Der Nordosten Japans nach der Dreifachkatastrophe von 2011.» [Everyday life and memory. Northeast Japan after the 2011 triple disasters.]	Gerster, Julia	Blechingher-Talcott, Verena; Chiavacci, David; Schwenker, Wolfgang: Japan-ein Land im Umbruch [Japan-a land in the midst of change]. BreBra Verlag			279	294	20220929	
日本語	単著	なし	いいえ	単行本(論文掲載)	有	はい	復興中の居場所とジェンダーの役割: 3. 11は「機会の窓」になったのか?」	ゲルスタ・ユリア	李善姬・高倉浩樹編『災害後を生きる—一應慮と回復の災害人文学』			189	207	20230311	

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	1	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	ゲルスタ・ユリア (2022) 「ボランティア元年っていつのこと」、東北大学災害科学国際研究所編『地球防災ラボ』、岩崎書店、160-161.	編集本(著者・Author)	2022	ゲルスタ、ユリア	単著	岩崎書店	なし	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	「災害デジタルアーカイブと防災教育の可能性: コロナ禍の中の日本の災害アーカイブ(IDA)ワークショップの3種類の事例」	学術雑誌	無	いいえ	『デジタルアーカイブ学会大会誌』2022年	6	3	190	193	20221125	ゲルスタ・ユリア, 柴山明寛, 森本涼, ゴードン・アンドルー, ポレュー・ベンメレン・セバスチャン	筆頭共著	国外
英語	BOOK REVIEW>Earthquake Children: Building Resilience from the Ruins of Tokyo, by Janet Borland	学術雑誌	無	はい	Japan Review Journal of the International Research Center for Japanese Studie	37		183	184	202212	Julia Gerster	単著	なし

学会発表

単名	5	筆頭連名	4	その他の連名	0	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会場のチエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国際	EuroSEAS	Louise Pichard-Bertaux	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	EHESS, Campus Condorcet, Paris-Aubervilliers	Paris	France	20220628	20220701	20220629	Ruptured lives and places: displacements after the Fukushima Nuclear Disaster	Gerster, Julia and Maly, Elizabeth	なし	
国内	日本災害復興学会 2022年度京都大会	高原耕平	単名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	京都	日本	20221001	20221002	20221001	震災遺構と呼ぶの	Gerster, Julia	国内	
国内	日本デジタルアーカイブ学会	Shunya Yoshimi	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	琉球大学	那覇	日本	20221125	20221127	20221125	災害デジタルアーカイブと防災教育の可能性: コロナ禍の中の日本の災害アーカイブ(IDA)ワークショップの3種類の事例	ゲルスタ・ユリア, 柴山明寛, 森本涼, ゴードン・アンドルー, ポレュー・ベンメレン・セバスチャン	国外	
国際	JICA 発表会	Hana Kobayashi	単名	はい	口頭(招待)	JOCA 東北	仙台	日本	20221205	20221205	20221205	Disaster Memory and Gender Issues. Examples from Japan	Gerster, Julia	なし	
国際	Asia Pacific Conference	Huong T. Bu	単名	いいえ	口頭(一般)	立命館Asia Pacific University	Beppu/Online	日本	20221203	20221204	20221204	Survivor accounts in tourism and their impact on disaster collective memory: The case of kataribe activities after the Great East Japan Earthquake.	Gerster, Julia	両方	
国際	Teaching the Japan Disasters Digital Archive: Perspectives from Japan	Andrew Gordon	筆頭連名	はい	口頭(招待)	Harvard University	Boston	USA	20221209	20221209	20221209	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11	Gerster, Julia and Maly, Elizabeth	両方	
国内	Opinion Exchange	Claire	単名	はい	口頭(招待)	Online	Online	日本	20230110	20230110	20230110	外国人と防災について	Gerster, Julia	国内	
国内	国際女性会議WAW/サドイベントジェンダー多様性の視点より災害を「伝える」フォーラム	Nao Sakaguchi, Julia Gerster, Sunhee Lee	筆頭連名	はい	口頭(Plenary)	Online	Online	日本	20230204	20230204	20230204	被災3県の災害伝承施設における展示物の総体的分析	Gerster, Julia, Sakaguchi, Nao, Lee, Sunhee, Ogawa, Mariko, Delaney, Alyne	国内	49
国際	2023 Osaka University-University of Melbourne Joint Research Workshop Women's and children's health and wellbeing following disaster. Toward a human-right-based recovering framework	Paola Cavaliere and Junko Otani	単名	はい	口頭(招待)	大阪大学/オンライン	大阪	日本	20230308	20230310	20230308	Representations of women's and children's experiences in disaster memorial museums in Japan. Towards more inclusive disaster cultural memory	Gerster, Julia	国外	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 7 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/主催人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	Iwate Prefecture	国際津波博物館のオンライン交流 ワークショップ	20221120	20221120	Iwate Tsunami Memorial Museum	Rikuzentakata	Japan		人文 社会系	Organizing Committee	IRIDeS共催	Iwate Prefecture	国内
2	国際	ワーク ショップ	Harvard University Reischauer Institute	Teaching the Japan Disasters Digital Archive: Perspectives from Japan	20221209	20221209	Harvard University Reischauer Institute	Boston	USA		人文 社会系	Organizing Committee	IRIDeS共催	Harvard University	両方
3	国際	ワーク ショップ	Kataribe World Network, LMU Munich University	Disaster Memory and Kataribe Workshop	20230117	20230117	オンライン/LMU Munich	Munich / Sendai	Germany/ Japan	30	人文 社会系	Organizing Committee, Co- Chair	なし	Kataribe World Network	両方
4	国際	講演会	IRIDeS	Disaster Mitigation in Australia. Opinion Exchange	20230125	20230125	IRIDeS	Sendai	Japan	8	人文 社会系	Organizer	なし	Lenn Morris	国内
5	国内	シンポジウム	Tohoku University, WAW	国際女性会議WAW!サイドイベント ジェンダー多様性の視点より災害を「伝える」フォーラム	20230204	20230204	Online	Online	Japan	49	人文 社会系	Organizing Committee, Co- Chair	IRIDeS協力	WAW	国内
6	国際	ワーク ショップ	Miwako Kitamura and Julia Gerster	Disaster Memory, Gender and Resilience Workshop	20230313	20230313	IRIDeS	Sendai	Japan	20	人文 社会系	Co-Organizer	IRIDeS協力		両方
7	国際	ワーク ショップ	Kataribe World Network	Kataribe Global Meeting	20230328	20230328	Online	Online	Japan, Germany	20	人文 社会系	運営副委員長	なし	Kataribe World Network	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

This year, I was in charge of the JDA Disaster Archives Lab Seminar in which two students participated. The students presented their findings at the "Teaching the Japan Disasters Digital Archive: Perspectives from Japan" Symposium at Harvard University. I further supported the "Fukushima Recovery and Revitalization" Omnibus seminar during the fall semester. In addition to my and other people's presentations, I was also in charge of grading final papers.

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	D-2 災害アーカイブラボ Disaster Archives Lab	東北大学	担当教員		D1		12
2	福島復興と再生	東北大学	指導教員	全学		後期	

D. 社会活動

社会活動の概要

I became a Sendai City Emergency Translation Volunteer and a Sendai City Gaikokujin Bosai Leader. Together with Sendai City, I am currently planning several activities to inform international students about disaster preparedness in Japan. I was further involved in several projects to enhance cultural exchange in Sendai City and the Tohoku region.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 3 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	CLAIR 自治体国 際化協会	自治体国際化フォーラム令和4年度 「多文化Opinion Exchange」災害時の外 国人支援～共助の担い手としての外国人 住民～	20230110	20230110	Online	Online	日本	発表者		なし	講演会
2	国際	主催:宮城県日台 親善協会、台湾国 立成功大学、台北 医学大学 協力:東北大学、 南三陸町、 Discover Taiwan表 行委員会、office PLAN B	仙台-台南文化・災害伝承イベント	20230215	20230216	仙台国際セン ター青葉の風 テラス	仙台市	日本	発表者		なし	ワークショップ
3	国際	仙台観光国際協会	G7 参加国について理解を深めよう。 G7関連イベント「G7参加国出身ゲスト のとおきのお話」ドイツの部	20230326	20230326	Online	Online	日本	発表者	50	なし	セミナー

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	公益財団法人 仙台観光国際協会 (SenTIA)		仙台市災害通訳ボランティア	20220000
2	民間・NPO	Kataribe World Network	Kataribe World Network Executive Board	運営副委員長	20230101
3	その他	公益財団法人 仙台観光国際協会 (SenTIA)		仙台市外国人防災リーダー	20230100

## 佐藤 大介 准教授

## SATO Daisuke

災害人文社会研究部門 歴史文化遺産保全学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	文学部	1996	4	東北大学大学院	文学研究科	2003	10	博士(文学)	2005	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	10	2006	3	東北大学大学院 文学研究科	COEフェロー
2	2006	4	2007	4	東北大学大学院 文学研究科	専門研究員
3	2006	7	2007	3	郡山女子大学 短期大学部	非常勤講師
4	2007	4	2012	3	東北学院大学 文学部	非常勤講師
5	2007	5	2010	3	東北大学東北アジア研究センター	教育研究支援者
6	2010	4	2012	3	東北大学東北アジア研究センター	助教
7	2012	4	2012	5	東北大学災害科学国際研究所	助教
8	2012	6	継続中		東北大学災害科学国際研究所	准教授
9	2013	4	継続中		東北大学大学院環境科学研究科	協力教員
10	2014	4	継続中		東北大学大学院文学研究科	兼務教員

## 学会活動

所属学会 (最大10まで)

	学会名 1	2	3	4	5	6
	東北史学会	日本史研究会	歴史学研究会	宮城歴史科学研究会	文化財保存修復学会	日本地球惑星科学連合

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北史学会		理事	20151000

## 研究分野・キーワード (最大5まで)

	専門分野 1	専門分野 2
	歴史学	史料保存学

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	埋蔵文化財調査室	運営委員会	委員	20140501
2	学術資源研究公開センター	運営専門委員会	委員	20140401
3	東北アジア研究センター寄附研究部門 上廣歴史資料科学研究部門		運営諮問委員	20140701
4	附属図書館	齋藤養之助家史料運用委員会	委員	20140701
5	附属図書館	古典籍活用小委員会	委員	20170701
6	歴史文化遺産ネットワーク事業東北大学拠点	実行委員会	委員長	20180401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

江戸時代に仙台藩領であった、陸奥国磐井郡藤沢本郷(岩手県一関市)の有力商家である丸吉(まるきち)皆川家の当主二代が書き継いだ、原本約2100頁の日記のうち、嘉永6年(1853)から明治6年(1873)の期間約900頁分、約36万文字を全文解読して、出版物および東北大学学術リポジトリでのPDF公開の形で公開した。これによって仙台藩領はもちろん、当時の日本列島の政治・社会・経済の状況を再生するとともに、自然災害に関する基礎的な情報を共有することができた。また東日本大震災で被災した歴史資料保全活動の現在地に関する文章を公表するとともに、2023年2月には歴史資料保全を災害支援として位置づける異議にっついで国際シンポジウムを開催した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1999	12	現在		旧仙台藩領 東北地方における実践を踏まえた歴史資料保全学の構築	国内
2	2000	8	現在		仙台藩領における地域リーダー層の社会活動の研究	両方
3	2007	4	現在		19世紀仙台藩領における災害と社会史 政治史の研究	両方
4	2012	10	現在		16～19世紀の歴史気候復元と社会的応答に関する研究	両方
5	2015	10	現在		心理社会的支援としての歴史資料保全活動の研究	国内
6	2019	4	現在		歴史学におけるデータインフラストラクチャー構築に関する研究	国内



論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	なし	いいえ	単行本(論文掲載)	無	はい	東日本大震災と歴史学－史料レスキューの現場から考える	佐藤大介	東北史講義 近世・近現代篇	37		223	241	20230307

著書(監修・編集・単著・共著)

単著		筆頭共著	1	共著		監修編集		合計	1	うち	国際		国内	1
----	--	------	---	----	--	------	--	----	---	----	----	--	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
2	日本語	丸吉皆川家日誌 幕末維新編	単行本	20230311	佐藤大介・青葉山古文書の会	筆頭共著	東北大学災害科学国際研究所	国内	200

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間	発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
1	国内	地域歴史文化大学フォーラム	奥村弘	単名	はい	口頭(一般)	オンライン			20220318 20220318	20220318	歴史文化遺産ネットワーク推進事業・東北大学拠点の活動と今後	佐藤大介		

C. 教育活動

教育活動の概要

環境科学研究科協力教員および文学部・文学研究科にて、災害時の歴史資料の救済・保全に関する現状の報告や、江戸時代の災害史そのたの歴史について講義した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	日本社会史論	東北大学	大学院環境科学研究科			後期	15
2	歴史資料保全学特論	東北大学	大学院文学研究科			前期	15
3	日本近世・近代史各論	東北大学	文学部		3	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークとの連携により、市民ボランティアによる東日本大震災、2019年台風19号、2021年2月13日および2022年3月16日地震で被災した宮城県や岩手県の被災史料を保全した。宮城県石巻市、松島町、白石市、岩手県一関市で、史料所蔵者からの依頼を受け、自治体と協力して、各地域の個人所蔵の歴史資料の保全を実施している。四民講演会についても実施している。

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	名取市	名取市史編さん委員会 近世支部会	部会長	20221201

## 川内 淳史 准教授

## KAWAUCHI Atsushi

災害人文社会研究部門 歴史文化遺産保全学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	都留文科大学	文学部	2004	3	上越教育大学	学校教育研究科	2006	3	修士(教育学)	2006	3
2					関西学院大学	文学研究科	2012	3	博士(歴史学)	2012	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	6	2012	3	伊丹市立博物館	震災資料調査員
2	2012	1	2012	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術推進研究員
3	2012	6	2013	3	伊丹市資料修史等専門委員会	調査員
4	2013	4	2015	3	大阪市史料調査会	調査員
5	2013	4	2018	9	関西学院大学	非常勤講師
6	2013	4	2018	9	神戸女学院大学	非常勤講師
7	2014	10	2015	3	神戸大学大学院 人文学研究科	学術研究院
8	2015	5	2018	9	神戸大学大学院 人文学研究科	特命講師
9	2018	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授
10	2021	4	現在		仙台白百合女子大学	非常勤講師
11	2022	4	現在		放送大学 宮城学習センター	客員准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本史研究会	大阪歴史学会	大阪歴史科学協議会	弘前大学国史研究会	北海道・東北史研究会

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	歴史学	日本近現代史	地域史	アーカイブズ学	資料保存論

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	歴史文化遺産保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点	実行委員会	委員	20181001

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

今年度の研究活動は、論文1(単著)、総説・解説1(単著)、学会発表2(単名)であった。東日本大震災を踏まえつつ、近年の災害を含めた大規模自然災害時における歴史資料保存のあり方について研究成果を公表するとともに、近代日本における新興感染症(インフルエンザ等)に関わる研究について成果を発表することができた。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	現在		大正～昭和期の地域医療・保健衛生に関する研究	なし
2	2004	4	現在		地域社会における国家主義思想に関する研究	なし
3	2006	4	現在		戦前～戦後期の国民健康保険と地域社会に関する研究	なし
4	2007	6	現在		大規模自然災害時における歴史資料保全に関する研究	国内
5	2010	6	現在		大規模自然災害時における災害アーカイブに関する研究	国内
6	2018	10	現在		歴史文化資料の保全に関する大学等ネットワーク構築に関する研究	国内
7	2019	4	現在		近現代日本における災害社会史に関する研究	両方
8	2020	4	現在		スペインインフルエンザ・パンデミックに関する地域社会史的研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	災害と「アーカイブ」-歴史資料の防災と災害記録の継承-	川内淳史	都市問題	113	4	63	74	20220400

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携
日本語	東日本大震災から10年目の資料保全-2019年台風19号とコロナ禍、「2つの災害」のなかで-	学術雑誌	無	はい	歴史評論	865		84	93	20220500	川内淳史	単著	国内

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	シンポジウム「近代日本の感染症と新型コロナ」		単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	オンライン	仙台	日本	20230218	20230218	20230218	近代日本における新興感染症の対応過程-1889ロシアかぜパンデミックから1918スペインかぜパンデミックまで	川内淳史	国内	160
国内	第28回日本災害医学会総会・学術集会	石井正、佐々木宏之	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	マリオス/アイーナ(オンライン)	盛岡	日本	20230309	20230311	20230309	なぜ「歴史」は救わなければならないか?	川内淳史	国内	50

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
国際	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所	文化遺産とレジリエンス-災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ-	20230212	20230212	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	30	人文社会系	運営	IRIDeS主催・共同主催	独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

今年度の教育活動としては、学内では全学教育「災害の科学(災害への対応)」および文学部の「人文社会序論(現代日本学入門)」を計3コマ担当し、大規模災害から地域の歴史文化遺産を救い、伝えるための「災害アーカイブ」に関する内容について講義した。また仙台白百合女子大学にて「日本史Ⅰ」および「日本史Ⅱ」の授業を、放送大学において面接授業「近代日本と「東北」」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	日本史Ⅰ	仙台白百合女子大学	全学		1	前期	15
2	日本史Ⅱ	仙台白百合女子大学	全学		1	前期	15
3	災害の科学(災害への対応)	東北大学	全学		1	後期	1
4	人文社会序論(現代日本学入門)	東北大学	文学部		1	前期	1
5	人文社会序論(現代日本学入門)	東北大学	文学部		1	後期	1
6	近代日本と「東北」	放送大学	全学		1	後期	8

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度は一般向けセミナー・講演等の運営を1件、メディア対応1件行った。このうち、東日本大震災の発生から時間が経過したことを受けて問題化しつつある、震災時にボランティアによって拾い集められた「思い出の品」の保管問題について『河北新報』紙上でコメントを行った。また仙台市が計画中の複合施設(音楽ホール+震災メモリアル施設)懇話会の委員を務め、施設のあり方について提言を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日							
国内	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク	NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク2021年度総会	20220612	20220612	オンライン	仙台市	日本	運営委員、事務局	30	なし	その他

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体 仙台市	国際センター-駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会	委員	20220901

## 邑本 俊亮 教授

### MURAMOTO Toshiaki

災害人文社会研究部門 認知科学研究分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	1984	3	北海道大学大学院	文学研究科	1992	3	博士(行動科学)	1996	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	6	1993	3	北星学園大学 文学部心理学研究室	非常勤助手
2	1993	4	1994	3	北海道大学 文学部	助手
3	1994	4	1996	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	講師
4	1996	4	2001	3	北海道教育大学 教育学部札幌校	助教授
5	2001	4	2010	12	東北大学 大学院情報科学研究科	助教授(2007~准教授)
6	2011	1	2012	3	東北大学 大学院情報科学研究科	教授
7	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本心理学会	日本教育心理学会	日本認知科学会	日本認知心理学会	日本基礎心理学会	日本読書学会	東北心理学会	日本公衆衛生学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本読書学会		理事・編集委員	20110401
2	日本心理学会		代議員	

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	認知心理学	言語心理学	教育心理学	学習科学

#### B. 研究活動

##### 研究活動の概要

大学生グループが企画した小学生と保護者を対象とする宇宙と防災をつなぐイベントを開催し、過去に類をみない防災イベントのプログラム事例を蓄積した。また、企画から開催までの大学生の心理の変遷について自己報告データを収集した。一方で、防災教育の専門家による小中学生を対象とする出前授業に関して、その効果の持続性と家庭への波及について詳細な分析を行った。人間の言語とコミュニケーションに関して、心理学的な観点からの解説と考察を一冊の著書にまとめ、刊行した。

##### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1984	4	現在		人間の言語理解に関する認知心理学的研究	
2	1996	4	現在		文章からの学習に関する教育心理学的研究	
3	2003	4	現在		大学教育における授業づくりと授業運営に関する実践的研究	
4	2006	4	2012	3	対人コミュニケーションにおける読解力に関する研究	
5	2006	10	2012	3	医療用文書のわかりやすさと安心感に関する研究	
6	2008	4	現在		災害時の人間の認知・判断・行動に関する研究	
7	2012	4	現在		災害体験談の認知科学的分析と防災教育への展開	
8	2019	4	現在		学び手が伝え手になる震災伝承・防災教育システムの構築	

##### 著書(監修・編集・単著・共著)

単著	1	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	言葉とコミュニケーションー心理学を日常に活かすー	単行本	20221101	邑本俊亮	単著	朝倉書店		800

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携		
1	日本語	認知心理学を学習・教育に生かす“理解”について理解しよう「忘れてもいいから勉強する」それが勉強攻略法	その他	無	いいえ	TOSHIN TIMES 大学学部研究会ダイジェスト号			154	155	20221200	邑本俊亮	単著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	8	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online and Sydney University	Online and Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	The possibility of geographic area and time distribution of DRR education to represent disaster collective memory: A time geographic study of newspapers in Japan.	Saito, R., Yasuda, M., Muramoto, T., Oda, T.	国内	
2	国内	防災教育学会第3回大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	神戸学院大学ポータルアイランドキャンパス	神戸	日本	20220619	20220619	20220619	防災教育の記憶と経験:東日本大震災を小学校時代に経験した大学生を対象として	齋藤玲・小田隆史・邑本俊亮	国内	
3	国内	日本教育心理学会第64回総会	渡辺弥生	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220810	20220910		小学校教員による東日本大震災に関する子どもたちに対するこころのケアと心理的配慮に関する予察的調査:2011年度から2021年度にかけての事例の収集	齋藤玲・保田真理・邑本俊亮	なし	
4	国内	日本心理学会第86回大会	坂上貴之	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	日本大学文理学部, WEB(ハイブリッド)	東京	日本	20220908	20220911	20220910	子どもが持つ震災の記憶と不安感:東日本大震災発生直時に0歳と1歳であった小学生を対象とする調査研究	齋藤玲・保田真理・池田和浩・邑本俊亮	国内	
5	国内	第41回日本自然災害学会学術講演会	里深好文	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学びわこくさつキャンパス	草津	日本	20220918	20220919	20220918	教員養成大学における防災教育授業が初年次生の防災教育に対する意識,利他態度,情報処理スタイルに及ぼす効果と個人差	齋藤玲・邑本俊亮・小田隆史	国内	
6	国内	東日本大震災・原子力災害第1回学術研究会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセふくしま	福島	日本	20230316	20230317	20230317	放射線教育とその研究の時間的減衰一文献レビューと齋藤・小田(2021)の追加分析一	齋藤玲・小田隆史・邑本俊亮・佐藤健	国内	
7	国内	言語処理学会第29回年次大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	沖縄コンベンションセンター	宜野湾	日本	20230313	20230317	20230316	震災アーカイブと震災アーカイブwebiに関する概念モデルの作成	齋藤玲・大内啓樹・羽島康裕・邑本俊亮・杉浦元亮・塩入諭・柴山明寛	国内	
8	国際	World BOSAI Forum 2023		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター展示棟	Sendai	Japan	20230310	20230312		BOSAI education in school lessons for understanding human behavior and cognition: Cocreating with schoolteachers and researchers (cognitive scientist) for digital transformation under COVID-19 pandemic	Saito, R., Sato, M., Aotani, A., Yoshida, H., Sato, D., Oda, T., Yasuda, M., Muramoto, T.	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

博士後期課程2名の博士学位論文の指導を行い、学位取得をサポートした。全学教育では、旧カリキュラム最後の心理学を担当した。他大学では、心理言語学、教育心理学特殊講義、コミュニケーション論など幅広い領域の教育を行っている。いずれも対面授業を基本としながら、オンラインでも学習可能なように工夫を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	心理学	東北大学	全学		2	3セメ	15
2	人文情報科学概論	東北大学	情報科学研究科	全専攻		前期	1
4	人間社会情報科学ゼミナール	東北大学	情報科学研究科	人間社会情報科学専攻		通年	60
3	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	看護学科	1	前期	15
4	コミュニケーション論	東北文化学園大学	医療福祉学部	リハビリテーション学科	1	前期	15
5	コミュニケーション論	東北文化学園大学	現代社会学部	現代社会学科	1	後期	15
6	心理言語学	北星学園大学	文学部	心理・応用コミュニケーション学科	2~4	前期	15
7	教育心理学特殊講義B	宮城教育大学	教育学部		2~4	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

認知心理学、コミュニケーション、および防災をテーマとする異なる内容・領域の講演活動を行った。東北文化学園大学の外部評価委員として、当大学および大学院の教育研究活動等の全般的な現状を把握し、将来の発展に資する事項の評価と教育研究活動等の向上に資する提言を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDEsの関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	sobolab(学生団体)	宇宙×防災でわくわくする世界を	20230305	20230305	東北大学大学院情報科学研究科	仙台市	日本	顧問	43	なし	ワークショップ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	2022年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講義	20220624	20220624	コミュニケーション・ファシリテーション	行政	宮城県看護協会	宮城県看護協会訪問看護総合センター	仙台市	日本	88
2	講演会	第34回東北CAE懇話会講演	講演	20221028	20221028	言葉とコミュニケーションの心理学	企業	東北CAE懇話会	エルパーク仙台(ハイブリッド)	仙台市	日本	20
3	公開講座	オンライン開放型講座 地域未来学 講師	講義	20221210	20221210	学び手が伝え手になる～持続可能な災害伝承に向けて～	企業	東北工業大学地域連携センター	東北工業大学よりオンライン配信	仙台市	日本	40
4	セミナー	第12回人にやさしい地下空間セミナー	講演	20230210	20230210	災害と心理	企業	公益社団法人土木学会地下空間研究委員会	TKP仙台西口ビジネスセンター会議室よりオンライン配信	仙台市	日本	200
5	公開講座	東北大学大学院情報科学研究科シンポジウム「情報科学」から「学び」を考える	講演	20230219	20230219	理解の認知プロセスと学びの支援	なし	東北大学大学院情報科学研究科	東北大学大学院情報科学研究科(ハイブリッド)	仙台市	日本	500
6	セミナー	令和4年度宮城県要約筆記者・要約筆記奉仕員現任研修	講義	20230304	20230304	要約で伝えるための心理学	行政	一般社団法人宮城県聴覚障害者福祉会	宮城県聴覚障害者情報センター 研修室(ハイブリッド)	仙台市	日本	20
7	講演会	令和4年度防災シンポジウム 第17回 災害に強いコミュニティのための市民フォーラム	基調講演	20230315	20230315	with コロナにおける災害への備え ～人間の心理と行動を学ぶ～	行政	仙台市	仙台国際センター 会議棟大ホール	仙台市	日本	100

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1 民間・NPO	東北文化学園大学	外部評価委員会	委員	20190000

# 杉浦 元亮 教授

## SUGIURA Motoaki

災害人文社会研究部門 認知科学研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1996	3	東北大学大学院	医学系研究科	2000	3	博士(医学)	2000	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2001	4	東北大学 加齢医学研究所	リサーチアシリエイト
2	2001	5	2001	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	リサーチアシリエイト
3	2001	10	2002	9	東北大学 未来科学技術共同研究センター	助手
4	2002	9	2004	8	ユーリヒ研究センター(ドイツ) 医学研究所	研究員(日本学術振興会 海外特別研究員)
5	2004	9	2006	9	宮城教育大学 教育学部	助教授
6	2006	10	2008	1	自然科学研究機構 生理学研究所	助教授
7	2008	2	2016	3	東北大学 加齢医学研究所	准教授
8	2012	4	2016	3	東北大学 災害科学国際研究所	准教授(兼務)
9	2016	4	現在		東北大学 加齢医学研究所・災害科学国際研究所(クロスアポイントメント)	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	Society for neuroscience	Organization for Human Brain Mapping	日本神経科学学会	日本心理学会	仏教看護・ビハラー学会

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	脳科学	認知神経科学	社会脳科学

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

No.	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学際科学国際高等研究センター運営審議会 運営専門委員会	委員	20210401
2	全学	附属図書館商議会		20220401
3	全学	令和4年度 安全保障輸出管理委員会 安全保障輸出管理アドバイザー	委員	20220401
4	全学	良陵同窓会幹事	委員	20210401
5	全学	未来社会健康デザインプロジェクト未来ビジョン策定委員会委員	委員	20210901
6	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会		20220401
7	全学	研究推進審議会	委員	20210401
8	全学	若手リーダー研究者海外派遣プログラム書類審査会	委員	00000000
9	全学	令和4年度 学術情報整備検討委員会委員	委員	20220401
10	全学	令和4年度 大学院合同運営委員会 研究科入試委員会	委員	20220401
11	加齢医学研究所	脳MRIセンター長	センター長	20200801
12	加齢医学研究所	総務・人事委員会	委員	20190401
13	加齢医学研究所	脳MRIセンター運営委員会	委員長	20200801
14	加齢医学研究所	共同利用・共同研究運営委員会	委員	20190401
15	加齢医学研究所	広報情報責任者(委員長代行)	主任	20190401
16	加齢医学研究所	出版委員会	委員	20190401
17	加齢医学研究所	ハラスメント相談員	相談員	20190401
18	加齢医学研究所	男女共同参画WG	委員	20190401
19	加齢医学研究所	安全保障輸出管理アドバイザー	責任者・代表者	20220401

B. 研究活動

研究活動の概要

心理・行動計測、機能的MRIを用いた脳機能計測等を用いた人間脳科学研究を多彩な分野に応用している。災害分野では2011年の東日本大震災の被災者を対象とした「災害を生きる力」の大規模質問紙調査の分析/論文化、生きる力8因子の脳基盤研究などを順調に続けている。査読付き国際誌に10報採択、英文教科書翻訳1件、学会報告国際4件、国内11件をおこなった。また学術論文英文3報が査読中である。それ以外にも生きる力8因子のコンセプトや研究方法論は加齢医学分野や社会認知神経科学分野、また産学連携共同研究など、多彩な波及効果を生み始めている。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1996	4	現在		人間脳科学(人間らしい精神と行動を実現する脳の仕組みを解明)	
2	2008	4	現在		加齢人間脳科学(人間らしい生き方、老い方、社会のあり方を脳科学的に提言し、超高齢社会におけるスマート・エイジングの技術を開発)	
3	2012	4	現在		災害人間脳科学(災害の様々な状況を生き抜く人間の力について脳科学的に解明し、新しい教育・災害対応プロトコルを提案)	

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	9	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

うち

国際査読有	11	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Intentional binding and self-transcendence: Searching for pro-survival behavior in sense-of-agency.	Keiyu Niikuni*, Miho Nakanishi, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Consciousness and Cognition	102			103351	20220520
英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Adaptability, supernaturalness, and the neurocognitive basis of the self-transcendence trait: Toward an integrated framework through disaster psychology and a self-agency model.	<u>Motoaki Sugiura</u> .	Frontiers in Behavioral Neuroscience	16			943809	20220818
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	The effect of action contingency on social perception is independent of person-like appearance and is related to deactivation of the frontal component of the self-agency network.	Yumi Hamamoto*, Yukiko Takahara, Kelsy Hitomi dos Santos Kawata, Tatsuo Kikuchi, Shinsuke Suzuki, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Scientific Reports	12			17326	20221015
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Does the eight-factor "power to live" in disaster exist since childhood?	Yutaka Matsuzaki*, Ryo Ishibashi, Mari Yasuda, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> , Akio Honda, Tsuneyuki Abe, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Frontiers in Public Health	10			1022939	20221212
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Facilitating animacy perception by manipulating stimuli exposure time.	Toshiki Saito*, Kosuke Motoki, Rui Nouchi, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Frontiers in Psychology	13			1017685	20230112
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Sincere praise and flattery: reward value and association with the praise-seeking trait.	Shotaro Fujiwara*†, Ryo Ishibashi †, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> , Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u> . (†: equal contribution)	Frontier in Human Neuroscience	17			985047	20230215
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Neural mechanisms of perceptual and affective body-image disturbance during own-body and ideal-body estimation.	Yumi Hamamoto*, Shinsuke Suzuki, Kosuke Motoki, Kentaro Oba, Ryuta Kawashima, <u>Motoaki Sugiura</u> .	Behavioural Brain Research	444			114349	20230221
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Automatic adaptive emotion regulation is associated with lower emotion-related activation in the frontoparietal cortex and other cortical regions with multi-compartmental organization.	<u>Motoaki Sugiura</u> , Yoko Katayori, Tomohiko Muratsubaki, Miyuki Shiratori, Sugiko Hanawa, Keyvan Kashkoulil Nejad, Daisaku Tamura, Ryuta Kawashima, Shin Fukudo.	Frontiers in Behavioral Neuroscience	17			1059158	20230306
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Why people hesitate to help: Neural correlates of the counter-dynamics of altruistic helping and individual differences in daily helping tendencies.	Vidya Gani Wijaya, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, <u>Motoaki Sugiura</u> *.	Frontiers in Psychology	14			1080376	20230314
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Personality Traits and Types of Housing Recovery after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami.	Akio Honda*, <u>Shosuke Sato</u> , <u>Motoaki Sugiura</u> , Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura.	Sustainability	15	7		5679	20230324
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Neural Correlates Predicting Lane-Keeping and Hazard Detection: An fMRI Study Featuring a Pedestrian-Rich Simulator Environment.	Kentaro Oba, Koji Hamada, <u>Azumi Tanabe-Ishibashi</u> , Fumihiko Murase, Masaaki Hirose, Ryuta Kawashima & <u>Motoaki Sugiura</u> .	Frontiers in Human Neuroscience	16			754379	20220501

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	1	筆頭共著	0	0	0	監修編集	0	合計	1
----	---	------	---	---	---	------	---	----	---

うち

国際	0	国内	1
----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	カンデル神経科学 第2版 (原著タイトル: Principles of Neural Science, 6th Edition)	教科書	20220928	杉浦元亮 第42章「情動」(日本語訳担当) 原著者: Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum 日本語版監修: 宮下保司(東京大学名誉教授) / 監訳: 岡野栄之・神谷之康・合田裕紀子・加藤総夫・藤田一郎・伊佐正・定藤規弘・大隅典子・井ノ口馨・笠井清登	単著	株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル	国内	



学会発表

単名	6	筆頭連名	0	その他の連名	9	合計	15
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内 国際	会議名称	会議の チュエ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	第2回加齢研究交流セミナー	研究員会・研究発表セミナー 一係 家村 頼自 (分子腫瘍学 研究分野)	単名	はい	口頭 (招待)	東北大学	仙台	日本	20221006	20221006	20221006	2つの適応的感情制御方略:その矛盾に災害・ 脳研究から迫る	杉浦元亮	なし	50
2	国内	2022年度生理研究会 第12回社会神経科学研 究会	提案代表者: 松田哲也(玉 川大学脳科学 研究部) 対応者: 定藤規弘(自 然科学研究機 構生理学研究 所)	単名	はい	口頭 (招待)	生理学研 究所	岡崎市	日本	20221027	20221028	20221027	生きる力としての社会性	杉浦元亮	なし	不明? 100名?
3	国内	2022年度日本認知心理 学会第20回大会	大会委員長 松本絵理子 (神戸大学) 小川洋和(関 西学院大学)	その他の 連名	いいえ	ポスター (一般)	神戸大学 六甲台第 2キャンパ ス	神戸市	日本	20221015	20221016	20221015	(英語発表) Power of words: Categorization of positive phrases and their effectiveness associated with personality, well-being and distress ポジティブな言葉の分類とその効果の人格特 性・精神状態との関係	石橋 遼, Eisenman- Shoda Aki, 杉浦 元亮, 野 澤 孝之, 川島 隆太	両方	300
4	国内	2022年度日本認知心理 学会第20回大会	大会委員長 松本絵理子 (神戸大学) 小川洋和 (関西学院大 学)	その他の 連名	いいえ	ポスター (一般)	神戸大学 六甲台第 2キャンパ ス	神戸市	日本	20221015	20221016	20221016	(日本語発表) 高齢者の自動車安全運転を維持する注意の 代償性脳活動 Compensatory neural mechanism of the elderly for attentional reorientation in driving	石橋(田邊) 亜澄, 越智 光, 田中 君明, 杉浦 元 亮	国内	300
5	国内	電子情報通信学会 ヒューマン情報処理研究 会(HIP)	和田 有史 (立命館大)	単名	はい	口頭 (招待)	東北大学 電気通信 研究所	仙台	日本	20221222	20221223	20221222	運動感覚統合と自己超越 ~ 認知神経科学的 が繋ぐ災害研究と生涯学 ~	杉浦元亮	なし	
6	国際	CCM Research Seminar	Kaska Porayska- Pomsta(UCL)	単名	はい	口頭 (招待)	UCL	London	UK	20221117	20221117	20221117	Towards Interdisciplinary Cognitive Neuroscience.	Motoaki Sugiura	なし	
7	国際	Congress 2022 "The Structure of Credition, Methods, methodology and assessment"	Prof. Dr. Hans- Ferdinand	単名	はい	口頭 (招待)	FRANCIS CAN FRIARY	GRAZ	Austria	20221123	20221126	20221124	Questionnaire for power to live with disasters: from social survey to neuroimaging.	Motoaki Sugiura	なし	
8	国際	Society for Neuroscience 2022	Gina Turrigiano	その他の 連名	いいえ	ポスター (一般)	San Diego Conventio n Center	San Diego	USA	20221112	20221116	20221115	Mirror exposure intervention improved an activation in the left superior parietal lobe: preliminary results from a randomized controlled trial.	Yumi Hamamoto, Kentaro Oba, Ryo Ishibashi, Yi Ding, Rui Nouchi, Motoaki Sugiura	国内	30,000
9	国内	ヨッタインフォマティクス研 究センター研究会		その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	オンライン	オンライン	日本	20221206	20221206	20221206	デジタル時代における災害科学の共創:災害・ 防災教育の新展開	齋藤 遼, 羽鳥康裕, 柴山 明寛, 杉浦元亮, 塩入 諭	国内	
10	国内	Symposium of Yotta Informatics - Research Platform for Yotta-Scale Data Science 2023		その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	Research Institute of Electrical Communication Tohoku University	Sendai (Hybrid)	Japan	20230309	20230310	20230309	It's not too late to collect experiences both during and after the 311 (the Great East Japan Earthquake): Future directions of disaster archive for future memory.	Ryo Saito, Akihiro Shibayama, Koji Etchu, Yasuhiro Hatori, Hiroki Ouchi, Kazuhiro Ikeda, Mari Yasuda, Mari Hasegawa, Toshiaki Muramoto, Motoaki Sugiura, Satoshi Shioiri.	国内	
11	国内	「災害の軽減に貢献する ための地震火山観測研 究計画(第2次)」令和4年 度成果報告シンポジウム		単名	はい	口頭 (招待)	オンライン	オンライン	日本	20230308	20230308	20230308	災害に関わる個人の心理・行動特性とその評 価・活用・調整に関わる研究	杉浦元亮	なし	
12	国内	World BOSAI Forum (Session 2: World-Class Disaster Science Research for Disaster Reduction)	小野裕一	その他の 連名	はい	口頭 (招待)	Sendai Internatio nal Center	Sendai	Japan	20230310	20230312	20230310	Neuro cognitive demands of foreign language communication in disaster situations.	Andrea Révész, Hyeonjeong Jeong, Shungo Suzuki, Haining Cui, Shunsui Matsuura, Kazuya Saito, Motoaki Sugiura.	両方	4500
13	国内	第6回日本リハビリテー ション医学会秋季学術集 会	千田益生	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	岡山コン ベンション センター	岡山市	日本	20221104	20221106	20221105	上肢単関節運動の運動感覚情報と視覚情報 を扱うワーキングメモリに関する脳部位の検 討	田中尚文, 石橋 遼, 田邊 亜澄, 杉浦元亮	国内	
14	国内	言語処理学会第29回年 次大会(NLP2023)	乾 健太郎	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	沖繩コン ベンション センター	沖繩県宜 野湾市	日本	20230313	20230317	20230316	震災アーカイブと震災アーカイブwebiに関する 概念モデルの作成	齋藤 遼, 大内啓樹, 羽鳥 康裕, 邑本俊亮, 杉浦元 亮, 塩入諭, 柴山明寛	国内	
15	国際	American Association for Applied Linguistics 2023 Conference	Lourdes Ortega	その他の 連名	はい	口頭(Plenary)	Portland Marriott Downtown Waterfront	Portland	USA	20230317	20230322	20230319	Investigating the neural correlates of task complexity during L1 and L2 speech production.	Hyeonjeong Jeong, Andrea Revez, Shungo Suzuki, Haining Cui, Shunsui Matsuura, Kazuya Saito, Motoaki Sugiura.	両方	2000

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (※外賓人)	分野	担当	IRIDesの 関与	共催機関名	所外 連携
				開始年月	終了年月									
1	国際	Dept. Human Brain Science, IDAC, Tohoku University	the 16th Human Brain Science Seminar Second language acquisition and predictive coding	20221216	20221216	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (20)	人文社会 系	企画代表者, 司会者	なし		国内
2	国際	Dept. Human Brain Science, IDAC, Tohoku University	the 17th Human Brain Science Seminar Emergency Response Communication in a Foreign Language	20230310	20230310	Tohoku University	Sendai	Japan	50 (20)	人文社会 系	企画代表者, 司会者	なし		国内

C. 教育活動

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・学期	コマ数 90分/1コマ
1	エイジングを科学する	東北大学	全学	全学教育科目	1	前期	1
2	神経ブロック講義	東北大学	医学部	医学部4年次「神経ブロック」講義	4	通年	1
3	災害の科学：災害への対応	東北大学	全学	全学教育科目	1	後期	1

D. 社会活動

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	スマート・エイジング・カレッジ東京(コースII質疑セッション)	講義	20220920	20220920	人間の心と行動の不思議 その裏側を脳機能イメージングでひも解く	企業	東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京	オンライン		日本	20
2	講演会	宮城県スポーツ医学懇話会(会長 東北大学運動学分野 永富 良一先生)シンポジウムワークショップ	基調講演	20220924	20220924	モチベーションを刺激する脳科学	企業	共催:宮城県スポーツ医学懇話会/大正製薬株式会社	TKPガーデンシアター仙台西口PREMIUM	仙台市	日本	20

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市	仙台市教育委員会	学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト 委員	00000000

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 11 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	日本コルマー株式会社	中井 隆人	20221018	その他	Web会議	Web会議	その他	2
2	日本学術会議(地方学術会議「日本学術会議in宮城」幹事会懇談会)	幹事会構成員、地方学術会議委員会委員、東北地区会議構成員、東北地区産学関係者	20221105	会議	東北大学片平キャンパス(オンラインとのハイブリット開催)	仙台市	その他	30
3	群馬大学	豊村	20220526	共同研究	Web会議	Web会議	その他	
4	群馬大学	豊村	20220526	共同研究	テストラン	仙台市	その他	
5	日本テレビ放送網株式会社	(株)ザ・ワークス AD 菅瑠梨	20230220	その他	「カズレーザーと学ぶ。」打ち合わせ	Web会議	その他	
6	帝京大	田中尚文、他	20220407	共同研究	運動WM-fMRI 分析・追加実験議論	Web会議		
7	セコム		20220502	共同研究	セコムPJ会議	Web会議		
8	セコム		20230323	共同研究	高知県庁でのセコム成果説明	高知市	その他	
9	アルプスアルパイン		20221128	共同研究	いわき実験	Web会議		
10	アルプスアルパイン		20230126	共同研究	打ち合わせ	Web会議		
11	アルプスアルパイン		20230320	共同研究	打ち合わせ	仙台市		

# 齋藤 玲 助教

SAITO Ryo

災害人文社会研究部門 認知科学研究分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	宮城教育大学	教育学部	2012	3	東北大学	大学院情報科学研究科	2019	3	博士(情報科学)	2019	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	2019	9	東北大学 大学院情報科学研究科	学術研究員
2	2019	10	2022	3	宮城教育大学 防災教育研修機構(311いのちを守る教育研修機構)	特任助教
3	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 認知科学研究分野	助教
4	2022	11	現在		東北大学 ヨットインフォマティクス研究センター	兼務

## 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
Psychonomic Society	日本自然災害学会	防災教育学会	日本心理学会	日本教育心理学会	日本教育工学会	日本読書学会	全国英語教育学会	東北英語教育学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	東北英語教育学会	編集委員会	編集委員	20220000

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
認知科学	心理学	教育実践学	防災教育学	災害科学

## B. 研究活動

研究活動の概要

着任一年目はあつという間であった。専門とする認知科学と心理学、防災教育学をベースとする研究活動に従事した。研究成果として、研究論文・図書(9本)と、学会・研究会等発表(18件)、受賞(3件)があった。アウトリーチ活動として、防災出前授業(防災共創授業)を開始した。さらに、今年度の成果には十分に反映できなかったが、自然言語処理学(人工知能学の下位分野)や認知神経科学(いわゆるブレインサイエンス)に関する研究に着手した。加えて、仙台市やトヨタ自動車との共同研究を進めている。次年度は、今年度の発表したものの論文化、並びに新たに着手した研究の実施と学会・研究会等発表、論文化を実現する。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	9	現在		学校防災教育の実態調査と効果検証	国内
2	2021	4	現在		東日本大震災の記憶に関する研究	国内
3	2021	4	現在		東日本大震災に関する学校における心理的配慮と心のケアに関する研究	国内
4	2022	4	現在		震災アーカイブの検索システムに関する研究	国内
5	2022	4	現在		震災アーカイブの効果検証とメカニズム解明に関する研究	国内
6	2022	4	現在		防災共創授業の開発と効果検証に関する研究	国内
7	2023	1	現在		小型モビリティと避難・防災に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	6	合計	9	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	7	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	第二言語ライティングにおける書記訂正フィードバックとその振り返り、書き直しに関する態度と行動:認知モデルの提案と予備的調査の報告	齋藤玲, 鈴木渉	東北英語教育学会研究紀要	42	1	49	64	0000
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災被災三県沿岸地域小中学校における震災学習の違い、県間と学校種間の比較を通して	齋藤玲, 昆本俊亮, 小田隆史	防災教育学研究					0000
英語	筆頭共著	国内	はい	国際会議Proceedings	有	いいえ	The Possibility of Geographic Area and Time Distribution of DRR Education to Represent Disaster Collective Memory: A Time Geographic Study of Newspapers in Japan	Saito, R., Yasuda, M., Muramoto, T., Oda, T.	AIWEST-DR2022					0000

4	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Characteristics and Cognitive Processes of Teachers' Test Scoring in Japanese Elementary and Secondary Education	Nakagawa, S, Saito, R, Itagaki, S, Yamamoto, T, Sato, K, Horita, T	International Journal of Learning Technologies and Learning Environments	5	1			20221216
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	大学生のSDGs教育のためのワークショップのデザインと評価	後藤心平, 齋藤玲, 堀田龍也	日本教育工学会論文誌	46		33	36	0000
6	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	高校数学における個人特性とCBTパフォーマンスに関する試行的検討—数学のエンゲージメントに基づいたケースの分析—	阿部文男, 長濱澄, 川田拓, 齋藤玲, 堀田龍也	日本教育工学会論文誌	46		205	208	0000
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	初等中等教育における筆答テスト採点支援システムの作業面と学習指導面の特性	中川哲, 齋藤玲, 板垣翔大, 佐藤和紀, 堀田龍也	日本教育工学会論文誌	47		141	156	0000
8	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中学生の英語語彙サイズと語彙学習方略との関連: 語彙学習方略の組み合わせの観点から	寺嶋敬汰, 齋藤玲, 越中康治, 鈴木涉	宮城教育大学教職大学院紀要					0000
9	英語	共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	DRR Delivery Lessons not only for Children but also Teachers: A Motivational Typology of Schools in DRR Education and Beyond	Yasuda, M, Saito, R, Muramoto, T	AIWEST-DR2022					0000

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	1	共著	1	監修編集	0	合計	2	うち	国際	2	国内	0
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	The Possibility of Geographic Area and Time Distribution of DRR Education to Represent Disaster Collective Memory: A Time Geographic Study of Newspapers in Japan	その他	0000	Saito, R, Yasuda, M, Muramoto, T, Oda, T	筆頭共著	Springer Nature	国内	
英語	DRR Delivery Lessons not only for Children but also Teachers: A Motivational Typology of Schools in DRR Education and Beyond	その他	0000	Yasuda, M, Saito, R, Muramoto, T	共著	Springer Nature	なし	

学会発表

単名	0	筆頭連名	10	その他の連名	8	合計	18
----	---	------	----	--------	---	----	----

国内国際	会題名称	会議のチュア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原題)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	防災教育学会第3回大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	神戸学院大学	兵庫	日本	20220619	20220619	20220619	防災教育の記憶と経験:東日本大震災を小学校時代に経験した大学生を対象として	齋藤玲, 小田隆史, 邑本俊亮	国内	
国内	日本教育心理学会第64回(2022年)総会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220810	20220910		中学生の語彙サイズに及ぼす語彙学習方略の影響	寺嶋敬汰, 齋藤玲, 鈴木涉, 越中康治	国内	
国内	日本教育心理学会第64回(2022年)総会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220810	20220910		小学校教員による東日本大震災に関する子どもたちに対するこのころのケアと心理的配慮に関する予察的調査:2011年度から2021年度にかけての事例の収集	齋藤玲, 保田真理, 邑本俊亮	なし	
国内	全国英語教育学会第47回研究大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220806	20220807	20220806	L2ライティング学習における態度の個人差—認知モデルの提案と調査報告—	齋藤玲, 鈴木涉	国内	
国内	日本心理学会第86回大会		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	日本大学	東京	日本	20220908	20220911	20220910	子どもが持つ震災の記憶と不安感:東日本大震災発生直時に0歳と1歳であった小学生を対象とする調査研究	齋藤玲, 保田真理, 池田和浩, 邑本俊亮	国内	
国内	日本心理学会第86回大会		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	日本大学	東京	日本	20220908	20220911	20220910	児童の道徳的罪悪感の発達と社会的行動の関係:罪悪感喚起場面における感情推測からの検討	長谷川真里, 越中康治, 齋藤玲	国内	
国内	第41回日本自然災害学会学術講演会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学	滋賀	日本	20220918	20220919	20220918	教員養成大学における防災教育授業が初年次生の防災教育に対する意識, 利他態度, 情報処理スタイルに及ぼす効果と個人差	齋藤玲, 邑本俊亮, 小田隆史	国内	
国内	第66回日本読書学会大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220919	20220919	20220919	教科書におけるQRコードの利用に関する実態	登本洋子, 齋藤玲, 堀田龍也	国内	
国内	2022年社会情報学会学会大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20220902	20220903	20220903	スマホアプリを活用した地域活性化のためのデータ活用と効果検証:石巻市を事例として	三浦勇太, 齋藤玲, 高橋華英, 大和友大郎	国内	
国内	第9回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20221122	20221122	20221122	震災と学校:震災記憶, 不安, 心理的配慮とこのケアに関する研究展望	齋藤玲, 越中康治, 池田和浩, 保田真理, 長谷川真里, 邑本俊亮	国内	
国内	ヨッタインフォーマティクス研究センター研究会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20221206	20221206	20221206	デジタル時代における災害科学の共創:災害防災教育の新展開	齋藤玲, 羽鳥康裕, 柴山明寛, 杉浦元亮, 堀入論	国内	
国内	東日本大震災・原子力災害第1回学術研究会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセ福島	福島	日本	20230316	20230317	20230317	放射線教育とその研究の時空間減衰 — 文献レビューと齋藤・小田(2021)の追加分析—	齋藤玲, 小田隆史, 邑本俊亮, 佐藤健	国内	
国内	日本教育工学会2023年春大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東京学芸大学	東京	日本	20230325	20230326	20230325	CBTのためのPCタブレットによる数式入力法の高等学校数学における使用可能性の実践を通じた検討	阿部文男, 川田拓, 長濱澄, 齋藤玲, 堀田龍也	国内	
国内	言語処理学会第29回年次大会(NLP2023)		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	沖縄コンベンションセンター	沖縄	日本	20230313	20230317	20230316	震災アーカイブと震災アーカイブwebに関する概念モデルの作成	齋藤玲, 大内啓樹, 羽鳥康裕, 邑本俊亮, 杉浦元亮, 堀入論, 柴山明寛	国内	
国際	World BOSAI Forum 2023(WBF2023)		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312		Disaster prevention workshop in collaboration between two newspaper companies and university students: Sharing and learning from each other's experiences of the Great East Japan Earthquake	Goto, S., & Saito, R.	国内	

16	国際	World BOSAI Forum 2023 (WBF2023)		筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312		BOSAI education in school lessons for understanding human behavior and cognition: Cocreating with schoolteachers and researchers (cognitive scientist) for digital transformation under COVID-19 pandemic	Ryo Saito, Masatoshi Sato, Akihiro Aotani, Hiroki Yoshida, Dai Sato, Takashi Oda, Mari Yasuda, Toshiaki Muramoto	国内
17	国際	Symposium of Yotta Informatics - Research Platform for Yotta-Scale Data Science		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学	仙台	日本	20230309	20230310	20230309	It's not too late to collect experiences both during and after the 311 (the Great East Japan Earthquake): Future directions of disaster archive for future memory	Ryo Saito, Akihiro Shibayama, Koji Etschu, Yasuhiro Hatori, Hiroki Ouchi, Kazuhiro Ikeda, Mari Yasuda, Mari Hasegawa, Toshiaki Muramoto, Motoaki Sugiura, Satoshi Shioiri	国内
18	国内	日本教育メディア学会 2022年度第2回研究会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	広島経済大学	広島	日本	20230318	20230318	20230318	取材と記事執筆によるメディア制作活動が大學生のメディア特性の理解を促す効果の検討	後藤心平, 齋藤玲, 堀田龍也	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	日本発達心理学会	アジアから発信する心理学	20221217	20221217	オンライン	オンライン	オンライン		人文社会系	司会、企画	なし		国内
2	国内	セミナー	災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会	第1回 災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会	20230106	20230106	東北大学	仙台	日本	3	人文社会系	司会、登壇者、企画	なし		国内
3	国内	セミナー	災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会	第2回 災害科学×自然言語処理学×認知科学研究会	20230322	20230322	東北大学	仙台	日本	4	人文社会系	司会、登壇者、企画	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

島本教授が担当する学生を指導した。保田真理さんの博士論文では、研究計画から統計分析、論文執筆までを行った。佐藤睦さんにおいては、眼球運動測定装置実験の計画から実施、統計解析、論文執筆指導までを実施した。中川哲さんでは、統計分析と論文執筆指導までを行った。また前職の宮城教育大学の学生への指導も実施した。次年度は、所内の学生の指導を許していただけるならば、ご依頼があれば、積極的に関わってきたい。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	データ科学・AI倫理	東北大学	全学			後期	2
2	国語学講義B	宮城教育大学	教育学部			後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

今年度から防災出前授業(防災共創授業:研究者と学校教員、子どもたちと創り上げる防災出前授業)を企画し、今年度はそのキックオフとして岩手県(岩泉小学校)と仙台市(錦ヶ丘小学校)にて授業を実施した。また、共同実践者・研究者を広島経済大学の大学教員と連携し、当該教員に広島県(広島大学附属東雲中学校)にて授業を実施いただいた。次年度は、既に岩手県での実施が決定しており、多くの学校での実施を計画している。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	岩手県岩泉小学校「防災出前授業(防災共創授業)」	出前授業	20221101	20221101	わたしたちのせかいの見え方・考え方を理解しよう	小中高	岩手県岩泉小学校	岩泉小学校	岩手県	日本	20
2	小中高との連携	仙台市錦ヶ丘小学校「防災出前授業(防災共創授業)」	出前授業	20230209	20230210	私たち人間の世界の見え方・考え方を理解しよう	小中高	仙台市錦ヶ丘小学校	錦ヶ丘小学校	仙台市	日本	160

# 村尾 修 教授

## MURAO Osamu

災害人文社会研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	横浜国立大学	工学部	1989	3	横浜国立大学大学院	工学研究科	1992	3	博士（工学）（東京大学）	1999	12

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1996	11	(株) 防災都市計画研究所	研究員
2	1996	11	2000	11	東京大学生産技術研究所	助手
3	2000	12	2005	12	筑波大学 社会工学系（大学院 システム情報工学研究科）	講師
4	2005	12	2013	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	助教授・准教授
5	2013	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本建築学会	日本都市計画学会	地域安全学会	日本自然災害学会	日本地震工学会	Earthquake Engineering Research Institute

##### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員長	20150700
2	地域安全学会	理事会	代表理事（会長）	20200620
3	Asian Conference Earthquake Engineering	Committee	Steering Committee	20180400
4	The Association of Pacific Rim Unibersities (APRU)	Multi-Hazards Program	Chair	20180400
5	Progress in Disaster Science	Editorial Board	Editorial Board Member	20190000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	都市防災	都市復興	都市の脆弱性評価

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学部・工学研究科	安全保障輸出管理委員会	委員	20220401
2	工学部・工学研究科	オープンキャンパス実施委員会	委員	20210401
3	工学部・工学研究科 人間・環境系	学部入試委員会（広報・公開兼担、オープンキャンパス、出前授業）	委員長	20210401
4	全学	災害科学・安全学国際共同大学院運営委員会	委員	20180000
5	全学	科研費アドバイザー	アドバイザー	20180901
6	全学	学務審議会	委員	20220401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

(1)主に東日本大震災における調査・研究に基づき復興の取り組みを記録した震災データベース「災害対応の都市・建築空間」を拡充、国際学会において紹介した。また、ユーザーマニュアルを作成しインターネット上で公開した。(2) Arc-DR3のコアメンバーとして、災害リスク軽減とレジリエンスのための建築と都市デザインに携わった。また、災害に対応する都市・建築空間の提案や国内外における展覧会に携わった。(3)日本における避難所運営改善を目指し、新しい避難所モデルの構築に取り組んだ。(4)東日本大震災復興市街地における計画人口に対する居住人口の比較分析を行った。(5)周辺市街地環境の変化を考慮した東京都墨田区白鬚東地区防災拠点再開発事業の検証を行った。(6)東日本大震災復興事業データに基づく事前高台移転の有益性に関する比較研究を行った。(7)環境省事業「回復性ある気候変動適応策デザイン戦略会議」の委員として、レジリエントな社会デザインを提案する取り組みを行った。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	2023	3	東日本大震災復興の検証と自然災害リスクを考慮した21世紀の都市誘導施策	国内
2	2019	10	2023	3	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR3 Initiative)	両方
3	2019	12	現在		災害対応空間の設営・運営に関する研究	両方
4	2022	12	2023	3	回復性ある気候変動適応策デザイン戦略に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	8	合計	10	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災前後の名取市閑上地区における居住環境評価アンケート結果報告	加藤春奈, 村尾修	地域安全学会梗概集		50	125	128	20220500
2	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災復興事業に基づく津波被災前の高台移転による被害軽減効果ー宮城県女川町をケーススタディとしてー	東野幹久, 村尾修	地域安全学会梗概集		50	129	132	20220500
3	日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	500mメッシュ地理空間情報を用いた21世紀日本全土の居住地災害リスク	藤原叶多, 村尾修	地域安全学会梗概集		50	11	14	20220500
4	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災後の名取市閑上地区における新規居住世帯の居住環境評価	加藤春奈, 村尾修	地域安全学会東日本大震災特別論文集		11	9	12	20220800
5	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地理空間情報を用いた21世紀日本全土の居住地災害リスクの定量的分析	藤原叶多, 村尾修	2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集			609	610	20220900
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Application of Open Data in Disaster Risk Research: A Preliminary Review Using Bibliometric Analysis	Jingyi Gao, Wei Chen, and Osamu Murao	Journal of Disaster Research	17	6	1090	1100	20221000
7	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災復興市街地における計画人口に対する居住人口の比較分析	加藤春奈, 村尾修	地域安全学会論文集		41	187	196	20221000
8	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	周辺市街地環境の変化を考慮した白鬮東地区防災拠点再開発事業の検証	村尾修, 北澤岳	都市計画論文集	57	3	964	971	20221025
9	英語	共著	国内	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Distribution and Development Process of Slum Districts in Yangon	Osamu Murao, Hiroto Yamada, Tomohiro Tanaka	Proceedings of the 1st International Symposium on One Health, One World 2022			sciforum-066882 (online)	sciforum-066882 (online)	20221116
10	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Identifying Evacuation and Resource Requirements Based on Volunteered Geographic Information: A Case of the Rainstorm in July 2021, Zhengzhou, China	Jingyi Gao, Osamu Murao, Xuanda Pei, Yitong Dong.	Journal of Environmental Research and Public Health	19	23	16051-1	16051-21	20221130

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	2	合計	5	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	I7WCCEのロゴデザイン	その他	無	いいえ	日本地震工学会ニューズレター	11	1	12	13	20220400	村尾修	単著	なし
2	英語	Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction	その他	無	いいえ	FIRECITY FIRELAND -towards a regenerative urbanism-			50	51	20220900	Osamu Murao, et al.	共著	両方
3	日本語	建物についての資料	その他	無	いいえ	災害科学国際研究所設立10周年記念誌			56	59	20221004	村尾修, 榎田竜太	筆頭共著	なし
4	日本語	令和4年度東北大学オープンキャンパスin工学部	その他	無	いいえ	青葉工業会報	66	8	11	20221210	村尾修ほか	共著	国内	
5	日本語	オープンキャンパス2022開催報告	その他	無	いいえ	社春会ミニ通信	84	3	4	20221200	村尾修	単著	なし	

学会発表

単名	1	筆頭連名	3	その他の連名	0	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	World Multidisciplinary Civil Engineering - Architecture - Urban Planning Symposium (WMCAUS 2022)	Isik YILMAZ	筆頭 連名	はい	口頭 (招待)	Hotel DUO /online	Prague	Czech Republic	20220905	20220909	20220907	Introduction of Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction Database about the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	<u>Osamu Murao</u> , Haruna Kato, Kazuya Sugiyasu	国内	200
2	国内	2022年度日本都市計画学会全国大会論文発表会	森本 章倫	筆頭 連名	いいえ	口頭 (一般)	宇都宮大 学/online	宇都宮市	日本	20221202	20221204	20221203	周辺市街地環境の変化を考慮した白鬮東地区防災拠点再開発事業の検証	<u>村尾修</u> , 北澤岳	国内	200
3	国際	The 17th APRU Multi-hazards Symposium 2022 (APRU-MH 2022)	Supot Teachavoras inskun	単名	はい	口頭 (招待)	Mandarin Hotel /online	Bangkok	Thailand	20221129	20221130	20221129	Report on Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction about the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	<u>Osamu Murao</u>	なし	100
4	国際	The 1st International Symposium on One Health, One World 2022 (OHOW 2022)	Pennung Warnitchai/ Wataru Takeuchi	筆頭 連名	いいえ	口頭 (一般)	Amari Hotel	Pattaya	Thailand	20221208	20221210	20221209	Distribution and Development Process of Slum Districts in Yangon	<u>Osamu Murao</u> , Hiroto Yamada, Tomohiro Tanaka	なし	100

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1 件
----	-----

	国内 国際	種別	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	一般社団法人地 域安全学会	東日本大震災連続ワーク ショップ2022 in 名取	20220805	20220806	名取市関上公民館	名取市	日本	40 (2)	工学	議長・企 画・運営	IRIDeS共催	地域安全学会	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

教務委員会副委員長として、国際共同大学院「災害科学・安全学」の基幹発展科目である発展講義を担当し、東日本大震災被災地(南三陸町・石巻市)への巡検を実施した。工学部では兼務教員として、オープンキャンパス実施委員(建築系)を務め、社会・環境工学科のライブイベントを実施した。また、専門教育科目「防災・復興空間論」および「創造工学研修」の講義を行った。工学研究科都市・建築学専攻の中で「都市・建築計画学特論」等の講義を担当した。博士学生3名、修士学生4名、学部生1名の研究指導を実施した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	創造工学研修 (空間デザインのポキャブラリー)	東北大学	工学部	全学科	1	2セメ	15
2	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	防災・復興空間論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
4	都市・建築計画学セミナー	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	MC	前期	1
5	都市・建築計画学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻	DC	前期	1
6	災害科学・安全学発展講義	東北大学	災害科学・安全学国際共同大学院		DC	後期	15
7	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動による知見を社会に還元するために、川崎市防災対策検討委員会委員として川崎市における復興・防災に関して有識者の立場から専門的な助言を行った。また、高大連携による組織的な対応を通じて自然科学系分野の専門的な題材に触れ、将来を見据えたキャリア教育の充実を図ることを目的に県内外の高校において出張講義を行った。特定非営利活動法人地域防災推進機構においては理事長を務め、市民を対象とした防災活動支援や園児を対象とした防災教育を行った。ボランティア・アーキテツ・ネットワーク (VAN) と連携し、新しい避難所モデルの開発に取り組んだ。環境省事業の一環として、レジリエントな社会デザインの提案に携わった。



講演・講義等(研究活動以外)

合計 5 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム第200回リスク工学研究会 (RERM)	特別講演	20220613	20220613	リスク工学専攻で学んだこと-最近の都市災害研究と活動について-	なし	筑波大学システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学	筑波大学/online	つくば市/online	日本	50
2	その他	JSCE2020-2024防災プロジェクト紹介ウェビナー	パネリスト	20220913	20220913	来たるべき国難災害を考える	なし	地震工学委員会 JSCE2020防災プロジェクト推進小委員会	online	online	online	100
3	小中高との連携	令和4年度「東北大学出前講義」	出張講義	20221006	20221006	都市デザインと建築：空間をつくるということ	小中高	福島県立磐城高校	福島県立磐城高校	いわき市	日本	40
4	小中高との連携	令和4年「高大連携出張授業」	出張講義	20221024	20221024	都市デザインと建築：空間をつくるということ	小中高	静岡市立高校	静岡市立高校	静岡市	日本	70
5	講演会	3.11学びなおし塾	招待講演	20230205	20230205	「Build Back Better」からみた東日本大震災被災地の復興	なし	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	60

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	川崎市	川崎市防災対策検討委員会	委員	20020401
2	民間・NPO	特定非営利活動法人 地域防災推進機構		理事長	20201105
3	国・政府	環境省	回復性ある気候変動適応策デザイン戦略会議	委員	20231206

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20200401		国外	部局間学術交流協定	研究機関	国立台湾大学気象災害研究センター	20150317	10
2	20210401	川崎市役所	国内	災害時等における避難所用簡易間仕切りシステム等の供給等に関する協定	自治体	川崎市、特定非営利活動法人ボランティア・アーキテツ・ネットワーク	20210401	2

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	Nosigner 株式会社	太刀川英輔ほか	20221110	その他	Nosigner 株式会社	横浜	その他	6

## 泉 貴子 准教授

IZUMI Takako

災害人文社会研究部門 国際防災戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	西南学院大学	国際文化学部	1991	3	九州大学大学院	比較社会文化研究科 国際社会専攻	1996	3	比較社会文化修士	1996	3
2					京都大学大学院	地球環境学	2012	9	地球環境学博士	2012	9

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	8	1999	12	国連ハビタットアジア・太平洋事務所	広報・渉外担当
2	2000	1	2004	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	人道問題調整官
3	2004	1	2004	12	国連国際防災戦略事務局(UNISDR) 兼任	国連防災世界会議調整官
4	2005	1	2006	5	国連アチェ・ニアス復興調整官事務所(UNORC)	シミュルウ事務所代表
5	2006	6	2006	12	国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	情報・パブリックアウトリーチユニット チーフ
6	2007	1	2013	3	国際NGO MERCY Malaysia	General Manager for Operations
7	2013	4	2017	9	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス	特任准教授
8	2017	10	2022	10	東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野	准教授
9	2020	4	現在		東北大学大学院国際文化研究科 国際環境資源政策論講座・グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラム(G2SD)	准教授 (協力教員)
10	2022	11	現在		東北大学大学院国際文化研究科 災害人文社会研究部門 国際防災戦略研究分野	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2
	九州西洋史学会	日本自然災害学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	UNDRR	UNDRR Asia-Pacific Science and Technology Advisory Group (ASTAG)	委員	20150501
2	土木学会 アジア土木関連学協会(ACCEC)	TC21(減災・防災に関する新しい技術委員会)国内支援委員	委員	20160401
3	Progress in Disaster Science (an international journal published by Elsevier)		Associate Editor	20181201
4	APEC Emergency Preparedness Working Group (EPWG)	APEC EPWG International Workign Goup	International Expert	20220301

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
国際防災戦略	国際人道支援	NGO論	国際協力

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

APRU(環太平洋大学協会)のネットワークを基盤として、災害研究活動の促進、学術機関および国際機関の連携強化、国際・アジア地域の防災に関する議論への貢献に努めた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学会や国際会議への参加は限られたが、コロナ禍での災害対応などについて調査結果をまとめ、国際ジャーナルへ論文投稿などを行った。APRUマルチハザードプログラムとElsevierの協力により、発刊された新しい国際ジャーナル「Progress in Disaster Science」のAssociate Editorを引き続き務め、災害科学研究の発信や促進に貢献している。
---

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)
	開始年	月	終了年	月	
1	2013	4	現在		大学間のマルチハザードプログラムの推進に関する研究～APRU加盟大学を中心に～
2	2013	4	現在		防災における大学の役割に関する研究
3	2015	4	現在		企業の防災に関する役割と貢献に関する研究 (途上国を中心に)
4	2015	4	現在		科学技術の防災に関する役割と貢献に関する研究
5	2015	4	現在		キャンパスにおける防災対策の向上に関する研究
6	2016	4	現在		「仙台防災枠組」表現に向けた科学技術の役割に関する研究
7	2018	6	現在		マレーシアにおける防災能力の向上(スランゴール州): 地方自治体と学術の連携
8	2018	4	現在		大規模広域災害に備えるためのNPOの実績評価と今後の展望
9	2020	10	現在		東南アジアにおける「オールハザード型」防災対策枠組構築のための共同研究

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	1	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	A multi-country comparative analysis of the impact of COVID-19 and natural hazards in India, Japan, the Philippines, and the USA	Takako Izumi, Rajib Shaw	International Journal of Disaster Risk Reduction	73	15			20220415
英語	筆頭共著	両方	いいえ	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Book chapter: Overview and Introduction to the Roles of Higher Educational Institutions in Disaster Risk Management	Takako Izumi, Indrajit Pal, Rajib Shaw	Book: Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: Considerations for a Post-COVID-19 Pandemic Analysis			3	11	20220601
英語	筆頭共著	両方	いいえ	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Book chapter: Overview and Introduction to the Roles of Higher Educational Institutions in Disaster Risk Management	Takako Izumi, Rajib Shaw, Hui Zhang	Book: Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: Considerations for a Post-COVID-20 Pandemic Analysis			27	48	20220601
英語	共著	両方	いいえ	単行本(論文掲載)	有	いいえ	Book chapter: Impacts, opportunities, and potentials in higher educational institutions: during and post-pandemic perspectives	Rajib Shaw, Takako Izumi, Indrajit Pal	Book: Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: Considerations for a Post-COVID-21 Pandemic Analysis			255	264	20220601

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	1	共著	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
英語	Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: Considerations for a Post-COVID-19 Pandemic Analysis	編集本(編集者・Editor)	20220601	Takako Izumi, Indrajit Pal, Rajib Shaw	共編	Springer	国外	

学会発表

単名	7	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	連名者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国際	The Northern European Conference on Emergency and Disaster Studies (NEEDS 2022)		単名	いいえ	口頭(一般)	University of Copenhagen	Copenhagen	Denmark	20221101	20221103	20221102	Progress of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction and its impact on IFuture Development	Takako Izumi	両方	200
国際	APRU Multi-hazards symposium		単名	はい	口頭(一般)	Chulalongkorn University	Bangkok	Thailand	20221129	20221130	20221129	Importance of university networks	Takako Izumi	両方	150
国際	APRU Multi-hazards workshop		単名	いいえ	口頭(一般)	University of Hawaii	Hawaii	USA	20230221	20230223	20220221	All-hazards approach	Takako Izumi	両方	50
国際	2023 Osaka University-University of Melbourne Joint Research Workshop		単名	はい	口頭(一般)	大阪大学	大阪	日本	20220308	20230309	20220308	Impact of COVID-19 on disaster risk management and its future	Takako Izumi	両方	50
国際	UNESCAP Expert Meeting on Pacific Perspectives 2022 "Accelerating Climate Action"		単名	はい	口頭(一般)	オンライン	オンライン	オンライン	20221027	20221028	20221027	Role of universities to strengthen regional cooperation mechanisms to address systemic and cascading risks	Takako Izumi	両方	50
国際	Asia Pacific Ministerial Meeting on disaster risk reduction		単名	はい	口頭(一般)	Brisbane	Brisbane	Australia	20220919	20220923	20220920	Universities' preparedness and response towards multi-hazards: COVID-19, Natural, and Human-induced hazards	Takako Izumi	両方	500
国際	Asia Pacific Ministerial Meeting on disaster risk reduction (Working session 10: scaling up, scaling deep: Innovations in disaster risk management)		単名	はい	口頭(一般)	Brisbane	Brisbane	Australia	20220920	20220924	20220922	Role of universities to strengthen regional cooperation mechanisms to address systemic and cascading risks	Takako Izumi	両方	500

学会会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	6件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
国際	セミナー	IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards webinar series: Safety and Resilience of Higher Educational Institutions: considerations for a Post-COVID-19 Pandemic analysis	20220524	20220524	Online	Online	Online	93		企画、運営、司会、モデレーター	IRIDeS主催・共同主催	APRU, University of Southern California, National Taiwan University, Auckland University of Technology	両方
国際	セミナー	IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards summer lecture series: Session 1 Interdisciplinary DRR research and actions in Japan	20220729	20220729	Online	Online	Online	120		企画、運営、司会、モデレーター	IRIDeS主催・共同主催	APRU	両方

3	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards Summer lecture series: Session 2 Disaster risk management initiatives in various sectors and fields	20220805	20220805	Online	Online	Online	113		企画、運営、司会、モデレーター	IRIDeS主催・共同主催	APRU, CFE-DN, Sichuan University, Chulalongkorn University, APEC Emergency Preparedness Cpadity Building Center	両方
4	国際	セミナー	IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards webinar series: 2023 Turkey-Syria earthquakes	20230316	20230316	Online	Online	Online	120		企画、運営、司会、モデレーター	IRIDeS主催・共同主催	APRU, University of Hawaii, UNSW Sydney	両方
5	国際	シンポジウム	Chulalongkorn University, IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards symposium	20221129	20221130			Bangkok	Thailand	150	企画、運営、発表	IRIDeS主催・共同主催	Chulalongkorn University, APRU	両方
6	国際	ワークショップ	University of Hawaii, IRIDeS, APRU	APRU Multi-hazards workshop	20230221	20230223	University of Hawaii	Hawaii	USA	50		企画、運営、モデレーター、発表	IRIDeS主催・共同主催	University of Hawaii, APRU, CFE-DM, Tokyo Marine Group	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院国際文化研究科国際環境資源政策論講座およびグローバルガバナンスと持続可能なプログラム(G2SD)に協力教員として所属し、授業・学生指導・論文指導などを担当している。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	プロジェクトリスクマネジメントI	東北大学大学院	国際文化研究科			前期	15
2	演習	東北大学大学院	国際文化研究科			通年	15
3	SDGs入門	東北大学	全学			後期	15
4	災害と科学(オムニバス)	東北大学	全学			後期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台市との共催である「仙台防災枠組講座」(基礎編)にて、仙台防災枠組に関する一般市民の理解や知識の向上のために講演を引き続き行っている。科学技術の防災への貢献の重要性を高めるため、APSTAAG (UNDRRアジア太平洋科学技術アカデミアアドバイザーグループ)のメンバーとして定期会合に出席し、国際および地域会議の議論の場で、APRUをはじめとする学術機関の貢献やその役割の重要性についても講演を行っている。また、NPO法人 SEEDS ASIAの監事としてNPOの海外途上国支援などにも従事している。3月からは、APEC Emergency Preparedness Working GroupのInternational Expert Groupへの参加に招待され、特に議長国の中国が中心となって行っている「Risk-informed Decision amign Framework for Resilience」の作成に加わっている。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 6 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	基礎から学ぶ仙台防災枠組講座 in 仙台防災未来フォーラム2022	総括	20220304	20220304	仙台防災枠組とは?	行政	IRIDeS, 仙台市	仙台国際センター展示棟会議室2	仙台市	日本	80
2	公開講座	第28回公開講座「国際文化基礎講座」環境と防災～SDGsの達成に向けて～	講義	20221126	20221126	「仙台防災枠組」実現への貢献: 私たちにできること	なし	東北大学大学院国際文化研究科	オンライン	オンライン	日本	50
3	セミナー	JICA研修 ソマリア	講義	20230123	20220123	Recovery from the Great East Japan Earthquake and Tsunami	なし	JICA	ダイワロイネット仙台	仙台市	日本	30
4	セミナー	JICA研修 ザンビア	講義	20221115	20221115	Recovery from the Great East Japan Earthquake and Tsunami	なし	JICA	ダイアハレス仙台中央	仙台市	日本	30
5	セミナー	JICA研修 ナイジェリア	講義	20221003	20221003	Recovery from the Great East Japan Earthquake and Tsunami	なし	JICA	ダイワロイネット仙台	仙台市	日本	30
6	その他	ノーベルプライズダイアログ	パネリスト	20221023	20221023	Towards disaster risk reduction	なし	JSPS 日本学術振興会	パシフィック横浜会議センター	横浜	日本	400

自治体・民間等での委員

区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	特定非営利活動法人SEEDS Asia		20140401

# 奥村 誠 教授

## OKUMURA Makoto

災害人文社会研究部門 レジリエンス計画研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	1984	3	京都大学大学院	工学研究科修士課程	1986	3	博士(工学)	1991	11

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1992	3	京都大学 工学部	助手
2	1992	4	1995	3	京都大学 工学部	講師
3	1995	4	2001	3	広島大学 工学部	助教授
4	2001	4	2006	3	広島大学大学院 工学研究科	助教授
5	2006	4	2012	3	東北大学 東北アジア研究センター	教授
6	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
土木学会	日本地域学会	応用地域学会	日本計画行政学会	日本都市計画学会	Regional Science Association International	East Asian Society of Transportation Studies (EASTS)	スケジューリング学会	交通工学研究会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	応用地域学会		会長	20210401

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
社会システム工学・安全システム	交通工学・国土計画	都市間交通	都市計画

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	キャンパス計画委員会・運輸交通専門委員会	副委員長	20100401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

災害復興に関する歴史研究を口頭発表したのち、査読付き論文として発表した。感染症リスクの災害からの避難や復興過程に関する課題を整理し、携帯電話位置情報データの活用方法を検討した。科学研究費(代表)によるレジリエントな交通ネットワークの研究を開始した。さらに災害レジリエンス共創センターの災害情報キュレーション研究領域長として、防災科学技術研究所との組織的な共同研究を進めている。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	現在		都市間交通ネットワークの計画方法の研究	両方
2	2012	4	現在		自動車を利用した津波避難計画に関する研究	国内
3	2013	4	現在		携帯電話位置情報ビッグデータによる災害影響把握手法の研究	国内
4	2017	4	現在		災害対応施設の整備計画に関する研究	国外

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	昭和8年三陸津波後の津波対策予算化の影響要因	西脇千瀬, 奥村誠, 平野勝也	土木学会論文集 D3	77	5	1_359	1_373	20220502
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	階層的な拠点の最適空間配置の研究—交通ネットワークとの同時最適化モデルによる検討—	須ヶ間淳, 奥村誠	都市計画論文集	57	3	1202	1209	20221021

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第65回土木計画学研究 発表会	岸 隆宏	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライ ン		日本	20220604	20220605	20220605	最適業務配置モデルを用いた雇用分布と業務 交通の逆解析	<u>石川拓武</u> , <u>奥村 誠</u>	なし	600
2	国際	The 12th Asian Seminar in Regional Science	Jungyul Sohn	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	Ulsan Internatio nal Confer ence Center	Ulsan	韓国	20220807	20220808	20220807	Inverse analysis of employment distribution and business travels using optimal work allocation model	<u>Makoto OKUMURA</u> <u>Takumu ISHIKAWA</u>	なし	100
3	国内	応用地域学会2022年度 研究発表大会	武藤 慎一	筆頭 連名	いいえ	口頭(一般)	オンライ ン	甲府	日本	20221217	20221218	20221217	出張業務最適化モデルによるコロナ禍の影響 分析	<u>奥村誠</u> , <u>赤塚昌哉</u>	なし	120

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先である大学院工学研究科土木工学専攻の学生の指導を行った。また講義は、同専攻の専門科目、演習科目のほか、工学部建築・社会環境工学科の専門科目と演習科目を担当した。さらに災害研に割り当てられている全学教育オムニバス科目の日程・成績管理と講義の分担を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	計量行動分析	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		後期	15
2	環境学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	建築・社会環境工学演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	6
4	地域・都市計画	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	15
5	都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	8
6	社会的計画論	東北工業大学	工学部	都市システムデザイン学科	3	6セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

研究活動の目的である、災害に強く、支援をしやすい地域づくりを行うための基礎として、交通基盤、地域・都市計画の行政・実務への協力を継続的にやっている。さらに防災科学研究所との交流を進めている。

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省	第7回幹線旅客純流動調査委員会	委員兼幹事	20190701
2	国・政府	国土交通省	河川技術委員会	委員	20200701
3	地方自治体	宮城県	国土利用審議会	委員長代理	20110401
4	地方自治体	気仙沼市	地域公共交通会議	委員	20170401
5	地方自治体	互理町	入札監視委員会	委員長代理	20170701
6	地方自治体	伊達市	都市計画審議会	会長	20180701

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	2 件
----	-----

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	防災科学技術研究所	永松伸吾, 塩崎由 人, 堀内敏彦, 田端 憲太郎	20230317- 20230318	共同研究	呉森沢ホテル	呉	企画	16
2	防災科学技術研究所	水元伸一, 永松伸 吾	20230327	会議	防災科学技術研究所 東京会議 室	東京	その他	30

## 井内 加奈子 准教授

## IUCHI Kanako

災害人文社会研究部門 レジリエンス計画研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	筑波大学	第三学群社会工学類	1994	7	コーネル大学大学院	都市・地域計画学科	2006	5	MRP (地域計画)	2006	5
2					イリノイ大学大学院	都市・地域計画学科	2010	9	PhD (地域計画)	2011	5

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	6	2004	7	株式会社バシフィックコンサルタンツインターナショナル 開発計画部	上級技師
2	2004	8	2006	5	コーネル大学 都市・地域計画学科	授業・研究助手
3	2006	8	2010	9	イリノイ大学 都市・地域計画学科	研究助手
4	2010	10	2013	2	世界銀行 金融・経済・都市開発部	都市専門家
5	2013	3	2018	8	東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	准教授
6	2018	9	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 人間社会対応研究部門 被災地支援研究分野	准教授
7	2021	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 レジリエンス計画研究分野	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	American Planning Association	Earthquake Engineering Research Institute	日本都市計画学会	地域安全学会	American Association of Geographers	The Honor Society of Phi Kappa Phi

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Journal of Delta Urbanism	Editorial Team	Editorial Board Member	20201200

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	復興・減災計画	国際開発計画	コミュニティ開発	都市開発	ガバナンス

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科	男女共同参画委員会委員	副委員長	20220401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

2022年度は、復興(移転)における縦断的研究への方法論の構築や、復興に関わるステークホルダーの復興プロセスへの認識と環境変化との関係性について、日本やフィリピンでの中長期的な研究活動の結果を通じて探求し、その結果の一部を計画的視点からの復興・移転論として、論文の発表を行った。そのほか、2018年中部スラウェシ地震について、ハザードを考慮した復興現況についての調査や、米国東海岸沿岸部の海面上昇と居住地移転・管理についての調査を通じ、複合自然災害や気候変動対応策にも考慮した計画プロセスの研究も進めている。
--

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2013	12	現在		フィリピンにおける台風ハイアンからの復興計画と移転・再定住の研究	両方
2	2014	11	現在		米国ハリケーンサンディ後の復興計画と実施の実態に関する研究	国外
3	2016	4	現在		東日本大震災におけるすまいの再建に関わる復興の研究	両方
4	2018	2	現在		レジリエントな復興を目指す普遍的な移転・再定住計画の枠組構築に向けた研究	両方
5	2019	11	現在		インドネシア中部スラウェシ地震からの復興計画と移転・再定住の研究	両方
6	2021	07	現在		米国東海岸沿岸部海面上昇と居住地管理に関する研究	国外

論文

単著	2	筆頭共著	2	その他の共著	0	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Adaptability of Low-Income Communities in Postdisaster Relocation	Iuchi, K.	Journal of American Planning Association			1	16	20230208
英語	筆頭共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Questioning the hazard map-based rebuilding process Learning from the 2018 Sulawesi earthquake in Indonesia	Iuchi, K., Takagi, H., Jibiki, Y., Kondo, T., Kusunoki, A., Hanifa, N.R., Pelupessy, D., Gayathri, R. T., and Olshansky, R.	Coastal Engineering Journal	65	1	126	148	20230124
英語	単著	なし	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Planning-centered model of community relocation: Deriving from 6-year longitudinal research after Typhoon Haiyan	Iuchi, K.	Proceedings of the 62nd Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) conference	62	2022	172	173	20221107
英語	筆頭共著	両方	いいえ	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Questioning the hazard map-based rebuilding process Learning from the 2018 Sulawesi earthquake in Indonesia	Iuchi, K., Takagi, H., Jibiki, Y., Kondo, T., Kusunoki, A., Hanifa, N.R., Pelupessy, D., Gayathri, R. T., and Olshansky, R.	Proceedings of the 47th Annual Natural Hazards Workshop	47	2022	online		20230714

学会発表

単名	2	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	46th Annual Natural Hazards Workshop (IRCD Researchers Meeting)	Sabine Loos	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Boulder (online)	アメリカ	20220713	20220714	20220714	Questioning the hazard map-based rebuilding process: Learning from the 2018 Sulawesi earthquake in Indonesia	Iuchi, K., Takagi, H., Jibiki, Y., Kondo, T., Kusunoki, A., Hanifa, N.R., Pelupessy, D., Gayathri, R. T., and Olshansky, R.	両方	640
2	国際	US-Japan Workshop on Needs, Priorities and Partnerships to Advance Human-Centered Data for Resilience	Rachel Hamburger	単名	いいえ	口頭(一般)	Online	Online	アメリカ/日本	20221017	20221026	20221018, 19, 25, 26	Human-Centered Data for Resilience	Iuchi, K.	両方	100
3	国際	62nd Annual Association of Collegiate School of Planning (ACSP) conference	Allison Lassiter	単名	いいえ	口頭(一般)	Hilton Toronto	Toronto, Ontario	カナダ	20221103	20221105	20221104	Planning-Centered Model of Community Relocation: Lessons learned over 6 years from Typhoon Haiyan	Iuchi, K.	両方	1200

C. 教育活動

教育活動の概要

全学対象の災害の科学(災害から復興まで)および社会と災害科学では、ビデオなどによるメディアの活用にて、災害と復興を身近に感じ取る事が出来るような試みを行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害から復興まで)	東北大学	全学		1	2セメ	2

D. 社会活動

社会活動の概要

2020年からのコロナ禍の影響もあり、国際機関・学術機関では、これまで実施された事業のレビューが行われた。国内では、東日本大震災から11年を迎え、復興検証について検討する機運が高まり、一般公開でのディスカッションに参加した。世界銀行(東京GFDRRハブ)では、東日本大震災を契機に立ち上げられた、日本-世界銀行共同プログラムのレビュー業務の一部を支援したとともに、トルコ政府に向けて包括的な地域改善のためのセミナーで講演した。APRUでは、サマースクールで講義を行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	災害科学国際研究所	DRM Colloquium (特別講演会 第5回)	20221007	20221007	災害科学国際研究所	仙台	日本	企画・運営	10	IRIDeS共催	講演会



講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	みやぎボイス2022	招待講演	20220705	20220705	復興検証のテーマ～様々な立場から考える復興検証の目的とその中心～	企業	公益社団法人日本建築家協会東北支部	メディアテーク	仙台	日本	100
2	公開講座	APRU multi-hazards summer lecture series	招待講演	20220729	20220729	Hazard-sensitive city planning in the era of climate change	なし	APRU	IRIDeS (Online)	仙台(オンライン)	日本	120
3	セミナー	Seminar on Social Inclusion in Urban Transformation Implementations	招待講演	20221201	20221201	Social inclusion in Urban Transformation - experience and lessons learned	行政	World Bank	World Bank Turkey	アンカラ	トルコ	30
4	公開講座	Urban Planning Talk	招待講演	2022	20230207	Planning to live with hazards: International field explorations and theory building toward sustainable communities	なし	University of Illinois at Urbana-Champaign	Department of Urban and Regional Planning	Urbana-Champaign	米国	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	世界銀行	Review of the Japan-World Bank Program for Mainstreaming Disaster Risk Management in Developing Countries	Reviewer	20211000

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	防災科研	永松伸吾、塩崎由人	20220318	共同研究	呉森沢ホテル	広島	講演・発表	10

# 岩田 司 教授

## IWATA Tsukasa

災害人文社会研究部門 空間デザイン戦略研究分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1982	3	東京大学大学院	工学研究科	1989	3	工学博士	1989	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1991	9	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	研究員
2	1991	10	1992	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	研究員
3	1992	4	1997	3	建設省建築研究所 第一研究部 住環境計画研究室	主任研究員
4	1995	4	2001	3	筑波大学 第三学群社会工学類	非常勤講師(併任)
5	1997	4	1999	3	建設省建築研究所 第五研究部 設計計画研究室	室長
6	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
7	1999	4	2000	12	建設省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
8	2001	1	2001	3	国土交通省建築研究所 第一研究部 建設経済研究室	室長
9	2001	4	2004	3	国土交通省国土技術政策総合研究所建設経済研究室	室長
10	2004	4	2013	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	上席研究員
11	2005	4	2015	3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科	教授(連携大学院・併任)
12	2013	4	2015	3	独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ	主席研究監
13	2015	4	2017	3	国立研究開発法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ	客員研究員
14	2015	4	2021	3	東北大学 災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門都市再生計画技術分野	教授
15	2018	6	2021	5	同濟大学	兼職教授
16	2021	4	2023	3	東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門空間 デザイン戦略研究分野	教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	建築学会	都市計画学会	都市住宅学会	造園学会	リモートセンシング学会	日本建築家協会

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	地域住宅計画	地域型復興住宅	居住環境計画	地域運営	都市設計

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	学際高等研究教育院運営専門委員会	委員	20150401
2	全学	学術情報整備検討委員会	委員	20180401
3	工学部	入試検討委員会	委員	20210401
4	工学部	入試検討委員会第2小委員会	委員	20210401
5	工学部・工学研究科	広報戦略委員会	委員	20200401
6	工学部・工学研究科	工学分館運営委員会	委員	20210401
7	人間環境系	設計教育委員会	委員	20170401
8	人間環境系	設計教育委員会 国際関係担当	委員	20190401

### B. 研究活動

研究活動の概要

(1) 全国で地域住宅計画の理念に基づいて建設された300を超える公営住宅を調査、解析を行い、その地域性を明らかにした。(2) 地域型復興住宅における地域材の活用実態を調査、分析した。(3) 100年まちづくり運動を昭和30年代から継続する山形県金山町において総括を行った。の継続的地域運営手法を分析し、公共事業による経済効果を明らかにした。(4) (1)～(3)の研究成果に基づき、令和4年度東北大学工学研究科公開講座を主催し、これまでの研究生生活で得たすまい・まちづくりの地域性に関する研究成果を総括した。(5) 全国の新型コロナウイルスの伝播状況の調査、解析を行い、電波状況が生活圏や通勤通学手段と強い相関関係を示すことなどを立証した。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	現在		住まい・まちの地域性に関する研究	国内
2	2016	4	現在		地域型復興住宅に関する研究	国内
3	2018	4	2023	3	木造応急仮設住宅の修繕に関する研究	国内
4	2019	4	現在		地方小都市における景観整備が地域の活性化に及ぼす効果に関する研究	国内
5	2019	4	現在		地方小都市における景観整備と地域運営手法に関する研究	国内
6	2020	4	2023	3	地域住宅計画に基づき建設された公営住宅が住宅の地域性に与えた影響に関する研究	国内
7	2020	4	2023	3	コロナウィルスの地域間の伝播に関する研究	国内
8	2020	4	現在		地場産材を活用した地域型住宅建設手法に関する研究	国内
9	2022	4	2023	3	高齢化社会に対応した伝統的建築物を活用したまちづくりに関する研究	国内
10	2022	4	2023	3	低層木造建築による大学キャンパスの計画に関する研究	国内
11	2022	4	2023	3	漁業集落の津波危険度低減手法に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	なし	はい	国際会議 Proceedings	有	いいえ	Towards improving provision of wooden temporary housing: Analysis of repairs of temporary housing built by local contractors after the Great East Japan Earthquake.	Tsukasa Iwata, Eiji Harada, Elizabeth Maly	International Journal of Disaster Risk Reduction,		86			20230110

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原題)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	The 14 <sup>th</sup> AIWEST-DR 2022		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220229	Urban regeneration of flood prone area: A case study of wooden public bathhouses in Hitoyoshi City, Kumamoto Prefecture in Japan	<u>MIKU OKUBA</u> , <u>TSUKASA IWATA</u> , <u>ELIZABETH MALY</u> , <u>EIJI HARADA</u>	なし	250

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	シンポジウム	東北大学工学研究科	住まいづくりとまちづくりその地域性とは? ~HOPE計画の40年~	20220806	20220806	東北大学青葉山キャンパス人間・環境系教育研究棟	仙台	日本	129(0)	工学	基調講演・パネルディスカッション司会・運営委員	IRIDeS共催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

工学部建築・社会環境工学科、及び工学系研究科都市・建築専攻において、授業、及び設計演習を担当した。学部4年生1名、及び修士課程7名(うち3名が留学生)、博士課程1名の指導を行い、うち3名が修士号を取得した。なお修士課程1年生の都市・建築設計Ⅱではこれまで3回行ってきた華中科技大学との国際ワークショップを福島県双葉町の復興計画を題材に実施した。また学部3年前期の都市・建築設計B2で指導した学生が2022年度・第26回JIA東北建築学生賞において最優秀賞を受賞した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/1コマ)
1	基礎設計B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	16
2	都市・建築デザイン	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	1
3	都市・建築設計B2	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	16
4	居住計画論	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	6セメ	16
5	都市分析学	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		後期	16
6	都市・建築設計Ⅱ	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	16
7	都市・建築計画学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻		前期	2

D. 社会活動

社会活動の概要

公益社団法人日本建築家協会との連携と協力に関する協定を締結し、JIA災害対策会議・東北大学災害科学国際研究所シンポジウムを開催した。また令和4年度東北大学工学研究科公開講座を主催し、多くの一般参加者の参加を得た。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学工学研究科	住まいづくりとまちづくり その地域性とは？ ～HOPE計画の40年～	20220806	20220806	東北大学青葉山キャンパス人間・環境系教育研究棟	仙台市	日本	基調講演・パネルディスカッション司会・運営委員	129	IRIDeS共催	シンポジウム
2	国内	日本建築家協会東北支部	JIA災害対策会議・東北大学災害科学国際研究所シンポジウム	20221012	20221012	ZOOMによるオンラインシンポジウム形式	仙台市	日本	運営委員、主催者挨拶	50	IRIDeS共催	シンポジウム

自治体・研究機関との協定締結実績 (正・副担当の場合のみ)

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20220401	相互郵送にて行う	国内	国立大学法人東北大学災害科学国際研究所と公益社団法人日本建築家協会との連携と協力に関する協定書	その他	公益社団法人日本建築家協会	20220401	5

## 平野 勝也 准教授

## HIRANO Katsuya

災害人文社会研究部門 空間デザイン戦略研究分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	工学部	1991	3	東京大学大学院	工学系研究科	1993	3	博士(工学)	2000	2

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	4	1994	3	北海道開発局 札幌開発建設部 札幌道路事務所 工事一課 工務二係	係員
2	1994	4	1995	1	北海道開発局 石狩川開発建設部 札幌河川事務所 工務一課 計画係	係員
3	1995	2	2001	8	東北大学 工学部 土木工学科	助手
4	2000	2	2000	12	英国マンチェスター大学 人文学部 計画・造園学科	客員研究員
5	2001	9	2008	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	講師
6	2008	4	2012	3	東北大学 大学院 情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	准教授
7	2012	4	2021	4	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門	准教授
8	2021	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3
	土木学会	日本都市計画学会	造園学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	土木学会	土木計画学委員会・海岸工学委員会 減災アセスメント小委員会	委員	20140000
2	土木学会	選奨土木遺産選考委員会	委員	20170000
3	土木学会	東北支部 選奨土木遺産選考委員会	委員	20010000
4	土木学会	景観・デザイン委員会	幹事長	20200000
5	土木学会	表彰委員会論文賞選考小委員会	委員	20220000

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	都市景観	土木デザイン	復興まちづくり

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	工学研究科土木工学専攻	教育改善委員会	委員	20160400
2	工学研究科土木工学専攻	入試担当WG	委員	20190400

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

震災前から培ってきた、都市空間認識や土木デザインの蓄積、さらには行政経験を元に、復興まちづくりに対して、そのあるべき姿を論考しつつ、制度的な問題・課題を実体的に把握し、その解決策を現実の復興計画に反映させ、復興計画のクオリティを高めるとともに、実践的な復興まちづくりのあり方を探求している。また、その基礎となる都市空間の認識研究も継続している。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	2	2000	12	街並みメッセージ論による街路景観に関する研究	なし
2	2000	4	2011	2	記憶から見た街路空間認識に関する研究	なし
3	2008	4	現在		相対性の観点から見た街路空間イメージに関する研究	なし
4	2011	3	現在		復興まちづくりにおける実践的研究	国外
5	2011	3	現在		防潮堤の計画論に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国外	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ブレードの回転による動的誘目性に着目した風力発電施設の景観評価	大西明日香, 平野勝也, 和田裕一	景観・デザイン研究講演集		18	65	75	2022.12.10
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	空間帰属認識に着目したパークレットの利用可能性	白洲瞭, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		18	171	178	2022.12.10
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	過去の土地利用に見る近代治水以前の水害リスクマネジメント	天谷友哉, 平野勝也	景観・デザイン研究講演集		18	212	215	2022.12.10
日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	スキーマに着目した電柱・電線景観の評価特性	平野勝也, 佐藤慎之介	土木計画学研究講演集		66	02-09.pdf		2022.11.12

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	4	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	4
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	激動	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2022年5月号			記事6	記事7	20220501	平野勝也	単著	なし
日本語	無電柱化	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2022年9月号			記事6	記事7	20220901	平野勝也	単著	なし
日本語	解呪	その他	無	はい	(一財)建設物価調査会 建設物価 2022年12月号			記事6	記事7	20221201	平野勝也	単著	国内
日本語	復興まちづくりの苦悩と復興「かわまちづくり」の必然	その他	無	はい	公益財団法人リバーフロント研究所機関誌「RIVER FRONT」	95		6	9	20220801	平野勝也	単著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	第66回土木計画学研究発表会・秋大会	大庭哲治	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	琉球大学	那覇	日本	20221111	20221113	20221112	スキーマに着目した電柱・電線景観の評価特性	平野勝也, 佐藤慎之介		

C. 教育活動

教育活動の概要

景観工学・土木デザインを中心に、統合的思考が可能な人材育成を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1 土木史	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	7.5
2 基礎設計A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	45
3 都市と交通のシステム	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	3セメ	2
4 環境工学序説	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	1セメ	1
5 景観デザイン演習	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	2	4セメ	30
6 都市システム計画演習II	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	30
7 都市システム計画研修A	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
8 都市システム計画研修B	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	8セメ	
9 都市景観論	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		前期	15
10 地域システム学セミナー	東北大学大学院	工学研究科	土木工学専攻		通年	
11 社会的計画論	東北工業大学	工学部	都市マネジメント学科	2	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

復興まちづくりの実践を中心に、景観まちづくり及び土木デザインの実践を展開している。また、積極的に土木の魅力若者に伝える活動も行っている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	景観開花実行委員会	景観開花。2021	20220723	20211119	web		日本	実行委員長	100	なし	その他	学生主体 のデザイン コンペ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	南海トラフ地震に際して 必要な全国ネットワーク を考える	パネルディス カッション	20221022	20221022	被災者のより良い選択が導くより良い合 意形成	企業	日本建築家協 会災害対策会 議・東北大学 災害科学国際 研究所	web			200

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	環境省	「まち・暮らし創生」FS委託業務(審査委員会)	委員	20190401
2	国・政府	東北地方整備局	道路計画研究会	座長	20080401
3	国・政府	東北地方整備局 山形河川国道事務所	最上川水系流域委員会専門小委員会	委員	20100401
4	国・政府	東北地方整備局 仙台河川国道事務所・丸森町	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会	委員	20210401
5	国・政府	東北地方整備局・岩手県・陸前高田市	高田松原津波復興祈念公園 有識者会議	委員	20170400
6	地方自治体	宮城県	環境影響評価技術審査会	会長	20100000
7	地方自治体	宮城県	行政評価委員会 大規模事業評価部会	委員	20140000
8	地方自治体	仙台市	土地利用審査会	委員	20140000
9	地方自治体	仙台市	建築審査会	委員	20190400
10	地方自治体	名取市	閉上ベイエリア協議会	委員	20200000
11	地方自治体	陸前高田市	景観審議会	会長	20180000
12	地方自治体	女川町	都市計画審議会	会長	20211200
13	地方自治体	女川町	復興事業評価委員会	アドバイザー	20220400
14	地方自治体	南三陸町	南三陸町道の駅整備推進協議会	委員	20160000
15	地方自治体	平泉町	景観形成審議会	委員	20060000
16	地方自治体	平泉町	平泉町空家等対策協議会	副会長	20171018
17	地方自治体	平泉町	重要公共施設デザイン会議	会長	20060000
18	地方自治体	双葉町	双葉町復興まちづくり計画(第3次)有識者会議	委員	20210401
19	民間・NPO	石巻まちなか創成協議会		委員	20110000
20	民間・NPO	エンジニア・アーキテクト協会	東北支部	支部長	20100000
21	民間・NPO	公益信託オオハマまちづくり基金	運営委員会	委員	20150900

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 2 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	北海道大学 他	高橋 浩晃 教授 他	20220525	共同研究	白糠町役場		企画	15
2	北海道大学 他	高橋 浩晃 教授 他	20221219	共同研究	道東経済センター		企画	15

# 江川 新一 教授

## EGAWA Shinichi

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医学部	1987	3					M.D., Ph.D.		

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1987	4	1990	3	竹田総合病院 外科	医師
2	1990	7	1990	8	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
3	1991	1	1991	2	医療法人 永仁会 永野病院 外科	医員
4	1991	4	1991	5	高萩協同病院 外科	医員
5	1991	9	1991	10	高萩協同病院 外科	医員
6	1991	11	1992	3	東北大学医学部 第一外科(この間、1992年2月から3月まで高萩協同病院に医員派遣として出張)	医員
7	1992	4	1993	9	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	リサーチレジデント
8	1993	10	1996	3	国立がんセンター研究所 細胞増殖因子研究部	研究員(厚生技官)
9	1996	4	1996	12	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
10	1997	1	1997	1	米山町国保病院 外科	医長
11	1997	2	1998	1	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
12	1998	2	1998	6	丸森町国保病院 外科	医長
13	1998	7	1999	2	東北大学医学部附属病院 第一外科	助手(文部教官)
14	1999	3	2001	4	アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学 腫瘍外科学	客員研究員(助手休職)
15	2001	5	2003	9	東北大学医学部附属病院 肝胆膵外科	助手(文部教官)復職
16	2003	10	2004	3	東北大学病院 肝胆膵外科	助手(配置換)
17	2004	4	2005	3	独立行政法人化に伴い東北大学病院・肝胆膵外科	助手(病院)
18	2005	4	2005	9	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	講師
19	2005	10	2006	5	東北大学大学病院 肝胆膵外科	講師
20	2006	6	2007	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	助教授
21	2007	4	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野	准教授(職制変更)
22	2012	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野	教授
23	2014	4	2017	3	東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門長	
24	2020	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 所長補佐	
25	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害レジリエンス共創センター長	

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本災害医学会		Society of Disaster Medicine and Public Health	World Association for Disaster and Emergency Medicine	日本消化器病学会	日本公衆衛生学会	日本臓器学会	American College of Surgeons	日本消化器外科学会	日本外科学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本消化器病学会		学会評議員	20071001
2	日本災害医学会	WADEM 2025 Tokyo準備委員会、社会医学系専門医委員会、国際委員会	評議員	20160301
3	日本外科学会	邦文誌編集委員会	委員	20160401
4	Disaster Medicine and Public Health Preparedness		Deputy Editor	20151201
5	Tohoku Journal of Experimental Medicine	Editorial Committee	Executive Editor	20210101
6	World Association for Disaster and Emergency Medicine (WADEM)	WADEM 2025 Tokyo Programing Committee	Head	20190701

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
被災地医療ニーズ	災害保健医療シミュレーション	病院BCP	オールハザードアプローチ	クラスターアプローチ



委員会・ワーキンググループ  
 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学系研究科	運営委員会	研究科長補佐	20210401
2	全学	情報セキュリティ	部局実施責任者	20210401

B. 研究活動

研究活動の概要

防災における保健医療と他セクターの協力、災害医療の効率化について研究。南三陸町、気仙沼、石巻など被災地の匿名化診療記録をデータベース化し、被災地の医療ニーズ研究を継続した。健康と社会のレジリエンス、わが国の災害医療体制の進化をWHOの研究ガイドブックの翻訳監修を行った。災害保健医療人材育成に関して共同研究し、デルファイ法の結果を論文化した。病院の事業継続計画(BCP)およびパンデミックを災害として捉える論考を執筆した。ASEANの災害医療標準化プロジェクト(ARCH Project)のAdvisory Working Groupを務めた。Tohoku Journal of Experimental Medicineで災害医療・防災担当のExecutive Editor、米国災害医学会誌のDeputy Editorを務めた。

研究課題

	期間			研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年 月		
1	2012	4	現在	被災地における保健医療ニーズの解析	両方
2	2013	5	現在	仙台防災枠組に対する保健医療クラスターのあり方の研究	両方
3	2014	6	現在	国際共同での災害医学教育の構築	国外
4	2014	4	現在	災害リスクと健康な社会	両方
5	2015	4	現在	インド洋津波、フィリピン台風、ネパール地震、ウクライナ紛争、トルコ地震など国際支援を要する災害における保健医療対応	国外
6	2015	4	現在	医療ニーズシミュレーション	両方
7	2016	4	現在	エボラウイルス、COVID-19など新興感染症の流行に対する保健医療従事者の教育効果シミュレーション	両方
8	2018	4	現在	eHealth、personal health recordを用いた地域住民に対する災害医療教育の効率化	国外
9	2018	4	現在	ドローン・ロボットを用いた災害医療の効率化	国内
10	2016	4	現在	健康危機・災害リスクマネジメントの研究手法の確立	両方
11	2014	4	現在	病院BCP、受援力	国内
11	2021	4	現在	次世代型避難所とIRiDeSスタンダードの確立に関する研究	国内
11	2022	4	現在	ヒューマンレジリエンス	両方

論文

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	6	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	はい	Health System Disruption at the Primary Health Center Level Affected by Earthquake, Tsunami, and Liquefaction in 3 Districts of Central Sulawesi, Indonesia. 2022 Mar 28;17:e95. PMID: 35341484.	Mugi Wahidin, Masdalina Pane, Tri Bayu Purnama, Siti Maemun and Shinichi Egawa	Disaster Medicine and Public Health Preparedness	17		e95		20220401
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	はい	パンデミックを災害として考える. 70: 59-62, 2022.	江川新一.	日本職業・災害医学会誌.	70		59	62	20220401
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	はい	論文になりにくい?大丈夫! . 123: 295.	江川新一.	日本外科学会雑誌	123		295	295	20220701
日本語	筆頭共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	はい	災害時に外科診療をどのように継続できるか. (2022) 77: 1002-1006.	江川新一, 佐々木宏之	臨床外科	77		1002	1006	20220820
英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Health Emergency and Disaster Risk Management Workforce Development Strategies: Delphi Consensus Study.	Kevin K C Hung, Makiko K MacDermot, Emily Y Y Chan, Sonoe Mashino, Satchit Balsari, Gregory R Ciottone, Francesco Della Corte, Marcelo F Dell'Arima, Shinichi Egawa, Bettina D Evio, Alexander Hart, Tadashi Ishii, Luca Ragazzoni, Hiroyuki Sasaki, Joseph Harold Walline, Chi S Wong, Saurabh Dalal, Ryoma Kayano, Jonathan Abrahams, Qudsia Huda, Colin A Graham	Prehospital and Disaster Medicine	37	6	735	748	20221103
英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-Time Prediction of Medical Demand and Mental Health Status in Ukraine under Russian Invasion Using Tweet Analysis.	Susumu Fujii, Yasuto Kuni, Sayuri Nonaka, Yumiko Hamae, Mizuki Hino, Shinichi Egawa, Shinichi Kuriyama, Hiroaki Tomita	Tohoku Journal of Experimental Medicine	259	3	177	188	20230215

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	1	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	2	うち	国際	1	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Disaster medicine for older adults. in. Fusion of the West and the East, Harmony of Human and Technology. ISBN 978-4-86163-380-5. 2022	編集本 (著者・Author)	20220901	Shinichi Egawa, Editors: Kenichi Meguro, Tomonari Koto, Mobuko Kawabata, Mari Kasai.	単著	Tohoku University Press,	国内	
2 日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	IRiDeSができるまで	その他	無	いいえ	災害科学国際研究所 設立10周年記念誌			10	13	20221004	蝦名裕一, 江川新一	共著	なし
2 日本語	未来へ	その他	無	いいえ	災害科学国際研究所 設立10周年記念誌			52	54	20221004	ボレー セバスチャン, 榎田 竜太, 中鉢 奈津子, 江川新一	共著	なし

学会発表

単名	7	筆頭連名	1	その他の連名	3	合計	11
----	---	------	---	--------	---	----	----

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本学術会議フォーラム「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」	林春夫	単名	はい	口頭(招待)	日本学術会議	東京	日本	20220707	20220707	20220707	国難級災害を乗り越えるとはどんなことか? こわれない、仕組みとは何か:「ウェルビーイング:ひとりひとりがこわれない」	江川新一	国内	200
2	国際	Philippine National Health Research System	JAIME C. MONTOYA	単名	はい	口頭(招待)	Clark Marriott Hotel	Clark Freeport Zone	Philippines	20220811	20220812	20220811	Research Frontiers in Health and Disaster Risk Management: What do we know now?	Shinichi Egawa	両方	250
3	国内	第44回日本臨床栄養学会	佐々木 章	単名	はい	口頭(招待)	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	盛岡	日本	20221007	20221009	20221009	災害医療と栄養	江川新一	国内	1000
4	国内	第7回防災推進国民大会	内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議	単名	はい	口頭(招待)	国際協力機構関西センター(JICA関西)	神戸	日本	20221022	20221023	20221023	東北大学災害科学国際研究所・災害レジリエンス共創センター	江川新一	国内	15000
5	国内	第7回防災推進国民大会	内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議	単名	はい	口頭(招待)	国際協力機構関西センター(JICA関西)	神戸	日本	20221022	20221023	20221023	災害医療と国際連携	江川新一	両方	15000
6	国際	第2回東北大学・ワシントン大学Academic Open Space ワークショップ	University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS), UW Department of Anesthesiology and Pain Medicine, UW Center for Global Health Nursing, and the UW Collaborative on Extreme Event Resilience (CEER)	単名	はい	口頭(Keynote)	University of Washington	Seattle	米国	20230117	20230117	20230118	Human resilience in disaster science: Is it possible to leave no one behind?	Shinichi Egawa	国外	100

7	国際	Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Türkiye and Syria Mechanism, damage and strategy for recovery, reconstruction, BBB, and Resilient society	Fumihiko Imamura	筆頭連名	はい	口頭(招待)	online	仙台	日本	20230227	20230227	20230227	Lifesaving and health issues in the disaster areas	Shinichi Egawa, Hiroyuki Sasaki	両方	300
8	国内	仙台防災未来フォーラム2023	郡和子	単名	いいえ	口頭(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230304	20230304	20230304	人のレジリエンス:強靱さとしなやかさ	江川新一	国内	3000
9	国内	第28回日本災害医学会	眞瀬智彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	盛岡	日本	20230309	20230311	20230310	東北大学病院におけるBCPとBCM～緊急設備点検を実施して～	阿部喜子、佐々木宏之、古川裕一郎、藤田基生、石井正、江川新一	国内	2000
10	国内	第28回日本災害医学会	眞瀬智彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	盛岡	日本	20230309	20230311	20230310	東日本大震災における在宅避難と健康影響に関する潜在的リスク分析 宮城県南三陸町の災害診療記録を用いた後ろ向き観察研究	坪井基造、佐々木宏之、白田裕一郎、花島 誠人、響谷学、南和、八坂 剛一、田口茂正、清田和也、崎坂香屋子、江川新一	国内	2000
11	国内	第28回日本災害医学会	眞瀬智彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アイーナ(いわて県民情報交流センター)	盛岡	日本	20230309	20230311	20230310	災害医療人材教育におけるオンライン型実習の実際と課題	菅野武、只野恭教、阿部喜子、藤田基生、西岡貴志、今井浩之、佐々木宏之、江川新一、島田二郎、石井正	国内	2000

C. 教育活動

教育活動の概要

留学生を含む大学院生の研究、論文の指導を行い、国際学術雑誌に論文が掲載された。定期的に大学院学生とのミーティングを行い、研究のあり方、進め方に関する教育を行った。与えるだけでなく、問題を発見し、解決していくための教育を行っている。公衆衛生学専攻と協力して被災者の医療ニーズ、とくに在宅避難に関する研究、論文指導を行った。ヒューマンセキュリティコースで、巨大災害に対する保健医療の備え、グローバルヘルスとヒューマンセキュリティ、高齢化と社会的支援の講義を英語で担当し、国際共同大学院プログラムGP-RSS、卓越大学院SyDEの運営企画を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 Health and social resilience for large-scale disaster	東北大学	医学系研究科	公衆衛生学専攻		2セメ	15
2 Human Security and Global Health	東北大学	医学系研究科	公衆衛生学専攻		1セメ	15
3 Health Resilience in Aging Society	東北大学	医学系研究科	公衆衛生学専攻		2セメ	15

D. 社会活動

社会活動の概要

仙台防災枠組に健康が大幅に取り入れられたことを受け、健康な社会がレジリエントな社会であることを発信した。東北大学病院の災害対策委員、BCP委員会副委員長として、東北大学病院のレジリエンス向上に貢献した。COVID-19災害に対して東北大学病院のBCP・災害対応活動に貢献した。新型コロナウイルスパンデミックが生物学的ハザードによる災害であり、リスク減少(防災)が可能であることを積極的に発信した。ラジオ・市民公開講座での発表、メディアの取材依頼に対応した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動)

合計 4 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学	災害レジリエンス共創センターキック オフシンポジウム	20220511	20220511	東北大学	仙台市	日本	センター長	50	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム
2	国内	東北医科薬科大 学	第1回仙台減災医療フォーラム —災害に強い地域づくりに関与する 医療の在り方に関するフォーラム—	20220830	20220830	オンライン	仙台市	日本	運営委員	50	IRIDeS共催	セミナー
3	国内	東北大学	「災害レジリエンスの実現に向けて— 共創・国際・実装の取組み—」	20221022	20221023	国際協力機 構関西セン ター(JICA関 西)	神戸市	日本	運営委員	100	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム
4	国内	東北大学	災害医療と国際連携	20221022	20221023	国際協力機 構関西セン ター(JICA関 西)	神戸市	日本	運営委員	100	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	Mix名取フェスタ～健康タウンプロジェクト	講義	20221113	20221113	ひとりひとりが健康でしなやかに災害を乗り越えるには	行政	名取市	名取市増田公民館	名取市	日本	500
2	公開講座	仙台防災未来フォーラム	基調講演	20220304	20220304	人のレジリエンス:強靱さとしなやかさ	行政	仙台市	仙台国際センター	仙台市	日本	200

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	防災科学技術研究所	白田裕一郎、花島誠人	20220601	共同研究	防災科学技術研究所	つくば	企画	4

## 佐々木 宏之 准教授

### SASAKI Hiroyuki

災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	山形大学	医学部	1998	3	東北大学大学院	医学系研究科	2008	3	医学博士	2008	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1998	5	2003	3	山形県立中央病院 外科	前期・後期研修医
2	2003	4	2004	3	東北大学病院胃腸外科	医局員
3	2004	4	2008	3	東北大学大学院 医学系研究科 生体調節外科学分野	大学院生
4	2007	10	2010	4	独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 外科	副部長
5	2010	5	2011	4	茨城県厚生連 県北医療センター高萩協同病院 外科	科長
6	2011	5	2011	9	東北大学病院 胃腸外科	特任助手
7	2011	10	2012	3	東北大学病院 胃腸外科	助教
8	2012	4	2013	9	同上(兼東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野)	助教
9	2013	10	2019	10	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 胃腸外科)	助教
10	2019	11	2021	3	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 総合外科)	准教授
10	2019	11	2021	3	東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 総合外科)	准教授
11	2021	4	2021	9	厚生労働省 国立療養所東北新生園	外科医師
12	2021	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 (兼東北大学病院 総合外科)	准教授

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本災害医学会	日本外科学会	日本消化器外科学会	日本消化器病学会	日本大腸肛門病学会	日本大腸癌研究会	日本癌学会	日本癌治療学会	日本臨床外科学会	日本公衆衛生学会

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本災害医学会	評議員会	評議員	20160227
2	日本災害医学会	災害医学のあり方委員会	委員	20160226
3	日本災害医学会	社会医学系専門医検討委員会	委員	20170518
4	日本災害医学会	日本集団災害医学会セミナー委員会	インストラクター	20160110
5	日本災害医学会	MCLS委員会	世話人	20171101
6	日本災害医学会		日本災害医学会災害医療コーディネーションサポートチームメンバー	20160515
7	日本災害医学会	BHELP委員会	世話人	20200101
8	日本災害医学会	学会主導研究委員会	委員	20220913

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害医療	受援計画	事業継続計画	消化器外科学	

#### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学病院	BCP委員会	委員	20161101
2	東北大学病院	災害対策マニュアル改訂WG	メンバー	20161101

#### B. 研究活動

研究活動の概要

2022年度科研基盤C(一般)「病院事業継続マネジメントに資する災害対応訓練計画・実施支援ツールの開発」(直接経費:3,300千円、3カ年)を獲得し、非災害拠点病院も含めた全病院で使用可能なWEB版病院災害対応訓練計画・実施支援ツールの新規開発・研究を遂行している。令和4年度厚労科研「浸水被害も含めた、新たな医療機関の事業継続計画(BCP)策定に資する研究」(研究代表者:鳥取大学本間正人教授)に研究分担者として参画し「頻発・激甚化する豪雨災害とBCPのあり方に関する研究」をテーマとして災害研内の水工学・建築・土砂・GIS・BCP研究者等と学際的研究を遂行した。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		日本の医療機関における受援計画に関する調査	国内
2	2016	11	現在		被災時の医療・保健・福祉支援体制の検討: 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり	国内
3	2018	9	現在		災害時のご遺体と追悼の管理による復旧支援	両方
4	2018	9	現在		コングクター型災害保健医療人材の養成プログラム	国内
5	2019	4	現在		全病院向け事業継続計画策定・管理を可能にするBCM診断・支援ツールの開発	国内
6	2022	4	現在		病院事業継続マネジメントに資する災害対応訓練計画・実施支援ツールの開発	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	5	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	A study on hypothermia and associated countermeasures in tsunami disasters: A case study of Miyagi Prefecture during the 2011 great East Japan earthquake	Hirokazu Kamata, Shuji Seto, Anawat Suppasri, Hiroyuki Sasaki, Shinichi Egawa, Fumihiko Imamura	International Journal of Disaster Risk Reduction	81			103253	20221015
2	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Health Emergency and Disaster Risk Management Workforce Development Strategies: Delphi Consensus Study	Kevin K.C. Hung, Makiko K. MacDermot, Emily Y.Y. Chan, Sonoe Mashino, Satchit Balsari, Gregory R. Crotton, Francesco Della Corte, Marcelo F. Dell'Aringa, Shinichi Egawa, Bettina D. Evio, Alexander Hart, Tadashi Ishii, Luca Ragazzoni, Hiroyuki Sasaki, Joseph Harold Walline, Chi S. Wong, Saurabh Dalal, Ryoma Kayano, Jonathan Abrahams, Qudsia Huda and Colin A. Graham	Prehospital and Disaster Medicine					20221103
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Supporting adolescents' mental health during COVID-19 by utilising lessons from the aftermath of the Great East Japan Earthquake	Okuyama J, Izumi S, Funakoshi S, Seto S, Sasaki H, Ito K, Imamura F, Willgerodt M, Fukuda Y.	Humanities and Social Sciences Communications	9	1		332	20220923
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Child Nutrition in Disaster: A Scoping Review	Adeoya, A.A.; Sasaki, H.; Fuda, M.; Okamoto, T.; Egawa, S.	Tohoku Journal of Experimental Medicine	256	2	103	118	20220606
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Proposal of a Recommended Correspondence Method for Companies and Organizations in Case of Partial Rupture of the Nankai Trough Earthquake	Hiroaki Maruya, Tetsuya Torayashiki, Hiroyuki Sasaki, and Fumihiko Imamura	Journal of Disaster Research	18	3	217	232	20230331

著書(監修・編集・単著・共著)

監修編集	0	単著	0	筆頭共著	0	共著	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
------	---	----	---	------	---	----	---	----	---	----	----	---	----	---

No.	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
2	日本語	3.11での大量死への対応～学際的な視点からの予備的な教訓(「災害で残されたもの」に向き合う)	単行本	20230331	Sebastien Boret Penmellen, 佐々木宏之, 木村敏明	共著	合同会社 P・プログレス	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	FOCUS 災害時に外科診療をどのように継続できるか(解説)	学術雑誌	無	はい	臨牀外科	77	8	1002	1006	20220801	江川新一、佐々木宏之	共著	なし
2	日本語	年表	その他	無	いいえ	東北大学災害科学国際研究所 設立10周年記念誌			60	63	20221004	佐々木宏之, 木戸龍輔, 鈴木通江	共著	なし

学会発表

単名	2	筆頭 連名	0	その他の 連名	2	合計	4
----	---	----------	---	------------	---	----	---

国内 国際	会議名称	会場の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	連名者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	第28回日本災害医学会 総会・学術集会	眞瀬智彦	単名	はい	指名/シンポジウム・ ワークショップ・パネ ル	マリオス・ アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230311	未来の防災に資する災害医学と他分野との学際 的研究	<u>佐々木宏之</u>	なし	2,000
2	国内	第5回 日本病院薬剤師 会 Future Pharmacist Forum	木平 健治	単名	はい	指名/シンポジウム・ ワークショップ・パネ ル	web	web	日本	20220716	20220731	20220716	BCPの策定と運用 ～薬剤部門におけるBCPの 重要性～	<u>佐々木宏之</u>	国内	200
3	国内	第28回日本災害医学会 総会・学術集会	眞瀬智彦	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	マリオス・ アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230309	東日本大震災における在宅避難と健康影響に 関する潜在的リスク分析ー宮城県南三陸町の災 害診療記録を用いた後ろ向き観察研究ー	<u>坪井基造</u> 、 <u>佐々木宏之</u> 、 <u>日田裕一郎</u> 、 <u>花島誠人</u> 、 <u>田口茂正</u> 、 <u>八坂剛一</u> 、 <u>清 田和也</u> 、 <u>崎坂香穂子</u> 、 <u>審 谷孝</u> 、 <u>江川新一</u>	国内	2,000
4	国内	第28回日本災害医学会 総会・学術集会	眞瀬智彦	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	マリオス・ アイーナ	盛岡	日本	20230309	20230311	20230309	災害医療人材教育におけるオンライン型実習の 実際と課題	<u>笠野武</u> 、 <u>只野恭教</u> 、 <u>阿部 喜子</u> 、 <u>藤田基生</u> 、 <u>西岡貴 志</u> 、 <u>今井浩之</u> 、 <u>佐々木宏 之</u> 、 <u>江川新一</u> 、 <u>島田二郎</u> 、 <u>石井正</u>	国内	2,000

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 10 件

国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%非属人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携	
				開始年月	終了年月										
1	国内	シンポジウム	東北大学災害科学 国際研究所	東日本大震災周年シンポジウム 2023	20230304	20230304	仙台国際センター	仙台市	日本	200	臨床医学	副委員長	IRIDeS主催・共同 主催		国内
2	国内	セミナー	東北大学災害科学 国際研究所	第24回東北大学災害科学研究拠点 セミナー	20230127	20230127	web	仙台市	日本	40	臨床医学	講師	IRIDeS主催・共同 主催		国内
3	国内	その他	東北大学病院	総合防災訓練	20221111	20221111	東北大学病院	仙台市	日本	100	臨床医学	評価者	なし		国内
4	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害派遣セミ ナー	20220702	20220702	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	30	臨床医学	運営、講師	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大 学	国内
5	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害保健医療 コーディネーションセミナー	20220723	20220723	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	30	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大 学	国内
6	国内	セミナー	東北大学災害科学 国際研究所	研究倫理教育セミナー	20220912	20220912	東北大学災害科学 国際研究所 (web)	仙台市	日本	50	臨床医学	講師	IRIDeS主催・共同 主催		なし
7	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 国際協力セミ ナー	20220924	20220924	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	30	臨床医学	運営、講師	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大 学	国内
8	国内	ワークショップ	東北大学、トヨタ自 動車	トヨタと東北大学が夢見るミライ	20221014	20221014	東北大学災害科学 国際研究所	仙台市	日本	50	臨床医学	コーディネ ーター	IRIDeS主催・共同 主催	トヨタ自動車	国内
9	国内	その他	東北大学	災害対策本部訓練	20221024	20221024	東北大学片平キャン パス	仙台市	日本	50	臨床医学	コントローラー	IRIDeS協力		国外
10	国内	セミナー	東北大学病院、東 北大学災害科学国 際研究所	コングクター型災害保健医療人材 の養成プログラム 災害科学概論	20221029	20221029	web	仙台市	日本	30	臨床医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催	東北大学病院、 福島県立医科大 学	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学大学院医学系研究科災害医療国際協力学分野の大学院生の研究指導、論文作成を指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	Health and social resilience for large-scale disaster	東北大学	全学(大学院)			後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部において本部員として新型コロナウイルス感染症感染者に対する療養判定および病床調整を行った。2023年2月6日に発生したトルコ地震に際し、専門家として低体温症等についてメディア発信をおこなった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 6 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	日本災害医学会	第28回日本災害医学会総会・学術集会	20230309	20230311	マリオス・ア イーナ	盛岡	日本	座長	60	IRIDeS協力	シンポジウム	災害研より 越村教授、 森口准教 授、川内准 教授、橋本 助教、門田 助教が発表
2	国内	日本災害医学会	第28回日本災害医学会総会・学術集会 社会医学系専門医講習会	20230310	20230310	マリオス・ア イーナ	盛岡	日本	運営委員	100	なし	セミナー	
3	国内	東北大学病院	総合防災訓練	20221111	20221111	東北大学病院	仙台市	日本	評価者	200	なし	その他	東北大学病 院BCP訓練
4	国内	東北大学	総合防災訓練	20221024	20221024	東北大学本部	仙台市	日本	コントローラー	100	IRIDeS協力	その他	本部運営訓 練
5	国内	東北大学病院	東北大学病院第4回BCP講演会	20230217	20230217	web	仙台市	日本	企画運営	70	IRIDeS協力	講演会	
6	国内	日本災害医学会 BHELP委員会	第23回日本災害医学会BHELP標準コー ス webコース	20230204	20230204	web	仙台市	日本	コースコーディネ ーター	50	IRIDeS協力	ワークショップ	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	第1回宮城県災害薬事 コーディネーター研修	運営、研修 コーディネート	20221123	20221123	第1回宮城県災害薬事コーディネーター 研修	行政	宮城県	東北大学災害 科学国際研究 所	仙台市	日本	50
2	講演会	総務省東北管区行政評 価局 講演会	講演	20220930	20220930	東北大学病院における事業継続計画に 係る取組について	行政	総務省東北管 区行政評価局	総務省東北管 区行政評価局	仙台市 (+web)	日本	50
3	講演会	2023年2月トルコ南東部 を震源とする地震に関する 調査速報会	講演	20230210	20230210	被災地における救命と健康問題について	なし	災害研	web	仙台市 (web)	日本	200

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	厚生労働省		日本DMAT隊員(統括)	20180520
2	地方自治体	宮城県		災害医療コーディネーター	20181201
3	地方自治体	宮城県	新型コロナウイルス感染症医療調整本部	本部長	20201201
4	民間・NPO	事業継続推進機構		幹事	20220401

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	いわき市	いわき市危機管理部 危機管理課課長 間部芳文様	20221126	その他	いわき市市役所	いわき市	運営	200



## 藤井 進 准教授

FUJII Susumu

災害医学研究部門 災害医療情報学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	産業能率大学	経営情報学部	1990	3	国立大学法人佐賀大学	医科学系医科学科	2016	4	博士(医学)	2016	4

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	4	1990	9	帯人システムテクノロジー株式会社	エンジニア
2	1990	10	2004	5	電通工業株式会社	エンジニア
3	2004	6	2005	4	FFC(Freelance)	エンジニア
4	2005	5	2007	3	医療法人社団成仁	情報システム開発室室長
5	2007	4	2008	3	株式会社BMC	CEO
6	2008	4	2008	10	株式会社デザインソフトウェア	開発部長
7	2008	11	2017	12	国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 医療情報部	講師
8	2018	1	2019	3	久留米大学医学部 医療情報学寄付講座	准教授
9	2018	1	現在		慶応義塾大学大学院 政策メディア研究科	特任講師
10	2018	6	現在		国立病院機構九州医療センター	客員研究員
11	2019	4	2019	9	株式会社日本ユニシス ストラテジックアライアンス 特命推進室	SIP担当オブザーバー
12	2019	11	現在		国立大学法人東北大学災害科学国際研究所 災害医療情報学分野	准教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本医療情報学会	日本医療マネジメント学会	日本診療録学会	日本災害医療学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本医療情報学会	評議員・個人情報保護・倫理委員会	評議員・委員	20150600

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	医療情報学	災害医療情報学	医療経済学	医療経営学	医用システム

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	東北大学病院	BCP委員会	委員	20191100
2	東北大学病院	医療情報利活用推進委員会	委員長	20220901
3	東北大学病院	災害対策委員会	委員	20220401

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

医療情報を利用した個人向けBCPの在り方とPHRシステムの構築と利活用方法の研究。ならびに次世代避難のあり方研究を実施している。三菱HCキャピタル社とは3年目で、災害PHRの事業化に向けてスキーム拡大を実施した。具体的には社会実装に向けてスタートアップの検討を、東北大学の関連部署と連携し進めている。カナタ株式会社と共同研究では、音声やテキスト文字から構造化データ生成技術を研究しモックの開発を行った。また特許出願を行い、国際特許出願も終了(東北大2件目、移転1件)。NTTとビジョン共有型研究は2年目であり、次世代避難のあり方や災害対応のDX化などの研究として、SNS分析を実施した。結果は論文化され国際報道がされるまでに至った。現在は、この技術の災害時活用を研究している。医療政策の面では全国協会けんぽから有識者による医療費支出に関する構造問題の委託研究を採択され開始した。地域の医療格差が可視化した。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		大規模医療情報データベース構築	国内
2	2012	4	現在		医療情報の標準化方法に関する研究	国内
3	2012	4	現在		医療情報のバリエーション手法に関する研究	国内
4	2012	4	現在		PHRシステム構築	国内
5	2019	4	現在		SIP:AIホスピタルでの医療におけるAI利用に関する研究	国内
6	2019	6	現在		個人向けBCPとPHR利用方法に関する研究	国内
7	2021	11	現在		医療に関わる構文解析技術とその応用に関する研究	国内
8	2021	11	現在		避難生活改善に資する次世代避難所構築および地域住民の防災行動促進を目的とした介入モデルの研究	国内
9	2022	3	現在		支部単位保険料率の背景にある医療費の地域差の要因に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-Time Prediction of Medical Demand and Mental Health Status in Ukraine under Russian Invasion Using Tweet Analysis	Susumu Fujii, Yasuto Kunii, Sayuri Nonaka, Yumiko Hamaie, Mizuki Hino, Shinichi Egawa, Shinichi Kuriyama, Hiroaki Tomita	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	259	3	177	188	20230300 20221202 2 Exp
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災を経験した東北大学病院の事業継続計画(BCP)策定ステップと事業継続管理(BCM)	佐々木 宏之, 古川 宗, 阿部 喜子, 藤井 進, 布田 美貴子, 藤田 基生, 丸谷 浩明, 亀井 尚, 江川 新一	精神神経学雑誌	124	3	184	191	20220330
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	医療情報の利活用の現状と問題	藤井進, 坂野哲平, 矢作尚久	小児科診療	85	12	1501	1513	20221201

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

No.	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	競争優位に導く業務改善とイノベーション	編集本(著者・Author)	20220225	矢作尚久, 梅本龍夫, 藤井進, 加藤省吾	共著	日本医療企画	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	3	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

No.	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本医療情報学会2022秋		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	札幌コンベンションセンター	札幌	日本	20221117	20221120	20221118	コロナ軽症者宿泊療養施設における入所者の健康管理強化の取り組み	中村直毅, 高山真, 井戸敬介, 井上隆輔, 藤井進, 大田英揮, 石井正, 張替秀郎	国内	2,000
2	国内	日本医療情報学会2022秋		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	札幌コンベンションセンター	札幌	日本	20221117	20221120	20221118	入院患者向け無料Wi-Fiサービスの展開における取り組み	菊地徹矢, 中村直毅, 田山智幸, 加藤文樹, 寺澤篤史, 井上隆輔, 藤井進, 大田英揮, 張替秀郎	国内	2,000
3	国内	日本医療情報学会2022秋		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	札幌コンベンションセンター	札幌	日本	20221117	20221120	20221118	病院ネットワークにおけるアクセス回線の冗長化の試み	中村直毅, 葭葉純子, 田山智幸, 菊地徹矢, 寺澤篤史, 井上隆輔, 藤井進, 大田英揮, 張替秀郎	国内	2,000
4	国内	AXIES2022		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20221213	20221215	20221213	BCPと次世代型避難のあり方の研究	藤井進, 中村直毅, 井上隆輔, 大田英揮, 張替秀郎	国内	

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	2件
----	----

No.	種別	国内国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1	特許	国内	情報処理システム	藤井進	特願2022-074989	20220428			単独の成果	国内
2	特許	国内	情報処理システム	藤井進	PCT	20220428			単独の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 2 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	WADEM2020	WADEM Tokyo 2021(延期)	予定			tokyo	japan		臨床 医学	プログラム委 員会	なし		
2	国内	シンポジウム	日本医療情報学会	医療情報学連合大会	20231122	20231125	神戸ファッション マート	神戸	日本		臨床 医学	プログラム委 員会	なし		

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院医学系研究科の医学情報学と連携し、保険医療ネットワーク概論を担当した。またIRIDeSとして災害医療情報分野の講義を実施した。また他大学でヘルスケアデザインで講義し、災害医療情報学分野の重要性を示した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	医学情報学	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
2	保健医療福祉情報ネットワーク論	東北大学	医学部	医科学科		後期	4
3	災害保健医療	東北大学	医学部	医科学科		前期	1
4	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス特論	東北大学	医学部	医科学科		後期	1
5	ヘルスケアデザイン	慶應義塾大学大学院		政策メディア研究科		前期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

医療機関向けセミナーはコロナ禍事情で開催せず、企業向けに医療情報の利活用や医療経済を中心に個別活動を行った。またアカデミアコンサルティングとして企業に特許使用など技術支援など協議した。研究成果はプレスリリースを行い、広く社会に発信した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	特別講演会&ワーク ショップ	講演	20221222	20221222	「次世代型避難所に向けたIRIDeSスタン ダード」	なし	災害医療国際 協力学分野	東北大学災害 科学国際研究 所 会議・セミ ナー室	仙台市	日本	20

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	デジタル庁	市川老石、他	20230131	会議	on-line		その他	5

# 千田 浩一 教授

## CHIDA Koichi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1					東北大学大学院	医学系研究科	2003	3	博士(障害科学)	2003	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	2003	3	東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科	助手
2	2003	4	2007	3	東北大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻	助手
3	2007	10	2008	3	東北大学大学院医学系研究科 放射線技術科学専攻	准教授
4	2008	4	2009	9	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	准教授
5	2009	10	2012	3	東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻放射線技術科学コース	教授
6	2012	4	2013	3	東北大学災害科学国際研究所 教授兼任	教授
7	2013	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 教授(東北大学大学院医学系研究科兼任)	教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本放射線技術学会	日本医学放射線学会	日本医学物理学会	医用画像情報学会	日本アイトープ協会	医学物理学会	日本消化器がん検診学会	日本放射線安全管理学会	日本放射線影響学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線技術学会	評議員会	評議員	20050000
2	日本放射線技術学会	理事会	理事	20150000
3	日本放射線技術学会	東北部会	理事	20130000
4	医学物理学会	試験委員会	委員	20130000
5	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構	試験委員会	委員	20130000
6	American Journal of Roentgenology	査読委員	査読委員	20130000
7	日本放射線技術学会	編集委員会	副委員長(統括)	20170000
8	日本放射線技術学会	秋季学術大会	大会長	20180000

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	放射線医学	放射線技術科学	災害放射線医学	医用工学・物理学	内部障害学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	放射線取扱主任者専門部会	専門部員	20130000
2	医学系研究科	安全衛生委員会	委員	20130000
3	医学系研究科	放射線障害予防委員会	放射線(RI)取扱主任者	20130000
4	医学系研究科	放射線障害予防委員会	X線取扱主任者	20130000
5	医学系研究科	ラジオアイソトープセンタ運営委員会	委員	20130000
6	メディカルメガバンク	運営委員会	委員	20130000
7	保健学科	放射線管理実務部会	責任者	20130000
8	保健学科	放射線技術科学専攻キャリア支援	担当者	20130000
9	全学	研究教育基盤技術センター運営専門委員会	委員	20150000
10	病院	緊急被ばく医療専門委員会	委員	20150000
11	全学	放射線安全管理責任者	責任者	20130000
12	全学	研究倫理相談窓口	担当者	20160000
13	全学	研究公正アドバイザー	担当者	20160000
14	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会	委員	20150000
15	全学	東北大学附属図書館医学分館運営委員会	運営委員	20190401
16	全学	環境・安全委員会 原子科学安全専門委員会	放射線安全取扱いに関する全学講習会委員	20200401

B. 研究活動

研究活動の概要

千田は大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し研究教育等を担当。1. 患者・術者等の被曝評価防護研究、2. 放射線機器最適化研究、3. 災害放射線医学関連研究、特に「医療被曝関連研究」を今年度も多く実施。医学に利用される放射線は大部分が低線量被曝であるため、医療被曝関連研究は原子力災害時における低線量被曝研究を行う上で重要な基盤となる。さらに「災害放射線医学関連研究」として、①福島原発事故起因医用X線写真黒点に関する研究。②原発事故相談窓口での電話相談内容分析や対応検討。③低線量被曝スクリーニング法開発等。④災害医療用のX線撮影システムを継続実施(無電源時におけるX線画像撮影システムの開発)。 加えて水晶体被曝関連研究及び不均等被曝研究も精力的に実施し厚労省検討会にて研究成果が活用されるなど関係法令改正に貢献した。さらに厚労省労災疾病臨床研究「眼の水晶体の放射線防護に資する器材開発推進および被ばく低減のための多角的研究」や規制庁原子力規制人材育成事業(実践的な課題解決能力を持つ高度放射線防護人材育成研究)を実施。厚労省労災疾病臨床研究成果の一部がプレスリリース(2022年8月25日。「画像下治療(IVR)術者用の新しい放射線防護具を開発 放射線白内障等の発生リスク低減へ」)https://www.med.tohoku.ac.jp/5187/

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1990	4	現在		放射線被曝研究	
2	1990	4	現在		医用機器QC・QA	
3	2000	4	現在		リン MRS研究	
4	2012	4	現在		災害放射線医学研究	

論文

単著	0	筆頭共著	18	その他の共著	0	合計	18	うち	国際査読有	10	国際査読無	0	国内査読有	8	国内査読無	0
----	---	------	----	--------	---	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有		野生ニホンザル体内の放射性セシウム濃度および被ばく線量と体内酸化ストレス状態の関係	石川諒輝、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽崇、高橋温、清水良央、鈴木敏彦、篠田壽、山下琢磨、奥津賢一、福本学、千田浩一	KEK 第23回環境放射能ワークショップ報告書		2	61	66	2022
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Evaluation of Peak Skin Doses and Lens Doses during Interventional Neuroradiology Using a Direct Measurement System.	Satoru Kawauchi, Koichi Chida, Takashi Moritake, Yusuke Hamada, Shogo Yoda, Hideyuki Sakuma, Wataro Tsuruta, Yuji Matsumaru.	Journal of Neuroendovascular Therapy,	16	10	491	497	2022
3	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Evaluation of radiation dose for inferior vena cava filter placement during pregnancy: A comparison of dosimetry and dose calculation software	Yuta Matsunaga, Tomonobu Haba, Masanao Kobayashi, Shoichi Suzuki, Yasuki Asada, Koichi Chida	Journal of Applied Clinical Medical Physics	24	2	e13884		2023
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		LENS EQUIVALENT DOSE OF STAFF DURING ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY: DOSE COMPARISON USING TWO TYPES OF DOSEMETERS	Yoshiaki Morishima, Koichi Chida, Takayoshi Meguro, Morihisa Hirota, Hiroo Chiba and Hiroshi Fukuda	Radiation Protection Dosimeter	25	198	1368	1376	2022.10
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Development of a New Radiation Shield for the Face and Neck of IVR Physician.	Toshimitsu Sato, Yoichi Eguchi, Chika Yamazaki, Takanobu Hino, Toshikazu Saida, Koichi Chida.	Bioengineering,	9	8	354		2022
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Awareness of Medical Radiologic Technologists of Ionizing Radiation and Radiation Protection	Yashima, S.; Chida, K.	International Journal of Environmental Research and Public Health,	20	1	497		2023
7	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有		経皮的冠動脈形成術における治療区域別被ばく線量とDRLs 2020の比較.	増淵裕介、千田浩一、稲葉洋平、景山倫也、嶋田涼香、山下明	日本放射線技術学会雑誌	78	11	1306	1313	2022
8	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Dynamic coronary CT Angiography-Estimated coronary flow in Spatial Scattering Radiation to the Radiological Technologist during Medical Mobile Radiography.	Kazuki Otomo, Yohei Inaba, Keisuke Abe, Mana Onodera, Tomohiro Suzuki, Masahiro Sota, Yoshihiro Haga, Masatoshi Suzuki, Masayuki Zuguchi, Koichi Chida.	Bioengineering,	10	2	259		2023
9	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Non-Obstructive, Plaque-free coronary Arteries: Association with dyslipidemia and diabetes. Int	Izoe Y, Nagao M, Sato K, Sakai A, Ando K, Kanai M, Yamamoto A, Sakai S, Chida K.	J Cardiol Heart Vasc.	42		101098		2022.10
10	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Optimization of Intraventricular Radioactive Concentration for 13N ammonia PET with Time-of-Flight Scanner -Simplified Phantom Study with Noise Equivalent Count Rate analysis-	Kaimoto Y, Fukushima K, Kanaya K, Asanuma M, Aoba K, Yamamoto A, Nakao R, Kaneko K, Nagao M, Chida K.	Annals of Nuclear Cardiology (ANC)					2023.02
11	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有		歯科用CBCTにおける回転角度の違いが画質に及ぼす影響:物理評価による検討	Ito M, Onodera S, Kojima I, Chida K.	医用画像情報学会雑誌	39	2	38	42	2022
12	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有		Evaluation of a New Real-Time Dosimeter Sensor for Interventional Radiology Staff.	Hattori K, Inaba Y, Kato T, Fujisawa M, Yasuno H, Yamada A, Haga Y, Suzuki M, Zuguchi M, Chida K.	Sensors,	23	1	512		2022
13	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有		無線応答式新型リアルタイム線量計の電波応答に関する検討.	服部兼進、加藤聖規、山田歩実、藤沢昌輝、安野ひかる、芳賀喜裕、曾田真宏、加賀勇治、阿部美津也、稲葉洋平、千田浩一	日本放射線安全管理学会誌	22	1			2023

14	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	心臓カテーテルインターベンションに携わる看護師の 水晶体被ばく-水晶体線量の左右差に関する比較評 価-	山田歩実、大友一輝、佐藤文 貴、芳賀喜裕、曾田真宏、加 賀勇治、阿部美津也、加藤砂 江子、稲葉洋平、千田浩一	日本放射線安全管理学 会誌	20	2	52	60	2022
15	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	野生ニホンザル体内の放射性セシウム濃度および被ば く線量と体内酸化ストレス状態の関係	石川諒、鈴木正敏、木野康 志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽 崇、高橋温、清水良夫、鈴木 敏彦、篠田壽、山下琢磨、奥 津賢一、福本学、千田浩一	Proceedings of the 23rd Workshop on Environmental Radioactivity,			61	66	2022
16	日本語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	PET 検査に従事する看護師の水晶体被ばく線量に関 する基礎検討	藤沢昌輝、芳賀喜裕、曾田真 宏、加賀勇治、阿部美津也、 稲葉洋平、鈴木正敏、細井義 夫、千田浩一	臨床放射線,	67	10	1075	1083	2022
17	日本語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	Effective Risk Communications through Personalized Consultations with Pregnant Women and Parents by Radiologic Technologists after the 2011 Fukushima Daiichi Nuclear Disaster.	Yashima S, Chida K	Tohoku J Exp Med.	256	4	259	269	2022
18	日本語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	PHANTOM STUDY OF THE ENTRANCE SURFACE DOSE OF A NEW CT SCOUT ACQUISITION THAT ALSO SERVES AS A TUBE WARM-UP.	Ota J, Yokota H, Higashida R, Komiya R, Kawakami Y, Chida K, Masuda Y, Uno T.	10: Radiat Prot Dosimetry	198	6	334	338	2022

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1 英語	What are useful methods to reduce occupational radiation exposure among radiological medical workers, especially for interventional radiology personnel?	学術雑誌	有	はい	Radiol Phys Technol	15	2	101	115	2022	Chida K doi: 10.1007/s12194-022- 00660-8	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	36	合計	37
----	---	------	---	--------	----	----	----

	国内国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	IAEA First Research Coordination Meeting		その他の連名		口頭(一般)		ウィーン	オーストリア	202203			Establishment and Improvement of External Dosimetry Using the Model of Wild Japanese Macaque and the Large Japanese Field Mice (Apodemus Speciosus) in Fukushima for the Evaluation of Long-Term Low Dose Exposure. Improving external dosimetry for terrestrial animals and plants,	Masatoshi Suzuki, Yasushi Kino, Yohei Inaba, Toshitaka Oka, Hideaki Yamashiro, Tomisato Miura, Satoru Endo, Koichi Chida, Manabu Fukumoto,		
2	国内	第24回環境放射能研究会	別所光太郎	その他の連名		口頭(一般)	高エネルギー加速器研究機構	茨城	日本	202303			福島原発事故放射能汚染調査における比較放射能測定のための試料調整,	石川諒也、岩見聡音、尾田晃平、小野健太、小菅崇、木野康志、山下琢磨、石川諒、磯部理央、鈴木正敏、千田浩一、福本学		
3	国内	産業医科大学放射線衛生管理学会研究室カンファレンス		その他の連名		口頭(一般)	産業医科大学放射線衛生管理学会研究室カンファレンス	福岡	日本	202302			被災動物の包括的線量評価事業,	鈴木正敏、千田浩一、福本学		
4	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名		口頭(一般)		東京	日本	202210			低線量・低線量率放射線の長期被ばくによる肝臓の酸化ストレス状態の変動,	石川諒、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、稲葉洋平、福本学、千田浩一		
5	国内	日本放射線影響学会第65回大会	児玉 靖司	その他の連名		口頭(一般)		大阪	日本	202209			野生ニホンザルと動物実験マウスの肝臓を用いた低線量・低線量率放射線被ばくによる酸化ストレスマーカー-MDA濃度変化の検討,	鈴木正敏、石川諒、中島裕夫、木野康志、遠藤暁、磯部理央、千田浩一、福本学		
6	国内	日本放射線影響学会第65回大会	児玉 靖司	その他の連名		口頭(一般)		大阪	日本	202209			福島第一原子力発電所事故後の旧警戒区域における放射線被ばくが野生ニホンザルの肝臓と膀胱の酸化ストレス状態に及ぼす影響,	石川諒、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽崇、高橋温、清水良夫、鈴木敏彦、篠田壽、山下琢磨、奥津賢一、磯部理央、福本学、千田浩一		
7	国内	日本放射線影響学会第65回大会	児玉 靖司	その他の連名		口頭(一般)		大阪	日本	202209			トリチウム標識チミンの持続処理に対する耐性獲得過程におけるG1期停止機構関連因子の放射線応答,	磯部理央、鈴木正敏、鈴木啓司、木野康志、石川諒、福本学、千田浩一		
8	国内	第5回バイスタンダー効果とラジカル研究会		その他の連名		口頭(一般)	奈良県立医科大学	奈良	日本	202206			福島第一原子力発電所事故に被災した野生ニホンザル臓器中の酸化ストレス状態,	鈴木正敏、稲葉洋平、福本学、千田浩一		
9	国際	RSNA2022,		その他の連名		口頭(一般)		シカゴ	アメリカ	202211			Three-dimensional fusion technique with CT and LG-E-MRI for Cardiac Resynchronization Therapy	Yoshihiro Haga, Koichi Chida, Yuji Kaga, Masahiro Sota, Mitsuya Abe, Katsumi Tsujioka, Shuichi Ono, Taiichirou Meguro,		

10	国内	第38回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会	藤中 俊之	その他の連名	口頭(一般)	大阪	日本	202211			脳神経外科のIVR術者に対する新たな頭頸部用放射線防護具の臨床評価.	信去章宏、日野隆信、山崎智香、佐藤俊光、鈴木幸司、才田壽一、江口陽一、千田浩一、前田賢
11	国内	第51回日本IVR学会総会	山門 亨一郎	その他の連名	口頭(一般)	神戸	日本	202206			新たな頭頸部用放射線防護具の有用性について.	山崎智香、日野隆喜、佐藤俊光、信去章宏、鈴木幸司、前田賢、才田壽一、江口陽一、千田浩一
12	国内	第78回日本放射線技術学会総会学術大会	白石 順二	その他の連名	口頭(一般)	横浜	日本	202204			Head and Neck Protective Effect with New Radiation Protective Equipment for Head and Neck	日野隆喜、山崎智香、佐藤俊光、信去章宏、鈴木幸司、才田壽一、江口陽一、千田浩一、前田賢
13	国内	第30回日本心血管インターベンション治療学会	伊苺 裕二	その他の連名	口頭(一般)	横浜	日本	202207			新しい頭頸部用放射線防護具の防護効果.	日野隆喜、山崎智香、佐藤俊光、信去章宏、鈴木幸司、才田壽一、江口陽一、千田浩一、前田賢、細蓋洋
14	国内	第78回日本放射線技術学会総会学術大会	白石 順二	その他の連名	口頭(一般)	横浜	日本	202204			ERCPIにおける基準空気カーマと入射表面空気カーマの乖離に関する基礎的検討.	石井浩生、安部圭亮、稲葉洋平、石塚真澄、坂本博、千田浩一
15	国内	第12回東北放射線医療技術学術大会	金沢 勉	その他の連名	口頭(一般)	新潟	日本	202211			ERCP従事者の放射線防護に関する基礎的検討〜X線管位置および防護カーテンによる違いへ.	石井浩生、安部圭亮、小野寺崇、坂本博、稲葉洋平、千田浩一
16	国内	第12回東北放射線医療技術学術大会	金沢 勉	その他の連名	口頭(一般)	新潟	日本	202211			脳血管造影におけるマスク撮影フレーム数の最適化にむけた造影剤注入遅延時間短縮の検討.	越谷幸大、千田浩一、松田善和
17	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名	口頭(一般)	東京	日本	202210			災害時用ポータブルX線発生装置のシステム開発.	加藤聖規、藤沢昌輝、村林優樹、稲葉洋平、千田浩一
18	国内	第12回東北放射線医療技術学術大会	金沢 勉	その他の連名	口頭(一般)	新潟	日本	202211			被ばく防護の実際と実践 一水晶体被ばく線量のリアルタイム解析について.	加藤聖規、藤沢昌輝、服部兼進、山田歩実、芳賀喜裕、加賀勇治、阿部美津也、稲葉洋平、千田浩一
19	国内	第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会		その他の連名	口頭(一般)	福岡	日本	202211			心臓IVR術者における水晶体等価線量のリアルタイム測定に関する基礎的検討.	加藤聖規、藤沢昌輝、服部兼進、山田歩実、芳賀喜裕、加賀勇治、阿部美津也、稲葉洋平、千田浩一
20	国際	RSNA2022.		その他の連名	口頭(一般)	シカゴ	アメリカ	202211			Current Status and Future of Personal Dose Management-Necessity for Real-Time Measurement of the Occupational Radiation Dose in Interventional Radiology.	Hattori K, Kato T, Fujisawa M, Yamada A, Inaba Y, Chida K.
21	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名	口頭(一般)	東京	日本	202210			従事者被ばく測定用新型リアルタイム線量計の電波特性.	服部兼進、加藤聖規、山田歩実、藤沢昌輝、芳賀喜裕、阿部美津也、稲葉洋平、千田浩一
22	国際	European Congress of Radiology(ECR) 2022		その他の連名	口頭(一般)	ウィーン	オーストリア	202207			Relationship between fluoroscopic time, dose-area product, body weight, and maximum patient radiation skin dose in pediatric cardiac catheterization and interventional procedures.	A. Yamada, K. Chida
23	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名	口頭(一般)	東京	日本	202210			心臓・血管系IVR看護師の長期間測定による水晶体被ばく線量評価に関する検討.	山田歩実、芳賀喜裕、曾田真宏、加賀勇治、阿部美津也、稲葉洋平、千田浩一
24	国内	第7回 福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	福本学	その他の連名	口頭(一般)	仙台	日本	202208			福島第一原子力発電事故後の旧警戒区域における野生ニホンザルの放射線被ばくと肝臓や膀胱の酸化ストレス状態の関連性.	石川諒徳、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽崇、高橋温、清水良央、鈴木敏彦、篠田壽、山下琢磨、奥津賢一、磯部理央、福本学、千田浩一
25	国内	第65回日本放射線影響学会	児玉 靖司	その他の連名	口頭(一般)	大阪	日本	202209			Influence on the oxidative stress status in liver and bladder of wild Japanese macaques in response to radiation exposure in the evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident.	石川諒徳、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽崇、高橋温、清水良央、鈴木敏彦、篠田壽、山下琢磨、奥津賢一、磯部理央、福本学、千田浩一
26	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名	口頭(一般)	東京	日本	202210			低線量・低線量率放射線の長期被ばくによる肝臓の酸化ストレス状態の変動.	石川諒徳、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、稲葉洋平、福本学、千田浩一
27	国内	第2回 若手放射線影響研究会		その他の連名	口頭(一般)	神奈川	日本	202301			野生ニホンザルの放射線被ばくと肝臓・膀胱における酸化ストレス状態の関連性.	石川諒徳、鈴木正敏、木野康志、遠藤暁、中島裕夫、岡壽崇、高橋温、清水良央、鈴木敏彦、篠田壽、山下琢磨、磯部理央、福本学、千田浩一
28	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名	口頭(一般)	東京	日本	202210			バイプレーン型血管造影装置使用時のIVR術者におけるリアルタイム水晶体線量測定.	藤沢昌輝、加藤聖規、服部兼進、山田歩実、芳賀喜裕、加賀勇治、阿部美津也、千田浩一
29	国内	第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会	吉田 浩子	その他の連名	口頭(一般)	福岡	日本	202211			災害用X線撮影システムの開発と胸部ファントム撮影時における空間線量に関する基礎的検討.	藤沢昌輝、加藤聖規、村林優樹、稲葉洋平、細井義夫、千田浩一
30	国際	European Congress of Radiology (ECR2023)		その他の連名	口頭(一般)	ウィーン	オーストリア	202303			A mobile radiography system for disaster medicine: The novel X-ray system and its basic characteristics.	Fujisawa M, Kato T, Murabayashi Y, Inaba Y, Hosoi Y, Chida K

31	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名		口頭(一般)		東京	日本	202210		0.07mm鉛当量防護眼鏡のタイプによるX線遮断率の比較.	大野紗耶、磯部理央、進藤優太、山本啓介、郷内優作、古川未来、稲葉洋平、千田浩一
32	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名		口頭(一般)		東京	日本	202210		オーバーグラスタイプ防護眼鏡の放射線防護効果に関する基礎的検討.	進藤優太、大野紗耶、磯部理央、山本啓介、郷内優作、古川未来、芳賀喜裕、稲葉洋平、千田浩一
33	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名		口頭(一般)		東京	日本	202210		ポータブルX線撮影時における従事者の水晶体被ばくに関する検討 - 臨床データをを用いた研究 -.	今田駿恵、大友一輝、芳賀喜裕、曾田真宏、阿部美津也、加賀勇治、稲葉洋平、千田浩一
34	国内	第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会	吉田 浩子	その他の連名		口頭(一般)		福岡	日本	202211		水晶体用線量計DOSIRIS®の改良型ヘッドセットに関する初期検討.	今田駿恵、芳賀喜裕、曾田真宏、阿部美津也、加賀勇治、稲葉洋平、千田浩一
35	国内	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	飯田 紀世一	その他の連名		口頭(一般)		東京	日本	202210		全身用体表汚染検査装置の性能に関する基礎的検討.	田辺真子、千田浩一
36	国内	第12回東北放射線医療技術学術大会	金沢 勉	その他の連名		口頭(一般)		新潟	日本	202211		指定箇所検査用放射能汚染モニタのバックグラウンド測定等の基礎的検討.	中村美緒、千田浩一
37	国内	第78回日本放射線技術学会総会学術大会	白石 順二	単名	はい	口頭(基調)	パシフィコ横浜	神奈川	日本	202204		「放射線診療従事者の被ばく低減」(報題報告).	千田浩一

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計 1 件

種別	国内/国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1 特許	国内	放射線防護具	千田浩一、ほか	特願2022-144770	20220912			学外共同の成果	国内

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内/国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名/名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	医用画像情報学会	医用画像情報学会秋季大会	20221001	20221001	東北大学星陵オーデトリウム	仙台	日本	200	臨床医学	大会長	IRIDeS後援・名義後援		

C. 教育活動

教育活動の概要

22名の大学院生(研究生含む)と5名の卒業研究学生を直接指導している。東北大学大学院講義の放射線検査学特論(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。東北大学大学院講義の放射線検査学セミナー(集中講義)にて、災害放射線に関する講義を毎年行っている。千田は、大学院医学系研究科放射線検査学分野及び同医学部保健学科を兼務し、多数の大学院講義や学部講義や学生実験などを担当している。また放射線技術科学専攻キャリア支援責任者として、学生面談やマッピングや書類添削や面接指導等々を指導した。指導する大学院生が計測自動制御学会SICE優秀学生賞を今年も受賞した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	基礎ゼミ	東北大学	全学		1	1セメ	15
2	カレントトピックス	東北大学	全学		1	1セメ	1
3	応用セミナーI	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
4	分野セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
5	分野特論	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
6	放射線計測学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
7	放射線計測学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
8	放射線基礎医学 物理	東北大学	医学部	医学科	2	3セメ	3
9	医用工学	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
10	放射線計測学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
11	放射線計測学実験II	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ	15
12	医用工学実習	東北大学	医学部	保健学科	4	7セメ	2
13	放射線機器工学I	東北大学	医学部	保健学科	2	4セメ	15
14	放射線機器工学II	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
15	放射線技術学実験I	東北大学	医学部	保健学科	3	5セメ	15
16	放射線技術学実験II	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ	15
17	基礎セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
18	応用セミナー	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
19	Paper research & Basic seminar	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
20	Doctoral Dissertation Research	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
21	Clinical Radiological Technique Seminar I	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
22	Technique of clinical Imaging	東北大学	医学研究科	医学研究科			2
23	Clinical Radiological Technique Seminar II	東北大学	医学研究科	医学研究科			15
24	Radiation Dosimetry	東北大学	医学研究科	医学研究科			15



25	Radiation Equipment Engineering	東北大学	医学研究科	医学研究科				15
26	Laws and Regulations for Radiologic Technologist	東北大学	医学研究科	医学研究科				15
27	Radiological Examination and Technology	東北大学	医学研究科	医学研究科				15
28	放射線関係法規	東北大学	医学部	保健学科	3	6セメ		15
29	卒業研究	東北大学	医学部	保健学科	4	8セメ		15
30	災害の科学	東北大学	全学		1	2セメ		1
31	放射線工学概論	東北文化学園大学	科学技術学部	臨床工学科	2	4セメ		15
32	臨床撮影技術学Ⅰ	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ		7
33	医用写真学	東北大学	医学部	保健学科	2	3セメ		4

D. 社会活動

社会活動の概要

厚労省検討会にて法令改正(水晶体線量限度等や経過措置)に関する意見申や提言を行った。原子力規制庁実践的な課題解決能力を持つ高度放射線防護人材育成プログラムを開始した。仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)として防災計画作成活動を行っている。JST研究成果最適展開支援専門委員やJSTマッチングプランナー専門委員、JST A-STEP審査委員、そして科研費審査委員等を担当した。放射線の知識の普及のための教育講演活動等(放射線と放射能の基礎知識など)、放射線等に対する正しい知識の普及などのためのパンフレット改良と電子教材作成開発改良やその他の社会活動を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	宮城県原子力防災基礎研修	講演	20220809	20220809	放射線と放射能の基礎知識	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	仙台国際センタ	仙台市	日本	100
2	セミナー	宮城県原子力防災基礎研修	講演	20220810	20220810	放射線と放射能の基礎知識	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	仙台国際センタ	仙台市	日本	100
3	セミナー	宮城県原子力防災基礎研修	講演	20220812	20220812	放射線と放射能の基礎知識	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	河北総合センタ	石巻市	日本	100
4	セミナー	宮城県原子力防災輸送関係者研修	講演	20220216	20220216	放射線防護のために必要な基礎知識	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	マルホンまきあーとテラス	石巻市	日本	30
5	セミナー	宮城県原子力防災輸送関係者研修	実習実演	20220216	20220216	(実習)身の回り放射性物質確認	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	マルホンまきあーとテラス	石巻市	日本	30
6	セミナー	宮城県原子力防災輸送関係者研修	講演	20220217	20220217	放射線防護のために必要な基礎知識	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	仙台国際センタ	仙台市	日本	30
7	セミナー	宮城県原子力防災輸送関係者研修	実習実演	20220217	20220217	(実習)身の回り放射性物質確認	行政	公益財団法人原子力安全技術センター	仙台国際センタ	仙台市	日本	30

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	仙台市防災会議専門委員(及び原子力防災部会委員)	委員	20120000
2	国・政府	JST研究成果最適展開支援専門委員	JST研究成果最適展開支援専門委員	委員	20150000
3	国・政府	JSTマッチングプランナー専門委員	JSTマッチングプランナー専門委員	委員	20150001
4	国・政府	JST A-STEP審査委員	JST A-STEP審査委員	審査委員	20210001
5	国・政府	厚労省	厚労省検討会	有識者	20190000
6	国・政府	原子力規制庁	水晶体被ばくガイドライン作成班	班員	20190000
7	国・政府	日本学術振興財団	科研費審査委員	科研費審査委員	20150001

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 4 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	産総研	孫 略	2021	共同研究	東北大学	仙台	その他	30
2	量子科学技術研究開発機構	盛武 敬ほか	2021	共同研究	東北大学	仙台	講演・発表	20
3	産業医大	喜多村 紘子ほか	2021	共同研究	東北大学	仙台	その他	20
4	九州大学	藤淵俊王	2021	共同研究	東北大学	仙台	その他	10

鈴木 正敏 講師

SUZUKI Masatoshi

災害医学研究部門 災害放射線医学分野

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	茨城県立医療大学	保健医療学部	2000	3	長崎大学	大学院歯薬学総合研究科	2006	3	博士(学術)	2006	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2006	4	2008	1	テキサス大学 サウスウェスタンメディカルセンターダラス校	博士研究員
2	2008	2	2012	3	長崎大学 大学院歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	博士研究員
3	2011	11	2011	12	オーストラリアクイーンズランド医科学研究所	特別研究員
4	2012	4	2012	6	長崎大学 大学院歯薬学総合研究科 原爆後障害医療研究施設	助教
5	2012	7	2017	3	東北大学 加齢医学研究所	助教
6	2017	4	2019	3	東北大学 災害復興新生研究機構	助教
7	2019	4	2019	4	東北大学 災害復興新生研究機構	講師
8	2019	5	現在		東北大学 災害科学国際研究所	講師

学会活動

所属学会

学会名 1
日本放射線影響学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本放射線影響学会		学術評議員	20130000
2	日本放射線影響学会	規約委員会	副委員長	20230000
3	日本放射線影響学会	論文紹介企画小委員会	副委員長	20160000
4	ブラズマ・核融合学会	専門研究会「核融合実現にむけたトリチウム諸課題の検討」	委員	20210400

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	放射線生物学	放射線影響学	放射線防護学	分子細胞生物学	分子イメージング

B. 研究活動

研究活動の概要

「低線量・低線量率放射線への持続的な被ばく」をキーワードとして、放射線災害後の環境放射能による影響とトリチウムによる影響解析を実施した。福島第一原子力発電所事故後の旧警戒区域に生息していた野生ニホンザルの駆除個体の提供を受けて試料収集と解析を行い、被ばく線量評価方法の確立に関して国際原子力機関 (IAEA) との国際共同研究を開始した。トリチウム影響については、トリチウム水や知見の少ない有機結合型トリチウムを用いた解析を行い、生物学的特徴を取り入れた被ばく線量評価系の開発に取り組んだ。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2000	4	現在		放射線被ばくによる分子・細胞生物学的影響解析	国内
2	2012	7	現在		福島原発事故で被災した野生動物試料を用いた被ばく線量評価と生物影響解析	両方
3	2013	4	現在		トリチウムによる細胞影響評価	国内
4	2015	4	現在		放射性微粒子による被ばく線量評価と生物影響解析	国内
5	2018	4	現在		放射性セシウム飲水マウス試料を用いた酸化ストレスを中心とする被ばく影響解析	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	その他	有	いいえ	野生ニホンザル体内の放射性セシウム濃度および被ばく線量と体内酸化ストレス状態の関係	石川諒輝, 鈴木正敏, 木野康志, 遠藤暁, 中島裕夫, 岡壽崇, 高橋温, 清水良央, 鈴木敏彦, 篠田壽, 山下琢磨, 奥津賢一, 福本学, 千田浩一	KEK Proceedings of the 23rd Workshop on Environmental Radioactivity	2022	2	61	66	
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evaluation of a New Real-Time Dosimeter Sensor for Interventional Radiology Staff.	Hattori K, Inaba Y, Kato T, Fujisawa M, Yasuno H, Yamada A, Haga Y, Suzuki M, Zuguchi M, Chida K.	Sensors (Basel)	23	1	512		20230103
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Spatial Scattering Radiation to the Radiological Technologist during Medical Mobile Radiography	Otomo K, Inaba Y, Abe K, Onodera M, Suzuki T, Sota M, Haga Y, Suzuki M, Zuguchi M, Chida K	Bioengineering	10		259		20230216

学会発表

単名	0	筆頭連名	5	その他の連名	8	合計	13
----	---	------	---	--------	---	----	----

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数	
									開始年月	終了年月						
1	国内	第5回バイスタンダー効果とラジカル研究会	葉子野元郎	筆頭連名	はい	口頭(招待)	オンライン	オンライン	日本	20220624	20220624	20220624	福島第一原子力発電所事故に被災した野生ニホンザル臓器中の酸化ストレス状態	鈴木正敏, 千田浩一, 福本学	国内	20
2	国内	第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学電子光理学研究センター	仙台	日本	20220828	20220828	20220828	福島第一原発事故の被災地における野生ニホンザルの甲状腺病変	大月聡明, 鈴木正敏, 木野康志, 大野剛, 遠藤暁, 山城秀昭, 福本学	国内	55
3	国内	第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学電子光理学研究センター	仙台	日本	20220828	20220828	20220828	染色体転座を指標とした被災ニホンザルの長期影響調査	三浦富智, 鈴木正敏, 藤嶋洋平, 有吉健太郎, 竹林花依, 中山亮, Anderson Donovan, 木野康志, 遠藤暁, 千田浩一, 吉田光明, 福本学	国内	55
4	国内	第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学電子光理学研究センター	仙台	日本	20220828	20220828	20220828	ニホンザル行動GPSデータの解析	遠藤暁, LEE KIYOUNG, 梶本剛, 鈴木正敏	国内	55
5	国内	第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学電子光理学研究センター	仙台	日本	20220828	20220828	20220828	<sup>134</sup> Cs, <sup>137</sup> Cs, <sup>131</sup> Iにおけるニホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数の推定	高村信達, 梶本剛, 田中憲一, 山本智也, 鈴木正敏	国内	55
6	国内	第7回福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	鈴木正敏	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	東北大学電子光理学研究センター	仙台	日本	20220828	20220828	20220828	旧警戒区域の野生ニホンザル肝臓における酸化ストレスマーカーの変動と動物実験での検証	鈴木正敏, 石川諒輝, 中島裕夫, 磯部理央, 千田浩一, 福本学	国内	55
7	国内	日本放射線影響学会第65回大会	児玉靖司	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	大阪公立大学	大阪	日本	20220915	20220917	20220917	野生ニホンザルと動物実験マウスの肝臓を用いた低線量・低線量率放射線被ばくによる酸化ストレスマーカーMDA濃度変化の検討	鈴木正敏, 石川諒輝, 中島裕夫, 木野康志, 遠藤暁, 千田浩一, 福本学	国内	300
8	国際	Radiation Research Society's 68th Annual Meeting	Sally A. Amundson	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	Waikoloa Village	ハワイ	アメリカ	20221016	20221019	20221017	Dosimetry of external exposure dose for wild Japanese macaques lived in Fukushima using tooth enamel	Yusuke Mitsuyasu, Toshitaka Oka, Atsushi Takahashi, Yasushi Kino, Kenichi Okutsu, Tsutomu Sekine, Takuma Yamashita, Yoshinaka Shimizu, Mirei Chiba, Toshihiko Suzuki, Ken Osaka, Keiichi Sasaki, Masatoshi Suzuki, Manabu Fukumoto, Hisashi Shinoda	国内	800
9	国内	第54回日本臨検分子形態学会総会・学術集会	北岡隆	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	長崎大学	長崎	日本	20221104	20221105	20221104	低線量被ばくによる水晶体の組織学的解析	山本直樹, 平松範子, 鈴木正敏, 福本学	国内	300
10	国内	第16回中国・四国支部研究発表会	遠藤暁	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	RCC文化センター	広島	日本	20221217	20221217	20221217	<sup>134</sup> Cs, <sup>137</sup> Cs, <sup>131</sup> Iにおけるニホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数の推定	高村信達, 梶本剛, 田中憲一, 山本智也, 鈴木正敏, Chary RANGACHARYULU, 遠藤暁	国内	50
11	国内	第16回中国・四国支部研究発表会	遠藤暁	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	RCC文化センター	広島	日本	20221217	20221217	20221217	肺組織切片上の放射性微粒子のPIXE分析法の検討	畑和慶, 鈴木正敏, 山田裕, 梶本剛, 遠藤暁	国内	50
12	国内	放射線衛生管理学会研究室カンファレンス	岡崎龍史	筆頭連名	はい	口頭(招待)	産業医科大学	北九州	日本	20230217	20230217	20230217	被災動物の包括的線量評価事業～福島第一原子力発電所事故後の放射線被ばくによる生物影響解析～	鈴木正敏, 千田浩一, 福本学	国内	50
13	国内	環境放射線研究会	別所光太郎	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	高エネルギー加速器研究機構	つくば	茨城	20230306	20230308	20230306	福島原発事故放射線汚染調査における比較射能測定のための試料調整	石川諒輝, 岩見聡音, 尾田晃平, 小野健太, 小菅梁, 木野康志, 山下琢磨, 石川諒輝, 磯部理央, 鈴木正敏, 千田浩一, 福本学	国内	80
14	国際	First Research Coordination Meeting	Alexander Ulanowski	筆頭連名	はい	口頭(招待)	IAEA Headquarters	ウィーン	オーストリア	20230313	20230317	20230313	Establishment and Improvement of External Dosimetry Using the Model of Wild Japanese Macaque and the Large Japanese Field Mice (Apodemus Speciosus) in Fukushima for the Evaluation of Long-Term Low Dose Exposure	Masatoshi Suzuki, Yasushi Kino, Yohei Inaba, Toshitaka Oka, Hideaki Yamashiro, Tomisato Miura, Satoru Endo, Koichi Chida, Manabu Fukumoto	両方	20

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%非属人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所災害放 射線医学分野	第7回福島原発事故による周辺生物 への影響に関する勉強会	20220828	20220828	東北大学電子光理 学研究センター	仙台	日本	55 (3)	基礎生命 科学	世話人	なし		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院生2名の研究指導を行ない、本年度の成果を7件の学会発表と1件のプロシーディングスとして報告した。また、放射線災害に関する講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	semester・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	2セメ	1
2	福島の復興・再生	東北大学	全学		1	2セメ	1
3	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	全学			後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

自治体が主催する原子力災害対応研修会に講師として参加し、放射線の基礎から原子力災害時の対応に関する講演を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	令和4年度福島県庁研修 会	招待講演	20221026	20221026	放射線・原子力発電所廃炉基礎	行政	福島県庁	福島県庁	福島市	日本	80
2	講演会	令和4年度山形県放射 線・原子力災害対策研修 会	招待講演	20230124	20230124	放射線の基礎と原子力災害対策	行政	山形県庁	オンライン	山形市	日本	80

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	公益財団法人環境科学技術研究所	トリチウム生体影響調査検討委員会	委員	20220500

# 國井 泰人 准教授

## KUNII Yasuto

災害医学研究部門 災害精神医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

No.	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	2001	3	福島県立医科大学	医学研究科	2010	3	M.D., Ph.D.	2010	3

#### 職歴

No.	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	5	2002	7	福島県立医科大学附属病院 神経精神科	研修医
2	2002	8	2002	9	福島県立矢吹病院 精神科	医員
3	2002	10	2002	12	福島赤十字病院 内科	医員
4	2003	1	2003	3	福島県立医科大学附属病院 神経精神科	研修医
5	2003	4	2003	12	いわき市立常磐病院 神経科	医員
6	2004	1	2004	3	医療法人済精会長橋病院 精神科	医員
7	2004	4	2008	3	医療法人篤仁会富士病院 精神科	医員
8	2008	4	2011	3	福島県立医科大学 神経精神医学講座	助教
9	2011	4	2011	5	福島県立医科大学附属病院 心身医療科	病院助手
10	2011	5	2012	5	米国立衛生研究所(NIH)	特別研究員
11	2012	6	2013	9	福島県立医科大学 神経精神医学講座	助教
12	2013	10	2016	3	福島県立医科大学 神経精神医学講座	講師
13	2016	4	2020	3	福島県立医科大学会津医療センター 精神医学講座	准教授
14	2020	4	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本神経神経学会	日本生物学的精神医学学会	日本統合失調症学会	日本神経精神薬理学会	日本老年精神医学会	日本社会精神医学会	日本神経病理学会	日本神経精神医学学会	日本児童青年期精神医学学会	米国神経科学学会

##### 学会・委員会等での役職

No.	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本生物学的精神医学学会	ブレインバンク委員会	副委員長	20190601
2	日本生物学的精神医学学会		評議員	20150000
3	日本生物学的精神医学学会	ティッシュリソース整備タスクフォース委員会	副委員長	20160601
4	双極性障害研究ネットワーク(BDRNJ)		参加研究者	20130000
5	日本神経病理学会	ブレインバンク委員会	委員	20150000
6	日本ブレインバンクネット(JBBN)	運営費委員会	委員	20160400
7	日本ブレインバンクネット(JBBN)	学術委員会	委員	20160400
8	日本ブレインバンクネット(JBBN)	精神疾患リソースデータベースワーキンググループ	リーダー	20160900
9	日本統合失調症学会		評議員	20190000
10	日本神経神経学会	災害支援委員会	委員	20200600
11	日本神経精神薬理学会		会員	
12	日本老年精神医学会		会員	
13	日本社会精神医学会		会員	
14	日本神経病理学会		会員	
15	日本神経精神医学学会		会員	
16	日本児童青年期精神医学学会		会員	
17	米国神経科学学会		会員	
18	日本総合病院精神医学学会	第36回日本総合病院精神医学学会総会プログラム委員	委員	20221100

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故後の避難住民のメンタルヘルス及び心理社会的支援の検討、原発事故後の精神疾患入院患者の強制避難転院者の帰還支援プロジェクト、感染症流行を含めたCBRNEによる緊急事態下におけるメンタルヘルスと心理社会的支援の検討の他、ストレス脆弱性の基盤研究として、医学系研究科精神神経学分野と連携し、死後脳を用いて、心的外傷後ストレス障害、気分障害、統合失調症などの精神疾患病態解明のための基礎的な生物学研究などの研究課題に取り組んだ。

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	統合失調症死後脳におけるDARPP-32の免疫組織化学的検討	国内
2	2006	4	2007	3	統合失調症死後脳を用いたドパミン・グルタミン酸仮説の検討	国内
3	2008	4	2009	3	統合失調症上側頭回におけるDARPP-32のプロフィールー死後脳研究	国内
4	2011	4	2012	3	統合失調症における痛覚閾値異常の分子基盤の解明ー統合失調症死後脳研究	国内
5	2011	4	2013	3	統合失調症死後脳における異常タンパクの半網羅的定量的プロファイル解析	国内
6	2013	4	2014	3	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
7	2013	4	2015	3	統合失調症脳内タンパク質群の発現解析ータンパク質多項目同時測定システムを用いてー	国内
8	2013	10	2016	3	双極性障害の神経病理学に基づく診療法の開発	国内
9	2014	4	2015	3	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
10	2014	4	2015	3	統合失調症脳内分子の多元解析ージェネティックニューロパソロジー	国内
11	2015	4	2016	3	統合失調症脳内タンパク質多項目同時測定解析及び関連遺伝子発現解析	国内
12	2015	4	2019	3	ジェネティックニューロパソロジーによる精神疾患脳内分子表現型解析	国内
13	2016	4	2021	3	死後脳リソースを活用した統合失調症における代謝・ダイナミクス制御関連分子の解析	国内
14	2017	7	2020	3	プロジェクトリターン2017:原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み	国内
15	2019	4	2021	3	統合失調症死後脳における Pro to Glu 経路の分子プロファイル解析	国内
16	2019	4	2020	3	死後脳マルチオミクス・プロファイルに基づく統合失調症病態の構成的理解	国内
17	2019	4	2022	3	精神疾患死後脳内の分子プロファイル解析	国内
18	2019	4	現在		脳ゲノム情報解析による精神疾患関連神経回路の同定と機能解明	国内
19	2020	10	現在		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下におけるメンタルヘルス実態に関する包括的検討	国内
20	2021	4	2023	3	死後脳の多層的解析による統合失調症病態の層別化	国内
21	2022	4	2023	3	精神疾患死後脳の多階層解析	国内

論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	5	合計	7	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Lessons learned from psychosocial support and mental health surveys during the 10 years since the Great East Japan Earthquake: Establishing evidence-based disaster psychiatry	Yasuto Kuni, Hitomi Usukura, Kotaro Otsuka, Masaharu Maeda, Hirooki Yabe, Sho Takahashi, Hirokazu Tachikawa, Hiroaki Tomita	Psychiatry and Clinical Neurosciences	76	6	212	221	20220600
2	英語	筆頭共著	国内	はい	学術雑誌	有	はい	Review of Mental Health Consequences of the Great East Japan Earthquake through Long-Term Epidemiological Studies: The Shichigahama Health Promotion Project	Yasuto Kuni, Hitomi Usukura, Yusuke Utsumi, Moe Seto, Yumiko Hamaie, Yumi Sugawara, Naoki Nakaya, Shinichi Kuriyama, Atsushi Hozawa, Ichiro Tsuji, Hiroaki Tomita	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	257	2	85	95	20220604
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Elevation of EGR1/zif268, a Neural Activity Marker, in the Auditory Cortex of Patients with Schizophrenia and its Animal Model	Yuriko Iwakura, Ryoka Kawahara-Miki, Satoshi Kida, Hidekazu Sotoyama, Ramil Gabdulkhaev, Hitoshi Takahashi, Yasuto Kuni, Mizuki Hino, Atsuko Nagaoka, Ryuta Izumi, Risa Shishido, Toshiyuki Someya, Hirooki Yabe, Akiyoshi Kakita, Hiroyuki Nawa	Neurochemical Research	47	9	2715	2727	20220900

4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder	Itaru Kushima, Masahiro Nakatochi, Branko Alekšić, Takashi Okada, Hiroki Kimura, Hidekazu Kato, Mako Morikawa, Toshiya Inada, Kanako Ishizuka, Youta Torii, Yukako Nakamura, Satoshi Tanaka, Miho Imaeda, Nagahide Takahashi, Maeri Yamamoto, Kunihiro Iwamoto, Yoshihiro Nawa, Nanayo Ogawa, Shuji Iritani, Yu Hayashi, Tzuyao Lo, Gantsooj Otgonbayar, Sho Furuta, Nakao Iwata, Masashi Ikeda, Takeo Saito, Kohei Ninomiya, Tomo Okochi, Ryota Hashimoto, Hidenaga Yamamori, Yuka Yasuda, Michiko Fujimoto, Kenichiro Miura, Masanari Itokawa, Makoto Arai, Mitsuhiro Miyashita, Kazuya Toriumi, Kazutaka Ohi, Toshiki Shioiri, Kiyoyuki Kitaichi, Toshiyuki Someya, Yuichiro Watanabe, Jun Egawa, Tsutomu Takahashi, Michio Suzuki, Tsukasa Sasaki, Mamoru Tochigi, Fumichika Nishimura, Hidenori Yamasue, Hitoshi Kuwabara, Tomoyasu Wakuda, Takahiro A. Kato, Shigenobu Kanba, Hideki Horikawa, Masahide Usami, Masaki Kodaira, Kyota Watanabe, Takeo Yoshikawa, Tomoko Toyota, Shigeru Yokoyama, Toshio Munese, Ryo Kimura, Yasuko Funabiki, Hirota Kosaka, Minyoung Jung, Kiyoto Kasai, Tempei Ikegame, Seiichiro Jinde, Shusuke Numata, Makoto Kinoshita, Tadafumi Kato, Chihiro Kakiuchi, Kazuhiro Yamakawa, Toshimitsu Suzuki, Naoki Hashimoto, Shuhei Ishikawa, Bun Yamagata, Shintaro Nio, Toshiya Murai, Shuraku Son, <u>Yasuto Kuni</u> , Hirooki Yabe, Masumi Inagaki, Yu-ichi Goto, Yuto Okumura, Tomoya Ito, Yuko Arioka, Daisuke Mori, Norio Ozaki	Biological Psychiatry	92	5	362	374	20220901
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Post-evacuation return of psychiatric hospital inpatients evacuated to hospitals outside the Fukushima prefecture after the nuclear accident: A Retrospective Cohort Study	Toshihiro Terui, <u>Yasuto Kuni</u> , Hiroshi Hoshino, Takeyasu Kakamu, Tomoo Hidaka, Tetsuhito Fukushima, Nobuo Anzai, Daisuke Gotoh, Itaru Miura, Hiroki Yabe	International Journal of Social Psychiatry	69	4	875	884	20221205
6	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-Time Prediction of Medical Demand and Mental Health Status in Ukraine under Russian Invasion Using Tweet Analysis	<u>Susumu Fujii</u> , <u>Yasuto Kuni</u> , <u>Savuri Nonaka</u> , <u>Yumiko Hamaie</u> , <u>Mizuki Hino</u> , <u>Shinichi Egawa</u> , <u>Shimichi Kuriyama</u> , <u>Hiroaki Tomita</u>	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	259	3	177	188	20221222
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mental Health Problems among University Students under the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Repeated Cross-Sectional Survey	Moe Seto, Hitomi Usukura, <u>Yasuto Kuni</u> , <u>Yumiko Hamaie</u> , <u>Eiichi N Kodama</u> , Yuko Makino, Yoshitaka Kinouchi, Chihiro Ito, Tadayoshi Ikeda, <u>Hiroaki Tomita</u>	The Tohoku journal of experimental medicine	60	1	1	11	20230223

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	1	共著	0	監修編集	0	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Effects of disaster stress on the elderly people and patients with dementia (Fusion of the West and the East, Harmony of Human and Technology Discussion Based on Geriatric Behavioral Neurology through the International Congress of 15th Asian Society Against Dementia)	編集本 (著者・Author)	20220905	<u>Yasuto Kuni</u> ; Toshihiro Terui; Akemi Miyagawa; Shinobu Kawakatsu; <u>Hiroaki Tomita</u>	筆頭共著	TOHOKU UNIVERSITY PRESS, SENDAI	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	1	その他の共著	4	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	8
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1	日本語	【精神科ブレインバンク】精神疾患ブレインバンクの現状と課題	無	はい	精神科	40	4	416	421	20220400	長岡 敦子, 國井 泰人, 大沼 裕美, 日野 瑞城, 泉 竜太, 穴戸 理紗, 矢部 博興	共著	国内
2	日本語	医療における危機と再生～東日本大震災から新型コロナウイルスまで～大規模災害とコミュニティのレジリエンス 精神医学の視点から	無	はい	てんかん研究	40	2	265	265	20220604	富田 博秋, 國井 泰人, 濱家 由美子, 白倉 瞳, 瀬戸 萌, 内海 裕介	共著	国内
3	日本語	災害における不安とその対処	無	はい	臨床精神医学	51	9	989	996	20221000	濱家 由美子, 國井 泰人, 富田 博秋	共著	国内
4	日本語	気分障害死後脳研究の最前線	無	はい	臨床精神医学	51	10	1151	1157	20221000	國井 泰人, 日野 瑞城, 富田 博秋	筆頭共著	国内
5	日本語	緊急時に備えた精神科医療における地域連携体制のあり方～東日本大震災からCOVID-19パンデミックまでの緊急時対応を振り返って～	無	はい	精神科救急	25		85	89	20221100	富田 博秋, 國井 泰人, 白倉 瞳, 佐藤 博俊, 角藤 芳久	共著	国内
6	日本語	コロナ禍でメンタルヘルスに何が起きたのか今後のCBRNE災害に向けての教訓-	無	はい	日本病院会雑誌	25		1073	1079	20221100	國井 泰人	単著	国内
7	日本語	No.3 コロナ禍が社会全体のメンタルヘルスに及ぼした影響とその対策	無	はい	心の健康シリーズ IX 現代の災害とメンタルヘルス			1	8	20221200	國井 泰人	単著	国内
8	日本語	死後脳の多階層解析による統合失調症病態の層別化	無	はい	Medical Science Digest	49	3	157	160	20230325	國井 泰人	単著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	7	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者氏名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第118回日本精神神経学会学術総会	川崎 弘昭	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	福岡国際会議場	福岡	日本	20220616	20220618	20220616	東日本大震災被災者の余暇の過ごし方と悲嘆の複雑化の関連性	去野 桃香, 富田 博秋, 白倉 瞳, 國井 泰人	国内	
2	国内	第72回日本病院学会	小坂 真二	筆頭連名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	鳥根県民会館	鳥根	日本	20220707	20220708	20220707	シンポジウム4新興感染症(新型コロナウイルス感染症)と精神科医療～流行時の対応や感染後後遺症等への関与～; コロナ禍でメンタルヘルスに何が起きたのか～今後のCBRNE災害に向けての教訓-	國井 泰人, 白倉 瞳, 瀬戸 萌, 富田 博秋	国内	
3	国内	第7回クニカババイオバンク学会シンポジウム	平沢 晃	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	ラグーン岡山・岡山大学	岡山	日本	20220708	20220710	20220708	福島精神疾患ブレインバンクの取り組みについて	長岡 敦子, 國井 泰人, 大沼 裕美, 日野 瑞城, 泉 竜太, 穴戸 理紗, 矢部 博興	国内	
4	国内	第70回福島県農村医学会	佐川 恵一	その他の連名	いいえ	口頭(基調)	Web	福島	日本	20220725	20220725	20220831	初診から6ヶ月後の治療反応性とその後の転帰に通所介護サービスは関係しているか?	松本 雄史, 堀越 翔, 國井 泰人, 平尾 美枝子, 後藤 大介	国内	
5	国内	2022年度東日本研究医養成コンソーシアム第12回夏のリトリート		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	京成ホテルミラマール	千葉	日本	20220820	20220820	20220821	μオピオイド受容体発現量及び統合失調症発症リスクに対するOPRM1 rs1799971多型の人種依存的な効果:メタ解析と死後脳研究	宮原 一徳, 日野 瑞城, 穴戸 理紗, 泉 竜太, 長岡 敦子, 林 秀樹, 柿田 明美, 矢部 博興, 富田 博秋, 國井 泰人	国内	6,400
6	国内	日本脳神経外科学会第81回学術総会	小笠原 邦昭	単名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	パシフィコ横浜	横浜	日本	20220928	20221001	20220930	不眠流行 08 バイオインフォマティクス:現状と臨床応用:統合失調症死後脳研究におけるバイオインフォマティクス	國井 泰人	国内	6,400
7	国内	第76回東北精神神経学会	石岡 拓博	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Web	弘前	日本	20221009	20221009	20221009	福島第一原子力発電所事故による病院避難を経験した精神科入院患者における避難後の福島への帰還の可否に関連する要因	照井 隆宏, 國井 泰人, 星野 大, 各務 竹康, 日高 友郎, 福島 哲仁, 安西 信雄, 後藤 大介, 三浦 至, 矢部 博興	国内	
8	国内	第44回日本生物学的精神医学会	加藤 忠史	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	都市センターホテル/シエーンパルク・サポー	東京	日本	20221104	20221106	20221104	ストレス関連分子による統合失調症死後脳の層別化と群間の発現変動遺伝子の同定	穴戸 理紗, 國井 泰人, 日野 瑞城, 長岡 敦子, 泉 竜太, 柿田 明美, 矢部 博興	国内	
9	国内	第44回日本生物学的精神医学会	加藤 忠史	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	都市センターホテル/シエーンパルク・サポー	東京	日本	20221104	20221106	20221105	μオピオイド受容体発現量及び統合失調症発症リスクに対するOPRM1 rs1799971多型の人種依存的な効果:メタ解析と死後脳研究	宮原 一徳, 日野 瑞城, 穴戸 理紗, 泉 竜太, 長岡 敦子, 林 秀樹, 柿田 明美, 矢部 博興, 富田 博秋, 國井 泰人	国内	6,400



C. 教育活動

教育活動の概要

本学の医学部医学科3年生の基礎医学修練のテーマとして、分野で取り組んでいるいずれかの研究に参画してもらい指導を行った。また、学部生及び大学院生の研究指導、学会発表、論文作成なども積極的に行った。さらに、学生に防災・減災に関連する知識を啓発し、災害復興のための人材育成に向けて積極的に推進した。その他、外国人留学生を主とする大学院生に英語での講義を行い、他学の医学部学生に対しても学生講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス	東北大学	医学部	医科学・公衆衛生学専攻		後期	1
2	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学			2セメ	1
3	「解離性<転換性>障害」「心身症」	福島県立医科大学	医学部		3	後期	2
4	「脳の構造・機能と精神・行動」	福島県立医科大学	医学部		2	後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

主として得られた研究成果について、国内外の学会での発表や国内誌、国際誌での論文発表を通して社会に積極的に発信した。その他、当分野が有する東日本大震災後の被災住民の健康状態、生活習慣や就労状況などの変化に関する有用な調査データを解析し、その成果を地域に還元することで被災地の住民や自治体への健康増進に寄与した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 19 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	メンタルヘルスWeb講演会	講演	20220411	20220411	コロナ禍におけるうつ病・うつ状態の実態について	企業	ヴァトリス製薬	Web	仙台	日本	30
2	講演会	第534回 北九州精神科集談会	講演	20220525	20220525	コロナ禍におけるメンタルヘルスの実態とアフターコロナに向けての展望	企業	武田薬品工業	Web	北九州	日本	30
3	講演会	コロナ禍のメンタルヘルスを考える会 in OKAYAMA	講演	20220526	20220526	コロナ禍がもたらしたメンタルヘルスへの影響の実態とVenlafaxineの有用性	企業	ヴァトリス製薬	Web	岡山	日本	30
4	講演会	精神疾患治療を考える会 in 福島	特別講演	20220608	20220608	なぜ、統合失調症治療現場でラズダグの評価は一定しないのか？ - 統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの -	企業	住友ファーマ	Web	福島	日本	20
5	講演会	2022年度年輪の会最終講演会	講演	20220717	20220717	精神疾患ブレインバンクと死後脳研究の最近の進歩	なし	年輪の会	スクエア荏原	東京	日本	20
6	講演会	2nd ND Symposium	講演	20220825	20220825	抑うつ障害と神経発達症	企業	武田薬品工業	Web	全国	日本	80
7	講演会	Summer Urology Seminar 2022	講演	20220827	20220827	コロナ禍がもたらしたメンタルヘルスへの影響の実態	企業	武田薬品工業	高松国際ホテル(ハイブリッド開催)	高松	日本	40
8	講演会	Hope in Schizophrenia LAIの臨床的意義について再考する	講演	20220831	20220831	LAIのリアルニーズを考える - 日本におけるLAI使用率は本当に低いのか -	企業	ヤンセンファーマ	Web	仙台	日本	20
9	講演会	PSYCHIATRY FORUM in Mitaka	講演	20220922	20220922	精神疾患死後脳研究の最新知見 - 分子病態に基づく薬物療法の展望 -	企業	大塚製薬	Web	東京	日本	20
10	小中高との連携	京都市立西京高等学校フィールドワーク	講義	20221006	20221006	災害精神医学	小中高	京都市立西京高等学校	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	100
11	講演会	広島オビニオンセミナー	講演	20221125	20221125	コロナ禍がもたらしたメンタルヘルスへの影響の実態とVenlafaxineの有用性	企業	ヴァトリス製薬	Web	広島	日本	30
12	講演会	第62回東北防衛衛生学会	教育講演	20221125	20221125	コロナ禍が社会全体のメンタルヘルスに及ぼした影響とその対策	なし	自衛隊仙台病院	自衛隊仙台駐屯地体育館	仙台	日本	300
13	講演会	第67回新潟精神医学懇話会	特別講演	20221215	20221215	生物学的知見に基づいた統合失調症の薬物療法をめざして	企業	大塚製薬	Web	新潟	日本	30
14	講演会	住友ファーマ ランチャタイムセミナー	講演	20220113	20220113	なぜ、統合失調症治療現場でラズダグの評価は一定しないのか？ - 統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの -	企業	住友ファーマ	Web	郡山	日本	50
15	講演会	Fukushima Medical University&Tohoku University Joint Conference(FTJC)	特別講演	20220120	20220120	今、うつ病を考える	企業	武田薬品工業	コラッセふくしま	福島	日本	15
16	講演会	Psychiatry Topics Seminar (全国)	講演	20230302	20230302	コロナ禍で変貌したメンタルヘルスうつ病、後遺症としてのうつ、神経発達症まで	企業	武田薬品工業	武田薬品東北リージョン会議室	仙台	日本	500
17	その他	仙台防災未来フォーラム 2023 東北大学災害科学国際研究所 東日本大震災メモリアルシンポジウム 2023	講演	20230304	20230304	コロナ禍でも被災者の生命、身体的・精神的健康を支える！ : コロナ禍、戦禍におけるメンタルヘルス	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台国際センター	仙台	日本	100
18	講演会	CNS Special Web seminar in 宮城	特別講演	20230308	20230308	なぜ、統合失調症治療現場でラズダグの評価は一定しないのか？ - 統合失調症と双極性障害の病態に共通するもの、しないもの -	企業	住友ファーマ	Web	仙台	日本	30
19	講演会	ND symposium Advanced Course		20230319	20230319	Special Lecture.死後脳研究から迫る神経発達症の分子脳病態	企業	武田薬品工業	グランドニッコー東京台場	東京	日本	80

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	宮城県	DPAT	統括者	20221200

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 15 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	熊本大学	岩本和也	20220400	共同研究	WEB等		その他	6
2	順天堂大学	加藤忠史	20220400	共同研究	WEB等		その他	3
3	福島県立医科大学	矢部博興	20220400	共同研究	WEB等		その他	7
4	福島県立医科大学会津医療センター	川勝忍	20220400	共同研究	WEB		その他	2
5	東京都医学総合研究所	楯林義孝	20220400	共同研究	WEB		その他	4
6	獨協医科大学先端医科学研究センター	小川覚之	20220400	共同研究	WEB		その他	4
7	新潟大学脳研究所	柿田明美	20221027	共同研究	新潟大学脳研究所	新潟市	その他	4
8	富山大学	新田淳美	20220400	共同研究	WEB		その他	3
9	医薬基盤・健康・栄養研究所	飯島則文	20220400	共同研究	WEB		その他	3
10	名古屋大学	尾崎紀夫	20220400	共同研究	WEB		その他	3
11	藤田医科大学	池田匡志	20220400	共同研究	WEB等		その他	2
12	慶応義塾大学	久保健一郎	20220400	共同研究	WEB等		その他	7
13	福島県立医科大学	照井稔宏	20220400	共同研究	WEB、東北大学、福島医大		その他	2
14	順天堂大学	西岡将基	20220400	共同研究	WEB		その他	4
15	京都薬科大学	石原慶一	20220400	共同研究	WEB		その他	4

# 濱家 由美子 助教

## HAMAIE Yumiko

災害医学研究部門 災害精神医学分野

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	教育学部	2000	3	東北大学大学院	教育学研究科	2002	3	Master of Education	2002	3
2					東北大学大学院	医学系研究科	2016	3	Ph.D	2016	3

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2007	3	仙台市教育局学校教育部 教育相談課 教育相談室	
2	2007	4	2011	12	東北大学病院診療技術部リハビリテーション科	
3	2012	1	2016	3	東北大学病院精神科	助手
4	2016	4	2022	3	東北大学病院精神科	助教
5	2022	4	現在		災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害精神医学分野	助教

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本心理臨床学会	日本精神保健・予防学会	日本統合失調症学会	日本トラウマティック・ストレス学会	日本EMDR学会	日本認知療法・認知行動療法学会	日本認知・行動療法学会	International Early Psychosis Assosiation	日本キャリア教育学会	日本集団精神療法学会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本精神保健・予防学会	「予防精神医学(学会機関誌)」編集委員	編集委員	20160501
2	日本精神保健・予防学会		評議員	20211128

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	認知行動療法	予防精神医学	災害精神医学	早期精神病	家族心理教育

### B. 研究活動

研究活動の概要

1. 宮城県七ヶ浜町で大規模半壊以上の家屋被災者を対象に10年間実施した年次調査データに基づき、東日本大震災が被災住民に及ぼす影響に関するデータ解析を遂行中。
2. 災害感染症学分野その他学内関連部局と共同で東北大学全学学生を対象としたコロナ禍のメンタルヘルス実態調査を実施。
3. NTTビジョン共有型共同研究において「避難生活改善に資する次世代避難所構築および地域住民の防災行動促進を目的とした介入モデルの研究」に参加。一般住民の避難行動・防災意識とレジリエンスとの関連性について検討中。
4. 災害医療情報学分野との共同で、ツイッターによる発信情報を通じてロシア侵攻によって生じたウクライナの医療需要およびメンタルヘルス状態変化を把握する研究を実施。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2022	4	現在		コロナ禍における大学生のメンタルヘルス実態に関する研究	国内
2	2022	4	現在		避難生活改善に資する次世代避難所構築および地域住民の防災行動促進を目的とした介入モデルの研究	国内
3	2022	7	2023	1	ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析研究	国内
4	2012	4	現在		早期精神病における家族の感情表出と心理的負荷	なし

### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Review of mental health consequences of the Great East Japan Earthquake through long-term epidemiological studies: The Shichigahama Health Promotion Project.	Kunii, Y., Usukura, H., Utsumi, Y., Seto, M., Hamate, Y., Sugawara, Y., Nakaya, N., Kuriyama, S., Hozawa, A., Tsuji, I., Tomita, H.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	257		85	95	20220000
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-time prediction of medical demand and mental health status in Ukraine under Russian invasion using tweet analysis.	Fujii, S., Kunii, Y., Nonaka, S., Hamate, Y., Hino, M., Egawa, S., Kuriyama, S., & Tomita, H.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	259		177	188	20230000
3	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	第24回日本精神保健・予防学会学術集会シンポジウム6「ARMS症例から学ぶ～早期介入の灯光を目指して～」の報告	西山志満子、桂雅宏、盛本翼、古田大地、濱家由美子、高橋努、根本陸洋	予防精神医学	7	1	77	95	20220000

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語	災害における不安とその対処	学術雑誌	無	はい	臨床精神医学	51	9	989	996	20220000	濱家由美子, 國井泰人, 富田博秋	共著	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第22回日本認知療法・認知行動療法学会	久我弘典	単名	いいえ	公算/シンポジウム・ワークショップ・パネル	高島屋日本橋ホール	東京	日本	20221111	20221112	20221111	自主企画シンポジウム1 CBTpをどのように導入するか? : CBTpへの導入: 精神科外来における工夫.	濱家由美子	国内	

C. 教育活動

教育活動の概要

本学の医学部医学科3年の基礎医学修練、および医学科6年の高次臨床修練の学生を対象として、東日本大震災における被災者の心理社会的影響を分析する研究指導を行う。また、医学科4年生を対象とした精神科領域に関する系統講義(分担講義)中の『精神療法』を担当し、心理社会的療法についての講義を年1回実施。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	精神科治療学 精神療法 心理社会療法II	東北大学	医学部	医学科	4	7セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

PTSDのためのエビデンスの高い治療法である持続エクスポージャー療法(PE)研修の講師を務め、トラウマ治療の普及に努めた。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	精神保健に関する技術研修 第3回持続エクスポージャー療法研修	講義	20220930	20220930	事例検討	行政	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究所	オンライン開催	東京都	日本	60

# 日野 瑞城 特任助教

## HINO Mizuki

災害医学研究部門 災害精神医学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	広島大学	理学部	1996	3	広島大学	理学研究科	2003	3	Ph.D	2003	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2003	4	2005	3	群馬大学 大学院医学系研究科 薬理学	任期付研究員
2	2005	4	2009	3	群馬大学 大学院医学系研究科 機能形態学	COE研究員
3	2010	6	2011	2	群馬大学 大学院医学系研究科 腫瘍放射線	研究補助員

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2
日本細胞生物学会	日本分子生物学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
生物学的精神医学	形態学	生化学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

災害精神医学の観点から特に重要であると考えられる、「様々なストレスが及ぼす精神医学上の影響」についての研究を行った。医学系研究科精神神経学分野と連携し、ヒト死後脳組織を用いて、心的外傷後ストレス障害、気分障害、統合失調症などの精神疾患病態とストレスの連関について基礎的な生物学研究などの研究課題に取り組んだ。災害医療情報学分野との共同でロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析の結果について論文化し、また、ウクライナの医学研究者及び実務担当者と共にメンタルヘルスニーズの予備的調査を行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2021	4	現在		脳ゲノム情報解析による精神疾患関連神経回路の同定と機能解明	国内
2	2021	4	現在		死後脳の多層的解析による統合失調症病態の層別化	国内
3	2022	4	現在		ロシア侵攻下のウクライナにおけるメンタルヘルスに関する研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	3	うち	国際査読有	3	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disease specific brain capillary angiopathy in schizophrenia, bipolar disorder, and Alzheimer's disease	Shinobu Hirai, Atsuhiko Sakuma, Yasuto Kunii, Shimbo Hiroko, Mizuki Hino, Ryuta Izumi, Atsuko Nagaoka, Hirooki Yabe, Rika Kojima, Erika Seki, Nobutaka Arai, Takashi Komori, Haruo Okado	Journal of Psychiatric Research	163		74	79	2023
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-time prediction of medical demand and mental health status in Ukraine under Russian invasion using tweet analysis	Susumu Fujii, Yasuto Kunii, Savuri Nonaka, Yumiko Hamaie, Mizuki Hino, Shinichi Egawa, Shinichi Kuriyama, Hiroaki Tomita	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	253	3	177	188	2023
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Elevation of EGR1/zif268, a neural activity marker, in the auditory cortex of patients with schizophrenia and its animal model	Yuriko Iwakura, Ryoka Kawahara-Miki, Satoshi Kida, Hidekazu Sotoyama, Ramil Gabdulkaev, Hitoshi Takahashi, Yasuto Kunii, Mizuki Hino, Atsuko Nagaoka, Ryuta Izumi, Risa Shishido, Toshiyuki Someya, Hirooki Yabe, Akiyoshi Kakita, Hiroyuki Nawa	Neurochemical Research	47	9	2715	2727	2022

## 伊藤 潔 教授

## ITO Kiyoshi

災害医学研究部門 災害産婦人科学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	東北大学	医学部	1986	3					医学博士	1996	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1986	5	1986	6	東北大学医学部産科婦人科	医員
2	1986	7	1989	10	福島県郡山市太田総合病院産婦人科	医員(研修医)
3	1989	11	1992	3	東北大学医学部産科婦人科	助手
4	1992	4	1994	3	米国ジョージワシントン大学病理学教室	客員研究員
5	1994	4	1994	7	米国ヴァージニア医科大学病理学教室	客員研究員
6	1994	8	1996	3	東北大学産科婦人科	助手
7	1996	4	1997	3	青森県八戸市立市民病院 産婦人科	医長
8	1997	4	1998	12	青森県十和田市立中央病院 産婦人科	科長
9	1999	1	2002	3	東北大学 産科婦人科	講師
10	2001	2	2012	3	宮城県対がん協会細胞診センター所長(兼務 2012年3月まで)	所長(兼務)
11	2002	4	2009	8	東北大学大学院医学系研究科(婦人科学分野)	助教授
12	2009	9	2012	3	東北大学大学院医学系研究科(産科学分野)	准教授
13	2012	4	2023	3	東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	日本生殖内分泌学会	American Association for Cancer Research (AACR)	International Gynecologic Cancer Society (IGCS)	The Endocrine Society	日本産科婦人科学会	日本婦人科腫瘍学会	日本臨床細胞学会	日本婦人科がん検診学会	日本癌学会	日本内分泌学会

## 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本産科婦人科学会		代議員	20030401
2	日本婦人科腫瘍学会		評議員	20030401
3	日本婦人科がん検診学会		理事	20030401
4	日本臨床細胞学会		理事	20130401
5	東北臨床細胞学会		理事長	20180701
6	宮城臨床細胞学会		会長	20161001
7	日本がん検診・診断学会		評議員	20110000
8	ホルモンと癌研究会		理事	20130801
9	ホルモンと癌研究会		理事長	20190801
10	日本婦人科腫瘍学会	ガイドライン作成委員会	委員	20130000
11	日本がん治療学会	産婦人科診療ガイドライン作成委員会	委員	20170401
12	日本生殖内分泌学会		理事	20150401
13	日本臨床細胞学会	地域連絡委員会	委員長	20190401

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害医学	婦人科病理学	細胞診断学	がん検診学	母子保健

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	大学院合同運営委員会	委員	20190401
2	東北メディカル・メガバンク機構	運営委員会	委員	20130401
3	東北メディカル・メガバンク機構	倫理委員会	委員	20220401

B. 研究活動

研究活動の概要

1. 東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制に及ぼした影響の解析:最新の検査法、液状化検体法を従来法に代えて行うことで、精度の高い検診を、被災地のみならず日本全国において提供できる可能性があることを明らかにし、さらに検討を加えた。また、沿岸部の被災地では、それ以外の地域に比べて検診受診率の回復率が低いことを明らかにし、さらにCOVID-19規制下での検診受診率低下との傾向の相関性を検討した。
2. 災害時ストレスとその後の生活環境変化が婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響の解析:ストレスホルモンに関連する様々な因子が、婦人科疾患の発生進展に及ぼす影響を解析した。
3. COVID-19規制下において、宮城県のみならず全国において、がん検診受診率の大きな低迷とその長期化がみられることを明らかにするとともに、その影響下での安全ながん検診受診システムを検討し、2022年11月に主催した日本臨床細胞学会秋期大会(仙台)において会長講演として発表した。

研究課題

	期間		研究課題(内容)	所外連携
	開始年	終了年		
1	1999	現在	婦人科腫瘍におけるホルモン調節機構の研究	両方
2	2001	現在	婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
3	2012	現在	災害時およびそれ以降の婦人科がん検診の精度管理・受診率向上などに関する研究	国内
4	2012	現在	災害ストレスが婦人科腫瘍のホルモン調節機構に及ぼす影響に関する研究	国内
5	2012	現在	災害時の母子保健に関する研究	国内
6	2012	現在	災害後の産婦人科疾患発生率の動向に関する研究	国内
7	2020	現在	新型コロナウイルス感染が今後のがん検診体制に及ぼす影響に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち

国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Appropriate Health Management Considering the Vulnerability of Women during Disasters	Miki, Y. & Ito, K.	Tohoku Journal of Experimental Medicine.	256	3	187	195	20220300
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Co-expression of nuclear heterogeneous nuclear ribonucleic protein K and estrogen receptor $\alpha$ in endometrial cancer	Miki, Y., Iwabuchi, E., Takagi, K., Suzuki, T., Sasano, H., Yaegashi, N. & Ito, K.	Pathology Research and Practice.	231		153795.		20220300
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Supporting adolescents' mental health during COVID-19 by utilising lessons from the aftermath of the Great East Japan Earthquake	Okuyama, J., Izumi, S. I., Funakoshi, S., Seto, S., Sasaki, H., Ito, K., Imamura, F., Willgerodt, M. & Fukuda, Y.,	Humanities and Social Sciences Communications.	9	1	332		20221200
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Life and Stress of Japanese Children and Adolescents During the Prolonged Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Pandemic	Okuyama, J., Seto, S., Fukuda, Y., Ito, K., Imamura, F., Funakoshi, S. & Izumi, S. I.,	Journal of Disaster Research.	18	1	48	56	20230100

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第61回日本臨床細胞学会秋期大会	伊藤 潔	単名	はい	口頭(一般)	仙台サブツアガール・ホテル、ガーデンパレス仙台	仙台	日本	20221105	20221106	20221105	災害を、がん検診・細胞診から考える	<u>伊藤 潔</u>	国内	6,000

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	日本臨床細胞学会	第61回日本臨床細胞学会秋期大会	20221105	20221106	ガーデンパレス仙台、仙台サブツアガール・ホテル	仙台	日本	6,000(200)	臨床医学	会長			
2	国内	研究会	宮城県臨床細胞学会	第37回宮城県臨床細胞学会学術集会	20230205	20230205	東北大学医学部臨床講義棟	仙台	日本	150(0)	臨床医学	会長			

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の全学の講義を行い、災害と産婦人科疾患あるいはがん検診との関連を講義に取り入れた教育活動を行い、災害科学あるいは災害医学への理解を深めるように指導した。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及) 題目:産婦人科医療・医学と大震災	東北大学	全学			後期	1

D. 社会活動

社会活動の概要

震災後の婦人科がんを中心としたがん検診事業を再構築し、さらに発展させるため、宮城県や仙台市のがん検診対策委員会あるいは宮城県対がん協会を始めとした多くの委員会で役職を務め、積極的に活動している。昨年度より宮城県の生活習慣病検診管理指導協議会の子宮がん部会委員に就任し、県全体のがん検診推進政策に関与した。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	第24回東北大学災害科学研究拠点セミナー	招待講演	20221124	20221124	災害は女性の健康とその保持にどう影響を及ぼすか〜がん検診での事例を中心に〜	なし	東北大学災害科学国際研究所「災害と健康」プロジェクトユニット	WEB	仙台	日本	50

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	宮城県対がん協会		理事	20020201
2	民間・NPO	宮城県医師会	宮城県肺がん対策協議会	委員	20210401
3	民間・NPO	宮城県医師会		予備代議員	20080401
4	民間・NPO	宮城県医師会	子宮がん検診精度管理委員会	委員	20080401
5	民間・NPO	宮城県医師会	細胞診検査精度管理委員会	委員	20130401
6	民間・NPO	仙台市医師会	子宮がん検診委員会	委員	20080401
7	民間・NPO	NPO法人婦人科腫瘍関連支援機構		副理事長	20060401
8	地方自治体	宮城県生活習慣病検診管理指導協議会	子宮がん検診部会	委員	20200401



## 栗山 進一 教授

## KURIYAMA Shinichi

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	理学部物理学科	1987	3					理学士	1987	3
2	大阪市立大学	医学部医学科	1993	3					医学士	1993	3
3	東北大学				東北大学	大学院医学系研究科			博士(医学)	2003	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1993	5	1993	7	大阪市立大学医学部付属病院第3内科	医師
2	1993	8	2003	3	大同生命保険相互会社	産業医(診査医長)
3	2003	4	2005	5	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助手
4	2005	6	2006	6	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	講師
5	2006	7	2007	3	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	助教授
6	2007	4	2010	7	東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野	准教授
7	2010	8	2012	6	東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター 分子疫学分野	教授
8	2012	7	現在		東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野	教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本災害医学会	日本疫学会	日本公衆衛生学会	日本人類遺伝学会	人工知能学会	日本メディカルAI学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本疫学会	理事会	理事	20180201
2	日本疫学会	奨励賞選考委員会	委員	20180524
3	日本疫学会	疫学リソース利用促進委員会倫理問題検討WG	委員長	20180524

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	災害公衆衛生学	大規模災害と健康に関する疫学研究	生活習慣病の疫学	神経疾患の分子疫学研究

## 委員会・ワーキンググループ

## 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	医学部	環境遺伝医学総合研究センター運営委員会	委員	20110201
2	本部	研究大学強化促進事業実施委員会	委員	20150401
3	東北メディカル・メガバンク機構	東北メディカル・メガバンク運営委員会	委員	20130000
4	東北メディカル・メガバンク機構	企画委員会	委員	00000000
5	東北メディカル・メガバンク機構	予算委員会	委員	00000000
6	東北メディカル・メガバンク機構	安全衛生委員会	委員長	20210401
7	東北メディカル・メガバンク機構	情報セキュリティ委員会	委員	00000000
8	東北メディカル・メガバンク機構	情報・システム構築委員会	委員	20190000
9	東北メディカル・メガバンク機構	災害交通医療情報学寄附研究部門運営委員会	委員	20180000

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

2022年度の研究活動においては、東日本大震災の曝露と不眠と関連する遺伝子LOC101927123を同定し、この遺伝子の特性を十分に検討のうえ、その妥当性について検討した。その結果、LOC101927123遺伝子については、まだその機能がよくわかっていないものの、生物の神経系において重要な役割を果たしている可能性が明らかとなった。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	現在		緑茶摂取と健康に関する前向きコホート研究(掛川スタディ)	
2	2011	4	現在		子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	
3	2011	4	現在		妊娠中の大規模災害罹災が児の健康に与える大規模疫学調査	
4	2012	4	現在		大規模災害が中長期的健康に与える影響に関する大規模疫学調査(東北メディカル・メガバンク計画・三世代コホート調査)	
5	2018	12	2022	12	妊娠期の野菜・果物摂取量と児の出生時体重との関係の解明(共同研究:カゴメ株式会社)	
6	2019	4	現在		出生コホート連携に基づく胎児期から乳幼児期の環境と母児の予後との関連に関する研究(AMED:日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業)	
7	2019	4	2023	3	母子保健情報と学校保健情報を連携した情報の活用に向けた研究(厚生労働科学研究費補助金)	
8	2020	10	現在		乳幼児期のRSウイルス感染と小児喘息性疾患の関連に関する疫学研究(共同研究:ヤンセンファーマ株式会社)	
9	2020	4	2023	3	詳細な食事調査を駆動力とする腸内細菌叢と早産・低出生体重との関連研究(科研)	
10	2022	4	現在		日米英蘭の先端ゲノムコホートと戦略的AI解析技術を用いた多因子疾患の病態解明(科研)	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	23	合計	23	うち	国際査読有	23	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	----	----	----	----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association between whole blood metallic elements concentrations and gestational diabetes mellitus in Japanese women: The Japan environment and Children's study.	Tatsuta N, Iwai-Shimada M, Nakayama SF, Iwama N, Metoki H, Arima T, Sakurai K, Anai A, Asato K, <u>Kuriyama S</u> , Sugawara J, Suzuki K, Yaegashi N.	Environmental Research	212	Part B	113231	113231	20220409
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	A Pilot Study for Return of Individual Pharmacogenomic Results to Population-Based Cohort Study Participants.	Ohneda K, Hiratsuka M, Kawame H, Nagami F, Suzuki Y, Suzuki K, Urano A, Sakurai-Yageta M, Hamanaka Y, Taira M, Ogishima S, <u>Kuriyama S</u> , Hozawa A, <u>Tomita H</u> , Minegishi N, Sugawara J, Danjoh I, Nakamura T, Kobayashi T, Yamaguchi-Kabata Y, Tadaka S, Obara T, Hishimura E, Mano N, Matsuura M, Sato Y, Nakasone M, Honkura Y, Suzuki J, Katori Y, Kakuta Y, Masamune A, Aoki Y, Nakayama M, Kure S, Kinoshita K, Fuse N, Yamamoto M.	JMA Journal	5	2	177	189	20220415
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Maternal personality and postpartum mental disorders in Japan: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study.	Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Kikuchi S, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Metoki H, Saito M, Sugawara J, <u>Tomita H</u> , Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Scientific Reports	12	1		1038	20220416
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association between Recurrence or Exacerbation at Time of Disaster and Allergic Symptoms Several Years Later in Schoolchildren with Asthma or Atopic Dermatitis: The ToMMo Child Health Study	Miyashita M, Obara T, Ishikuro M, Kikuya M, <u>Kuriyama S</u> .	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	257	1	23	32	20220514
5	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Associations between the Combined Fat Mass Index and Fat-Free Mass Index with Carotid Intima-Media Thickness in a Japanese Population: The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study.	Takase M, Nakamura T, Nakaya N, Kogure M, Hatanaka R, Nakaya K, Kanno I, Nochioka K, Tsuchiya N, Hirata T, Hamanaka Y, Sugawara J, Suzuki K, Fuse N, Uruno A, <u>Kodama EN</u> , <u>Kuriyama S</u> , Tsuji I, Kure S, Hozawa A.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis					20220526
6	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Risk scores for predicting small for gestational age infants in Japan: The TMM birththree cohort study.	Iwama N, Obara T, Ishikuro M, Murakami K, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Hoshiai T, Saito M, Metoki H, Sugawara J, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Scientific Reports	12	1		8921	20220526
7	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Review of Mental Health Consequences of the Great East Japan Earthquake through Long-Term Epidemiological Studies: The Shichigahama Health Promotion Project.	Kunii Y, Usukura H, Utsumi Y, Seto M, Hamaie Y, Sugawara Y, Nakaya N, <u>Kuriyama S</u> , Hozawa A, Tsuji I, <u>Tomita H</u> .	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	257	2	85	95	20220604
8	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association between maternal infertility treatment and child neurodevelopment: findings from the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study in Miyagi and Iwate Prefectures, Japan.	Noda A, Ishikuro M, Obara T, Murakami K, Ueno F, Matsuzaki F, Onuma T, Watanabe Z, Shiga N, Iwama N, Hirota H, Otsuka T, Tachibana M, <u>Tomita H</u> , Saito M, Sugawara J, Kure S, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	BMJ Open	12	6		060944	20220607

9	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Validation of the Mother-to-Infant Bonding Scale for Infant Maltreatment by Mothers at One Month Postpartum: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	Nishigori T, Obara T, Metoki H, Sakurai K, Mori M, Suzuki T, Ishikuro M, Tatsuta N, Saito M, Sugawara J, Arima T, Nakai K, <u>Kuriyama S</u> , Yaegashi N, Nishigori H.	JMA Journal	5	3	366	369	20220715	
10	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association of fish intake with menstrual pain: A cross-sectional study of the Japan Environment and Children's Study	Yokoyama E, Takeda T, Watanabe Z, Iwama N, Satoh M, Murakami T, Sakurai K, Shiga N, Tatsuta N, Saito M, Tachibana M, Arima T, <u>Kuriyama S</u> , Metoki H, Yaegashi N.	PLoS One	17	7		0269042	20220721	
11	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association between smoking and hypertension in pregnancy among Japanese women: a meta-analysis of birth cohort studies in the Japan Birth Cohort Consortium (JBiCC) and JECS	Morisaki N, Obara T, Piedvache A, Kobayashi S, Miyashita C, Nishimura T, Ishikuro M, Sata F, Horikawa R, Mori C, Metoki H, Tsuchiya KJ, <u>Kuriyama S</u> , Kishi R.	Journal of Epidemiology					20220076	20220806
12	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Dietary patterns before and during pregnancy and small for gestational age in Japan: a prospective birth cohort study	Yamashita T, Obara T, Yonezawa Y, Takahashi I, Ishikuro M, Murakami K, Ueno F, Noda A, Onuma T, Iwama N, Hamada H, Sugawara J, Suzuki S, Suganuma H, Saito M, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Nutrition Journal	21	1		57	20220916	
13	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Construction of a trio-based structural variation panel utilizing activated T lymphocytes and long-read sequencing technology	Otsuki A, Okamura Y, Ishida N, Tadaka S, Takayama J, Kumada K, Kawashima J, Taguchi K, Minegishi N, <u>Kuriyama S</u> , Tamiya G, Kinoshita K, Katsuoka F, Yamamoto M.	Communications Biology	5	1		991	20220920	
14	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Similarities in cardiometabolic risk factors among random male-female pairs: a large observational study in Japan	Nakaya N, Nakaya K, Tsuchiya N, Sone T, Kogure M, Hatanaka R, Kanno I, Metoki H, Obara T, Ishikuro M, Hozawa A, <u>Kuriyama S</u> .	BMC public health	22	1		1978	20221028	
15	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The Association of Lung Function and Carotid Intima-Media Thickness in a Japanese Population: The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Takase M, Yamada M, Nakamura T, Nakaya N, Kogure M, Hatanaka R, Nakaya K, Kanno I, Nochioka K, Tsuchiya N, Hirata T, Hamanaka Y, Sugawara J, Kobayashi T, Fuse N, Uruno A, <u>Kodama EN</u> , <u>Kuriyama S</u> , Tsuji I, Hozawa A.	Journal of atherosclerosis and thrombosis					20221104	
16	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association of maternal psychological distress and the use of childcare facilities with children's behavioral problems: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Takahashi I, Murakami K, Kobayashi M, Kikuchi S, Igarashi A, Obara T, Ishikuro M, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Saito M, Sugawara J, <u>Tomita H</u> , Yaegashi N, Kure S, <u>Kuriyama S</u> .	BMC psychiatry	22	1		693	20221111	
17	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Skipping breakfast during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japanese women: the Tohoku medical megabank project birth and three-generation cohort study	Aizawa M, Murakami K, Takahashi I, Onuma T, Noda A, Ueno F, Matsuzaki F, Ishikuro M, Obara T, Hamada H, Iwama N, Saito M, Sugawara J, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Nutrition journal	21	1		71	20221117	
18	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Plasma metabolic disturbances during pregnancy and postpartum in women with depression	Yu Z, Matsukawa N, Saigusa D, Motoike IN, Ono C, Okamura Y, Onuma T, Takahashi Y, Sakai M, Kudo H, Obara T, Murakami K, Shiota M, Kikuchi S, Kobayashi N, Kikuchi Y, Sugawara J, Minegishi N, Ogishima S, Kinoshita K, Yamamoto M, Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> , Koshiha S, <u>Tomita H</u> .	iScience	25	12		105666	20221124	
19	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Social isolation and postnatal bonding disorder in Japan: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Kikuchi S, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Metoki H, Kikuya M, Saito M, Sugawara J, <u>Tomita H</u> , Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Archives of Women's Mental Health	257	6	1079	1086	20221200	
20	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Social isolation and insomnia among pregnant women in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Kikuchi S, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Metoki H, Kikuya M, Saito M, Sugawara J, <u>Tomita H</u> , Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Sleep Health	8	6	714	720	20221200	
21	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Traumatic experiences of the Great East Japan Earthquake and postpartum depressive symptoms: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study	Murakami K, Ishikuro M, Obara T, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Kikuchi S, Kobayashi N, Hamada H, Iwama N, Metoki H, Kikuya M, Saito M, Sugawara J, <u>Tomita H</u> , Yaegashi N, <u>Kuriyama S</u> .	Journal of Affective Disorders	1	320	461	467	20230101	

22	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Liver steatosis and fibrosis markers' association with cardiovascular and renal damage in Japanese adults: the TMM BirThree cohort study	Machida T, Obara T, Ishikuro M, Murakami K, Ueno F, Noda A, Onuma T, Matsuzaki F, Inoue J, Kuriyama S, Mano N.	Annals of Hepatology	28	1	100761	20230100	
23	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Real-Time Prediction of Medical Demand and Mental Health Status in Ukraine under Russian Invasion Using Tweet Analysis.	Susumu Fujii, Yasuto Kumii, Sayuri Nonaka, Yumiko Hamate, Mizuki Hino, Shinichi Egawa, Shimichi Kuriyama, Hiroaki Tomita.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	259	3	177	188	20221222

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	15	合計	17
----	---	------	---	--------	----	----	----

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	第4回日本メディカルAI学会学術集会サテライトシンポジウム	田宮 元	筆頭連名	はい	指名(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	東北大学	仙台	日本	20220609	20220612	20220609	機械学習を用いたクラスティングとゲノムワイド関連解析による自閉スペクトラム症の病因解明	<u>栗山 進一</u>	国内	250
国際	12th World Congress on Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD 2022)	JOHN CHALLIS, JANICE BAILEY	単名	はい	口頭(招待)	Vancouver Convention Centre	バンクーバー	カナダ	20220827	20220831	20220829	Harmonisation of Genetics and Lifestyle in Personalised Medicine	<u>Shinichi Kuriyama</u>	国内	10,000
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	握力および脚伸張力で測定した各筋力と生理学的データの関連	<u>野路 慶明</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>布施 昇男</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	妊娠中の社会的孤立と産後ボンディング障害の関連 三世代コホート調査	<u>村上 慶子</u> , <u>小原 拓</u> , <u>目時 弘仁</u> , <u>栗山 進一</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	生活習慣病の既往がない者における食事パターンと受診行動および医療費の関連	<u>五十嵐 有登</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>鈴木 寿則</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>萩島 創一</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	被災後住居形態と肝機能指標に関する横断研究	<u>榎場 壺</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	心血管・代謝疾患リスク要因における配偶者同士の類似性 2ヵ国バイオバンク横断研究	<u>中谷 直樹</u> , <u>土屋 菜歩</u> , <u>成田 暁</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>目時 弘仁</u> , <u>小原 拓</u> , <u>石黒 真美</u> , <u>寶澤 篤</u> , <u>栗山 進一</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	年齢と骨梁面積率との関連 年齢階級別の検討 ToMMo地域住民コホート調査	<u>菅野 郁美</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>目時 弘仁</u> , <u>布施 昇男</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	呼吸機能検査指標と高血圧有病との関連	<u>高瀬 雅仁</u> , <u>山田 充啓</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>土屋 菜歩</u> , <u>平田 匠</u> , <u>布施 昇男</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	過敏性腸症候群の有病に関連する要因の検討 TMM計画地域住民コホート調査	<u>中谷 久美</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>永家 聖</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>畑中 里衣子</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>小原 拓</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>金澤 素</u> , <u>萩島 創一</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u> , <u>福土 審</u>	国内	4,015
国内	第81回公衆衛生学会総会	山縣然太郎	その他の連名	いいえ	公募(シンポジウム・ワークショップ・パネル)	YCC県民文化ホール	甲府	日本	20221007	20221009	20220900	東日本大震災による自宅の被害状況と高血圧治療中断との関連	<u>畑中 里衣子</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>小暮 真奈</u> , <u>中谷 久美</u> , <u>千葉 一平</u> , <u>菅野 郁美</u> , <u>中村 智洋</u> , <u>後岡 広太郎</u> , <u>小原 拓</u> , <u>布施 昇男</u> , <u>栗山 進一</u> , <u>辻 一郎</u> , <u>寶澤 篤</u>	国内	4,015
国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	アクトシティ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	東北メディカル・メガバンク計画 三世代コホート調査の進捗と今後の計画	<u>石黒 真美</u> , <u>小原 拓</u> , <u>村上 慶子</u> , <u>上野 史彦</u> , <u>野田 あおい</u> , <u>大沼 とみみ</u> , <u>松崎 美実子</u> , <u>目時 弘仁</u> , <u>菊谷 昌浩</u> , <u>菅原 準一</u> , <u>中谷 直樹</u> , <u>寶澤 篤</u> , <u>栗山 進一</u>	国内	800
国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アクトシティ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	母親の社会的孤立と児の問題行動の関連: 東北メディカル・メガバンク計画 三世代コホート調査	<u>村上 慶子</u> , <u>石黒 真美</u> , <u>小原 拓</u> , <u>上野 史彦</u> , <u>野田 あおい</u> , <u>大沼 とみみ</u> , <u>松崎 美実子</u> , <u>高橋 一平</u> , <u>菊地 紗那</u> , <u>小林 奈津子</u> , <u>濱田 裕貴</u> , <u>岩間 憲之</u> , <u>目時 弘仁</u> , <u>菊谷 昌浩</u> , <u>齋藤 昌利</u> , <u>菅原 準一</u> , <u>富田 博秋</u> , <u>八重 隆伸</u> , <u>栗山 進一</u>	国内	800

14	国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アクトシテイ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	乳幼児期のRSウイルス感染の重症化と喘鳴との関連:東北メディカル・メガバンク計画三代目コホート調査	上野 史彦, 松崎 実美子, 中山 慶一, 百瀬 敬, 落合 秀和, 石黒 真美, 村上 慶子, 野田 あおい, 大沼 ともしみ, 小原 拓, 菅原 準一, 栗山 進一	国内	800
15	国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	アクトシテイ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	妊婦の朝食摂取頻度と児の出生体重との関連:東北メディカル・メガバンク計画三代目コホート調査	相澤 美里, 村上 慶子, 高橋 一平, 大沼 ともしみ, 野田 あおい, 松崎 実美子, 上野 史彦, 石黒 真美, 小原 拓, 濱田 裕貴, 岩間 憲之, 齋藤 昌利, 菅原 準一, 八重 樫 伸生, 栗山 進一	国内	800
16	国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	アクトシテイ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	Hypertensive disorders of pregnancy and offspring development: the TMM BirThree Cohort Study	Geng Chen, Mami Ishikuro, Hisashi Ohseto, Keiko Murakami, Fumihiko Ueno, Tomomi Onuma, Aoi Noda, Fumiko Matsuzaki, Taku Obara, Shinichi Kuriyama	国内	800
17	国内	第33回日本疫学会学術総会	尾島俊之	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	アクトシテイ浜松	浜松	日本	20230201	20230203	20230200	子宮内抗生物質曝露と児の自閉行動の関連に関する検討:東北メディカル・メガバンク計画三代目コホート調査	阿部 美有, 上野 史彦, 高橋 一平, 大瀬戸 恒志, 石黒 真美, 村上 慶子, 野田 あおい, 大沼 ともしみ, 松崎 実美子, 森下 啓, 小原 拓, 栗山 進一	国内	800

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 7件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (のほろぼろ)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	セミナー	災害医学研究部門	第21回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第34回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第1回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20220519		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
2	国内	セミナー	災害医学研究部門	第22回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第35回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第2回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20220721		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
3	国内	セミナー	災害医学研究部門	第23回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第36回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第3回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20220922		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
4	国内	セミナー	災害医学研究部門	第24回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第37回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第4回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20221124		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
5	国内	ワークショップ	災害医学研究部門	災害医学研究部門 特別講演会&ワークショップ「災害時のパーソナルヘルスレコード(PHR)活用ー熊本県荒尾市の「あらか健康手帳」に学ぶー」	20221222		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
6	国内	セミナー	災害医学研究部門	第25回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第38回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第5回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20230127		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし
7	国内	セミナー	災害医学研究部門	第26回東北大学災害科学研究拠点セミナー / 第49回「災害と健康」学際研究推進セミナー / 第6回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー	20230323		Web	仙台	日本	50	臨床 医学	運営	IRIDeS主催・共同 主催		なし

C. 教育活動

教育活動の概要

教育活動については、医学部から医学系研究科まで、「災害の科学」、「公衆衛生学」、「臨床推論・EBM演習・医療統計」、「巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス(Health and social resilience for large-scale disaster)」、「ゲノム医学」、「疫学概論」、「分子疫学」、「Topics and Discussions (Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)」、「社会・環境医学」などの講義を行い、大学院生10名、医学部学生2名の指導を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学(災害の発生と波及)	東北大学	全学		1	1セメ	1
2	公衆衛生学	東北大学	医学部	医学科	1	2セメ	4
3	臨床推論・EBM演習・医療統計	東北大学	医学部	医学科	3		4
4	巨大災害に対する健康と社会のレジリエンス (Health and social resilience for large-scale disaster)	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻・公衆衛生学専攻修士課程	4		1
5	疫学概論	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程			1
6	分子疫学	東北大学	大学院医学系研究科	公衆衛生学専攻修士課程			8
7	Topics and Discussions (Precision Medicine and Risk Estimation of Multifactorial diseases)	東北大学	大学院医学系研究科				1
8	社会・環境医学	東北大学	大学院医学系研究科	医科学専攻博士課程(医学履修課程)			1

**D. 社会活動**

**社会活動の概要**

学外の社会活動においては、宮城県がん登録情報利用等審査会委員、独立行政法人国立成育医療研究センター成育医療研究開発費評価部会委員会委員、プライムアースEVエナジー株式会社及び株式会社ネクスコ・トール東北の産業医などを務めている。

**自治体・民間等での委員**

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	その他	一般財団法人 宮城県公衆衛生協会	研修部門企画運営委員会	委員	20130401
2	その他	独立行政法人 国立成育医療研究センター	成育医療研究開発費評価部会委員会	委員	20140401
3	地方自治体	宮城県保健福祉部健康推進課がん対策班	宮城県がん登録情報利用等審議会	委員	20180701
4	地方自治体	仙台市健康福祉局保険高齢部介護保険課	仙台市介護保険審議会委員	委員	20210719

## 浅尾 敦子 助教

## ASAO Atsuko

災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東北大学	医療技術短期大学部	1985	3	東北大学	医学系研究科	2010	9	Ph.D	2010	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1985	4	1987	3	山形県北村山公立病院	臨床検査技師
2	1987	4	1989	7	東北大学抗酸菌病研究所	技術補佐員
3	1990	4	1996	8	仙台市立病院	臨床検査技師
4	2005	4	2006	9	東北大学先進医工学機構	技術補佐員
5	2010	4	2010	12	東北大学医学系研究科	教育研究支援者
6	2011	1	2012	3	東北大学病院	厚生科研究員
7	2012	4	2017	3	東北大学医学系研究科	教育研究支援者
8	2017	4	2022	3	東北大学医学系研究科	助手
9	2022	4	2023	3	東北大学災害科学国際研究所	助教

## 学会活動

所属学会

学会名 1
日本免疫学会

研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
自然免疫	アレルギー	感染防御

委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 医学系研究科	共通機器室運営委員会	委員	20220401

## B. 研究活動

研究活動の概要

胎児から幼少期の曝露がその後の成長と発達にどのような影響を与えるかについて、大規模出生三世代コホートのデータや追跡調査で取得されたデータと、コホート参加者の服薬とサプリメント摂取に関するデータの整備を行った。

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	1	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	題51回日本免疫学会学術集会	吉村 昭彦	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	熊本城ホール	熊本市	日本	20221207	20221209	20221209	ILC2-derived OX40L-OX40 signal promotes cytotoxic CD8+ T cell-mediated antitumor immunity in murine melanoma	<u>Yuko Okuyama</u> , Akira Okajima, Nao Sakamoto, Ryuto Tanabe, Ayaka Hashimoto, Ziying Yang, Atsuko Asao, Akihisa Kawajiri, Takeshi Kawabe, Naoto Ishii.	国内	1952

# 児玉 栄一 教授

## KODAMA Eiichi

災害医学研究部門 災害感染症学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	福島県立医科大学	医学部	1990	3	福島県立医科大学大学院	医学研究科博士課程	1994	3	医学博士	1994	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	1	1994	3	国立療養所福島病院 内科 (現国立病院機構福島病院)	内科医師
2	1994	4	1998	3	福島県立医科大学 医学部 微生物学講座	助手(助教)
3	1998	4	1999	8	福島県立医科大学 医学部 微生物学講座	講師
4	1999	9	2009	3	京都大学 ウイルス研究所 感染免疫学分野	助教
5	2009	4	2012	12	東北大学病院 内科感染症科	助教
6	2013	1	2013	3	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	講師
7	2013	4	2013	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
8	2013	8	2013	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
9	2013	12	2014	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
10	2014	8	2014	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
11	2014	12	2015	7	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
12	2015	8	2015	11	宮城県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科	診療部長
13	2015	12	2016	3	東北大学 医学系研究科 宮城地域医療支援寄附講座	講師
14	2016	4	2016	5	東北大学病院 総合地域医療教育支援部	講師
15	2016	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 災害医学研究部門 災害感染症学分野	教授

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
ウイルス	治療薬	感染制御	アウトブレイク	地域医療

#### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部署の委員会での委員

部局名	委員会名	役職	開始年月日
1 本部	新型コロナウイルス感染症対策専門家会議	委員	20200201
2 大学病院	感染対策委員会	委員長	20160101
3 大学病院	BCP作成委員会	委員	20170901
4 大学病院	新型コロナウイルス感染症 対策本部会議	委員	20200301
5 大学病院	新型コロナウイルス感染症 災害対策本部	委員	20200301
6 東北メディカル・メガバンク機構	地域支援センター(多賀城)	センター長	20210401
7 東北メディカル・メガバンク機構	緊急回付室	副室長	20180401
8 医学部	採用等審査小委員会	委員	20200401
9 医学部	研究安全管理室	委員	20200401
10 医学部	新型コロナウイルス感染症対策委員会	委員	0

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

新型コロナウイルス感染症抑制に向けて、治療薬の開発研究、パンデミック時の大学病院感染症BCPを作成・運用した。同ウイルス対応でAMEDから3件、文部科学省から1件の研究資金を得ている。これまで通り、東日本大震災の影響の調査研究(東北メディカル・メガバンク機構と共同研究)、アウトブレイクで問題となるアデノウイルスの評価法(企業と共同研究)、耐性菌の解析(国立国際医療研究センターと共同研究)などを展開し、災害にかかわる感染症研究を行った。複数の企業との共同研究も行った。学内でのコロナ禍でのメンタルヘルス調査研究にも携わった。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	4	現在		抗ウイルス薬の開発(抗HBV・抗HIV・抗EBV・抗ADV薬等)	国内
2	2013	1	現在		震災後の地域医療の研究	国内
3	2018	4	現在		抗菌剤の開発(AMR対策)	国内
4	2019	12	現在		新型コロナウイルスに対する感染対策、診断・治療薬の開発	国内



論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	13	合計	13
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	13	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	-------	----	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Impact of the COVID-19 pandemic on racial and ethnic minorities in Japan	Hidetoshi Nomoto , Yusuke Asai, Kayoko Hayakawa, Nobuaki Matsunaga, Satoshi Kutsuna, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Norio Ohmagari	Epidemiology and Infection	150	202			20221026	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Interferon lambda 3 in the early phase of coronavirus disease-19 can predict oxygen requirement	Tetsuya Suzuki, Noriko Iwamoto, Shinya Tsuzuki, Yuko Kakumoto, Michiyo Suzuki, Shinobu Ashida, Yusuke Oshiro, Takeshi Nemoto, Kohei Kanda, Ayako Okuhama, Gen Yamada, Makoto Inada, Lubna Sato, Yusuke Miyazato, Yutaro Akiyama, Sho Saito, Shinichiro Morioka, Mugen Ujiie, Kayoko Hayakawa, Masaya Sugiyama, Masashi Mizokami, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Norio Ohmagari	European Journal of Clinical Investigation	52	9			20220504	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Lessons learned from an outbreak of COVID-19 in the head and neck surgery ward of a Japanese cancer center during the sixth wave by Omicron	Naoya Itoh a e, Nana Akazawa a, Masahiro Ishikane b d, Takanori Kawabata f, Daichi Kawamura a, Tomoyuki Chikusa a, <u>Eiichi N. Kodama</u> c, Norio Ohmagari	Journal of Infection and Chemotherapy	28	12	1610	1615	202212	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	The Association of Lung Function and Carotid Intima-Media Thickness in a Japanese Population: The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Masato Takase, Mitsuhiro Yamada, Tomohiro Nakamura, Naoki Nakaya, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Nobuo Fuse, Akira Uruno, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis					20221104	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Serine hydroxymethyltransferase as a potential target of antibacterial agents acting synergistically with one-carbon metabolism-related inhibitors	Yuko Makino, Chihiro Oe, Kazuya Iwama, Satoshi Suzuki, Akie Nishiyama, Kazuya Hasegawa, Haruka Okuda, Kazushige Hirata, Mariko Ueno, Kumi Kawaji, Mina Sasano, Emiko Usui, Toshiaki Hosaka, Yukako Yabuki, Mikako Shirouzu, Makoto Katsumi, Kazutaka Murayama, <u>Hironori Hayashi</u> , <u>Eiichi N. Kodama</u>	Communications Biology	5	619			20220623	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Surveillance and risk assessment of health screening for vaccine-preventable diseases among international students in Japan: A cross-sectional study in 2020	Hanako Takahata, Kazunari Onishid, Hidetoshi Nomoto, Norio Iwamoto, Kuniyoshi Hayashic, Narumi Horib, Satoshi Kutsunah, <u>Eiichi N. Kodama</u> , and Norio Ohmagari	Human Vaccines & Immunotherapeutics	18	6			20221130	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disseminated tuberculosis with paradoxical reactions caused by a Mycobacterium tuberculosis strain belonging to the Indo-Oceanic lineage: An imported case in Japan	Kengo Oshima, Chie Nakajima, Kazushige Hirata, Hironori Hayashi, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Yukari Fukushima, Yasuhiko Suzuki, Hajime Kanamori, Hiroaki Baba, Tetsuji Aoyagi, Koichi Tokuda, Mitsuo Kaku	Journal of Infection and Chemotherapy	28	7	965	970	202207	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Nasopharyngeal SARS-CoV-2 may not be dispersed by a high-flow nasal cannula	Tetsuya Suzuki, Shinichiro Morioka, Kei Yamamoto, Sho Saito, Shun Iida, Katsuji Teruya, Jin Takasaki, Masayuki Hojo, Kayoko Hayakawa, Satoshi Kutsuna, Sho Miyamoto, Seiya Ozono, Tadaki Suzuki, <u>Eiichi N. Kodama</u> & Norio Ohmagari	Scientific Reports	13	1			20230215	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Mental Health Problems among University Students under the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Repeated Cross-Sectional Survey	Moe Seto, Hitomi Usukura, Yasuto Kunii, Yumiko Hamaie, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Yuko Makino, Yoshitaka Kinouchi, Chihiro Ito, Tadayoshi Ikeda, Hiroaki Tomita	Tohoku Journal of Experimental Medicine					20230223	
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Establishing an accurate and sensitive in vitro drug screening system for human adenovirus infection with human corneal cells	Mina Sasano, <u>Hironori Hayashi</u> , Kumi Kawaji, Emiko Usui, <u>Eiichi N. Kodama</u>	Virology	17	581	34	38		20230217
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Carotid Intima Media Thickness and Risk Factor for Atherosclerosis: Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Masato Takase, Naoki Nakaya, Tomohiro Nakamura, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ippei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi, Nobuo Fuse, Akira Uruno, <u>Eiichi N. Kodama</u> , Shinichi Kuriyama, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	30					

12	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Reduction strategies for inpatient oral third-generation cephalosporins at a cancer center: An interrupted time-series analysis	Naoya Itoh ,Takatori Kawabata,Nana Akazawa,Daichi Kawamura,Hiroimi Murakami,Yuichi Ishihana ,Eiichi N. Kodama,Norio Ohmagari	PLoS One	18	2			20230209
13	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Association between lung function and hypertension and home hypertension in a Japanese population: the Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study	Masato Takase, Mitsuhiro Yamada, Tomohiro Nakamura, Naoki Nakaya, Mana Kogure, Rieko Hatanaka, Kumi Nakaya, Ippei Chiba, Ikumi Kanno, Kotaro Nochioka, Naho Tsuchiya, Takumi Hirata, Yohei Hamanaka, Junichi Sugawara, Tomoko Kobayashi,Nobuo Fuse, Akira Uruno ,Eiichi N. Kodama,Shimichi Kuriyama, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa	Journal of Hypertension	41	3	443	452	20230301

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	2	監修編集	0	合計	2	うち	国際	1	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本 (著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
2 英語	51 Approaches to Disaster Science:Lessons from the Great East Japan Earthquake	単行本	202211	今村文彦、田所諭、木戸元之、遠田晋次、渡邊豊、青木孝行、大野晋、榎田竜太、五十子幸樹、寺田賢二郎、越村俊一、マス・エリック、邑本俊亮、杉浦元亮、奥村誠、丸谷浩明、村尾修、岩田司、平野勝也、小野田泰明、菅原大助、サッパシー・アナワット、今村文彦、門畑充侍、森口周二、細井義夫、堀浦道生、増田聡、島田明夫、福田雄、高倉浩樹、牧野祐子、児玉栄一 他	共著	東北大学出版会	両方	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	1	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 英語	Design and Progress of Child Health Assessments at Community Support Centers in the Birth and Three-Generation Cohort Study of the Tohoku Medical Megabank Project	学術雑誌	無	いいえ	Tohoku Journal of Experimental Medicine	259	2	93	105	2023	Tomoko Kobayashi, Mika Kobayashi, Naoko Minegishi, Masahiro Kikuya, Taku Obara, Mami Ishikuro, Chizuru Yamanaka, Tomomi Onuma, Keiko Murakami, Fumihiko Ueno, Aoi Noda, Akira Uruno, Junichi Sugawara, Kichiya Suzuki, Eiichi N. Kodama, Yohei Hamanaka, Naho Tsuchiya, Mana Kogure, Naoki Nakaya, Makiko Taira, Mika Sakurai-Yageta, Toru Tamahara, Junko Kawashima, Maki Goto, Akihito Otsuki, Ritsuko Shimizu, Soichi Ogishima, Hiroaki Hashizume, Fuji Nagami, Tomohiro Nakamura, Atsushi Hozawa, Tadao Kobayashi, Nobuo Fuse, Shimichi Kuriyama, Shigeo Kure, Masayuki Yamamoto.	共著	国内

学会会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	その他	災害感染症学分野	感染症リサーチカンファレンス	20220826	20220826	Zoom	仙台	日本	20	臨床医学	代表	なし	連携講座	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

大学院生7名、その他学位指導・審査などを行った。医学部(医学科・保健学科)、歯学部などの学生講義、大学院講義などに加えて、全学教育にかかわる災害感染対策などの教育にかかわった。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	新入生オリエンテーション	東北大学	医学部	保険学科	1		
2	隣接医学	東北大学	歯学部	歯学科	5	前期	1
3	新1年生「研究室取材訪問」	東北大学	医学部	医学科	1	1セメ	1
4	「ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス」 「グローバルヘルス特論」	東北大学	医学系	医科学		前期	1
5	卒前最終講義	東北大学	医学部	医学科	6		1
6	医学・医療入門、行動科学	東北大学	医学部	医学科	1	2セメ	1
7	血液学II(免疫不全症)	東北大学	医学部	保険学科	2	4セメ	1
8	巨大災害に対する健康と社会のレジリンス特論	東北大学	医学系	医科学		後期	1
9	感染症とHuman Security	東北大学	医学系	医科学		後期	1
10	災害の科学	東北大学	全学			2セメ	1
11	内科通論(血液・免疫・アレルギー・感染症ブロック)	東北大学	医学部	医学科	4		1
12	SAカレッジ(22年度コースIII)	東北大学	全学				1

D. 社会活動

社会活動の概要

新型コロナウイルス感染症対応としての報道機関からの問い合わせ、インタビュー、寄稿などを行った。また東北ブロックの病院、研究会、学会からの招待講演に応じた。行政からの依頼で、仙台市感染症審議会など、複数の委員会に加わり、行政対応などの支援を行った。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 8 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	院内感染対策講習会	招待講演	20220630	20220630	最近の動向:新型コロナウイルス感染症と他の感染症	なし	藤田総合病院	藤田総合病院	福島県伊達郡	日本	
2	講演会	令和4年度東北大学産業医学研修会(基礎・生涯)	講演	20220709	20220709	新型コロナウイルス感染症対策の最新情報	なし	宮城県医師会	東北大学 星陵オーデトリウム講堂	仙台市	日本	
3	講演会	第61回日本臨床細胞学会秋季大会	講演	20221106	20221106	今後に備えるウイルスのトリセツ	なし	伊藤 潔	仙台サンプラザホール	仙台市	日本	
4	その他	長期健康調査事業報告会	講演	20221116	20221116	詳細3次調査の検査概要	なし	東北メディカル・伽ババンク機構	多賀城市文化センター	多賀城市	日本	
5	講演会	仙台市泉ブロックオンライン学術講演会	講演	20221213	20221213	コロナ禍におけるインフルエンザ診療	企業	第一三共株式会社	仙台トラスタワー	仙台市	日本	40
6	公開講座	東日本大震災メモリアルシンポジウム2023	講演	20230304	20230304	コロナ禍における被災者の感染症対策	なし	東北大学災害科学国際研究所	仙台国際センター 展示棟	仙台市	日本	
7	公開講座	仙台防災未来フォーラム2023	講演	20230304	20230304	レジリエント・コミュニティの創生を目指して	なし	仙台市	仙台国際センター 展示棟	仙台市	日本	
8	セミナー	第31回 EBウイルス感染症研究会 武田薬品工業株式会社 共催セミナー	講演	20230319	20230319	免疫不全と創薬研究	企業	EBV 感染症研究会事務局	九州大学病院 キャンパス及び Zoom	仙台市	日本	

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	宮城県	結核医療地域ネットワーク会議	世話人	20160601
2	地方自治体	宮城県	感染症審査協議会委員会	委員	20160601
3	地方自治体	仙台市	感染症病院ネットワーク	メンバー	20160901
4	地方自治体	仙台市	感染症審査協議会「感染症審査部会」	会長(部会長)	20170401
5	地方自治体	仙台市	エイズ・性感染症対策推進協議会委員	副会長	20170801
6	その他	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	委員	20171201
7	地方自治体	宮城県	感染症対策委員会	委員	202107
8	地方自治体	宮城県	新型コロナウイルス感染症アドバイザリーボード	委員	202109

# 林 宏典 助教

## HAYASHI Hironori

災害医学研究部門 災害感染症学分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	工学部	2005	3	京都大学	エネルギー科学研究科	2007	3	修士課程	2005	3
2					京都大学	エネルギー科学研究科	2010	3	博士課程(退学)		
3					熊本大学	医学教育部医学専攻	2014	9	博士課程	2014	9

職歴 (研究職以外も含め学校修了後の職歴全てを記入・東北大データベース上は略歴となっている)

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	10	2018	3	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 難治性ウイルス感染症研究部	研究員
2	2018	3	2018	9	東北大学 病院検査部	正規職員
3	2018	10	2020	9	東北大学大学院医学系研究科 感染制御インテリジェンス・ネットワーク寄附講座	正規職員
4	2020	10	現在		東北大学災害科学国際研究所 災害感染症学分野	正規職員

#### 学会活動

#### 所属学会

学会名 1	2
抗ウイルス療法学会	エイズ学会

#### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
アウトブレイク	薬剤耐性	創薬	抗ウイルス薬	抗菌薬

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

感染症災害の早期終息と新たな発生の予防のため、新規抗ウイルス薬および抗菌薬開発を行った。抗ウイルス薬開発に関しては、RSウイルスや麻疹ウイルスの阻害剤開発を実施 [*J. Biol. Chem.* リバイス中] すると共に、東京の国立国際医療研究センター研究所、米国立衛生研究所と連携して新型コロナウイルス阻害剤 [*Nat. Commun.* および*Science* に掲載] やヒト免疫不全ウイルス阻害剤 [*Sci. Adv.* リバイス中]、アデノウイルス阻害剤 [*Virology* に掲載] 開発を行った。更に、新たな抗菌薬標的となる新規タンパクを同定した [*Commun. Biol.* に掲載(責任著者)]。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	1	現在		薬酸サイクルを介した1炭素代謝関連酵素を標的とする抗菌薬開発	国内
2	2019	1	現在		新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)によるパンデミックの早期終息を目的とした新規SARS-CoV-2治療薬の構造解析	両方
3	2020	12	現在		ヒト免疫不全ウイルス(HIV)のインテグラーゼ阻害剤開発	両方
4	2018	4	現在		麻疹ウイルスの薬剤耐性獲得機構に基づく新規膜融合阻害ペプチドの設計指針	国内
5	2022	4	現在		非天然型複合体形成を促進する有機小分子の開発	国内
6	2022	4	現在		抗がん剤をブローブとした新規抗菌薬標的の探索	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	4	合計	4	うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Serine hydroxymethyltransferase as a potential target of antibacterial agents acting synergistically with one-carbon metabolism-related inhibitors.	Makino Y, Oe C, Iwama K, Suzuki S, Nishiyama A, Hasegawa K, Okuda H, Hirata K, Ueno M, Kawaji K, Sasano M, Usui E, Hosaka T, Yabuki Y, Shirouzu M, Katsumi M, Murayama K, Hayashi H <sup>✉</sup> and Kodama EN	<i>Communications Biology</i>	5	1		619	20220623

2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Potent and biostable inhibitors of the main protease of SARS-CoV-2.	Tsuji K, Ishii T, Kobayakawa T, Higashi-Kuwata N, Azuma C, Nakayama M, Onishi T, Nakano H, Wada N, Hori M, Shinohara K, Miura Y, Kawada T, Hayashi H, Hattori S, Bulut H, Das D, Takamune N, Kishimoto N, Saruwatari J, Okamura T, Nakano K, Misumi S, Mitsuya H and Tamamura H.	iScience	25	11	10536	20221118	
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Establishing an Accurate and Sensitive In Vitro Drug Screening System for Human Adenovirus Infection with Human Corneal Cells.	Sasano M, Hayashi H, Kawaji K, Usui E, and Kodama EN.	Virology	581		34	38	20230217
4	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Identification of SARS-CoV-2 Mpro Inhibitors containing P1' 4-fluorobenzothiazole Moiety Highly Active against SARS-CoV-2.	Higashi-Kuwata N, Tsuji K, Hayashi H, Bulut H, Kiso M, Imai M, Ogata-Aoki H, Ishii T, Kobayakawa T, Nakano K, Takamune N, Kishimoto N, Hattori S, Das D, Uemura Y, Shimizu Y, Aoki M, Hasegawa K, Suzuki S, Nishiyama A, Saruwatari J, Sukenaga Y, Takamatsu Y, Tsuchiya K, Maeda K, Yoshimura K, Iida S, Ozono S, Suzuki T, Okamura T, Misumi S, Kawaoka Y, Tamamura H and Mitsuya H.	Nature Communications	14	1	1076	20230225	

学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	2	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年 月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	第30回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会	満屋 裕明	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	京都リサーチパークサイエンスホール	京都	日本	20220915	20220917	20220916	COVID-19の治療薬をターゲットとしたSARS-CoV-2メインプロテアーゼ阻害剤の創製	辻耕平、飯田伸好、石井廣大、小早川拓也、篠原功紀、東知佳、林宏典、服部真一朗、岸本直樹、高宗暢暉、三隅特吾、Haydar Bulut、岡村匡史、満屋裕明、玉村啓和	両方	100
2	国内	第30回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会	満屋 裕明	その他の 連名	いいえ	口頭(一般)	京都リサーチパークサイエンスホール	京都	日本	20220915	20220917	20220917	HIV-1プロテアーゼ阻害剤GRL-142は、インテグラーゼのNLSに結合、HIV-1DNAの核移行を阻害し、インテグラーゼ阻害剤耐性HIV-1変異体を強力に阻害する	吉本学、青木宏美、Haydar Bulut、林宏典、長谷川和也、Arun K. Ghosh、Alice K. Pau、満屋裕明	両方	

C. 教育活動

教育活動の概要

抗ウイルス薬や抗菌薬の開発研究を通して、創薬研究における基礎的な知識と必要となる実験技術、特に薬剤のスクリーニング技術を中心に細胞増殖の基礎的技術、分子生物学的思考法などを習得できるように指導した。また、実験を通して、研究に対する考え方や研究テーマをどのように発展させていくかなどを教えた。さらに、投稿論文がどのような過程を経て雑誌に掲載されるかを実際に経験してもらった。

D. 社会活動

社会活動の概要

感染症災害に対する人類の対抗手段であるワクチンや治療薬の開発技術がどのように発展してきたかに関して学内外に紹介するために講演会で発表した。災害研で実施している金曜フォーラムの運営委員の一員として会の開催準備などを行った。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2 件
----	-----

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	感染制御インテリジェンスネットワーク寄附講座	第19回感染制御インテリジェンスネットワーク寄附講座セミナー	20220909	20220909	インターネット開催	仙台市	日本	運営委員	40	なし	講演会
2	国内	災害科学国際研究所	第79回IRIDeS金曜フォーラム	20220916	20220916	インターネット開催	仙台市	日本	運営委員	50	IRIDeS主催・共同主催	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	第18回感染制御インテリジェンスネットワーク寄附講座セミナー	講演	20220727	20220727	感染症創薬－分子標的薬と構造解析－	なし	東北大学医学研究科感染制御インテリジェンスネットワーク寄附講座	ウェブ開催	仙台市	日本	20

# 佐藤 健 教授

## SATO Takeshi

防災実践推進部門 防災教育実践学分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	豊橋技術科学大学	建設工学課程	1987	3	東北大学大学院	工学研究科	1989	3	修士(工学)	1989	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1989	4	1994	3	株式会社フジタ 建築設計部	研究
2	1994	4	1996	3	株式会社フジタ 技術研究所	研究
3	1996	4	1997	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助手
4	1997	4	1999	3	宮城工業高等専門学校建築学科	講師
5	1999	4	2001	3	宮城工業高等専門学校建築学科	助教授
6	2001	4	2007	3	東北大学大学院工学研究科	講師
7	2007	4	2012	3	東北大学大学院工学研究科	准教授
8	2012	4	2020	3	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター	共同研究員
9	2012	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	教授
10	2012	4	現在		静岡大学防災総合センター	客員教授
11	2019	6	現在		宮城教育大学防災教育研修機構	客員教授
12	2020	4	現在		大阪教育大学学校安全推進センター	共同研究員

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8
	日本建築学会	日本自然災害学会	日本安全教育学会	日本災害医学会	日本地震工学会	地域安全学会	日本災害情報学会	歴史地震研究会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本安全教育学会		常任理事	20110000
2	日本建築学会東北支部	災害調査連絡会	委員長	20170000
3	日本自然災害学会		評議員	20200400

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	自然災害科学	地震工学	安全教育学

## 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	副室長(総長特別補佐)	20140400
2	工学部・工学研究科	入試広報企画室 運営委員会	委員	20160400
3	工学部	入試検討委員会	委員長	20220401
4	工学部 人間・環境系	学部入試委員会	委員	20140400
5	全学	学際高等研究教育院運営専門委員会	委員	20220401
6	全学	学術情報整備検討委員会	委員	20220401
7	全学	附属図書館商議会	商議員	20220401

## B. 研究活動

研究活動の概要

自然科学と社会科学の融合に基づいた防災教育モデルの開発、被災地における復興教育モデルの実践、防災教育支援システムの開発など、都市・建築学を基盤とし周辺学問領域との学際的研究に取り組んでいる。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		復興教育モデルの開発と実践	国内
2	2012	4	現在		東日本大震災における避難者の発生と推移に関する空間分析	国内
3	2011	4	現在		東日本大震災における学校の被害と対応に関する調査研究	国内
4	2012	4	現在		学校防災に関する研究	国内

論文

単著	0	筆頭共著	3	その他の共著	7	合計	10	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	4	国内査読無	5
----	---	------	---	--------	---	----	----	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	大規模災害時を想定した分焼取扱施設における災害対策	佐藤美樹, 佐藤 健	Japanese Journal of Disaster Medicine	27	3	165	172	20221012
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	仙台市のがんばる避難施設に着目したマンション防災力の評価	酒井悠里, 佐藤 健	自然災害科学	41	特別	55	64	20221000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	学校運営体制から見た地域に根差した防災教育の持続性—石巻市内の学校を対象としたアンケート調査を通して—	加賀谷 碧, 佐藤 健	安全教育学研究	22	1	3	13	20221031
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	"Climate and disaster risk reduction education": in Rajib Shaw, ed, Handbook on Climate Change and Disasters, Elgar Handbooks in Energy, the Environment and Climate Change	Aiko Sakurai, Yoshiyuki Murayama, Takeshi Sato and Takashi Oda	Edward Elgar, U.K			322	329	20220000
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地域の災害リスクを踏まえた学校防災の拡充に向けた—考察—防災主任の役割に着目して—	桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健	防災教育学会第3回大会予稿集					20220600
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	学校の防災管理の充実化と関連させた洪水災害の防災教育～石巻市立大谷地小学校における実践事例～	佐藤 健, 橋本雅和, 北浦早苗, 桜井愛子, 李 泰榮, 池田真幸, 村山良之, 熊谷 誠, 小田隆史	日本安全教育学会第23回宮城大会プログラム予稿集			84	85	20220910
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地形とハザードマップに関する教員研修 石巻市防災主任研修の成果と課題	村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 小田隆史, 熊谷 誠	日本地理学会発表要旨集			54	54	20220900
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	津波に対する緊急避難場所の学校教員による優先度評価	佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之, 熊谷 誠, 北浦早苗	令和4年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集			34	35	20221200
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	放射線教育とその研究の時空間減衰—文献レビューと齋藤・小田(2021)の追加分析—	齋藤 玲, 小田隆史, 邑本俊亮, 佐藤 健	東日本大震災・原子力災害第1回学術研究会					20230300
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	洪水災害を対象とした学校の防災管理の充実化と防災教育の実践～石巻市立大谷地小学校における事例～	佐藤 健, 橋本雅和, 桜井愛子, 北浦早苗, 藤坂雄一, 村山良之, 熊谷 誠, 小田隆史, 李 泰榮, 池田真幸	安全教育学研究	22	2			20230300

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	2	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
英語	51 Approaches to Disaster Science: Lessons from the Great East Japan Earthquake	編集本(著者・Author)	20221100	東北大学災害科学国際研究所	共著		国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	2	合計	4
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチャーム	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	防災教育学会第3回大会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	神戸学院大学	神戸	日本	20220619	20220619	20220619	地域の災害リスクを踏まえた学校防災の拡充に向けた—考察—防災主任の役割に着目して—	桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健	国内	
国内	日本安全教育学会第23回宮城大会	小田隆史	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	宮城教育大学	仙台	日本	20220910	20220911	20220911	学校の防災管理の充実化と関連させた洪水災害の防災教育～石巻市立大谷地小学校における実践事例～	佐藤 健, 橋本雅和, 北浦早苗, 桜井愛子, 李 泰榮, 池田真幸, 村山良之, 熊谷 誠, 小田隆史	国内	77
国内	令和4年度東北地域災害科学研究集会	片岡俊一	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	弘前大学	弘前	日本	20221226	20221227	20221227	津波に対する緊急避難場所の学校教員による優先度評価	佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之, 熊谷 誠, 北浦早苗	国内	
国内	東日本大震災・原子力災害第1回学術研究会		その他の連名	いいえ	口頭(一般)	コラッセふくしま	福島	日本	20230316	20230317	20230317	放射線教育とその研究の時空間減衰—文献レビューと齋藤・小田(2021)の追加分析—	齋藤 玲, 小田隆史, 邑本俊亮, 佐藤 健	国内	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	2件
----	----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRiDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
国内	その他	日本安全教育学会	日本安全教育学会第23回宮城大会	20220910	20220911	宮城教育大学・オンライン配信	仙台市	日本	77	人文社会系	実行委員	IRiDeS共催	宮城教育大学	国内
国内	その他	日本安全教育学会	日本安全教育学会2022年度第3回WEB研修会	20230318	20230318	オンライン		日本	54	人文社会系	運営委員	なし	防災教育協働センター	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

東日本大震災発生時における避難者数の空間分析、都市部における避難抑制効果の評価、学校防災教育モデルの持続可能性、福祉避難所、妊産婦・乳児に関する防災上の課題等について学生の研究指導を行っている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	学問論演習	東北大学	全学		1	2セメ	2
2	地震と建築	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	3	5セメ	6
3	構造動力学	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	4	7セメ	
4	災害危機管理論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			6
5	建築構造工学特論	東北大学	工学研究科	都市・建築学専攻			1
6	建築防災学	静岡大学		ふじのくに防災フェロー養成講座			
7	地域防災論	東北福祉大学		地域減災論			
8	学校防災教育概論	宮城教育大学					
9	防災教育論	東京医科大学			2		2

D. 社会活動

社会活動の概要

コミュニティベースの地域防災と学校防災の融合に関する実践と学校教育、生涯学習等の場面における防災啓発に取り組んでいる。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 10 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRiDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	宮城県・東北地方整備局・仙台管区気象台	宮城県市町村防災担当職員向け説明会	20220628	20220628	災害科学国際研究所	仙台市	日本	運営委員	50	なし	その他	防災教育協働センター主催
2	国内	石巻市教育委員会	令和4年度石巻市学校防災フォーラム	20220804	20220804	マルホンまきあーと	石巻市	日本	運営委員	250	IRiDeS後援・ 名義後援	その他	
3	国内	宮城県教育委員会	令和4年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	20221211	20221211	多賀城市文化センター	多賀城市	日本	講師	50	IRiDeS共催	その他	
4	国内	宮城県・災害科学国際研究所	令和4年度女性防災指導員等交流セミナー「つづける・つながる地域防災活動」	20221213	20221213	自治会館	仙台市	日本	ファシリテーター	50	IRiDeS主催・ 共同主催	セミナー	
5	国内	宮城県教育委員会	令和4年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	20221217	20221217	河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	講師	50	IRiDeS共催	その他	
6	国内	石巻市教育委員会・石巻市学校防災推進会議	第6回石巻市復興・防災マップコンクール	20230118	20230118	石巻市防災センター	石巻市	日本	審査員		IRiDeS後援・ 名義後援	その他	
7	国内	宮城県多賀城高等学校	東日本大震災メモリアルday2022	20230120	20230121	宮城県多賀城高等学校	多賀城市	日本	講師	50	IRiDeS協力	その他	
8	国内	宮城県教育委員会/防災教育協働センター	令和4年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム	20230125	20230125	岩沼市民会館	岩沼市	日本	実行委員	429	なし	その他	防災教育協働センター主催
9	国内	大阪教育大学学校安全推進センター	第3回学校安全推進センターフォーラム	20220303	20220303	大阪教育大学・オンライン	池田市	日本	運営委員	350	なし	その他	防災教育協働センター後援
10	国内	仙台市	令和4年度第17回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム	20230315	20230315	仙台国際センター	仙台市	日本	実行委員	350	IRiDeS共催	その他	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 33 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	令和4年度防災主任1年目研修会	講義	20220512	20220512	ハザードマップを活用した災害特性の把握と対応	行政	宮城県総合教育センター	宮城県総合教育センター	名取市	日本	150
2	セミナー	日本建築学会東北支部みちのくの風2022秋田特別事業	ファシリテーション	20220618	20220618	令和4(2022年)3月16日福島県沖の地震災害調査報告会	なし	日本建築学会東北支部	オンライン		日本	
3	セミナー	令和4年度第1回気仙沼市立幼稚園・小・中学校防災主任研修会	講演	20220627	20220627	学校防災の基礎知識	行政	気仙沼市教育委員会	魚市場前庁舎	気仙沼市	日本	30
4	セミナー	青森県「命を守る！防災教育推進事業」先進地視察	講演	20220726	20220726	学校の災害安全の推進に向けて	行政	青森県教育委員会	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	16
5	セミナー	令和4年度防災スペシャリスト養成研修	講義	20220728	20221023	「災害への備え」コース	行政	内閣府	オンデマンド		日本	



6	セミナー	けせんぬま防災きつすスクール～東北大学災害科学国際研究所の日～	出前授業	20220731	20220731	ぼうさい宝探し～海の子ホヤぼーやからの密命～	行政	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館・ハイブリッド	気仙沼市	日本	10
7	セミナー	島根県学校安全(災害安全)研修(西部会場)	講演	20220802	20220802	『災害安全』の現状と課題～防災管理と防災教育の推進に向けて～	行政	島根県教育委員会	オンライン		日本	21
8	セミナー	島根県学校安全(災害安全)研修(東部会場)	講演	20220803	20220803	『災害安全』の現状と課題～防災管理と防災教育の推進に向けて～	行政	島根県教育委員会	オンライン		日本	48
9	セミナー	山元町防災担当者研修会	講演	20220817	20220817	防災管理の推進に向けて	小中高	山元町立山元中学校	山元町立山元中学校	山元町	日本	20
10	小中高との連携	利府町立利府中学校教員研修	講演	20220819	20220819	利府中学校の土砂災害に対する避難確保計画の充実化に向けて	小中高	利府町立利府中学校	利府町立利府中学校	利府町	日本	16
11	セミナー	日本建築学会大会(北海道)災害部門－緊急報告会	ファシリテーション	20220908	20220908	令和4(2022)年3月16日福島県沖の地震災害調査報告会	なし	日本建築学会	オンライン		日本	
12	セミナー	日本安全教育学会第23回宮城大会シンポジウム	ファシリテーション	20220911	20220911	次世代の学校安全の担い手との対話～災害に強い未来社会の創造に向けて～	なし	日本安全教育学会	宮城教育大学	仙台市	日本	77
13	セミナー	令和4年度第2回石巻市防災主任研修会	講義	20220915	20220915	学区の災害リスクの理解	行政	石巻市教育委員会	石巻市立開北小学校	石巻市	日本	60
14	セミナー	サロンde防災	講演	20220922	20220922	マンションの防災あれやこれや	企業	NPO法人防災自然アカデミー	オンライン		日本	10
15	小中高との連携	石巻市立大谷地小学校6年生出前授業	出前授業	20221006	20221006	北上川のはらんから命をまもる！～安全なひなん場所をみんなで考えよう～	小中高	石巻市立大谷地小学校	石巻市立大谷地小学校	石巻市	日本	30
16	セミナー	令和4年度安全担当主幹教諭研修会	講義	20221015	20221207	今求められる地域と連携した防災体制	行政	宮城県総合教育センター	オンデマンド		日本	78
17	セミナー	防災教育チャレンジプラン2022年度防災教育交流フォーラム(防災教育交流会)	講演	20221022	20221022	CPのこれまでの成果とこれから	行政	内閣府	神戸市IHDセンタービル・ハイブリッド	神戸市	日本	
18	セミナー	大阪産業技術研究所研修	講演	20221026	20221026	東北大学による東日本大震災の経験と災害対策の取組	なし	地方独立行政法人大阪産業技術研究所	地方独立行政法人大阪産業技術研究所	大阪府	日本	66
19	小中高との連携	日本赤十字社宮城県支部研究協力校実践発表会	ファシリテーション	20221104	20221104	防災の未来と子ども	小中高	日本赤十字社宮城県支部	塩釜市ガス体育館	塩釜市	日本	450
20	セミナー	令和4年度全国学校保健・安全研究大会課題別研究協議会(第10課題)	講演	20221111	20221111	関係機関等との連携による安全の体制整備～学校と地域、大人と子どもが一緒に活動することによる持続可能性～	行政	岩手県教育委員会	いわて県民情報交流センター(アイーナ)	盛岡市	日本	
21	セミナー	仙台市地域防災リーダー養成講習会	講義	20221112	20221112	第2章 自分の住んでいる地域の特性の理解	行政	仙台市危機管理局	仙台市消防局	仙台市	日本	62
22	セミナー	仙台市地域防災リーダー養成講習会	講義	20221119	20221119	第2章 自分の住んでいる地域の特性の理解	行政	仙台市危機管理局	オンデマンド		日本	
23	セミナー	第20回伊達開拓「ふるさと従兄弟(いへとこ)」まちづくりサミット	講演	20221121	20221121	多発する地震災害と顔の見える相互支援	行政	伊達藩「ふるさと姉妹都市・歴史友好都市」連絡協議会	オンライン		日本	
24	セミナー	令和4年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	講演	20221211	20221211	講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策	行政	宮城県教育委員会	多賀城市文化センター	多賀城市	日本	50
25	セミナー	令和4年度女性防災指導員等交流セミナー	ファシリテーション	20221213	20221213	つづける、つながる地域防災活動	行政	宮城県復興・危機管理部防災推進課	自治会館	仙台市	日本	50
26	セミナー	令和4年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会	講演	20221217	20221217	講義Ⅱ 自然災害の基礎と地域における災害対策	行政	宮城県教育委員会	河北総合センタービッグバン	石巻市	日本	50
27	小中高との連携	宮城県立利府支援学校防災研修	講演	20221219	20221219	学校防災マニュアルの見直し	小中高	宮城県立利府支援学校	宮城県立利府支援学校	利府町	日本	5
28	小中高との連携	東日本大震災メモリアルday2022	講演	20230120	20230120	防災のための“技術を開発すること”と“技術を利用すること”	小中高	多賀城高等学校	多賀城高等学校	多賀城市	日本	50
29	セミナー	令和4年度宮城県防災指導員意見交換会(登米市)みんなの視点で考える防災セミナー	講演	20230121	20230121	多様な視点で備える地域防災の取組	行政	宮城県・登米市	追公民館	登米市	日本	25
30	公開講座	学都仙台コンソーシアム講座仙台学	講演	20230204	20230204	仙台の長町・富沢界隈の地名と災害	行政	学都仙台コンソーシアム	仙台市市民活動サポートセンター	仙台市	日本	25
31	その他	大河原町地域学校協働本部ネットワーク会議	講演	20230207	20230207	家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進	行政	大河原町教育委員会	大河原町中央公民館	大河原町	日本	41

32	セミナー	令和4年度第3回日本安全教育学会WEB研修会「防災教育と災害伝承の日」	講演	20230318	20230318	復興マップづくりから復興・防災マップづくりへの10年の歩み～	なし	日本安全教育学会	災害科学国際研究所・ハイブリッド	仙台市	日本	54
33	小中高との連携	関西創価高等学校模擬講義	講義	20230322	20230322	耐震・制震・免震の技術と地震応答	小中高	関西創価高等学校	災害科学国際研究所	仙台市	日本	12

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	NPO法人防災自熱アカデミー	NPO法人防災自熱アカデミー	理事	20120900
2	地方自治体	石巻市	石巻市学校防災推進会議	委員長	20130500
3	国・政府	内閣府	防災教育チャレンジプラン実行委員会	委員	20150623
4	地方自治体	宮城県	宮城県行政評価委員会	委員	20170401
5	その他	宮城県多賀城高等学校	スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	委員長	20180000
6	民間・NPO	青葉工学振興会	青葉工学振興会	監事	20190613
7	地方自治体	仙台市	仙台市福祉整備審議会	委員	20200900
8	地方自治体	宮城県	学校安全フォーラム実行委員会	委員	20220610
9	地方自治体	宮城県	地域連携型学校防災体制等構築推進事業	学校防災アドバイザー	20220414
10	地方自治体	宮城県	令和4年度「学校安全総合支援事業」推進委員会	委員	20220714
11	国・政府	文部科学省	学校施設等の防災・減災対策の推進に関する調査研究協力者会議	委員	20211200
12	地方自治体	仙台市	第17回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会	委員	20221001
13	国・政府	文部科学省	学校安全総合支援事業に関する有識者会議	委員	20220831
14	地方自治体	宮城県	宮城県教育振興審議会	委員	20230101

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 1 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	防災科学技術研究所	李 泰榮, 池田真幸	20221111	共同研究	オンライン		運営	10

# 丸谷 浩明 教授 MARUYA Hiroaki

防災実践推進部門 防災社会推進分野

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	経済学部	1983	3					博士(経済学)	2008	9

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1983	4	1985	7	建設省 住宅局 住宅政策課	係員
2	1985	7	1987	3	建設省 都市局 区画整理課	法規係長
3	1987	4	1988	9	建設省 建設経済局 調査情報課	情報政策係長
4	1988	10	1990	3	経済企画庁 調査局 内国調査第一課	専門調査員、主査
5	1990	4	1994	4	外務省 赴任研修、在シンガポール日本国大使館	二等書記官、一等書記官
6	1994	5	1995	7	建設省 住宅局 住宅政策課	課長補佐
7	1995	7	1997	7	建設省 建設経済局 国際課 国際企画室	課長補佐
8	1997	7	2000	4	阪神高速道路公団 計画部	企画課長
9	2000	4	2002	7	建設省 建設経済局 建設業課	建設市場アクセス推進室長
10	2002	7	2004	7	国土交通省 総合政策局 建設振興課	労働資材対策室長
11	2004	7	2005	7	内閣府政策統括官(防災担当)付	企画官
12	2005	7	2008	7	京都大学 経済研究所 先端政策分析研究センター	教授
13	2008	7	2011	11	(財)建設経済研究所	研究理事
14	2009	2	2013	3	兼務(非常勤) 東京工業大学 都市地震工学センター	特任教授
15	2011	11	2012	8	内閣府政策統括官(防災担当)付	参事官
16	2012	9	2013	9	国土交通省 国土交通政策研究所	政策研究官
17	2013	10	現在		東北大学 災害科学国際研究所	教授

## 学会活動

### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	地域安全学会	都市住宅学会	日本建築学会	日本不動産学会	地区防災計画学会	防災教育普及協会

### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	都市住宅学会	東北支部	支部長	20200401

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	事業継続マネジメント(BCM)	防災計画	災害ボランティア	防災法制	復興制度

### 委員会・ワーキンググループ

#### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	災害対策推進室	アドバイザー	201400
2	全学		部局評価責任者	202004
3	全学	産学連携リエゾンネットワーク	産学連携リエゾン	201902

## B. 研究活動

### 研究活動の概要

<p>企業・組織の事業継続マネジメント(BCM)・防災の研究では、南海トラフの臨時情報発表時の組織の対応を査読論文化した。また、独自の中小企業向けBCP策定マニュアルを各地の講習会等で活用した。大学のBCPの研究としては、本部BCPの訓練の企画・運営を担い、災害科学国際研究所の防災訓練、災害対策本部訓練も実施した。また、仙台で産官学による勉強会「企業・組織のBCP/防災勉強会(@仙台)」の主事を継続し、毎月会合を開いた。学会活動は、地域安全学会、都市住宅学会を中心に行った。</p>
---

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2005	7	現在		事業継続マネジメント(BCM)、事業継続計画(BCP)の研究	両方
2	2005	7	現在		企業・公的組織の防災対策の研究	国内
3	2005	7	現在		災害ボランティアの研究	国内
4	2012	9	現在		防災計画、防災法制の研究	国内
5	2012	9	現在		首都直下地震(特に、帰宅困難者の一時滞在施設)、南海トラフ地震の研究	国内
6	2013	10	現在		産官学民連携による防災の研究	国内
7	2013	10	現在		大学の業務継続計画(BCP)の研究	国内
8	2014	4	現在		災害復興制度(特に、企業、住宅、まちづくりの復興)の研究	国内

論文

単著	1	筆頭共著	1	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Obstacles to the Early Recovery and Reconstruction of the Fish Processing Industry Due to the Policy/Projects after the Great East Japan Earthquake and the Countermeasures: The Case of Kesennuma City in Miyagi Prefecture	Tetsuya TORAYASHIKI, Hiroaki Maruya	Journal of Disaster Research	17	6	1048	1058	20221001
日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	有	はい	2022年福島県沖の地震等のBCP改善の教訓	丸谷浩明	日本地震工学会誌		47	22	25	20221000
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災の企業の教訓の防災ビルからの発信～物流関係を中心に～	丸谷浩明, 加藤祐, 山田琢磨, 栗原裕之, 阿部真美	地域安全学会東日本大震災特別論文集		11	23	26	20220800

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	2	監修編集	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
日本語	災害看護 改訂第4版	教科書	20230215	酒井明子(編著)、増野園恵(編著)	共著	南江堂	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	7	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	7	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	7
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	近年の危機事象とBCPのアプローチ	その他	無	はい	安全と健康	73	12	86	88	20221201	丸谷浩明	単著	なし
日本語	地域建設業の事業継続計画(BCP)の改善	その他	無	はい	宮城県建設業協会機関誌「宮健ジャーナル」		331	6	7	20221226	丸谷浩明	単著	なし
日本語	コロナ禍において企業経営の持続性をいかに確保すべきか	その他	無	はい	月間「公明」		203	12	17	20221101	丸谷浩明	単著	なし
日本語	非常時に強いと評価される地方議会のBCPとは? 一行政部局との関係も踏まえて	その他	無	はい	地方議会人		53	1	8	20220601	丸谷浩明	単著	なし
日本語	企業のBCPをめぐる最近の動向	その他	無	はい	労働事情		1447	1	1	20220501	丸谷浩明	単著	なし
日本語	企業のBCPをめぐる最近の動向	その他	無	はい	労働事情		1448	1	1	20220508	丸谷浩明	単著	なし
日本語	これからの対応が求められる災害リスクと防災対策	その他	無	はい	安全と健康	74	3	17	21	20230301	丸谷浩明	単著	なし

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2022 in 名取	生田英輔	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	名取市閣上公民館	名取	日本	20220805	20220805	20220805	東日本大震災の企業の教訓の防災ビルからの発信 ～物流関係を中心に～	丸谷浩明, 加藤祐, 山田琢磨, 栗原裕之, 阿部真美	国内	50

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 12 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/人数)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第86回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第56回	20220408	20220408	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
2	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第87回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第57回	202210513	20220513	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
3	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第88回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第58回	20220603	20220603	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
4	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第89回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第59回	20220701	20220701	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
5	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第90回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第60回	202200728	20220728	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
6	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第91回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第61回	20220902	20220902	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
7	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第92回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第62回	20221007	20221007	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
8	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第93回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第63回	20221104	20221104	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
9	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第94回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第64回	20221202	20221202	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
10	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第95回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第65回	20230106	20230106	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
11	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第96回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第66回	20230203	20230203	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内
12	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所 丸谷 研究室	企業・組織のBCP/防災勉強会(@ 仙台)第97回、NPO法人事業継続 推進機構仙台勉強会第67回	20230303	20230303	WEB	仙台市(WEB)	日本	15 (0)	人文 社会系	主宰	なし	NPO法人 事 業継続推進 機構	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

兼務先の法学研究科公共政策大学院で、「防災法」、「防災政策論演習」の授業等を行った。演習は少人数であったため、質の高い議論が行えたと考えている。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学 期	コマ数 90分/コマ
1	防災政策論演習	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		後期	15
2	防災法	東北大学	法学研究科	公共政策専攻		前期	8

D. 社会活動

社会活動の概要

研究所主催のシンポジウム2件の企画運営を務めた。また、事業継続計画や防災の講演を年間22回行った。政府・地方自治体の公的委員会の委員を9件務めた。2件のNPOの役員を務め、特に、NPO事業継続推進機構の理事長を務め、セミナー等の実施を推進した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学 国際研究所	内閣府等主催「ぼうさいこくたい2022」 セッション「災害レジリエンスの実現に向 けてー共創・国際・実装の取組みー」	20221023	20221023	JICA関西	神戸市	日本	主催者責任者	55	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会
2	国内	東北大学災害科学 国際研究所イオン 防災環境都市創生 共同研究部門	レジリエント・コミュニティの創生を目指し てーイオン防災環境都市創生共同部門 の活動ー	20230304	20230304	仙台国際セン ター	仙台市	日本	主催者責任者	70	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 22 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	BCAO中小企業事業継続研修会	講義	20220405	20220405	リソース制約・事業継続戦略	企業	NPO法人 事業継続推進機構	WEB	東京	日本	80
2	セミナー	2022年度危機管理士講座 2級(自然災害)	講義	20220800	20220800	業務継続計画 (BCP)	企業	日本危機管理士機構	WEB	東京	日本	50
3	セミナー	第58回行政課題研修 風水害を想定した災害対応コース	講義	20220523	20220523	風水害等に対応する基本的防災制度及び平常時の備え	行政	東北自治研修所	東北自治総合研修センター	富谷市	日本	40
4	セミナー	第58回行政課題研修 風水害を想定した災害対応コース	講義	20220524	20220524	災害時の地方自治体と国、他自治体、民間との連携	行政	東北自治研修所	東北自治総合研修センター	富谷市	日本	30
5	セミナー	令和4年度初任行政研修	講義	20220530	20220530	防災政策 基調講義	行政	人事院	西原研修合同庁舎	東京	日本	40
6	セミナー	AZ-COMネット 東北エリアパートナー企業交流会	講義	20220525	20220525	大規模災害時の物流の教訓	企業	一般社団法人 AZ-COM丸和・支援ネットワーク	仙台長町未来共創センター	仙台	日本	50
7	講演会	陸上自衛隊東北方面総監部 令和4年度危機対策連絡会	講義	20220609	20220609	災害対策基本法の改正と住民避難について	行政	陸上自衛隊東北方面総監部	陸上自衛隊東北方面総監部	仙台	日本	300
8	講演会	みやぎ生協 第8回「災害時応急生活物資供給協定締結自治体」との懇談会	講義	20220800	20220800	この間発生した自然災害から災害対応の教訓を考える	企業	みやぎ生協	WEB	仙台	日本	50
9	セミナー	静岡県 令和4年度危機管理研修	講義	20220824	20220824	行政の発災時対応と業務継続計画	行政	静岡県	静岡県建設技術監理センター	静岡市	日本	20
10	セミナー	大和リース(株)公民連携Dチャンネルエリアセミナー	講義	20220829	20220829	地方自治体の施設整備計画時の防災・減災対策について	企業	大和リース(株)	大和リース青森支店	青森市	日本	50
11	セミナー	BCAO継続教育講師	講義	20220913	20220913	マルチハザードのBCPの導入検討方法案	企業	NPO法人 事業継続推進機構	WEB	東京	日本	50
12	セミナー	日本建設業団体連合会BCP部会講演会	講義	20220921	20220921	マルチハザードのBCPの導入検討方法案	企業	日本建設業団体連合会	日本建設業団体連合会会議室	東京	日本	20
13	セミナー	ぼうさいこくたい2022 「これからの事業継続に必要な要素」	講義	20221022	20221022	マルチハザードのBCPの導入検討方法案	行政	NPO法人 事業継続推進機構	WEB	神戸	日本	40
14	セミナー	ぼうさいこくたい2022「災害レジリエンスの実現に向けて ー共創・国際・実装の取組みー」	講義	20221023	20221023	南海トラフ地震の臨時情報発表時の対応計画作成支援対応行動体系化班の成果	行政	東北大学災害科学国際研究所	JCA関西	神戸	日本	40
15	セミナー	2022東京海上日動リスクマネジメントセミナー「日本における未来志向のBCP」	講義	20221109	20221109	求められるマルチハザードのBCP～多様化するリスクに備える～	企業	東京海上日動火災保険(株)	日比谷シティ会議室	東京	日本	100
16	セミナー	BCAO継続教育講師	講義	20221206	20221206	日本海溝・千島海溝の巨大地震	企業	NPO法人 事業継続推進機構	WEB	東京	日本	50
17	セミナー	日本精神科病院協会看護管理者会	講義	20221222	20221222	精神科病院など医療機関のBCP	企業	日本精神科病院協会看護管理者会	WEB	福井市	日本	10
18	セミナー	港区芝地区総合支所主催事業者向け防災セミナー	講義、ワークショップ指導	20230117	20230117	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	WEB	東京	日本	20
19	セミナー	港区芝地区総合支所主催事業者向け防災セミナー	講義、ワークショップ指導	20230124	20230124	BCP策定の考え方	行政	港区芝地区総合支所	WEB	東京	日本	20
20	セミナー	日本建設業団体連合会BCP部会講演会	講義	20230209	20230209	日建連BCP-GLの見直しの視点と最近の企業防災の話題	企業	日本建設業団体連合会	日本建設業団体連合会会議室	東京	日本	20
21	セミナー	仙台長町未来共創センター 防災講演会	講義	20230313	20230313	帰宅困難者対策の必要性と地元の役割	企業	(株)フクダ・アンド・パートナーズ	仙台長町未来共創センター	仙台	日本	50
22	講演会	令和4年度 帰宅困難者対策講演会	講義	20230118	20230118	一斉帰宅抑制の重要性と帰宅困難者対応のポイントについて	行政	仙台市	仙台市福祉プラザ	仙台	日本	80

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	内閣府	政府業務継続に関する評価等有識者会議	委員	20140000
2	国・政府	内閣府	「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会	委員、「災害の備え」コースコーディネーター	20140000
3	国・政府	内閣府	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ	委員	20190100
5	国・政府	JST	社会技術研究開発主監会議	委員	20211108
6	国・政府	内閣官房地域活性化統合事務局	都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG	委員	20110000
7	地方自治体	南相馬市	新庁舎建設基本設計業務委託プロポーザル審査委員会	委員	20221124
8	地方自治体	京都府		危機管理アドバイザー	20090000
9	地方自治体	岩沼市(宮城県)	防災会議	委員	20180817
10	民間・NPO	NPO法人 事業継続推進機構		理事長	20200500
11	民間・NPO	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会		副理事長	20160300

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20220406	仙台長町未来共創センター	国内	仙台市、東北大学災害科学国際研究所、株式会社丸和運輸機関及び株式会社フクダ・アンド・パートナーズの仙台長町未来共創センターを活用した企業防災等の推進に関する協定書	自治体	仙台市、(株)丸和運輸機関、(株)フクダ・アンド・パートナーズ	20220406	2

## 佐藤 翔輔 准教授

SATO Shosuke

防災実践推進部門 防災社会推進分野

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

1	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
	長岡工業高等専門学校専攻科	環境都市工学専攻	2005	3	京都大学大学院	情報学研究科	2011	3	博士(情報学)	2011	3

#### 職歴

1	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	4	2011	3	日本学術振興会(京都大学防災研究所巨大災害研究センター付)	特別研究員(DC2)
2	2011	4	2012	3	東北大学 大学院工学研究科 附属災害制御研究センター	助教
3	2012	4	2017	10	東北大学 災害科学国際研究所	助教
4	2017	11	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6
地域安全学会	日本自然災害学会	日本災害情報学会	日本災害復興学会	土木学会	日本建築学会

##### 学会・委員会等での役職

1	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	地域安全学会		理事	20210400
2	地域安全学会	社会に役立つ防災情報システム研究小委員会	委員	20120000
3	地域安全学会	安全・安心若手研究会	世話人	20160000
4	地域安全学会	東日本大震災特別委員会	委員	20160400
5	日本災害情報学会	編集委員会	編集委員(委員→幹事)	20170900
6	日本災害情報学会	企画委員会	企画委員	20190400
7	電子情報通信学会	安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会	幹事補佐→専門委員	20130000
8	電子情報通信学会	電子情報通信学会論文誌安全・安心な生活のための情報通信システム特集号	編集委員	20140000
9	土木学会	土木計画学委員会・「政策と実践」学術小委員会	委員	20220400

##### 研究分野・キーワード

1	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害伝承学	災害情報学	社会システム工学・安全システム	自然災害科学・防災学	復旧・復興工学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

1) 災害伝承に関する研究として、災害の記憶の場、伝承メディア(津波碑、地名等)が被災に及ぼす効果に関する研究を行っている。2) 災害情報に関する研究として、災害アーカイブやテキストデータを始めとするビッグデータを応用した災害対応支援システムに関する研究を行っている。3) 災害復興に関する研究として、東日本大震災における復興計画・復興事業に関する体系的な調査、被災者の生活再建に関する研究を行っている。

#### 研究課題

1	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2002	4	2005	3	震災時の生活支障と収容避難所需要に関する研究	国内
2	2005	4	現在		災害の言語資料の可視化・活用に関する研究	国内
3	2011	4	現在		災害伝承の実態把握とその効果に関する研究	国内
4	2011	4	現在		災害発生時の情報リテラシーに関する研究	国内
5	2011	4	現在		災害アーカイブ学の構築(みちのく震録伝)の開発	国内
6	2011	4	現在		被災自治体の災害対応過程の解明	国内
7	2011	4	現在		マスメディアが災害対応に及ぼす影響に関する研究	国内
8	2012	4	現在		津波避難訓練手法の開発	国内
9	2012	4	現在		災害時の「生きる力」の解明	国内
10	2012	4	現在		復興計画・復興事業に関する研究、被災者の生活再建に関する研究	国内
11	2012	4	現在		防災・減災啓発ツールの開発、ブランディング戦略	国内



論文

単著	3	筆頭共著	5	その他の共著	23	合計	31
----	---	------	---	--------	----	----	----

うち	国際査読有	2	国際査読無	3	国内査読有	9	国内査読無	17
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	----

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原題)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Personality Traits and Types of Housing Recovery after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	Akio Honda, Shosuke Sato, Motoaki Sugiura, Tsuneyuki Abe, Fumihiko Imamura	Sustainability	15	7	1	9	20230300
英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Dynamic Roughness Modeling of Seasonal Vegetation Effect: Case Study of the Nanakita River	Andre Araujo Fortes, Masakazu Hashimoto, Keiko Udo, Ken Ichikawa, Shosuke Sato	Water	14	3649	1	19	20221101
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	行政機関を越えて自治体職員「語り」を活用する災害対応経験の伝承手法の設計と実践:東北地方公務員を対象とした風水害対応に関する研修事例	佐藤翔輔	地域安全学会論文集		41	285	294	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	阪神・淡路大震災, 新潟県中越地震, 想定首都直下地震の先進事例と比較した東日本大震災の震災伝承施設の学習効果と有用性:利用者視点による災害伝承ミュージアムの類型化による評価の試み	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会論文集		41	83	93	20221101
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	津波災害時における車渋滞の抑制を目的とする基礎的研究:2021年3月20日宮城県沖地震における宮城県石巻市の住民に見られた避難行動の分析を通して	川合将矢, 佐藤翔輔, 新家吉奈, 渡邊勇, 今村文彦	地域安全学会論文集		41	229	239	20221101
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	マイタイムラインリーダー養成講座における育成効果に関する実証的分析	佐藤翔輔, 田畑佳祐, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹	土木学会論文集B1(水工学)	78	2	I_1021	I_1026	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	非専門家によるマイタイムライン講習会の可能性の検証:専門家講習による効果との比較	田畑佳祐, 佐藤翔輔, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹	土木学会論文集B1(水工学)	78	2	I_1027	I_1032	20221101
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	地震発生時間の違いがもたらす津波避難行動の実態事例:2つの地震における宮城県亘理町での比較分析	佐藤翔輔, 藤田崇宏, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 南城真佐英, 渡邊勇, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	I_325	I_330	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	東日本大震災の復興支援調査アーカイブで明らかにされた危険方向移動の実態と提案	成田峰之輔, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 新家吉奈, 今村文彦	土木学会論文集B2(海岸工学)	78	2	I_361	I_366	20221101
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	2016年~2020年の災害事例にみる被災地内における災害時のSNSの利用実態	佐藤翔輔, 呂本俊亮, 立木茂雄	自然災害科学	41	2	107	120	20221101
日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中小河川の維持管理に関する実態調査	市川健, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 天谷香織, 今村文彦	自然災害科学	41	1	39	53	20220501
英語	共著	なし	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Development a method for analyzing testimonies at the time of the tsunami disaster using dual process theory	Shinka Anna, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai,					20230310
英語	共著	国内	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	Impacts of Handing Down Disaster Experiences on Storytellers and Successors: A Case Study of PBL Classes at Tohoku University,	Yu Watanabe, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura, Hisashi Matsubara	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai,					20230310
英語	共著	なし	いいえ	国際会議 Proceedings	無	いいえ	The guidance with balloon for tsunami evacuation	Shunosuke Narita, Shosuke Sato, Fumihiko Imamura	Proceedings of World BOSAI Forum / IDRC 2023 in Sendai,					20230310
日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	津波避難時の渋滞緩和のための徒歩避難促進手法の提案:宮城県石巻市における実践例	川合将矢, 佐藤翔輔, マスエリツ, 新家吉奈, 今村文彦	令和4年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20230304
日本語	共著	なし	いいえ	その他	無	いいえ	震災語り部プログラム「ツナミリアル」の効果検証に関する実験的研究	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 今村文彦	令和4年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集					20230304
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	地域安全学 夏の学校2021オンラインー基礎から学ぶ防災・減災ー 地域安全学領域における若手人材育成その6	落合努, 松川寧寧, 倉田和己, 島山久, 河本尊子, 杉安和也, 郷右近英臣, 黄屋敷哲也, 佐藤翔輔	地域安全学会梗概集					20221101
日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	直接的に防災と接点のないフィールドからアプローチする防災啓発の一形態:ヤフー防災模試を活用したJナルJapan杯の事例研究	佐藤翔輔, 安田健志, 津村翔士	日本災害情報学会 第25回学会大会予稿集					20221008
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	吉田川流域の実態にみる「流域治水」概念に対する考察	佐藤翔輔	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		169	170	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	河川技術者が参画する洪水常襲地帯の水防災学習の効果-北上川流域における登米市立津山中学校を対象として	市川健, 佐藤翔輔, 橋本雅和, 天谷香織, 高村光輝, 小野寺洋友, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		55	56	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	マイタイムライン講習会の講習内容と受講者の学習効果・主観的有用性の関係:宮城県大郷町を事例として	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		143	144	20220918
日本語	共著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	語り部学習におけるオンライン学習形式と対面形式の比較-一時短型-災害疑似体験プログラム「ツナミリアル」の事例-	若木望, 佐藤翔輔, 渡邊勇, 今村文彦	第41回日本自然災害学会年次学術講演会講演概要集	41		59	60	20220918
日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	ハザード種を越えて災害対応の経験知を発揮できるか:宮城県庁における2011年東日本大震災と2019年台風19号の対応事例	佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		57	60	20220805

24	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	宮城県気仙沼市における震災の教訓等を伝承する職員研修の実践	秋元康男, 前川啓佑, 芳賀洋介, 高橋義宏, 佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		33	38	20220805
25	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	石巻南浜復興祈念公園の検討プロセスと市民参画・協働の取り組み	中川政治, 佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		39	44	20220805
26	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	コロナ禍における東日本大震災被災3県の伝承活動の変化と今後の展望	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		45	48	20220805
27	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	来訪者の防災力に応じた効果的な被災地訪問学習: 東日本大震災を事例とした初期検討	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会東日本大震災特別論文集	11		53	56	20220805
28	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	語り部学習を活用した時短型・災害疑似体験学習プログラム「ソナリアル」の開発と試行	佐藤翔輔, 大須武則, 黒澤健一	地域安全学会梗概集	50		225	228	202205020
29	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	震災10年間にみる被災地来訪者の「期待」の推移: 東日本大震災被災地における震災学習への関心	渡邊勇, 佐藤翔輔, 今村文彦	地域安全学会梗概集	50		229	232	202205020
30	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	震災伝承の「担い手」研修と活動評価に関する実態把握—東日本大震災被災地: 若手・宮城・福島3県を対象に—	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	地域安全学会梗概集	50		233	234	202205020
31	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	アフターファイブにおける災害対応ステークホルダーの「顔が見える」関係構築とその効果～よんなな防災会がつける防災の輪～	竹順哉, 岩垣津信太郎, 石塚隆之, 石井雄司, 杵子尾藤, 植竹香織, 上田啓瑞, 松尾紀明, 多田明世, 森下美穂, 佐藤翔輔	地域安全学会梗概集	50		257	260	202205020

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	1	共著	1	監修編集	0	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	
日本語	災害が日常になった今・レジリエンスを考える、「東日本大震災復興シンポジウム みやぎボイス2022 災害が日常になった今」	編集本(著者・Author)	20221200	佐藤翔輔ほか	筆頭共著	みやぎボイス連絡協議会	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	3	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	3	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	3	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
日本語	災害時のSNSとの「付き合い方」を考える	その他	有	はい	月刊フェスク			2	7	20221201	佐藤翔輔	単著	なし
日本語	災害時における自治体によるソーシャルメディアとの「付き合い方」	その他	有	はい	都市問題	113	8	74	79	20220801	佐藤翔輔	単著	なし
日本語	災害時におけるソーシャルメディアの有効性・非有効性	学術雑誌	有	はい	電子情報通信学会誌	105	6	530	534	20220601	佐藤翔輔	単著	なし

学会発表

単名	3	筆頭連名	0	その他の連名	6	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチャエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
国内	第51回(2022年度)地域安全学会研究発表会(秋季)	宇田川真之	単名	いいえ	口頭(一般)	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20221031	20221101	20221101	行政機関を越えて自治体職員「語り」を活用する災害対応経験の伝承手法の設計と実践: 東北地方公務員を対象にした風水害対応に関する研修事例	佐藤翔輔	なし	200
国内	第67回水工学講演会	川越清樹	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	松山市総合コミュニティセンター	松山	日本	20221123	20221125	20221125	マイ・タイムラインリーダー養成講座における育成効果に関する実証的分析	佐藤翔輔, 田畑佳祐, 今村文彦, 向井正大, 鮎川一史, 有友春樹	国内	300
国内	第69回海洋工学講演会	福谷陽	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	横須賀市ヴェルクよこすか(自身はオンライン)	横須賀	日本	20221108	20221111	20221110	地震発生時間の違いがもたらす津波避難行動の実態事例: 2つの地震における宮城県亘理町での比較分析	佐藤翔輔, 藤田崇宏, 遠藤匡範, 岩崎雅宏, 皆川満洋, 高橋里佳, 南城真佐英, 渡邊勇, 今村文彦	国内	300
国内	第51回(2022年度)地域安全学会研究発表会(秋季)		その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	静岡県地震防災センター	静岡	日本	20221031	20221101	20221031	地域安全学 夏の学校2021オンライン-基礎から学ぶ防災・減災- 地域安全学領域における若手人材育成 その6	落合努, 松川吉孝, 倉田和己, 畠山久, 河本尊子, 杉安和也, 郷右近英臣, 眞屋敷哲也, 佐藤翔輔	国内	200
国内	日本災害情報学会 第25回学会大会	佐藤翔輔	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	明治大学	東京	日本	20221008	20221009	20221008	直接的に防災と接点のないフィールドからアプローチする防災啓発の一形態: ヌワー防災模試を活用したソナリアルJapanの事例研究	佐藤翔輔, 安田健志, 津村翔士	国内	200
国内	第41回日本自然災害学会年次学術講演会	佐藤翔輔	単名	いいえ	口頭(一般)	立命館大学(急遽, 台風でオンライン)	滋賀	日本	20220918	20220919	20220919	吉田川流域の実態にみる「流域治水」概念に対する考察	佐藤翔輔	なし	200

7	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2022 in 名取	生田英輔	単名	いいえ	口頭(一般)	関上公民館	名取	日本	20220807	20220807	20220807	ハザード種を越えて災害対応の経験知を発揮できるか:宮城県庁における2011年東日本大震災と2019年台風19号の対応事例	佐藤翔輔	なし	100
8	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2022 in 名取	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	関上公民館	名取	日本	20220807	20220807	20220807	宮城県気仙沼市における震災の教訓等を伝承する職員研修の実践	秋元康男, 前川啓佑, 芳賀洋介, 高橋義宏, 佐藤翔輔	国内	100
9	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2022 in 名取	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	関上公民館	名取	日本	20220807	20220807	20220807	石巻南浜復興祈念公園の検討プロセスと市民参画・協働の取り組み	中川政治, 佐藤翔輔	国内	100
10	国内	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ2022 in 名取	生田英輔	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	関上公民館	名取	日本	20220807	20220807	20220807	コロナ禍における東日本大震災被災3県の伝承活動の変化と今後の展望	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	国内	100
11	国内	第50回(2022年度)地域安全学会研究発表会(春季)	近藤伸也	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	愛媛大学	愛媛	日本	20220520	20220520	20220520	語り部学習を活用した時短型・災害疑似体験学習プログラム「ツナミリアル」の開発と試行	佐藤翔輔, 大須武則, 黒澤健一	国内	200
12	国内	第50回(2022年度)地域安全学会研究発表会(春季)	近藤伸也	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	愛媛大学	愛媛	日本	20220520	20220520	20220520	震災伝承の「担い手」研修と活動評価に関する実態把握ー東日本大震災被災地:若手・宮城・福島3県を対象にー	浅利満理子, 中川政治, 佐藤翔輔	国内	200
13	国内	第50回(2022年度)地域安全学会研究発表会(春季)	杉安和也	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	愛媛大学	愛媛	日本	20220520	20220520	20220520	アフターファイブにおける災害対応ステークホルダーの「顔が見える」関係構築とその効果ーよんなな防災会がつなげる防災の輪ー	竹順哉, 岩垣津信太郎, 石塚隆之, 石井雄司, 杓子尾駿, 植竹香織, 上田啓瑚, 松尾紀明, 多田明世, 森下美穂, 佐藤翔輔	国内	200

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1件

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	ワークショップ	地域安全学会, 東北大学災害科学国際研究所	地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ2022 in 名取	20220805	20220806	関上公民館等	名取	日本	70	工学	企画・オーガナイザー	IRIDeS主催・共同主催	地域安全学会	国内

C. 教育活動

教育活動の概要

工学研究科土木工学専攻(工学部建築・社会環境工学科)の兼務教員として、津波工学研究室の学部3年生1名, 4年生1名の卒業論文, 修士1年生1名と2年生1名の修士論文, 博士1年生1名, 社会人博士2.5年生1名, 3年生1名の博士論文の研究指導教員をつとめた。ほか、本学にて全学教育科目、カレントトピックス、東北大学社会教育主事講習会、他大学の非常勤講師にて災害・防災に関する講義を担当した(全学教育科目・国際教養「東日本大震災の経験を未来につなぐ」、全学教育カレントトピックス科目「災害の科学(災害への対応)」, 石巻専修大学人間学部「復興の社会学」「地域防災論」)。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1	社会環境工学実験	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科	1	5セメ	1
2	土木工学修士研修	東北大学	工学研究科	土木工学専攻		通年	30
3	社会教育特講	東北大学	教育学研究科			1セメ	2
4	東日本大震災の経験を未来につなぐ(国際教養PBL)	東北大学	高度教養教育・学生支援機構	全学教育科目先進科目-国際教育		1セメ	2
5	東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学	東北大学		全学教育科目	1	1セメ	15
6	災害の科学: 災害への対応	東北大学		全学教育科目		1セメ	2
7	復興の社会学	石巻専修大学	人間学部	学部共通必須	2	3セメ	15
8	地域防災論	石巻専修大学	人間学部	学部共通選択	3	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

国土交通省, 復興庁, 宮城県, 仙台市, 石巻市, 気仙沼市, 東松島市, 亘理町, 名取市, で地域防災や震災伝承に関するアドバイザーや委員等をつとめている。地域安全学会と日本災害情報学会にて、論文誌査読・編纂に関する委員の委員をつとめている。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 15 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	気仙沼市 東日本 大震災遺構・伝承館	開館4周年特別フォーラム「伝承館はこの2年何をやってきたか、次の1年何をやるのか」～第2回市民協働推進状況報告～	20230319	20230319	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼 市	日本	企画・コメンテ ーター	40	IRIDeS後援・ 名義後援	ワークショップ
2	国内	気仙沼市, 東北大学 災害科学国際研究 所	令和5年気仙沼市東日本大震災追悼と 防災のつどい	20230311	20230311	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼 市	日本	企画・モデレー ター	200	IRIDeS共催	シンポジウム
3	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第4回「3.11げんば探訪」	20230305	20230305	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	31	IRIDeS共催	講演会
4	国内	気仙沼市 東日本 大震災遺構・伝承館	けせんぬま伝承・防災文化祭2023	20230301	20230402	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼 市	日本	企画・コメンテ ーター	300	IRIDeS後援・ 名義後援	その他
5	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第4回「3.11学びなおし塾」	20230205	20230205	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	15	IRIDeS共催	講演会
6	国内	気仙沼市, 気仙沼 市教育委員会	第7回気仙沼市防災フォーラム(兼 東北 大学災害科学国際研究所 第35回防災 文化講演会)	20230124	20230124	気仙沼中央公 民館	気仙沼 市	日本	企画	130	IRIDeS共催	シンポジウム
7	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第3回「3.11げんば探訪」	20230108	20230108	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	14	IRIDeS共催	講演会
8	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第3回「3.11学びなおし塾」	20221204	20221204	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	10	IRIDeS共催	講演会
9	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 「ぼうさいキッズパーク」	20221123	20221123	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画	42	IRIDeS協力	ワークショップ
10	国内	東北大学災害科学 国際研究所	ぼうさいこくたい2022・東北大学災害科 学国際研究所セッション・災害レジリエ ンスの実現に向けてー共創・国際・実装 の取組み	20221023	20221023	JICA関西	神戸市	日本	企画・コーデ ィネーター	55	IRIDeS主催・ 共同主催	講演会
11	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第2回「3.11げんば探訪」	20221106	20221106	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	21	IRIDeS共催	講演会
12	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第2回「3.11学びなおし塾」	20221002	20221002	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	18	IRIDeS共催	講演会
13	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第1回「3.11げんば探訪」	20220904	20220904	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	7	IRIDeS共催	講演会
14	国内	宮城県, 東北大学 災害科学国際研究 所	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画・ 第1回「3.11学びなおし塾」	20220807	20220807	みやぎ東日本 大震災津波伝 承館	石巻市	日本	企画・オーガナイ ザー	22	IRIDeS共催	講演会
15	国内	気仙沼市 東日本 大震災遺構・伝承館	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 夏休み企画 けせんぬま防災きっずス クール・東北大学災害科学国際研究所 の日	20220731	20220731	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼 市	日本	企画・コーデ ィネーター	40	IRIDeS主催・ 共同主催	ワークショップ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 98 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	石巻防災・震災伝承の つどいーともに語ろう ふ るさと・命・未来ー	コメンテーター	20230325	20200325	グループ討論・コメント	行政	石巻市	こもれびの降 る丘 遊楽館	石巻市	日本	
2	その他	石巻防災・震災伝承の つどいーともに語ろう ふ るさと・命・未来ー	講演	20230325	20200325	石巻で伝承と防災を考える	行政	石巻市	こもれびの降 る丘 遊楽館	石巻市	日本	
3	その他	震災伝承みやぎコン ソーシアム	コメンテーター	20230322	20230322	意見交換・コメント	行政	宮城県	仙台長町未来 共創センター	仙台市	日本	50
4	その他	開館4周年特別フォーラ ム「伝承館はこの2年何 をやってきたか、次の1 年何をやるのか」～第2 回市民協働推進状況報 告～	コメンテーター	20230319	20230319	進捗報告・コメント	企業	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼市 東 日本大震災遺 構・伝承館	気仙沼市	日本	40

5	その他	令和4年度ふくしま震災等語り部交流会	モデレーター	20220316	20220316	パネルディスカッション「伝承活動における地域連携」	行政	福島県 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	60
6	その他	けせんめま伝承・防災文化祭2023	コメンテーター	20230312	20230312	成果発表・コメント	企業	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	100
7	講演会	令和5年気仙沼市東日本大震災追悼と防災のつどい	モデレーター	20230311	20230311	パネルディスカッション「災害死ゼロを目指す様々な主体の防災行動」	行政	気仙沼市	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	200
8	小中高との連携	京都市立西京高等学校20期生東北方面フィードバック	講演	20230308	20230308	ミニ講義	小中高	京都市立西京高等学校	JAL CITY	仙台市	日本	50
9	公開講座	仙台明治青年大学	講演	20230308	20230308	3.11伝承を活かす・学ぶ	行政	仙台明治青年大学	楽楽楽ホール	仙台市	日本	462
10	講演会	総合討論無形文化遺産と防災-被災の経験から考える防災・減災	パネリスト	20230307	20230307	パネルディスカッション	なし	国立文化財機構文化防災センター	東京文化財研究所	台東区	日本	50
11	講演会	総合討論無形文化遺産と防災-被災の経験から考える防災・減災	コメンテーター	20230307	20230307	報告に対するコメント	なし	国立文化財機構文化防災センター	東京文化財研究所	台東区	日本	50
12	セミナー	あれから12年スペシャルPart2-人の口から人の心に伝える-みんなの災害体験を100年後の人たちへ、仙台防災未来フォーラム2023	コメンテーター	20230304	20230304	発表に対するコメント	行政	あれからスペシャル実行委員会	仙台国際センター	仙台市	日本	70
13	セミナー	あったかぼうさいスープ Project「PoC de 芋煮会」	コメンテーター	20230228	20230228	発表に対するコメント	企業	全日本芋煮会同好会・NTTデータ経営研究所	オンライン		日本	20
14	講演会	茅ヶ崎市・石巻市 未災地・被災地交流シンポジウム	パネリスト	20230225	20230225	パネルディスカッション「被災地の考える防災・未災地の防災の現状」	企業	がんばろう！石巻の会	ルアンホール	茅ヶ崎市	日本	72
15	講演会	茅ヶ崎市・石巻市 未災地・被災地交流シンポジウム	基調講演	20230225	20230225	3.11で起きたこと・わたしたちが学んだこと	企業	がんばろう！石巻の会	ルアンホール	茅ヶ崎市	日本	72
16	セミナー	NTTME-東日本東北 防災士資格取得研修(宮城会場)	講演	20230222	20230222	復旧・復興と被災者支援	企業	NTT東日本	仙台青葉通ビル	仙台市	日本	150
17	セミナー	NTTME-東日本東北 防災士資格取得研修(宮城会場)	講演	20230222	20230222	災害情報の活用と発信	企業	NTT東日本	仙台青葉通ビル	仙台市	日本	150
18	講演会	第5回東日本大震災 伝承シンポジウム-福島から考える 伝承の未来-	総括	20230218	20230218	総括でのコメント	企業	3.11メモリアルネットワーク	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	40
19	講演会	日本記者クラブ・記者会見	講演	20230217	20230217	「3.11から12年」(4)伝承・教訓の視点を見つめなおす	企業	日本記者クラブ	日本記者クラブ	千代田区	日本	1,300
20	小中高との連携	鹿折小学校・鹿折中学校防災学習発表会	コメンテーター	20230216	20230216	発表に対するコメント	小中高	気仙沼市立鹿折小学校	気仙沼市立鹿折小学校	気仙沼市	日本	200
21	セミナー	NTTME-東日本東北 防災士資格取得研修(福島会場)	講演	20230209	20230209	復旧・復興と被災者支援	企業	NTT東日本	郡山市労働福祉会館	郡山市	日本	120
22	セミナー	NTTME-東日本東北 防災士資格取得研修(福島会場)	講演	20230209	20230209	災害情報の活用と発信	企業	NTT東日本	郡山市労働福祉会館	郡山市	日本	120
23	セミナー	第5回令和4年度七ヶ浜町地域福祉推進会議研修会	コメンテーター	20230207	20230207	七ヶ浜町安全で安心なまちの実現を目指して	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜町中央公民館	七ヶ浜町	日本	80
24	講演会	令和4年度知水講座	講演	20230203	20230203	水害からいのちを守る災害共生文化	行政	宮城県	TKPガーデンシティPREMIUM 仙台西口	仙台市	日本	80
25	その他	石巻南浜津波復興記念公園参加型協議会・3部会合同会議	ファシリテーター	20230202	20230202	IP全体計画策定のためのワークショップ	行政	石巻南浜津波復興記念公園参加型協議会	門脇東復興住宅集会所	石巻市	日本	40
26	その他	みやぎ東日本大震災津波伝承館・ボランティア解説員認定式	コメンテーター	20230129	20230129	ボランティア解説員認定に対するコメント	行政	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	50
27	その他	第1回みやぎ災害伝承ポスターコンクール授賞式	コメンテーター	20230129	20230129	受賞作品に対するコメント	行政	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	50

28	小中高との連携	令和4年度宮城県気仙沼高等学校 1学年「地域社会研究」・2学年 創造型「課題研究1」・2学年 人文・理数類型「総合的な探究の時間」全体発表会	コメンテーター	20230128	20230128	発表に対するコメント	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	300
29	小中高との連携	吉田東部地区防災計画見直しのための研修会	講演	20230127	20230127	吉田東部地区防災計画見直しのための研修会	小中高	亶理町立長瀬小学校	亶理町立長瀬小学校	亶理町	日本	30
30	小中高との連携	第7回気仙沼市防災フォーラム(兼 東北大学災害科学国際研究所第35回防災文化講演会)	基調講演	20230124	20230124	あの目をふりかき これからの津波防災を考える	小中高	気仙沼市・気仙沼市教育委員会	気仙沼中央公民館	気仙沼市	日本	130
31	その他	とことんトーク311、みやぎ防災・減災円卓会議	ファシリテーター	20230121	20230121	とことんトーク311	企業	みやぎ防災・減災円卓会議	仙台長町未来共創センター	仙台市	日本	40
32	その他	震災伝承みやぎコンソーシアム	コメンテーター	20230120	20230120	コンソーシアムの運営に係る意見交換会	行政	宮城県	TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口	仙台市	日本	50
33	セミナー	令和4年度第2回震災の教訓等を伝承する職員研修	コメンテーター	20230117	20230117	グループワーク	行政	気仙沼市	気仙沼市役所	気仙沼市	日本	40
34	セミナー	令和4年度 若林区業務の学び会「震災を語り継ぐ」～Team Sendai出前講座	コメンテーター	20230110	20230110	グループワーク	行政	仙台市若林区役所	若林区役所	仙台市	日本	80
35	小中高との連携	気仙沼市立鹿折中学校・防災学習発表会	コメンテーター	20221210	20221210	発表に対するコメント	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	120
36	小中高との連携	気仙沼市立大谷小学校・地域と災害特性を共有する防災発表会	コメンテーター	20221208	20221208	発表に対するコメント	小中高	気仙沼市立大谷小学校	気仙沼市立大谷小学校	気仙沼市	日本	200
37	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校・探究学習発表会	コメンテーター	20221203	20221203	発表に対するコメント	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	120
38	小中高との連携	宮城県気仙沼高等学校・1学年「地域社会研究」フィールドワーク	アドバイザー	20221203	20221203	計画に対するコメント	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	30
39	小中高との連携	登米市立津山中学校・防災学習発表会	コメンテーター	20221202	20221202	発表に対するコメント	小中高	登米市立津山中学校	登米市立津山中学校	登米市	日本	140
40	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(福島県ブロック)	講演	20221201	20221201	来訪者の視点からみた震災伝承施設の実態調査その2	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	40
41	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(福島県ブロック)	モデレーター	20221201	20221201	視察を受けての意見交換会	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	40
42	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(宮城県ブロック)	講演	20221129	20221129	来訪者の視点からみた震災伝承施設の実態調査その2	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	石巻市震災遺構門脇小学校	石巻市	日本	50
43	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(宮城県ブロック)	モデレーター	20221129	20221129	視察を受けての意見交換会	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	石巻市震災遺構門脇小学校	石巻市	日本	50
44	セミナー	災害に向き合い、人間に寄り添う～100年後に伝えるワークショップへ、あれから12年スペシャルPart1人の口から人の心へ伝える～みんなの災害体験を100年後の人たちへ	コメンテーター	20221127	20221127	グループワークに対するコメント	行政	Team Sendai	仙台市役所ホール	仙台市	日本	70
45	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(青森県・岩手県ブロック)	講演	20221125	20221125	来訪者の視点からみた震災伝承施設の実態調査その2	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	釜石情報交流センター	釜石市	日本	60
46	その他	震災伝承ネットワーク協議会・震災伝承施設連絡会議(青森県・岩手県ブロック)	モデレーター	20221125	20221125	視察を受けての意見交換会	行政	震災伝承ネットワーク協議会(東北地方整備局)	釜石情報交流センター	釜石市	日本	60
47	講演会	台北市政府職員研修	講演	20221124	20221124	災害時の情報処理	行政	宮城県	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	20
48	小中高との連携	震災伝承学習中間発表、気仙沼市立鹿折中学校	コメンテーター	20221121	20221121	発表に対するコメント	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	120
49	講演会	宮城教育大学311セミナー	講演	20221119	20221119	震災を伝えるということと教員への期待	なし	宮城教育大学	宮城教育大学	仙台市	日本	50

50	セミナー	国土交通省国土交通大学校・令和4年度 特別課程 水害に対する危機管理能力向上研修	講演	20221110	20221110	水害からいのちを守る(守った)避難ー2019年台風19号と2020年7月豪雨での事例をもとにー	行政	国土交通省国土交通大学校	国土交通省国土交通大学校	小平市	日本	60
51	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校・総合的な学習時間	アドバイザー	20221107	20221107	計画に対するコメント	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	120
52	講演会	七ヶ浜町津波防災・減災を考えるシンポジウム	パネリスト	20221106	20221106	パネルディスカッション	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜国際村	七ヶ浜町	日本	100
53	講演会	令和4年度津波防災シンポジウム	講演	20221105	20221105	2022年3月16日福島県沖地震津波避難行動に関するアンケート結果	行政	宮城県、亶理町	亶理町立荒浜中学校	亶理町	日本	40
54	セミナー	気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会防災研修会	講演	20221028	20221028	最近の自然災害の特徴と対策について	行政	気仙沼市	気仙沼市役所	気仙沼市	日本	100
55	講演会	ぼうさいくたい2022・東北大学災害科学国際研究所	コーディネーター	20221023	20221023	災害レジリエンスの実現に向けてー共創・国際・実装の取組み	なし	東北大学災害科学国際研究所	JICA関西	神戸市	日本	55
56	その他	ぼうさいくたい2022・TEAM防災ジャパン交流カフェ	ファシリテーター	20221023	20221023	ジェンダーお茶っこ	行政	TEAM防災ジャパン、内閣府	人と防災未来センター	神戸市	日本	40
57	その他	ぼうさいくたい2022・TEAM防災ジャパン交流カフェ	コメンテーター	20221023	20221023	メディアと地域課題	行政	TEAM防災ジャパン、内閣府	人と防災未来センター	神戸市	日本	40
58	講演会	ぼうさいくたい2022・防災教育チャレンジプラン実行委員会	コメンテーター	20221023	20221023	防災教育交流会	行政	内閣府	IHDセンタービル	神戸市	日本	50
59	その他	WAKAXYAMA SUMMER IDEATHON 2022, 防災シンポジウム	コメンテーター	20221010	20221010	中高生によるプレゼン	なし	WAKAXYAMA	和歌山県民文化会館	和歌山市	日本	100
60	その他	WAKAXYAMA SUMMER IDEATHON 2022, 防災シンポジウム	トークゲスト	20221010	20221010	トークセッション	なし	WAKAXYAMA	和歌山県民文化会館	和歌山市	日本	100
61	講演会	新潟県立長岡高等学校「東北大学工学部訪問」	講演	20221006	20221006	大学で災害を科学する	小中高	東北大学、新潟県立長岡高等学校	東北大学	仙台市	日本	200
62	講演会	京都市立西京高等学校19期フィールドワーク東北コース	講演	20221006	20221006	ミニ講義	小中高	京都市立西京高等学校	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	100
63	講演会	京都市立西京高等学校19期フィールドワーク東北コース	コーディネーター	20221006	20221006	講義を受けての意見交換	小中高	京都市立西京高等学校	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	日本	100
64	セミナー	人と防災未来センター・2022年度秋期災害対策専門研修マネジメントコース;エキスパートA	講演	20221005	20221005	危機対応時の組織論(情報システム)	行政	人と防災未来センター	オンライン		日本	100
65	小中高との連携	気仙沼市立鹿折中学校・防災学習 震災伝承学習ガイドダンス	講演	20220930	20220930	今年度の(も)防災学習について	小中高	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市立鹿折中学校	気仙沼市	日本	120
66	講演会	福島県震災等語り部意見交換会	講演	20220911	20220911	持続可能な災害伝承を目指して	行政	福島県	東日本大震災・原子力災害伝承館	双葉町	日本	30
67	講演会	令和4年度みんなの視点で考える防災セミナー	ファシリテーター	20220902	20220902	グループワーク	行政	宮城県、気仙沼市	気仙沼市役所	気仙沼市	日本	60
68	その他	語り育成教室～小中高生の部～	講演	20220809	20220809	話題提供	企業	富岡町3.11を伝える会	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	10
69	公開講座	みやぎ東日本大震災津波伝承館企画「3.11学びなおし塾」	講演	20220807	20220807	3.11学びなおし塾にける思いと3.11最新研究	行政	宮城県、東北大学災害科学国際研究所	みやぎ東日本大震災津波伝承館	石巻市	日本	50
70	セミナー	令和4年度七ヶ浜町地域福祉推進会議研修会	講演	20220804	20220804	七ヶ浜町安全で安心なまちの実現を目指して	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜国際村	七ヶ浜町	日本	100
71	セミナー	令和4年度七ヶ浜町地域福祉推進会議研修会	パネリスト	20220804	20220804	パネルディスカッション「安全で安心なまちの実現」をテーマとした自由討論	行政	七ヶ浜町	七ヶ浜国際村	七ヶ浜町	日本	100
72	セミナー	令和4年度東北大学社会教育主事講習	講演	20220802	20220802	生涯学習支援論⑩これからの防災学習	なし	東北大学教育学研究科	オンライン		日本	200
73	セミナー	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館夏休み企画	コーディネーター	20220731	20220731	けせんぬま防災きずスクール・東北大学災害科学国際研究所の日	行政	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館、東北大学災害科学国際研究所	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市	日本	40
74	セミナー	令和4年度第1回震災の教訓等を伝承する職員研修	コメンテーター	20220729	20220729	グループワーク	行政	気仙沼市	気仙沼市役所	気仙沼市	日本	40

75	その他	令和4年度コミュニティ連絡協議会	講演	20220728	20220728	関川村・東北大学災害科学国際研究所共同アンケート調査結果	行政	関川村	関川村役場	関川村	日本	30
76	小中高との連携	令和4年度宮城県気仙沼高等学校高大連携事業	アドバイザー	20220719	20220719	オンライン研究指導	小中高	宮城県気仙沼高等学校	オンライン		日本	10
77	小中高との連携	宮城県気仙沼高等学校・SGHネットワーク事業「防災講演会・ワークショップ」	講演	20220716	20220716	災害をのりこえる力を身につけるためには	小中高	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼高等学校	気仙沼市	日本	100
78	小中高との連携	探究学習・第10回課題発表会	アドバイザー	20220715	20220715	計画に対するコメント	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校		日本	120
79	小中高との連携	気仙沼市立大谷小学校防災学習	ファシリテーター	20220704	20220704	災害を生き抜く力おためしゲーム	小中高	気仙沼市立大谷小学校	気仙沼市立大谷小学校	気仙沼市	日本	20
80	講演会	学生団体WAKA×YAMAミーティング	講演	20220703	20220703	与太話	なし	学生団体WAKA×YAMA	オンライン		日本	40
81	その他	東日本大震災復興シンポジウム・みやぎボイス2022～災害が日常になった今～	ファシリテーター	20220703	20220703	テーブルB「災害が日常になった今レジリエンスを考える」	企業	みやぎボイス連絡協議会	せんだいメディアテーク		日本	50
82	小中高との連携	登米市立津山中学校・防災学習	講演	20220628	20220628	今年の防災学習のコツ	小中高	登米市立津山中学校	登米市立津山中学校	登米市	日本	120
83	セミナー	気仙沼市教育委員会防災主任研修会	コメンテーター	20220627	20220627	グループワーク	小中高	気仙沼市・気仙沼市教育委員会	気仙沼市教育委員会	気仙沼市	日本	50
84	公開講座	水害から命を守るマイ・タイムラインをつくりましょう	コメンテーター	20220622	20220622	グループワーク	行政	宮城県、大郷町	大郷町ふれあいセンター21	大郷町	日本	50
85	セミナー	宮城県公務研修所令和4年度主任主査級研修	コーディネーター	20220629	20220629	主任主査についての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	行政	宮城県公務研修所	宮城県公務研修所	富谷町	日本	50
86	セミナー	宮城県公務研修所令和4年度主任主査級研修	コーディネーター	20220622	20220622	主任主査についての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	行政	宮城県公務研修所	宮城県公務研修所	富谷町	日本	50
87	セミナー	宮城県公務研修所令和4年度主任主査級研修	コーディネーター	20220615	20220615	主任主査についての災害対応～東日本大震災の経験から学ぶ～	行政	宮城県公務研修所	宮城県公務研修所	富谷町	日本	50
88	講演会	あなたとテレビ局で守る未来の命NHK・民放5局合同企画震災報道特別座談会	コーディネーター	20220612	20220612	特別座談会	企業	NHK仙台放送局	NHK仙台放送局	仙台市	日本	50
89	セミナー	2022年度春期 災害対策専門研修マネジメントコース;エキスパートA	講演	20221005	20221005	危機対応時の組織論(情報システム)	行政	人と防災未来センター	オンライン		日本	100
90	公開講座	東北大学災害科学国際研究所×石油連盟 防災セミナー(WEB)	講演	20220600	20220600	水害からの避難:「犠牲者ゼロ」の地域に学ぶ	企業	石油連盟	オンデマンド		日本	
91	小中高との連携	気仙沼市立階上中学校探究学習第2回	講演	20220603	20220603	今年度の探究学習によせて、の話題提供	小中高	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市立階上中学校	気仙沼市	日本	120
92	その他	3.11メモリアルネットワーク(UT NPO応援)基金 助成報告会 ～命を守るための民間震災伝承～	コメンテーター	20220528	20220528	報告に対するコメント	企業	3.11メモリアルネットワーク	オンライン		日本	50
93	セミナー	第58回行政課題研修『風水害を想定した災害対応コース』	コーディネーター	20220525	20220525	ワークショップ「被災自治体(県)の経験を聞く・学ぶ」	行政	東北自治研修所	東北自治研修所	富谷町	日本	50
94	セミナー	第58回行政課題研修『風水害を想定した災害対応コース』	コーディネーター	20220524	20220524	ワークショップ「被災自治体(市・町)の経験を聞く・学ぶ」	行政	東北自治研修所	東北自治研修所	富谷町	日本	50
95	セミナー	国土交通省国土交通大学校 令和4年度 専門課程 水災害予報・水防企画研修	講演	20220523	20220523	水害からいのちを守る(守った)避難ー2019年台風19号と2020年7月豪雨での事例をもとにー	行政	国土交通省国土交通大学校	国土交通省国土交通大学校	小平市	日本	60
96	その他	2022年度第1回伝承部会	講演	20220516	20220516	インタープリテーション全体計画	行政	石巻南浜津波復興祈念公園参加型運営協議会	門脇復興住宅集会所	石巻市	日本	50
97	講演会	富岡町3.11を伝える会語り人実践スクール(一般の部)	講演	20220515	20220515	災害を伝承するということを考える	企業	富岡町3.11を伝える会	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡町	日本	50
98	セミナー	NHK鹿児島放送局・オンライン防災勉強会	講演	20220510	20220510	津波避難に関する話題提供	企業	NHK鹿児島放送局	オンライン		日本	100



自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	国土交通省東北地方整備局	石巻南浜復興祈念公園展示アドバイザー	アドバイザー	20200400
2	国・政府	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設連絡会議(青森県・岩手県ブロック)	座長	20210400
3	国・政府	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設連絡会議(宮城県ブロック)	座長	20210400
4	国・政府	国土交通省東北地方整備局	震災伝承施設連絡会議(宮城県ブロック)	座長	20210400
5	国・政府	国土交通省東北地方整備局	石巻南浜復興祈念参加型運営協議会	アドバイザー	20210400
6	国・政府	国土交通省東北地方整備局	リバーカウンセラー(鳴瀬川)	リバーカウンセラー	20210400
7	国・政府	内閣官房	国土強靱化推進室 人・コミュニティ・地域のレジリエンス向上のための研究会	委員	20200400
8	国・政府	総務省	防災まちづくり対象審査委員会	委員	20210400
9	国・政府	総務省消防庁	消防を取り巻く変化を踏まえた消防防災行政研究会	アドバイザー	20210400
10	国・政府	総務省	ETS-9 通信ミッション利用実験の企画準備に関する検討会	委員	20220400
11	国・政府	国立文化財機構文化財防災センター	無形文化遺産の防災に係る有識者会議	委員	20210400
12	国・政府	国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター	無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する研究事業	委員	20210400
13	地方自治体	宮城県	宮城県震災復興総括検証アドバイザー	アドバイザー	20190400
14	地方自治体	宮城県	宮城県震災伝承関連展示制作監修アドバイザー	アドバイザー	20190400
15	地方自治体	宮城県	復興まちづくり事業	アドバイザー(伝承)	20200400
16	地方自治体	宮城県	みやぎ地域復興ミーティング	アドバイザー	20200400
17	地方自治体	宮城県	震災伝承活動推進研修	アドバイザー	20200400
18	地方自治体	宮城県	みやぎ東日本大震災津波伝承館・解説員研修	コーディネーター	20210300
19	地方自治体	宮城県	学校防災マニュアル見直しのためのガイドライン作成委員会	委員	20210400
20	地方自治体	宮城県	東日本大震災被災地情報発信事業	アドバイザー	20220400
21	地方自治体	岩手県	津波石碑調査検討委員会	副委員長	20210400
22	地方自治体	福島県	地震・津波被害想定検討委員会	委員	20210400
23	地方自治体	福島県	次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム	メンバー(有識者)	20220400
24	地方自治体	石巻市	石巻市震災伝承事業に関する事項	アドバイザー兼ファシリテーター	20170400
25	地方自治体	東松島市	東松島市防災会議	防災会議委員	20120400
26	地方自治体	東松島市	東松島市津波避難計画検討部会	部会長	20220400
27	地方自治体	亘理町	亘理町防災会議	委員	20130400
28	地方自治体	亘理町	亘理町防災主任者会(防災教育推進研修会)	アドバイザー	20140400
29	地方自治体	名取市	名取市防災会議	防災会議委員	20140400
30	地方自治体	名取市	名取市震災復興伝承館	アドバイザー	20180400
31	地方自治体	多賀城市	多賀城市立小・中学校防災主任会	アドバイザー	20140400
32	地方自治体	気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	アドバイザー	20160400
33	地方自治体	気仙沼市	けせんぬま震災伝承ネットワーク	アドバイザー	20160400
34	地方自治体	仙台市	仙台市沿岸分メモリアルアドバイザーボード	委員	20170400
35	地方自治体	七ヶ浜町	七ヶ浜町情報公開及び個人情報保護審査会	委員	20200400
36	地方自治体	七ヶ浜町	七ヶ浜町防災会議	委員	20200400
37	地方自治体	七ヶ浜町	七ヶ浜町福祉推進会議	アドバイザー	20200400
38	地方自治体	塩竈市	塩竈市防災会議	委員	20140400
39	地方自治体	栗原市 栗駒山麓ジオパーク推進協議会	栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会	推進アドバイザー	20200400
40	民間・NPO	防災教育団体ゆりあげかもめ		アドバイザー	20140700
41	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		外部委員	20171200
42	民間・NPO	3.11メモリアルネットワーク		アドバイザー	20171200
43	民間・NPO	3.11伝承ロード推進機構	3.11伝承ロードアドバイザー委員会	委員長	20190400
44	その他	気仙沼高等学校		気高応援隊	20160400
45	その他	階上中学校		防災教育アドバイザー	20160300
46	その他	鹿折中学校		防災教育アドバイザー	20200000

47	その他	津山中学校		防災教育アドバイザー	2020000
48	民間・NPO	Yahoo! JAPAN		Yahoo! ニュースコメンテーター	20210300
49	その他	みやぎ防災・減災円卓会議	みやぎ「災害とメディア」研究会	幹事	20180400
50	その他	TEAM防災ジャパン		お世話係(東北)	20181100

自治体・研究機関との協定締結実績

	年月日	締結式会場	国内 海外	協定名称	締結機関	締結相手	期間	
							開始年月日	年数
1	20130208	多賀城市役所・宮城県多賀城市	国内	東北大学災害科学国際研究所と多賀城市との包括的協定	自治体	多賀城市	20130200	5
2	20130625	亶理町悠里館・宮城県亶理町	国内	東北大学災害科学国際研究所と亶理町との包括的協定	自治体	亶理町	20130600	5
3	20130821	東松島市役所・宮城県東松島市	国内	東北大学災害科学国際研究所と東松島市との包括的協定	自治体	東松島市	20130800	5
4	20170529	石巻市役所・宮城県石巻市	国内	東北大学災害科学国際研究所と石巻市との包括的協定	自治体	石巻市	20170501	5
5	20180727	気仙沼市役所・宮城県気仙沼市	国内	東北大学災害科学国際研究所と気仙沼市との包括的協定 (更新)	自治体	気仙沼市	20180700	5
6	20230329	塩竈市役所・宮城県塩竈市	国内	東北大学災害科学国際研究所と塩竈市との包括的協定	自治体	塩竈市	20230300	5

# ボレー ペンメレン セバスチャン 准教授

## BORET Pennellen Sébastien

防災実践推進部門 国際研究推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

出身大学名	学域名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
		年	月			年	月		年	月
1 オックスフォードブルックス大学	人類学部	2003	1	オックスフォード大学	社会文化人類学研究科	2005	6	修士	2005	6
2				オックスフォードブルックス大学	文化人類学	2011	3	Ph.D	2011	3

### 職歴

開始年	終了年	期間	勤務先	職名					
					開始年	月	終了年	月	
1	2012	10	2014	7	東北大学大学院 文化圏研究科・文学部				外国人特別研究員
2	2014	8	2018	12	東北大学 災害科学国際研究所				助教
3	2019	1	現在		東北大学 災害科学国際研究所				准教授

### 学会活動

所属学会

学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
地球システム・倫理学会	日本文化人類学会	Society for Applied Anthropology (SAA)	European Association of Social Anthropologists	東北民俗の会	日本宗教学会	Disaster and Crisis Anthropology Network in Europe	Disaster and Crisis Anthropology Network in Europe (DSCAN)	Association of Southeast Asian Studies in the UK	International Union of Anthropology and Ethnology Society

### 学会・委員会等での役割

学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1 International Journal of Disaster Risk Reduction, Elsevier		エディター	20150120
2 International Journal of Disaster Management, Universitas Syiah Kuala		取締役	20120401
3 Human Remains and Violence (Manchester University Press)		取締役	20210301

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
社会人類学	災害科学	死生学

### B. 研究活動

研究課題

開始年	終了年	期間	研究課題(内容)	所外連携	
					開始年
1	2012	10	現在	東日本大震災における犠牲者の儀礼・記憶	国内
2	2014	8	現在	災害アーカイブ	両方
3	2018	4	現在	災害に関する集合的記憶と防災教育	両方
4	2019	4	現在	日本、フランス、インドネシアにおける大量死管理	両方
5	2022	4	現在	災害と障害者: 災害への備えを通じた包括的な社会の構築	両方

### 論文

単著	2	筆頭共著	1	その他の共著	3	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

国際	3	国内	0	国際	2	国内	1
----	---	----	---	----	---	----	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	特許論文	論文題目(原題)	著者氏名(共著者名)	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	共著	両方	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	The Potential of Disaster Digital Archives in Disaster Education: The Case of the Japan Disaster Digital Archive (JDA) and its geo-location functions	Gerster, Julia, Boret, S.P., Morimoto, R., Gordon A., Shibayama, A.	International Journal of Disaster Risk Reduction-IJDRR	77		1	13	20220528
2	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	災害デジタルアーカイブと防災教育の可能性: コロナ禍の中の日本の災害アーカイブ (JDA)	ユダスチ, 明, 柴山, 淳, 森本, ア, ゴードン, ア, and セ, 浩一	デジタルアーカイブ学会誌	6	3	190	193	20211102
3	英語	共著	両方	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	Factors affecting worryness: A study of the COVID-19 pandemic in Japan	P. Lertsakornrit, P. Sittawongkiet, A. K. Yutha, N. Leelawat, J. Tang, A. Supparit, Boret, P. S., et al.	International Journal of Disaster Risk Reduction-IJDRR	82		1	16	20221003
4	日本語	単著	国内	いいえ	単行本(論文掲載)	有	いいえ	破壊と復興の狭間で——東日本大震災メモリアルランドスケープの過渡性について	Boret, S. P.	災害(後)を生きる—悲劇と回復の災害人文学, 宇野浩二/編高倉 浩樹/編, 新泉社			62	98	20230311
5	その他外国語	単著	国外	いいえ	単行本(論文掲載)	有	いいえ	The Role of Monuments in Building Sustainable Communities After Disasters - Using the Great Tohoku Earthquake and Tsunami as a Case Study, translated in Korean by Takashio Genta	Boret, S. P.	Disaster Humanities in the Field - Local Culture and Victims' Folklore after Disaster Folklore of the Victims, Edited by Haeiki Takahara, Misonori Yamaguchi translated in Korean by Kyungin Kim, Mi-seon Lim.			242	266	20220331
6	日本語	筆頭共著	国内	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	3.11での大量死への対応—学際的な視点からの予備的な教訓	ボレー・セバスチャン, 佐々木宏之, 木村敬明	東北宗教学(特集号)			31	45	20230331

### 書籍(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	0	監修/編集	2	合計	2
----	---	------	---	----	---	-------	---	----	---

国際	1	国内	1
----	---	----	---

記述言語	著者名および編者執筆者名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	英語	Disaster Risk Reduction in Asia-Pacific during the COVID-19 Pandemic	編集本(編集者・Editor)	20220701	Syamsidik, Anawat Supparit, Sébastien Pennellen Boret, Rima Suryani Oktari Carmine Galasso	監修・編集	International Journal of Disaster Risk Reduction-IJDRR	国外
2	日本語	「災害で残されたもの」に向き合う—遺体・遺座	編集本(編集者・Editor)	20230331	Boret, Pennellen Sébastien, Kimura, T., Anstett, E. T.	監修・編集	東北宗教学	国内

### 編纂・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

国際	0	国内	0	国際	0	国内	1
----	---	----	---	----	---	----	---

記述言語	題目名(原題)	種別	査読	特許論文	論文掲載誌名(原題)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者名)	区分	所外連携	
1	日本語	未定		無	いいえ	災害科学国際研究所 設立10周年記念誌			52	54	20221004	ボレー・セバスチャン, 榎田 浩夫, 田村 浩幸, 坪田 新一	筆頭共著	なし

学会発表																	
国内		海外		合計													
7	3	2	12														
国内 国際	開催名	主催者	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表年月日	題目名(原題)	発表者名 (発表者以下線)	海外 連携	参加 人数		
									開始年月	終了年月							
国際	Post-Fukushima Studies Workshop	Cécile Asuma (CNRS) and Olivier Evraud (CEA)	単名	いいえ	口頭(一般)	CNRS	Tokyo	Japan	20220425	20220425	20220425	Death, Memorials, and Fukushima. Post Fukushima Studies Workshop	Boret, S. P.	国外	50		
国内	第18日本仏教看護・ビハール学会	Yuzo Taniyama	単名	いいえ	口頭(一般)	名取イレイセンター	名取	日本	20220618	20220618	20220618	同上の集会的記憶:2011年東日本大震災における記憶の共有	ボレー・ペンメレン・セバスチャン	国内	100		
国際	International Mountain Conference	Glonos	筆頭連名	いいえ	公認シンポジウム・ワークショップ・パネル	Innsbruck University	Innsbruck	Germany	20220914	20220914	20220914	UNESCO MAB World Network of Mountain Biosphere Reserves	Stefan Schneiderbauer, Carolina Adler, Maria Cardenas, Martin Price, Thomas Schaf, Glimmer Köck and Sebastian Boret Pannellen	国外	200		
国際	AIWEST 14TH Conference, International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opydek	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Sydney University	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	A comparative analysis of mass burials in post-disaster Indonesia and Japan	Boret, S. P., Shiti Maghfira, Ali Rahman	国外	200		
国際	AIWEST 14TH Conference, International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opydek	単名	いいえ	口頭(一般)	Sydney University	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Death, Memorials, and Fukushima. Post Fukushima Studies Workshop	Boret, S. P., Shiti Maghfira, Ali Rahman	国外	200		
国際	AIWEST 14TH Conference, International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opydek	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Sydney University	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	The transformation of the annual memorial ceremony ten years after the Great East Japan Earthquake	Shiti Maghfira, Boret, S. P.	国外	200		
国際	Post-Fukushima Studies Workshop	Cécile Asuma (CNRS) and Olivier Evraud (CEA)	単名	いいえ	口頭(招待)	Fukushima University	Fukushima	Japan	20221006	20221006	20221006	The Politics of Memorial Monuments	Boret, S. P.	両方	50		
国際	Imagining the "Aftermath": Lessons from the 2011 Tohoku Disasters and future issues from Interdisciplinary Science	Pierr Gras (Lyon University)	単名	いいえ	口頭(基調)	French Embassy	Tokyo	Japan	20221007	20221007	20221007	The Social Lives of Tsunami Walls in Japan: Concrete Modernity, Social Innovation, and Coastal Community	Boret, S. P., Julia Gerster.	両方	50		
国際	The Northern European Conference on Emergency and Disaster Studies (NEEDS)	The Copenhagen Centre for Disaster Research	単名	いいえ	公認シンポジウム・ワークショップ・パネル	Copenhagen University	Copenhagen	Denmark	20221101	20221103	20221102	Cultural Heritage and DRR: The Practicalities and Ethics of Dealing with Disaster and Cultural Heritage.	Boret, S. P.	国外	500		
国内	Anthropology of Japan in Japan	Andrea di Antoni	単名	いいえ	口頭(一般)	Kyoto University	Kyoto	Japan	20221203	20221204	20221203	Collective Memorialization as Healing: Memorial Monuments, Grief, and Trauma in Post-disaster Japan	Boret, S. P.	両方	130		
国際	World Boss Forum	Yuichi Ooo	筆頭連名	いいえ	ポスター(一般)	Sendai International Center	Sendai	Japan	20230310	20230312	20230312	Responding to Mass Death on 3/11: Preliminary Lessons for Disaster Preparedness from an Interdisciplinary Perspective	Boret, S. P., Sasaki, H., Kimura, T.	両方	1000		

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 : 3件

国内 国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%#参加)	分野	担当	IRIDSの 関与	共催機関名	海外 連携
				開始年月	終了年月									
国際	ワークショップ	Lyon University, Ottawa University, Tohoku University	Imagining the Aftermath: Environmental Vulnerability and Public Decision Making in a Post-Disaster Context	20221006	20221008	Lyon University, French Embassy (hybrid)	Lyon	France	50	人文社会系	Organizing Committee, Member	IRIDS主催・共同主催	Ecole Urbaine de Lyon	両方
国際	その他	IRIDES, Tohoku University, ETH Zurich, Singapore	Thinking multi-hazards and multi-stakeholders: a new approach for disaster management after COVID-19	20221102	20221102	Copenhagen University	Copenhagen	Denmark	500	人文社会系	Co-organizers	IRIDS主催・共同主催	ETH Zurich	国外
国際	ワークショップ	CENDEP Oxford Brookes University, IRIDES, Tohoku University	Participatory & inclusive methodologies in disability Research: Furthering social justice through co-creation of knowledge	20230309	20230309	Tohoku University	Sendai	Japan	20	人文社会系	Organizing Committee, Chair	IRIDS主催・共同主催	CENDEP, Oxford Brookes University	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

ボレーは、准教授兼任教員@環境科学研究科を務めています。修士・博士課程の学生の指導と、入試の準備・評価を行っています。また、1年間の大学院セミナーコース(文化生態保全学ゼミ)、1学期のコース(東北アジア比較社会組織論)、環境科学概論を担当している。また、ボレーは文化人類学研究室の非常勤講師として、大学院生を対象とした災害人類学に関する1学期の講義を担当している。また、国際災害科学研究所が主宰する基礎研修の講師で講義をした。今年度は環境科学研究科の試験委員として入学試験と最終試験を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部・研究学名	学名	学年	セメスター・学期	コマ数 (1コマ15分)
文化生態保全学ゼミ	東北大学	環境科学研究科	文化生態保全学分野	2	通年	30
災害人類学	東北大学	文学部	文化人類学研究科	1	後期	15
東北アジア比較社会組織論	東北大学	東北大学	文化生態保全学分野	2	後期	15
環境文明論	東北大学	東北大学	文化生態保全学分野	1	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

災害アーカイブイベントの運営や、防災に関する公開講座を行なった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 : 1件

国内 国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDSの 関与	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日							
国際	岩手県東日本大震災津波伝承館	三陸TSUNAMIのユビナミのく貫録伝	20221120	20221120	岩手県東日本大震災津波伝承館	陸前高田市	日本	実行委員	20	IRIDS主催・共同主催	セミナー

講義・座談等(研究活動以外)

合計 : 1件

学外 学内	活動区分	活動名称	活動内容	開催期間		演題名	講師	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
学外	公開講座	仙台で青年福光サミット 東北大学 准教授として	招待講演	20230318	20230318	災害の教訓を次世代に伝える	なし	東北創価学会	東北文化会館	仙台市	日本	1000

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名以外)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	ワークショップ	Lyon University, Ottawa University, Tohoku University	Imagining the Aftermath: Environmental Vulnerability and Public Decision Making in a Post- Disaster Context	20221006	20221008	Lyon University, French Embassy hybrid	Lyon	France	50	人文社 会系	Organizing Committee, Member	IRIDeS主催・共同 主催	Ecole Urbaine de Lyon	両方
2	国際	その他	IRIDES, Tohoku University -ETH Zurich, Singapor	Thinking multi-hazards and multi- stakeholders: a new approach for disaster management after COVID -19	20221102	20221102	Copenhagen University	Copenhagen	Denmark	500	人文社 会系	Co-organizers	IRIDeS主催・共同 主催	ETH Zurich	国外
3	国際	ワークショップ	CENDEP Oxford Brookes University, IRIDES, Tohoku University	Participatory & inclusive methodologies in disability research: Furthering social justice through co-creation of knowledge	20230309	20230309	Tohoku University	Sendai	Japan	20	人文社 会系	Organizing Committee, Chair	IRIDeS主催・共同 主催	CENDEP, Oxford Brookes University	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

ボレーは、准教授兼任教員@環境科学研究科を務めています。修士・博士課程の学生の指導と、入試の準備・評価を行っている。また、1年間の大学院セミナーコース(文化生態保全学ゼミ)、1学期のコース(東北アジア比較社会組織論)、環境科学概論を担当している。また、ボレーは文化人類学研究室の非常勤講師として、大学院生を対象とした災害人類学に関する1学期の講義を担当している。また、国際災害科学研究所が主宰する基礎研修の講座で講義をした。今年度は環境科学研究科の試験委員として入学試験と最終試験を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/1コマ
1	文化生態保全学ゼミ	東北大学	環境科学研究科	文化生態保全学分野	2	通年	30
2	災害人類学	東北大学	文学部	文化人類学研究科	1	後期	15
3	東北アジア比較社会組織論	東北大学	東北大学	文化生態保全学分野	2	後期	15
4	環境文明論	東北大学	東北大学	文化生態保全学分野	1	前期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

災害アーカイブイベントの運営や、防災に関する公開講座を行なった。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	岩手県東日本大震 災津波伝承館	三陸TSUNAMIウェビナー×みちのく震 録伝	20221120	20221120	岩手県東日本大 震災津波伝承館	陸前高田 市	日本	実行委員	20	IRIDeS主催・ 共同主催	セミナー

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	公開講座	仙台で青年福光サミット 東北大学准教授らを迎 えて	招待講演	20230318	20230318	災害の教訓を次世代に伝える	なし	東北創価学会	東北文化会館	仙台市	日本	1,000

マリ エリザベス 准教授

MALY Elizabeth

防災実践推進部門 国際研究推進オフィス

A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	Reed College	B.A. Art	2000	5	University of Washington-Seattle	建築	2008	6	Masters of Architecture	2008	6
2					神戸大学大学院工学部	建築	2013	3	学術博士(建築)	2013	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2009	10	2012	3	International Recovery Platform (IRP)	アシスタント研究員
2	2012	4	2014	3	人と防災未来センター	研究員(2013~主任研究員)
3	2014	4	2018	12	東北大学 災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野	助教
4	2019	1	現在		東北大学 情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス	准教授

学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本建築学会	日本都市計画学会	日本住宅会議	災害復興学会	地域安全学会

学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	International Journal of Disaster Risk Reduction		Associate Editor	2018000

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	住宅復興	住まい環境	国際比較	土地利用	災害復興政策

委員会・ワーキンググループ

全学・他部署の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	男女共同参画委員	委員	20200401

B. 研究活動

研究活動の概要

My research this year continued to focus on international comparisons of pre-disaster community resilience and recovery planning, and housing recovery and land use after mega disasters in the United States and Japan, including international research collaborations and published research results. Through a new project funded by NSF/JSP, active research collaboration with Kobe University, Texas A&M, and the University of Washington led to several significant publications related to the theme of Placemaking after disaster. Other international research investigations continued collaborative research with international counterparts in Taiwan, Indonesia, and the U.S. Research in Japan continued to follow the recovery process after the GEJE, with a focus on housing recovery and residential displacement, with several contributions to international and Japanese conferences and publications. Overall, research this year continued to focus on themes of post disaster housing recovery and relocation, and the role of NGOs and governments in housing provision, including continued research funded by a JSPS Kaken Grant in Aid (Kiban C), which builds on past research on the roles of NGOs in housing recovery. Comparative research on community resilience and community-based disaster risk reduction in Seattle (US) and Sendai (Japan) was a continuing focus, and part of ongoing collaborative research with colleagues from TU and the University of Washington in the US.

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2011	4	現在		東日本大震災後の木造仮設住宅	
2	2011	4	現在		東日本大震災後の復興計画と高台移転や土地利用	
3	2012	4	現在		自然災害の復興に関する土地利用や移転の国際比較研究	
4	2012	10	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興と土地利用 (アメリカ)	
5	2012	4	現在		メラビ火山噴火後の住宅復興 (インドネシア)	
6	2012	4	現在		ハリケーンサンディ後の住宅復興 (アメリカ)	
7	2014	4	現在		インド洋津波後の住宅復興 (インドネシア, タイ)	
8	2014	4	現在		台風ハイヤンの復興 (フィリピン)	
9	2015	4	現在		住宅復興と教育復刻の連携; 国際比較的研究 (フィリピン, インドネシア)	
10	2016	4	現在		住宅復興の起るNGO役割	
11	2022	2	現在		Placemaking after disaster	

論文

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	5	合計	6
----	---	------	---	--------	---	----	---

うち	国際査読有	4	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	英語	筆頭共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	People-centered disaster recovery: A comparison of long-term outcomes of housing reconstruction in Thailand, India, and Japan	Elizabeth Maly, Mittul Vahanvati, Titaya Sararit	International Journal of Disaster Risk Reduction	81			20220913	
2	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11: Othering the Fukushima Daiichi nuclear disaster in cultural memory	Julia Gerster and Elizabeth Maly	Contemporary Japan	34	2	187	209	20221013
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Towards improving provision of wooden temporary housing: Analysis of repairs of temporary housing built by local contractors after the Great East Japan Earthquake	Tsukasa Iwata, Eiji Harada, Elizabeth Maly	International Journal of Disaster Risk Reduction	86	3			20230215
4	日本語	共著	国内	いいえ	その他	無	いいえ	東日本大震災の災害危険区域における居住移転後の土地利用変容と場所の再生に関する研究	原 隆太, イエガネ ゲゼール, 奥羽 未来, エリザベス マリ, 新井 信幸, 近藤 民代	都市計画報告集	21	4	464	470	20230310
5	日本語	共著	国外	いいえ	その他	無	いいえ	復興期におけるブレイスメイキングの役割とそのプロセスについて:ハリケーン・カトリナ後のニューオーリンズ市における市民主導の場づくりの事例から	松下 朋子, 近藤 民代, イエガネ ゲゼール, リズ マリ, ミシェル マイヤー, ゲイレン ニューマン	都市計画報告集	21	4	569	575	20230310
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Rationale and processes of residential buyout programs: A review on buyout regulations and consequences in Japan and the U.S.	Yegane Ghezelloo, Tamiyo Kondo, Elizabeth Maly, Michelle Stanley, Michelle Meyer	Japan Architectural Review	6	1	1	11	20230321

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---

うち	国際	0	国内	1
----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	8	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	EuroSEAS	Louise Pichard-Bertaux	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	EHESS, Campus Condorcet, Paris-Aubervilliers	Paris	France	20220628	20220701	20220629	Ruptured lives and places: displacements after the Fukushima Nuclear Disaster	Gerster, Julia and Maly, Elizabeth	なし	200
2	国際	Natural Hazards Workshop Researchers Meeting	Sara Hamideh	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Boulder	USA	20220713	20220714	20220714	Long-Term Impacts of Post-Disaster Residential Buyouts lafter Superstorm Sandy:comparison of U.S. and Japan	Elizabeth Maly, Tamiyo Kondo, Michelle Stanley, Michelle Meyer,	両方	400
3	国際	Natural Hazards Workshop Researchers Meeting	Sara Hamideh	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Online	Boulder	USA	20220713	20220714	20220714	Long-Term Impacts of Post-Disaster Residential Buyouts After the 2011 Japan Tsunami	Tamiyo Kondo, Elizabeth Maly, Michelle Stanley, Michelle Meyer,	両方	400
4	国際	APRU Sustainable Cities & Landscapes Hub 5th Conference: Civic Engagement and Community Design Working Group	Jeff Hou	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	University of Hawaii at Manoa	Honolulu	USA	20220906	20220909	20220906	(Re)making Emptied Places in Post-sunami Japan	Tomoko Matsushita, Elizabeth Maly, Yegane Ghezelloo, Nao Sakaguchi, and Tamiyo Kondo	国内	200
5	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke and Liberty de Rivera	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220929	Urban regeneration in flood-prone areas: a case study of the rehabilitation of wooden public bathhouses in Hitoyoshi City, Kumamoto Prefecture, Japan	Miku Okuba, Tsukasa Iwata, Maly Liz, Eiji Harada and Kosuke Sakura	なし	400
6	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	Aaron Opdyke and Liberty de Rivera	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	University of Sydney	Sydney	Australia	20220929	20220930	20220930	Recovery and housing safety for residents after the 2014 earthquake, Thailand	Titaya Sararit, Elizabeth Maly, and Mittul Vahanvati	なし	400
7	国際	Urban Transitions 2022 Integrating urban and transport planning, environment and health for healthier urban living	Mark J Nieuwenhuijsen	その他の連名	いいえ	口頭(基調)	Sitges,	Barcelona	Spain	20221108	20221110	20221109	Process of community-driven post-disaster recovery of public spaces in the Great East Japan Earthquake and Tsunami-2011 affected areas	Yegane Ghezelloo, Akhiko Hokugo, Tamiyo Kondo, Elizabeth Maly, Abel T4 itii Konno Pinheiro	国内	2,000
8	国際	The 17th APRU Multi-Hazards Symposium	Natt Leelawat	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Mandarin Hotel	Bangkok	Thailand	20221129	20221130	20221129	Policies and programs for housing recovery in three Asian countries -India, Thailand, and Japan	Titaya Sararit, Liz Maly, Mittul Vahanvati	国外	200
9	国際	Teaching the Japan Disasters Digital Archive: Perspectives from Japan	Andrew Gordon	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Harvard University	Boston	USA	20221209	20221209	20221209	Japan's Disaster Memorial Museums and framing 3.11	Gerster, Julia and Maly, Elizabeth	両方	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 1 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	University of Sydney, the Tsunami and Disaster Mitigation Research Center (TDMRC) at Universitas Syiah Kuala, and the International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) at Tohoku University.	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery	20220929	20220930	University of Sydney	Sydney	Australia	300	工学	Organizing Committee.	IRIDeS共催	University of Sydney, the Tsunami and Disaster Mitigation Research Center (TDMRC) at Universitas Syiah Kuala	国外

C. 教育活動

教育活動の概要

This year I taught and organized multiple lectures and classes, including within Tohoku University and at other universities in Japan and in other countries. I helped advise graduate students at Tohoku University and the University of Washington. At Tohoku University, I coordinated a one-day seminar and presented a lecture as part of the GP professional development class for medical practitioners offered in collaboration with Tohoku University Faculty of Medicine and IRIDeS. I also gave guest lectures in other universities in Japan (Hitotsubashi University, Toyo Eiwa University, Kobe University) and abroad.

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	小野田ゼミ	東北大学	工学部	建築・社会環境工学科		1セメ	2
2	災害国際協力セミナー	東北大学	医療			1セメ	2
3	海外研修 B における講義提供	東洋英和女学院大学	国際社会学部	国際社会学科		1セメ	2
4	住環境再生特論B	神戸大学	工学部・GSICS		M1	1セメ	1
5	災害の科学: 災害への対応	東北大学	全学			1セメ	1

D. 社会活動

社会活動の概要

In the past year, I coordinated, organized and participated in various events, including public symposiums and research meetings. Through these events, various information was shared about disaster mitigation and recovery, from experiences in Japan and other countries. I had many occasions to exchange information about Japan and Tohoku recovery with international audiences and colleagues through various public and academic events and lectures.. In addition, I was engaged in many activities focusing on building stronger connections between researchers from inside and outside Japan with IRIDeS.

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国際	ArcDR3	Forum: New Visions for Regenerative Urbanism	20220409	20220409	Muromachi Mitsui Hall & Conference	東京	日本	運営委員	200	IRIDeS主催・ 共同主催	シンポジウム
2	国際	i-Rec	20 years of i-Rec! Reflecting on the network with key contributors	20220724	20220724	Online			運営委員	50	なし	講演会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 7 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	CPI新型コロナTF会議	講義	20220410	20220410	第二回 特別TF会議	なし	都市計画学会	Online	東京	日本	10
2	講演会	国際会議	講義	20220506	20220506	International Conference on School's Disaster Risk Reduction and Resilience Education in Practice	行政	Taiwan Ministry of Education	Online	台北	台湾	200
3	講演会	JUDI勉強会	講義	20220513	20220513	最近のアメリカの自然災害からの住宅復興	なし	都市環境デザイン会議国際委員会	Online	京都	日本	20
4	講演会	EVSU	講義	20220828	20220828	Haiyan Conversations Episode 10: People Centered Housing Recovery after Haiyan	なし	EVSU	Online	Tacloban	Philippines	100
5	その他	東北大学災害科学国際研究所: 設立10周年記念行事プログラム	パネラー	20221109	20221109	シンポジウム < 災害研10年の歩みと将来展望 >	なし	IRIDeS	IRIDeS	仙台	日本	200
6	講演会	Iwate Tsunami Memorial Museum Exchange Event	司会	20221120	20221120	International Exchange and online webinar	なし	Iwate Tsunami Museum	Iwate Tsunami Museum	陸前高田市	日本	10
7	講演会	第4回世界津波博物館会議	司会	20221215	20221215	Roles of Youth and Tsunami Museums for Resilience of Societies	なし	UNDRR	IRIDeS	仙台	日本	300



## 北村 美和子 特任研究員:助教

**KITAMURA Miwako**

防災実践推進部門 国際研究推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京工芸大学	写真工学部	1989	3	東北大学	工学部 都市・建築	2022	3	Ph.D	2023	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1992	4	1995	10	角川書店 写真室	カメラマン
2	1995	12	2016	4	フリーカメラマン	カメラマン
3	2021	12	2022	4	慶應義塾大学	特別研究員
4	2022	4	現在		東北大学災害科学国際研究所	特別研究員:助教

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6
	日本土木学会	日本地球惑星科学連合	米国地球物理学連合	欧州地球物理学連合	アジア・オセアニア地球科学学会	タイ工学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	ICOMOS	災害遺構、歴史的建物保存	Member	20140401

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	ジェンダーと災害	避難行動	防災学	災害リスク

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

国内外において総合的にジェンダーと視点で、災害社会学と工学の観点から沿岸災害の防災研究について活動している。主に、津波避難、ジェンダーと災害に関して研究し、国内外で発表を行うとともに、国際共著で学術雑誌や本を執筆している。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2016	10	現在		災害アーカイブ 災害展示研究	国外
2	2017	10	現在		災害アーカイブ 災害展示研究	両方
3	2018	10	現在		ジェンダーと災害研究 記録情報とジェンダーの不平等	両方
4	2019	4	現在		ジェンダーと災害研究 ジェンダーの差異による津波避難	両方
5	2020	11	現在		ジェンダーと災害研究 早期警報・津波避難に着目	国外
6	2021	4	現在		カスケード災害 ジェンダーと災害研究	両方
7	2022	9	現在		カスケード災害 ジェンダーと災害研究	国外
8	2022	9	現在		ジェンダーと災害研究 LGBTQ+DRR	両方

#### 論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	3	うち	国際査読有	2	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Disaggregating gender data in the Great East Japan Earthquake in 2011	Miwako Kitamura	AIWEST Special journal	14				20220000
2	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Factors affecting worry: A study of the COVID-19 pandemic in Japan	Lertsakornsi, P., Sritanawatkul, P., Yudha, A.K., Leelawat, N., Tang, J., Suppasri, A., Kitamura, M., Tsukuda, H., Boret, S.B., Onoda, Y., Saengtambim, K., Imamura, F. and Syamsidik	International Journal of Disaster Risk Reduction	179				20220604
3	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	東日本大震災の被災地がジェンダーの不平等によって受けた長期的な影響についての研究	北村美和子	地域安全学会連続ワークショップ	11				20220000

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Invisible reconstruction :Cross-Disciplinary Responses to Natural Biological and Man-made Disasters	編集本(編集者・Editor)	20221205	Lucia Patrizio Gning, Paola Rizzi, <u>Miwako Kitamura</u>	共著	UCL PRESS	国外	

学会発表

単名	2	筆頭連名	0	その他の連名	3	合計	5
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)	Aaron Opdyke	単名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	シドニー	オーストラリア	20220929	20220930	20220930	Disaggregating gender data in the Great East Japan Earthquake in 2011	<u>Miwako Kitamura</u>	なし	150
2	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20220930	20230312	LGBTQ+DRR Case Study in Japan	<u>Ellen Pearce-Davies</u> , <u>Miwako Kitamura</u>	国外	150
3	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230310	20230312	Inter-University Exchange Project (IUEP): An international educational partnership between Japanese, British, and American universities to create resilient societies Implementation of D.E.I: Towards Resilient Societies	chair: Dr. Punam Yadav, Co-director of Centre for Gender and Disaster, UCL <u>IRDRDr. Kitamura</u> Miwako, Researcher, IRIDeS, Tohoku University	両方	150
4	国際	World Bosai Forum 2023	Yuichi Ono	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	仙台国際センター	仙台	日本	20230310	20230312	20230312	Warning system requirements for regular and extreme hazards	<u>Rebekah Yorg</u> , Joanna Faure Walker, Angus Naylor, Anawat Suppasri, <u>Miwako Kitamura</u>	国外	150
5	国際	GADRI	Peter Samonds	単名	はい	指名/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	京都	日本	20230314	20230316	20230315	LGBTQ+DRR Case Study in Japan	<u>Miwako Kitamura</u>	なし	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(うち外国人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	セミナー	IRIDeS, UCL-IRDR, Cambridge	Disaster memory	20230412	20230412	対面	Sydney	日本	20(18)	人文社会系	Organizing Committee, Session chair	IRIDeS協力		国外
2	国内	ワークショップ	東北大学男女共同参画センター	「ジェンダー多様性から災害を伝える」フォーラム	20220204	20220204	対面/オンライン	仙台	日本	50	人文社会系	Organizing Committee, Speaker	IRIDeS主催・共同主催		国内
3	国際	セミナー	World Bosai Forum	Joint Seminar on the 2023 Earthquake in the Southern Türkiye and Syria Mechanism, damage and strategy for recovery, reconstruction, BBB, and Resilient society	20230227	20230227	オンライン	仙台	日本	500(100)	工学	Organizing Committee	IRIDeS主催・共同主催		両方
4	国際	シンポジウム	World Bosai Forum	World Bosai Forum 2023	20230310	20230313	仙台国際センター	仙台	日本	500(500)	工学	Organizing Committee, Speaker	IRIDeS共催		両方

C. 教育活動

教育活動の概要

ロンドン大学UCLマスターの学生へ、修士論文の研究、学会発表への指導を行なっている。ロンドン大学UCLではジェンダーと災害センターの授業サポートも担当している。

D. 社会活動

社会活動の概要

主にジェンダーと災害について活動を行なっている、災害時に脆弱性の高いグループに属する可能性のある高齢者、子供、セクシャルマイノリティの人々の減災について、講演会、ボランティア等へ参加、メディア発信も行なっている

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 5 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	糸島高校	セクシャルマイオリティと災害についての 講義	20220714	20220714	糸島高校	福岡県	日本	講師	150	なし	講演会
2	国内	九州人権啓発セン ター	セクシャルマイノリティと災害についての 講義	20222023	20222023	福岡県人権啓 発センター	福岡県	日本	講師	150	なし	講演会
3	国内	鹿児島県	セクシャルマイノリティと避難所運営 について職員向け研修の総括	20230227	20230227	オンライン	鹿児島県	日本	講師	40	なし	研究会
4	国際	ライデン大学	ジェンダーと災害についての講義	20230314	20220314	オンライン	ライデン	オランダ	講師	300	なし	講演会
5	国内	NPO法人クオーク	セクシュアルマイノリティと 医療・福祉・教育を考える 全国大会2023 「日常を快適に生きる為に」	20230203	20230212	オンライン	大阪市	日本	講師	740	なし	研究会

講演・講義等(研究活動以外)

合計 1 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	Bosai Week	招待講演	20230119	20230119	ジェンダーと災害について	なし	世界防災フォー ラム	オンライン配信	岩沼市	日本	

## 小野 裕一 教授

### ONO Yuichi

防災実践推進部門 2030国際防災アジェンダ推進オフィス

#### A. 基本情報・略歴

##### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	宇都宮大学	教育学部	1989	3	米國ケントステイト大学大学院	地理学研究科	2001	12	地理学博士	2001	12

##### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1997	1	2000	2	米國ケントステイト大学	非常勤講師
2	2002	1	2003	2	世界気象機関(スイス・ジュネーブ)世界気象観測部	アソシエート・エキスパート
3	2003	2	2004	2	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)	プログラム・オフィサー
4	2004	6	2007	6	国連国際防災戦略事務局早期警戒事務所(ドイツ・ボン)	所長補
5	2007	6	2009	9	国連国際防災戦略事務局本部(スイス・ジュネーブ)防災科学技術担当	プログラム・オフィサー
6	2009	10	2012	10	国連アジア太平洋経済社会委員会本部(タイ・バンコク)	防災課・課長
7	2012	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 防災実践推進部門 2030国際防災アジェンダ推進オフィス(旧情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス)	教授
8	2013	8	2018	8	環太平洋大学連合(APRU)マルチハザードプログラム	ハブ代表
9	2014	3	2016	3	京都大学防災研究所 水資源環境センター	客員教授
10	2015	4	現在		災害統計グローバルセンター	センター長
11	2018		2018		国連気候変動枠組条約・ワルシャワ国際メカニズム・損失と損害・執行委員会委員	
12	2018	12	現在		一般財団法人世界防災フォーラム	代表理事

##### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	日本地理学会	アメリカ地理学会	日本風工学会	地域安全学会

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本学術会議	国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会	特任連携会員	20140423
2	日本学術会議	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	特任連携会員	20130628
3	日本地理学会	交流専門委員会	委員長	20130401
4	日本学術会議	科学技術を生かした防災・減災に政策の国際的展開に関する検討委員会	会員	20180426
5	2020世界災害語り継ぎフォーラム	2020世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会	委員	20180530
6	国立研究開発法人 科学技術振興機構	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム防災分野評価会	国内領域別評価会委員	20180401
7	国立研究開発法人 科学技術振興機構	国際科学技術協力基盤整備事業	国際科学技術協力推進委員	
8	国立研究開発法人 科学技術振興機構	「日本-米研究交流」推進委員会	主査	
9	国際風工学会	国際風関連防災グループ	議長	20190000
10	世界防災研究所連合(GADR)		理事	20190000
11	世界気象機関(WMO)	気象、水、気候、環境、宇宙気象のハザードを分類する専門家チーム	委員	20200000
12	国連	気候変動枠組条約・ワルシャワ国際メカニズム・損失と損害・執行委員会	委員	
13	ADRC	GLIDE運営委員会	運営委員会議長	20210630

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	国際防災政策	竜巻災害	早期警報システム

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	国際交流課	国際連携推進機構国際交流委員会	委員	20190401
2	理学部・理学研究室	変動地球共生学卓越大学院プログラム	運営委員	20180000
3	産学連携部 グリーン未来創造機構	国際防災戦略イニシアティブ(仮称)プロジェクト	プロジェクトリーダー	20210401

B. 研究活動

研究活動の概要

ウェザーニューズ財団から支援を受けてバングラデシュのトルネードリスク軽減のためのプロジェクト研究を進め戦略をまとめた。国内での研究活動では、1)JSTの支援による仙台市片平地区での世帯別の災害リスクの把握を基にしたアラートシステムの開発に富士通総研と取り組みを進めた。2)仙台市と共同で市の災害被害統計を収集し、仙台防災枠組のグローバルターゲットについての進捗状況をまとめて発表した。第4回国連津波博物館会議をホストし、成果物としての報告書をまとめた。国連の取り組んでいる災害被害統計の枠組についてのアドバイスとアジア防災センターが主体となって進めている識別番号の委員会(GLIDE)の委員長として活動した。

研究課題

No.	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1994	4	2001	12	米国、バングラデッシュ、日本の竜巻災害の研究	
2	2002	1	2012	10	国連で国際防災政策立案に従事、早期警報システムや科学技術の政策への統合システムの構築など	
3	2012	11	現在		災害科学国際研究所の実践的防災学の知見を国際防災政策に反映させるための研究	
4	2012	11	現在		バングラデッシュの竜巻等の突風災害の軽減に関する研究	
5	2015	4	現在		各国でエビデンスに基づいた防災政策立案の支援をすべく国連開発計画(UNDP)と共同で構築した災害統計グローバルセンターの活動	
6	2020	4	現在		仙台防災枠組を含んだ国際開発アジェンダの進捗状況を研究し、2030年に向けた有効な提言を行う研究	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

No.	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	単著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Memorialization Tools for Systematically Expanding Disaster Risk Reduction Across Space and Time	Reid Basher and Yuichi Ono	Journal of Disaster Research Vol.17, No.4, pp.526-531	17	4	526	531	20220601

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

No.	記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 4 件

No.	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(名)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	WBF国際実行委員会及びWBF国内実行委員会事務局(一財)世界防災フォーラム	世界防災フォーラム/防災ダボ会議@仙台2023	20230310	20230312	仙台国際センター	仙台	日本	5412(180)	環境&地球科学	代表理事	IRIDeS協力		両方
2	国際	シンポジウム	UNDRR 東北大学災害科学国際研究所 外務省	The Fourth World Tsunami Museum Conference	20221215	20221215	東北大学災害科学国際研究所	仙台	日本	189	環境&地球科学	議長	IRIDeS主催・共同主催		両方
3	国際	ワークショップ	JST FSF	US-Japan Workshop Human-Centered Data for Resilience (HCD4R)	20221018	20221026	オンライン				環境&地球科学	議長	なし		両方
4	国際	ワークショップ	Natural Hazards Center	Collaborating on Human-Centered Data for Resilience Research	20220713	20220713	オンライン				環境&地球科学	議長	なし		

C. 教育活動

教育活動の概要

東北大学の卓越大学院で変動地球共生学特別講義Iの講義で国際防災関連の授業とプロジェクトマネジメントについての授業をJICAの竹谷特任教授とともに担当した。学外では引き続き、国際基督教大学大学院で主として海外の大学院生を対象にリモートで講義を行った他、JICAの本邦研修で災害統計についての講義を担当した。他に多賀城高校の災害科学科で統計について講義を行った。

担当授業科目(他大学を含む)

No.	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/1コマ
1	災害の救済・復興SA	立命館アジア太平洋大学				1セメ	12
2	Interdisciplinary Approach and Policy Development	Chulalongkorn-University					2
3	プロジェクトマネジメント論	東北大学	卓越大学院 理学研究科			前期	9
4	産学共創特殊講義 I	東北大学	卓越大学院 理学研究科			後期	9
5	防災の国際潮流と仙台防災枠組	東北大学	卓越大学院 理学研究科			前期	8
6	変動地球共生学特殊講義 I	東北大学	卓越大学院 理学研究科			後期	8
7	防災の日本政府の取組 国際的なフレームワーク	東北大学	法学研究科 公共政策大学院				1
8	自然災害と人道アクション I	国際基督教大学					1

D. 社会活動

社会活動の概要

第3回世界防災フォーラムを23年3月に開催し、40ヶ国から5400名の参加者をもって防災の具体的ソリューションを共有する場をもった。22年12月には第4回国連世界津波博物館会議を災害研で開催した。JSTの「SDGsや仙台防災枠組の優先行動に即し、人間中心のデータを活用したレジリエンス」の日米研究交流の主査を務め、22年秋に米国ノートルダム大学と連携してオンラインのワークショップを日米で開催し日本側の議長をつとめた。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 1 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等
				開始年月日	終了年月日							
1	国内	東北大学災害科学 国際研究所・仙台 市	「仙台防災枠組の折り返し 一緒に考えよう！わたしたちのこれまでとこれから」	20221126	20221126	TKPガーデン シティ仙台 ホール21D	仙台市	日本	講師、ワーク ショップ	30	IRIDeS主催・ 共同主催	ワークショップ

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	小中高との連携	多賀城高校災害科学科 1年生特別講義	講義講師	20220927	20220927	「災害と統計」	小中高	宮城県多賀城 高等学校	多賀城高校 iRisホール	多賀城市	日本	40
2	その他	講義	ゲストスピー カー	20221013	20221013	「自然災害と人道アクション I」	なし	国際基督教大 学	国際基督教大 学	三鷹市	日本	
3	講演会	講義	ゲストスピー カー	20220623	20220623	「仙台防災枠組を中心としたレジリエンス に関する国際アジェンダの動向と課題」	企業	一般社団法人 科学技術と経 済の会	一般社団法人 科学技術と経 済の会	東京都	日本	56
4	講演会	2022年度課題別研修「総 合防災」コース	講義講師	20230214	20230214	2022年度JICA総合防災研修「災害統計」	なし	アジア防災セ ンター	JICA東京	東京都	日本	8

# 佐々木 大輔 准教授

## SASAKI Daisuke

防災実践推進部門 2030国際防災アジェンダ推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	東京大学	理学部	2004	3	東京大学大学院	新領域創成科学研究科	2015	9	博士(国際協力学)	2015	9

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2008	2	2014	3	株式会社浜銀総合研究所	研究員
2	2014	4	2017	8	横浜市役所	事務職員
3	2016	2	2017	8	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻	客員連携研究員
4	2017	9	2022	3	東北大学 災害科学国際研究所	助教
5	2022	4	2023	3	中央大学 研究開発機構	機構准教授(クロスアポイントメント)
6	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4
	国際開発学会	水文・水資源学会	土木学会	公益事業学会

### 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	水文・水資源学会	編集出版委員会	編集出版委員	20180900
2	土木学会	ACECC TC21国内支援委員会	委員兼幹事	20190900

### 研究分野・キーワード (最大5まで)

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
	災害科学	開発援助研究	インドネシア地域研究	防災投資	環境政策・環境社会システム

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

2022年度は、計5篇の査読付き論文(何れもWeb of Science Core Collection及びScopusに掲載)を公刊した。  
2022年度も引き続き、当研究所に設置された災害統計グローバルセンターに所属し、災害統計の整備、及び科学的根拠に基づく防災政策に係る研究に従事するとともに、防災投資・サステナブルファイナンスに係る研究にも重点的に取り組んだ。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	10	現在		国際インフラプロジェクト等におけるリスクマネジメント	両方
2	2012	10	現在		国家間の電力貿易における経済性評価	両方
3	2016	2	現在		気候変動が太平洋島嶼国に与える影響評価	両方
4	2017	9	現在		災害統計の整備、科学的根拠に基づく防災政策に係る研究	両方
5	2021	4	現在		防災投資・サステナブルファイナンスに係る研究	両方

#### 論文

単著	0	筆頭共著	2	その他の共著	3	合計	5	うち	国際査読有	5	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	両方	はい	学術雑誌	有	いいえ	Migration, Dignity, Fragility, and Pandemics: Overview of the Special Issue	Mikiyasu Nakayama, Shanna N. McClain, Ryo Fujikura, and Daisuke Sasaki	Journal of Disaster Research	17	3	285	291	20220401
2	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Evacuees Preferred to Continue Living in Relocation Sites Rather than Return: Misunderstanding of the Government and Media About the True Intentions of Evacuees	Ryo Fujikura, Miko Maekawa, Mikiyasu Nakayama, and Daisuke Sasaki	Journal of Disaster Research	17	3	356	364	20220401
3	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	Tourists' behavior for volcanic disaster risk reduction: A case study of Mount Aso in Japan	Daisuke Sasaki, Yasuhiro Jibiki, Takahiro Ohkura	International Journal of Disaster Risk Reduction	78			103142	20220625
4	英語	共著	国内	はい	学術雑誌	有	いいえ	People's Perception of Well-Being during the COVID-19 Pandemic: A Case Study in Japan	Daisuke Sasaki, Anawat Suppassi, Haruka Tsukuda, David N. Neuen, Yasuaki Onoda and Fumihiko Imamura	International Journal of Environmental Research and Public Health	19	19		12146	20220925
5	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Exploring People's Perception of COVID-19 Risk: A Case Study of Greater Jakarta, Indonesia	Dicky C. Pelupessy, Yasuhiro Jibiki and Daisuke Sasaki	International Journal of Environmental Research and Public Health	20	1		336	20221226

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	1	共著	5	監修編集	0	合計	6	うち	国際	6	国内	0
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Opportunities and Challenges (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	Mikio Ishiwatari and <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	Springer Singapore	国内	
2 英語	Recent Trends in Disaster Risk Reduction Investments: A Literature Review (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	<u>Daisuke Sasaki</u> and Mikio Ishiwatari	筆頭共著	Springer Singapore	国内	
3 英語	Exploring people's Perception of Disaster Risk Reduction Investment for Flood Management: The Case of Jakarta Floods in Indonesia (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	Dicky C. Pelupessy, Yasuhito Jibiki, and <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	Springer Singapore	国外	
4 英語	Is the Post Disaster Needs Assessment Important to Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation? Lessons from Indonesia and the Philippines Based on Literature Review (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	Yasuhito Jibiki, Dicky C. Pelupessy, <u>Daisuke Sasaki</u> , and <u>Kanako Iuchi</u>	共著	Springer Singapore	国外	
5 英語	Estimating the Benefits of Flood Protection—Reviewing the Transition of the Cost-Benefit Analysis Manual in Japan and the Implementation Status of the International Flood Protection Project (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	Masashi Sakamoto, <u>Daisuke Sasaki</u> , and Mikio Ishiwatari	共著	Springer Singapore	国内	
6 英語	Future Perspectives of Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation (Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: Asian Perspectives)	編集本(著者・Author)	20220902	Mikio Ishiwatari and <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	Springer Singapore	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	2	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	2	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 英語	Migration, Dignity, Fragility, and Pandemics	学術雑誌	無	いいえ	Journal of Disaster Research	17 3	283	284	20220401	Mikiyasu Nakayama, Shanna N. McClain, Ryo Fujikura, and <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	両方
2 英語	Special Issue "Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation: An Interdisciplinary Approach"	学術雑誌	無	いいえ	International Journal of Environmental Research and Public Health	20 3		2641	20230201	Mikio Ishiwatari and <u>Daisuke Sasaki</u>	共著	国内

学会発表

単名	0	筆頭連名	2	その他の連名	1	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
1 国際	AOGS2022 Virtual	Robin Robertson	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	(オンライン)	(オンライン)	(オンライン)	20220801	20220805	20220802	Fishery Damage in Japan from the Tsunami Caused by the 2022 Tonga Volcanic Eruption	Anawat SUPPASRI, Kento TANAKA, Kwanchai PAKOKSUNG, <u>Daisuke SUGAWARA</u> , <u>Daisuke SASAKI</u> , Yoshinori SHIGIHARA, Fumihiko IMAMURA, Tomohiro TAKAGAWA, Yu CHIDA	国内	
2 国際	9th CECAR		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	Taj Hotel & Convention Centre	Goa	India	20220921	20220923	20220921	Ecosystem-based Disaster Risk Reduction Compared with Conventional Disaster Risk Reduction: A Literature Review	<u>Daisuke SASAKI</u> , Daijiro MIZUTANI, and Mikio ISHIWATARI	国内	
3 国際	The 14th Aceh International Workshop and Expo on Sustainable Tsunami Disaster Recovery (AIWEST-DR 2022)		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	The University of Sydney (ハイブライド)	Sydney (ハイブライド)	Australia (ハイブライド)	20220929	20220930	20220930	People's preparedness and perception on disaster risk reduction in fisheries applied by SEM: A case study of the damage in Japan caused by the tsunami following the Tonga submarine volcanic eruption in January 2022	<u>Daisuke Sasaki</u> , Anawat Suppassri, Kento Tanaka and Fumihiko Imamura	なし	



学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計 3 件

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (名/日)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR) Kobe Office, International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) Tohoku University, Ministry of Foreign Affairs (MOFA) Japan	The Fourth World Tsunami Museum Conference	20221215	20221215	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University	Sendai	Japan		人文 社会系	運営、連絡・調整等	IRIDeS主催・共同 主催	United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR) Kobe Office, Ministry of Foreign Affairs (MOFA) Japan	両方
2	国際	セミナー	International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University, Faculty of Psychology, Universitas Indonesia, Indonesian Association of Disaster Experts (IABI)	Investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Transdisciplinary perspectives	20230228	20230228	Le Meridien Jakarta	Jakarta	Indonesia	80	人文 社会系	運営、連絡・調整等	IRIDeS主催・共同 主催	Faculty of Psychology, Universitas Indonesia, Indonesian Association of Disaster Experts (IABI)	両方
3	国際	シンポジウム	WBF国内実行委員会及びWBF国際実行委員会	World BOSAI Forum/防災ダボス会議@仙台2023	20230310	20230312	仙台国際センター	仙台	日本	5,412		運営、連絡・調整等			両方

C. 教育活動

教育活動の概要

2022年度は、学内外で合計2コマの講義(分担)を担当した。  
2023年度以降も引き続き、講義を担当する予定である。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・ 学期	コマ数 90分/コマ
1	災害の科学: 災害への対応	東北大学	全学			後期	1
2	国際協力学研究	東京大学	新領域創成科学研究科	国際協力学専攻			1

D. 社会活動

社会活動の概要

2022年度は、引き続きJICA緒方研究所等に所属する研究者との共同研究等を積極的に推進した。  
2023年度以降も、これらの共同研究等については、継続的に実施する予定である。

講演・講義等(研究活動以外)

合計 3 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	第6回防災ESG勉強会	講演	20220714	20220714	防災投資の現状と課題	企業	神戸大学	(オンライン)	(オンライン)	(オンライン)	26
2	セミナー	地域価値創出戦略研究会第5回講演会	講演	20220902	20220902	防災投資の必要性と可能性 ー国際協力の視点からー	企業	一般社団法人国際経済外交総合戦略センター	東京	日本		9
3	セミナー	仙台BOSAI-TECHカンファレンス2023	基調講演	20230307	20230307	流域単位における治水投資の長期的な効果測定に係る分析: 名取川流域を事例に	行政	仙台市	(オンライン)	(オンライン)	(オンライン)	

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 3 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	京都大学防災研究所	森信人	20220517	会議	京都大学東京オフィス	東京	その他	
2	JICA緒方研究所	石渡幹夫, 石塚史暁	20221012	会議	JICA本部(麹町)	東京	その他	
3	公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団	中山幹康, 坂本晶子	20230113	会議	公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団	(オンライン)	その他	

# 原 裕太 助教

## HARA Yuta

防災実践推進部門 2030国際防災アジェンダ推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	金沢大学	地域創造学類	2014	3	京都大学	大学院地球環境学舎	2016	3	修士(地球環境学)	2016	3
2					京都大学	大学院地球環境学舎	2019	3	博士(地球環境学)	2019	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2018	4	2019	8	京都大学 大学院地球環境学舎 地域資源計画論分野	日本学術振興会特別研究員
2	2019	4	2020	3	龍谷大学 社会学部	非常勤講師
3	2019	9	2022	3	東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 附属教養教育高度化機構	特任助教
4	2021	4	2022	3	東京電機大学 工学部	非常勤講師
5	2021	6	現在		特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク	理事
6	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 防災実践推進部門	助教

#### 学会活動

##### 所属学会

学会名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日本地理学会		人文地理学会	農村計画学会	日本地球惑星科学連合	地理情報システム学会	日本沙漠学会	日本景観生態学会	International Consortium of Landscape and Ecological Engineering	環境情報科学センター

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	Journal of Disaster Research Vol.19 (3)	Special Issue on World BOSAI Forum 2023/IDRC 2023	Guest Editor	20230310

##### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4	専門分野 5
地理学	土地利用	地域計画	自然共生システム	乾燥地科学

##### 委員会・ワーキンググループ

##### 全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	附置研究所所長会議	附置研究所若手アンサンブルプロジェクト	ワーキンググループ委員	20220401

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

自然環境と共生したレジリエンスの高い文化景観や土地利用に関心をもって研究を行っている。なかでも中国北方の乾燥地域を対象に、持続可能な農業活動や、自然環境の保全・持続的利用と生活質の向上が両立する社会のあり方などの研究課題について、フィールドワーク、土地利用調査、衛星画像や空中写真の解析、地理情報システム(GIS)を用いた空間分析等を駆使して取り組む。以上は、洪水、土砂災害、砂塵嵐、旱魃、これらの災害に対処するためのNbS(自然を基盤とした社会課題の解決策)やEco-DRR(生態系を活用した防災・減災)、さらには東アジア近現代史の評価とも強く関連している。国内では五島列島や石川県等で空間立地に関する共同研究を行う。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2014	4	現在		乾燥地中国の農村における社会・環境変化と、土地利用および食料・農業生産-消費の持続可能性に関する研究	両方
2	2019	4	現在		米軍偵察衛星(CORONA)画像、ソ連軍参謀本部作成軍用地形図を用いた北東アジアの都市・農村景観と森林分布の復元、環境変化の分析	両方
3	2019	9	現在		米国立公文書館が所蔵する、第二次世界大戦期～冷戦期に世界中で撮影された未アーカイブ偵察空中写真フィルムの発掘・整理・分析	両方
4	2019	9	現在		旧共産圏等に対する米国高高度偵察機U-2撮影ミッションに係る米国中央情報局(CIA)機密解除文書の収集・解析	両方
5	2022	4	現在		インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に関する研究	両方
6	2022	4	現在		仙台市片平地区を対象とした、都市域の地域コミュニティにおける平時および災害避難時におけるインクルージョンの構築、課題解明	国内
7	2022	6	現在		仙台市と協働した地方自治体レベルの「仙台防災枠組」グローバル目標進捗レビューの先駆的取り組み	国内
8	2022	6	現在		長崎県五島列島を対象とした、地域防災の側面からみた離島地域の「地域脱炭素」推進事業の評価に関する研究	国内
9	2022	6	現在		長崎県五島列島における「隠れキリシタン」史の文脈をふまえた災害リスク、村落立地、耕作放棄地分布の関係性に関する研究	国内
10	2022	6	現在		石川県手取川流域を対象とした、低頻度大規模水害時の地域間・地域-企業間連携のあり方、地理空間の利用に関する研究	国内

論文

単著	4	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	4	うち	国際査読有	1	国際査読無	0	国内査読有	2	国内査読無	1
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中国水稻研究所データベースを用いた黄河上流灌漑域におけるイネ品種の開発傾向	原 裕太	環境情報科学	51	4	83	89	20221200
2	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	中国北京郊外・河北省蔚県におけるアワ生産の現状ー2019年夏季の調査よりー	原 裕太	雑穀研究	37		12	20	20221200
3	日本語	単著	なし	いいえ	学術雑誌	無	いいえ	(書評)日本景観生態学会編(2022)『景観生態学 Landscape Ecology』共立出版、272p.	原 裕太	地理学評論	95	6	370	371	20221100
4	英語	単著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Restoration of the distribution of pit-type yaodong dwellings in the 1970s using US military reconnaissance satellite images in Luoyang Basin, China	HARA Yuta	Journal of Arid Land Studies	32	S	253	257	20220700

学会発表

単名	0	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	1
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会議のテーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	2022年日本地理学会秋季学術大会		筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	香川大学	高松	日本	20220923	20220925	20220923	東アジア・中央アジアにおけるCIA運用U-2の偵察経路と頻度の推定: CIA機密解除文書を用いた試行	原裕太, 佐藤謙也	両方	

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	1件
----	----

	国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(内外兼人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
					開始年月	終了年月									
1	国際	シンポジウム	JST - RISTEX, SOLVE for SDGs Project, 2030 Global DRR Agenda Office, IRIDeS, Tohoku University, Platform for Promoting Education and Research in SDGs, the University of Tokyo	Inclusion x Disaster Risk Reduction: Toward a society in which all people can choose how they live	20230311	20230311	Main Hall, Sendai International Center	Sendai	Japan	207	人文社会系	Coordinator	IRIDeS共催	Platform for Promoting Education and Research in SDGs, Komaba Organization for Educational Excellence, The University of Tokyo	両方

C. 教育活動

教育活動の概要

変動地球共生学卓越大学院プログラムの教育に関わり、国連防災機関が主催するインドネシアでの国際会議(5月)、米国国連本部や世界銀行等への訪問(8~9月)という2つの海外研修を担当した(分担)。学外では、東京大学教養学部や立教大学等と連携して、ESD(持続可能な開発に関する教育)の開発・実践にも取り組んだ。

担当授業科目(他大学を含む)

	科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数(90分/コマ)
1	海外研修(バリ国際会議)	東北大学	変動地球共生学卓越大学院			前期	
2	海外研修(米国国連本部、世界銀行訪問)	東北大学	変動地球共生学卓越大学院			前期	

D. 社会活動

社会活動の概要

認定特定非営利活動法人・緑の地球ネットワークの運営に携わり、第28回総会では記念講演を行った。また、石川県金沢市に拠点を置き、UNESCOエコパークやジオパーク、FAOのGIAHSプログラム等に関する研究・教育活動を行う国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニットに招待され、同機関が主催する市民向け講座IMAGINE KANAZAWA 2030 SDGs Café #20『インクルーシブ防災』誰も取り残さない防災について考えよう』で講演した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	3件
----	----

	国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	仙台市防災環境都市推進室・東北大学災害科学国際研究所	仙台防災枠組講座 特別編	20221126	20221126	TKPガーデンシティ仙台	仙台市	日本	運営	30	IRIDeS共催	ワークショップ	
2	国内	(株)富士通総研・東北大学災害科学国際研究所・片平地区まちづくり会	デジタル防災ワークショップ	20230223	20230223	東北大学片平キャンパス 北門会館エスバス	仙台市	日本	開会挨拶、運営	50	IRIDeS共催	ワークショップ	
3	国際	科学技術振興機構 SOLVE for SDGsプロジェクト・東北大学災害科学国際研究所 2030国際防災アジェンダ推進オフィス、東京大学SDGs教育推進プラットフォーム	World BOSAI Forum 2023, S-15 セッション「インクルージョン×防災: 全ての人々が自分らしく生きられる世界の実現を目指して」	20230311	20230311	仙台国際センター・オンライン	仙台市	日本	コーディネータ	207	IRIDeS共催	シンポジウム	

講演・講義等(研究活動以外)

合計 2 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	講演会	認定特定非営利活動法人・緑の地球ネットワーク第28回総会記念講演	招待講演	20220715	20220715	地域の多様性から考えるSDGs・ポストSDGs時代の環境共生	なし	認定特定非営利活動法人・緑の地球ネットワーク	大阪産業創造館	大阪市	日本	50
2	公開講座	IMAGINE KANAZAWA 2030 SDGs Café #20「インクルーシブ防災」誰も取り残さない防災について考えよう	招待講演	20220916	20220916	インクルーシブ防災ってなんだろう？	なし	国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット	オンライン	オンライン	オンライン	50

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計 30 件

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催都市名	主な担当内容	参加人数
1	東京大学	永田淳嗣	20220512	会議	オンライン・東京大学駒場キャンパス	東京	その他	5
2	東京大学	永田淳嗣	20220518	会議	オンライン・東京大学駒場キャンパス	東京	その他	5
3	金沢大学・筑波大学	青木賢人・林紀代美・小倉拓郎	20220613	共同研究	手取川	白山市	その他	5
4	仙台市まちづくり政策局	高橋みちる・佐藤陽介・藤島寛	20220629	共同研究	仙台市役所	仙台市	その他	7
5	立教大学・東京大学	上田 信・長坂健司	20220805	共同研究	立教大学池袋キャンパス	東京	その他	5
6	仙台市片平地区まちづくり会・(株)富士通総研	今野 均・柳谷理紗・橋本尚志・松藤慶之	20220823	共同研究	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	その他	10
7	仙台市まちづくり政策局	高橋みちる・佐藤陽介・藤島寛	20220908	共同研究	仙台市役所	仙台市	その他	7
8	国連大学サステイナビリティ高等研究所・金沢大学	富田揚子・青木賢人	20220916	講演	オンライン	金沢市	講演・発表	50
9	大阪大学	佐藤廉也	20220923	共同研究	香川大学幸町キャンパス	高松市	講演・発表	50
10	京都大学・横浜市立大学	小島泰雄・小野寺淳	20220924	共同研究	香川大学幸町キャンパス	高松市	その他	4
11	岐阜大学・五島市未来創造課・五島列島ジオパーク推進協議会	甲斐智大・築脇太地・高場智博	20220926	共同研究	五島市役所	五島市	その他	4
12	岐阜大学・五島列島ジオパーク推進協議会	甲斐智大・高場智博	20220927	共同研究	福江島	五島市	その他	3
13	岐阜大学・福江商工会議所	甲斐智大・清瀧誠司	20220928	共同研究	福江商工会議所	五島市	その他	5
14	岐阜大学・五島水産(株)	甲斐智大・山下道子	20220928	共同研究	五島水産(株)	五島市	その他	4
15	東京大学	瀬川浩司・井筒節・岡田晃枝	20221004	会議	オンライン	東京	その他	4
16	白山市・白山市番匠町町内会・金沢大学	山田憲昭・徳井孝一・青木賢人	20221006	共同研究	白山市番匠町	白山市	その他	50
17	東京大学	永田淳嗣	20221019	会議	オンライン・東京大学駒場キャンパス	東京	その他	5
18	東京大学	瀬川浩司・井筒節・岡田晃枝	20221025	会議	オンライン	東京	その他	4
19	仙台市まちづくり政策局	高橋みちる・佐藤陽介・藤島寛	20221126	その他	TKPガーデンシティ仙台	仙台市	運営	30
20	仙台市まちづくり政策局	高橋みちる・佐藤陽介・藤島寛	20221223	共同研究	仙台市役所	仙台市	その他	7
21	笹川平和財団	前川美湖	20230113	会議	オンライン	仙台市	その他	3

22	国土交通省国土交通政策研究所	酒井聡佑	20230116	会議	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	その他	6
23	仙台市まちづくり政策局	高橋みちる・佐藤陽介・藤島寛	20230118	共同研究	オンライン	仙台市	その他	7
24	コストコ野々市倉庫店・金沢大学	平田大介・青木賢人	20230125	共同研究	コストコ野々市倉庫店	野々市市	その他	4
25	岐阜大学	甲斐智大	20230206	共同研究	長崎県立図書館郷土資料センター、長崎大学附属図書館	長崎市	その他	2
26	岐阜大学	甲斐智大	20230222	共同研究	東北大学災害科学国際研究所	仙台市	その他	2
27	仙台市片平地区まちづくり会・宮城県工業高等学校・(株)富士通総研	今野 均・柳谷理紗・加藤健一・瀬戸秀一・橋本尚志・松藤慶之	20230223	共同研究	東北大学片平キャンパス 北門会館エスパス	仙台市	運営	50
28	東京大学・国連人口基金 (UNFPA) 駐日事務所・劇団四季・自立支援センター STEPえどがわ・DPI日本会議	井筒 節・成田詠子・田中浩一・曾田夏記・菅田利佳	20230311	講演	仙台国際センター	仙台市	企画	207
29	科学技術振興機構・同志社大学・大阪公立大学・中央大学・別府市防災局・兵庫県社会福祉士会	荒川敦史・太田美晴・大河内俊介・岡村昌紀・寺田由香利・川北秀人・立木茂雄・辻岡綾・生田英輔・増田裕子・河本ゆう子・手計太一・村野淳子・西野佳名子	20230311	会議	仙台国際センター	仙台市	運営	20
30	京都大学・横浜市立大学・駒澤大学・愛媛大学・九州大学・梅光学院大学・立命館大学	小島泰雄・小野寺淳・高橋健太郎・張貴民・阿部康久・宋弘揚・夏目宗幸	20230326	共同研究	オンライン・東京都立大学	東京	その他	8

# 岩月 勝美 特任教授

## IWATSUKI Katsumi

防災実践推進部門 レジリエントEICT研究推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	名古屋工業大学	工学部	1981	3	東京大学大学院	工学系研究科 電子工学専攻	1983	3	修士	1983	3
2					東京大学大学院	工学系研究科 電子工学専攻	1986	3	博士	1986	3

### 職歴

	期間			勤務先	職名	
	開始年	月	終了年			月
1	1986	4	2012	3	NTT 研究所	主幹研究員
2	2012	4	2022	3	東北大学 電気通信研究所	特任教授
3	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	特任教授

### 学会活動

所属学会

学会名 1
電子情報通信学会

### 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
情報通信ネットワーク	レジリエントICT	エネルギーネットワーク

### B. 研究活動

研究活動の概要

REICTオフィスの研究戦略企画室長として、OPERA支援室と連携し、その運営や新規プロジェクトの企画立案に従事し、グリーンでレジリエントなネットワーク基盤とサイバーフィジカルシステムの研究開発プロジェクトである総務省「第5世代移動通信システムの更なる高度化に向けた研究開発」、JST OPERA「自律分散協調型直流マイクログリッドの全体最適化を実現する電力・通信融合ネットワーク基盤技術の創出」及び、NICT「Beyond 5Gのレジリエンスを実現するネットワーク制御技術の研究開発」の委託研究の研究分担者として研究開発を推進するとともに、レジリエントEICT工学の創出にも取り組む。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1986	4	2012	3	光通信ネットワークシステム	
2	2012	4	2022	3	耐災害ICT	
3	2012	4	現在		レジリエントEICT	

### 学会発表

単名	0	筆頭連名	0	その他の連名	9	合計	9
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	2022 International Workshop on Emerging ICT	Yongwan Park, (Yeungnam University, KOREA)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	Korea	20221027	20221028	20221028	Effects of power sharing between microgrids on renewable energy utilization and grid stability	<u>K. Liu</u> , H. Yamada, K. Iwatsuki and T. Otsuji	なし	不明
2	国際	2022 International Workshop on Emerging ICT	Yongwan Park, (Yeungnam University, KOREA)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	Korea	20221027	20221028	20221028	Constructing micro data center for outdoor use	<u>J. Wang</u> , H. Yamada, K. Iwatsuki and T. Otsuji	なし	不明
3	国際	2022 IEEE International Power and Renewable Energy Conference (IPRECON)	Cliffin Cletus (College of Engineering Karunagappally)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Karunagappally	Kerala	India	20221216	20221218	20221216	Study on optimum configuration of off-grid systems from the viewpoint of renewable energy ratio and investment cost	<u>K. Liu</u> , H. Yamada, K. Iwatsuki and T. Otsuji	なし	不明
4	国際	IEEE Conference on Power Electronics and Renewable Energy (CPERE)	Mohamed Orabi (Aswan University, Egypt)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Luxor	Luxor	Egypt	20230219	20230221	20230219	Design and optimization of DC-grids power exchange	<u>K. Liu</u> , H. Yamada, K. Iwatsuki and T. Otsuji	なし	不明
5	国内	電子情報通信学会ソサイエティ大会	岩佐 聡 (JAXA)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220906	20220909	20220908	オン・オフグリッド間での電力融通に及ぼす送電電圧の影響	<u>劉 可</u> , 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一	なし	不明
6	国内	電子情報通信学会ソサイエティ大会	岩佐 聡 (JAXA)	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	オンライン	オンライン	日本	20220906	20220909	20220908	屋外設置用マイクロデータセンター構築に関する研究	<u>王静述</u> , 山田博仁, 岩月勝美, 尾辻泰一	なし	不明

7	国内	電子情報通信学会総合大会	星 伸一 (東京理科大)	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	芝浦工業 大学	大宮	日本	20230307	20230310	20230310	直流マイクログリッドの構築とシミュレー タによるその挙動解析	劉 可、山田博仁、岩 月勝美、尾辻泰一	なし	不明
8	国内	電子情報通信学会総合大会	星 伸一 (東京理科大)	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	芝浦工業 大学	大宮	日本	20230307	20230310	20230310	グリッド間電力交換機の動作検証	唐 琮龍、劉可、山田 博仁、岩月勝美、尾 辻泰一	なし	不明
9	国内	電子情報通信学会総合大会	星 伸一 (東京理科大)	その他の 連名	いいえ	口頭 (一般)	芝浦工業 大学	大宮	日本	20230307	20230310	20230310	再エネ電源状況に応じたマイクロデータセ ンターの運転	王静池、劉可、山田 博仁、香西科樹、南 裕也、田中盛、岩月 勝美、尾辻 泰一	国内	不明

## 中沢 正隆 特任教授

### NAKAZAWA Masataka

防災実践推進部門 レジリエントEICT研究推進オフィス

#### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	金沢大学	工学部	1975	3	東京工業大学	総合理工学研究科 修士・博士	1980	3	工学博士	1980	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1980	4	2001	3	日本電信電話公社およびNTT研究所	研究員、GL、特別研究員、フェロー
2	2001	4	2018	3	東北大学 電気通信研究所	教授、卓越教授、所長
3	2018	4	2022	3	東北大学 電気通信研究機構	特任教授、卓越教授
4	2022	3	2023	3	東北大学 災害科学国際研究所	特任教授、卓越教授

#### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7
	電子情報通信学会	応用物理学会	IEEE	OPTICA (Formerly OSA)	レーザー学会	EXAT 研究会	OITDA

#### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	電子情報通信学会		会長	2019
2	IEEE Photonics Society		Board of Governors	
3	OSA		Director at Large	

#### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	光通信工学	レーザー	光計測	フォトニクス

#### B. 研究活動

研究活動の概要

総務省国家プロジェクト「5G高度化に関する研究開発」において、新しい光モバイルフロントホールの方式を提案し、その実験に成功した。この方式はフルコヒーレント方式と名付けられ、無線信号と光信号をキャリア周波数が違うだけの同一信号として取り扱うことにより、低遅延・低消費電力・安価な通信方式である。また、モード同期レーザーから任意の光パルスを発生できる技術の理論と実験に取り組み、論文発表を行った。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	4	現在		第5世代移動通信システムの更なる高度化に向けた研究開発	国内
2	2021	4	現在		Beyond 5G のレジリエンスを実現するネットワーク制御技術の研究開発	国内

#### 論文

単著	0	筆頭共著	5	その他の共著	4	合計	9	うち	国際査読有	9	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	はい	Precise Measurements and their Analysis of GAWBS-Induced Depolarization Noise in Multi-Core Fiber for Digital Coherent Transmission	M. Yoshida, K. Sato, T. Hirooka, K. Kasai, and M. Nakazawa	IEICE Trans. Comm	E105-B	2	151	158	202202
2	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Theory of FM Mode-Locking of a Laser as an Arbitrary Optical Function Generator	M. Nakazawa and T. Hirooka	IEEE J. Quantum Electron	58	2		1300125	202204
3	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Broadband injection-locked homodyne receiver for digital coherent transmission using a low Q Fabry-Perot LD	K. Kasai, T. Kan, M. Yoshida, T. Hirooka, and M. Nakazawa	OPTICA, Opt. Express	30	8	13345	13355	202204
4	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiments on an AM Mode-Locked Laser as an Arbitrary Optical Function Generator	M. Nakazawa, M. Yoshida, and T. Hirooka	IEEE J. Quantum Electron	58	3		1300218	202206
5	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiments on an FM Mode-Locked Laser as an Arbitrary Optical Function Generator	M. Nakazawa, M. Yoshida, and T. Hirooka	IEEE J. Quantum Electron	58	3		1300316	202206
6	英語	共著	国外	はい	学術雑誌	有	いいえ	Software-Defined Fiber Optic Communications for Ultrahigh-Speed Optical Pulse Transmission Systems	M. Naghshvarianjahromi, S. Kumar, M. J. Deen, T. Iwaya, K. Kimura, M. Yoshida, T. Hirooka, and M. Nakazawa	IEEE J. Sel. Topics Quantum Electron	28	4		7500210	202207



7	英語	共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experimental and Numerical Analysis of Ultrahigh-Speed Coherent Nyquist Pulse Transmission with Low-Nonlinearity Dispersion Compensator	K. Kimura, M. Yoshida, K. Kasai, T. Hirooka, and M. Nakazawa	IEICE Trans. Comm.	E105-B	9	1014	1022	202209
8	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Theory of Generation of Various Dark and Negative Pulses From an FM Mode-Locked Laser	M. Nakazawa and T. Hirooka	IEEE J. Quantum Electron	58	5		1300524	202210
9	英語	筆頭共著	なし	はい	学術雑誌	有	いいえ	Experiments on Generation of Various Dark and Bright Pulses From an FM Mode-Locked Laser	M. Nakazawa, M. Yoshida, and T. Hirooka	IEEE J. Quantum Electron	58	6		1600523	202212

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	0	監修編集	1	合計	1	うち	国際	1	国内	0
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 英語	Space-Division Multiplexing in Optical Communication Systems	単行本	202204	Masataka Nakazawa, Masatoshi Suzuki, Yoshinari Awaji, and Toshio Morioka	監修・編集	Springer	国外	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	0	筆頭共著	1	その他の共著	0	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1 日本語	次世代RANの実現に向けたフルコヒーレントアクセスシステム	学術雑誌	有	はい	電子情報通信学会	J105-C	11	315	328	202211	中沢正隆、葛西恵介、吉田真人、廣岡俊彦	筆頭共著	なし

学会発表

単名	1	筆頭連名	0	その他の連名	6	合計	7
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内国際	会議名称	会場のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	27th OptoElectric Communication Conference OECC 2022	Yutaka Miyamoto, Hiroshi Aruga	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Toyama International Conference Center	Toyama	Japan	20220703	20220706	2022	10.2 Tbit/s (1.28 Tbit/s/ch x 8 ch) WDM Nyquist Pulse Transmission over 2100 km	A. Watanabe, A. Ishikawa, M. Yoshida, T. Hirooka, M. Nakazawa	なし	500
2	国際	27th OptoElectric Communication Conference OECC 2022	Yutaka Miyamoto, Hiroshi Aruga	その他の連名	いいえ	口頭(招待)	Toyama International Conference Center	Toyama	Japan	20220703	20220706	2022	GAWBS Noise in Multicore Fibers	M. Yoshida and M. Nakazawa	なし	500
3	国際	27th OptoElectric Communication Conference OECC 2022	Yutaka Miyamoto, Hiroshi Aruga	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Toyama International Conference Center	Toyama	Japan	20220703	20220706	2022	Characterization of Inter-core Crosstalk of Multi-core Fiber as a Function of Bending Radius with Multi-channel OTDR (Tu2C-2)	Y. Kobayashi, T. Suganuma, T. Hayashi, T. Hasegawa, M. Yoshida, and M. Nakazawa	国内	500
4	国際	27th OptoElectric Communication Conference OECC 2022	Yutaka Miyamoto, Hiroshi Aruga	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Toyama International Conference Center	Toyama	Japan	20220703	20220706	2022	Demodulation Performance Comparison of 160 Gbaud Coherent Nyquist Pulse Signal with Analog and Digital DEMUX Schemes (TuP-B-6)	M. Yoshida, K. Kimura, K. Kasai, T. Hirooka, and M. Nakazawa	なし	500
5	国際	48th European Conference on Optical Communication ECOC 2022	Juerg Leuthold, Christoph Harder	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Congress Center Basel	Basel	Switzerland	20220918	20220922	2022	Distributed Measurement of Rayleigh Backscattered Crosstalk for Bidirectional Multicore Fiber Transmissions Using Multi-Channel Optical Time Domain Reflectometer (Tu4A.3)	Y. Kobayashi, T. Hayashi, T. Hasegawa, T. Suganuma, A. Inoue, T. Nagashima, H. Sakuma, T. Kikuchi, O. Shimakawa, H. Tazawa, M. Yoshida, and M. Nakazawa	国内	1,000
6	国際	48th European Conference on Optical Communication ECOC 2022	Juerg Leuthold, Christoph Harder	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	Congress Center Basel	Basel	Switzerland	20220918	20220922	2022	Measurement of Mode-Coupling Along a Multi-Core Submarine Fiber Cable With a Multi-Channel OTDR (Tu4A.5)	M. Yoshida, T. Hirooka, M. Nakazawa, T. Hayashi, T. Hasegawa, K. Nakamura, and T. Inoue	国内	1,000
7	国際	48th European Conference on Optical Communication ECOC 2022	Juerg Leuthold, Christoph Harder	単名	はい	口頭(招待)	Congress Center Basel	Basel	Switzerland	20220918	20220922	2022	GAWBS Noise in Digital Coherent Transmission (We1C.1)	M. Nakazawa	なし	1,000

特許・実用新案・その他の産業財産権(国内・海外)

合計	6 件
----	-----

	種別	国内国外	発明の名称	発明者(申請者)	出願番号(特願 or PCT)	出願日	公開番号	公開日	研究の成果	所外連携
1	特許	国内	ダークおよびブライトパルス光源	中沢正隆	特願2022-131510	20220713				国内
2	特許	国内	光中継方式	中沢正隆	特願2023-026558	20221214				国内
3	特許	国内	光注入同期方式	中沢正隆	特願2023-026559	20221214				国内
4	特許	国内	光注入同期方式	中沢正隆	特願2023-026623	20221214				国内
5	特許	国内	光伝送方法および光伝送装置	中沢正隆	特願2023-026561	20230116				国内
6	特許	国内	エルミートガウスパルス光源	中沢正隆	特願2023-037273	20230221				国内

# 鳥光 慶一 特任教授

## TORIMITSU Keiichi

防災実践推進部門 レジリエントEICT研究推進オフィス

### A. 基本情報・略歴

#### 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	慶應義塾大学	工学部	1980	3	慶應義塾大学大学院	工学研究科	1986	3	工学博士	1986	3

#### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1986	4	1986	9	日本電信電話株式会社 基礎研究所 材料物性基礎研究部	研究員
2	1986	7	1987	6	東京大学 医学部 第一生理学教室	客員研究員
3	1986	10	1997	3	日本電信電話株式会社 基礎研究所 物質科学研究部	研究主任/主任研究員
4	1990	2	1991	2	米国国立衛生研究所(NIH) 神経障害研究所(NINDS) 神経生理学(Lab. Neurophysiol.)	客員研究員
5	1997	4	2004	3	日本電信電話株式会社 物性科学基礎研究所 物質科学研究部	主幹研究員
6	1999	4	2000	3	国立水俣病総合研究センター	客員研究員
7	2004	4	2005	9	日本電信電話株式会社 物性科学基礎研究所 物質科学研究部	部長・GL兼務
8	2005	4	2017	12	オックスフォード大学物理学科	客員教授
9	2005	4	2006	3	京都府立医科大学	客員講師
10	2005	10	2009	9	日本電信電話株式会社 物性科学基礎研究所 物質科学研究部	理事/部長
11	2006	11	2009	10	中国科学院 化学研究所	客員教授
12	2006	11	2009	11	中国科学院 自然科学研究所	客員教授
13	2009	4	2011	3	京都大学 再生医科学研究所	客員教授
14	2009	10	2012	10	日本電信電話株式会社 物性科学基礎研究所	理事/主席研究員
15	2011	4	2012	3	京都大学 再生医科学研究所	客員講師
16	2012	11	2016	3	東北大学工学研究科 バイオロボティクス専攻	教授
17	2016	4	2017	3	東北大学工学研究科 ファインメカニクス専攻	教授
18	2017	4	2022	3	東北大学工学研究科 ファインメカニクス専攻	特任教授
19	2022	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	特任教授

#### 学会活動

##### 所属学会

	学会名 1	2	3	4	5
	日本神経科学会	日本マグネシウム学会	応用物理学会	Society for Neuroscience	Institution of Engineering and Technology

##### 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本マグネシウム学会	編集委員会	委員長	20101100
2	日本マグネシウム学会	理事会	理事	20081100
3	IET Nanobiotechnolog(終了)	Editorial board	member	20070900

##### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	脳神経生理	医用工学	ナノバイオ	計測工学

### B. 研究活動

#### 研究活動の概要

これまで繊維に導電性高分子を重合することにより金属を使用しない導電性の繊維を作製するとともに、センシングに活用することで、災害時における避難所等の緊急避難先や、入院などの非日常空間に置かれた状態における健康状態を把握、あるいは動機を見える化するシステムの構築を目指して研究を進めてきた。就寝時における心拍・呼吸の計測はその一つであり、導電性繊維を用いることで特に複雑な装置を設置することを要せず、「さりげなく」データ取得することで、ローカルまたはサーバ解析により健康状態の把握管理を進めている。

#### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	12	現在		導電性繊維の作製とセンシング活用	国内
2	2016	4	現在		繊維構造の変化とバイタル検出	国内
3	2020	4	現在		導電性繊維による「さりげなく」計測システムの開発	国内

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	0	合計	2
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	応用物理学会	平本 俊郎	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	上智大学 ハイブリッド開催	東京	日本	20220315	20220318	20220318	導電性繊維電極を用いた骨盤状態の評価	鳥光慶一、三浦健	なし	7,000
2	国内	第13回化学系サマースクール Summer school 2022	理学研究科	単名	はい	口頭(Keynote)	オンライン	仙台	日本	20220818	20220819	20220818	Conductive natural fibers for bioactivity measurements	鳥光慶一	国外	100-150

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	3 件
----	-----

	国内 国際	種別	主催団体名・運営 団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催 都市名	開催 国名	参加人数 (%が外国人)	分野	担当	IRIDeSの 関与	共催機関名	所外 連携
					開始年月	終了年月									
1	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所、鳥光 研究室	第16回フレキシブルシルク電極研 究会	20220729	20220729	オンライン	仙台	日本	15 (0)	工学	主催	なし		
2	国内	講演会	日本マグネシウム 学会	第10回日本マグネシウム学会	20221203	20221203	オンライン	京都	日本	50 (0)	基礎生 命科学	運営	なし		
3	国内	研究会	東北大学災害科学 国際研究所、鳥光 研究室	第17回フレキシブルシルク電極研 究会	20221216	20221216	オンライン	仙台	日本	15 (0)	工学	主催	なし		

D. 社会活動

講演・講義等(研究活動以外)

合計	3 件
----	-----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	展示・講演会	MODE Robot & Sensor DX/IoT Showcase	講演及び展示	20221110	20221110	導電性繊維を用いたさりげない計測への 取り組み	企業	MODE, Inc	東京ミッドタウ ン日比谷	東京	日本	250
2	展示会	OPEN 異能vation 2023	展示	20230125	20230125	導電性繊維のIoTセンシング&フェムテック 活用		総務省 (角川アス キー)	東京ミッドタウ ン日比谷	東京	日本	400
3	展示会	Japan Innovation Day 2023	展示	20230303	20230303	繊維電極による「さりげない」生体計測	企業	ASCII	赤坂インター シティ	東京	日本	300

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	民間・NPO	更木活性化協議会		更木活性化協議会アドバイザー	20220701

その他、他機関等との交流実績(国内に限る)

合計	1 件
----	-----

	交流機関名称	交流者	交流年月日	交流目的	会場名	開催 都市名	主な担当 内容	参加 人数
1	更木活性化協議会	福盛田洋幸	20220713	その他	株式会社更木ふるさと興社他	北上	その他	5

# 西依 英俊 特任教授

## NISHIYORI Hidetoshi

寄附研究部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	一橋大学	社会学部	1995	3					学士	1995	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	2010	6	東京海上日動火災保険株式会社	課長代理
2	2010	7	2013	6	Alinma Tokiomarine Co. Ltd.	General Manager
3	2013	7	2017	3	東京海上日動火災保険株式会社	担当課長
4	2017	4	2021	3	株式会社東京海上日動パートナーズ中国四国	支店長
5	2021	4	2023	3	国立大学法人東北大学 災害科学国際研究所兼共創戦略センター	特任教授

## 内田 典子 助教

## UCHIDA Noriko

寄附研究部門 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

## 出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	工学部	2015	3	東北大学	工学研究科	2017	3	MSc	2017	3
2					東北大学	工学研究科	2020	3	Ph.D	2020	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	助教
2	2022	8	2023	3	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 環境システム科学分野	客員教授

## 学会活動

## 所属学会

	学会名 1	2	3	4
	土木学会	応用生態工学会	日本生態学会	環境DNA学会

## 学会・委員会等での役職

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	環境DNA学会	広報委員会	委員	20230105

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	環境DNA	流域保全管理	河川生態学	Eco-DRR

## B. 研究活動

## 研究活動の概要

個人の研究活動として、2022年4月から7月に「河川水生昆虫の高信頼性DNAリファレンス整備による環境DNAを用いた金属影響評価」および仙台海岸におけるエコトーンを対象として環境サンプルおよび昆虫標本を収集した。また、2022年8月から2023年3月までの約8ヶ月間、学内公募型の助成金「若手リーダー研究者海外派遣プログラム」を活用し、スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETHZ)に滞在した。受け入れ教授のKristy Deiner教授および環境DNA研究チーム、またETHZ付属の実験施設GDCの技術者らと議論し、河川に関する3つのプロジェクトおよび寄附研究部門にて実施している沿岸域のプロジェクトに関する全てのサンプルの分析を完了し、合計約24Gb分のデータを取得した。また、工学部4年生の卒業論文指導にあたり、東日本大震災を対象とした津波外力の計算値と沿岸域の植生被害・回復の関係性解明をテーマとした研究を開始した。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2020	10	2021	9	環境DNAを用いた陸・水域の無脊椎動物の多様性および陸域—水域間相互利用度の評価	国内
2	2020	9	現在		出水時の環境DNA動態に着目した河川水域と河畔域の生物相モニタリング手法の開発	国内
3	2021	4	現在		自伐型林業・木質バイオマス利用を基軸としたエコタウン形成のための超学際実践研究	国内
4	2021	4	現在		河川水生昆虫の高信頼性DNAリファレンス整備による環境DNAを用いた金属影響評価	国内
5	2022	4	現在		東日本大震災の津波外力と沿岸植生回復傾向の分析	国内

## 論文

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

	記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日
1	日本語	単著	国内	いいえ	大学紀要	無	はい	水生昆虫環境DNAによる水質評価手法の検討	内田典子	一般財団法人建設工学研究振興会年報	57		15	16	202204
2	日本語	単著	国内	いいえ	学術雑誌	無	はい	水生昆虫を対象とした環境DNAメタバーコーディング	内田典子	昆虫と自然	57	11	15	19	202210

学会発表

単名	1	筆頭連名	1	その他の連名	6	合計	8
----	---	------	---	--------	---	----	---

	国内 国際	会議名称	会議の チエア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原題)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国際	ISE2022	Sakiko Yaegashi	筆頭 連名	いいえ	口頭 (一般)	オンラ イン	南京	中国	20221010	20221013	20221012	A proposal for a method for evaluating the ecological benefits of green infrastructure as Eco-DRR using environmental DNA	<u>Noriko Uchida</u> , Fumihiko Imamura	なし	300
2	国内	2022年度日本造園学会 全国大会	小野 良平	その他 の連名	いいえ	ポスター (一般)	北海道 大学	札幌	日本	20220617	20220619	20220619	仙台海岸における防潮堤建設による無脊椎動物の分布への影響	大越陽, 松島肇, 根岸淳二郎, 大原昌宏, 内田典子, 平吹喜彦, 植野晴子	国内	100
3	国内	ELR2022 (日本緑化工学会, 日本景観生態学会, 応用生態工学学会合同大会)	清水義彦	その他 の連名	いいえ	ポスター (一般)	つくば 国際会議場	つくば	日本	20220920	20220923	20220922	仙台海岸における海藻資源の無脊椎動物利用と分解	根岸淳二郎, 大越陽, 内田典子, 大原昌宏, 松島肇	国内	100
4	国内	ELR2022 (日本緑化工学会, 日本景観生態学会, 応用生態工学学会合同大会)	清水義彦	その他 の連名	いいえ	ポスター (一般)	つくば 国際会議場	つくば	日本	20220920	20220923	20220922	海岸砂洲における徘徊節足動物群集に対する人工構造物の影響	大越陽, 松島肇, 根岸淳二郎, 大原昌宏, 内田典子, 平吹喜彦, 植野晴子	国内	100
5	国内	第69回海岸工学講演会	越村俊一	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	ハイブ リッド	横須賀	日本	20221108	20221111	20221109	静岡県浜松市における津波土砂移動の特徴および砂浜生態系への影響	渡邊遼生, Anawat Suppasri, 山下啓, 内田典子, 今村文彦	なし	220
6	国内	第12回巨大津波災害に関する合同研究集会	山本阿子	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	関西大 学	大阪市	日本	20221222	20221223	20221223	東日本大震災における仙台海岸の植生変化パターンと津波外力の関係	清水陽花, 内田典子, Anawat Suppasri, 菅原大助, 今村文彦	なし	100
7	国内	日本陸水学会・水生昆虫談話会共催公開シンポジウム	竹中將起	単名	はい	口頭 (招待)	信州大 学	松本	日本	20230121	20230122	230121	水生昆虫環境DNAの社会実装に向けた課題と展望	内田典子	なし	
8	国内	令和4年度土木学会東北支部技術発表会	三戸部佑太	その他 の連名	いいえ	口頭 (一般)	オンラ イン	オンラ イン	日本	20230304	20230304	20230304	東日本大震災における仙台海岸の植生変化パターンと津波外力の関係	清水陽花, 内田典子, Anawat Suppasri, 菅原大助, 今村文彦	なし	200

C. 教育活動

教育活動の概要

工学部4年生の卒業論文指導にあたった。内田のスイス渡航前7月中までに、研究の基礎となる論文の検索方法、読解、概要のまとめ方、データの保管方法、GISのインストールと使用手順の確認等を行なった。また、5月に仙台海岸にて行われた自然観察会へ共に参加し、研究対象となる海岸とその景観、植生のイメージを直接つけてもらった。内田渡航後は、約2週間に1回程度、Google MeetおよびGoogle Chatを用いて情報のやり取り、進捗報告、研究方針について議論を行なった。発表資料、各種学会要旨、卒論本文の執筆も完全オンラインで実施した。結果、2件の学会発表を行うことができ、今後学術誌への出版を目指す。

D. 社会活動

社会活動の概要

2023年3月に仙台市で開催された「World Bosai Forum」にて、寄附元である東京海上ホールディングスと連携したパネルディスカッションを企画した。当日はスイス長期滞在中であり、また会場の制限からリアルタイムで議論に参加することはできなかった一方で、生態系と防災に関する話題提供ビデオを作成し、議論の深まりに貢献した。また、2023年1月に打診を受け、福島県環境影響評価審査委員会の水生生物分野を担当することとなった。2023年3月に辞令が発され、今後委員会活動を行い、福島県の環境影響評価に貢献する。

講演・講義等(研究活動以外)

合計	1件
----	----

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	展示会	World Bosai Forum	パネルディスカッション	20230309	20230312	持続可能な防災・減災インフラって何だろう? -生態系を活用した防災・減災	企業	一般財団法人世界防災フォーラム	仙台国際センター	仙台市	日本	500

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	地方自治体	福島県	福島県環境影響評価審査委員会	委員	20230317

## 吉見 瑤子 助手

## YOSHIMI Yoko

寄附研究部門 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	九州大学	理学部	2013	3	京都大学	理学研究科	2015	3			

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2015	4	2019	10	応用地質株式会社 エネルギー事業部	主担
2	2019	11	現在		東北大学 災害科学国際研究所 都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門	助手

## 学会活動

所属学会

学会名 1	2
応用地質学会	日本活断層学会

## 研究分野・キーワード

専門分野 1	専門分野 2
活断層学	第四紀学

## B. 研究活動

研究活動の概要

都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門の助手として活動。2016年熊本地震の地震が引き起こす建物被害の要因について地表地震断層位置・形状や地質分布との関係性に焦点を当てGISを用いた解析を実施した。旧東海大南阿蘇キャンパス跡地に建設中の熊本県震災ミュージアム取付け道路工事に伴い、掘削された長大露頭の調査を行い、数回の地震性イベントの存在を確認した。この結果については速報を日本活断層学会2022年秋季学術大会で口頭発表を行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019年	4	現在		平成28年(2016年)熊本県地震における建物被害と要因の検討	国内
2	2021年	8	現在		長町利府線断層帯市街地部における構造検討	国内
3	2022年	8	現在		熊本県震災ミュージアム道路法面露頭の構造および地質調査	国内

## 学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
0	1	2	3

	国内国際	会議名称	会議のチャア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本活断層学会2022年秋季学術大会	堤 浩之	筆頭連名	いいえ	口頭(一般)	山口大学	山口	日本	20221126	20221128	20221126	熊本県震災ミュージアムアクセス道路法面で確認された断層露頭	吉見瑤子・遠田晋次・鳥井真之・川口允孝・高橋直也・石澤亮史・青塚稜平・市川八州夫・藤井正博・井田貴史・吉田拓海・櫻井麻衣人・原 勇貴・釘宮康郎・松山尚典・阿部恒平・照沢秀司・奥野 充	国内	80
2	国内	日本地震学会2022年度秋季大会	勝俣 啓	その他の連名	いいえ	ポスター(一般)	北海道立道民活動センター	札幌市	日本	20221024	20221026	20221025	内陸活断層による都市直下地震動予測の高度化 - 断層浅部の地質情報を考慮した断層モデルの検討	乗松君衣・吉見瑤子・高橋直也・中村朋輝・石澤亮史・岡田真介・鈴木晴彦・市川八州夫・松山尚典・遠田晋次	国内	80
3	国内	公益社団法人物理探査学会第146回(2022年度春季)学術講演会	山田 信之	その他の連名	いいえ	口頭(一般)	早稲田大学	東京	日本	20220607	20220609	20220609	長町一利府線断層帯における2次元微動アレイ探査	鈴木晴彦・高橋直也・吉見瑤子・中村朋輝・乗松君衣・松山尚典・遠田晋次	国内	80

乗松 君衣 助手

NORIMATSU Kimie

寄附研究部門 都市直下地震災害（応用地質） 寄附研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都文教大学	人間学部	2004	3	京都大学大学院	理学研究科	2012	3	修士（理学）	2008	3

職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	2019	10	応用地質株式会社 地震防災事業部	主担
2	2019	11	現在		東北大学災害科学国際研究所 都市直下地震災害（応用地質） 寄附研究部門	助手

学会活動

所属学会

	学会名 1
	日本地震学会

研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	地震学	地震工学	活断層

## B. 研究活動

研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2019	11	現在		内陸活断層近傍における強震動予測に関する研究	国内

学会発表

単名	筆頭連名	その他の連名	合計
0	1	0	1

	国内 国際	会議名称	会議の テーマ	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催 都市名	開催 国名	開催期間		発表 年月日	題目名(原語)	著者名 (発表者に下線)	所外 連携	参加 人数
										開始年月	終了年月					
1	国内	日本地震学会2022年度 秋季大会	勝俣 啓	筆頭 連名	いいえ	ポスター（一般）	北海道 立道民 活動セ ンター	札幌市	日本	20221024	20221026	20221025	内陸活断層による都市直下地震動予測の 高度化 一断層浅部の地質情報を考慮し た断層モデルの検討	<u>乗松君衣</u> , 吉見瑠 子, 高橋直也, 中 村朋暉, 石澤光 史, 岡田真介, 鈴 木晴彦, 市川八州 夫, 松山尚典, 遠 田晋次	国内	



## 定池 祐季 助教

SADAIKE Yuki

共同研究部門 イオン防災環境都市創生共同研究部門

## A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	北海道大学	文学部	2002	3	北海道大学大学院	文学研究科	2004	3	修士(文学)	2004	3
2					北海道大学大学院	文学研究科	2011	3	博士(文学)	2011	3

## 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2004	4	2005	3	旭川市役所 市民部 資産税課 家屋第1係	事務吏員
2	2006	9	2009	3	特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構 北海道支部	研究員
3	2007	4	2008	3	北海道大学大学院文学研究科	リサーチアシスタント
4	2010	4	2011	3	公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター	研究員
5	2011	4	2014	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	助教
6	2014	4	2015	3	北海道大学 大学院 理学研究院 附属地震火山研究観測センター	招へい教員
7	2014	4	2017	3	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター	特任助教
8	2015	4	2015	9	山形大学	非常勤講師
9	2015	4	2015	9	東京理科大学	非常勤講師
10	2015	10	2016	3	兵庫教育大学	非常勤講師
11	2016	10	2017	3	兵庫教育大学	非常勤講師
12	2017	4	現在		東北大学 災害科学国際研究所	助教
13	2017	4	2017	9	茨城大学	非常勤講師
14	2017	10	2018	1	兵庫教育大学	非常勤講師

## 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9
	日本社会学会	地域社会学会	日本災害復興学会	日本災害情報学会	日本自然災害学会	地域安全学会	日本安全教育学会	日本民具学会	日本建築学会

## 学会・委員会等での役割

	学会名	委員会名	役職名	役職開始年月日
1	日本災害復興学会	学術推進委員会	委員	20210300

## 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3
	災害社会学	地域社会学	防災教育

## B. 研究活動

研究活動の概要

継続的な研究テーマとして、①「被災地における復興と生活再建に関する研究」、②「地域社会に根ざした防災教育の実践研究」、③「災害情報の伝達と住民行動に関する研究」に取り組んでいるほか、④「縮小社会の災害復興過程におけるコミュニティ変容と災害文化の形成・継承に関する研究」では科研費(基盤C)初年度として、北海道奥尻島・北海道厚真町などでの継続的なフィールドワークを実施した。また、「さすけなぶる研究会」の一員として防災教育教材「さすけなぶる」のファシリテーター養成に参画した。2022年度は①②④に関わる内容で日本災害復興学会で発表を行ったほか、報告書の執筆などを行った。

## 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	2012	4	現在		被災地における復興と生活再建に関する研究	国内
2	2011	4	現在		地域社会に根ざした防災教育の実践研究	国内
3	2014	4	現在		災害情報の伝達と住民行動に関する研究	国内
4	2021	4	現在		縮小社会の災害復興過程におけるコミュニティ変容と災害文化の形成・継承に関する研究	国内

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	0	合計	1	うち	国際	0	国内	1
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1 日本語	地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	編集本(著者・Author)	20220930	安倍祥、他	共著	岩崎書店	国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	2	筆頭共著	0	その他の共著	0	合計	2	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	2
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携	
1 日本語	今、わたしたちができること～北海道胆振東部地震、厚真町の被災者支援から～	その他	無	いいえ	やさしいまち		251	2	3	20220901	定池祐季	単著	なし
2 日本語	第11章 災害	その他	無	いいえ	科学技術のリスクコミュニケーション～新たな課題と展開～科学技術に関する調査プロジェクト報告書			80	88	20230330	定池祐季	単著	なし

学会発表

単名	3	筆頭連名	0	その他の連名	0	合計	3
----	---	------	---	--------	---	----	---

国内国際	会議名称	会議のチェア	区分	招待	講演・発表の形態	会場名	開催都市名	開催国名	開催期間		発表年月日	題目名(原語)	著者名(発表者に下線)	所外連携	参加人数
									開始年月	終了年月					
1 国内	日本災害復興学会 2022年度京都大会		単名	いいえ	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	宇治	日本	20221001	20221002	20221001	それぞれの“あ”とき	定池祐季	なし	180
2 国内	日本災害復興学会 2022年度京都大会		単名	はい	公募/シンポジウム・ワークショップ・パネル	京都大学	宇治	日本	20221001	20221002	20221001	厚真町における被災者支援体制の移り変わり	定池祐季	なし	180
3 国内	日本災害復興学会 2022年度京都大会		単名	いいえ	口頭(一般)	京都大学	宇治	日本	20221001	20221002	20221001	被災前後の学校防災教育の変化～北海道厚真町を例に	定池祐季	なし	180

学術会議・シンポジウム等の主催・共催・運営等

合計	4 件
----	-----

国内国際	種別	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場	開催都市名	開催国名	参加人数(%) (%非個人)	分野	担当	IRIDeSの関与	共催機関名	所外連携
				開始年月	終了年月									
1 国内	その他	東北大学災害科学国際研究所	第78回金曜フォーラム 2021年度共同研究成果報告会	20220716	20220716	オンライン	仙台市	日本	100	工学	運営	IRIDeS主催・共同主催		国内
2 国内	シンポジウム	日本建築学会	平成30年北海道胆振東部地震から4年～それぞれの復興まちづくりをめぐるwebエクスカッション	20220908	20220908	オンライン	札幌市	日本	50	工学	企画・運営・ファシリテーター	なし		なし
3 国内	セミナー	東北大学災害科学国際研究所	第81回金曜フォーラム 次世代の災害科学を担う学生たち	20230217	20230217	オンライン	仙台市	日本	70	人文社会系	企画・発表	IRIDeS主催・共同主催		なし
4 国内	シンポジウム	東北大学災害科学国際研究所 イオン防災環境都市創生共同研究部門	イオン防災環境都市創生共同研究部門シンポジウム 2023「レジリエント・コミュニティの創生を目指して～イオン防災環境都市創生共同研究部門の活動～」	20230304	20230304	仙台国際センター・オンライン	仙台市	日本	60	人文社会系	企画・運営・司会	IRIDeS主催・共同主催		国内

C. 教育活動

教育活動の概要

2021年度に続いて、北海道大学が実施している大学院生を対象としたRJE3 programの中で災害に関する集中講義を担当した。また、後期に東北学院大学和泉キャンパスにて「環境の科学(災害の科学)」を担当した。

担当授業科目(他大学を含む)

科目名	学校名	学部/研究学科名	学科/専攻名	学年	セメスター・学期	コマ数 90分/コマ
1 Energy Security in Cold Climate Region	北海道大学	RJE3			前期	3
2 環境の科学	東北学院大学	全学		1	後期	15

D. 社会活動

社会活動の概要

2022年度は①防災教育の実践、②被災地支援、③研究成果発信・調査対象地への成果還元、④その他防災・減災社会実現に向けた活動を軸に、行事の企画運営、行政等の委員、各種研修などに携わった。①では、福島大学のプロジェクトに継続して参画しており、②については、北海道胆振東部地震の被災地厚真町にて支援活動を継続している。③については、セミナーやメディア対応で②に関する内容を中心に発信した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計 2 件

	国内 国際	主催団体名・ 運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催 都市名	開催 国名	担当	参加 人数	IRIDeSの 関与	講演会・セミナー等	備考
				開始年月日	終了年月日								
1	国内	宮城県、東北地方整備局、仙台管区気象台、東北大学災害科学国際研究所防災教育協働センター	令和4年度 宮城県市町村防災対応ワークショップ	20220628	20220628	災害科学国際研究所	仙台市	日本	企画・ファシリテーター	30	IRIDeS共催	ワークショップ	共催団体は東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター
2	国内	宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所防災教育協働センター	令和4年度「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」	20230125	20230125	岩沼市民会館	岩沼市	日本	企画・ファシリテーター	500	IRIDeS共催	シンポジウム	共催団体は東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター

講演・講義等(研究活動以外)

合計 11 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催 都市名	開催 国名	参加 人数
				開始年月日	終了年月日							
1	セミナー	オンライン版市町村職員防災連続講	講義	20220527	20220527	災害のフェーズと被災者支援	なし	一般財団法人消防防災科学センター	オンライン			100
2	セミナー	仙台市主催研修 主任職員研修	講義	20220708	20220708	保育現場における防災と子どもの支援	行政	仙台市社会福祉協議会	仙台市福祉プラザ	仙台市	日本	60
3	小中高との連携	厚真中学校防災授業	コメント	20220829	20220829		小中高	厚真町立厚真中学校	厚真中学校	厚真町	日本	30
4	小中高との連携	厚真小学校防災学習	講話	20220906	20220906		小中高	厚真町立上厚真小学校	上厚真小学校	厚真町	日本	100
5	セミナー	防災業務研修	講義	20221005	20221005	参加者の学びを深める 防災気象WSに向けての設計とファシリテーション	行政	仙台管区気象台	仙台管区気象台・オンライン	仙台市	日本	100
6	セミナー	シンポジウム『南海トラフ地震に際して必要な全国ネットワークを考える』	講演	20221012	20221012	ひとりひとりに寄り添った厚真町の住まい再建プロセス	なし	日本建築家協会(JIA)災害対策全国会議	オンライン			50
7	セミナー	上川管内町村議会議員研修会	講演	20221026	20221026	北海道の防災教育・被災者支援の充実に向けて	行政	上川町村議会議長会	旭川市公会堂	旭川市	日本	150
8	その他	災害支援感謝の集い	コーディネーター	20221112	20221112		なし	厚真町社会福祉協議会	厚真町総合福祉センター・オンライン	厚真町	日本	150
9	セミナー	西いふり防災担当職員研修	講演	20221117	20221117	津波災害の復興について	行政	室蘭市役所	生涯学習センターきらん	室蘭市	日本	30
10	小中高との連携	厚真中学校防災授業	コメント	20221124	20221124		小中高	厚真町立厚真中学校	厚真中学校	厚真町	日本	60
11	その他	堂島サロン	ゲスト	20221228	20221228		なし	サントリー文化財団	京都ホテルオークラ	京都市	日本	10

自治体・民間等での委員

	区分	組織・団体名	委員会名	委員・役職名	開始年月日
1	国・政府	北海道開発局	石狩川流域委員会	委員	20170500
2	地方自治体	徳島県	復興指針検討委員会	委員	20180900
3	地方自治体	厚真町		防災アドバイザー	20190400
4	国・政府	水産庁	水産政策審議会	委員	20190700
5	地方自治体	厚真町	まちづくり委員会	アドバイザー	20190800
6	地方自治体	厚真町	心のサポート・防災学習推進協議会	委員	20191100
7	地方自治体	札幌市	まちづくり戦略ビジョン審議会	委員	20210400
8	国・政府	国土交通省	国土審議会豪雪地帯対策分科会	特別委員	20211100

## 中鉢 奈津子 特任准教授

CHUBACHI Natsuko

広報室

### A. 基本情報・略歴

出身大学・大学院

	出身大学名	学部名	卒業		出身大学院名	研究科名等	修了		学位名称	取得年月	
			年	月			年	月		年	月
1	京都大学	文学部	1997	3	カナダ クイーンズ大学大学院	地理学研究科	2009	4	Ph.D.	2009	6

### 職歴

	期間				勤務先	職名
	開始年	月	終了年	月		
1	2001	8	2001	12	アリゾナ州立大学大学院 地理学部	非常勤講師
2	2004	6	2004	7	国際移住機関ジュネーブ本部 移住問題総合政策局	インターン
3	2005	2	2008	2	在ホノルル日本国総領事館 広報文化班	外務省専門調査員
4	2014	4	2020	5	東北大学 災害科学国際研究所 広報室 (広報担当)	特任助教
5	2020	6	現在		東北大学 災害科学国際研究所 広報室 (広報・URA担当)	特任准教授

### 学会活動

所属学会

	学会名 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人文地理学会	アメリカ地理学会								

### 研究分野・キーワード

	専門分野 1	専門分野 2	専門分野 3	専門分野 4
	災害科学コミュニケーション	学術メディア連携	文理連携・学際	人文地理学

### 委員会・ワーキンググループ

全学・他部局の委員会での委員

	部局名	委員会名	役職	開始年月日
1	全学	研究推進・支援機構研究設備マネジメント専門委員会	委員	20210401

### B. 研究活動

研究活動の概要

1. 「学際研究の推進および評価」に関し、(1)2021年度に所内で企画・実施した「研究論文に関するアンケート」結果等を分析し、RA協議会 第8回年次大会等で発表した(Dに詳細記載)。(2)スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会のモデレーター兼研究者として勉強会に参加した。2. 「災害科学コミュニケーション」に関し、(1)小学生およびその保護者に災害科学をわかりやすく伝える書籍『地球防災ラボ』の編集協力を行い、(2)一般市民が南海トラフ地震のリスクおよび臨時情報によりよく対応するための論文を執筆し、採択された。

### 研究課題

	期間				研究課題(内容)	所外連携
	開始年	月	終了年	月		
1	1995	4	1997	3	京都市における高齢者の外出行動	
2	1997	9	1999	10	日系カナダ人2世の高齢者介護に対する受け止め方:地理学的考察	
3	1999	8	2001	12	場所アイデンティティの社会的構築-アメリカ・アリゾナ州サンシティを事例に-	
4	2002	1	2009	4	カナダにおける日本からの女性移民のジェンダーおよびライフコースの構築	
5	2005	2	2008	2	ハワイ日系人移民資料の収集・整理・保存	
6	2005	2	2008	2	ハワイ日系人社会の特徴	
7	2014	4	現在		災害科学コミュニケーション	
8	2015	5	現在		学術メディア連携	
9	2020	4	現在		スペイン・インフルエンザおよびその他感染症文理連携研究、学際研究、総合知	

論文

単著	0	筆頭共著	0	その他の共著	1	合計	1	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	1	国内査読無	0
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	区分	所外連携	国際学術誌	種別	査読	招待論文	論文題目名(原語)	著者氏名(共著者含)	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	
1	日本語	共著	国内	いいえ	学術雑誌	有	いいえ	南海トラフ地震情報の報道における論点の抽出を目的としたワークショップの試みー「西半割れ」ケース	大谷竜, 入江さやか, 中鉢奈津子, 福島洋, 横田崇, 堀高峰, 橋本徹夫, 林能成, 隈本邦彦, 岩田孝仁, 谷原和憲, 兵藤守, 橋本学	日本地震工学会論文集	22	2	88	108	2022

著書(監修・編集・単著・共著)

単著	0	筆頭共著	0	共著	1	監修編集	1	合計	2	うち	国際	0	国内	2
----	---	------	---	----	---	------	---	----	---	----	----	---	----	---

記述言語	著書名および担当執筆題名	種別	発行年月日	著者・監修者氏名	区分	出版社名	所外連携	発行部数
1	日本語 地球防災ラボ 実験でしくみを知って、命を守る	単行本	20220930	東北大学災害科学国際研究所	監修・編集(編集協力)	岩崎書店	国内	
2	英語 51 Approaches to Disaster Science: Lessons from the Great East Japan Earthquake	編集本(著者・Author)	20221100	東北大学災害科学国際研究所	共著		国内	

総説・解説(大学紀要・学術雑誌・学会誌・商業雑誌など)

単著	1	筆頭共著	0	その他の共著	3	合計	4	うち	国際査読有	0	国際査読無	0	国内査読有	0	国内査読無	3
----	---	------	---	--------	---	----	---	----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

記述言語	題目名(原語)	種別	査読	招待論文	論文掲載誌名(原語)	巻	号	開始ページ	終了ページ	発行年月日	著者氏名(共著者含)	区分	所外連携
1	日本語 東北大学災害科学国際研究所ニュースレターIRDeS Newsletter 2022夏号 vol.1	その他	無	いいえ				1	5	202207	中鉢奈津子(編集、一部執筆)	共著	なし
2	日本語 10年のあゆみ	その他	無	いいえ				14	23	20221004	中鉢奈津子	単著	なし
3	日本語 未来へ	その他	無	いいえ	災害科学国際研究所 設立10周年記念誌			52	54	20221004	ポレー セバスチャン, 榎田竜太, 中鉢奈津子, 江川新二	共著	なし
4	日本語 東北大学災害科学国際研究所ニュースレターIRDeS Newsletter 2023冬号 vol.02	その他	無	いいえ				1	5	202301	中鉢奈津子(編集、一部執筆)	共著	なし

D. 社会活動

社会活動の概要

「学際研究の推進および評価」に関し、URA関連大会・セミナー、一般公開の場等で発表した。また、小学生およびその保護者に災害科学をわかりやすく伝える書籍『地球防災ラボ』の編集協力を行った。IRIDeS設立10周年に際し、記念誌の作成を担当した(Bに関連事項記載)。記者会見の運営を2件担当した。

一般向けセミナー・講演等の主催・共催・運営等(研究活動以外)

合計	2件
----	----

国内国際	主催団体名・運営団体名等	イベント名称	開催期間		会場名	開催都市名	開催国名	担当	参加人数	IRIDeSの関与	講演会・セミナー等
			開始年月日	終了年月日							
1	国内 IRIDeS	災害レジリエンス共創センターキックオフシンポジウム「災害レジリエンスの共創と防災総合構築への挑戦」	20220511	20220511	オンライン	仙台市	日本	司会・運営	300	IRIDeS主催・共同主催	シンポジウム
2	国際 主催:(一財)世界防災フォーラム 共催:科学技術振興機構・IRIDeS	世界防災フォーラム/防災ダボ会議 @ 2023 サイエンスアゴラ in 仙台 ~生活視点の防災と女性(Women and everyday DRR)	20230312	20230312	仙台国際センター	仙台市	日本	企画協力・ファシリテーター	270	IRIDeS共催	シンポジウム

講演・講義等(研究活動以外)

合計 4 件

	学外活動区分	活動名称	活動内容	活動期間		演題名	連携	主催者	会場名	開催都市名	開催国名	参加人数
				開始年月日	終了年月日							
1	その他	RA協議会 第8回年次大会	発表	20220831	20220831	災害科学分野における総合知構築の現場とURAの役割		RA協議会	仙台国際センター(対面・ウェブ配信ハイブリッド)	仙台市	日本	609(大会全体)
2	セミナー	第79回IRIDeS 金曜フォーラム	発表	20220916	20220916	スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会 ー災害研における学際研究活動事例ー		IRIDeS	オンライン	仙台市	日本	47
3	その他	人社系URAネットワーク	発表	20221107	20221107	スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会 ー東北大学災害研における学際研究活動事例ー		人社系URAネットワーク	京都大学 学術研究展開センター	京都市	日本	15
4	セミナー	令和4年度URA連携協議会(第7回)	発表	20221201	20221201	災害研URAとしての学際研究支援活動		東北大学研究推進・支援機構 リサーチ・マネジメントセンター	オンライン	仙台市	日本	



## 5 教育活動





## 教育活動

### 1. 教育活動の目標と概要

本研究所は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることが設立理念としている。このため、本研究所の教員のすべては、災害に強い社会を醸成するための市民力の向上に寄与するための教育活動を推進する責務を有している。このことに関して、小・中・高校との連携を含む学外での教育・啓発活動は4章の「専任教員の活動報告」の中に紹介しているほか、次章の「研究成果の社会発信」において総括している。本章では、学内の教育活動の計画と現状を述べる。

学内の教育活動について、本研究所の中期計画では以下のような内容を定めている。

#### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

- 全学教育、関連部局の学部や大学院の科目において、災害科学に関する基礎的な知識を提供する。
- 災害科学に関する実践的研究の成果を紹介するフォーラムを定期的で開催し、これを大学院の学生に公開する。

#### (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 災害科学に関する基礎知識を教育する全学教育科目を提供する。
- 災害科学・実践的防災学に関する大学院科目を提供し、災害対応を担う人材育成を行う。

#### (3) 学生の支援に関する目標を達成するための措置

- 大学院の学生が、災害科学に関する最新の研究発表・聴講ができる支援体制をつくる。
- 国際連携のための仕組みをつくり、大学院の学生の海外における災害科学に関する研修を支援する。

上記の目標に対して、災害科学・安全学国際共同大学院プログラム(GP-RSS)、変動地球共生卓越大学院プログラム(SyDE)の運営に協力している。

### 2. 全学教育の実施状況

東北大学では、初年次学生に大学での勉学・研究の意義を理解させる導入科目として、少人数形式の「学問論演習」科目を設定しており、各部局が専任教員数に応じて複数のゼミを提供することとなっている。令和4年度は、「歴史と記憶を残す」、「実践的に学ぶ工業数学」の2テーマを提供した。

他方、全学教育講義科目については、R4年度から新カリキュラムに移行しており、心理学1科目(災害人文社会研究部門: 邑本俊亮教授)を提供している他、カレントトピックスとして『復興』を学際的に考える(佐藤翔輔准教授)、「災害の科学」2科目(災害研複数教員のオムニバス形式)、「SDGs 入門」(泉貴子教授)を開講した。

### 3. 学生の支援と研究指導

東北大学学生生活支援審議会は毎年4回を目標としてFDを開催している。本研究所からは教務委員会のメンバーと若手教員が中心となって各回2名ずつこれらFDに出席した。

第1回 本学におけるハラスメント防止体制および実際の相談への対応について

第2回 東北大学における学生支援の現状と課題

第3回 障害学生を含めた多様な学生への教育・学生支援のあり方

第4回 偽装勧誘等の問題が大学に与える影響の理解と支援

これらFDでは、ハラスメント防止、障害学生への配慮と支援に関して理解を深めた。

また、本研究所が月に1回主催している「IRIDeS 金曜フォーラム」は、研究所の専任・兼務教員が各分野の研究視点やプロジェクト研究の成果を報告し討論する場であるが、これを大学院生にも公開し、災害研究の多様な研究方法や研

究成果を学ぶ機会として提供している。2022年度は、国内127件、国外63件の大学院生に対する学会やワークショップへの参加および発表の支援を行った。また、国外の学術機関と協力協定を締結し、経済的負担を減らすと同時に研修先の情報を得やすくした。

以上の結果、2022年度の本研究所の教員の学生への研究指導とその成果は、以下のようである。

博士論文指導(主査・副査):	43件
修士論文指導(主査・副査):	90件
卒業論文指導:	34件
博士学位取得(学内・学外):	54件
留学生受け入れ:	46名(18か国)

## 6 研究成果の社会発信

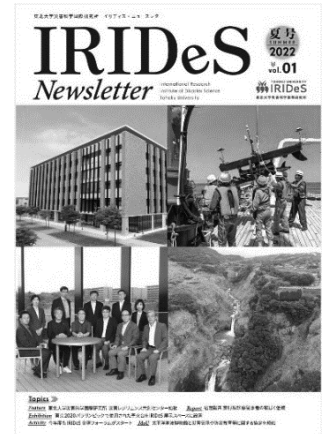


## (1) 刊行物

2022年度より、広報誌IRIDeS NEWSをIRIDeS Newsletterに改め、印刷版・ウェブ版で夏号・冬号の年2回発行することとした。基本方針は引き続き「災害研ならではの情報かつ社会が求める内容を、平易な言葉で発信する」とし、基本的に記事は広報室で執筆した。

### ○ IIRIDeS Newsletter 2022 夏号 印刷版(2022年7月発行)日本語

- ・IRIDeSの組織体制
- ・特集:災害レジリエンス共創センター始動
- ・報告:宿題報告 放射線診療従事者の被ばく低減
- ・展示:東京2020パラリンピックで使用された聖火台を設置
- ・活動:今年度もIRIDeS金曜フォーラムがスタート
- ・協定:太平洋津波博物館と災害伝承や防災教育等に関する協定を締結
- ・教職員紹介



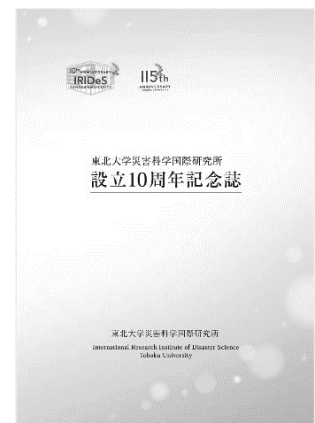
### ○ IIRIDeS Newsletter 2023 冬号 印刷版(2023年1月発行)日本語

- ・IRIDeSの組織体制
- ・特集:IRIDeSの設立10周年記念行事を開催
- ・出版:自然災害の仕組みを知って、命を守る『地球防災ラボ』販売開始
- ・活動:日本工営レジリエントシティ技術実装共同研究部門が活動中
- ・協力:インドネシア国家防災庁高官の東北被災地視察等に協力
- ・会議:第4回世界津波博物館会議を開催
- ・教職員紹介



### ○ 東北大学災害科学国際研究所 設立10周年記念誌 (2022年10月発行)

2012年4月に設立された東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)が設立10周年を迎えたことを記念して、本研究所設立の経緯とその後の歩みを1冊の本にまとめた。



## (2)IRIDeS 金曜フォーラム

### 概要

IRIDeS 金曜フォーラムは、2012 年度より災害科学国際研究所で行われている研究・活動の情報を所内のみならず学内外・一般の方々と広く共有し、研究の連携・融合を図ることを目的に開催する、定期的な発表・討論の場である。

### 発表テーマ

主に研究所の教員・スタッフから、各部門・分野での国際的・学際的な研究テーマについて発表するほか、災害発生時の調査報告や大型研究プロジェクトの成果報告なども随時紹介する。

### 参加方法

新型コロナウイルス(COVID-19)の影響を考慮し、オンライン会議場で Web 開催。専用オンラインフォームより要参加申込。参加費無料。

## 第77回『新任教員が携わる災害科学研究』2022年5月20日(金)16時30分～18時00分 オンライン・Web 会議場

1. 開会・趣旨説明
2. 海底地殻変動観測に基づく沈み込み帯プレート間地震のリスク評価  
富田 史章(災害評価・低減研究部門 海域地震学研究分野)
3. 機械学習と数値解析の融合による津波リスク評価手法の開発  
野村 怜佳(日本工営レジリエントシティー技術実装共同研究部門)
4. 風景情報認知の個人差—注意と記憶の観点から  
田邊 亜澄(災害評価・低減研究部門 津波工学研究分野)
5. 災害時のジェンダーの差異を理解する 多様性のある社会へ  
北村 美和子(防災実践推進部門 国際研究推進オフィス)
6. 閉会・事務連絡

司会・進行:ゲルスタ ユリア(災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野)

## 第78回『東北大学災害科学国際研究所 2021 年度共同研究成果報告会』2022年7月16日(土)9時00分～16時00分 オンライン・Web 会議場

### 共同研究 口頭発表 (午前の部) セッション A:ホール A

1. 防災 DX に向けたリアルタイム避難支援システムの市民参加型研究  
発表者:大石裕介(富士通(株))
2. 数理モデルで探る連鎖する津波避難メカニズム  
発表者:牧野嶋文泰(富士通(株))
3. 「逃げ遅れ」解消に向けた VR 心理分析と新たな防災教育の探求  
発表者:浅井光輝(九州大学)
4. 津波による漂流物・漂砂予測に資するプラットフォームの構築  
発表者:有川太郎(中央大学)
5. 放射線被ばくによる血液抗酸化能の低下は晩発障害のバイオマーカーとなるか  
発表者:孫略(産業技術総合研究所)
6. 身体的弱者の避難生活でのリスク低減と QOL 向上を目的とした産学共同研究

発表者:坪内暁子(順天堂大学)

7. 経時活動記録のテキストマイニングによるリアルタイム災害対策予測法の確立

発表者:田代雅実(福島県立医科大学)

8. 新型コロナウイルス感染症クラスター対策:CO<sub>2</sub>濃度を指標とした換気能力調査

発表者:喜多村絃子(産業医科大学)

**共同研究 口頭発表(午後の部) セッション A:ホール A**

9. AI to Transfer the Knowledge From 2011 Tohoku Tsunami Into the Damage Mapping of Future Events

発表者:アドリアノ ブルーノ(理化学研究所)

10. 強振動と津波による橋梁および道路の損壊を考慮した道路ネットワークの接続信頼性評価

発表者:石橋寛樹(日本大学)

11. 災害研の設備を活用した古津波の波源推定手法の高度化

発表者:後藤和久(東京大学)

12. 沿岸低地の微地形による津波挙動・土砂移動への影響解明

発表者:高清水康博(新潟大学)

13. 重力測定を用いた伏在断層の連続性の評価

発表者:岡田真介(岩手大学)

14. 火山地域における地震動による斜面崩壊に関する地形・地質学的研究

発表者:奥野充(大阪公立大学)

15. 被災ニホンザルを用いた慢性複合放射線被ばく者外挿モデルの構築

発表者:三浦富智(弘前大学)

16. CBRNE 災害後の間接的健康被害測定指標に関する研究

発表者:越智小枝(東京慈恵会医科大学)

**共同研究 口頭発表(午前の部) セッション B:ホール B**

1. 東日本大震災から 10 年が経過した中で立ち現れてきた災害時要配慮者の災害脆弱性に注目した災害時ケアプラン・災害ケースマネジメントプラン作成のための福祉防災人材育成プログラムの開発と実践

発表者:立木茂雄(同志社大学)

2. ハザードマップの想定外を踏まえた学校防災と地域防災の融合に関するモデル構築

発表者:桜井愛子(東洋英和女学院大学)

3. 千島海溝南部超巨大地震の事前復興計画策定に向けたアクションリサーチ

発表者:高橋浩晃(北海道大学)

4. 震災 10 年を迎える東北被災地の農水産業の風評被害克服に関する市民評価

発表者:中村哲也(共栄大学)

5. 治水投資額と被害軽減効果の将来予測における新展開

発表者:石渡幹夫(東京大学)

6. 共生知による原子力災害後の持続可能な地域づくり:「光を観る」観光の視点から

発表者:加藤久美(和歌山大学)

7. COVID-19 禍における自治体の災害対応に関する実証的研究

発表者:田中聡(常葉大学)

8. 住民主体の地域アーカイブサイト作成活動を通じた防災教育プログラムの開発

発表者:草苺敏夫(釧路工業高等専門学校)

**共同研究 口頭発表(午後の部) セッション B:ホール B**



9. 地域間連携による災害被災史料の保全・アーカイブ化の研究  
発表者:小野塚航一(神戸大学)
10. 令和元年東日本台風・コロナ禍等の近年の災害知見に基づく避難訓練事例アーカイブ構築に関する研究  
発表者:杉安和也(岩手県立大学)
11. 遺構と瓦礫のあいだー移行期被災地における残存構造物記録方法の開発ー  
発表者:高原耕平(人と防災未来センター)
12. 多様な環境での保存を想定した被災資料継承の技術的検討  
発表者:川内淳史(歴史文化遺産保全学分野)
13. 減災絵本の実証的ならびに脳科学的研究ー保育者対象のアンケート調査と短期大学生を被験者とする NIRS 分  
析からー  
発表者:田久昌次郎(いわき短期大学)
14. 大規模災害における生命をめぐる対応の事例収集および教訓の防災教育への活用の分析  
発表者:蝦名裕一(災害文化アーカイブ研究分野)
15. 「避難訓練チェックリスト」を活用した学校の避難訓練評価の有用性の検証  
発表者:林田由那(宮城教育大学)
16. 防災対応力向上のための教材・講座の効果検証に基づく防災教育の体系化  
発表者:小山真紀(岐阜大学)

**第79回『分野横断で挑む災害科学研究』2022年9月16日(金) 16時30分～18時00分 オンライン・Web 会議場**

1. 開会・趣旨説明
2. スペイン・インフルエンザ文理連携勉強会ー災害研における学際研究活動事例  
中鉢 奈津子・三木 康宏・川内 淳史・児玉 栄一・伊藤 潔
3. 歴史が導く災害科学の新展開ー慶長奥州地震津波研究と疫病退散プロジェクトー  
蝦名 裕一(災害文化アーカイブ研究分野)
4. 若手研究者がやってみた分野横断実践ー門廻充侍の事例  
門廻 充侍(津波工学研究分野・地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門)
5. 質疑／総合討論
6. 閉会・事務連絡

**第80回『新任教員が携わる災害科学研究(2)』2022年11月18日(金) 16:30～18:00 オンライン・Web 会議場**

1. 開会・趣旨説明
2. 断層近傍の変位・強震動予測方法の高度化の研究  
乗松 君衣(都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門)
3. 地震による活断層近傍の被害を引き起こす要素とは何か  
吉見 瑤子(都市直下地震災害(応用地質) 寄附研究部門)
4. Development and Validation of the Storm Surge Forecasting System by Considering Sea Ice and Wave Effects  
Guoming Ling(日本工営レジリエントシティ技術実装共同研究部門)
5. 質疑／総合討論
6. 閉会・事務連絡

第81回『次世代の災害科学を担う学生たち』 2023年2月17日(金) 16:30~18:30 オンライン・Web 会議場

1. 開会・趣旨説明

2. 報告

感染症災害へ立ち向かうウイルス創薬」

鈴木 聡志(医学系研究科 博士3年(災害感染症学分野))

3. 報告

Densho-Adapt: Developing a transdisciplinary participatory workshop model to map rice farming communities' processes to adapt to climate change related risks in Tadami UNESCO Biosphere Reserve

Paola Fontanella Pisa(環境科学研究科 博士1年)

4. 報告

東日本大震災復興市街地における人口増減の比較分析と居住環境評価

加藤 春奈(工学研究科 博士1年(国際防災戦略研究分野))

5. 報告

衛星画像を用いた地震時における宅地地盤変動の検出

宮嶋 愛菜(理学研究科 修士1年(陸域地震学・火山学研究分野))

6. 質疑／総合討論

7. 閉会・事務連絡

### (3) 展示

災害研の研究活動を明快・平易に伝えるための展示スペースを 2015 年に開始して以来、スペースや展示内容は拡充を重ね、所内教職員および幅広い来訪者に活用されてきた。しかし、2022 年度は、前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応するため見学団体の受け入れを休止し、また、個人の見学者に向けて感染対策への協力を呼びかけるポスターをスペースに掲示した。

2022 年度は、2 階展示スペースにおいて、朝日小学生新聞「地球防災ラボ」のパネルおよび「災害時における避難所用簡易間仕切りシステム」等の常設展示を行った。



1 階展示スペース



2 階展示スペース

(4) 各種メディアでの紹介(報道・執筆・出演・資料提供など)

(同一記事非表示)

Table with columns: No., Date, Media, Title, Author, and Category. It lists various media appearances and publications related to disaster preparedness and recovery, including news reports, interviews, and academic contributions.

配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類	
132	2022/5/10	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	津波避難の意識格上げを東北大学災害科学国際研究所・今村文彦所長	災害研、今村文彦	報道・コメント
133	2022/5/10	テレビ	東北放送	JNNニュース「最悪の条件」新たな津波浸水想定を発表 宮城	災害研、今村文彦	報道・コメント
134	2022/5/10	ウェブ(国内)	todayhow.news	「最悪の条件」新たな津波浸水想定を発表 宮城	災害研、今村文彦	報道・コメント
135	2022/5/10	テレビ	仙台放送(他1件)	これまで市街地も浸水範囲の可能性 宮城県「新たな津波浸水想定」公表 震災時の1.2倍の面積	今村文彦	報道・コメント
137	2022/5/10	テレビ	NHK仙台	これまで:津波の新たな想定 震災上回る規模で浸水のおそれ	災害研、今村文彦	報道・コメント
138	2022/5/10	テレビ	NHK	NHKニュース7「津波浸水面積は東日本大震災の1.2倍」	災害研、今村文彦	報道・コメント
139	2022/5/10	機関誌・機関HP	宮城県	津波浸水想定の設定公表について	災害研、今村文彦、越村俊	報道・コメント
140	2022/5/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞	気仙沼に22メートルの津波想定 宮城県が浸水区域発表	災害研、今村文彦	報道・コメント
141	2022/5/10	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	東日本大震災の1.2倍で浸水、かさ上げ地域も 宮城県が大規模地震による津波の浸水想定公表	災害研、今村文彦	報道・コメント
142	2022/5/10	ウェブ(国内)	unavailablelms days	宮城県 最大規模の津波想定公表 浸水面積は東日本大震災の約1.2倍	災害研、今村文彦	報道・コメント
143	2022/5/10	新聞(その他)	共同通信(他23件)	「ゼロリスク、思い込み怖い」かさ上げ地域浸水想定で識者	災害研、今村文彦	報道・コメント
167	2022/5/10	新聞(地方紙)	三陸新報	「避難訓練に住民も」大谷 幼小中公文庫発表 専門家からアドバイス	佐藤雅輔	報道・コメント
168	2022/5/11	新聞(全国紙)	毎日新聞	県、津波最大22.2メートル想定 試算発表 浸水面積、震災時の1.2倍 / 宮城	災害研	報道・コメント
169	2022/5/11	新聞(地方紙)	河北新報	宮城 震災の1.2倍浸水	災害研、今村文彦	報道・コメント
170	2022/5/11	新聞(地方紙)	河北新報(他3件)	「リスクのない場所はないと受け止めて」 宮城・津波浸水想定	災害研、今村文彦	報道・コメント
174	2022/5/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	県、津波浸水想定を公表 東日本大震災を超える浸水予測	災害研、今村文彦	報道・コメント
175	2022/5/11	テレビ	仙台放送(他2件)	FNNニュース「また津波来るの?」かさ上げ市街地も津波浸水域に 新たな想定に地元住民から不安の声 宮城・名取市	災害研、今村文彦	報道・コメント
178	2022/5/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大学、分野を超えて防災研究 共創センター設立	災害研	報道・コメント
179	2022/5/12	ウェブ(国内)	Jbrss(他4件)	大型ヘリから撮影した巨大津波の被災地、震災遺構になった小学校【山根一真の真有探査】震災遺構見学のすすめ(前編)	遠田晋次	報道・コメント
184	2022/5/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、防災へ多様な知識結集	災害研	報道・コメント
185	2022/5/12	その他	女性自身(他2件)	5月下旬から接種開始「ノバパック製」ワクチンのメリットとは?	災害研	報道・コメント
188	2022/5/12	新聞(地方紙)	福島民友新聞	語り部育成「虎の巻」 富岡のNPOが作成着手、語り部育成講座始まる、高齢化に危機感	佐藤雅輔	報道・コメント
189	2022/5/14	新聞(地方紙)	福島民友新聞(他1件)	「安心して泣き出す女性も」、ウクライナ避難民に開け切のを届ける日本人建築家	災害研、佐藤雅輔	報道・コメント
191	2022/5/14	ウェブ(国内)	CHANTO WEB(他2件)	災害科学国際研究所と太平洋津波博物館が協定を締結しました	災害研、今村文彦	報道・コメント
194	2022/5/15	機関誌・機関HP	岩手県	宮城県が新たな津波浸水想定公表 東日本大震災の1.2倍 / 沿岸自治体 防災対策の見直し必至	災害研、今村文彦	報道・コメント
195	2022/5/15	テレビ	東日本放送(他2件)	「震災伝承、自分の言葉で」 富岡のNPO、語り部育成講座始まる	災害研、佐藤雅輔	報道・コメント
198	2022/5/16	新聞(地方紙)	福島民友新聞(他2件)	震災伝承、自分の言葉で 富岡のNPO、語り部育成講座始まる	災害研、佐藤雅輔	報道・コメント
201	2022/5/16	新聞(地方紙)	福島民報	震災伝承のきっかけに 富岡の語る会 育成スクー開催	佐藤雅輔	報道・コメント
202	2022/5/16	ウェブ(国内)	ウェブ(国内)	未来のBCPに!被災地で起きたことを失敗も含めて継承する	佐藤雅輔	報道・コメント
203	2022/5/17	ウェブ(国内)	ASIA INFONET.COM	JICA防災業務者向けのワーキングセッションを5月18、19日に開催	災害科学国際研究所	報道・コメント
204	2022/5/17	新聞(地方紙)	仙台市	青葉通商エリアのあり方検討協議会について	奥村誠、嶋田 道生	報道・コメント
205	2022/5/18	テレビ	東北放送(他1件)	JNN:震災最大の伝承に 建設会社の記録写真アーカイブ化 宮城	今村文彦	報道・コメント
207	2022/5/18	テレビ	東北放送(他1件)	【おひさびさ】「GoTo(一)」東北で販売再開の可能性は? カギを握る感染者数が減少傾向で「今がタイミングか」	小坂健	報道・コメント
209	2022/5/18	新聞(全国紙)	日本経済新聞	震災の教訓、教訓したいが、個人で遺構運営に限界も	佐藤雅輔	報道・コメント
210	2022/5/19	新聞(地方紙)	河北新報	世襲メンバー 災害研を訪問	災害研、今村文彦	報道・コメント
211	2022/5/20	新聞(その他)	建設通信新聞	東北大災害レジリエンス共創センター災害デジタル twins を構築 キョウカン社会実装と政策提議	災害研	報道・コメント
212	2022/5/20	新聞(地方紙)	静岡新聞	防災、減災 多様な視点で 教の原・相良中・東北大講師共催講座	保田真理	報道・コメント
213	2022/5/20	機関誌・機関HP	仙台市	官学連携による協働事業「仙台防災枠組2015-2030」の連携(しんちく)に関する中間評価を実施し、世界に向けて発信します	災害研、小野裕一	報道・コメント
214	2022/5/20	その他	夕刊フジ(他3件)	轟くコロナ以外の感染症 サル痘、デング熱、ポリオ...世界各地で確認 アルコール消毒も無効「従来以上に重症化する恐れ」 識者	児玉栄一	報道・コメント
218	2022/5/20	新聞(その他)	建設通信新聞	復興ロードの映像アーカイブ/若生工業と海軍施設に認定証	今村文彦	報道・コメント
219	2022/5/20	機関誌・機関HP	牧之原市	相良中学校1年生が防災学習をしました	保田真理	報道・コメント
220	2022/5/21	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:津波予報はどのように出されるか	佐藤雅輔	執筆
221	2022/5/24	ウェブ(国内)	Science Portal(他1件)	トンガ沖海海底火大噴火で発生した「揺れを伴わない津波」の解明進む 気圧波「ラム波」が大きな要因と判明	今村文彦	報道・コメント
223	2022/5/24	その他	女性自身	コロナワクチン前反応が不安なら3回目も「ノバパックで」	児玉 栄一	報道・コメント
224	2022/5/25	テレビ	東日本放送(他1件)	新津波浸水想定に14自治体「避難計画の見直しなど対策必要」 宮城県沿岸15自治体にkhhが緊急アンケート	今村文彦	報道・コメント
226	2022/5/25	テレビ	マイアテレビ(他1件)	栗原市の巨大な地滑りで観光ツアーの可能性模索 14年前の地震で発生・宮城	今村文彦	報道・コメント
228	2022/5/26	新聞(地方紙)	河北新報	防災枠組 年度内に中間評価	災害研	報道・コメント
229	2022/5/26	テレビ	東北放送(他1件)	「将来的に公開目指す」 若手・宮城内陸地震 荒況記録現地視察	佐藤雅輔	報道・コメント
231	2022/5/27	新聞(地方紙)	河北新報	災害関連死に迫る 第4期 命を守るために2 病院BCPが「かず」	佐々木宏之	報道・コメント
232	2022/5/27	機関誌・機関HP	緑橋町	洪水浸水想定区域内にお住まいの方の避難に関する意識調査	佐藤雅輔	報道・コメント
233	2022/5/27	テレビ	青森放送	RABニュースレター:水害避難の意識調査 岩木川流域 危険度「十分認識」2割	佐藤雅輔	出演
234	2022/5/28	新聞(地方紙)	河北新報	「浸水の危険性理解」27.8% / 青森・秋田・山形 洪水被害想定区域内住民に調査	佐藤雅輔	報道・コメント
235	2022/5/28	新聞(地方紙)	東奥日報(他3件)	岩木川流域の洪水 浸水想定区域 住民制が危機意識不足	佐藤雅輔	報道・コメント
239	2022/5/28	新聞(全国紙)	日本経済新聞	水密地域、解消道半ば 首都直下地震、死者4割大災原因 面積半減、初期消火に力	村尾 修	報道・コメント
240	2022/5/28	新聞(地方紙)	徳島新聞	東北3洪水想定区域の住民調査 危険意識 弘前時に低く	佐藤雅輔	報道・コメント
241	2022/5/29	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1件)	7割弱の認識で「3」 岩木川流域の住民を調査 国と東北大	佐藤雅輔	報道・コメント
242	2022/5/30	ウェブ(国内)	Web ON LINE	幸福に共生できる部運河が実現 弘前市民低く 傾向	佐藤雅輔	報道・コメント
244	2022/5/30	新聞(地方紙)	フリー東北	1級河川住民避難調査 水害の危険性認識 弘前市民低く 傾向	佐藤雅輔	報道・コメント
245	2022/5/31	新聞(全国紙)	日本経済新聞	防災4に上向き急 気象庁「通常の範囲内」 専門家は警戒	佐藤雅輔	報道・コメント
246	2022/5/31	ウェブ(国内)	BRUTUS Casa(他1件)	坂 茂の紙管を使った開け切りの、ウクライナ避難民支援でも活用されています	災害研	報道・コメント
248	2022/6/1	テレビ	TBS(他1件)	電波で地滑り研究 東北大・佐藤雅輔之教授表彰「電波の日」記念式典 仙台	佐藤雅輔	報道・コメント
250	2022/6/1	テレビ	東日本放送(他1件)	6月1日は電波の日 仙台・青葉区で記念式典	佐藤雅輔	報道・コメント
252	2022/6/1	新聞(地方紙)	東海新報	情報発信 さらに連携を防災学習ネットワーク運営協	柴山明寛	報道・コメント
253	2022/6/3	ウェブ(国内)	Smart FLASH(他2件)	恐怖の「チェーン破断」! 専門家が発見した悪夢の連鎖「ソリア」最新8年後、南海トラフ地震で富士山爆発の可能性	遠田晋次	報道・コメント
256	2022/6/3	機関誌・機関HP	いのちを支える自殺対策推進センター	「第5回 生きるための包括的支援のための基礎研修」を開催しました今回のテーマは「被災から復興、平時における地域への介入と自殺対策」	定池祐季	報道・コメント
257	2022/6/3	新聞(地方紙)	河北新報	丸森の風力発電計画 / 災害リスク 住民説明を	平野勝也	報道・コメント
258	2022/6/4	テレビ	仙台放送(他2件)	「時短語り部」プログラムで防災学習 石巻専修大学でツナミリアル体験講義<宮城>	佐藤雅輔	報道・コメント
261	2022/6/4	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:避難情報と警戒レベル	佐藤雅輔	執筆
262	2022/6/4	テレビ	仙台放送	Live NEWS it:「時短語り部」プログラムで防災学習 石巻専修大学でツナミリアル体験講義	佐藤雅輔	出演
263	2022/6/5	新聞(全国紙)	朝日新聞	3県の浸水想定区域住民 水害危険性7割認識せず 国など調査	佐藤雅輔	報道・コメント
264	2022/6/6	テレビ	NHK	サイエンスZERO:「まるで津波...」梅雨の時期に知っておくべき「津波バム」という新脅威	今村文彦	出演
265	2022/6/9	テレビ	東北放送(他1件)	「草木が茂って分らなくなる」内陸地震も14年 地すべり現場の公開は...	佐藤雅輔	報道・コメント
267	2022/6/9	テレビ	NHK大阪	関西ラジオワイド: 防災コラム「水害で犠牲になる原因とその対策」	佐藤雅輔	出演
268	2022/6/10	テレビ	NHK青森	岩木川の水害危険性 地域住民で「十分理解」は約2割	佐藤雅輔	出演
269	2022/6/11	新聞(地方紙)	河北新報	災害復旧 富岡忘れぬ	今村文彦	報道・コメント
270	2022/6/12	テレビ	東日本放送(他2件)	宮城県内5局の記者ら 震災報道について考える座談会	佐藤雅輔	出演
273	2022/6/12	テレビ	NHK仙台	東北 NEWS WEB、震災伝承などをテーマ「仙台のテレビ5局が合同イベント	佐藤雅輔	出演
274	2022/6/13	ラジオ	NHKラジオ 関西	「防災コラム」 東北大学災害科学国際研究所准教授・佐藤雅輔さん「水害で犠牲になる原因とその対策」	佐藤雅輔	出演
275	2022/6/14	テレビ	東北放送(他1件)	「最大80人」が被災者支援 災害発生時の帰宅困難者に対応、オフィスビル運用本格化	災害科学国際研究所	報道・コメント
277	2022/6/15	新聞(地方紙)	河北新報(他1件)	沿岸の集落に並ぶ石壁、三つの修繕伝承も 明治三陸大津波126年	佐藤雅輔	報道・コメント
279	2022/6/15	テレビ	東日本放送(他1件)	巨大地盤に共通する余震活動「大きくずれ動いた」 麓原地域の周辺で地震活動が活発化 東北大学 遠田晋次教授	遠田晋次	報道・コメント
281	2022/6/15	新聞(地方紙)	河北新報	明治三陸 昭和三陸 東日本大震災 / 三つの大津波 石碑並び証言 / 若手沿岸の集落 / 明治三陸126年 / 警告、願い、心に寄り添って	佐藤雅輔	報道・コメント
282	2022/6/16	新聞(地方紙)	河北新報	避難や備え ヒント学ぶ / 太崎・古川南中で防災授業 / 風水害時の行動確認を	保田真理	報道・コメント
283	2022/6/17	機関誌・機関HP	物流ニュースNews	人を育て人を育てる「仙台長町未来共創センター」竣工式 / アンド・パルトナース挑戦の軌跡を追う(後編)(未発表)	今村文彦	報道・コメント
284	2022/6/17	テレビ	NHK仙台	東北ココから:「見えなし」被災 復興6地区地盤から3か月一	定池祐季	出演
285	2022/6/18	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:台風・大雨からの避難	佐藤雅輔	執筆
286	2022/6/19	新聞(全国紙)	産経新聞(他5件)	原因不明の「群発地震」 専門家「M7クラスにも警戒を」 石川で震度6強	遠田晋次	報道・コメント
292	2022/6/20	新聞(全国紙)	産経新聞	企業被害 車両や線路、開業前から工事重ね成展 輸送障害は年15件未減	奥村誠	報道・コメント
293	2022/6/21	新聞(全国紙)	産経新聞	宇恩忠格 仙台、拠点化進む 首都圏近接で交流活発	奥村誠	報道・コメント
294	2022/6/21	機関誌・機関HP	福島県相馬市学校教育課	【2022年6月21日】災害に備えて 中一防災教育講演会	保田真理	報道・コメント
295	2022/6/21	テレビ	東日本放送(他1件)	石川・能登半島を始め全国的に地震が増加 専門家が注意を呼び掛け	遠田晋次	報道・コメント
297	2022/6/22	新聞(地方紙)	河北新報	メカニズム不明 長期化も	遠田晋次	報道・コメント
298	2022/6/22	新聞(全国紙)	朝日新聞	水害危険性、7割認識不足 3県の浸水想定区域内住民 国など調査	佐藤雅輔	報道・コメント
299	2022/6/24	テレビ	仙台放送	ともに 時短で伝える震災「ツナミリアル」とは? 新たな伝承方法の一つに(宮城)	佐藤雅輔	報道・コメント
300	2022/6/24	テレビ	NHKワールド	災害対応ロボット BOSAI!あなたの命を救うことができる科学	田所論	出演
301	2022/6/26	テレビ	NHK	ニュース:震度6弱から1週間 専門家「より規模の大きな地震に備えを」	遠田晋次	報道・コメント
302	2022/6/27	新聞(地方紙)	熊本日日新聞	「またか!」夜に揺れ、住民に不安 熊本県美里町で震度5弱	遠田晋次	報道・コメント
303	2022/6/27	その他	夕刊フジ	今年1〜3月 死者数激増。の謎 厚労省データ SNSでは「ワクチン接種で」の声も「乱暴な議論、複合的な要因と考えられる」	佐藤雅輔	報道・コメント
304	2022/6/30	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	宮城県ら / 東北大で防災対応ワークショップ開催、台風後想定し対応検討	災害科学国際研究所	報道・コメント
305	2022/7/2	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:川の防災情報 調べるコツ	災害研	執筆
306	2022/7/4	その他	夕刊フジ(他1件)	コロナ感染急増も「50歳以下は自衛不要」と専門家 オミクロン派生型「BA.5」の置き換わり進む「すでにかなりレベルに近い」児玉栄一教授	児玉栄一	報道・コメント
308	2022/7/5	機関誌・機関HP	宮城県第一高等学校	研究室訪問に行ってきました!	須賀利雄	報道・コメント
309	2022/7/5	新聞(地方紙)	石巻くまこ	石巻・新念公園参加型運営開始 / 初の総会 / 伝える内容 全体で計画	佐藤雅輔	報道・コメント
310	2022/7/9	新聞(全国紙)	朝日新聞	若年世代の投票率、1%低下 7.8万円の損 / 損	吉田浩	報道・コメント
311	2022/7/9	ラジオ	TBSラジオ	防災・Session「Daily News Session」台風も身は熱帯低気圧に〜防災の観点から専門家に聞く	田所論	出演
312	2022/7/6	テレビ	東日本放送	風力発電計画の撤回含めた取り込みを 宮城県の審査会が等事案	平野勝也	報道・コメント
313	2022/7/7	新聞(地方紙)	石巻くまこ	学校防災向上へ情報交換 / 石巻市推進協議会が本年度初会合 / 地域と連携 / 災害対応力 強化目指す	佐藤雅輔	報道・コメント

No.	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
314	2022/7/7	新聞(地方紙)	河北新報	宮城・川崎の風力発電計画「蔵王の眺望 影響回避を」/環境影響評価/県審査が答申案	平野勝也	報道・コメント
315	2022/7/7	機関誌-機関HP	日本学術会議	学術フォーラム「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」	江川新一	その他
316	2022/7/8	新聞(全国紙)	朝日新聞	「若年世代の投票率、1%低下して、8月以降 東北大教授が試算	吉田浩一	報道・コメント
317	2022/7/8	機関誌-機関HP	長野県	Nagano School Designプロジェクト(NSDプロジェクト)Kick-offイベントを開催しました！	小野田泰明	その他
318	2022/7/9	ウェブ(国内)	読売新聞	選挙公開、ひびきと「ばい、ええ、ええ」財政の専門家に聞いたチェックポイント【参院選2022】	吉田浩一	報道・コメント
319	2022/7/10	新聞(地方紙)	東京新聞	49歳以下の世代 投票率1%下落、7月7日7000人増えます！ 東北大教授が独自に試算 <参院選2022>	吉田浩一	報道・コメント
320	2022/7/10	新聞(全国紙)	読売新聞	開閉のおかずで小川くん克服「防災で恩返し」	門庭充侍	報道・コメント
321	2022/7/10	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES!：甲小川川沿いの人ははれくわい!住んでいる?	橋本雅和	出演
322	2022/7/11	機関誌-機関HP	多賀城子育て支援センター	おやじの被災・防災 災害に備えよう!	柴山明寛	その他
323	2022/7/11	ウェブ(国内)	Pacific Online	Webマガジン：南三陸町イベント 第一部〜南三陸町佐藤仁町長インタビュー〜	今村文彦・小野裕一	出演
324	2022/7/14	新聞(地方紙)	河北新報	震災伝承ロード 観光と融合探る/推進協議会、仙台で検討会	奥村誠	報道・コメント
325	2022/7/14	新聞(全国紙)	日刊建設工業新聞	日本規格協会、仙台防災検定テーマに標準化カフェ	災害科学国際研究所	報道・コメント
326	2022/7/15	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	3・11伝承ロード推進協議会「三陸道エリア活性化検討会初会合、23年度にルート提案	今村文彦・奥村誠	報道・コメント
327	2022/7/16	その他	FRIDAY	今この瞬間にも...日本を襲う「直下型」震災の恐怖 東日本大震災から11年 太平洋プレートと活断層 石川県能登地方での震度6弱、熊本県での震度5弱など頻発する大きな揺れ 南海トラフ地震より前に警戒すべきこと	遠田晋次	報道・コメント
328	2022/7/16	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:2つの洪水災害(水の氾濫)	佐藤雅輔	執筆
329	2022/7/17	新聞(地方紙)	河北新報	石巻・津波伝承館の「拠点機能」強化 宮城県、語り部の定期講話拡充	佐藤雅輔	報道・コメント
330	2022/7/18	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES!：水害時の避難について	橋本雅和	出演
331	2022/7/19	新聞(地方紙)	熊本日日新聞	「日奈久断層は動かさず」広い意味で熊本地震の余震? 6月、美里町で震度5弱	遠田晋次	報道・コメント
332	2022/7/19	テレビ	東日本放送	7年で3回の堤防決壊 地形的な要因も、宮城・大崎市の名瀬川	橋本雅和	報道・コメント
333	2022/7/19	新聞(地方紙)	岩手日報	防災ゲームで避難を学ぶ 大船渡の夢海公園でイベント	柴山明寛	報道・コメント
334	2022/7/19	新聞(地方紙)	河北新報	ウィズコロナなど解説	小坂健	報道・コメント
335	2022/7/19	新聞(地方紙)	東海新報	回避創出へ新たな試み キャッセン 大船渡「ソノエマチリ」	柴山明寛	報道・コメント
336	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災WEBナビゲーターからのメッセージ	今村文彦	出演
337	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー1-① 我が国の自然災害の特徴(概要)	今村文彦	出演
338	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー1-② 東日本大震災の経験と教訓	今村文彦	出演
339	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-① 最近の自然災害の特徴 地震	遠田晋次	出演
340	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-② 津波およびその災害について	今村文彦	出演
341	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-③ 最近の自然災害の特徴 土砂災害	森口周二	出演
342	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-④ 最近の自然災害の特徴 風水害	橋本雅和	出演
343	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-⑤ 最近の自然災害の特徴 火山災害	福島洋	出演
344	2022/7/21	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー2-⑥ 最近の自然災害の特徴 災害情報	佐藤雅輔	出演
345	2022/7/21	テレビ	NHK	感染症対策の専門家リスク減らす行動	小坂健	報道・コメント
346	2022/7/21	新聞(その他)	日スポース	コロナの現状「救急を呼んでも症状のひどい方がはなみかめ診られない状況が国内でも」	小坂健	報道・コメント
347	2022/7/22	新聞(地方紙)	石巻日日新聞	災害を自分ごとで考える 伝承の会「フサ」の30分で賞状「防災教室」	佐藤雅輔	報道・コメント
348	2022/7/22	その他	分科フジ	三陸沿海の観光ツアールート作成、東日本大震災の伝承に向け、施設巡る全長359キロの三陸道	奥村誠	報道・コメント
349	2022/7/22	テレビ	東日本放送(他1件)	チャーム・大雨で設備を踏まずに緊急安全確保を命 宮城・松島町の対応	佐藤雅輔	報道・コメント
350	2022/7/22	新聞(全国紙)	毎日新聞(他2件)	震災被災者の体験を踏まえて緊急安全確保を命 宮城・松島町の対応	災害科学国際研究所	報道・コメント
351	2022/7/23	新聞(地方紙)	河北新報	震災の記憶 切々と「大船渡」竹下真一さん朗読	災害研 柴山明寛	報道・コメント
352	2022/7/23	新聞(地方紙)	河北新報	あの日の記憶 三陸に響く 東日本大震災の証言録 2年ぶり「かたりつぎ」	災害研 柴山明寛	報道・コメント
353	2022/7/23	新聞(地方紙)	東海新報	過去の教訓、生かされたのか。記録の大雨から1週間	今村文彦	出演
354	2022/7/23	新聞(全国紙)	朝日新聞	記録的大雨1週間 川河被さる どう備える 大崎・名瀬川	橋本雅和	報道・コメント
355	2022/7/23	新聞(全国紙)	読売新聞	これからのまちについて考える復興リーダー講座(第11回)の開催報告	塚浦道生	その他
356	2022/7/24	ウェブ(国内)	SEEDS Asia	宇宙ビジネスと地球を守る「宇宙天気警報システム」ってどんな仕事?	小野隆博	報道・コメント
357	2022/7/24	ウェブ(国内)	SEEDS Asia	震災被災者の体験を基にした詩 竹下真一さんが朗読 岩手・大船渡	災害科学国際研究所	報道・コメント
358	2022/7/25	新聞(地方紙)	岩手日報	見上げてごらん:リスクとの共生	佐藤雅輔	資料提供
359	2022/7/25	新聞(全国紙)	毎日新聞	地震伝承やウツオ語る 県史編纂士学者2氏講演 中土佐町	川島秀一	報道・コメント
360	2022/7/27	新聞(地方紙)	高知新聞	ニュース:災害時の健康管理にストレス状態分析アプリの実験実施	門庭充侍	報道・コメント
361	2022/7/27	テレビ	NHK	復興現状、6分野で議論 シンポジウム「みやぎの未来」 石巻地帯の復興者5人が提言	佐藤雅輔	報道・コメント
362	2022/7/28	新聞(地方紙)	河北新報	予約なしで学びの機会 石巻市南浜・津波伝承館 毎週土曜は語り部講話	佐藤雅輔	報道・コメント
363	2022/7/29	新聞(地方紙)	河北新報	気仙沼・伝承館/防災のミニ講座 夏休み親子で/31日から 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は31日～8月27日、「1せんに被災者家族とつなぐ」と題し、震災を知りたい子どもが親と一緒に津波の脅威や防	災害科学国際研究所	報道・コメント
364	2022/7/29	テレビ	仙台放送	新型コロナウイルス第7波、過去最大の長期化か 「ケンタウロスの感染流は流行中の「BA・5」の3倍「5類」引き下げ論は賛否	佐藤雅輔	報道・コメント
365	2022/7/30	その他	タリフ	新型コロナウイルス第7波、過去最大の長期化か 「ケンタウロスの感染流は流行中の「BA・5」の3倍「5類」引き下げ論は賛否	児玉栄一	報道・コメント
366	2022/7/30	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:マイノリティで備える	佐藤雅輔	執筆
367	2022/7/31	新聞(全国紙)	朝日新聞	自由研究のネタいっぱい! 気仙沼・伝承館で夏のイベント始まる	災害科学国際研究所	報道・コメント
368	2022/7/31	ウェブ(国内)	BIGLOBEニュース(他1件)	コロナ急拡大、高齢者の動きだけでOK!地域での流行を減らすこと。みんな力で合わせて!	小坂健	報道・コメント
369	2022/7/31	新聞(地方紙)	あきたの静岡新聞	自然災害親子で学ぶ 流水の脅威、奥山から実感 静大などワークジョブ	保田真理	その他
370	2022/8/1	機関誌-機関HP	宮城県	企画展「3.11現場の真実」の真実 結〜消防・命のフロア展「東日本大震災」を開催します	災害科学国際研究所	その他
371	2022/8/1	機関誌-機関HP	日本工業	日本工業と東北大学による共同研究講座を開催 デジタルツインをレジリエントシミュレーションモデルの構築を推進-	災害科学国際研究所	その他
372	2022/8/1	新聞(全国紙)	日本経済新聞	日本工業、東北大と共同研究講座を開催	災害科学国際研究所	報道・コメント
373	2022/8/1	機関誌-機関HP	千葉大学	【防災総合センター】防災・被災者ワークショップが開催されました	保田真理	その他
374	2022/8/1	ウェブ(国内)	ディメンション	「福島県相馬市」広報「おさき」災害と火災に備えて 防災教室・避難訓練	保田真理	その他
375	2022/8/1	ウェブ(国内)	NHKニッポン第1	【速報】宮城県が大雨で1日の津波浸水想定をふくむシミュレーションを公表	佐藤雅輔	報道・コメント
376	2022/8/1	テレビ	東日本放送(他1件)	【速報】宮城県が大雨で1日の津波浸水想定をふくむシミュレーションを公表	今村文彦	出演
377	2022/8/2	新聞(地方紙)	河北新報	苦楽ホール・震災メモリアルホール 仙台市の基本構想懇話会、9月7日初会合	災害科学国際研究所	報道・コメント
378	2022/8/2	新聞(地方紙)	河北新報	震災学び直す 東日本大震災「石巻」きき初回	災害科学国際研究所	報道・コメント
379	2022/8/2	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES!：土砂災害防止法の改正	森口周二	出演
380	2022/8/2	テレビ	NHK山形	山形県で初の「緊急安全確保」その時住民は	橋本雅和	報道・コメント
381	2022/8/9	その他	タリフ(他1件)	コロナ重症化防止「切り札」。4回目接種が必要なワケ 専門家語る「ウイルスとの競争」	児玉栄一	報道・コメント
382	2022/8/9	その他	週刊文春	河生、教えて!「BA.5は本当に怖いのか?」	児玉栄一	報道・コメント
383	2022/8/9	テレビ	東北放送(他2件)	報道で「樹木に草花が絡まって」水位上昇が、記録的大雨で堤防決壊の一因	橋本雅和	報道・コメント
384	2022/8/10	新聞(地方紙)	河北新報	災害学び 備えよう/気仙沼・伝承館/子ども向け講座開催/地震、津波への理解深める	災害科学国際研究所	報道・コメント
385	2022/8/10	新聞(地方紙)	河北新報	宮城、山形大雨/「樹木除去が有効」/東北大災害研、調査報告	災害科学国際研究所	報道・コメント
386	2022/8/10	新聞(全国紙)	朝日新聞	避難態勢整備の重要性強調 東北大が東日本被災地調査／山形県	災害科学国際研究所	報道・コメント
387	2022/8/10	新聞(全国紙)	読売新聞	7月大雨 累積雨量 台風19号上回る 東北大(被害拡大)の一因	災害科学国際研究所	報道・コメント
388	2022/8/10	テレビ	NHK山形	ニュース:記録的大雨 山形・飯豊町で避難所周辺冠水 消防に救助され別の場所に避難	佐藤雅輔	報道・コメント
389	2022/8/12	その他	タリフ(他1件)	2回接種終わった全員が対象、新ワクチンの気になる効果 10月半ば以降実施 オミكرون株に対応 専門家「中途半端な接種率に懸念」	児玉栄一	報道・コメント
390	2022/8/13	新聞(その他)	毎日小学生新聞	循環備蓄について	佐藤雅輔	執筆
391	2022/8/14	新聞(全国紙)	朝日新聞	土曜の「定期語り部」、伝承館でスタート 石巻／宮城県	佐藤雅輔	報道・コメント
392	2022/8/15	テレビ	NHK仙台(他1件)	てれまさむね:震災伝承施設 開館1年 伝承のちからを模索	佐藤雅輔	報道・コメント
393	2022/8/15	テレビ	NHK	おはよう日本:記録的大雨 避難所周辺冠水 避難に課題	佐藤雅輔	報道・コメント
400	2022/8/16	テレビ	東日本放送(他1件)	7年で3度の堤防決壊 激甚化する豪雨災害 中小河川が持つ水害リスク 宮城・大崎市	橋本雅和	報道・コメント
401	2022/8/17	新聞(全国紙)	建設通信新聞	IRiDESが大雨調査速報会/田んぼがダムが効果河内道の樹木除去が必要	災害科学国際研究所	報道・コメント
402	2022/8/18	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー3-① 集団としての被災の起り方(地震活動)	遠田晋次	出演
403	2022/8/18	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー3-② 津波およびその災害について<応用編>	今村文彦	出演
404	2022/8/18	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー3-③ 土砂災害～事例をもつた応用編～	森口周二	出演
405	2022/8/18	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー3-④ 火山活動の監視・観測	福島洋	出演
406	2022/8/18	機関誌-機関HP	日本石油連盟	防災セミナー3-⑤ 水害からの避難:「犠牲者ゼロ」の地域に学ぶ	佐藤雅輔	出演
407	2022/8/18	その他	週刊文春	先生、教えて!「BA.5は本当に怖いのか?」	児玉栄一	報道・コメント
408	2022/8/19	新聞(その他)	防災情報新聞	東日本大震災3.11「学びをおしり」!「げんし探訪」などを開催	佐藤雅輔	その他
409	2022/8/19	テレビ	テレビ岩手	ニュースがズバリいわて:フジが「大雨災害」の備え	佐藤雅輔	報道・コメント
410	2022/8/19	新聞(その他)	防災情報新聞	「みやぎ東日本大震災津波伝承館」がアートの力に	佐藤雅輔	報道・コメント
411	2022/8/20	ウェブ(国内)	goo-ニュース(他1件)	地震で地面が陥没する?～液状化を知ろう	森口周二	出演
412	2022/8/21	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES!：土砂災害の早期検知	森口周二	出演
413	2022/8/22	新聞(全国紙)	毎日新聞	大学「うちのセンセイ 防災で恩返し」 東北大災害科学国際研究所助教・門庭充侍さん	門庭充侍	報道・コメント
414	2022/8/23	新聞(地方紙)	河北新報	避難場所指定 自分の命を守る/ヒメ達で地域防災研修	佐藤雅輔	報道・コメント
415	2022/8/23	テレビ	青春放送	RABニュースレター 一掃・沢町で「内水冠水」か、専門家「原因と備え	佐藤雅輔	報道・コメント
416	2022/8/25	ウェブ(国内)	Yahoo! Webzine	AJを用いて安全な避難行動を促す 逃げ遅れゼロに向けた川崎市の取り組み	災害科学国際研究所	その他
417	2022/8/25	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	【建築家・坂茂】紙管のシェルターで被災者支援を続ける終わらぬ使命	坂茂	その他
418	2022/8/26	機関誌-機関HP	京都大学防災研究所	第 59 回自然災害科学総合シンポジウム	奥村誠	その他
419	2022/8/26	ウェブ(国内)	QLife Pro	IVR利用者による新たな放射線防護員を開発、検証実験で80%以上の遮蔽効果	江口洋一 千田浩一	報道・コメント
420	2022/8/26	テレビ	NHK北海道	ほんとニュース北海道:大雨どこに避難するの?住民の戸惑い	佐藤雅輔	報道・コメント
421	2022/8/27	機関誌-機関HP	宮城県	みんなの視点で考える防災セミナーの開催について	佐藤雅輔	その他
422	2022/8/27	ウェブ(国内)	ナレッジキャピタル	SpringX 超学校 世界の課題 気候変動シリーズ	橋本雅和	その他
423	2022/8/27	新聞(地方紙)	河北新報	リポートみやぎ 松島町7月の記録的大雨「緊急安全確保」一足飛び判断は?	佐藤雅輔	報道・コメント
424	2022/8/27	新聞(全国紙)	読売新聞	地震、津波の脅威 クイズで	災害科学国際研究所	報道・コメント
425	2022/8/27	テレビ	NHK	新型コロナ対策 専門家「戦略的な経路は行っていない」	小坂健	報道・コメント
426	2022/8/27	新聞(その他)	毎日小学生新聞	水の循環	佐藤雅輔	執筆
427	2022/8/28	新聞(地方紙)	河北新報	夏の災害、熱中症の対策が急務 停電時は冷房使えず、台風被害で関連遅れ相次ぐ	佐々木宏之	報道・コメント
428	2022/8/29	その他	フジテレビ	ゾーンの独自基準データのデータを活用する コンソーシアムを設立	児玉栄一	報道・コメント
429	2022/8/29	その他	タリフ(他2件)	本当に「コロナ死者数」第7波の死者数「過去最多」で「世2億」 地方自治体から「直接はコロナ以外が大半」の声、定義や公表方法の見直しを	児玉栄一	報道・コメント
430	2022/8/29	テレビ	東日本放送	宮城県の新たな津波浸水想定 津波の高さに応じて避難所を活用へ	今村文彦	報道・コメント
431	2022/8/29	テレビ	ミヤギテレビ	「津波対策ガイドライン」を改正 宮城県津波対策連絡協議会 5月公表の最大クラスの津波浸水想定を受け	今村文彦	報道・コメント

	配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
439	2022/8/29	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1件)	車避難の検討など盛り 県の津波対策ガイドライン改定案	今村文彦	報道・コメント
441	2022/8/30	新聞(地方紙)	河北新報	津波ガイドライン 改定	今村文彦	報道・コメント
442	2022/8/30	新聞(全国紙)	読売新聞	日本赤十字社「江戸の災害・文理融合の研究進む」	嶋名裕一	報道・コメント
443	2022/8/31	機関誌・機関HP	日本財団ジャーナル	増える自然災害、不足する避難所。東大・日黒教員に聞く「在宅避難」の備えと防災の心得	日黒公郎	報道・コメント
444	2022/9/1	ラジオ	TBSラジオ	防災ラボ #1	佐藤翔輔	出演
445	2022/9/1	その他	女性自身(他2件)	秋の臨時国会でコロナ5割下げ下ろし。ワクチン 発費は3500円、初診4236円に！	尾玉 栄一	報道・コメント
448	2022/9/1	その他	日経BLINDERS VISION	まん延防止措置から避難インフラに…発着した津波浸水被害推計システムの真偽ー	榎村 俊一	企画協力
449	2022/9/1	新聞(地方紙)	河北新報	講話で学ぶ震災「3.11げんげん探訪」4日、津波伝承館	佐藤翔輔	報道・コメント
450	2022/9/1	ラジオ	NHKラジオ第1	NTVに:ニュースアップ「あなたの防災力、スマホで試そう！」	佐藤翔輔	出演
451	2022/9/2	新聞(地方紙)	河北新報	講話で学ぶ震災「3.11げんげん探訪」4日、津波伝承館	佐藤翔輔	報道・コメント
452	2022/9/2	その他	みやぎNPO情報ネット	令和4年度「県内語り部プロジェクト」	災害科学国際研究所	その他
453	2022/9/4	新聞(地方紙)	河北新報(他3件)	飲食店利用客の安全確保で議論 仙台銀座でむすび塾	佐藤翔輔	報道・コメント
457	2022/9/5	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES! 災害レジリエンス	江川新一	出演
458	2022/9/7	新聞(全国紙)	日本経済新聞	自宅など療養期間短縮へ新たな方針 知事・専門家 受けとめは	富田博秋	報道・コメント
459	2022/9/7	テレビ	NHK関西	自宅など療養期間短縮へ新たな方針 知事・専門家 受けとめは	小坂健	報道・コメント
460	2022/9/8	テレビ	NHK首都圏	コロナ療養期間短縮 症状ありは7日間 感染後のウイルス検出推移は	小坂健	報道・コメント
461	2022/9/8	テレビ	NHK秋田	ニュースこまち:大雨から1ヶ月 未明の浸水被害 避難のボイスト	佐藤翔輔	報道・コメント
462	2022/9/8	その他	週刊文春	コロナ対策、海外はどうなっている?	尾玉 栄一	報道・コメント
463	2022/9/8	テレビ	NHK大阪	関西ラジオワイド:防災コラム「東日本大震災以降の主な災害で SNSはどのように利用されてきたのか」	佐藤翔輔	出演
464	2022/9/8	テレビ	テレビ北海道	旭東部地震から4年 新人記者が防災教育の今を取材「取材現場から」	定池祐幸	出演
465	2022/9/9	テレビ	TBS	ひろびろ:自宅療養者“条件付き”で外出可能 専門家「拡大防止に「うがい」有効」	小坂健	出演
466	2022/9/9	ラジオ	NHKラジオ関西	関西ラジオワイド:防災コラム;東北大学 災害科学国際研究所 准教授・佐藤翔輔さん「東日本大震災以降の主な災害でSNSはどのように利用されてきたのか？」	佐藤翔輔	出演
467	2022/9/9	機関誌・機関HP	医療NEWS	恐怖記憶の制約にミクログリアが関与の可能性、PTSDの病態解明に期待—東北大ほか、	富田博秋	報道・コメント
468	2022/9/10	テレビ	東北放送	大地震の震度分布図について	遠田晋次	出演
469	2022/9/10	新聞(地方紙)	石巻かほく	津波避難、リアルに体験 震災遺構・門脇小「防災学習会 語り部が教訓	佐藤翔輔	報道・コメント
470	2022/9/10	新聞(地方紙)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:ラジオとSNSの使い方	佐藤翔輔	執筆
471	2022/9/11	新聞(地方紙)	河北新報	【いのちと地域を守る 防災・減災のページ】むすび塾 第106回巡回ワークショップ 利用火災の安全議論 仙台銀座でむすび塾	佐藤翔輔	報道・コメント
472	2022/9/12	新聞(地方紙)	河北新報(他1件)	突然の「緊急安全確保」、判断の是非は? 宮城・松島町、7月の大雨で発生	佐藤翔輔	報道・コメント
474	2022/9/12	テレビ	日本テレビ(他3件)	日テレニュース:福島・震災経験伝える語り部の意見交換会 よう伝えては…日頃の課題を話し合う	佐藤翔輔	その他
478	2022/9/12	ウェブ(国内)	リアアリア	神奈川県総合防災センターで開催される災害、押さえるべき防災ポイント、コロナ禍の避難所事情「など	坂茂	報道・コメント
479	2022/9/12	テレビ	NHK岩手	ニュース:震災の新しい津波浸水想定「重ねるハザードマップ」で聞ける可能性に	佐藤翔輔	報道・コメント
480	2022/9/12	テレビ	福島中央テレビ	ニュース:震災の経験を後世へ教訓伝える「語り部」の意見交換会	佐藤翔輔	出演
481	2022/9/12	テレビ	NHK盛岡	おぼんですいすい:津波新想定 データ、地図これだけのいい?	佐藤翔輔	出演
482	2022/9/13	その他	女性自身	コロナ5割引き下げでワクチン実費3千500円!	尾玉 栄一	報道・コメント
483	2022/9/13	新聞(地方紙)	福島民友新聞	語り部ネット発足へ11月上旬にも県、活動強化 震災原発事故	佐藤翔輔	報道・コメント
484	2022/9/13	新聞(全国紙)	読売新聞	東日本大震災11年 語り部団体 組織化促進 県が支援強化＝福島	佐藤翔輔	報道・コメント
485	2022/9/14	新聞(地方紙)	石巻日新新聞	「ま教対応」と日頃の情報共有」 災害研究の「ポロ助言委員会」 防災会議 校舎以外の津波避難先検討	佐藤翔輔、桜井愛子	報道・コメント
486	2022/9/15	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	Voice:「完璧な備えはない」と実感した井上晴美さんが熊本地震の経験を振り返って学んだこと 防災専門家が解説 #災害に備える	佐藤翔輔	報道・コメント
487	2022/9/15	新聞(その他)	時事通信(他1件)	肌分析技術を活用したストレスマネジメントシステムを構築～ポーラ化成、世界的に権威ある化粧品技術者学会にて発表～	門屋充徳	報道・コメント
489	2022/9/15	テレビ	岩手めんこいテレビ	新たな浸水想定 緊急避難場所を見直し 教訓を生かすための模索続く<岩手・釜石市>	佐藤翔輔	報道・コメント
490	2022/9/16	ウェブ(国内)	exciteニュース	ポーラ化成工業、肌分析技術を活用したストレスマネジメントシステムを構築	災害科学国際研究所	報道・コメント
491	2022/9/18	新聞(地方紙)	河北新報(他1件)	宮城県が公表した大地震の震度分布図、4種類の違いは? 東北大災害専攻・遠田教授に聞く	遠田晋次	報道・コメント
493	2022/9/18	その他	夕刊フジ(他1件)	この冬、子供はインフルに要注意 コロナ「第8波」と同時流行の懸念 「重症化、死亡リスクはコロナより高い」尾玉氏 「両ワクチンと同時に接種可」厚労省	尾玉 栄一	報道・コメント
495	2022/9/19	新聞(地方紙)	河北新報	歴史探り未来の防災に	嶋名裕一	報道・コメント
496	2022/9/19	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES! 災害医療国際協力	江川新一	出演
497	2022/9/20	テレビ	NHK岩手	巨大地震と津波の新たな被害想定 東日本大震災を上回るおそれ	佐藤翔輔	報道・コメント
498	2022/9/21	新聞(地方紙)	河北新報(他4件)	録の揺れ、制震装置動作か、仙台の複合ビル 専門家「レアケース」	五十子幸樹	報道・コメント
503	2022/9/21	テレビ	NHK北海道	千と千尋の神隠し 避難セットとは?	定池祐幸	報道・コメント
504	2022/9/21	新聞(その他)	防災情報新聞	『ツナミリアル』のリアル防災 語り部が喚起 防災への志	佐藤翔輔	報道・コメント
505	2022/9/21	テレビ	FNNニュース:高齢者も多く…「緊急避難場所の整備」という新たな課題も。東日本大震災から11年「岩手発」	佐藤翔輔	報道・コメント	
507	2022/9/21	テレビ	NHK北海道	千と千尋の神隠し 避難セットとは?	定池祐幸	出演
508	2022/9/23	新聞(地方紙)	河北新報	新津波想定:石巻・鹿島、専門家交えた学校防災推進会議 避難候補地を視察	佐藤翔輔、桜井愛子	報道・コメント
509	2022/9/23	新聞(地方紙)	河北新報	新津波想定:備え万全に 専門家交えた学校防災推進会議	佐藤翔輔	報道・コメント
510	2022/9/24	新聞(その他)	毎日小学生新聞	カードゲームで災害トレーニング	佐藤翔輔	執筆
511	2022/9/26	ラジオ	NHKラジオ第1	安心ラジオ:新型コロナ療養期間などの短縮	小坂健	報道・コメント
512	2022/9/27	ウェブ(国内)	Wedg ONLINE	3年ぶり上昇「基準地価」 都市と地方の事情とは	吉田浩	その他
513	2022/9/28	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1件)	防備強化に向こうに思いを 三陸ブルーフロンティアプロジェクトが始まる	川内淳史	報道・コメント
515	2022/9/28	新聞(地方紙)	河北新報社(他3件)	パネル型住宅をウクライナに 坂茂さんら開発、学生が試作	坂茂	報道・コメント
519	2022/9/28	テレビ	テレビ東京(他1件)	世界的建築家・坂茂氏 ウクライナで住宅建設を支援	坂茂	報道・コメント
521	2022/9/29	テレビ	NHK岩手	被災時にSNSを通じて情報発信は全体の2割 発信先も限定的	佐藤翔輔	報道・コメント
522	2022/9/30	新聞(地方紙)	三陸新聞	気仙沼の防災をインドネシア高官が視察	災害科学国際研究所	報道・コメント
523	2022/9/30	新聞(地方紙)	福島民友新聞	震災教訓、防災に生かす マスク倫理全国大会、分科会で意見交換	今村文彦	報道・コメント
524	2022/9/30	新聞(地方紙)	中日新聞	建設政策課「ゼロ」危機管理総室「421世帯」「孤立」静岡市避難 定義 統一されず	佐藤翔輔	報道・コメント
525	2022/10/1	新聞(地方紙)	東京新聞	静岡市 孤立集落はゼロ? 定義統一なく情報錯綜	佐藤翔輔	報道・コメント
526	2022/10/4	新聞(地方紙)	福島民報(他3件)	防災力向上へ連携 東北大災害科学国際研究所・福島県いわき市が協定 巨大地震へ備え	災害科学国際研究所	報道・コメント
530	2022/10/4	新聞(地方紙)	河北新報	地域防災強化へ交流	災害科学国際研究所	報道・コメント
531	2022/10/5	機関誌・機関HP	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所、スマホで石巻を判読できる「ひまわり拓本」アプリ公開のためのクラウドファンディングを10月5日開始	災害科学国際研究所	その他
534	2022/10/6	新聞(全国紙)	朝日新聞(他2件)	災害時の業務継続計画 専門家「起こりうる災害への備えを」	丸谷浩明	報道・コメント
537	2022/10/8	新聞(その他)	毎日小学生新聞	災害対策基本法と災害伝承	佐藤翔輔	執筆
538	2022/10/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、津波被害別「レジリエンス」に着目するモデルを開発することに成功	門屋充徳	報道・コメント
539	2022/10/12	テレビ	仙台放送	流域のために…消える集落 東日本大震災から3年 丸森町の今と進む対策(宮城)	山本史幸	報道・コメント
540	2022/10/12	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	流域のために…消える集落 東日本大震災から3年 丸森町の今と進む対策(宮城)	山本史幸	報道・コメント
541	2022/10/12	テレビ	東北放送	復興事業で“建物0軒”の衝撃「区画整理事業は津波被災地には適さない?」宮城	増田臣	報道・コメント
542	2022/10/12	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	復興事業で“建物0軒”の衝撃「区画整理事業は津波被災地には適さない?」宮城	増田臣	報道・コメント
543	2022/10/12	テレビ	東北放送	ひろびろ:周りの目が気になってマスクを外せない? 新たなマスク着用ルールを検討へ	小坂健	報道・コメント
544	2022/10/12	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	ひろびろ:周りの目が気になってマスクを外せない? 新たなマスク着用ルールを検討へ	小坂健	報道・コメント
545	2022/10/12	ウェブ(国内)	livehood NEWS	ひろびろ:周りの目が気になってマスクを外せない? 新たなマスク着用ルールを検討へ	小坂健	報道・コメント
546	2022/10/12	ウェブ(国内)	au webポータル	ひろびろ:周りの目が気になってマスクを外せない? 新たなマスク着用ルールを検討へ	小坂健	報道・コメント
547	2022/10/12	ウェブ(国内)	NHK	水際対策緩和とマスク着用は同時進行の可能性 対症は進む現場は	小坂健	報道・コメント
548	2022/10/13	テレビ	NHK	新型コロナウイルスインフルエンザ同時流行の可能性 どんな事態か?	小坂健	報道・コメント
549	2022/10/13	機関誌・機関HP	NHK	アタマルモリ第1弾「開催」しました!	川内淳史	その他
550	2022/10/13	テレビ	東北放送	ひろびろ:12年ぶりの流行で抗体のないインフル・コロナ同時流行の可能性 早期ワクチン接種で備えを!	小坂健	報道・コメント
551	2022/10/15	新聞(全国紙)	毎日新聞	復興住宅に4割浸水! 安全だから来たのに 移住した被災者、戸惑い	今村文彦	報道・コメント
552	2022/10/18	新聞(地方紙)	河北新報	気仙沼の被災と復興を伝える 石巻・南浜の伝承館で企画展	災害科学国際研究所	報道・コメント
553	2022/10/20	新聞(地方紙)	河北新報	むし北上山が氾濫した… 石巻・大谷地小6年生、地区の災害特性学が	佐藤翔輔	報道・コメント
554	2022/10/20	新聞(地方紙)	石巻かほく	命守る行動 意見交換 6年生 地区の災害特性学が	佐藤翔輔	報道・コメント
555	2022/10/21	テレビ	NHK宮城	東北大学「災害科学国際研究所」発足10周年	災害研、今村文彦	報道・コメント
556	2022/10/21	テレビ	仙台放送	FNNニュース:災害に強い「社会作り」を東北大災害科学国際研究所設立10周年 記念式典(仙台)	災害研、今村文彦	報道・コメント
557	2022/10/21	テレビ	マイザテレビ	東北大 災害科学国際研究所10周年 日本海溝・千島海溝地震震度、次の10年へ活動を進める	災害研、今村文彦	報道・コメント
558	2022/10/21	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	東北大 災害科学国際研究所10周年 日本海溝・千島海溝地震震度、次の10年へ活動を進める	災害研、今村文彦	報道・コメント
559	2022/10/22	新聞(地方紙)	河北新報	東北大災害科学国際研究所が発設10周年 災害に強い「社会づくり」の貢献誓う	災害研、今村文彦	報道・コメント
560	2022/10/22	ウェブ(国内)	au webポータル	東北大災害科学国際研究所が発設10周年 災害に強い「社会づくり」の貢献誓う	災害研、今村文彦	報道・コメント
561	2022/10/22	テレビ	東北放送	震災教訓に研究 東北大学の災害科学国際研究所が発設10周年	災害研、今村文彦、平川	報道・コメント
562	2022/10/22	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	震災教訓に研究 東北大学の災害科学国際研究所が発設10周年	災害研、今村文彦、平川	報道・コメント
563	2022/10/22	新聞(その他)	毎日小学生新聞	「津波でんこん」とは?	佐藤翔輔	執筆
564	2022/10/24	テレビ	NHK北海道	「千島海溝沿いプレート境界浅部」に国着か 巨大地震起こすおそれ	藤田史郎	報道・コメント
565	2022/10/24	テレビ	日本放送	復興を支え被災者の備えを進める 東北大学の災害科学国際研究所が10周年	災害研、今村文彦	報道・コメント
566	2022/10/24	テレビ	Yahoo! ニュース	復興を支え被災者の備えを進める 東北大学の災害科学国際研究所が10周年	災害研、今村文彦	報道・コメント
567	2022/10/24	テレビ	REAL NEWS	水関連の災害がエスカレートするにつれて、専門家はより多くの警備技術を求めている。まず「コロナとインフル(2022年)ワクチン接種は?」同時感染で重症化は?	泉貴子	報道・コメント
568	2022/10/24	テレビ	NHK首都圏	「事前復興」の重要性指摘 10年の政策を検証する有識者会議、復興庁で初合会	小坂健	報道・コメント
569	2022/10/25	新聞(地方紙)	河北新報	第8波の入口か、「カールボロス」ワクチン「海外で新たな変異株 日本で14歳以下ワクチン接種開始【ひろびろ】	佐藤翔輔	報道・コメント
570	2022/10/26	テレビ	TBS(他1件)	復興は見えたと「22知事選」/4 大震災、語り部のこれから 後継育成、喫緊の課題 継続の仕組み、確立急務 /福島	佐藤翔輔	報道・コメント
572	2022/10/27	新聞(全国紙)	毎日新聞	復興は見えたと「22知事選」/4 大震災、語り部のこれから 後継育成、喫緊の課題 継続の仕組み、確立急務 /福島	佐藤翔輔	報道・コメント
573	2022/10/28	ウェブ(国内)	PR TIMES(他1件)	東北大学と三井不動産 人とロボットの共生による新たな価値創造を目指し、次世代社会に向けたロボットに関する共同研究を開始	本江正茂	報道・コメント
575	2022/11/1	テレビ	NHK仙台	おはよう宮城、SNSなど活用「防災コミュニケーション」	菅原大助	報道・コメント
576	2022/11/1	テレビ	日本放送	東北大学SNSを活用して実証実験 世代を超えた新たな防災コミュニケーション	菅原大助	報道・コメント
577	2022/11/2	テレビ	NHK宮城	SNS活用して防災コミュニケーションづくり 仙台	災害研、今村文彦、菅原大助	報道・コメント

配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類	
578	2022/11/3	新聞(全国紙)	読売新聞	栗原登の Wasserman による 高齢化、コロナ中止続き 1959年死者・不明者37人	佐藤翔輔	報道・コメント
579	2022/11/4	テレビ	NHK宮城	知ったく東北：22歳 新人記者の私が中学校の教室で知ったこと	佐藤翔輔	報道・コメント
580	2022/11/4	テレビ	NHK仙台	てれまむね：大切な人の命を守る マイタイムライン	佐藤翔輔	出演
581	2022/11/5	新聞(地方紙)	河北新報	成果を社会に役立てる「実践的防災学」確立へ 東北大学災害科学国際研究所設立10年	災害研、平川新、佐藤翔輔	報道・コメント
582	2022/11/5	ウェブ(国内)	au webポータル	成果を社会に役立てる「実践的防災学」確立へ 東北大学災害科学国際研究所設立10年	災害研、平川新、佐藤翔輔	報道・コメント
583	2022/11/5	新聞(地方紙)	河北新報	横断的な研究体制への評価高く 東北大学災害研設立10年 制度提言の役割求めた声も	災害研	報道・コメント
584	2022/11/5	新聞(地方紙)	河北新報	社会課題解決へ人材確保一今村文彦所長に聞く	災害研、今村文彦	報道・コメント
585	2022/11/5	テレビ	ニガタテレビ	news every サタデー 互理町で津波防災シンポジウム	佐藤翔輔、柴山明寛	出演
586	2022/11/5	テレビ	東北放送	ニュース：今年3月の地震で避難した住民の割合64% 「津波防災の日」互理町で「津波防災シンポジウム」	佐藤翔輔、柴山明寛	出演
587	2022/11/5	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ：新しい地図記号「自然災害伝承碑」	佐藤翔輔	執筆
588	2022/11/6	新聞(全国紙)	読売新聞	「津波避難練習習慣化を」互理で防災シンポ	佐藤翔輔、柴山明寛	報道・コメント
589	2022/11/6	新聞(地方紙)	河北新報	「最悪」想像し行動促す 互理でシンポ	災害研、佐藤翔輔、柴山明寛	報道・コメント
590	2022/11/7	テレビ	東北放送	「ミサイル・大雨・地震」増える緊急連絡メールで専門家指摘する「大事なこととは？」	佐藤翔輔	報道・コメント
591	2022/11/7	テレビ	東北放送	Nスタみやぎ、「訓練で検証を」経験に学ぶ津波への備え 考えるシンポ	佐藤翔輔	報道・コメント
592	2022/11/8	テレビ	福岡毎日放送	突然のアラート「出たらどうする？」5年前の福岡・ソウル大規模訓練を参考に考える	佐藤翔輔	報道・コメント
593	2022/11/8	テレビ	東日本放送	チャージ：宮城・七ヶ浜町で津波防災シンポジウム 宮城県の新たな津波浸水想定を受け「訓練」検証を「経験」に学ぶ津波への備え 考える	佐藤翔輔	報道・コメント
594	2022/11/8	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	宮城・七ヶ浜町で津波防災シンポジウム 宮城県の新たな津波浸水想定を受け	佐藤翔輔	報道・コメント
595	2022/11/8	その他	夕刊フジ	「ミサイル・大雨・地震」増える緊急連絡メールで専門家指摘する「大事なこととは？」	佐藤翔輔	報道・コメント
596	2022/11/8	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	「ミサイル・大雨・地震」増える緊急連絡メールで専門家指摘する「大事なこととは？」	佐藤翔輔	報道・コメント
597	2022/11/9	テレビ	東北放送	「後発地震注意情報」はなぜナニ？注意報が出たらどうしたら良いの？	今村文彦	報道・コメント
598	2022/11/9	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	「後発地震注意情報」はなぜナニ？注意報が出たらどうしたら良いの？	今村文彦	報道・コメント
599	2022/11/10	新聞(地方紙)	福島民報	福島県内6市町が「開設する」津波防衛隊 北海道・三陸沖後発地震注意情報で自主避難所	今村文彦	報道・コメント
600	2022/11/13	その他	東洋経済	東北大学・福島、宮城 震災復興から、その先へ 産学官をむすぶ連携拠点として地域の新たな未来を切り拓く	災害科学国際研究所	報道・コメント
601	2022/11/14	テレビ	福島放送(他1件)	三重県沖が震源の地震で県内で震度4+ 異常震域か	今村文彦	報道・コメント
603	2022/11/14	その他	夕刊フジ(他1件)	コロナ、インフルが「三重流行」の可能性 第3のウイルス「RSウイルス」は乳幼児が重症化傾向 医療関係者「高齢者も警戒が必要」	佐藤翔輔	報道・コメント
605	2022/11/15	新聞(地方紙)	防災 科学の視点で分りやすく 23日、南浜・伝承館 東北大と県が「キッズパーク」	災害研、福岡洋、榎田竜太	報道・コメント	
606	2022/11/16	新聞(地方紙)	河北新報	防災意識 発表で高める 塩釜二中 パネル討論に100人	佐藤翔輔	報道・コメント
607	2022/11/17	新聞(地方紙)	西日本新聞	災害避難のための「科学的」少数者の本音…福岡の自治体職員と県民と、限定対話	北村英和子	報道・コメント
608	2022/11/18	機関誌・機関HP	(株)宇通通信社	【東北大】東北大震災アーカイブページを1月に開催、災害科学国際研究所の設立10年にあたり、みちのけ震災伝承の活動を振り返る。	災害研	報道・コメント
609	2022/11/18	新聞(地方紙)	北海道新聞	防災最前線：南西沖地震の経験 西胆振で生かして 室蘭 西胆振支庁職員の研修会 自治体職員に講演 室蘭	尾池悠志	報道・コメント
610	2022/11/18	新聞(地方紙)	上みょう大江戸あしんぶん	防災最前線：南西沖地震の経験 西胆振で生かして 室蘭 西胆振支庁職員の研修会 自治体職員に講演 室蘭	尾池悠志	報道・コメント
611	2022/11/19	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ：過去から未来を知る 古文書に残る災害の記録	佐藤翔輔	執筆
612	2022/11/20	新聞(地方紙)	河北新報	発生時間帯、渋滞... 災害対応の課題確認 宮城・七ヶ浜で防災シンポ	災害研、今村文彦、佐藤翔輔	報道・コメント
613	2022/11/20	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES：ウクライナ侵攻で危惧されるメンタルヘルスの課題	國井泰人	出演
614	2022/11/20	新聞(地方紙)	河北新報	発生時間帯、渋滞...災害対応の課題確認 宮城・七ヶ浜で防災シンポ	佐藤翔輔	報道・コメント
615	2022/11/21	新聞(地方紙)	河北新報(他1件)	宮城県の広域防災拠点、完成のめど見えず 事業費は増大 仙台・宮城野	丸谷浩明	報道・コメント
617	2022/11/22	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東京都、コロナ後遺症研修会 「感染後2カ月無症状」	小坂健	報道・コメント
618	2022/11/22	テレビ	NHK静岡	災害時の行動書かかれたハンカチ使いの防災学が 御前崎市の小学校	保田真理	報道・コメント
619	2022/11/23	新聞(全国紙)	毎日新聞(他1件)	アドバンスは現代版「福むらひの火」？ 院生考案、津波避難の新しい方法	佐藤翔輔	報道・コメント
621	2022/11/24	その他	AER.Adot	巨大地震、津波から逃れるも「寒さ」が敵に 低温環境の危険から身を守る備えとは？	佐々木宏之	報道・コメント
622	2022/11/27	新聞(地方紙)	河北新報	避難所運営に女性視点も 山形・酒田で防災リーダー研修会	保田真理	報道・コメント
623	2022/11/27	ラジオ	TokyoFM	防災FRONT LINE：津波の危険意識「薄れていませんか？」	今村文彦	報道・コメント
624	2022/11/27	ラジオ	Yahoo! ニュース	防災FRONT LINE：津波の危険意識「薄れていませんか？」	今村文彦	報道・コメント
625	2022/11/27	ラジオ	TokyoFM	「津波の危険意識」薄れていませんか？	今村文彦	出演
626	2022/11/28	ウェブ(国内)	カレントアウェアネス・ポータル	【イベント】令和4年度 東北大学防災アーカイブシンポジウム-震災記録を次世代につなぐ(19・仙台、オンライン)	災害科学国際研究所	その他
627	2022/11/28	新聞(地方紙)	河北新報	東北大震災11年：教訓の伝承にゆして 仙台 県内外の自治体職員ら議論「失敗こそ重要」「対話し防災定着」	佐藤翔輔	報道・コメント
628	2022/11/28	その他	AER.Adot	巨大な津波「寒さ」も敵 大震災から身を守るための方法	佐々木宏之	報道・コメント
629	2022/11/29	新聞(地方紙)	石巻あまのつ	科学的視点で災害学ぶ 子どもたち、地震の仕組みを体験	福岡洋	報道・コメント
630	2022/11/29	新聞(全国紙)	毎日新聞	津波警報出たら空見で避難目録、アドバンス活用 実験の大学院生、実現へ奔走	佐藤翔輔	報道・コメント
631	2022/11/29	新聞(地方紙)	河北新報	科学的視点で災害学ぶ 子どもたち、地震の仕組みを体験 石巻	災害研、福岡洋、榎田竜太	報道・コメント
632	2022/12/1	新聞(地方紙)	河北新報	暴風の備え・ボランティア...防災学習成果 地域と共有/丸森・館元小川/工夫凝らし児童発表	柴山明寛	報道・コメント
633	2022/12/2	テレビ	岩手めんこいテレビ(他1件)	三陸道活用「新フールド」を検討 17年マ性重視 伝承施設など周遊-cwatekenn	奥村純	報道・コメント
635	2022/12/4	新聞(地方紙)	河北新報	<東北の本欄>多様な視点 沿岸漁漁に呼	川島秀一	その他
636	2022/12/5	新聞(地方紙)	読売中学生新聞みやぎ	震災の教訓 学び、備える	災害研、今村文彦	その他
637	2022/12/6	新聞(地方紙)	河北新報	仙台藩 理藩博士の北海道開拓が縁 5市町 地域防災対応学ぶ	佐藤翔輔	報道・コメント
638	2022/12/6	テレビ	NHK岩手	おはようまで！津波から身を守る？ 前払いの防災の現場	佐藤翔輔	出演
639	2022/12/7	テレビ	東北放送	宮城県の新たな津波浸水想定 浸水想定エリアの住民への周知が課題	今村文彦	報道・コメント
640	2022/12/7	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	宮城県の新たな津波浸水想定 浸水想定エリアの住民への周知が課題	今村文彦	報道・コメント
641	2022/12/9	新聞(その他)	日刊建設工業新聞	建設業者団体/入職促進ヘンナーグループで若者にPR、掲載回数30万超の人気企画も	今村文彦	報道・コメント
642	2022/12/9	ウェブ(国内)	QJ Pro	総合失調症における男女差、脳内遺伝子発現レベルから明らかに 東北大ほか	福田博秋	その他
643	2022/12/9	新聞(全国紙)	読売新聞	謎の言語「ターボ語」がツイッターで拡散 コロナワクチン「後遺症」と流布 根拠ない情報に注意	小坂健	報道・コメント
644	2022/12/10	新聞(地方紙)	福島民報	震災語り部育成 年度内に計画案 「ふくしまネット」初国会	佐藤翔輔	報道・コメント
645	2022/12/11	新聞(地方紙)	福島民友新聞	防災力向上の方策探る 富岡でイベント開催シンポ、ロボ活用	田所諭	報道・コメント
646	2022/12/11	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞	防備増アートの心も彩る 石巻に震災 3.5年計画	柴山明寛	報道・コメント
647	2022/12/11	新聞(地方紙)	三陸新報	大谷小で防災発表会	佐藤翔輔	報道・コメント
648	2022/12/11	朝日新聞	朝日新聞	庁舎転移「そんな単純な話じゃ...」最大級の津波にどう備える	佐藤翔輔	報道・コメント
649	2022/12/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞	国土院・東北大・JR東海、電子基準点リアルタイム解析システム情報の提供及び活用に関する産学官連携の協定を締結	災害研、越村俊一、村嶋一	報道・コメント
650	2022/12/12	ウェブ(国内)	DIGITAL X	医療・ヘルスケアのデジタル化には個人医療データ「PHR」の有効活用が不可欠	中山雅晴	報道・コメント
651	2022/12/13	新聞(地方紙)	中日新聞	南海トラフ対策で協定	災害研、越村俊一、村嶋一	報道・コメント
652	2022/12/13	新聞(その他)	三陸新報	大谷小で防災発表会	佐藤翔輔	報道・コメント
653	2022/12/13	新聞(全国紙)	朝日新聞	「東北大震災12年へ 3.11の現在地」福んで、見直す、津波の備え	佐藤翔輔	報道・コメント
654	2022/12/13	テレビ	NHK仙台	てれまむね：あすの東北 津波どう逃げる？ あえて車避難のルール	佐藤翔輔	出演
655	2022/12/14	新聞(地方紙)	福島民報	防災力向上へ取り組み考える 福島イバ機構シンポジウム 福島県富岡町	今村文彦	報道・コメント
656	2022/12/14	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	防災力向上へ取り組み考える 福島イバ機構シンポジウム 福島県富岡町	今村文彦	報道・コメント
657	2022/12/15	新聞(地方紙)	読売新聞	仙台の中学生が新聞記者に挑戦！「わくわくしてほかにかきかき」東北大ほか	災害研、今村文彦	その他
658	2022/12/15	機関誌・機関HP	EL BORDE(野村証券)	カーパズやネズミが人を救助する未来？ リスキューロボットとは	田所諭	報道・コメント
659	2022/12/16	テレビ	NHK宮城	「後発地震注意情報」運用始まる 宮城県は全市町村が対象	今村文彦	報道・コメント
660	2022/12/16	新聞(地方紙)	読売新聞	後発地震備え万全に きょうから注意情報 全35市町村対象	柴山明寛	報道・コメント
661	2022/12/16	テレビ	NHK岩手	津波工学の専門家「避難の意識を一段上げて被害を減らせよ」	今村文彦	報道・コメント
662	2022/12/16	新聞(地方紙)	河北新報	「北海道・三陸沖後発地震注意情報」きょう開始 宮城など4県自治体の6割「住民に知られていない」	佐藤翔輔	報道・コメント
663	2022/12/16	ウェブ(国内)	Yahoo! ニュース	「北海道・三陸沖後発地震注意情報」きょう開始 宮城など4県自治体の6割「住民に知られていない」	佐藤翔輔	報道・コメント
664	2022/12/16	テレビ	NHK宮城	知ったく東北：「後発地震注意情報」って何？	今村文彦	報道・コメント
665	2022/12/17	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ：教訓を語り継ぐ行事やお祭り	佐藤翔輔	執筆
666	2022/12/20	新聞(全国紙・地方版)	日本経済新聞	SNSを使ったウクライナ分析に関する報道	藤井進、國井泰人、栗山進一	報道・コメント
667	2022/12/20	新聞(全国紙・地方版)	朝日新聞	SNSを使ったウクライナ分析に関する報道	藤井進、國井泰人、栗山進一	報道・コメント
668	2022/12/20	新聞(全国紙・地方版)	産経新聞	SNSを使ったウクライナ分析に関する報道	藤井進、國井泰人、栗山進一	報道・コメント
669	2022/12/20	テレビ	NHK国際	SNSを使ったウクライナ分析に関する報道	藤井進、國井泰人、栗山進一	報道・コメント
670	2022/12/22	新聞(地方紙)	河北新報(他2件)	医療・メンタルヘルス関連ツイート、ウクライナで急増4.4倍 東北大研究グループ、侵攻前と比較	災害研、藤井進	報道・コメント
673	2022/12/22	テレビ	NHKワールド	調査：侵攻後に急増した医学用語を使用したウクライナ語のツイート	災害研、藤井進	報道・コメント
674	2022/12/22	新聞(全国紙)	朝日新聞(他1件)	採血、絶望、話したくないウクライナ発の投稿変化、東北大が分析	災害研、藤井進、國井泰人	報道・コメント
676	2022/12/22	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイートを分析	災害研、藤井進	報道・コメント
677	2022/12/22	新聞(全国紙)	産経新聞(他5件)	ウクライナのツイート分析 医療、メンタルが急増、「糖尿薬」40倍に 東北大	災害研、藤井進	報道・コメント
683	2022/12/22	テレビ	NHK(他1件)	ウクライナ語ツイート発信を分析「薬」医療機関が急増	災害研、藤井進	報道・コメント
685	2022/12/22	その他	日経クロステック	各地を駆けつける建築家の先に見えてきた世界標準の流儀	坂茂	報道・コメント
686	2022/12/23	新聞(地方紙)	あなただけの静岡新聞	防災研究や教育、連携を強化 静岡県と東北大災害研が賞書	災害研、今村文彦	報道・コメント
687	2022/12/23	ウェブ(国内)	アワード	ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイートの分析 医療薬が急増、「糖尿薬」40倍に 東北大	災害研、藤井進	報道・コメント
688	2022/12/25	新聞(地方紙)	河北新報	高校生 防災の基礎学が 50人ジュニアリーダー認定 岩巻で研修会	佐藤翔輔	報道・コメント
689	2022/12/27	その他	夕刊フジ	日本で変異株「爆発」。1月の春節で中国人が大量入国 水際対策急げ、北京の米大使館は「ビザ発給停止 病原性高くワクチン効果」すり抜ける株も	國井泰人	報道・コメント
690	2022/12/27	ウェブ(国内)	iza	日本で変異株「爆発」。1月の春節で中国人が大量入国 水際対策急げ、北京の米大使館は「ビザ発給停止 病原性高くワクチン効果」すり抜ける株も	國井泰人	報道・コメント
691	2022/12/27	ウェブ(国内)	BIGLOBEニュース	【早期割引締切迫る】4年ぶりに仙台で世界防災フォーラム開催決定！ 互いに学び合い、新たな価値を創造し、仙台防災の枠組みを推進していく、「世界防災フォーラム」防災ダダ会議(仙台2023)	災害研	その他



配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類	
692	2022/12/27	新聞(地方紙)	河北新報	次世代の防災担い手に 石巻でジュニアリーダー養成研修会	佐藤健	報道・コメント
693	2022/12/28	新聞(全国紙)	毎日新聞	「戦争が断下の奥に立つてみた」は...	災害科学国際研究所	その他
694	2022/12/29	機関誌・機関HP	大学ジャーナルオンライン	ツイートが示す、戦禍のウクライナの医療需要・メンタルヘルス 東北大学	災害研・藤井進	報道・コメント
695	2022/12/29	新聞(地方紙)	河北新報	[社告]客員監査委員が交代します	佐藤翔輔	報道・コメント
696	2023/1/1	新聞(地方紙)	河北新報	祝設立10周年 東北大学災害科学国際研究所	佐藤翔輔	報道・コメント
697	2023/1/1	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災から12年 記憶を伝える、備えを学ぶ 石巻地方	災害研・今村文彦	報道・コメント
698	2023/1/1	新聞(地方紙)	河北新報	第72回河北文化賞 5個人1団体	川島秀一、佐藤源之	その他
699	2023/1/5	新聞(その他)	教育家庭新聞	学びが変わる、DXが変わるー東北大学大学院情報科学研究所シンポ2/19開催	吉本俊浩	その他
700	2023/1/6	ウェブ(国内)	サイエンスポータル(他1件)	メンタルヘルスの悪化を危惧 ウクライナ語のツイート10件分析 東北大	災害研・藤井進、園井泰人、栗山進一	報道・コメント
702	2023/1/7	新聞(地方紙)	河北新報	北海道・三陸沖後発地震注意情報 東北の企業 対応模索	丸谷浩明	その他
703	2023/1/7	テレビ	NHKBS	「英雄たちの選択」戦国のアプロが瀬谷徳川家康・平和への選択	嶋名裕一	報道・コメント
704	2023/1/9	テレビ	東日本放送(他1件)	東日本大震災の総経歴を後世に 東北大学でシンポジウム	災害研・今村文彦	報道・コメント
706	2023/1/9	新聞(国外)	The Japan Times	How researchers in disaster-prone Japan and the Pacific are rethinking city design	Osamu Muraio	報道・コメント
707	2023/1/10	新聞(その他)	時事通信(他2件)	巨大地震連続発生率、最大96%＝南海トラフで3年以内ー東北大など	福島洋	報道・コメント
710	2023/1/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞(他1件)	南海トラフ地震後1週間、M8級連続の発生率高く 東北大学	福島洋	報道・コメント
712	2023/1/10	新聞(全国紙)	読売新聞(他1件)	南海トラフ東西どちらかでM8以上、1週間以内の連続発生率は100倍以上	福島洋	報道・コメント
714	2023/1/10	新聞(全国紙)	産経新聞(他1件)	南海トラフ巨大地震、総発生率は1週間以内に最大77% 他地域より起きやすく	福島洋	報道・コメント
716	2023/1/10	その他	夕刊フジ(他1件)	中国発「新変異株、危機」日本の水際検止ははや不可能「春節で第9波リスク」児玉栄一教授 不透明な習近平政権の発表に懸念	児玉栄一	報道・コメント
718	2023/1/10	新聞(その他)	共同通信(他2件)	後発地震の発生確率高まる 南海トラフ、東北大など	福島洋	報道・コメント
721	2023/1/10	新聞(全国紙)	読売新聞(他1件)	南海トラフ東西どちらかでM8以上、1週間以内の連続発生率は100倍以上	福島洋	報道・コメント
723	2023/1/11	新聞(その他)	The Japan Times	Japan study points to high probability of twin earthquakes in Nankai Trough	福島洋	報道・コメント
724	2023/1/11	新聞(地方紙)	河北新報	後発地震確率最大77% M8級 1週間以内に 南海トラフ分析	福島洋	報道・コメント
725	2023/1/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	震災経験者職員同士で伝承「日ごろから備えを」仙台市が企画	佐藤翔輔	報道・コメント
726	2023/1/11	新聞(全国紙)	毎日新聞(他5件)	南海トラフ後1週間 大地震確率「最大3600倍」 東北大など研究チーム試算	福島洋	報道・コメント
732	2023/1/11	新聞(地方紙)	北海道新聞	南海トラフの地震後 後発の発生確率上昇 東北大など研究チーム	東北大	報道・コメント
733	2023/1/11	テレビ	テレビ朝日	南海トラフ沿いの巨大な「後発地震」1週間以内の発生確率試算 約8割に上る	福島洋	報道・コメント
734	2023/1/11	テレビ	TBS(他2件)	南海トラフ巨大地震1週間以内の後発地震発生確率最高77%平時の3600倍まで急上昇「巨大地震が立て続けに起こる可能性を踏まえた事前準備」東北大などが発表	福島洋	報道・コメント
737	2023/1/11	テレビ	東日本放送	南海トラフ沿いの巨大な「後発地震」1週間以内の発生確率初算出 約8割に上る	福島洋	報道・コメント
738	2023/1/11	新聞(その他)	日刊工業新聞	南海トラフ地震、発生1週間以内のM8級誘発率は最大3600倍 東北大など解析	福島洋	報道・コメント
739	2023/1/11	その他	Forbes JAPAN	ウクライナ語でのツイートを10件分析、抑うつやPTSR示す発信が侵襲後に増加	災害研・園井泰人、栗山進一	報道・コメント
740	2023/1/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	南海トラフ地震後1週間、M8級連続の発生率高く 東北大学	福島洋	報道・コメント
741	2023/1/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	観測伝えおぼろげ 震災知らぬ職員へ「次の備えに危機感」語り継ぎ集い	佐藤翔輔	報道・コメント
742	2023/1/11	新聞(全国紙)	朝日新聞	【東日本大震災12年 3.11の現在地】車で避難、どんな場合に	佐藤翔輔	報道・コメント
743	2023/1/11	新聞(全国紙)	産経新聞(他5件)	被災者支援のアップデートも	園井泰人	その他
749	2023/1/12	新聞(地方紙)	河北新報	観測時期「厚い」備えを 東北大災害研講師「保田真里さんに聞く	定池祐幸	報道・コメント
750	2023/1/12	新聞(全国紙)	朝日新聞	津波犠牲者の慰霊祭が今年終了 高齢の役員に負担増中「宮城・気仙沼	伊田真樹	報道・コメント
751	2023/1/12	テレビ	日本テレビ(他1件)	ニュース：南海トラフ地震発生1週間以内の別の巨大地震「最大77%」 東北大学など	佐藤翔輔	報道・コメント
753	2023/1/12	新聞(全国紙)	読売新聞	膨大な震災資料 活用方法は「デジタル化など実例共有」AIで整理、分類 東北大で開発中	柴山明寛	報道・コメント
754	2023/1/12	新聞(地方紙)	神戸新聞	災害の記憶、専門家で語られる「30年経ても」を越えるには 模索続ける現場	佐藤翔輔	報道・コメント
755	2023/1/12	新聞(全国紙)	朝日新聞	11日に想う 震災1年10カ月「慰霊祭が今年で第23回、遺族会存続は 多くの住民に犠牲、気仙沼・波路上杉ノ下地区	佐藤翔輔	報道・コメント
756	2023/1/12	新聞(地方紙)	神戸新聞	阪神大震災27年：伝え遺す(下)被災地に向き合い、神戸市流でこも生かせる	定池祐幸	報道・コメント
757	2023/1/15	その他	夕刊フジ(他1件)	中国の全人口9割がコロナ感染の衝撃 止む効かず放置されれば重大リスク「集団免疫、獲得も脅威はその後」...ハーバード大などが研究論文	児玉栄一	報道・コメント
759	2023/1/16	新聞(地方紙)	河北新報	総合失調患者の脳の情報伝達解析、発現異常で男女に差 東北大グループ発表	志倉前、富田博秋	報道・コメント
760	2023/1/16	新聞(地方紙)	北海道建設新聞	迫る巨大地震(上)東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター准教授 太田雄策氏	太田雄策	報道・コメント
761	2023/1/16	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東北大、産後1年以内の女性における自殺のリスク要因を検証	齊藤昌利	報道・コメント
762	2023/1/17	新聞(地方紙)	河北新報	第72回河北文化賞より贈呈式 5個人1団体に賞状	佐藤源之、川島秀一	その他
763	2023/1/17	新聞(全国紙)	読売新聞	「防災ニッポン」南海トラフ巨大地震は連続して起きるかも!「その時」どう行動する?	福島洋	報道・コメント
764	2023/1/17	ウェブ(国内)	JST Science Portal	南海トラフ地震の1週間以内に別の巨大地震、最大で「平常時の3600倍起きやすい」 東北大などが試算	福島洋	報道・コメント
765	2023/1/17	テレビ	朝日朝日テレビ	南海トラフ沿いは後発地震発生可能性が高い「閉入れず起こる可能性も」	福島洋	報道・コメント
766	2023/1/17	機関誌・機関HP	TECH+	産前の精神的な既往症が産後の自殺念慮リスクを高める 東北大が発表	齊藤昌利、富田博秋	報道・コメント
767	2023/1/17	テレビ	朝日朝日テレビ	南海トラフ2つの地震連続か「後発」への事前避難は	福島洋	報道・コメント
768	2023/1/18	ウェブ(国内)	マイナビドクター	産後自殺予防介入、うつ病以外の幅広い精神疾患もー東北大が研究成果発表、DPCデータ解析・検証	齊藤昌利	報道・コメント
769	2023/1/18	新聞(地方紙)	河北新報	仙台育英高標準野球部など5個人1団体に賞状 第72回河北文化賞贈呈式	佐藤源之、川島秀一	その他
770	2023/1/18	新聞(地方紙)	河北新報	第72回河北文化賞贈呈式 献身 開業東北に光	佐藤源之、川島秀一	その他
771	2023/1/18	テレビ	毎日放送	よんちゃんTV:震災から28年...記憶・経緯どうつなぐ	伊藤雅樹	出演
772	2023/1/19	その他	夕刊フジ(他1件)	新型コロナウイルス(1)に緩和、屋内マスク原則不要で波紋 専門家「国主導のマスク議論こそ不要」 感染後の睡眠障害、オミクロン株ではデルタ株などに比べて2倍超	児玉栄一	報道・コメント
774	2023/1/19	機関誌・機関HP	新機ハウジング	南海トラフ地震後の連続地震、1週間以内の発生率最大77%	災害科学国際研究所	報道・コメント
775	2023/1/20	新聞(全国紙)	産経新聞(他2件)	「除去に最低10年」地盤残存のウクライナ 政府「日本式、で支援 探知機供与し使用訓練	佐藤源之	報道・コメント
778	2023/1/21	機関誌・機関HP	目次	備前管理プラットフォームが、防災における産官学連携の礎とします	今村文彦	報道・コメント
779	2023/1/21	新聞(地方紙)	河北新報	震災伝承 連携を模索 宮城の官民協議会が合意	佐藤翔輔	報道・コメント
780	2023/1/21	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こも防災ゼミ:各地に残る災害の言い伝え	佐藤翔輔	執筆
781	2023/1/23	新聞(地方紙)	河北新報	河川との共存 市民と意見交換 仙台で2/3日に講座	佐藤翔輔	報道・コメント
782	2023/1/23	新聞(地方紙)	河北新報	<311むすび塾>早期避難で犠牲者ゼロ/第102巡回ワークショップ@大郷・中箱川	佐藤翔輔	報道・コメント
783	2023/1/23	新聞(地方紙)	河北新報	<311むすび塾>利用客の安全確保採る/第106巡回ワークショップ@仙台銀座親和会	佐藤翔輔	報道・コメント
784	2023/1/24	新聞(地方紙)	朝日新聞デジタル	「地雷除去は復興の条件」ウクライナが日本の支援決定に感謝	佐藤源之	報道・コメント
785	2023/1/24	ウェブ(国内)	さんくし旅しるべ	防災防災未来フォーラム2023<宮城県仙台市>へここから広がる 防災が身近な世界と未来	災害科学国際研究所	その他
786	2023/1/24	新聞(地方紙)	石巻日日新聞	復興・防災マップコンクール 記事に住民の思い反映	佐藤健	報道・コメント
787	2023/1/25	新聞(地方紙)	河北新報	震災12年と100人トーク 仙台「伝承」備え「意見」かわろ	今村文彦	報道・コメント
788	2023/1/25	新聞(地方紙)	三陸新聞	観測伝え被害軽減を 気仙沼で防災フォーラム	佐藤翔輔	報道・コメント
789	2023/1/26	テレビ大阪	テレビ大阪	特集:南海トラフ地震	福島洋	報道・コメント
790	2023/1/27	テレビ	NHK	「活断層の地震」と言われてわかりませんか?	連田晋次	報道・コメント
791	2023/1/27	テレビ	TBS	ひるおび:マスク個人の判断に委ねる「どう思う?」マスクの効果などデータや指針を示すべき! 専門家	小坂健	出演
792	2023/1/28	その他	ナショナルジオグラフィック	南海トラフ地震の1週間以内にまた巨大地震、最大で平時の3600倍 世界の他地域と比べて巨大地震の連続発生確率が高い可能性	福島洋	報道・コメント
793	2023/1/28	新聞(地方紙)	河北新報	中高生 防災の輪を広げる 多賀城高でワークショップ	佐藤健	報道・コメント
794	2023/1/28	ウェブ(国内)	PR TIMES(他1件)	【取材のご案内】世界防災フォーラム/防災ダボ会議@仙台2023 実行委員会を開催します(2月2日)	災害研・今村文彦、小野裕一	その他
796	2023/1/29	新聞(地方紙)	河北新報	津波発生時、ハルーンで避難誘導 土地勘ない難波対面企業 東北大院生が実証実験	災害科学国際研究所	報道・コメント
797	2023/1/29	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES!:みやぎ災害伝承センターコンクール 授賞式と小中高大生のボランティア解説員認定式	佐藤翔輔	出演
798	2023/1/30	新聞(地方紙)	河北新報	20歳の男子大学生、石巻でボランティア解説員に 栗原在住、東北大経験も伝えたい	災害科学国際研究所	その他
799	2023/1/30	テレビ	仙台放送	「伝承の絆」若い世代に 大学生がボランティア解説員に(宮城・石巻市)	災害科学国際研究所	報道・コメント
800	2023/1/30	新聞(国外)	The Japan Times	From lessons of 3/11, Japan scientist share knowledge of disaster resilience across Pacific	泉貴子	報道・コメント
801	2023/1/30	新聞(地方紙)	南日本新聞	【論点】災害と共生する文化	佐藤翔輔	執筆
802	2023/1/30	機関誌・機関HP	内閣官房内閣広報室	Promoting the Bosa Spirit of Tohoku to Create a Better, Safer World	小野 裕一	報道・コメント
803	2023/1/31	新聞(その他)	時事通信	【取材のご案内】世界防災フォーラム/防災ダボ会議@仙台2023 実行委員会を開催します(2月2日)	災害研・今村文彦、小野裕一	その他
804	2023/1/31	新聞(地方紙)	石巻まほく	「命を守る」石巻市復興・防災マップコンクール 小中25校から69作品、小中学生「命を守る」に高い関心	佐藤健	その他
805	2023/1/31	新聞(全国紙)	読売新聞	学校の防災 教員ら学ぶ 岩沼でフォーラム	防災教育協働センター	報道・コメント
806	2023/2/1	新聞(地方紙)	三陸新聞	高校生20人を県防災指士員認定	災害科学国際研究所	その他
807	2023/2/1	ウェブ(国内)	PR TIMES	初の福島開催(2月18日)5th回伝承シンポジウム	佐藤翔輔	その他
808	2023/2/1	新聞(地方紙)	石巻日日新聞	次世代の語り部育成へ みやぎ津波伝承館 石巻専修大の佐藤さん認定	佐藤翔輔	報道・コメント
809	2023/2/2	ラジオ	NHKラジオ第1	マイあさ! :東北大学がウクライナ語ツイートを分析	災害研・園井泰人	その他
810	2023/2/2	ウェブ(国内)	Livhub	災害と共生する未来都市を考える「リジリエンティア/アーバニズム」米国ロサンゼルスにて日米共同の展示会開催	災害科学国際研究所	その他
811	2023/2/2	テレビ	東北放送	世界防災フォーラム「釜石市で語り部活動」川崎香樹さんがスピーチ「若者の参加」打ち出し開催へ	今村文彦	報道・コメント
812	2023/2/2	ウェブ(国内)	速報NEWS	心機能低下、認知障害、脳血流低下、物起不全...「コロナ後遺症」の最新報告がコウすきる!	小坂健	報道・コメント
813	2023/2/2	機関誌・機関HP	介護ニュースJOINT	コロナ禍の介護施設の面会、どうすれば... 厚労省、オンライン動画でノウハウを解説	小坂健	報道・コメント
814	2023/2/2	新聞(地方紙)	河北新報	震災経験を世界の防災へ 3月に仙台で国際会議「特に若者に参加して欲しい」宮城	今村文彦	報道・コメント
815	2023/2/2	ラジオ	東北放送ラジオ	en Voyage: WBFについて	小野 裕一	出演
816	2023/2/3	新聞(地方紙)	河北新報(他2件)	「東北からBOSAIを世界に」 第3回世界防災フォーラム、仙台で3月10日から3日開催	災害研・今村文彦	報道・コメント
819	2023/2/3	新聞(地方紙)	河北新報	岩沼で安全フォーラム「地域との連携を築く」	防災教育協働センター	報道・コメント
820	2023/2/4	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こも防災ゼミ:自然災害にちなんだ地名	佐藤翔輔	執筆
821	2023/2/6	その他	日経BigGate	持続可能なブルーオーシャンの実現へ行動の時NIKKETブルーオーシャン・フォーラム設立記念イベント	坂友	その他
823	2023/2/7	新聞(全国紙)	朝日新聞	トルコ南部の地震「内陸型として世界最大級」東北大の連田教授に聞く	連田晋次	報道・コメント
824	2023/2/7	テレビ	東日本放送	トルコ地震「世界でも数年に一度の規模」 後発地震が続くおそれも	連田晋次	報道・コメント
824	2023/2/7	新聞(全国紙・地方紙)	読売新聞	最新の震災研究を学ぶ「省防災力向上」や復興事業関係	村尾 修	報道・コメント
825	2023/2/8	テレビ	東日本放送	トルコ大地震は活断層のずれ、日本では活断層帯の動きに注意が必要 東北大学・連田晋次教授	連田晋次	報道・コメント
826	2023/2/8	時事通信	時事通信	法断層ずれ、活断層に被害 東北大教授「内陸型では相当大規模」トルコ地震	連田晋次	その他
827	2023/2/8	ラジオ	NHKラジオ第1	NRに! 特集「東日本大震災の教訓を託す」	佐藤翔輔	出演
828	2023/2/9	テレビ	NHK大阪	関西ラジオワイド:防災コラム「ヒトで災害の記憶をつなぐ」	佐藤翔輔	出演
829	2023/2/9	新聞(地方紙)	河北新報	地雷除去でウクライナ支援 東北大、佐藤源之教授が開発 探知機供与し操作指導も	佐藤源之	報道・コメント
830	2023/2/9	テレビ	仙台放送(他1件)	仙台防災総経 仙台市が独自に中間評価「死者数や経済的損失などは減少」	今村文彦	報道・コメント

配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類	
832	2023/2/9	新聞(全国紙)	読売新聞(他1件)	トルコ地震、救出されても「笑顔の死」リスク...長時間圧迫によるクラッシュ症候群	垣越教員	
834	2023/2/10	新聞(地方紙)	河北新報	「仙台防災枠組」の被災7日連続 市と東北大災害研が中間評価	佐々木宏之	報道・コメント
835	2023/2/10	ラジオ	NHK大坂	関西ラジオワイド「防災コラム」東北大学 災害科学国際研究所 准教授・佐藤翔輔 さん「ヒトで災害の記憶をつないでいく」	災害研、今村文彦	報道・コメント
836	2023/2/10	テレビ	毎日放送(他1件)	「阪神・淡路大震災の約15倍の大きさ」トルコ・シリア大地震 日本から支援の動きも	佐藤翔輔	出演
838	2023/2/10	新聞(地方紙)	河北新報	トルコ地震「長大な活断層帯で発生」 東北大災害研が調査速報会	遠田晋次	報道・コメント
839	2023/2/10	テレビ	東北放送	トルコ地震被害拡大「短時間に複数の活断層が動き出した」ことが原因か、東北大学の専門家が分析	災害研、遠田晋次、佐々木宏之	報道・コメント
840	2023/2/10	テレビ	NHK宮城	トルコ大地震内陸地域で過去最大か「東北大の専門家が報告	遠田晋次	報道・コメント
841	2023/2/10	ラジオ	東北放送ラジオ	3.11みやまのトリアン「世界防災フォーラム特集	小野裕一	出演
842	2023/2/11	新聞(地方紙)	河北新報	デジタルアーカイブ/閉鎖増 進む集約/運営自治体など 維持費負担重く/資料分類 AI活用模索	大山明寛	報道・コメント
843	2023/2/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	東日本大震災、滅亡の危機「発生10年」比で4割減	佐藤翔輔	報道・コメント
844	2023/2/14	新聞(その他)	時事通信(他2件)	「2022年東日本大震災伝承活動調査」速報版「震災学習プログラム」コロナ禍前の91%まで回復「震災伝承施設」施設数増加・2011年以降で来館者数最多に	佐藤翔輔	報道・コメント
847	2023/2/11	新聞(地方紙)	テレビ朝日	トルコ地震 建物崩壊は「建て替えない社会」が背景か、専門家が報告	竹谷公男、大野晋、榎田竜太	報道・コメント
848	2023/2/13	テレビ	NHK宮城	被災した文化財修復の意義話し合う 東北大でシンポジウム	災害科学国際研究所	報道・コメント
849	2023/2/13	テレビ	東日本放送	チャーンズ:災害時の安否不明者氏名を公表する国の指針 村井宮城県知事が評価	佐藤翔輔	報道・コメント
850	2023/2/13	新聞(全国紙)	毎日新聞	柱から建物崩壊、パンケーククラッシュで被害拡大 トルコ・シリア地震	遠田晋次	報道・コメント
851	2023/2/13	テレビ	NHK	運動した大地震～日本でも	遠田晋次	報道・コメント
852	2023/2/13	ウェブ(国外)	アラブニュースジャパン	「日本の専門家、トルコの建築文化が深刻な地震被害につながったことを示唆」	竹谷公男、大野晋、榎田竜太	報道・コメント
853	2023/2/13	テレビ	BBC World	2023 Turkey and Syria earthquakes	泉貴子	報道・コメント
854	2023/2/13	新聞(全国紙)	読売新聞	トルコ地震、救出されても「笑顔の死」リスク...長時間圧迫によるクラッシュ症候群	佐々木宏之	報道・コメント
855	2023/2/14	新聞(地方紙)	河北新報	津波未経験でも伝えたし 石巻専修大生の佐藤さん、ボランティア解説員に	災害科学国際研究所	報道・コメント
856	2023/2/14	ウェブ(国内)	Science Portal(他1件)	プレート境界で長大な活断層が動いたトルコ大地震も、建物直撃し、犠牲者3.5万人を超える	災害研、今村文彦、遠田晋次、榎村俊一、榎田竜太、大野晋、竹谷公男、佐々木宏之	報道・コメント
858	2023/2/14	新聞(全国紙)	読売新聞	「日本並み」耐震基準生かす トルコ、「恩恵」で抜け道も	遠田晋次	報道・コメント
859	2023/2/14	テレビ	NHK	南海トラフ巨大地震 連続する「早割れ」は	福島洋	報道・コメント
860	2023/2/15	新聞(全国紙)	産経新聞(他1件)	「72時間の壁」も救助、体温維持が秘訣 トルコ地震	佐々木宏之	報道・コメント
862	2023/2/15	新聞(地方紙)	河北新報	<共に歩もう>悲しみ減らしたい 川合 将次さん(23)	災害工学研究分野、川合将次	報道・コメント
863	2023/2/15	テレビ	東北放送	「内蔵センサーで地震を可視化」東北大・佐藤准教授「最新の地震探知機」ウクライナへ提供	佐藤翔輔	報道・コメント
864	2023/2/16	テレビ	東北放送	先週から熊本市周辺で地震相次ぐのは何故なのか?専門家に聞く	遠田晋次	報道・コメント
865	2023/2/16	新聞(全国紙)	読売新聞	トルコ地震で「パンケーククラッシュ」多発か、数秒で建物全体がほぼ真下に崩壊	榎田竜太	報道・コメント
866	2023/2/16	テレビ	東北放送	Nスタみやま(復興の現在地)288「被災者」で震災の記憶伝える	柴山明寛	出演
867	2023/2/16	新聞(全国紙)	産経新聞	72時間超え救出経路 体温維持・空間「異常重なる」	佐々木宏之	報道・コメント
868	2023/2/17	新聞(地方紙)	河北新報	みやま防災会議 後継地震 伝え方探る 追悼行事に東洋館ひのけ	今村文彦	報道・コメント
869	2023/2/17	テレビ	テレビ新潟	トルコ南部地震 断層の「ずれ」が27センチ...専門家「熊本地震と似ている規模があるに大きい」	遠田晋次	報道・コメント
870	2023/2/17	機関誌・機関HP	クワンニュース	李亨錫商工会議所青年部共催「3・11」テーマにシンポジウム	佐藤翔輔	その他
871	2023/2/18	新聞(全国紙)	朝日新聞	(社説)大地震と日本 支援とともに再点検も	災害研、泉貴子	報道・コメント
872	2023/2/18	テレビ	東北放送(他1件)	「ごみやない」被災された家財道具を展示する美術館長「がれき」と呼ばれたくないツケとは?	柴山明寛	報道・コメント
874	2023/2/18	新聞(その他)	毎日小学生新聞	これも防災ゼミ!過去の災害を学べば災害伝承施設	佐藤翔輔	執筆
875	2023/2/19	機関誌・機関HP	JICA 国際協力機構	【東の根技術協力事業】災害の増えるメーソニア/重要性を増す地域主体の持続的な防災活動	災害科学国際研究所	その他
876	2023/2/20	その他	日経ビジネス	異なる断層の連続でM7超え2回発生か、トルコ・シリア地震	災害研、遠田晋次	報道・コメント
877	2023/2/21	新聞(地方紙)	いわき民報	いなか市 来年度は東北大災害研と連携で研修会 総合的な防災方向上努める	災害科学国際研究所	その他
878	2023/2/21	テレビ	テレビ朝日	羽島橋一モーニングショー:「72時間の壁」超え 救出 奇跡の生還 要因は	佐々木宏之	報道・コメント
879	2023/2/22	新聞(地方紙)	河北新報	BOSAI東北から世界へ第3回世界防災フォーラム	災害研、小野裕一	報道・コメント
880	2023/2/24	その他	FLASH	トルコ・シリアで4.6万人が死亡...活断層2000カ所を抱える日本で「内陸型直下地震」起きるのか、専門家に聞く	遠田晋次	報道・コメント
881	2023/2/24	新聞(地方紙)	河北新報	BOSAI 東北から世界へ 第3回世界防災フォーラム	小野 裕一	報道・コメント
882	2023/2/25	新聞(地方紙)	河北新報	災害時の文化財保全へ連携強化 東北大災害研、奈良の2施設と協定	災害研、蝦名裕一	その他
883	2023/2/25	新聞(地方紙)	テレビ朝日	中居正広のキャスターな会:トルコ・シリア大地震 地震の後か状況や日本の地震の備えは?	竹谷公男	その他
884	2023/2/25	新聞(全国紙)	読売新聞	大雪で列車が立ち往生 JR西日本と沿線自治体、帰宅困難者対策で改善急ぐ	丸谷浩明	報道・コメント
885	2023/2/26	新聞(その他)	時事通信	伝承と記録、VRに期待 宮城・福島、コロナ禍受け活用進む「人材もセット」で専門家・東日本大震災12年	佐藤翔輔	報道・コメント
886	2023/2/27	その他	夕刊フジ	鳥インフル感染でカンボジアの少女死亡 日本でのリスクと対策は 専門家「日常生活ではほぼないが、鳥類や野生動物の体液を介し感染も」	児玉栄一	報道・コメント
887	2023/2/27	機関誌・機関HP	日本科学未来館	科学コミュニケーターブログ:東日本大震災の伝承vol.1 わたしたちは過去の災害の記録から何を学ぶか? (前編)	柴山明寛	その他
888	2023/2/27	機関誌・機関HP	日本科学未来館	科学コミュニケーターブログ:東日本大震災の伝承vol.1 わたしたちは過去の災害の記録から何を学ぶか? (後編)	柴山明寛	その他
889	2023/2/28	ウェブ(国内)	PR TIMES	【インクルージョン×防災 全ての人が取り残されず、自分らしく生きられる世界の実現にむけて】「世界防災フォーラム」防災ダボス会議@仙台2023	災害研、原裕太	その他
890	2023/2/28	ウェブ(国内)	アッププレス(他1件)	【参加者募集】「仙台BOSAI-TECHカンファレンス2023」オンライン開催！(3月7日 15:00～)	佐々木大輔	報道・コメント
892	2023/2/28	その他	夕刊フジ	鳥インフル感染でカンボジアの少女死亡 日本でのリスクと対策は	児玉 栄一	報道・コメント
893	2023/2/1	テレビ	静岡放送	【わたしの防災】1週間以内で通常の99倍から3,600倍に！南海トラフ地震が連続して発生する確率 最新の研究で明らかに	福島洋	報道・コメント
894	2023/2/1	新聞(地方紙)	河北新報	「柱の都」は「守の都」へ世界一安全で安心な「防災監理機構都市」を目指す	災害科学国際研究所	報道・コメント
895	2023/2/2	新聞(地方紙)	三陸新聞	震災遺構伝承館で来月2日までメトリクルイベント	佐藤翔輔	報道・コメント
896	2023/2/2	その他	週刊現代(他3件)	「トルコ級の大地震で日本列島が二分断」される日...恐怖の「パンケーククラッシュ」	遠田晋次、五十子幸輔	報道・コメント
900	2023/2/3	新聞(全国紙)	産経新聞	【使命 東日本大震災12年】(2)自治体職員「奉仕者」守る避難所で	佐藤翔輔	報道・コメント
901	2023/2/3	機関誌・機関HP	JICA 国際協力機構	日本の技術でウクライナの地震除去へ！ ロシアで日本製の地震探知機の研修を実施	佐藤翔輔	報道・コメント
902	2023/2/4	その他	週刊現代	「トルコ級の大地震で日本列島が二分断」される日...恐怖の「パンケーククラッシュ」	遠田晋次	報道・コメント
903	2023/2/4	新聞(その他)	毎日小学生新聞	これも防災ゼミ!過去の災害の記憶を伝える語り部	佐藤翔輔	執筆
904	2023/2/4	ウェブ(国内)	JCOM	ニュース:仙台防災未来フォーラム2023	小野裕一	出演
905	2023/2/4	テレビ	仙台放送(他1件)	「見知らぬ土地で津波が来たら...」避難の目安「真っ赤なアドバラン」実証実験で見た課題【宮城発】	災害研、今村文彦	報道・コメント
907	2023/2/4	新聞(地方紙)	河北新報	災害に強いまちをつくる 仙台で防災未来フォーラム	災害科学国際研究所	報道・コメント
908	2023/2/4	テレビ	NHK	サタデーウォッチャー 南海トラフ巨大地震で懸念される「半割れ」	遠田晋次、佐々木宏之	報道・コメント
909	2023/2/5	ラジオ	TokyoFM(他2件)	長大な被害のトルコ・シリア大地震、「日本」でも起こる可能性あり?専門家が解説	災害研、佐藤翔輔	報道・コメント
912	2023/2/5	新聞(地方紙)	河北新報(こども新聞)	みんな子どもだった!？企画好き 防災に役立てる	佐藤翔輔	報道・コメント
913	2023/2/5	新聞(地方紙)	河北新報(こども新聞)	命の守り方後世につなぐ イベント通知知識共有	佐藤翔輔	報道・コメント
914	2023/2/5	新聞(地方紙)	河北新報(こども新聞)	編集後記	佐藤翔輔	企画協力
915	2023/2/5	新聞(地方紙)	河北新報	津波教訓 紙芝居で表現/陸前高田/大船渡伝承館がシンポジウム	柴山明寛	報道・コメント
916	2023/2/5	新聞(全国紙)	読売新聞	災害の記憶 ネットで後世に 伝承機、動画、思い出話も	柴山明寛	報道・コメント
917	2023/2/6	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災12年 記録/保存の意義 特別に継承を	柴山明寛	報道・コメント
918	2023/2/6	新聞(全国紙)	読売新聞	東日本大震災12年 車での避難 検討増加 自治体 実情に応じて	佐藤翔輔	企画協力
919	2023/2/6	ラジオ	ラジオ 福島	キャンパシーン番組「命を守る つながる マイから〜」	今村文彦	出演
920	2023/2/6	ラジオ	ラジオ 日本	東日本大震災発生から12年、現在の地震活動は、そして今後... 専門家に話を聞く	今村文彦	出演
921	2023/2/6	新聞(地方紙)	河北新報	社説 東日本大震災12年一転経緯	柴山明寛	報道・コメント
922	2023/2/6	新聞(地方紙)	河北新報	シタモリ、命の運搬体も船上の民俗学者 福島・新地(上)実感<>	川島秀一	報道・コメント
923	2023/2/6	新聞(全国紙)	朝日小学生新聞	教科書に防災の視点 3.11から12年防災意識高まる	藤井 大輔	報道・コメント
924	2023/2/7	新聞(全国紙)	朝日小学生新聞	社説「文化財の防災 平時からの体制整備が必要だ」	蝦名裕一	企画協力
925	2023/2/7	テレビ	NHK	東日本大震災12年 車震撃のルーシ化 現状と課題は	佐藤翔輔	報道・コメント
926	2023/2/7	新聞(その他)	時事通信	インクルージョン×防災 全ての人が取り残されず、自分らしく生きられる世界の実現にむけて「世界防災フォーラム」防災ダボス会議@仙台2023	災害研、原裕太	その他
927	2023/2/7	新聞(地方紙)	河北新報	復興推進委員会委員長 東北大災害研の今村所長を任命	今村文彦	報道・コメント
928	2023/2/7	新聞(地方紙)	河北新報	「机上の計算」に危機感か船上の民俗学者 福島・新地(中)漁の行方>	川島秀一	報道・コメント
929	2023/2/8	テレビ	NHK奈良	文化財を守る 奈文研と文化財防災センターが東北大と協定	今村文彦	報道・コメント
930	2023/2/8	新聞(地方紙)	河北新報	海と仲間と共に生きるく船上の民俗学者 福島・新地(下)浜の心>	川島秀一	報道・コメント
931	2023/2/8	テレビ	仙台放送	被災地の土地活用率79% 多額の税金は？問われる復興 土地区画整理事業の現状(宮城)	榎浦直史	報道・コメント
932	2023/2/8	新聞(全国紙・地方版)	読売新聞	東日本大震災12年 語り継ぐ 生き残るため 陸前高田でシンポジウム	柴山明寛	報道・コメント
933	2023/2/9	新聞(地方紙)	河北新報	親子で学び 防災の知恵 気仙沼・伝承館 震災12年企画	災害科学国際研究所	報道・コメント
934	2023/2/9	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災12年 「悪い出の国」は「保管記録」に打ち切る自治体相次ぐ	川内淳史	報道・コメント
935	2023/2/9	新聞(全国紙)	毎日新聞	その水は清らかなか 原象処理水 洩り出る民俗学者のまなざし	川島秀一	報道・コメント
936	2023/2/9	テレビ	仙台放送(他1件)	避難誘導にアドバラン活用 東日本大震災から12年	災害研、今村文彦	報道・コメント
938	2023/2/9	テレビ	NHK若手	世界防災フォーラムへ 研究者が「震災学習列車」で被災地視察	WBF、北村美和子	報道・コメント
939	2023/3/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞	産学防災、東北大学がドコモやJR東海と 都市の弱点探す 3月11日を忘れない 東日本大震災から12年	災害研、今村文彦、榎村俊一、丸谷浩明、超、田賢二郎	報道・コメント
940	2023/3/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞	社会で生かしてこそ価値 防災科学、研究者と企業の接点が課題に	災害研、丸谷浩明、寺田賢二郎	報道・コメント
942	2023/3/10	新聞(全国紙)	読売新聞	「意識しない防災」重要 災害研所長の今村文彦氏に聞く	災害研、今村文彦	報道・コメント
943	2023/3/10	新聞(全国紙)	読売新聞	919級地震「最長150年間隔・死者19万人超」...推定には不確かな部分も	菅原大助	報道・コメント
944	2023/3/10	新聞(全国紙)	朝日新聞	巨大地震「次」を探る	石沢亮史	報道・コメント
945	2023/3/10	新聞(その他)	朝日新聞	(社説)震災の記録 さらなる活用のために	柴山明寛	報道・コメント
946	2023/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	東日本大震災から12年/今村文彦氏に聞く、レジリエンス創造-伝承を次のステージへ	今村文彦	報道・コメント
947	2023/3/10	新聞(地方紙)	河北新報	災害リスクの削減策探る 仙台で世界防災フォーラム開催	災害科学国際研究所	その他
948	2023/3/10	テレビ	東日本放送(他1件)	仙台市で世界防災フォーラムが4年ぶりに開催 最先端の研究を元にした防災について話し合う	小野裕一	報道・コメント
950	2023/3/10	新聞(地方紙)	NHK	ニュースウォッチ9:3.11伝え続ける「世代を超えて震災の記憶を」	佐藤翔輔	出演
951	2023/3/10	テレビ	東北放送	「どうしたら二度と大きな災害が出ないようにするか」東北からの発信「重要性訴える 世界防災フォーラム開幕 仙台	榎村俊一、小野裕一	報道・コメント

配信日	媒体	配信社	タイトル	掲載教員	分類
952 2023/3/10	テレビ	NHK宮城(他1件)	震災後に大がかりな区画整理も.....いまだに「3割が空き地」	増田聡	その他
954 2023/3/10	新聞(地方版)	奈良新聞	あす東日本大震災12年「災害痕跡」生かす減災	蝦名寛一	資料提供
955 2023/3/10	新聞(全国紙)	日本経済新聞	速報ニュースアーカイブ:「震災アーカイブ」閉鎖相次ぐ 災禍の記録どう残す	柴山明寛	報道・コメント
956 2023/3/10	新聞(その他)	日経産業新聞	産学防災、東北大学がドコモやJR東海と都市の弱点探す	丸谷浩明、寺田賢二郎、越村俊一	報道・コメント
957 2023/3/10	テレビ	東日本放送	世界防災フォーラム4年ぶり開催 仙台から未来の防災を発信	小野 裕一	出演
958 2023/3/11	テレビ	東日本放送	大震災特番:津波の脅威増大～温暖化による海面上昇もたらすリスク	サッパンシー アナワツ	報道・コメント
959 2023/3/11	テレビ	ミヤギテレビ	つづかへつたえろー東日本大震災12年ー	門野 尚志	報道・コメント
960 2023/3/11	新聞(全国紙)	日本経済新聞	災禍の記録 どう残す 「デジタルアーカイブ」閉鎖相次ぐ	柴山明寛	報道・コメント
961 2023/3/11	新聞(地方版)	北海道新聞	＜東日本大震災12年＞車避難 渋滞どう防 津波対策 地域で導入機軸 動けず逃げ遅れる恐れ 訓練とルール作り重要	佐藤翔輔	報道・コメント
962 2023/3/11	新聞(全国紙)	毎日新聞	増える伝承施設 維持費負担や地元との関わり低下に懸念	佐藤翔輔	報道・コメント
964 2023/3/11	新聞(地方版)	石巻日新新聞	「船の沖出し」あの日の決断した漁師の運命は、転機や沈没と隣り合わせその可哀は?	佐藤翔輔	企画協力
965 2023/3/11	新聞(全国紙)	読売新聞	東北大佐藤准教授に聞く語り部は誰でもなれる 学びの翻訳が必要	佐藤翔輔	報道・コメント
966 2023/3/11	機関誌・機関HP	公開学	世界防災フォーラム 国内実行委員事務局 小野裕一代表理事に聞く	小野 裕一	報道・コメント
967 2023/3/11	新聞(地方版)	石巻がはく	石巻地方3市町住民アンケート 震災の影響、今も色濃く	佐藤翔輔	報道・コメント
968 2023/3/11	新聞(地方版)	石巻がはく	震災を知らない世代へ 命を守る学習 標準 石巻地方	佐藤謙、桜井愛子	報道・コメント
969 2023/3/11	テレビ	ミヤギテレビ	3・11語り継ぐミヤギ【開土の記憶】2019年6月撮影	災害研	その他
970 2023/3/12	新聞(地方版)	河北新報	東北大が英ロンドン大と共同研究センターを福島に設立へ 復興貢献目指す	災害研、今村文彦	その他
971 2023/3/12	新聞(地方版)	仙台経済新聞	東北大百貨店で「Mirai week 31」 仙台三越で防災グッズ展示販売など	災害研、今村文彦	その他
972 2023/3/12	新聞(全国紙)	日本経済新聞	仙台の防災フォーラム閉幕 自治体のリスク把握など提言	小野裕一	その他
973 2023/3/12	新聞(地方版)	河北新報	震災伝承や防災語る 25日、石巻でイベント	佐藤翔輔	報道・コメント
974 2023/3/12	新聞(全国紙)	読売新聞(他2件)	世界防災フォーラム、仙台市で開幕 災害リスク議論の政府関係合設を提言	今村文彦	その他
977 2023/3/12	テレビ	仙台放送(他1件)	活用率10%の地区も...多額の税金投入された 被災地土地区画整理事業の現状【宮城発】	越田浩生	報道・コメント
979 2023/3/14	テレビ	東北放送	東北大学「災害科学国際研究所」今村文彦所長「退任へ」国内外に防災を発信	災害研、今村文彦、栗山進一	その他
980 2023/3/14	テレビ	NHK宮城	東北大災害研 今村文彦所長が今月末で退任へ	災害研、今村文彦、栗山進一	その他
981 2023/3/14	テレビ	東日本放送(他1件)	東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長が退任へ 地震や津波のメカニズムを研究	災害研、今村文彦、栗山進一	その他
983 2023/3/14	テレビ	仙台放送	東北大学災害科学国際研究所 今村文彦所長が3月末で退任へ 防災の総合的な研究拠点(仙台市)	災害研、今村文彦、栗山進一	その他
984 2023/3/14	その他	女性自身	島インフル異変で死者64万人	原玉 栄一	報道・コメント
985 2023/3/14	新聞(全国紙)	日本経済新聞	「仙台防災枠組」中間評価など議論	小野 裕一	報道・コメント
986 2023/3/15	新聞(地方版)	東海新報	生き残るために語り継ぐ「大船渡津波伝承館 シンポジウム	柴山明寛	報道・コメント
987 2023/3/15	その他	AERAdot.	震災の記憶を後世につなぐデジタルアーカイブの今 「犠牲者の行動記録」マッピングも	災害研、柴山明寛	報道・コメント
988 2023/3/15	新聞(地方版)	河北新報	減災へ国際協力強化 世界防災フォーラム閉幕 仙台	WBF、今村文彦、小野裕一	その他
989 2023/3/15	テレビ	東日本放送(他1件)	チャナジ・SNSのつながりが防災時を避難に役立て逃す遅れをめぐり 東北大学が検証	災害研、菅原大助	報道・コメント
991 2023/3/15	テレビ	新潟放送(他1件)	新潟県内で大きな被害の恐れも「...長周期地震動」とは 震源から離れているにも注意が必要	五十子幸樹	報道・コメント
992 2023/3/15	テレビ	仙台放送	「孫がやってどんなものか」とエッセイで高齢者の健康維持を 東北大学の研究グループ(仙台市)	栗山進一	その他
994 2023/3/16	新聞(地方版)	河北新報	東北大が新部長発表	栗山進一	その他
995 2023/3/16	その他	現代ビジネス(他1件)	「世界で起こる各地地震の10分がが発生する超地震大国」日本...最新データが明らか「次のM9地震はここで起こる」(金栗晋)	遠田晋次	報道・コメント
997 2023/3/16	新聞(全国紙)	毎日新聞	トルコ地震にみる揺動と課題 竹谷公男 東北大学災害科学国際研究所特任教授	竹谷公男	報道・コメント
998 2023/3/16	新聞(その他)	毎日小学生新聞	こども防災ゼミ:スマートフォンで災害を疑似体験	佐藤翔輔	執筆
999 2023/3/16	新聞(その他)	時事通信	防災意識、8割「薄れる」 東日本大震災被災地の住民「懸念残る」と専門家:民間調査	佐藤翔輔	報道・コメント
1000 2023/3/17	新聞(地方版)	河北新報	東日本大震災12年ー防災 東北発で世界の被害軽減を 社説(3/17)	災害科学国際研究所	その他
1001 2023/3/17	新聞(地方版)	河北新報	東北の復興「白河以北一山百文」に新説? 司馬遼太郎一流の推理とは 東北大・川内淳史教授に聞く	川内淳史	報道・コメント
1002 2023/3/17	テレビ	NHK宮城	文化財を災害から守る 東北大学が奈良文化財研究所などと協定	災害研、今村文彦	報道・コメント
1003 2023/3/18	新聞(その他)	時事通信(他1件)	防災意識、8割「薄れる」 東日本大震災被災地の住民「懸念残る」と専門家:民間調査	佐藤翔輔	報道・コメント
1005 2023/3/19	その他	FLASH	第2の東日本大震災が来る「3.11を予測した研究所が」アクターズ地震を警告、28メートル超の巨大津波も	遠田晋次	報道・コメント
1006 2023/3/20	ウェブ(国内)	Science Portal	世界防災フォーラム【前編】東日本大震災から12年、仙台で開催「アゴラ」など31企画で復興・減災の重要課題探る	WBF、災害研、今村文彦	報道・コメント
1007 2023/3/20	新聞(地方版)	南日本新聞	【論点】災害を「忘れず」「とわらわす」	佐藤翔輔	執筆
1008 2023/3/21	新聞(地方版)	河北新報	住民主体の街づくり、心の復興に 雄勝花物語・徳水さん、津波伝承館で講話	災害科学国際研究所	報道・コメント
1009 2023/3/21	新聞(地方版)	三陸新報	震災遺構伝承館開館4周年でフォーラム	災害科学国際研究所	その他
1010 2023/3/21	その他	女性自身	島インフルエンザ異変の場合、死者予想は最悪64万人...緊急避難に海外では少女死亡	原玉栄一	報道・コメント
1011 2023/3/22	ウェブ(国内)	Science Portal	世界防災フォーラム【後編】「アゴラin仙台」、「防災と女性」を生生活視点から深く議論	災害研、今村文彦、小野裕一、中鉢奈津子	報道・コメント
1012 2023/3/22	新聞(その他)	雑誌工業新聞	防災意識、8割「薄れる」 東日本大震災被災地の住民「懸念残る」と専門家 応用地質	佐藤翔輔	報道・コメント
1013 2023/3/24	新聞(全国紙)	朝日新聞	デジタルアーカイブをアップデート 震災の記憶を後世につなぐために	柴山明寛	報道・コメント
1014 2023/3/24	その他	週刊朝日	島インフルエンザが流行中 海外では人の死亡例も 日本は大丈夫?	原玉 栄一	報道・コメント
1015 2023/3/27	新聞(地方版)	北海道新聞	記憶つむぎ未来への命へ 防災・減災・伝承のついでに 石巻市 語り部交換グループ討議	佐藤翔輔	報道・コメント
1016 2023/3/27	新聞(地方版)	河北新報	「回復力と人材育成が重要」 今月末退任の東北大災害研、今村文彦所長に聞く	今村文彦、栗山進一	報道・コメント
1017 2023/3/27	新聞(地方版)	北海道新聞	厚真庁舎の扱い再検討 住民の要望受け 町議会特別委	定池祐季	報道・コメント
1018 2023/3/28	新聞(地方版)	北海道新聞	厚真庁舎の扱い再検討 住民の要望受け 町議会特別委	定池祐季	報道・コメント
1019 2023/3/28	新聞(地方版)	石巻がはく	備えと伝承、大切学び「ついで」初開催 体験や活動発表も、石巻市	定池祐季	報道・コメント
1020 2023/3/29	テレビ	東日本放送	「津波の姿が原動力」東北大学災害科学国際研究所今村文彦教授が退任会見	今村文彦、栗山進一	報道・コメント
1021 2023/3/29	新聞(全国紙)	産経新聞	東日本大震災の復興に尽力 今村東北大教授退任会見	今村文彦、栗山進一	報道・コメント
1022 2023/3/29	テレビ	東北放送	「見た瞬間に貞親津波と思った」東北大災害研「所長退任」今村文彦教授の研究者としての反省とは	今村文彦、栗山進一	その他
1023 2023/3/29	テレビ	NHK宮城	東北大災害研 今村所長が退任会見「柔軟に回復できる社会に」	今村文彦、栗山進一	その他
1024 2023/3/29	新聞(その他)	時事通信(他23件)	東北大の今村災害研所長が退任会見 「災害により強い社会に」	今村文彦	報道・コメント
1049 2023/3/29	ラジオ	FM仙台	仙台市青葉山エリアの魅力発信 文化観光ビジョン策定	今村文彦	その他
1050 2023/3/30	ラジオ	FM仙台	東北大学防災UPDATES! 災害の教訓を次世代に伝える	ボレー セバスチャン	出演
1051 2023/3/30	新聞(地方版)	河北新報	9年間の活動振り返り、「学問横断的研究深められた」 東北大災害研、今村所長退任会見	今村文彦	報道・コメント
1052 2023/3/30	新聞(地方版)	河北新報	最大津波から逃げる 第4部 車避難(上) 例外見直し 広がる対象	佐藤翔輔	報道・コメント
1053 2023/3/30	新聞(地方版)	河北新報	最大津波から逃げる 車避難(中) 例外見直し 広がる対象	佐藤翔輔	報道・コメント
1054 2023/3/31	新聞(地方版)	仙台放送	東北大 災害科学国際研究所 今村所長退任へ会見(仙台市)	今村文彦、栗山進一	その他
1054 2023/3/31	新聞(地方版)	静岡新聞	地震対応計画の作成支援 「南海トラフ臨時情報」発表時 企業向けマニュアルなど	稲島洋	報道・コメント
1055 2023/3/31	新聞(地方版)	河北新報	塩釜 防災教育推進圏を 市と東北大災害研が協定	災害研、今村文彦、佐藤翔輔、菅原大助	報道・コメント
1056 2022/4~	ラジオ	FM仙台	SUNDAY MORNING WAVE:地震、津波をテーマにわかりやすく解説(通年毎週日曜日放送)	今村文彦	出演
1057 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「携帯ストラップ」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1058 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「あめ チョコレート」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1059 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「防災袋」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1060 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「防災袋に入れておくと意外に便利」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1061 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「備蓄品」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1062 2022/4~	ラジオ	NHK北海道	防災スポット:「ベッドについて考える」編 (通年随時放送)	定池祐季	出演
1063 2022/4~	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス:「エコーマックス症候群に注意!」編 (テレビ、ラジオで通年随時放送)	定池祐季	出演
1064 2022/4~	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス:「家族を守る避難確認」編 (テレビ、ラジオで通年随時放送)	定池祐季	出演
1065 2022/4~	テレビ	NHK静岡放送局	防災ボイス:「口嚢がアが感染症を防ぐ」編 (テレビ、ラジオで通年随時放送)	定池祐季	出演

<b>新聞</b>	<b>446</b>
全国紙(含地方版・英語版)	117
報道・コメント	111
資料提供	1
企画協力	2
その他	3
<b>地方紙</b>	<b>269</b>
報道・コメント	244
執筆	3
資料提供	1
企画協力	1
その他	20
<b>国外</b>	<b>2</b>
報道・コメント	2
その他	58
報道・コメント	31
執筆	23
その他	4

<b>テレビ・ラジオ</b>	<b>229</b>
報道・コメント	146
出演	68
企画協力	1
その他	14
<b>機関誌・機関HP</b>	<b>60</b>
報道・コメント	31
出演	14
その他	15
<b>ウェブ</b>	<b>269</b>
国内	268
報道・コメント	241
出演	3
その他	24
<b>国外</b>	<b>1</b>
報道・コメント	1

<b>その他</b>	<b>61</b>
報道・コメント	57
企画協力	1
その他	3

<b>報道・コメント</b>	<b>864</b>
執筆	26
出演	85
資料提供	2
企画協力	5
その他	83

## 7 国際交流



国際交流

(1) 国外の研究者と実施している共同研究実績

課題名	本学研究代表者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
Earthquake and tsunami fragility functions 2011年東日本大震災、2018年スラウェシ島津波、2018年スダグ海峡等における被害関数構築研究	サッパシー・アナワット	Prof. Tiziana Rossetto	University College London, UK
APRU Multi-Hazards Program APRUマルチハザードプログラムを通して大学間の災害関連研究を強化、国際レベルの協議へ貢献する。	泉貴子	Prof. John Rundle et al	UC Davis, Chulalongkorn university, National Taiwan University, Tsinghua University, University of Hawaii, University of Chileなど
Causal realization of rate-independent linear damping using first-order digital filter 長周期構造物の地震時過大変形の抑制に有効な複素減衰を実デバイスとして実装するための研究	五十子幸樹	Brian Phillips	メリーランド大学・米国
Global Tsunami Model 世界中の研究者が集まり、津波波源からリスク評価、社会活動まで貢献している	今村文彦 サッパシー・アナワット	Dr. Finn Lovholt	Norwegian Geotechnical Institute (NGI)・ノルウェー
Developing fragility functions for coastal buildings and facilities 2011年東日本大震災より被災された港周辺の建物被害データを利用し、津波被害関数を構築する	サッパシー・アナワット	Assoc. Prof. Adam Switzer	南洋理工大学・シンガポール
The Project for Technical Development to Upgrade Structural Integrity of Buildings in Densely Populated Urban Areas and its Strategic Implementation towards Resilient Cities ダッカにおける耐災害化を実現するために地震に対する建物の脆弱性評価を行う。	前田匡樹 村尾修	ムハンマド アブ サデク	住宅建築研究所・バングラデシュ
A tuned viscous mass damper incorporated into coupled wall system 同調粘性マスダンパー制振システムを曲げ変形が卓越する構造物に適用するためのcoupled wall systemの開発	五十子幸樹	Xiaodong Ji	清華大学・中国
Applications of tsunami researches and non-structural measures in Thailand タイにおける津波防災研究・活動	サッパシー・アナワット	Dr. Natt Leelawat	チュラロンコーン大学・タイ
Tsunami warning and evacuation in Thailand 2004年インド洋津波の被災地であるタイ南部における津波避難シミュレーションを用いた津波避難研究	サッパシー・アナワット	Prof. Pennung Wanitchai	アジア工科大学院・タイ
ハーバード大学とのAPI連携に関する研究 国内の自然災害に関するアーカイブデータを東北大のサーバシステムで集約し、それをハーバード大とのシステム連携を行う研究である。	柴山明寛	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学・米国
Implementation of Technology in Disaster Health Management モバイルデバイスによる災害医療教育、母子保健教育、ワクチン接種推進が災害医療啓発に果たす効果の検証	江川新一	Allya Koesoema	バンドン工科大学・インドネシア
地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト マレーシアスランゴール州において、災害リスク理解とコミュニティ主体の防災体制の確立を目指す。	泉貴子	Dr. Khamarrul Azahari Razak	マレーシア工科大学・マレーシア
第二言語教育に関する認知神経科学研究 第二言語習得の専門家と認知神経科学の専門家の共同研究により、認知神経科学を応用した新しい教育技術を開発	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Kazuya SAITO	University Collage London, UK
Cognitive and neural correlates of second language writing 第二言語(英語)の作文に関する認知処理とその能力の向上に関連する脳内メカニズムを解明する英国と日本の国際共同プロジェクトである。	ジョンヒョンジョン 杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London, UK
Health Emergency and Disaster Risk Management 健康危機・災害リスク管理に対する研究ガイダンスの日本語翻訳監修と国内普及活動	江川新一	Ryoma Kayano	世界保健機構(WHO)
POD-based probabilistic disaster risk assessment 数値解析の結果に基づいて固有直交分解(POD)を用いた代理モデルを構築し、低コストで地震動による建物被害の確率論的リスク評価手法を構築する。	寺田賢二郎 森口周二	Latcharote Panon	タマサート大学・タイ
Cascading disasters 2011年東日本大震災を事例とした医療機関・学校を注目した連鎖災害の研究	今村文彦 サッパシー・アナワット 北村美和子	Prof. David Alexander	University College London, UK
Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience Initiative (Arc-DR <sup>3</sup> Initiative) 災害のリスク低減とレジリエンス向上のための環境デザインに関する知識を生成し、国際的なプラットフォームを構築することにより、理論(研究)と実践(デザイン)のより効果的な統合を目的とする。	今村文彦 村尾修 泉貴子	阿部仁史	カリフォルニアロサンゼルス校・米国
気候変動による移住の動機に関する研究 マーシャル諸島共和国の人々が気候変動の影響により国外へ移住を決定する際の動機等について明らかにする。	佐々木大輔	Dr. Irene Taafaki	The University of the South Pacific (USP) Marshall Islands Campus, Marshall Islands
MOST Project: Upper Holocene marine event stratigraphic study on Taiwan's southern coast and offshore islands 台湾・澎湖諸島での古津波履歴解明	菅原大助	游能梯	清華大学(台湾)

課題名	本学研究代表者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
生きる力質問紙英語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の英語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の英語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington, USA
災害・気候変動対応策への投資と社会的脆弱性・地域復元力の関係解明に関する研究 「復興や減災の計画・事業等の投資」と「社会的脆弱性」「地域復元力」の関係を探り、居住性・公平性・回復力・経済的活力のある地域形成への方策を探る。	井内加奈子	John Mutter	コロンビア大学・米国
Data-driven approach for microstructure characterization and mechanical performance assessment of composite materials (JSPS 二国間交流事業共同研究) 不確実性を考慮した数値解析の結果に基づく複合材料の材料特性評価について、設計・開発に対して有益な枠組みを提案する。	寺田賢二郎 森口周二	Tong-Seok Han	延世大学校・韓国
ハワイ太平洋津波博物館との共同展示に関する研究 東日本大震災10周年の企画展示をハワイ太平洋津波博物館で実施するため。	柴山明寛	マーリーン・スー・ムリー館長	ハワイ太平洋津波博物館・米国
被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築：台風ハイアン・スラウェン島地震を対象に 途上国の沿岸部の復興において、よりよい生活環境を創出するために重要な計画内容と実践のあり方について探ることを目的とした研究	井内加奈子	Rahma Hanifa	The National Agency for Research and Innovation of The Republic of Indonesia・インドネシア
ISO37179 Smart community infrastructures : Disaster risk reduction : Basic framework for the implementation of disaster risk reduction 経産省予算の下で実施している、防災に係るISO策定プロジェクト。	今村文彦 西依英俊		
生態系保全策・気候変動適応策の地域間矛盾解消に資する乾燥地フードチェーンの解明 乾燥地中国の農村社会経済、食料・農業生産に対する情報交換、フィールド調査での連携	原裕太	Yu Jing	西北農林科技大学・中国
途上国の組積造建物耐震化に向けた滑り免震機構の開発と社会実装基盤の整備 組積造を対象とした安価なすべり免震機構を開発し、そのネパールでの実装を目指す。	五十子幸樹 榎田竜太	Schildkamp Martijn	Smart Shelter Foundation・オランダ
Paleoseismic exploration along the Mexican subduction coastal stretch and the inferred La Venta fault eastern Guerrero and Oaxaca extent: Do large ruptures occurred in the past? メキシコ合衆国ゲレロ州～オアハカ州での古地震・古津波履歴解明	菅原大助	Maria-Teresa Ramirez-Herrera	メキシコ国立自治大学・メキシコ
東南アジアにおける「オールハザード型」防災枠組構築のための共同研究 東南アジア地域の防災対策の現状と課題を検証し、今後想定される様々な新しい形の災害にも対応できる「オールハザード型」防災対策の枠組構築を試みる。	泉貴子	Prof. Fatma Lestari	University of Indonesia・インドネシア
Global tsunami risk assessment WRNで世界中の津波において波源から伝播計算、浸水計算、リスク評価まで研究・評価する	今村文彦 サッパシー・アナワット	Makoto Goto	Willis Research Network
Project for Strengthening the ASEAN Regional Capacity on Disaster Health Management (ARCH Project) ASEAN加盟国における災害医療の標準化と各国の災害医療対応能力向上プロジェクト	江川新一	Shuichi Ikeda, Taro Kita, Tatsuhiko Kubo, Ryoma Kayano, Phumin Silapunt, Prasit	JICA、タイ災害救急医療研究所・タイ
Investigation of the neurocognitive mechanisms of oral communication during emergency situations 緊急事態における言語コミュニケーションの神経基盤を解明する	杉浦元亮	Andrea Révész	University Collage London, UK
新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差 新型コロナウイルス感染症対策における人間・社会対応の文化差について5つの文化圏(日・米・中・台・韓)を比較する。	杉浦元亮	Yuichi SHODA	University of Washington, USA
コロナ感染予防行動への社会規範意識の影響に関する認知神経科学研究 マスク装着等のコロナ感染予防行動に、社会規範意識が影響する過程について脳メカニズムを明らかにする	杉浦元亮	Antonia Hamilton	University Collage London, UK
生きる力質問紙韓国語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の韓国語版作成と妥当性検証を行い、質問紙の韓国語圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	李在永	東儀大学・韓国
自我体験の神経基盤解明 自我体験(I-am-me experience)の神経基盤を検討する。	杉浦元亮	Rudiger Seitz	デュッセルドルフ大学・ドイツ
生きる力質問紙中国語(繁体字)語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)の中国語(繁体字)版作成と妥当性検証を行い、質問紙の中国語(繁体字)圏活用と文化間比較を目指す	杉浦元亮	戴伸峰	中正大学・台湾
IODP exp.386 Japan Trench Paleoseismology 日本海溝沿いの古地震履歴の掘削に関する国際プロジェクト	石澤亮史	Michael Strasser, Ken Ikehara	University of Innsbruck・オーストリア、産業技術総合研究所
Building Sustainable System for Resilience and Innovation in Coastal Community インドネシア沿岸保全を対象に、最新の科学技術に基づいたモニタリング網の整備、災害解析技術や防災減災手法の技術開発および移転を行い、沿岸地域の防御機能向上を図るとともに、防災、環境、経済の調和の取れた沿岸域を実現することを目指す。	サッパシー・アナワット	Dr. Mohammad Farid	バンドン工科大学院・インドネシア
Bangladesh 農村地域における水防災と環境共生技術の開発に関する研究 Bangladesh 農村地域における環境問題と減災を両立させるシステムを構築する。	橋本雅和	Musur Rahman	Bangladesh 工科大学・ Bangladesh

課題名	本学研究代表者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用に向けて	佐々木大輔	Dicky Pelupessy, Ph.D.	Universitas Indonesia, Indonesia
インドネシアにおける災害復興で現地の学術研究機関が果たす媒介機能の活用方法等について明らかにする。			
Using Japan Disasters Digital Archive (JDA) geolocation function in visits to disaster-related sites in Tohoku.	今村文彦 ボレー・セバスチャン	Prof Andrew Gordon	Harvard University・米国
This research investigated the potential for using JDA's geolocation function in combination with disaster risk education, education, academic research, and tourism.			
海面上昇とコロナ禍を受ける米国東海岸沿岸部住民の生活実態に関する研究計画	井内加奈子	Donovan Finn	ストーニーブルック大学・米国
沿岸部の海面上昇に対応するレジリエンスの向上とコロナ禍に対応する生活実態に関する研究			
Machine learning-based probabilistic tsunami risk assessment	寺田賢二郎 森口周二	Randall J. LeVeque	ワシントン大学・米国
数値解析と機械学習アルゴリズムを利用した津波ゲージデータから即時に浸水深を予測するリアルタイム津波被害評価システムの開発。			
Analysis on the 2021 Haiti earthquake	福島洋	Romain Jolivet	パリ高等師範学校・フランス
2021年にハイチで発生した地震の断層すべり分布の解明および将来の地震発生ポテンシャル評価			
ORA project (MORPHEUS)	杉浦元亮	Kaska Porayska-Pomsta Nicolas SABOURET Wendy Mackay Jodie Jenkinson Gauthier, Andrea	University Collage London, UK University Paris-Saclay, France Université Paris-Saclay, France University of Toronto Mississauga, Canada University College London, UK
人間の認識・行動に対する人工知能(AI)の影響をゲームや行動・脳計測を用いて解明する国際共同研究			
TU/UW research meetings	寺田賢二郎 マリ・エリザベス	Prof. Sasaski	University of Washington, USA
Research meeting with UW counterparts			
Field work with UW Faculty and WBF	マリエリザベス	Ann Bostrom	University of Washington, USA
Field Visit			
Comparative Study of the Representations of Major Natural Hazards among Inhabitants in France and Japan, 1995-2020	ボレー・セバスチャン	Pierre Gras	Lyon Universit, France
This short study investing the lasting impacts of the March 2011 triple disaster in the region. As part of our survey, we investigated how local people remember this disaster today and their perception of the major risks that particularly that may affect the Tohoku coastline in the future.			
マルマラ海北アナトリア断層の挙動に関する研究	木戸元之	Haluk Ozener	ボアチチ大学・トルコ
海底断層の活動を海底観測により把握し、イスタンブール周辺の巨大地震の予測に役立てる。			
海底地殻変動観測の共通仕様策定	木戸元之	Pierre Sakic	IPGP, University of Paris・フランス
各機関を代表する海底地殻変動研究者らにより、観測技術・解析手法・データ流通の共通化の仕様を策定する。			
Collaboration for using post-disaster data to evaluate the relative impact of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami hazards on the Japanese building inventory	サツバシー・アナワット 大野晋	Ioanna Ioannou	University College London, UK
東日本大震災における地震と津波被害の分析			
Modeling of Postseismic Deformation of the 2011 Tohoku-oki Earthquake	日野亮太 富田史章	Kelin Wang	カナダ地質調査所・カナダ
2011年東北沖地震の余効変動のモデル化のため、カナダと日本の研究機関(カナダ地質調査所・McGill大学・東北大学・海洋研究開発機構)で共同研究を実施			
ウランバートル市建物の振動特性の分析に関する共同研究	大野晋	Tsamba TSOGGEREL	モンゴル科学技術大学・モンゴル
ウランバートル市で実施している建物の地震・微動観測による振動特性評価			
デジタル防災コミュニティの探索	菅原大助	ジューターチップ先生	チュラロンコン大学・タイ
タイ王国における防災の取り組みに関する基礎調査			
Gender and disasters	サツバシー・アナワット 北村美和子	Dr. Punam Yadav	University College London, UK
本研究では、災害時のLGBTQ、ジェンダー、高齢者のような社会的脆弱性の高いグループに属する人々の災害時の実態を調査し、GIS可視化を行い発災時の状況予測とニーズへの対応をすることを目的としている。			
JST SATREPS Project	越村俊一	Miguel Estrada	ペルー国立工科大学・ペルー
ペルーにおける津波浸水被害のリアルタイム予測に関する共同研究			
Research meeting for development of HIV-1 and SARS-CoV-2 inhibitors	林宏典	Hiroaki Mitsuya	国立衛生研究所(NIH)・米国
国立国際医療研究センター、米国NIH、東北大学の研究者が連携して抗ウイルス薬開発の研究を行う			
Sustainable socio-cultural transformation in the context of climate change adaptation in mountain UNESCO Biosphere Reserves.	ボレー・セバスチャン	Paola Fontanella	GLOMOS-United Nations University, Germany
The general objective of my research is to study the encounter between the field of Humanitarian Forensics and that of religious practices and representations, to understand how two distinct normative spaces fit, coexist or confront each other: that of the humanitarian intervention (positivist, rationalist, science-based) and that of religion, based on custom and faith.			



課題名	本学研究代表者名	相手方代表者名	相手方代表者 所属機関名・国名
Meeting and MOU signing with Pacific Tsunami Museum MOU Signing and field work	マリ・エリザベス	Marlene Murray	Pacific Tsunami Museum, USA
Tohoku Field Visit Field Visit	北村美和子 マリ・エリザベス	David Alexander	University College London, UK
Recovery trajectories of Societies to natural Disasters This research activity brings several members of IRIDeS and the International Research Network of the CNRS to enhanced assessment of disaster risks based on lessons learned from the past to increase the resilience of societies.	ボレー・セバスチャン	Emmanuel Garnier	French National Research Center (CNRS), France
On the mental health needs in Ukraine under the Russian invasion: A preliminary report on the provision of mental health service	國井泰人	Bogdan I. Gerashchenko	Kavetsky Institute of Experimental Pathology, Oncology and Radiobiology, National Academy of Sciences of Ukraine・ウクライナ
Maladaptation in Post-311 North East Japan This study was about adaptation to climate change, and specifically explores the risk of maladaptation through several examples from Japan. We focused on tensions surrounding the sea walls built in response to the March 11, 2011 tsunami to better understand the perspectives of residents and officials.	ボレー・セバスチャン	Stephen Robert Miller	Colorado University, USA
European Research Council Project ヨーロッパの陸水域における生物多様性について環境DNAを用いて測定・評価を行うプロジェクト.	内田典子	Kristy Deiner	ETHZurich・スイス
産業技術、技術戦略、研究開発管理並びに技術情報及び訓練に関する災害管理及び耐災害無線ネットワーク技術開発 レジリエント5G/B5G及び関連技術に関するワークショップ	今村文彦 岩月勝美	Pang-An Ting	Industrial Technology Research Institute・台湾
CONCYTEC World Bank Project 災害ジオインフォマティクスに関する共同研究	越村俊一	Luis Moya	ペルーカトリカ大学・ペルー
Human-Centered Approach to Disaster Resilience 人間中心の災害被害軽減研究のあるべき姿について議論	杉浦元亮	Imre Gabor Holtzer	University of Notre Dame, France
Tohoku University & Huazhong University of Science and Technology Joint Studio 都市・建築設計 II において、福島県双葉町の復興を題材とした修士設計のためのワークショップ	岩田司	耿虹	華中科技大学・中国
生きる力質問紙フランス語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)のフランス語版作成と妥当性検証を行い、質問紙のフランス語圏活用と文化間比較を目指す□	杉浦元亮	Norbert MAIONCHI-PINO	Université Clermont Auvergne, France
生きる力質問紙ドイツ語版作成 生きる力質問紙(Sugiura et al., 2015)のドイツ語版作成と妥当性検証を行い、質問紙のドイツ語圏活用と文化間比較を目指す□	杉浦元亮	Hans-Ferdinand Angel	Graz大学・オーストリア
Thai survey Field Visit and Research Meeting	マリ・エリザベス	Titaya Sararit	Chiang Mai University・タイ
Improving external dosimetry for terrestrial animals and plants IAEA coordinated research project/ Establishment and Improvement of External Dosimetry Using the Model of Wild Japanese Macaque and the Large Japanese Field Mice (Apodemus Speciosus) in Fukushima for the Evaluation of Long-Term Low Dose Exposure. 原子力災害による陸域動物の外部被ばく線量評価法の確立と評価精度の改良に向けた共同研究	鈴木正敏	Ying Wu	国際原子力機関・オーストリア
Analysis on the 2023 Turkey earthquake 2023年2月にトルコ南東部で発生した地震の断層すべり分布の解析	福島洋	Romain Jolivet	パリ高等師範学校・フランス
Meeting: WaveGlider based GNSS-A experience and collaboration 海底地殻変動観測についてアメリカ・カナダ・日本の研究機関(東北大学・海洋研究開発機構・ヴィクトリア大学・カナダ地質調査所・ワシントン大学・スクリプス海洋研究所)で情報共有を実施	日野亮太 富田史章	Martin Heesemann	Ocean Networks Canada (ヴィクトリア大学)・カナダ

国際交流

(2) 国際交流実績(受入・訪問)

共同研究

受入・訪問	交流活動の名称(活動の概要)	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	研究代表者実施者
受入	フルブライト国際交換プログラム(伝承施設に関する建築的研究)	仙台	日本	Elijah Huge	Wesleyan University	井内
受入	月1回の定例ミーティング(共同研究及び震災デジタルアーカイブに関する打ち合わせ)	オンライン	オンライン	Prof. Andrew Gordon	ハーバード大学	柴山
受入	ハワイ太平洋津波博物館の展示打ち合わせ	オンライン	オンライン	マーリーン・スー・ムリー	ハワイ太平洋津波博物館	柴山 マリ ゲルスタ
訪問	Towards the Utilization of the Intermediate Function of Local Academic Institutions in the Field of Disaster Risk Reduction in Indonesia (科研費採択課題に係る専門家会合)	バリ	インドネシア	Dicky Pelupessy, Ph.D.	Universitas Indonesia	佐々木(大)
受入	Land subsidence after the 2011 Tōhoku Earthquake – Risk awareness and responses of local residents in Sendai, Japan	Sendai	Japan	Dr. Lisa Niesters	University of Cologne	ゲルスタ
訪問	海面上昇とコロナ禍を受ける米国東海岸沿岸部住民の生活実態に関する研究計画(東海岸におけるコミュニティレジリエンスに関する議論)	ボストン	米国	Daniel Aldrich	Northeastern University	井内
訪問	災害・気候変動対応策への投資と社会的脆弱性・地域復元力の関係解明に関する研究(社会的脆弱性・地域復元力の定義に関する議論)	ニューヨーク	米国	John Mutter	Columbia University	井内
訪問	言語音・非言語音処理能力の個人差に関するfMRI実験暫定データ分析結果についての研究打ち合わせ	ロンドン	UK	Prof. Kazuya Saito Prof. Hyeonjeong Jeong	UCL Tohoku University	杉浦
訪問	感情制御能力の脳基盤解明のためのネットワーク解析適用可能性についての研究打ち合わせ	ロンドン	UK	Prof. Paul Expert Prof. Takayuki Nozawa	UCL Toyama Univ	杉浦
訪問	研究用教育向けAI推薦システムの仕様設計の段取りについての研究打ち合わせ	ロンドン	UK	Prof. Kaska Porayska-Pomsta Dr. Andrea Ggauthier	UCL	杉浦
訪問	緊急時意思決定・コミュニケーションfMRI実験データ分析結果の解釈についての研究打ち合わせ	ロンドン	UK	Prof. Andrea Revesz Prof. Kazuya Saito	UCL	杉浦
訪問	質問紙フランス語翻訳作業の段取りについての研究打ち合わせ(質問紙翻訳)	クレルモン・フェラン	フランス	Norbert Maionchi-Pino	Université Clermont Auvergne	杉浦
訪問	Seminar "Questionnaire for power to live with disasters: From social survey to neuroimaging" セミナー・研究打ち合わせ(質問紙翻訳)	クレルモン・フェラン	フランス	Prof. Norbert Maionchi-Pino Prof. Ludovic Ferrand	Université Clermont Auvergne	杉浦
受入	World Bosai Forum 2023 (WBF2023参加のワシントン大学研究者とのディスカッション)	仙台	日本	Randall J.LeVeque	ワシントン大学	寺田 野村
訪問	質問紙ドイツ語翻訳作業の段取りについての研究打ち合わせ(質問紙翻訳)	オンライン会議	オンライン会議	Hans-Ferdinand Angel Nina Dalkner Sara Lumbereras Sancho Neil Van Leeuwen	Graz大学(オーストリア) Graz医科大学(オーストリア) ボンティフィシア・コモージヤス大学(スペイン) ジョージア州立大学(米国)	杉浦
訪問	マルマラ海での共同観測(海底下の断層の挙動の把握と将来の地震予測)	イスタンブール	トルコ	Prof. Haluk Ozener	ボアチチ大学	木戸
受入	Continuity Management of Health Data during Cascading Disasters	宮城県、福島県	日本	Prof. David Alexander	University College London (UCL)	今村 サッパシー 北村
受入	Investigating caregiver conditions post- and pre-COVID-19 through the gender lens toward redefining social Critical Infrastructure (CI)	宮城県、福岡県	日本	Dr. Punam Yadav	University College London (UCL)	サッパシー 北村
受入	Building Sustainable System for Resilience and Innovation in Coastal Community (BRICC) project	宮城県、岩手県	日本	Dr. Lilik Kuniwan	インドネシア国家防災庁 (BNPB)	サッパシー 北村
受入	Development of a Policy Paper for Civil-Military Coordination on Urban Disaster Response Management in Malaysia	宮城県	日本	Dr. Norhazlina		サッパシー 北村
訪問	UCL visit for several collaboration on research and education	ロンドン	イギリス	Prof. Joanna Faure Walker	University College London (UCL)	サッパシー 北村

国際会議(研究発表以外)

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	本学研究代表者名
訪問	Seventh Session of the Global Platform for Disaster Risk Reduction (GP2022) (基調講演「From DRR Strategies to DRR Investments-Keys to Successful Implementation of the Sendai Framework Beyond the Global Target E-」)	バリ	インドネシア	水鳥真美	UNDRR	小野 今村 栗山
訪問	Euro Science Open Forum 2022 (セッション「Integrated Community Build to Sustain a Resilient and Healthy Society」)	ライデン	オランダ	Lauritz Holm-Nielsen	Highlevel Advisor to the Rector of Aarhus University, EuroScience	小野
訪問	Asia-Pacific Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction (APMCDRR) 2022 (WBFブース出展)	ブリスベン	オーストラリア		UNDRR	小野
訪問	International Disaster and Risk Conference/World Bosai Forum 2022 in Switzerland (Achievements and Challenges in the Implementation of the Sendai Framework towards the Mid-Term Review and beyond)	ダボス	スイス	Walter Ammann	CEO and President Global Risk Forum GRF Davos	小野
受入	World BOSAI Forum/防災ダボス会議@仙台2023 (WBF国際諮問委員会への出席)	仙台	日本	Prof. Dr. Hizir Sofyan	Universitas Syiah Kuala	佐々木(大)

学会・シンポジウム

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	本学研究代表者名
訪問	6th Global Summit of GADRI (サイドイベントにて発表およびセッションの議長)	京都	日本	Mahua Mukherjee	京都大学防災研究所	小野
訪問	Paris EHESS (Presentation at EuroSeas and Discussion)	Paris	France	Darmanto Simaepa Irina Rafliana	Czech Academy of Science	ゲルスタマリ
訪問	Bangladesh (シンポジウムやワークショップ)	ダッカ、タンガイル	バングラデシュ	Muhammad Saidur Rahman	BDPC	小野
訪問	日米独先端科学 (JAGFOS) シンポジウム (スロー地震に関するイントロダクトリー・スピーチ)	アーバイン	米国	Edward Pate	アメリカ国立科学財団	福島
訪問	USACM Thematic Conference on Meshfree and Novel Finite Elements with Applications (計算力学に関する学術会議への参加、運営、聴講)	カリフォルニア州パークレー	米国			寺田野村
訪問	Colloquium on Computational Mechanics (Material Point Methodの高度化に関する研究発表)	ドレスデン	ドイツ	Michael Kaliske	ドレスデン工科大学	寺田
訪問	Arc-DR <sup>3</sup> リジェネラティブアーバンイズム展 (災害から生まれる都市の物語についての展覧会)	ロサンゼルス	アメリカ	阿部仁史	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	今村村尾
訪問	Global Japan Forum 2023 (Designing with Disaster)	ロサンゼルス	アメリカ	阿部仁史	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	今村村尾
受入	シンポジウム「文化遺産とレジリエンス」(災害・紛争支援としての歴史資料保全に関するシンポジウム)	仙台	日本	Aparna Tandon	ICCROM	佐藤(大)
受入	World BOSAI Forum及び関連活動	宮城県、岩手県	日本	Prof. Joanna Faure Walker	University College London (UCL)	今村サッパシー北村
受入	World Bosai Forum and fieldwork (Presentation on disaster digital archives joint research at the World Bosai Forum)	Sendai	Japan	Andrew Gordon	Harvard University	柴山ゲルスタ

教育/学生交流プログラム

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	本学研究代表者名
訪問	Meeting at LMU Munich (Discussion on future joint projects and visiting research options. Discussions on Disaster storytelling project with students from LMU Munich in Japan)	Munich	Germany	Anna Wiemann and Florentine Koppenburg	LMU Munich	ゲルスタ
訪問	災害科学・安全学国際共同大学院プログラムに関する打ち合わせ	ジョグジャカルタ	インドネシア	Ir. Ikaputra	Gadjah Mada University	村尾
訪問	Ecological Seminar (スイスEAWAGにて水生昆虫環境DNAに関する発表)	チューリッヒ	スイス	Prof. Dr. Florian Altermatt	EAWAG	内田
受入	COLABS	ハンブルク	ドイツ		Technische Universität Hamburg	越村
訪問	IBP seminar (学科横断的なセミナーにおける発表)	チューリッヒ	スイス	Prof. Dr. Kristy Deiner	ETHZurich	内田
受入	オランダ ライデン大学来訪 (日本DMATの仕組みについて説明)	仙台	日本	Andrea Bartolucci	ライデン大学	サッパシー佐々木(宏)
訪問	特別講義: Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction	ジョグジャカルタ	インドネシア	Ir. Ikaputra	Gadjah Mada University	村尾
訪問	NY ワシントンDC (国連本部、UNDB、世界銀行を訪問)	ワシントンD.C.	アメリカ			小野
訪問	Tohoku-Yonsei Student Seminar: Infrastructure Systems Joint Workshop (計算力学および災害シミュレーションに関する研究発表)	ソウル	大韓民国	Tong-Seok Han	延世大学校	寺田野村

協定締結 (更新・事前協議含む)

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	本学研究代表者名
訪問	Building Sustainable System for Resilience and Innovation in Coastal Community (BRICC) project	ジャカルタ	インドネシア	Dr. Mohammad Farid	バンドン工科大学院	サッパシー北村
訪問	ワシントン大学との研究協定更新	シアトル	アメリカ	Prof. Ouchi	ワシントン大学	山口昌弘北村

その他(フィールドワーク・研修・表敬訪問・視察など)

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方代表者	代表相手方の機関名称	本学研究代表者名
訪問	Fieldwork and discussion of current and future possibilities for collaboration (Discussion and meeting)	Berlin	Germany	Verena Blechinger-Talcott and Cornelia Reiher	FU Berlin	ゲルスタ
訪問	フィールドサンプリング (スイス・シルバプラーナ山岳地域でのサンプル収集)	シルバプラーナ山岳地域	スイス	Prof. Dr. Kristy Deiner	ETHZurich	内田
受入	Joint Research collaboration and participation in the international tsunami museum symposium at the Iwate Tsunami Memorial Museum	Rikuzentakata, Sendai	Japan	Dr Walt Dudley	Pacific Tsunami Museum	柴山ゲルスタ
受入	Joint Research collaboration and participation in the international tsunami museum symposium at the Iwate Tsunami Memorial Museum	Rikuzentakata, Sendai	Japan	Muzailin Muhammad Syahputra Azwar	Aceh Tsunami Museum	柴山ボレーゲルスタ
訪問	スラウェシ島地震を対象にした被災沿岸地域から学ぶ移転復興計画論の構築の研究 (バル市における復興計画と実施状況についての現地調査・踏査)	バル	インドネシア	Rahma Hanifa	The National Agency for Research and Innovation of The Republic of Indonesia	井内
受入	フィールドワーク (仙台周辺における津波堆積物調査地点の視察)	仙台市・岩沼市・山元町・東松島市	日本	Carrie Carrison-Laney	ワシントン大学	菅原
訪問	津波リスクが高い地域での津波避難ビルの状況調査	チラチャップ	インドネシア			村尾

受入・訪問	交流活動の名称	開催都市	開催国	相手方 代表者	代表相手方の 機関名称	本学研究代 表者名
訪問	クリーン財団表敬訪問(博物館及び図書館での資料収集、インタビュー等)	マサチューセツ ツ、バーモント	アメリカ	James Douglas	元バーモント州知事	小野
訪問	Seminar on Computational Mechanics (フェーズフィールドき裂モデルに関する研究発表)	ミラノ	イタリア	Ferdinando Auricchio	パビア大学	寺田
受入	BNPB共同プロジェクト 「SATREPS Indonesia Project "Building Sustainability System for Resilience and Innovation in Coastal Community"」(インドネシア防災庁を東北沿岸部被災地をアテンド)	宮城、盛岡、青 森、東京	日本	Ega Putrawan Yudhoningrat Jarwansyah Lilik Kurniawan Tetty Saragih	BNPB	小野
受入	台湾デジタル部訪問(台湾デジタル部訪問対応、スマート医療や災害医療のDX化についてレクチャー)	日本	仙台	胡貝蒂	数位發展部数位産業署	中川敦寛 藤井
訪問	土砂流動解析手法の最新動向に関する情報交換会	カリフォルニア州 バークレー	米国	曾我健一	カリフォルニア大学バーク レー校	寺田 野村
受入	台北市政府職員研修	仙台市	日本	蘇芯慧	台北市役所	佐藤(翔)
受入	台湾教育部の災害研訪問(台湾の防災ジュニアリーダー向け講義)	仙台	日本	廖雙慶	台湾教育部	桜井 佐藤(健)
受入	話題提供・情報交換	仙台	日本	Elijah Huge	College of the Environment Wesleyan University	村尾
訪問	UW-TU: Academic Open Spaceの今後について(UW-TU: Academic Open Spaceおよび災害科学世界トップレベル研究拠点の枠組みでの米国ワシントン大学との共同研究に関する打ち合わせ)	シアトル	米国	Tomikazu Sasaki	ワシントン大学	寺田 野村
受入	話題提供・情報交換	仙台	日本	Sebastián Laclabere A.	Alliance for Humanitarian Architecture	村尾



## 8 関係・協力団体



## 関係・協力団体一覧

本研究所全体として連携・協力していただいている団体は以下のとおりである（締結年月日順）。  
教員各自の活動のなかでの連携組織・団体については教員の自己評価報告書の項を参照のこと。

### 地方公共団体

締結年月日	団体名
平成25年 2月 8日	宮城県多賀城市
平成25年 6月25日	宮城県亘理町
平成25年 7月12日	宮城県岩沼市
平成25年 7月13日	宮城県気仙沼市
平成25年 8月21日	宮城県東松島市
平成25年12月24日	宮城県山元町
平成26年 1月 9日	宮城県仙台市
平成26年 2月 7日	岩手県陸前高田市
平成27年 8月 5日	宮城県名取市
平成29年 5月29日	宮城県石巻市
平成31年 1月21日	宮城県丸森町
令和 2年 4月 9日	岩手県大槌町
令和 4年10月 3日	福島県いわき市
令和 5年 3月29日	宮城県塩竈市

### 学校

締結年月日	団体名
平成26年 9月 8日	独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校
平成28年 6月 1日	宮城県多賀城高校
平成30年 3月11日	国立大学法人宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター
平成30年 7月31日	八戸工業大学インフラ・防災技術社会システム研究センター
令和 2年 3月26日	国立大学法人新潟大学災害・復興科学研究所

### その他（国立機関）

締結年月日	団体名
平成24年 4月 1日	独立行政法人科学技術振興機構（JST）
平成25年 4月24日	国立国会図書館



平成26年 9月10日	独立行政法人港湾空港技術研究所
平成27年 4月 1日	国立保健医療科学院
平成29年 2月 1日	国立研究開発法人防災科学技術研究所
平成29年 6月 7日	国立大学法人神戸大学大学院人文学研究科及び 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
令和 5年 1月10日	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所及び独立行政法人国立 文化財機構文化財防災センター

2022 年度 東北大学 災害科学国際研究所 活動報告書

Annual Report 2022

International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS)

Tohoku University

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1 (事務局)

電話 022-752-2049 Fax 022-752-2013

令和 5 年 (2023 年) 9 月 1 日 発行

発行 東北大学災害科学国際研究所 所長 栗山進一

編集 東北大学災害科学国際研究所 木戸元之

中鉢奈津子・鈴木通江・福島愛子・小森光

印刷 有限会社明倫社

